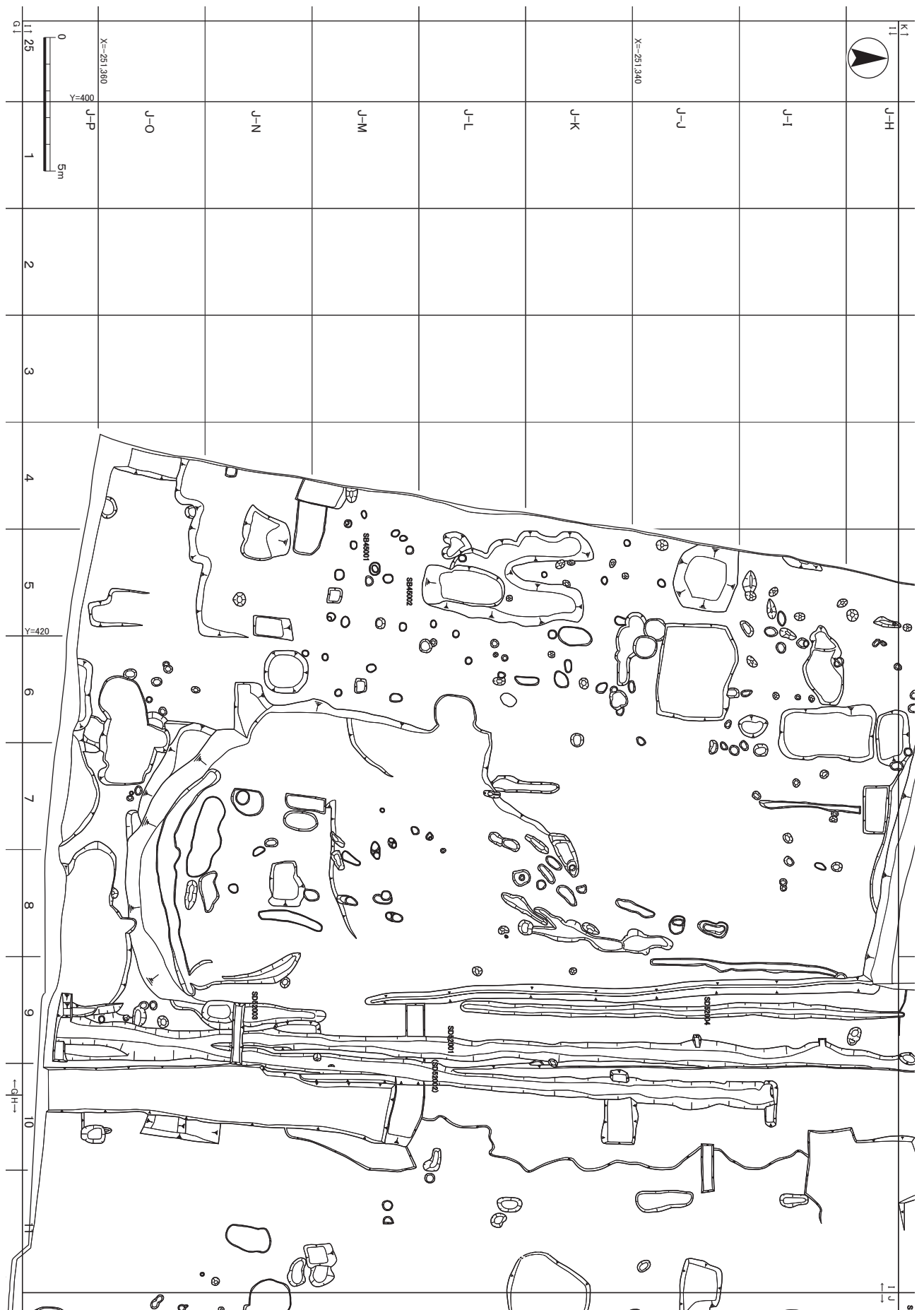




第Ⅲ-13 図 遺構平面図H (1:200)

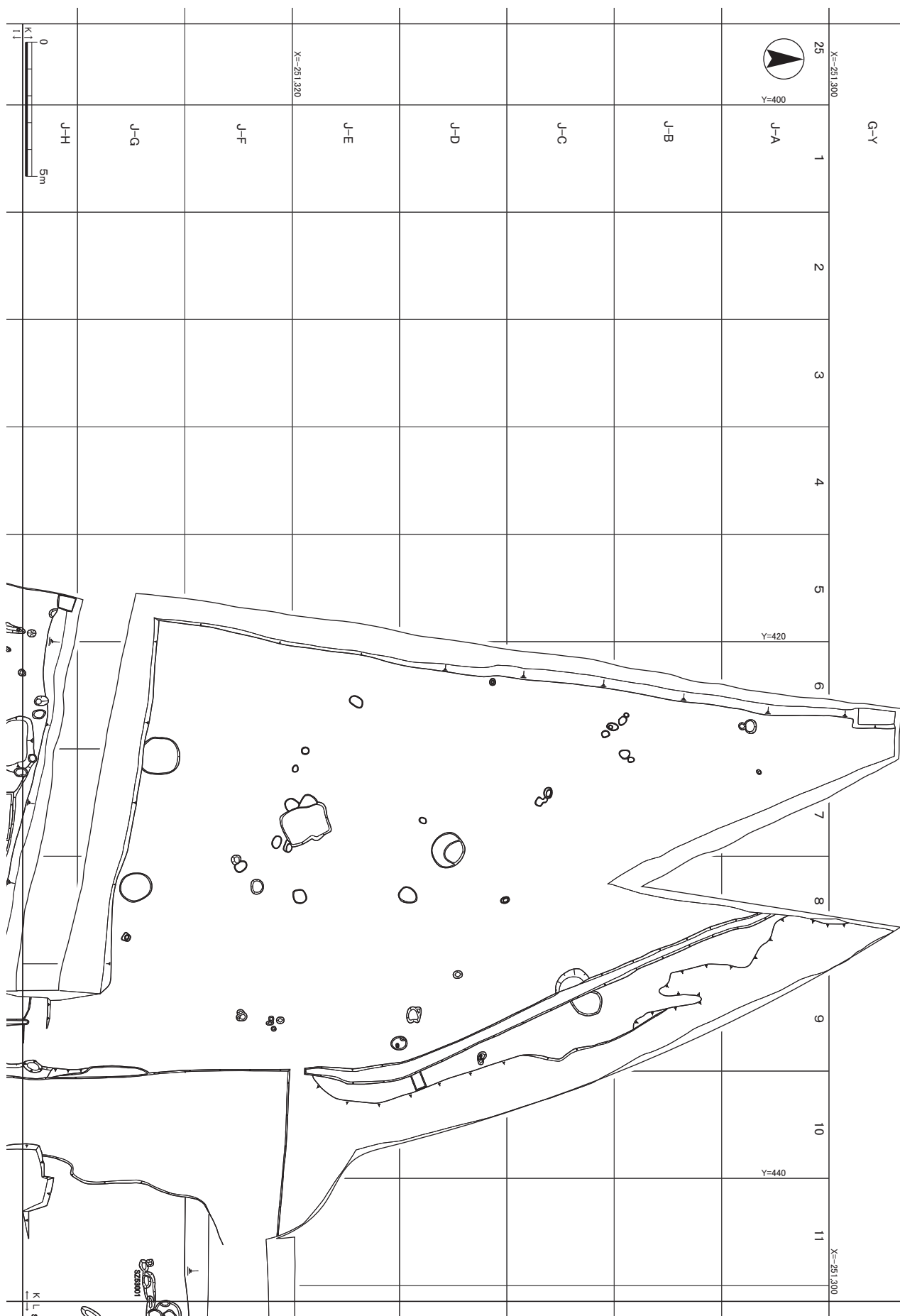


第Ⅲ-14図 遺構平面図 I (1:200)



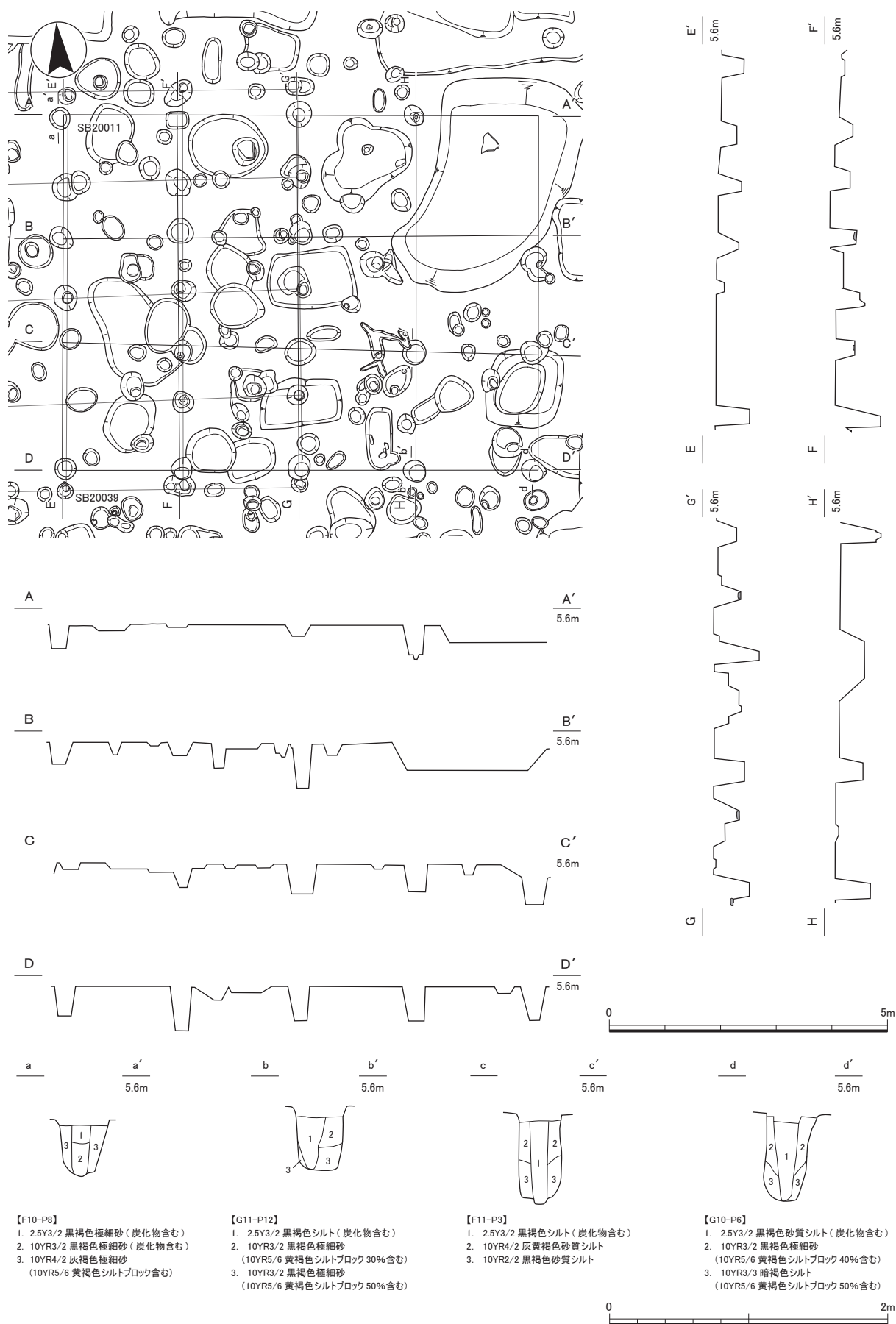


第Ⅲ-15 図 遺構平面図J (1:200)



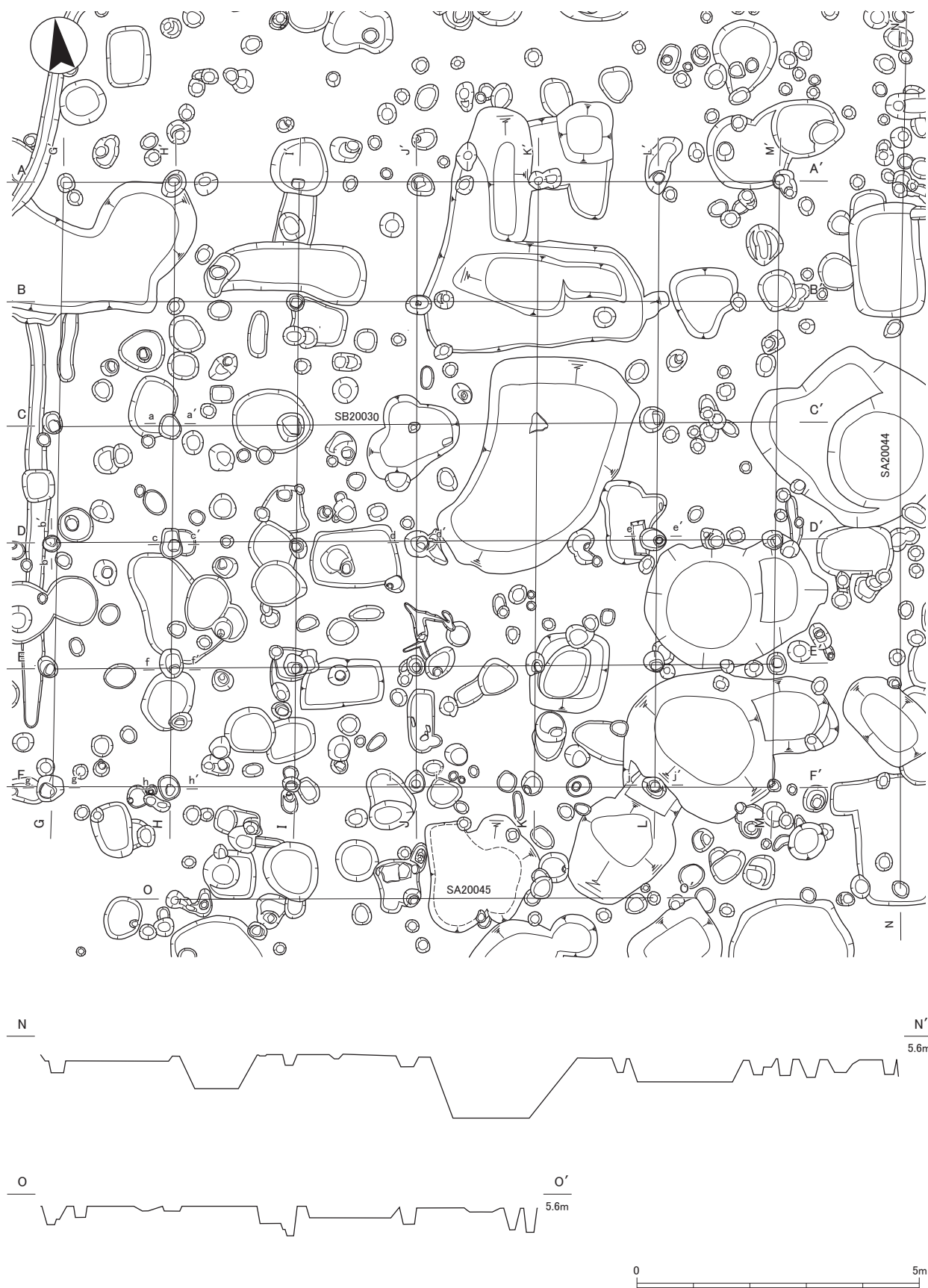
第Ⅲ-16 図 遺構平面図K (1:200)



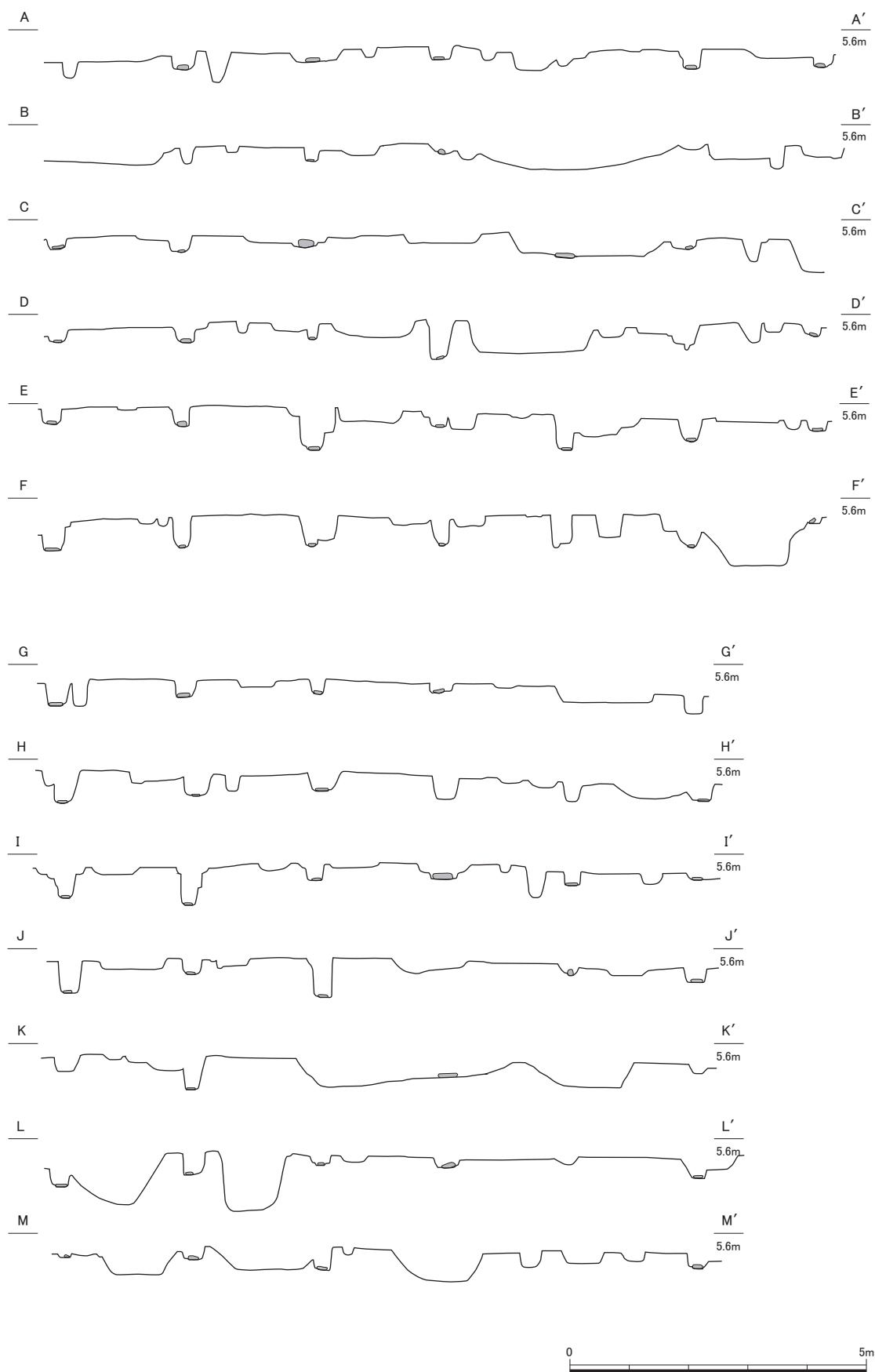


第Ⅲ-18 図 S B 20011 平面図・断面図、柱穴土層断面図 (1:100、1:40)





第Ⅲ-19 图 S B 20030、S A 20044, 20045 平面图·断面图、柱穴土层断面图 (1:100)



第Ⅲ-20 图 S B 20030 断面图 (1:100)

る。柱間の芯々距離は南北両端の2間のみが1.5m、1.6m、それ以外が2.0m、2.1mである。また、梁行は、東西端の柱穴芯々で6.25mであり、各柱間の芯々距離は2.05～2.1mである。S B 20011と重複している。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈し、長軸0.3～0.5m、短軸0.3～0.5mの規模で、検出面からの深さは0.2～0.8mである。柱穴底部17ヶ所のうち12ヶ所で根石を確認した。また、柱穴4ヶ所で断割を行い、柱痕跡などを確認することができた。柱痕跡の径は0.1～0.15mである。

柱穴の埋土から13世紀後半の山茶碗などが出土した。

#### S A 20040

柱穴4ヶ所を確認した。3間の東西方向の柱列とした。方向はN 80° Eである。S B 20030と重複

している。全長は6.3mである。

柱穴の埋土から中世の山茶碗などが出土した。

#### S B 20043 (第Ⅲ-23 図)

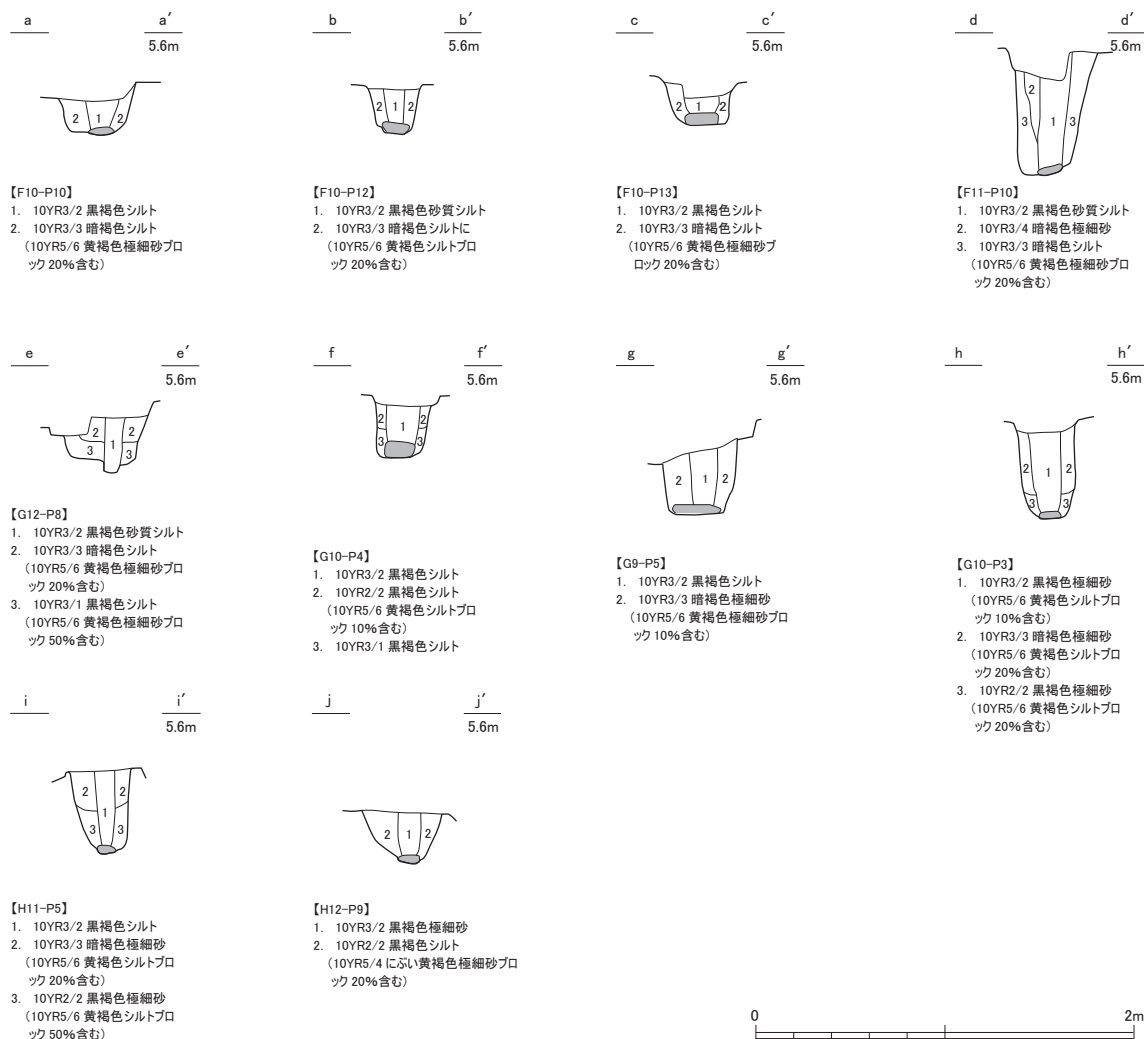
桁行2間、梁行1間の建物である。棟方向はN 6° E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で3.4mあり、各柱間の芯々距離は1.7mである。また、梁行は、東西端の柱穴芯々で1.8mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.5m、短軸0.3m、検出面からの深さは0.1～0.5mである。

柱穴の埋土から中世の土師器小片などが出土した。

#### S A 20044 (第Ⅲ-19 図)

柱穴5ヶ所を確認した。一部の柱穴は攪乱などにより確認することができなかった。周囲の状況から柱穴8ヶ所、7間の南北方向の柱列とした。方向はN 8° Eである。S B 20030の東側に位置している。



第Ⅲ-21 図 S B 20030 柱穴土層断面図(1:40)

全長は14.4mで、各柱間の芯々距離は2.1mである。

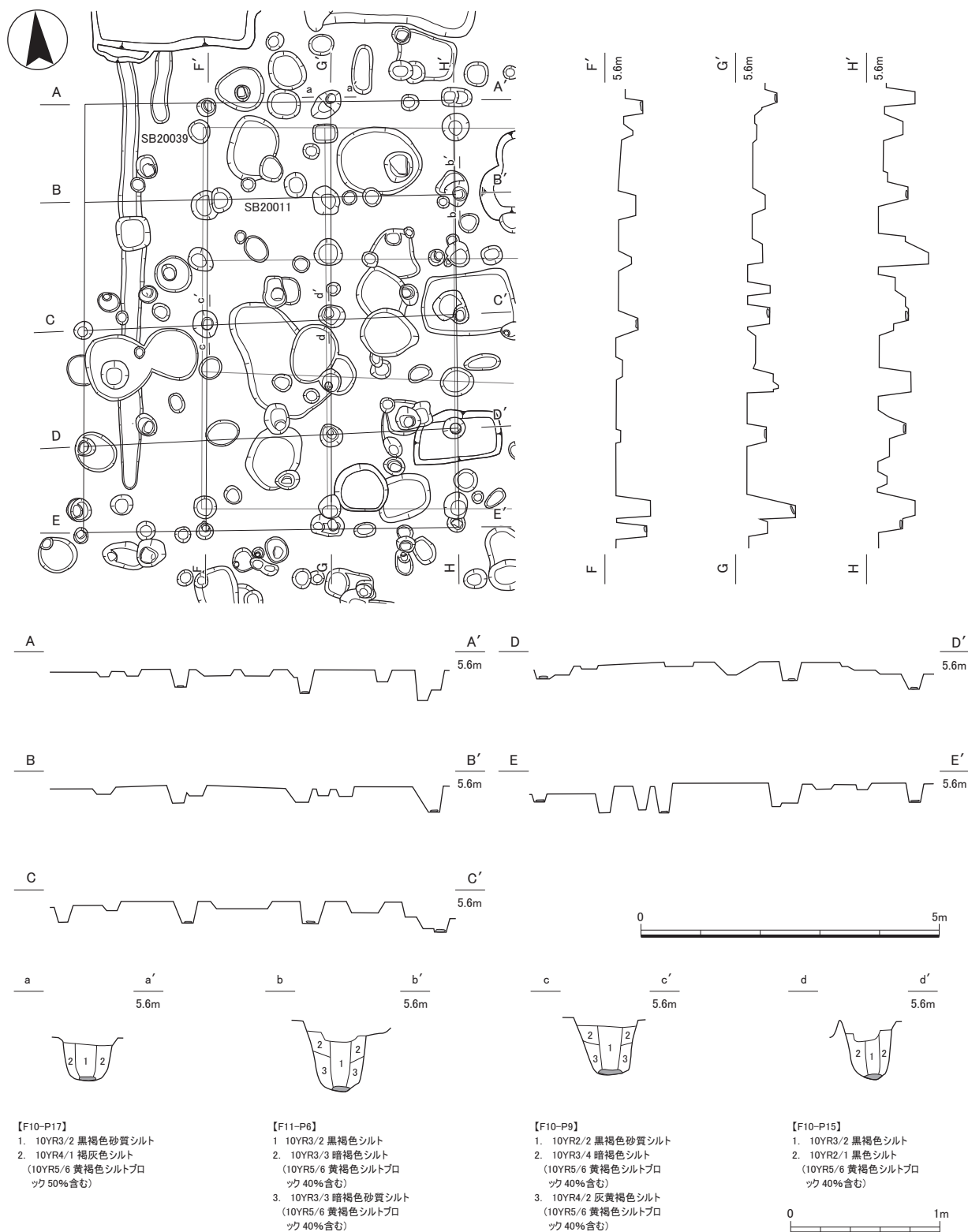
柱列を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形となる。規模は長軸0.2～0.3m、短軸0.2～0.3m、検出面からの深さは0.2～0.3mである。

柱穴の埋土から土師器小片や13世紀前半の山茶

碗などが出土した。

S A 20045 (第Ⅲ-19図)

柱穴5ヶ所からなる4間の東西方向の柱列で、方向はN 88° Eである。S B 20030の南側に位置している。全長8.4m、各柱間の芯々距離は2.1mである。



第Ⅲ-22図 S B 20039 平面図・断面図、柱穴土層断面図 (1:100、1:40)



柱列を構成する各柱穴の平面形は、円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.3 ～ 0.6m、短軸 0.2 ～ 0.4m、検出面からの深さは 0.3 ～ 0.5m である。

柱穴の埋土から中世の土師器小片などが出土した。

#### S B 32007 (第Ⅲ -24 図)

桁行 2 間、梁行 1 間の建物である。建物北西部分の柱穴は確認できなかった。棟方向は N 7° E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で 3.7m、各柱間の芯々距離は 1.8 ～ 1.9m である。また、梁行は、東西端の柱穴芯々で 2.9m である。S K 42005 と重複している。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕

円形を呈している。規模は、長軸 0.3 ～ 0.4m、短軸 0.2 ～ 0.3m で、検出面からの深さは 0.2 ～ 0.3m である。

柱穴の埋土から小片ではあるが中世の土師器片などが出土した。

#### S A 32008 (第Ⅲ -24 図)

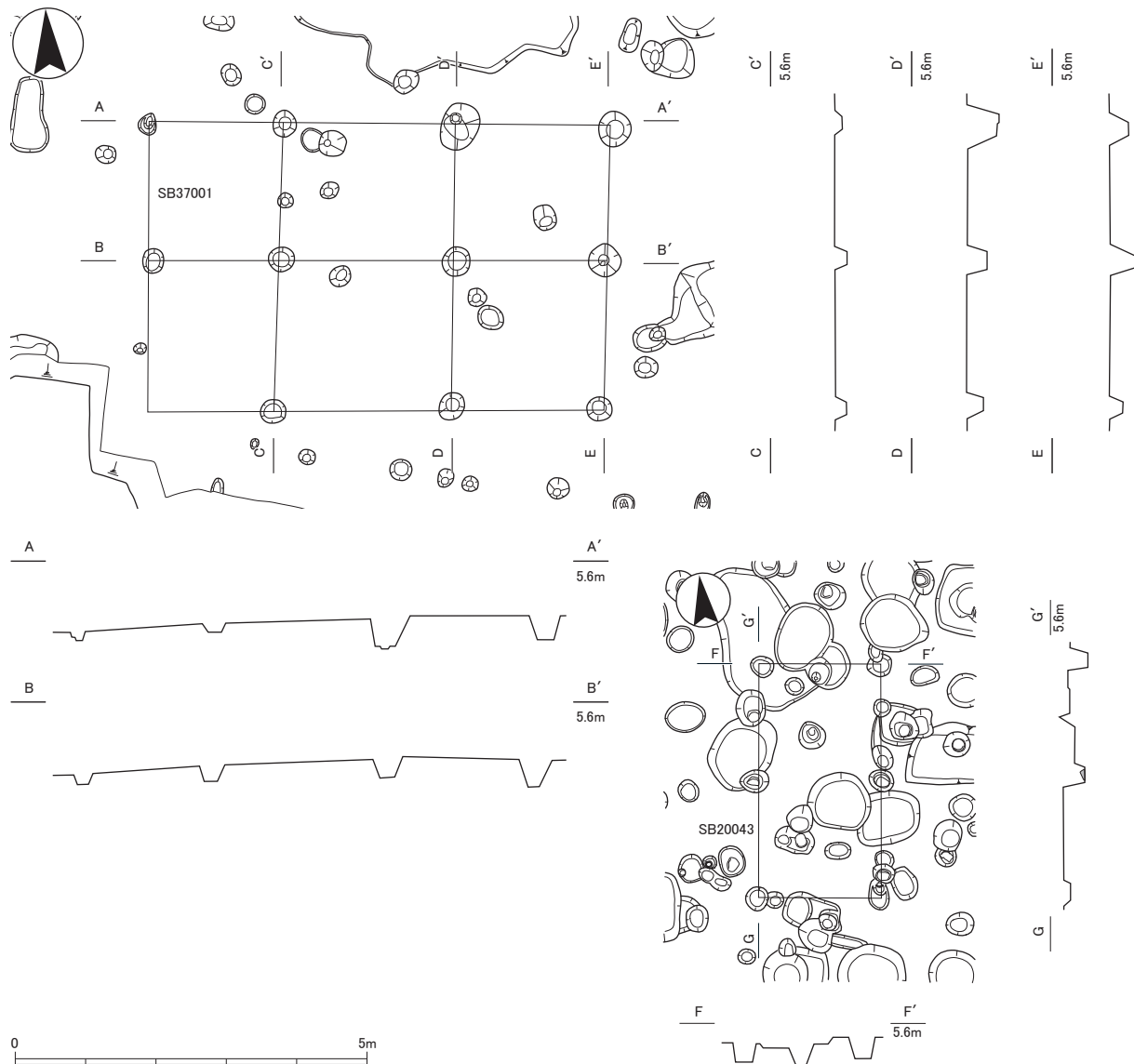
柱穴 4 ヶ所からなる 3 間の柱列で、方向は N 12° E である。全長は 6.8m、各柱間の芯々距離は 2.0 ～ 2.7m と等間隔ではない。

柱列を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.3 ～ 0.5m、短軸 0.2 ～ 0.4m、検出面からの深さは 0.1 ～ 0.3m である。

柱穴の埋土から中世の土師器片などが出土した。

#### S B 32009 (第Ⅲ -24 図)

桁行 2 間、梁行 1 間の建物である。棟方向は N 3

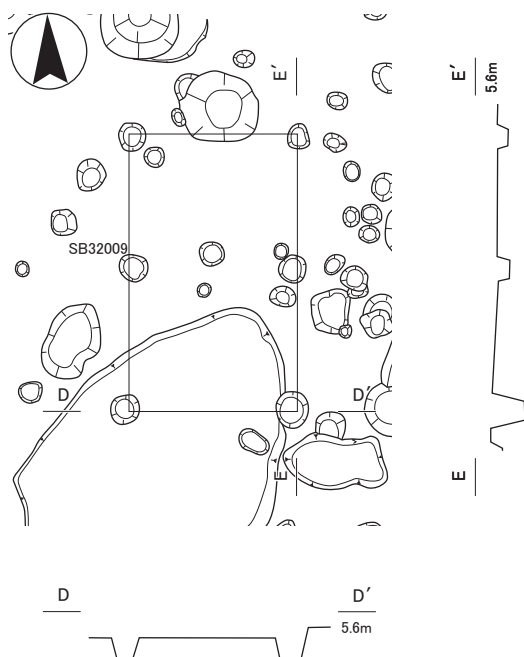
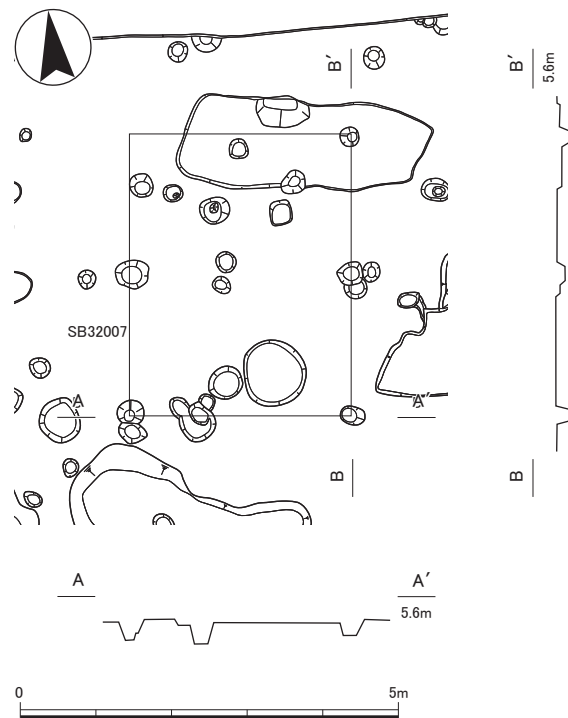


第Ⅲ -23 図 S B 20043, 37001 平面図・断面図 (1:100)

° E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で3.6m、各柱間の芯々距離は1.8mである。また、梁行は、東西端の柱穴芯々で2.2mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.5m、短軸0.3～0.4m、検出面からの深さは0.2～0.5mである。

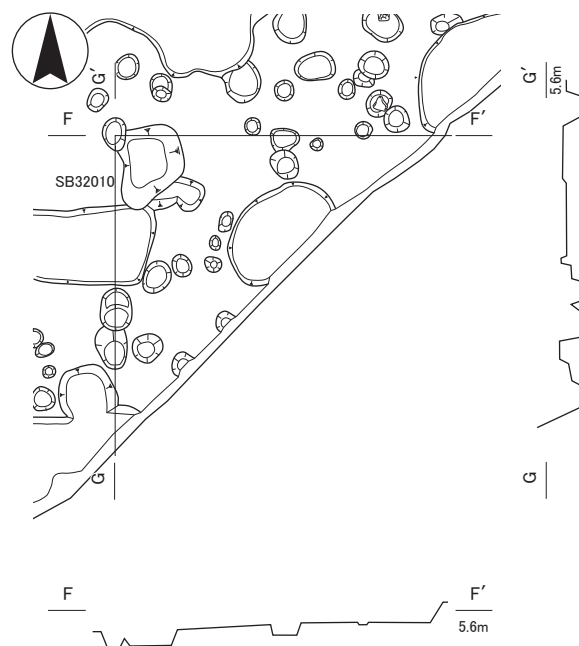
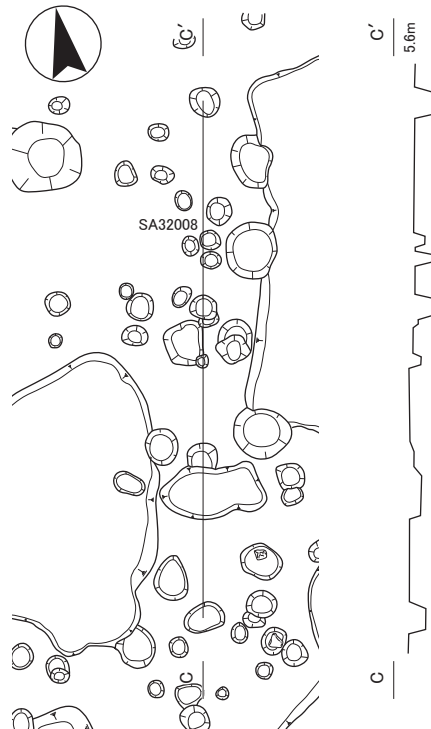
柱穴の埋土から中世の土師器小片などが出土した。



#### S B 32010 (第Ⅲ-24 図)

東西1間以上、南北1間以上を確認した。建物の方向はN1° Eである。柱穴3ヶ所から構成され、調査区外に延びる。各柱間の芯々距離は、東西2.3m以上、南北2.3m以上である。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.4m、短軸0.2～0.4m、検出面からの深さは0.2～0.3mである。



第Ⅲ-24 図 S B 32007, 32009, 32010、S A 32008 平面図・断面図 (1:100)

柱穴の埋土から中世の土師器小片などが出土した。

#### S B 33014 (第Ⅲ-25 図)

桁行 3 間、梁行 2 間の建物である。棟方向は N 96° E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で 6.5m であり、各柱間の芯々距離は 2.0 ~ 2.3m である。また、梁行は、南北端の柱穴芯々で 4.1m であり、各柱穴の芯々距離は 1.95 ~ 2.1m である。

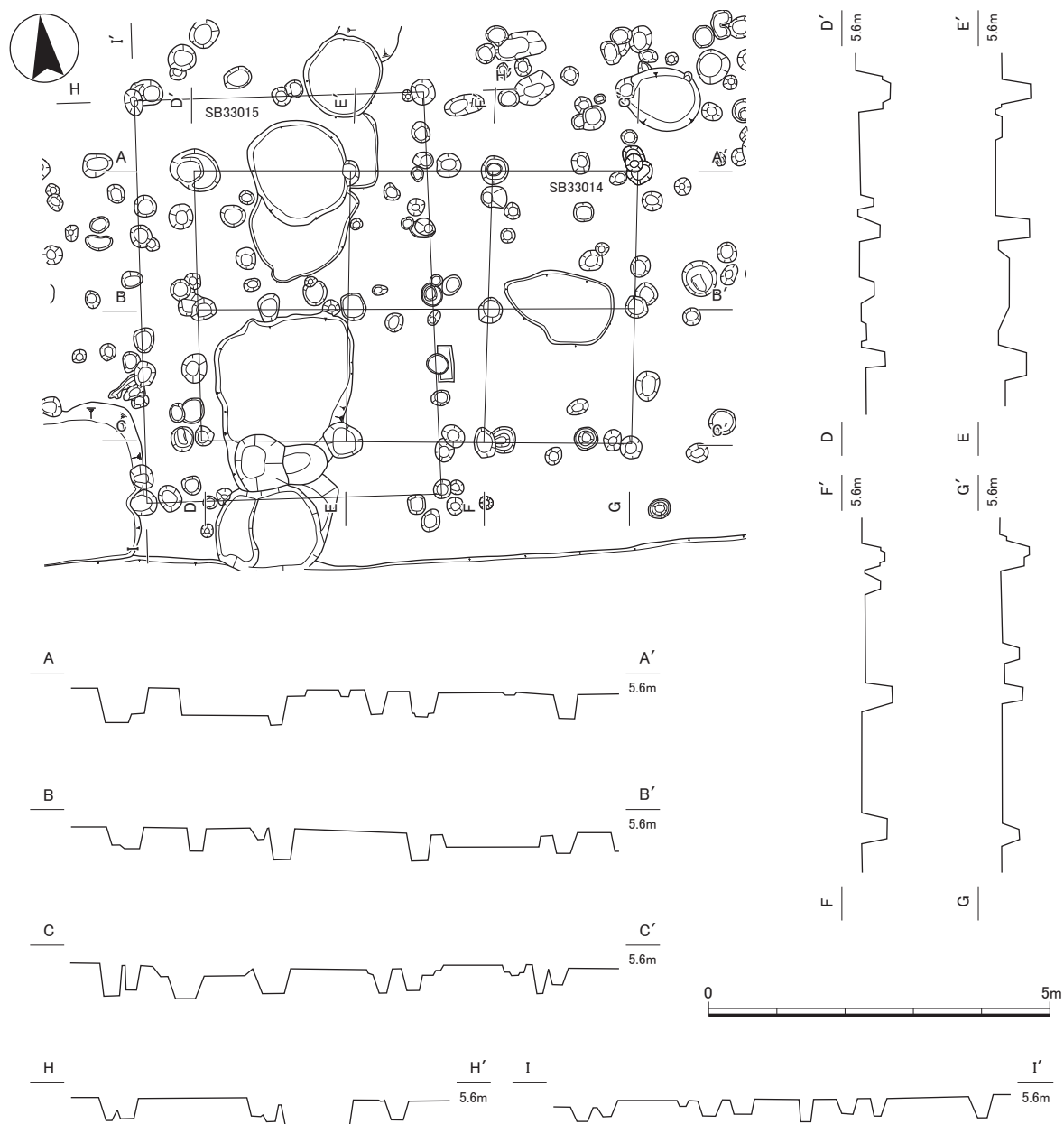
建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.3 ~ 0.6m、短軸 0.3 ~ 0.6m である。北西隅の柱穴は少し大きくなっている。検出面からの深さは 0.3 ~ 0.5m である。

柱穴の埋土から 12 世紀前半の山茶碗などが出土した。

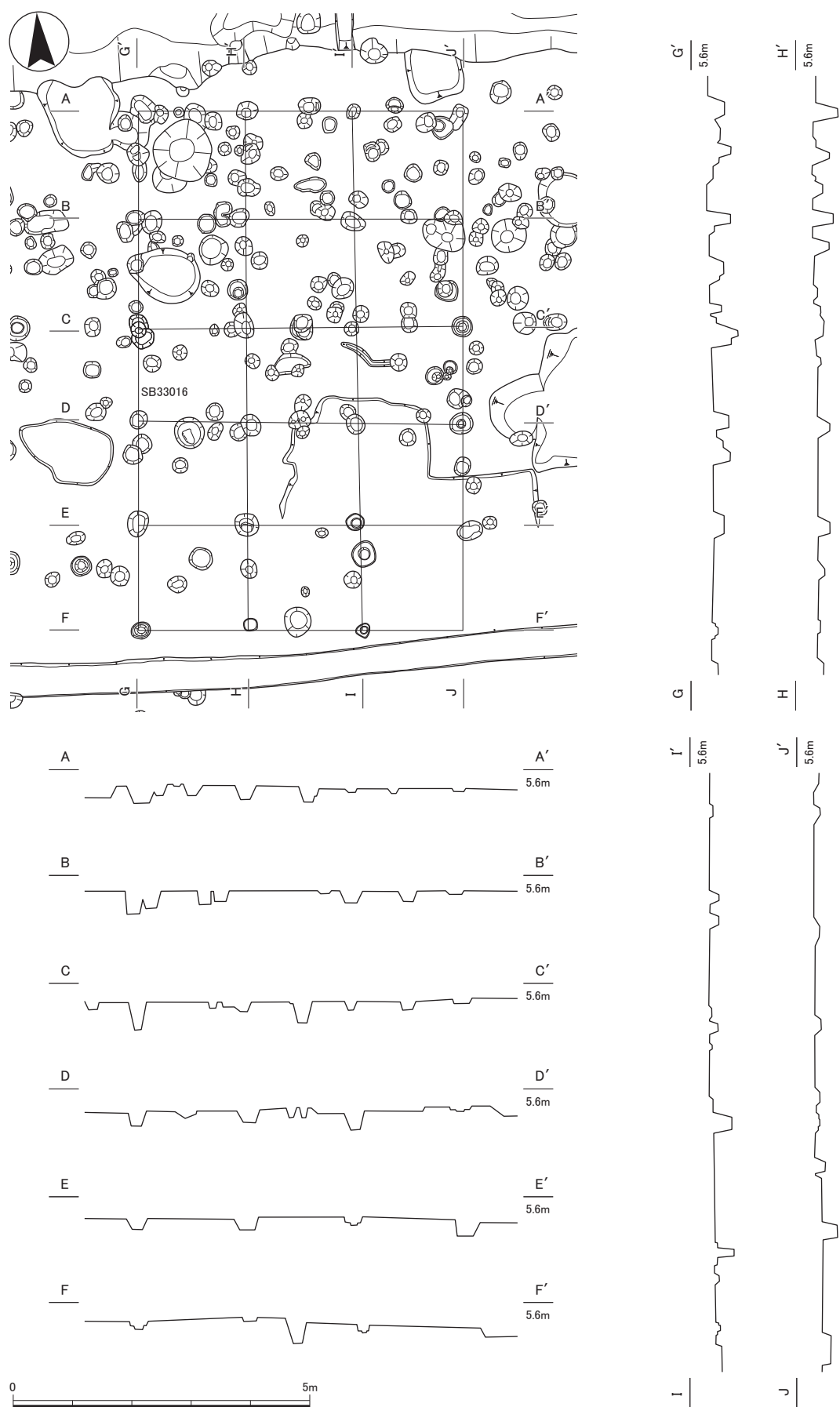
#### S B 33015 (第Ⅲ-25 図)

桁行 3 間、梁行 2 間の側柱建物である。柱穴の一部は S K 42006 により確認することができなかった。棟方向は N 6° E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で 5.9m、各柱間の芯々距離は 1.9 ~ 2.0m である。また、梁行は、東西端の柱穴芯々で 4.2m、各柱間の芯々距離は 2.05 ~ 2.15m である。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形となる。規模は長軸 0.3 ~ 0.5m、短軸 0.3 ~ 0.4m、検出面からの深さは 0.2 ~ 0.4m である。



第Ⅲ-25 図 S B 33014, 33015 平面図・断面図 (1:100)



第Ⅲ-26 図 SB 33016 平面図・断面図 (1:100)



柱穴の埋土から13世紀後半の山茶碗などが出土した。

#### S B 33016 (第Ⅲ-26 図)

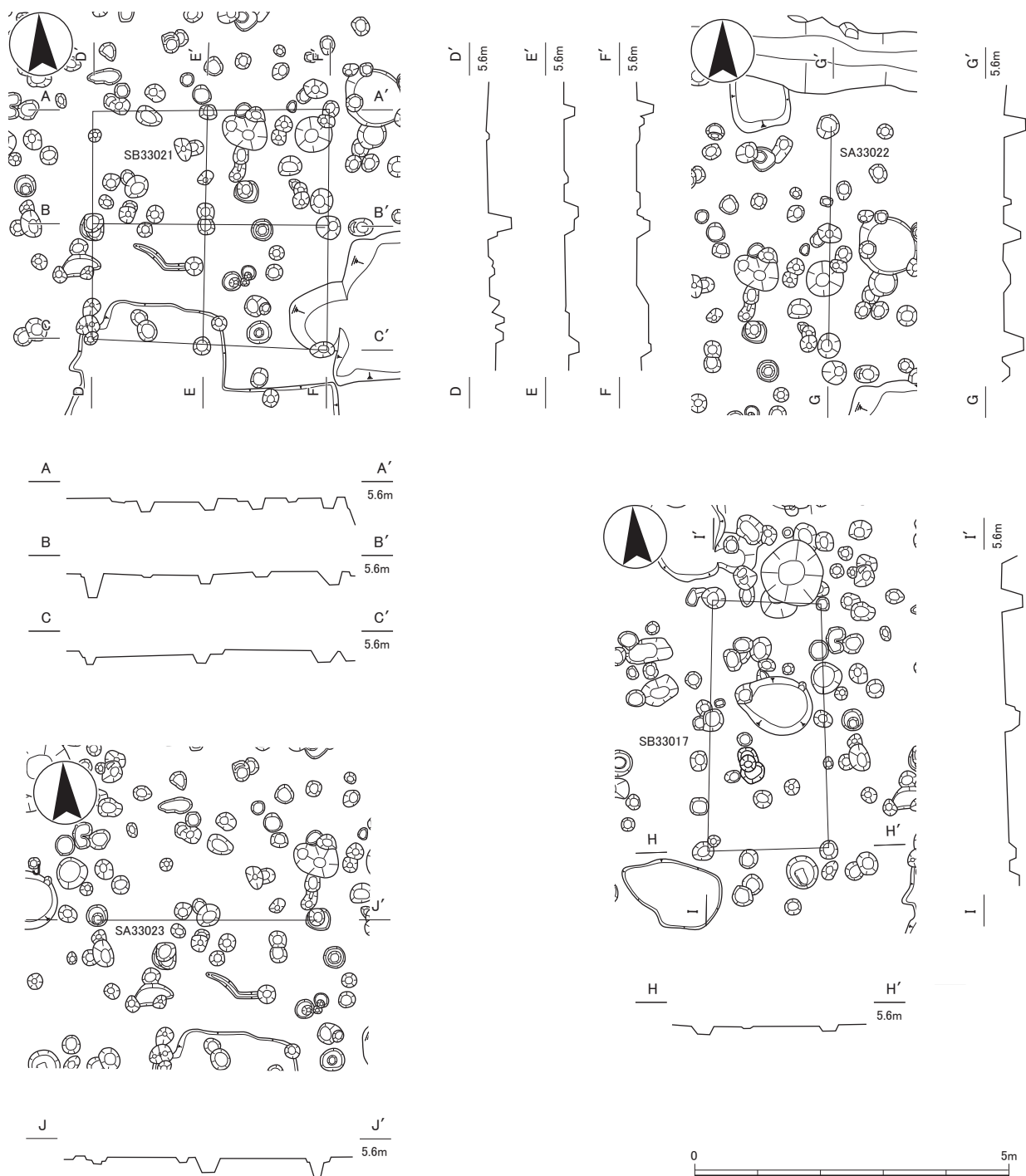
桁行5間、梁行3間の総柱建物である。南東隅の柱穴は確認することができなかった。棟方向はN4°E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で8.7mである。柱間の芯々距離は中央の間が1.5m、それ以外は1.8mである。また、梁行は、東西端の

柱穴芯々で5.4m、各柱間の芯々距離は1.7～1.9mである。

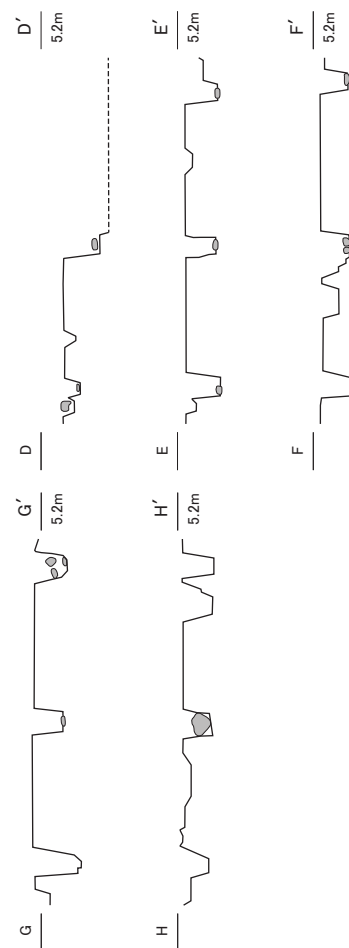
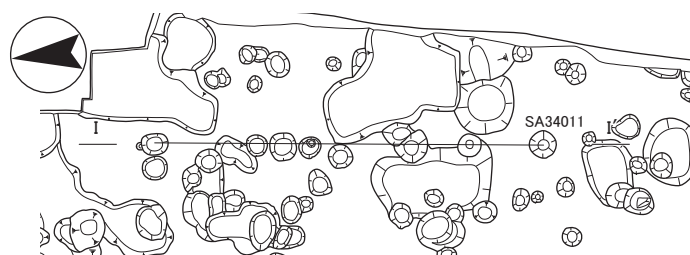
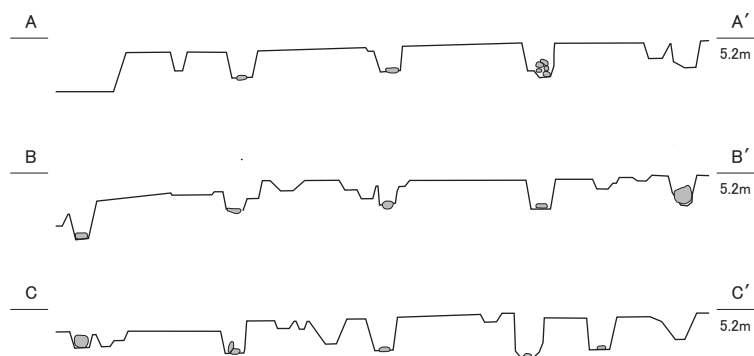
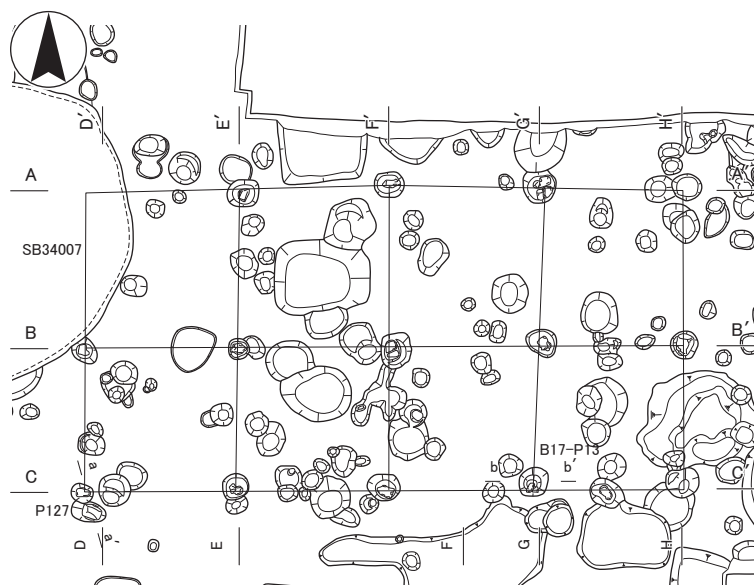
建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は、長軸0.3～0.5m、短軸0.2～0.4m、検出面からの深さは0.2～0.4mをである。柱穴底部1ヶ所で根石を確認した。

柱穴の埋土から土鍾などが出土した。

#### S B 33017 (第Ⅲ-27 図)



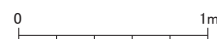
第Ⅲ-27 図 S B 33017, 33021、S A 33022, 33023 平面図・断面図 (1:100)



1. 10YR3/3 暗褐色極細粒砂  
(10YR5/3 にふい黄褐色極細粒砂  
ブロック5%含む)
2. 10YR4/3 にふい黄褐色極細粒砂



1. 10YR3/3 暗褐色シルト
2. 10YR4/3 にふい黄褐色シルト  
(10YR5/6 黄褐色極細粒砂プロ  
ック10%含む)
3. 10YR4/4 褐色シルト



第Ⅲ-28 図 SB 34007、SA 34011 平面図・断面図、柱穴土層断面図 (1:100、1:40)

桁行2間、梁行1間の建物である。棟方向はN5°E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で4.0m、各柱間の芯々距離は1.9～2.1mである。また、梁行は、東西端の柱穴芯々で1.9mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は、長軸0.2～0.4m、短軸0.2～0.4m、検出面からの深さは0.1～0.4mである。

柱穴の埋土から中世の土師器小片などが出土した。

#### S B 33021 (第Ⅲ-27図)

南北2間、東西2間の総柱建物である。北西隅の柱穴を確認することができなかった。棟方向はN4°E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で3.9mであり、各柱間の芯々距離は1.8～2.1mである。また、梁行は、東西端の柱穴芯々で3.7mであり、各柱間の芯々距離は1.75～1.95mである。桁・梁ともに柱間間隔は不揃いである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.4m、短軸0.3

～0.4m、検出面からの深さは0.1～0.4mである。

埋土から中世の土師器鍋小片などが出土した。

#### S A 33022 (第Ⅲ-27図)

柱穴3ヶ所からなる2間の南北方向の柱列である。方向はN0°である。全長は3.7m、各柱間の芯々距離は1.85mである。

柱列を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は、長軸0.3～0.4m、短軸0.3～0.4m、検出面からの深さは0.3～0.4mである。

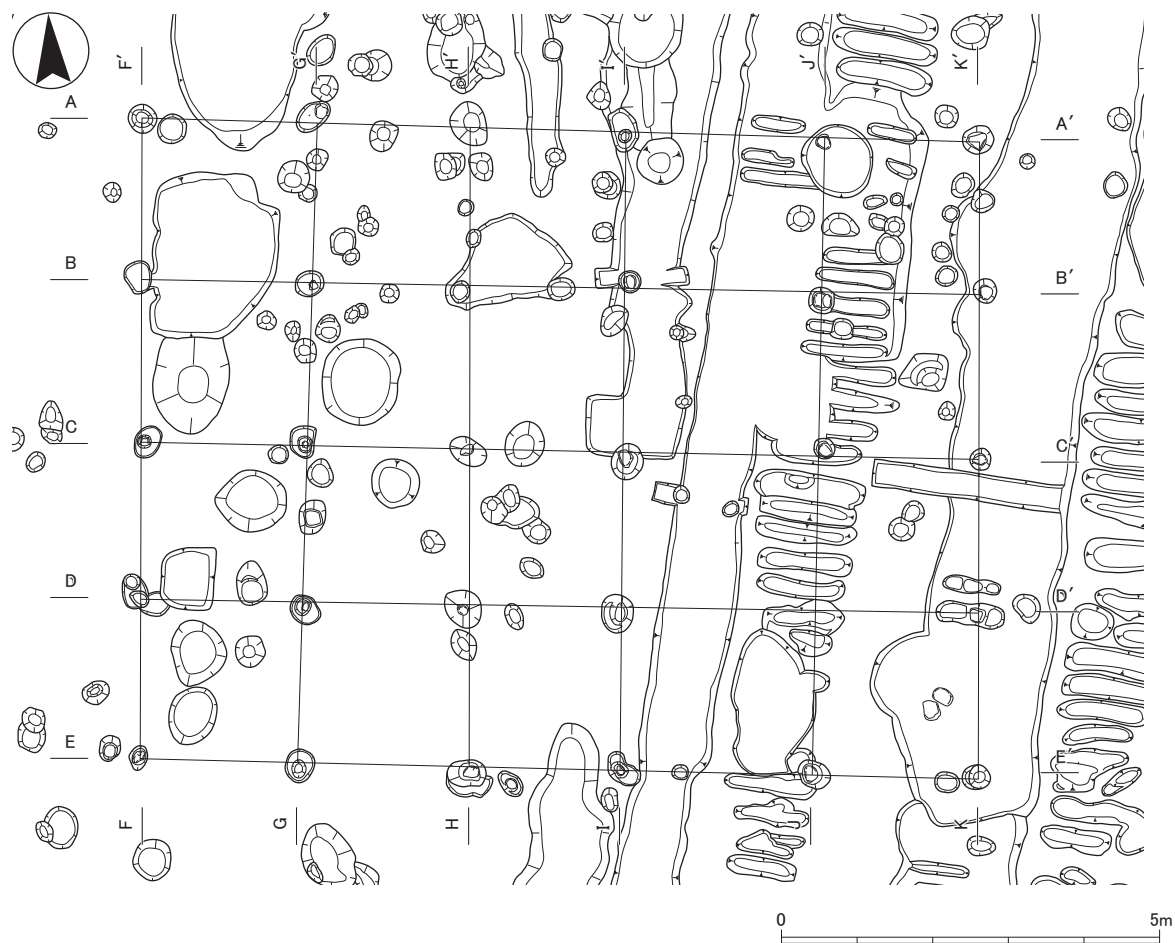
柱穴の埋土から16世紀代の鉄鏃、山茶碗小片などが出土した。

#### S A 33023 (第Ⅲ-27図)

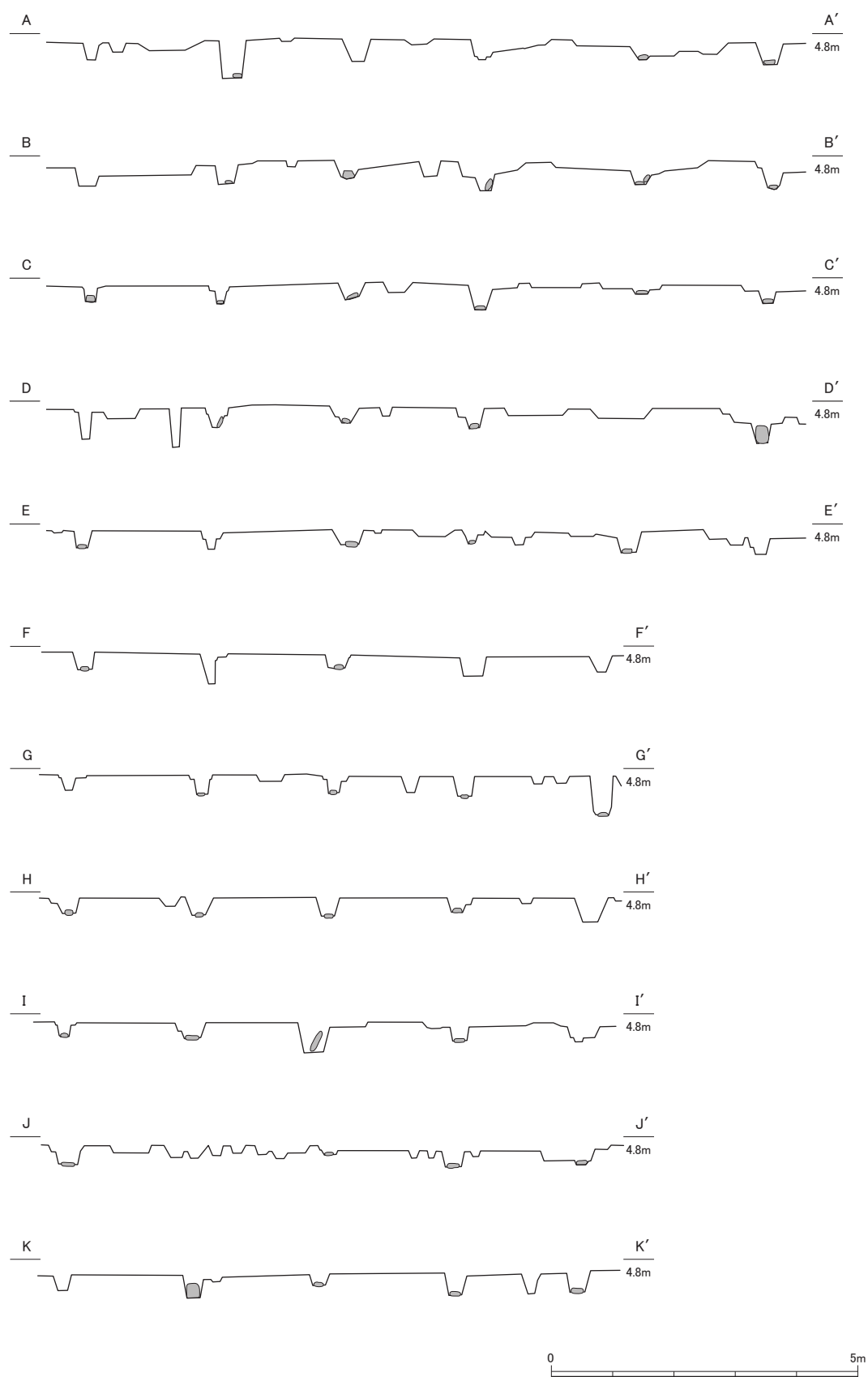
柱穴3ヶ所からなる2間の東西方向の柱列である。方向はN86°Eである。全長は3.6m、各柱間の芯々距離は1.8mである。

柱列を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は、長軸0.3～0.4m、短軸0.2～0.3m、検出面からの深さは0.1～0.3mである。

柱穴の埋土から中世の土師器小片などが出土し



第Ⅲ-29図 S B 37008 平面図 (1:100)



第Ⅲ-30 图 S B 37008 断面图 (1:100)



た。

#### S B 34007 (第Ⅲ-28 図)

桁行4間、梁行2間の総柱建物である。北西隅部の柱穴については確認できなかった。棟方向はN 96° E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で7.9m、各柱間の芯々距離は1.9～2.1mである。また、梁行は、南北端の柱穴芯々で4.0m、各柱間の芯々距離は1.9～2.1mである。平面の歪みは少ないものといえる。

建物を構成する各柱穴の平面形は、円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.4m、短軸0.2～0.3m、検出面からの深さは0.2～0.7mである。柱穴14ヶ所のうち、12ヶ所の底部で根石を確認した。また、柱穴2ヶ所で断割を行い、柱痕跡などを確認した。径は0.2m程度である。

柱穴の埋土から瓦器椀、14世紀前半の山茶碗などが出土した。

#### S A 34011 (第Ⅲ-28 図)

柱穴4ヶ所からなる3間の南北方向の柱列である。方向はN 6° Eである。全長は5.1m、各柱間の芯々距離は1.7mである。

柱列を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は、長軸0.4m、短軸0.3～0.4m、検出面からの深さは0.2～0.5mである。

柱穴の埋土から遺物は確認できなかった。

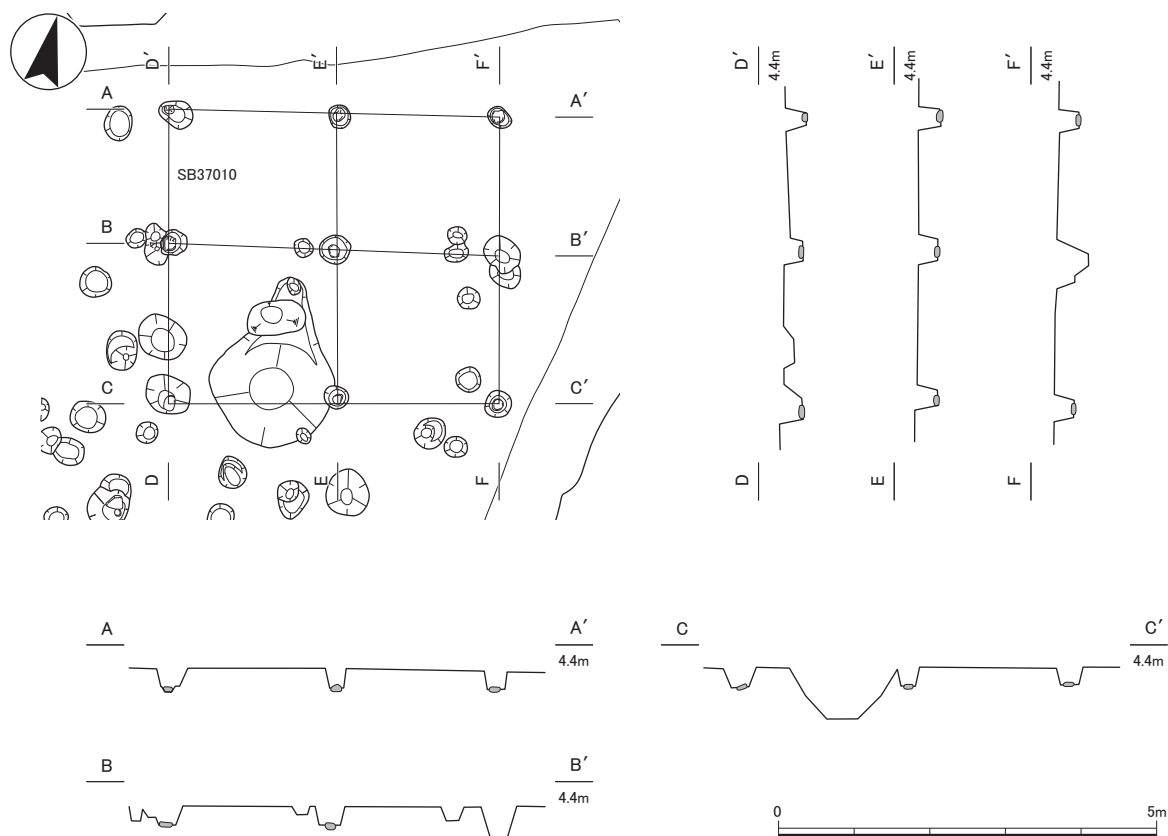
#### S B 37001 (第Ⅲ-23 図)

桁行3間、梁行2間の総柱建物である。南西隅の柱穴については確認することができなかった。棟方向はN 81° E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で6.5mである。柱間の芯々距離は西端の1間が1.8～1.9m、中央の1間が2.4～2.5m、東端の1間が2.2mと不揃いである。また、梁行は、東西端の柱穴芯々で4.0mであり、各柱間の芯々距離は1.9～2.1mである。

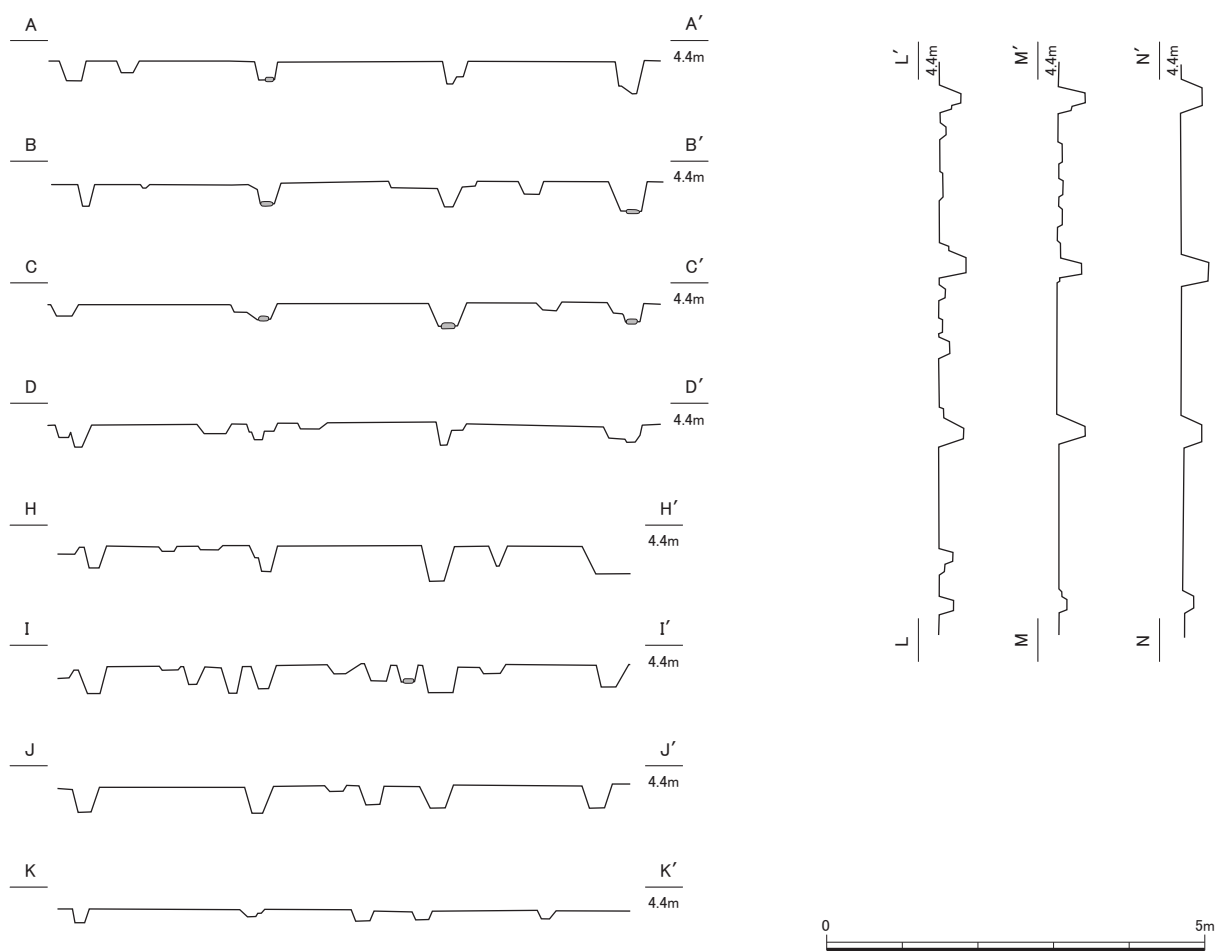
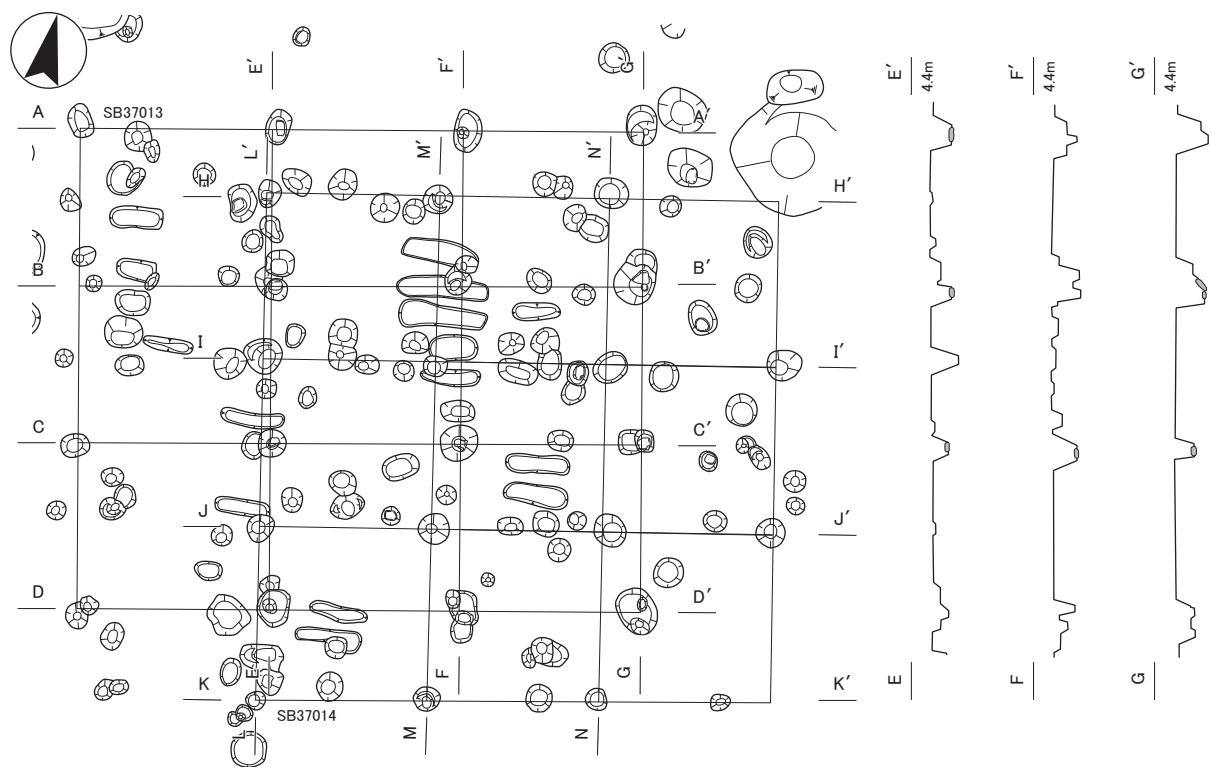
建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は、長軸0.4～0.7m、短軸0.3～0.5m、検出面からの深さは0.2～0.4mである。

柱穴の埋土から13世紀代の土師器鍋、山茶碗、白磁碗、白磁壺、土錘などが出土した。出土遺物の時期については、12世紀前半の遺物もあり幅がある。

#### S B 37008 (第Ⅲ-29, 30 図)



第Ⅲ-31 図 S B 37010 平面図・断面図 (1:100)



第Ⅲ-32 図 S B 37013, 37014 平面図・断面図 (1:100)

桁行5間、梁行4間の総柱建物である。柱穴の一部は攪乱などにより確認できなかった。棟方向はN 96° E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で11.0mである。柱間の芯々距離は2.05～2.2mであるが、一部2.6mと長くなる。また、梁行は、南北端の柱穴芯々で8.4m、各柱間の芯々距離は2.0～2.3mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.6m、短軸0.2～0.4m、検出面からの深さは0.2～0.7mである。柱穴29ヶ所のうち22ヶ所で、底部に根石を確認した。

柱穴の埋土から土師器羽釜、13世紀後半の山茶碗、山皿、石鍋、鉄製釘などが出土した。出土遺物の時期については、若干の幅がある。

#### S B 37010 (第Ⅲ -31 図)

桁行2間、梁行2間の総柱建物である。棟方向はN 78° E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で4.4m、各柱間の芯々距離は2.2mである。梁行は、南北端の柱穴芯々で3.9m、各柱間の芯々距離は北側1.8m、南側2.1mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈し、長軸0.3～0.7m、短軸0.2～0.5mである。検出面からの深さは0.2～0.3mである。柱穴9ヶ所のうち8ヶ所で、底部に根石を確認した。地盤が不安定な地点であったのであろうか。

柱穴の埋土から山皿、鉄製釘などが出土した。

#### S B 37013 (第Ⅲ -32 図)

桁行3間、梁行3間の総柱建物である。棟方向はN 83° E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で7.4m、各柱間の芯々距離は2.4～2.5mである。梁行は、南北端の柱穴芯々で6.4m、各柱間の芯々距離は2.0～2.2mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.6m、短軸0.2～0.4m、検出面からの深さは0.2～0.4mである。柱穴16ヶ所のうち6ヶ所の底部で根石を確認した。

柱穴の埋土から13世紀前半の山茶碗などが出土した。出土遺物の時期については、若干の幅がある。

#### S B 37014 (第Ⅲ -32 図)

桁行3間、梁行3間の総柱建物である。北東隅お

よび南東隅の柱穴は確認することができなかった。棟方向はN 7° W、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で6.8m、各柱間の芯々距離は2.2～2.3mである。また、梁行は、東西端の柱穴芯々で6.6m、各柱間の芯々距離は2.15～2.3mである。S B 37013と重複している。

建物を構成する各柱穴の平面形は、円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.6m、短軸0.2～0.4m、検出面からの深さは0.1～0.4mである。

柱穴の埋土から12世紀後半の山皿などが出土した。

#### S B 37015 (第Ⅲ -33 図)

桁行2間、梁行2間の総柱建物である。棟方向はN 82° E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で4.8mである。各柱間の芯々距離は東から2.2m、2.6mである。梁行は、南北端の柱穴芯々で4.2m、各柱間の芯々距離は2.15m、2.05mである。柱列の柱通りは良くない。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.5m、短軸0.2～0.4m、検出面からの深さは0.3～0.4mである。

柱穴の埋土から中世の山茶碗小片などが出土した。

#### S B 37016 (第Ⅲ -34 図)

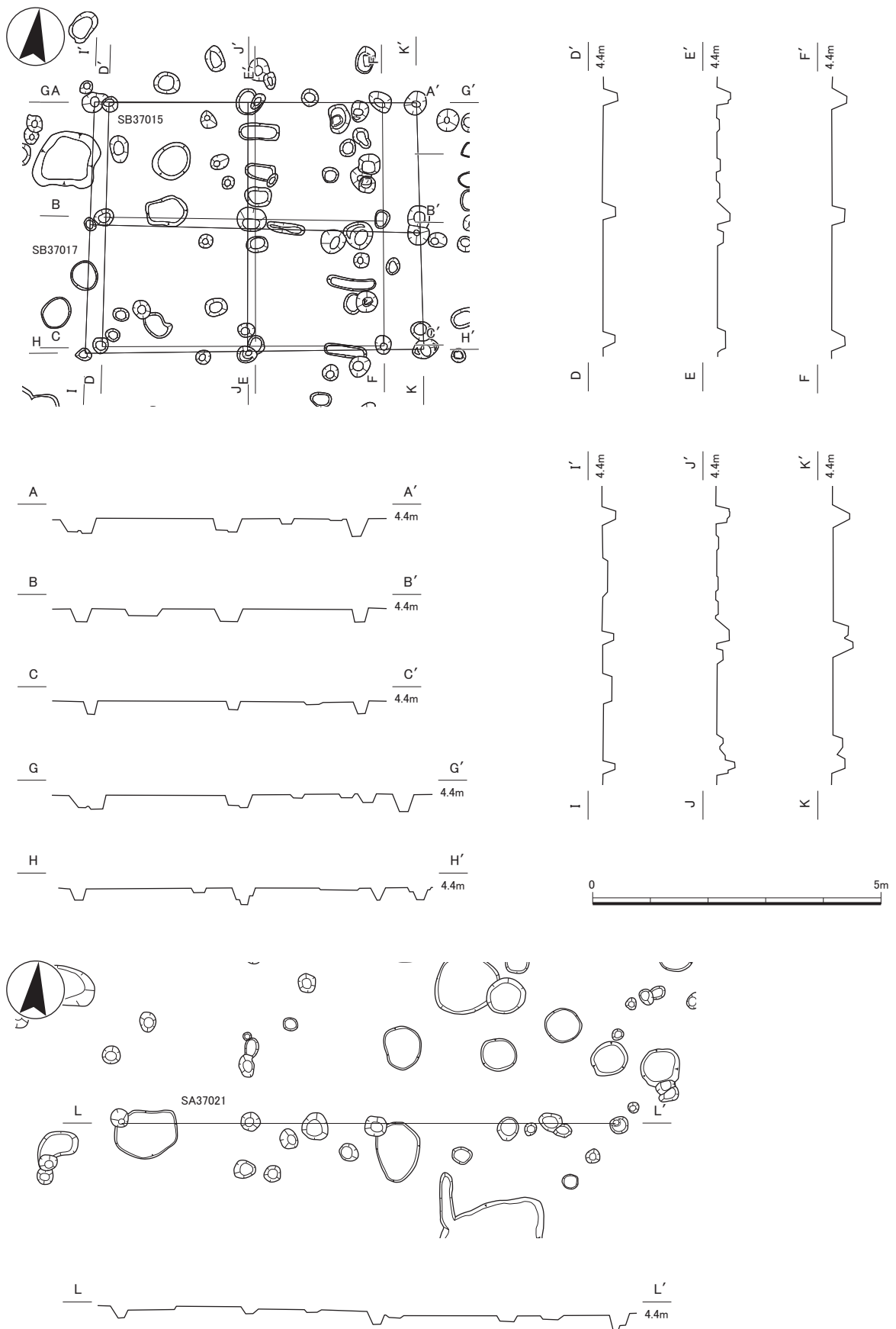
桁行2間、梁行2間の側柱建物である。棟方向はN 88° E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で5.2m、各柱間の芯々距離は2.45m、2.75mである。梁行は、南北端の柱穴芯々で4.3m、各柱間の芯々距離は2.1m、2.2mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.6m、短軸0.2～0.4m、検出面からの深さは0.1～0.5mである。

柱穴の埋土から山茶碗や14世紀中頃前後の山皿などが出土した。出土遺物の時期については、12世紀初頭の遺物もあり幅がある。

#### S B 37017 (第Ⅲ -33 図)

桁行2間、梁行2間の総柱建物である。棟方向はN 81° E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で5.8m、各柱間の芯々距離は2.8m、3.0mである。梁行は、南北端の柱穴芯々で4.4m、各柱間の芯々



第Ⅲ-33图 SB 37015, 37017、SA 37021 平面图·断面图 (1:100)

距離は2.1m、2.3mである。柱間は不等間となっている。S B 37015と重複している。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.2～0.5m、短軸0.2～0.4m、検出面からの深さは0.2～0.4mである。

柱穴の埋土から中世の山茶碗などが出土した。

#### S A 37018 (第Ⅲ-34図)

6ヶ所からなる5間の東西方向の柱列で、方向はN 84° Eである。全長は11.9m、各柱間の芯々距離

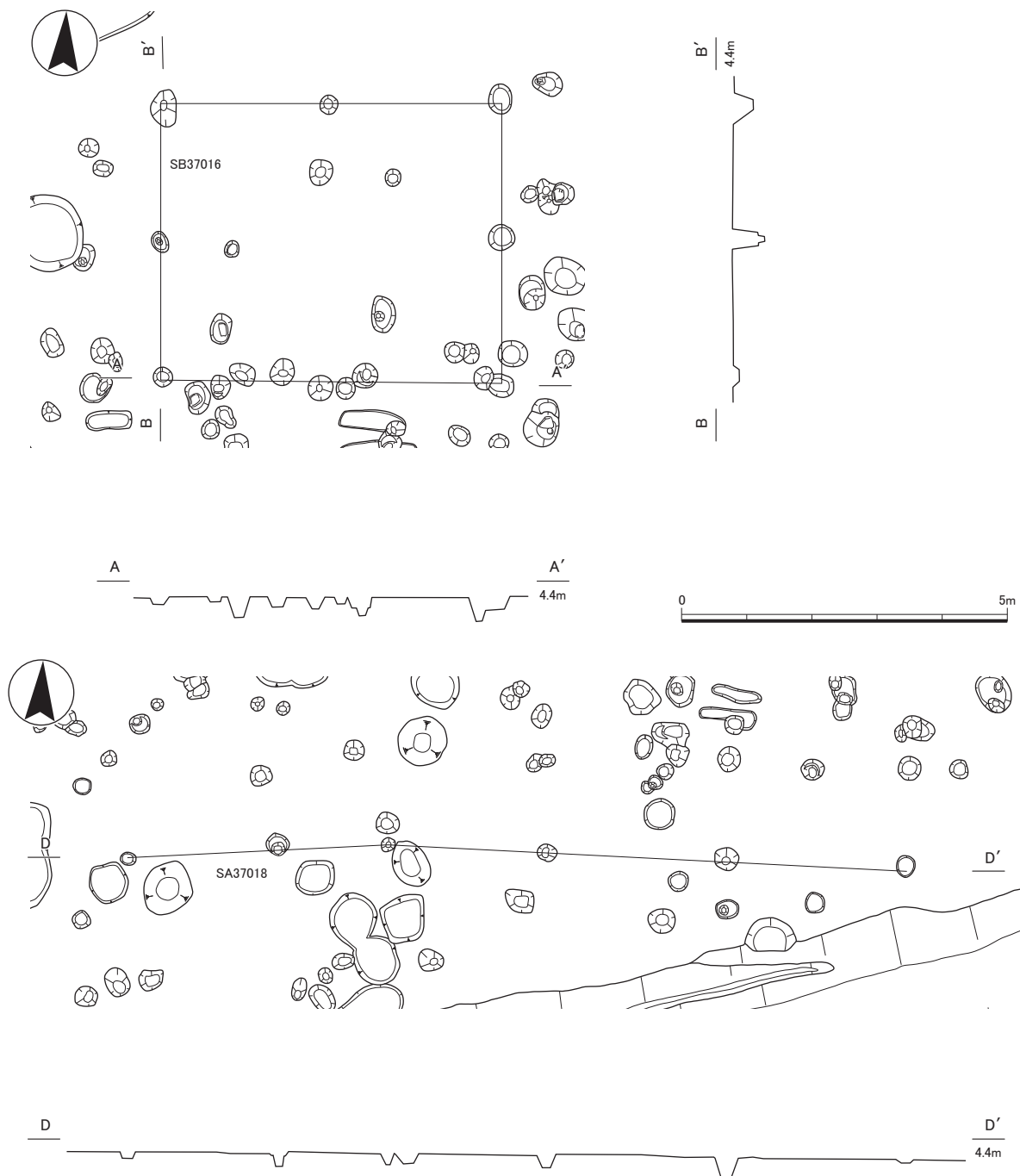
は1.8～2.8mと、不等間である。

柱列を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.2～0.3m、短軸0.2～0.3m、検出面からの深さは0.1～0.3mである。

柱穴の埋土から中世の土師器小片や山茶碗小片などが出土した。

#### S B 37019 (第Ⅲ-35図)

桁行3間、梁行2間の総柱建物である。柱穴1ヶ所については確認できなかった。棟方向はN 5° W、

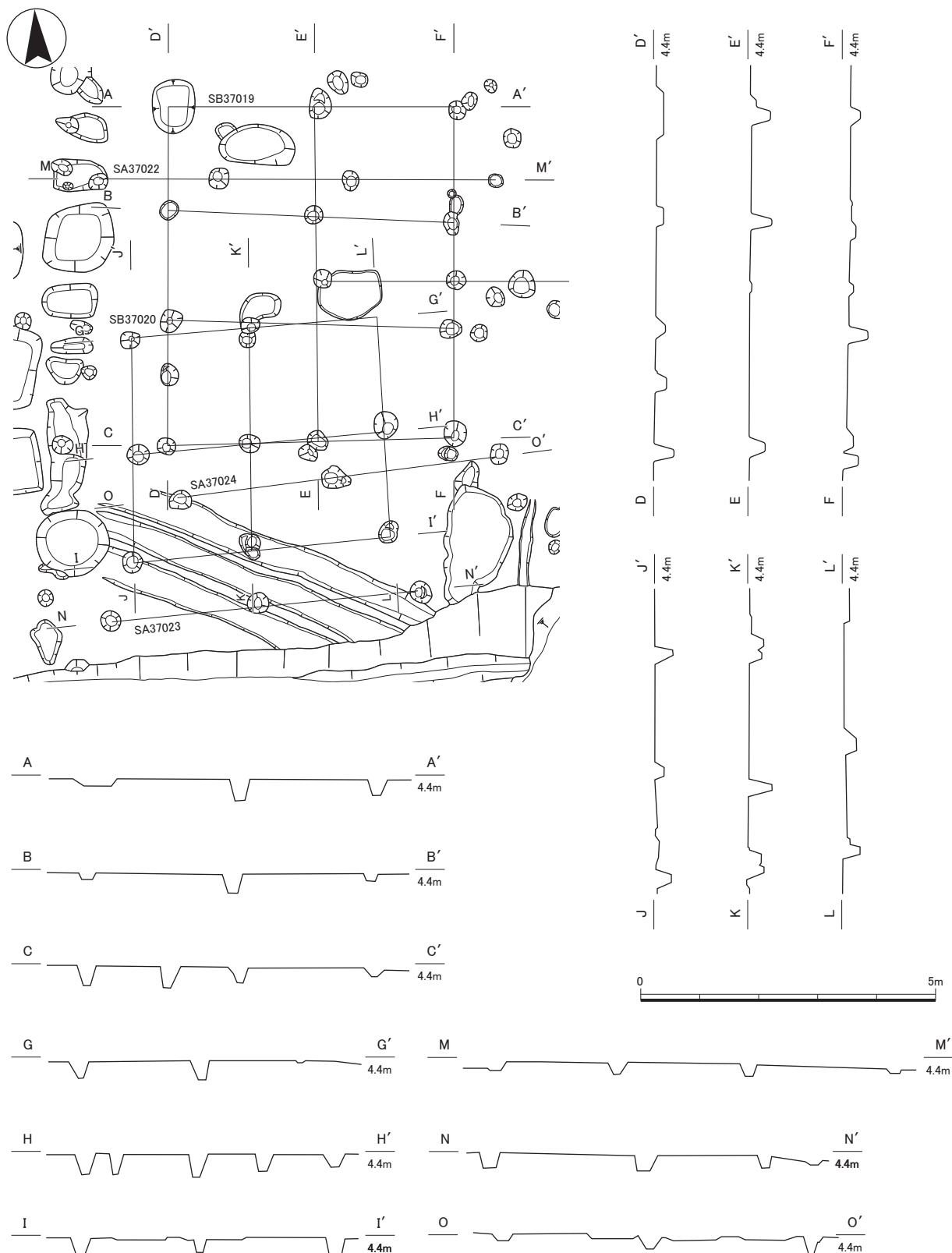


第Ⅲ-34図 S B 37016, S A 37018 平面図・断面図 (1:100)

南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で5.7mである。各柱間の芯々距離は1.75～2.2mである。また、梁行は、東西端の柱穴芯々で4.8m、各柱穴の芯々距離は2.3m、2.5mである。建物の平面形は

台形を呈している。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.5m、短軸0.2～0.3m、検出面からの深さは0.1～0.4mである。



第Ⅲ-35 図 S B 37019, 37020、S A 37022, 37023, 37024 平面図・断面図 (1:100)

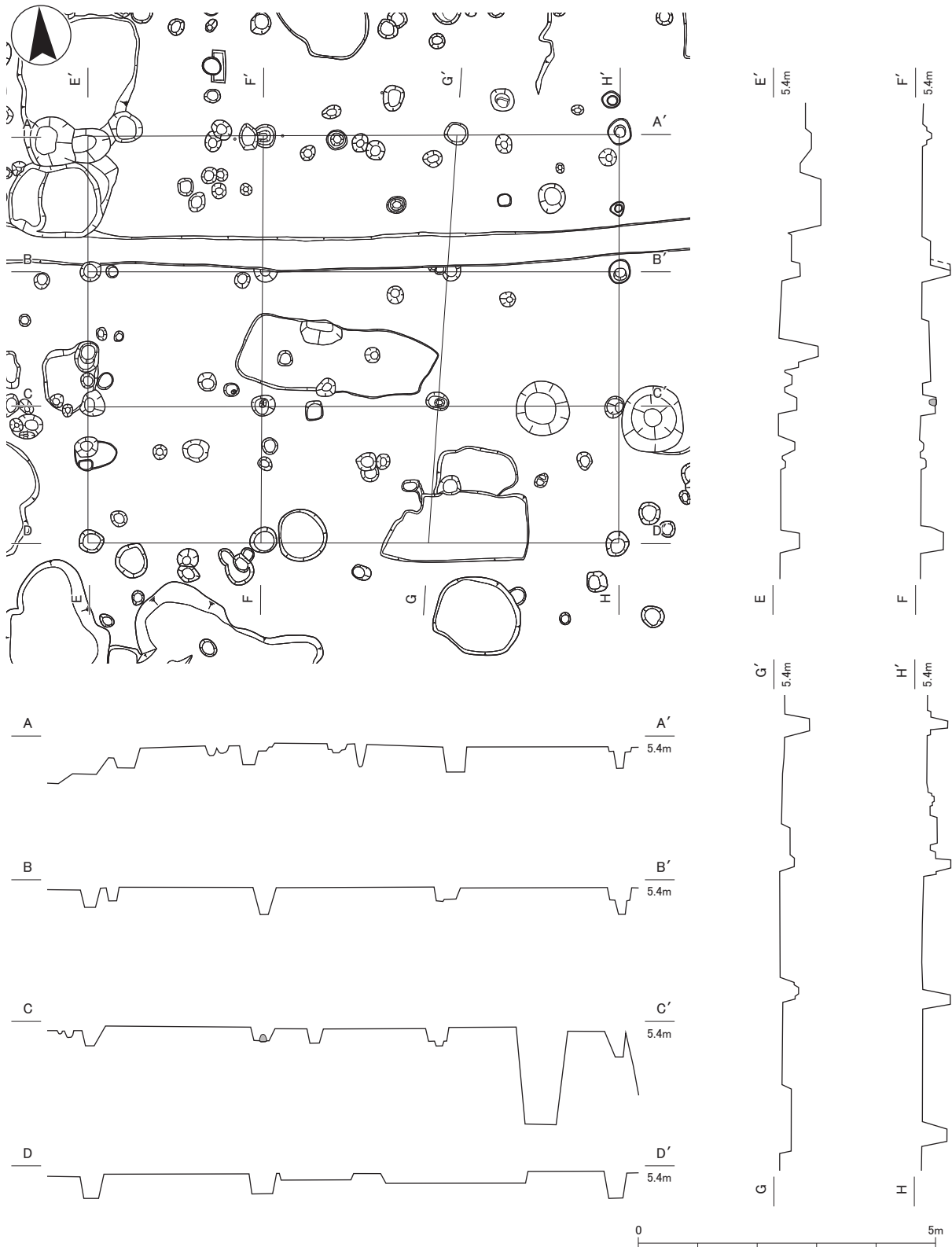


柱穴の埋土から12世紀後半の山茶碗などが出土した。

S B 37020 (第Ⅲ-35図)

桁行2間、梁行2間である。棟方向はN 97° E、

東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で4.4m、各柱間の芯々距離は2.05m、2.35mである。梁行は、南北端の柱穴芯々で3.8m、各柱間の芯々距離は1.8m、2.0mである。建物の平面形は歪んだ形と



第Ⅲ-36図 S B 42013 平面図・断面図(1:100)

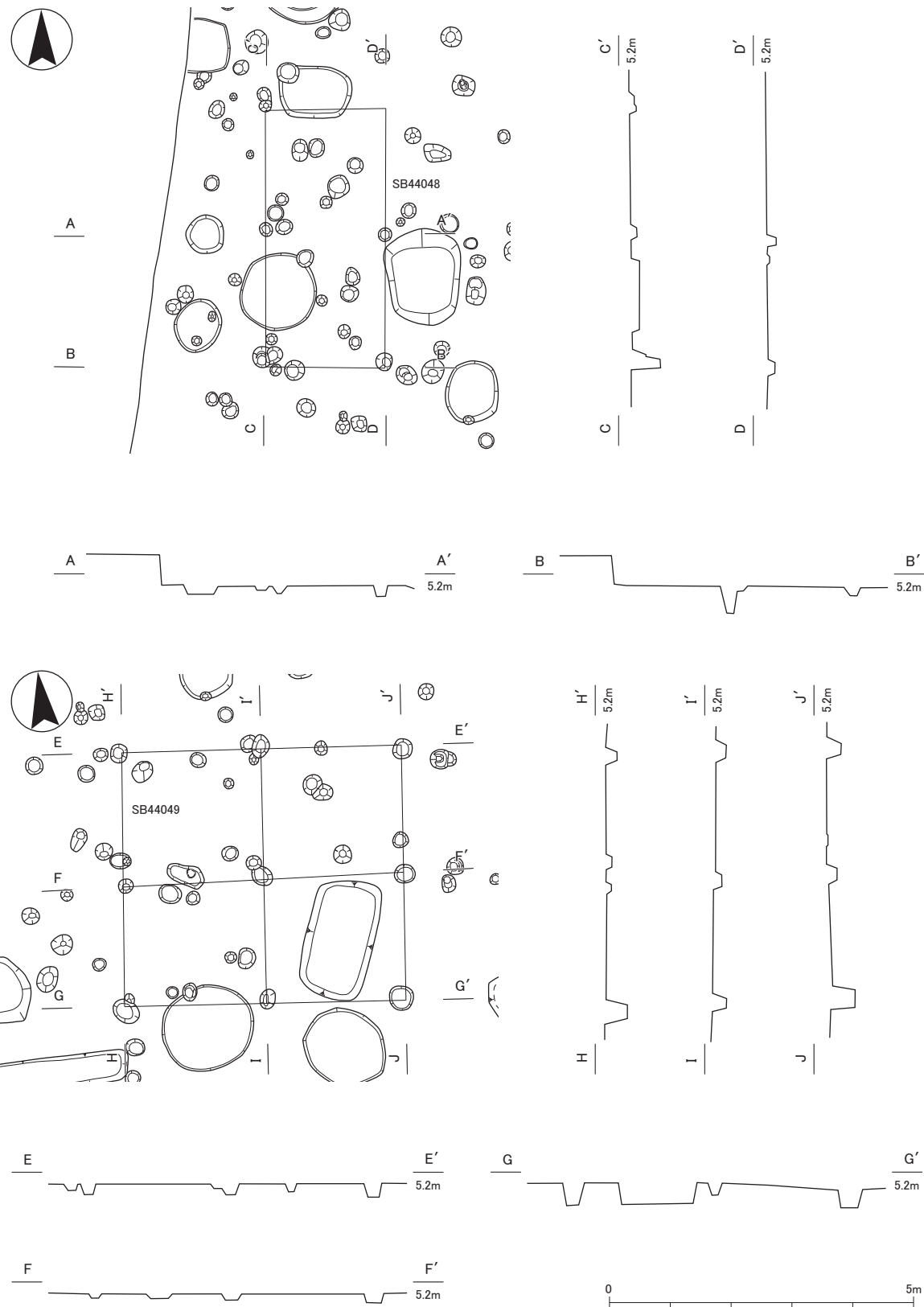
なっている。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.3 ～ 0.4m、短軸 0.3 ～ 0.4m、検出面からの深さ 0.3 ～ 0.4m である。

柱穴の埋土から 13 世紀初頭の山茶碗などが出土した。

S A 37021 (第Ⅲ -33 図)

5 つの柱穴から構成される 4 間の東西方向の柱列



第Ⅲ -37 図 S B 44048, 44049 平面図・断面図 (1:100)

で、方向はN 84° Eである。全長は8.6m、各柱間の  
芯々距離は1.9～2.3mである。

柱列を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕  
円形を呈している。規模は長軸0.3～0.4m、短軸  
0.3～0.4m、検出面からの深さは0.1～0.3mである。

柱穴の埋土から中世の土師器小片などが出土し  
た。

#### S A 37022 (第Ⅲ-35 図)

柱穴4ヶ所からなる3間の東西方向の柱列で、方  
向はN 97° Eである。全長は6.7m、各柱間の芯々  
距離は2.0～2.4mである。

柱列を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕  
円形を呈している。規模は長軸0.2～0.4m、短軸0.2  
～0.3m、検出面からの深さは0.1～0.2mである。

柱穴の埋土から中世の土師器小片などが出土し  
た。

#### S A 37024 (第Ⅲ-35 図)

柱穴3ヶ所から構成される2間の東西方向の柱列

で、方向はN 104° Eである。全長は5.5m、各柱間  
の芯々距離は2.6m、2.9mである。

柱列を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕  
円形を呈している。規模は長軸0.3～0.5m、短軸  
0.3～0.4m、検出面からの深さは0.2～0.3mである。

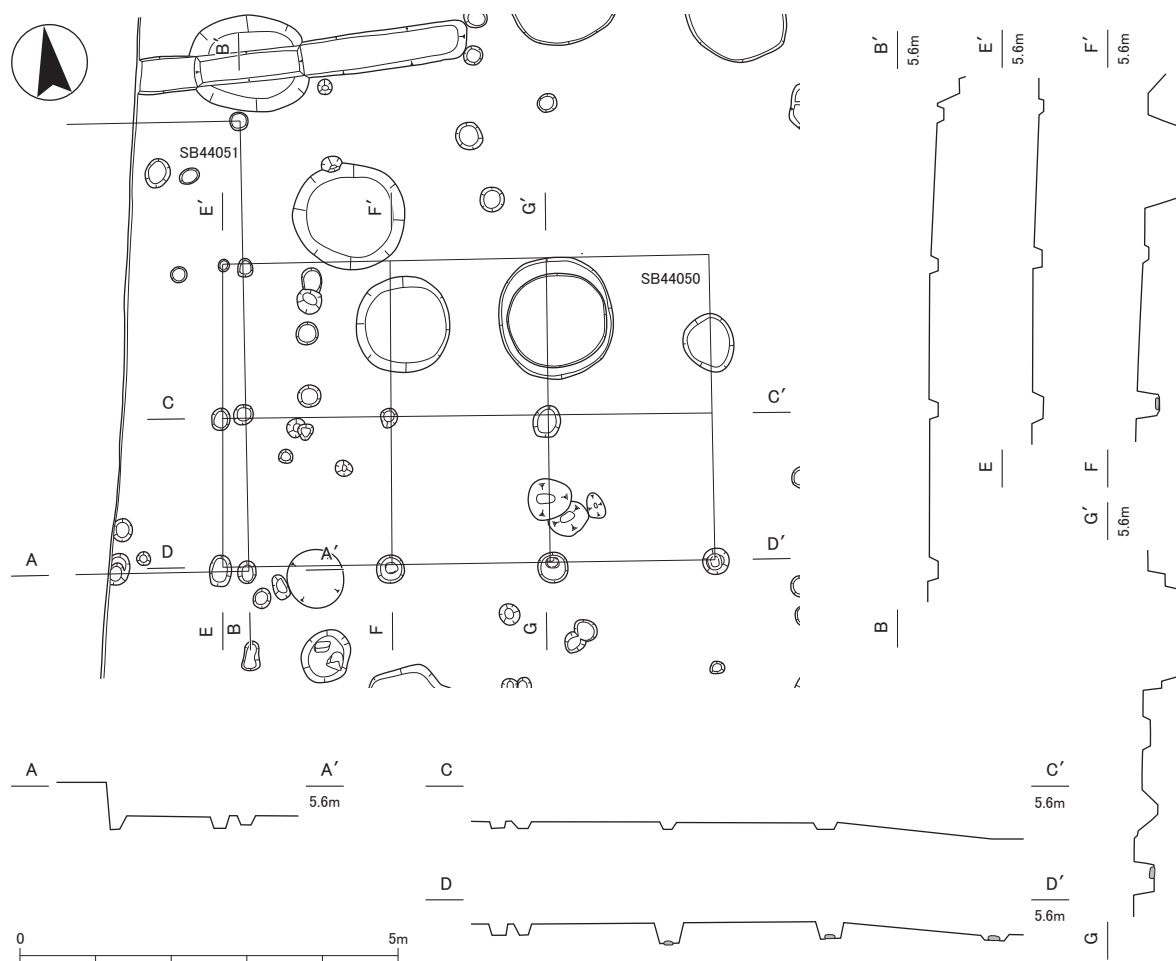
柱穴の埋土から中世の陶器小片などが出土した。

#### S B 42013 (第Ⅲ-36 図)

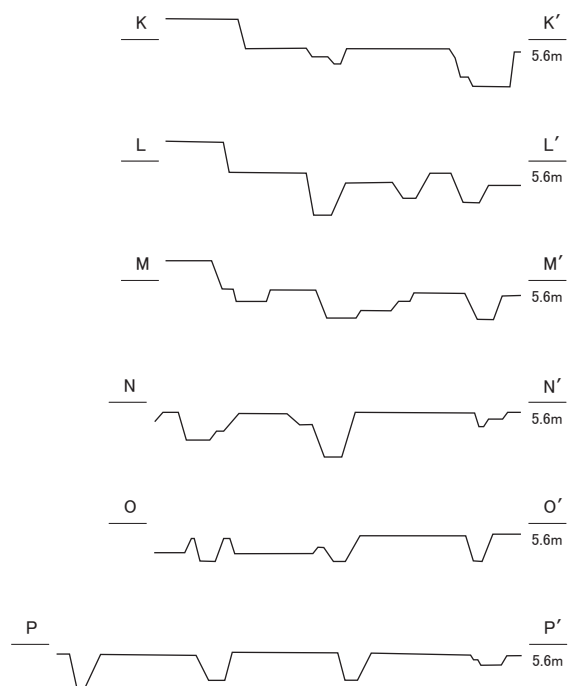
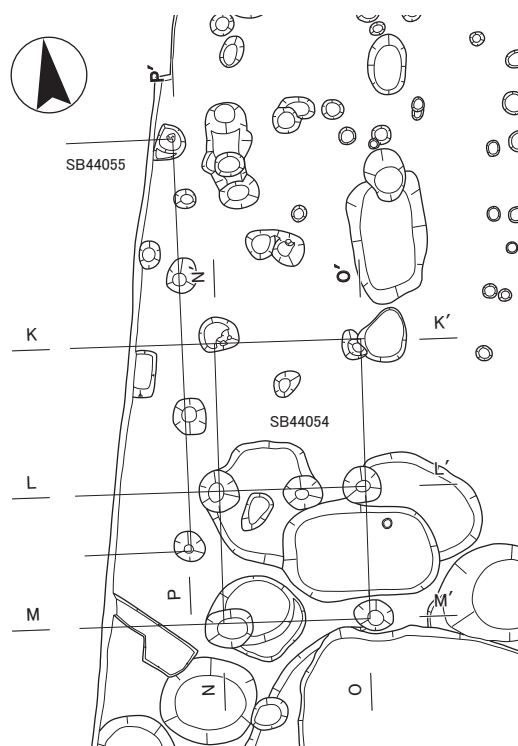
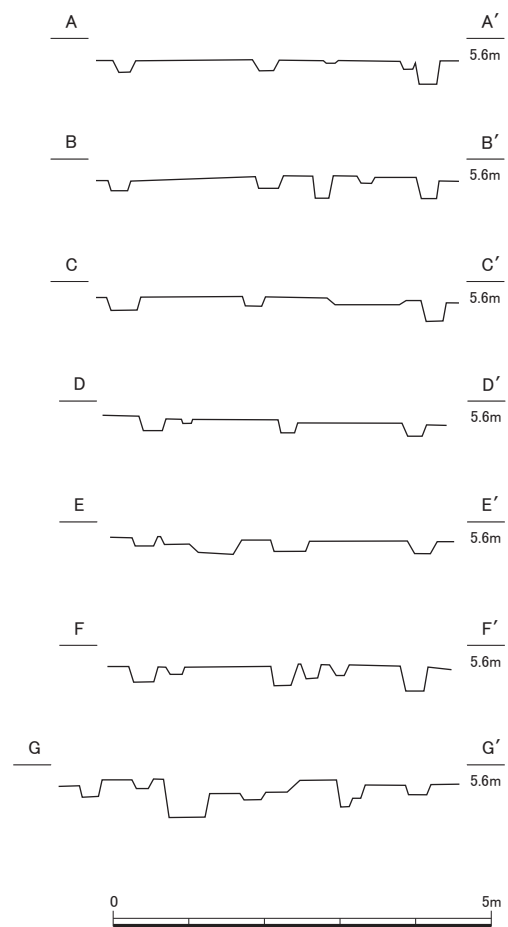
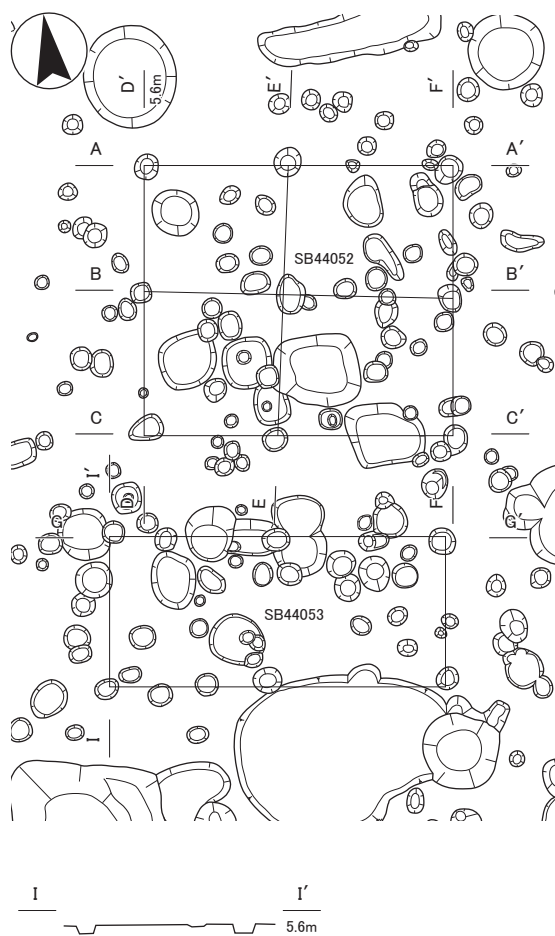
桁行3間、梁行3間の総柱建物である。一部の柱  
穴は攪乱などにより確認することができなかった。  
棟方向はN 95° E、東西棟である。桁行は、東西  
端の柱穴芯々で8.9m、各柱間の芯々距離は2.7～  
3.25mである。梁行は、南北端の柱穴芯々で6.85m、  
各柱間の芯々距離は2.25～2.35mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕  
円形を呈している。規模は長軸0.3～0.5m、短軸0.3  
～0.4m、検出面からの深さは0.2～0.5mである。

柱穴の埋土から中世の山茶碗小片などが出土し  
た。



第Ⅲ-38 図 S B 44050, 44051 平面図・断面図 (1:100)



第Ⅲ-39 图 S B 44052, 44053, 44054, 44055 平面图·断面图(1:100)

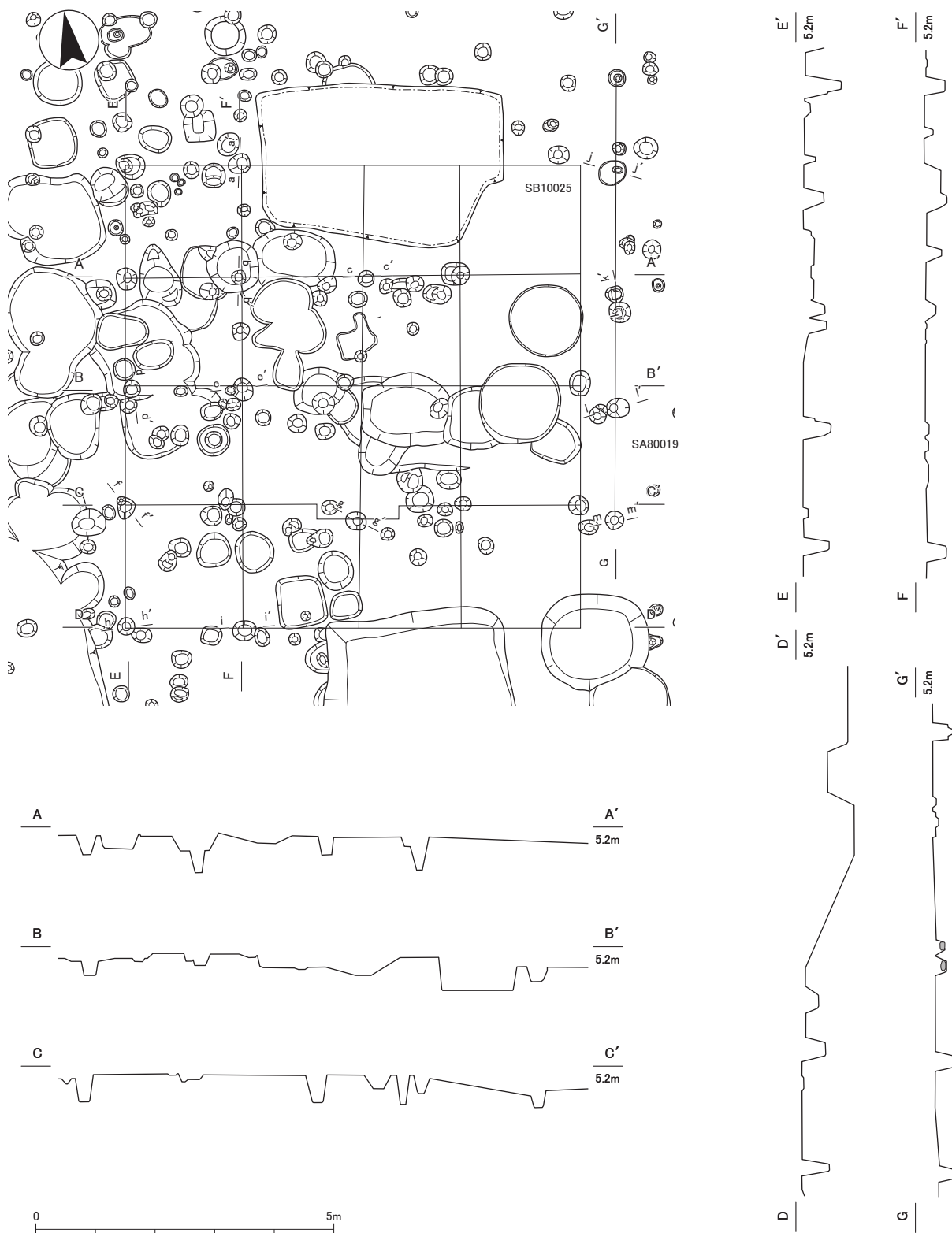
S B 44048 (第Ⅲ -37 図)

桁行 2 間、梁行 1 間の建物で、棟方向は  $N 1^{\circ} E$ 、南北棟である。調査区外に延びる可能性がある。桁行は、南北端の柱穴芯々で 4.2m、各柱間の芯々距離は 2.05m、2.15m である。梁行は、東西端の柱穴芯々

で 2.0m である。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.2 ~ 0.3m、短軸 0.2 ~ 0.3m、検出面からの深さは 0.1 ~ 0.5m である。

柱穴の埋土から小片ではあるが中世の土師器小片

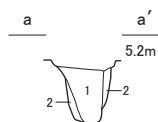


第Ⅲ -40 図 S A 80019、S B 10025 平面図・断面図 (1:100)

などが出土した。

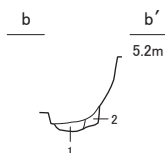
## S B 44049 (第Ⅲ -37 図)

桁行 2 間、梁行 2 間の総柱建物である。棟方向は N 96° E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で 4.6m、各柱間の芯々距離は 2.3m である。梁行は、南北端の柱穴芯々で 4.2m、各柱間の芯々距離は 2.0m、2.2m である。



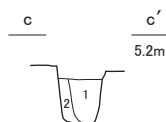
### 【W12-P16】

1. 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂 (炭化物 1%未満含む)
2. 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 10%未満含む)



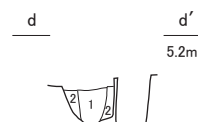
### 【W12-P8】

1. 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂 (炭化物 1%未満含む)
2. 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 10%未満含む)



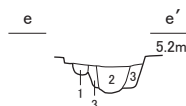
### 【W13-P6】

1. 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 10%未満含む)
2. 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 10%未満含む)



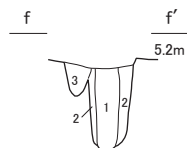
### 【W12-P15】

1. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 (10YR5/1 褐灰色シルトブロック 10%含む)
2. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 30%含む)



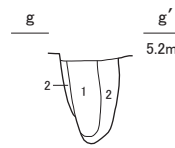
### 【X12-P8】

1. 10YR3/2 黒褐色極細粒砂
2. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂
3. 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 2%含む)



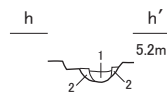
### 【X12-P11】

1. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 2%含む)
3. 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 5%含む)



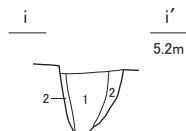
### 【X11-P4】

1. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 5%含む)
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 2%含む)



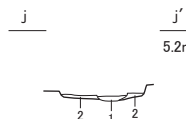
### 【X12-P10】

1. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 10%含む)
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 10%含む)



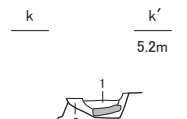
### 【Y12-P3】

1. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 1%含む)
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 20%含む)



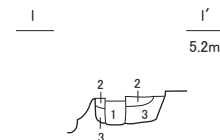
### 【P91】

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 (10YR3/2 黒褐色極細粒砂ブロック 5%含む)
2. 2.5YR4/2 暗灰黄色極細粒砂



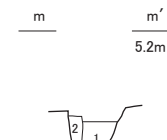
### 【P92】

1. 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR5/3 にぶい黄褐色極細粒砂ブロック 5%含む)
2. 10YR2/3 黒褐色極細粒砂 (10YR5/3 にぶい黄褐色極細粒砂ブロック 5%含む)



### 【P93】

1. 10YR3/2 黒褐色極細粒砂
2. 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR5/3 にぶい黄褐色極細粒砂ブロック 5%含む)
3. 10YR2/2 黒褐色極細粒砂 (10YR5/3 にぶい黄褐色極細粒砂ブロック 10%含む)



### 【P94】

1. 10YR2/1 黒色極細粒砂 (10YR5/3 にぶい黄褐色極細粒砂ブロック 20%含む)
2. 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 (10YR5/3 にぶい黄褐色極細粒砂ブロック 5%含む)



## 第Ⅲ -41 図 S A 80019、S B 10025 柱穴土層断面図 (1:40)

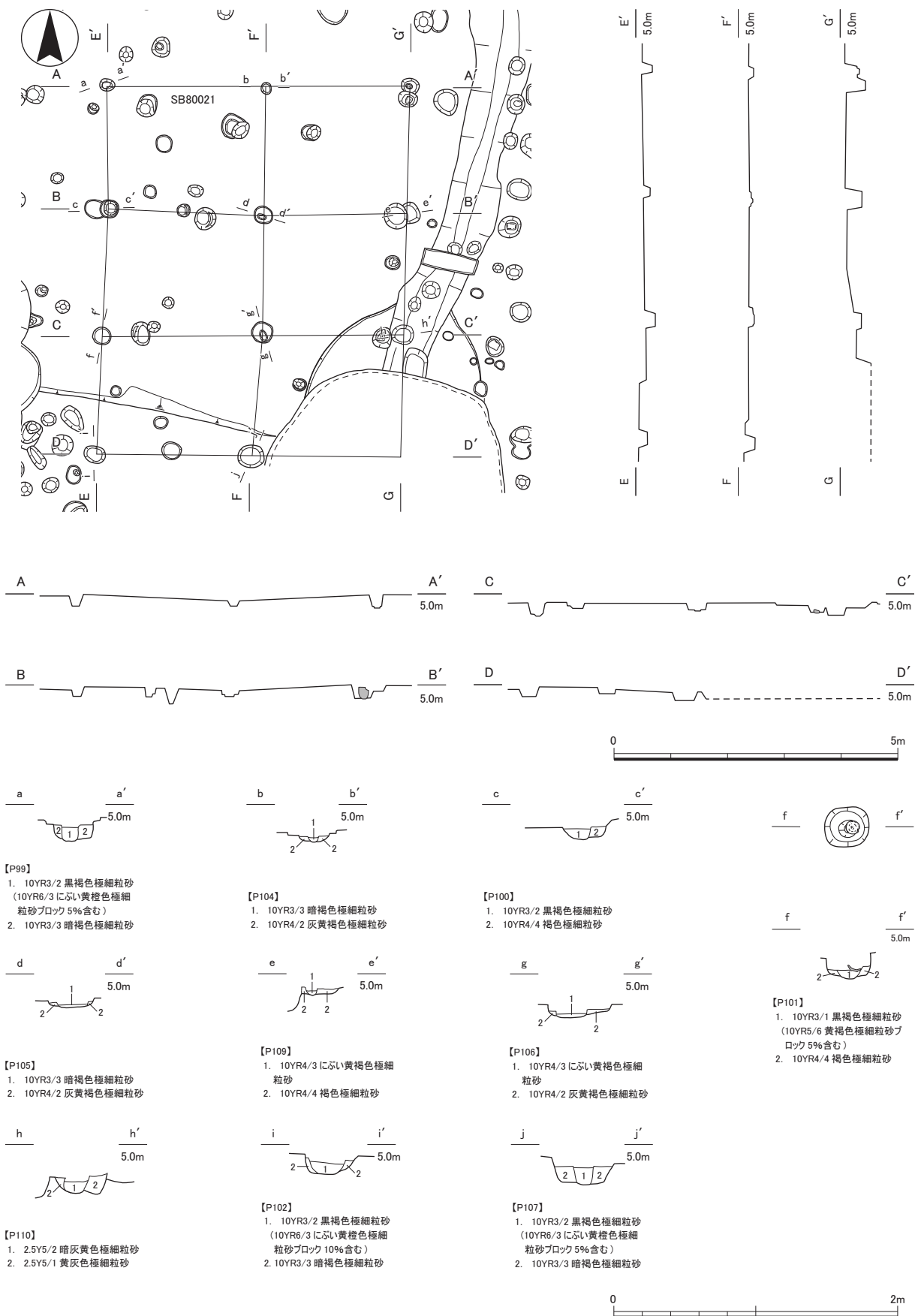
建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.2 ～ 0.4m、短軸 0.2 ～ 0.4m、検出面からの深さは 0.1 ～ 0.4m である。

柱穴の埋土から中世の土師器小片などが出土した。

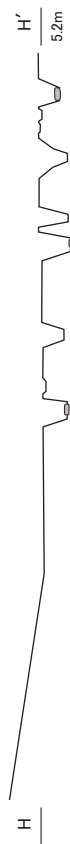
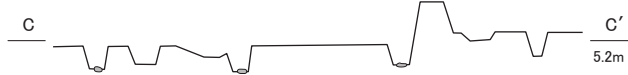
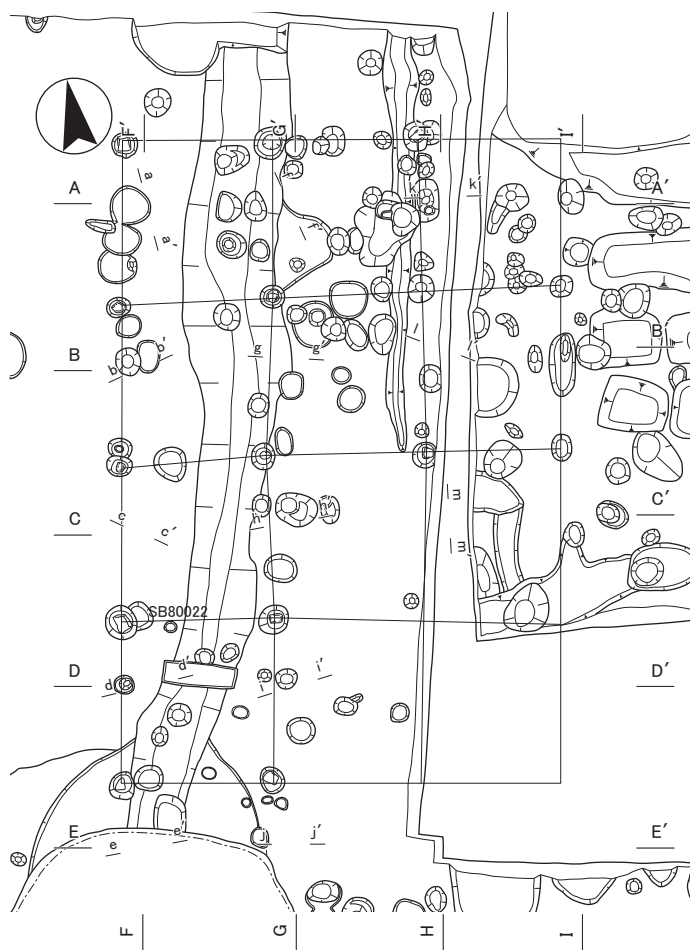
## S B 44050 (第Ⅲ -38 図)

桁行 3 間、梁行 2 間の総柱建物である。柱穴の一





第Ⅲ -42 図 S B 80021 平面図・断面図、柱穴土層断面図 (1:100、1:40)



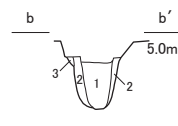
第Ⅲ-43图 SB 80022 平面图·断面图 (1:100)

部は攪乱などにより確認することができなかった。  
棟方向はN 98° E、東西棟である。桁行は、東西  
端の柱穴芯々で6.5m、各柱間の芯々距離は2.1～  
2.2mである。梁行は、南北端の柱穴芯々で4.0m、  
各柱間の芯々距離は2.0mである。

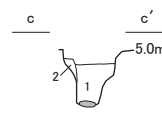
建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕  
円形を呈している。規模は長軸0.2～0.3m、短軸0.2  
～0.3m、検出面からの深さは0.1～0.3mである。  
柱穴8ヶ所のうち3ヶ所の底部で根石を確認した。



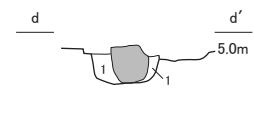
- 【P111】
1. 10YR4/3 にふい黄褐色極細粒砂 (10YR5/3 にふい黄褐色極細粒砂ブロック 30% 含む)
  2. 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR5/3 にふい黄褐色極細粒砂ブロック 20% 含む)
  3. 10YR3/4 暗褐色極細粒砂



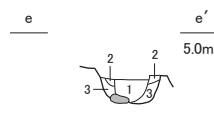
- 【P112】
1. 10YR3/4 暗褐色極細粒砂
  2. 10YR4/3 にふい黄褐色極細粒砂 (10YR5/3 にふい黄褐色極細粒砂ブロック 30% 含む)
  3. 10YR4/4 褐色極細粒砂 (10YR3/4 暗褐色極細粒砂ブロック 5% 含む)



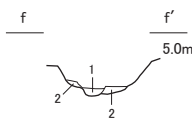
- 【P113】
1. 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR5/4 にふい黄褐色極細粒砂ブロック 10% 含む)
  2. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂



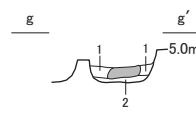
- 【P114】
1. 7.5YR3/2 黒褐色極細粒砂 (10YR5/3 にふい黄褐色極細粒砂ブロック 10% 含む)



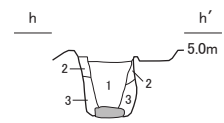
- 【P115】
1. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂
  2. 2.5Y6/1 黄灰色極細粒砂
  3. 2.5Y6/2 灰黄色極細粒砂



- 【P116】
1. 7.5YR4/3 褐色極細粒砂
  2. 7.5YR 灰褐色極細粒砂



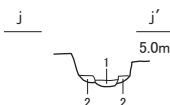
- 【P117】
1. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 (10YR5/3 にふい黄褐色極細粒砂ブロック 10% 含む)
  2. 10YR4/3 にふい黄褐色極細粒砂 (10YR5/3 にふい黄褐色極細粒砂ブロック 5% 含む)



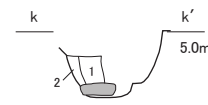
- 【P118】
1. 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 (10YR5/3 にふい黄褐色極細粒砂ブロック 5% 含む)
  2. 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR5/3 にふい黄褐色極細粒砂ブロック 2% 含む)
  3. 10YR2/2 黒褐色極細粒砂 (10YR5/3 にふい黄褐色極細粒砂ブロック 5% 含む)



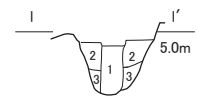
- 【P119】
1. 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 (10YR5/3 にふい黄褐色極細粒砂ブロック 10%、炭化物含む)
  2. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 (10YR5/3 にふい黄褐色極細粒砂ブロック 5% 含む)
  3. 10YR3/1 黒褐色極細粒砂



- 【P120】
1. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 (10YR5/3 にふい黄褐色極細粒砂ブロック 2% 含む)
  2. 10YR3/3 暗褐色極細粒砂



- 【P121】
1. 7.5YR3/2 黒褐色極細粒砂 (10YR5/3 にふい黄褐色極細粒砂ブロック 5% 含む)
  2. 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR5/3 にふい黄褐色極細粒砂ブロック 10% 含む)



- 【P122】
1. 7.5YR3/2 黒褐色極細粒砂 (10YR5/3 にふい黄褐色極細粒砂ブロック 5% 含む)
  2. 10YR4/3 にふい黄褐色極細粒砂 (10YR5/3 にふい黄褐色極細粒砂ブロック 20% 含む)
  3. 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR5/3 にふい黄褐色極細粒砂ブロック 5% 含む)



- 【P123】
1. 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR5/3 にふい黄褐色極細粒砂ブロック 5% 含む)
  2. 10YR5/3 にふい黄褐色極細粒砂 (10YR3/3 にふい黄褐色極細粒砂ブロック 10% 含む)



第Ⅲ -44 図 S B 80022 柱穴土層断面図 (1:40)

柱穴の埋土から遺物の出土は確認できなかった。  
S B 44051 (第Ⅲ -38 図)

桁行3間、梁行1間以上の建物で、調査区外に延  
びる。棟方向はN 6° E、南北棟である。桁行は、  
南北端の柱穴芯々で6.0m、各柱間の芯々距離は1.9  
～2.0mである。梁行は、東西端の柱穴芯々で1.8m  
以上である。S B 44050 と重複している。

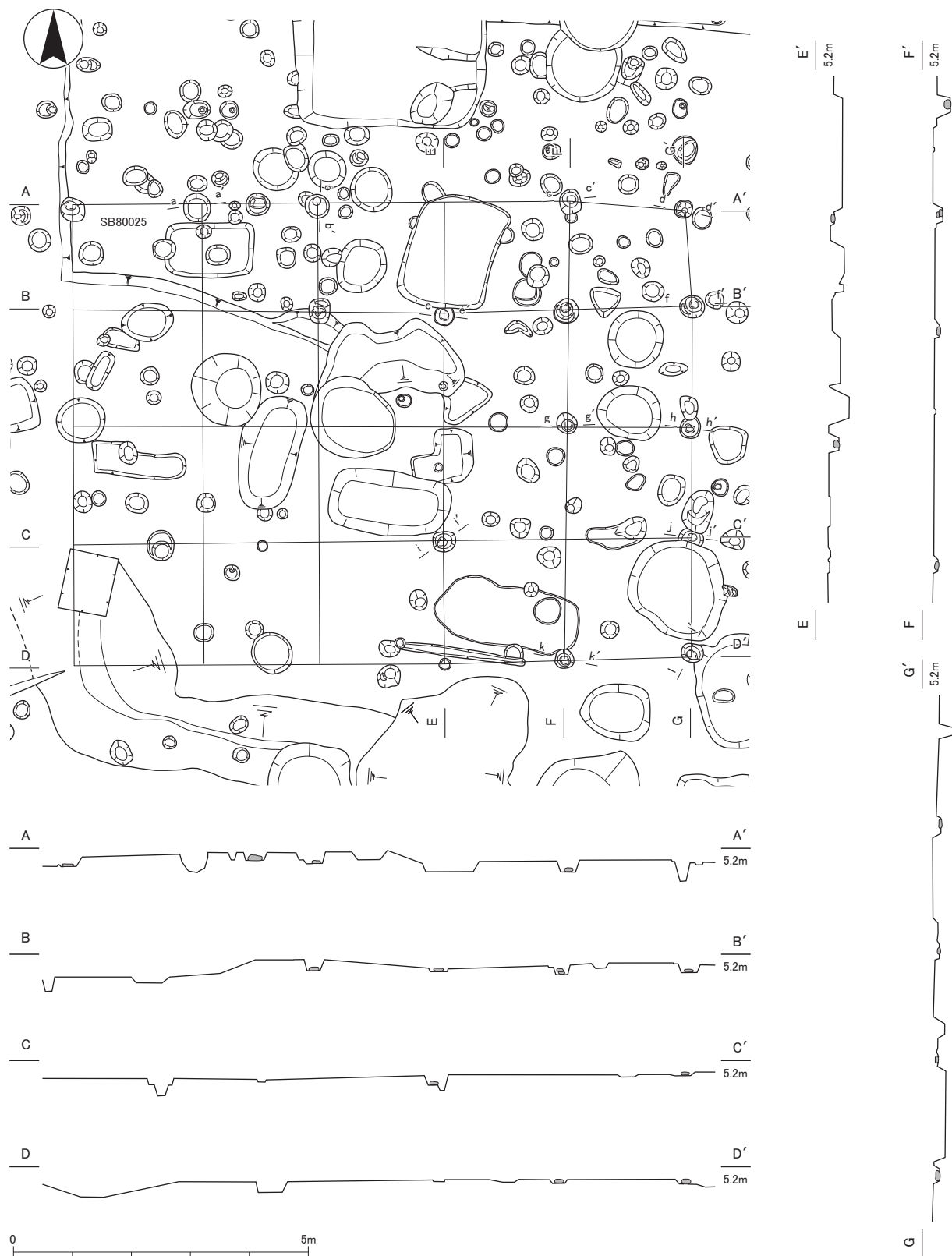
建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕  
円形を呈している。規模は長軸0.2～0.4m、短軸0.2

～0.3m、検出面からの深さは0.1～0.2mである。

柱穴の埋土から中世の山茶碗小片などが出土した。

S B 44052 (第Ⅲ -39 図)

桁行2間、梁行2間の総柱建物である。棟方向はN 102° E、東西棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で4.1m、各柱間の芯々距離は1.8m、2.3mである。梁行は、東西端の柱穴芯々で3.6m、各柱間の芯々



第Ⅲ -45 図 S B 80025 平面図・断面図 (1:100)

距離は1.65～1.9mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.5m、短軸0.2～0.3m、検出面からの深さは0.2～0.3mである。

柱穴の埋土から中世の陶器小片などが出土した。

#### S B 44053 (第Ⅲ-39図)

桁行2間、梁行1間の建物で、S B 44052の南側に位置している。棟方向はN 102° E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で4.4m、各柱間の芯々距離は2.1m、2.3mである。梁行は、南北端の柱穴芯々で2.0mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3m、短軸0.2～0.3m、検出面からの深さは0.1～0.3mである。

柱穴の埋土から遺物の出土は確認できなかった。

#### S B 44054 (第Ⅲ-39図)

桁行2間、梁行1間以上の建物である。調査区外に延びる可能性がある。棟方向はN 8° E、南北棟

である。桁行は、南北端の柱穴芯々で3.7m、各柱間の芯々距離は1.8m、1.9mである。梁行は、東西端の柱穴芯々で1.7m以上である。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.4～0.6m、短軸0.3～0.5m、検出面からの深さは0.3～0.6mである。

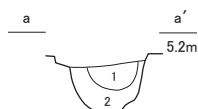
柱穴の埋土から中世の土師器皿や鍋などが出土した。

#### S B 44055 (第Ⅲ-39図)

柱穴4ヶ所からなる3間の南北方向の柱列であるが、調査区外に延びる建物とした。方向はN 7° Eである。南北端の柱穴芯々で5.4m、各柱間の芯々距離は1.7～1.9mである。

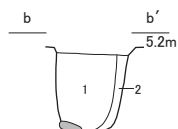
建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.4～0.5m、短軸0.3～0.4m、検出面からの深さは0.1～0.5mである。

柱穴の埋土から遺物の出土は確認できなかった。



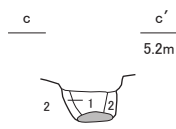
##### 【A11-P1】

1. 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 5%未満含む)
2. 10YR3/3 黒褐色極細粒砂 (10YR6/6 明黄褐色シルトブロック 30%未満含む)



##### 【A12-P7】

1. 10YR3/3 黒褐色極細粒砂
2. 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 30%含む)



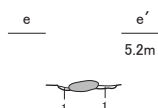
##### 【P138】

1. 10YR3/1 黒褐色極細粒砂
2. 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 30%含む)



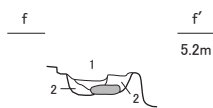
##### 【P134】

1. 10YR2/1 黒褐色極細粒砂
2. 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 (10YR6/3 にびい黄褐色極細粒砂ブロック 2%含む)



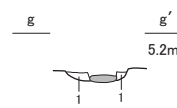
##### 【P142】

1. 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 20%含む)



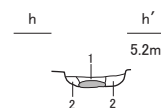
##### 【P135】

1. 10YR3/1 黒褐色極細粒砂
2. 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 20%含む)



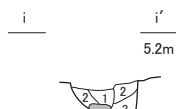
##### 【P140】

1. 10YR3/1 黒褐色極細粒砂



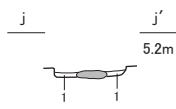
##### 【P156】

1. 10YR3/3 暗褐色極細粒砂
2. 10YR6/2 褐灰色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 20%含む)



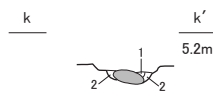
##### 【P143】

1. 10YR3/1 黒褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 5%含む)
2. 10YR3/3 黒褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 10%含む)
3. 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 20%含む)



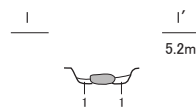
##### 【P136】

1. 10YR6/2 褐灰色極細粒砂



##### 【P141】

1. 10YR3/2 黒褐色極細粒砂
2. 10YR3/4 暗褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 20%含む)

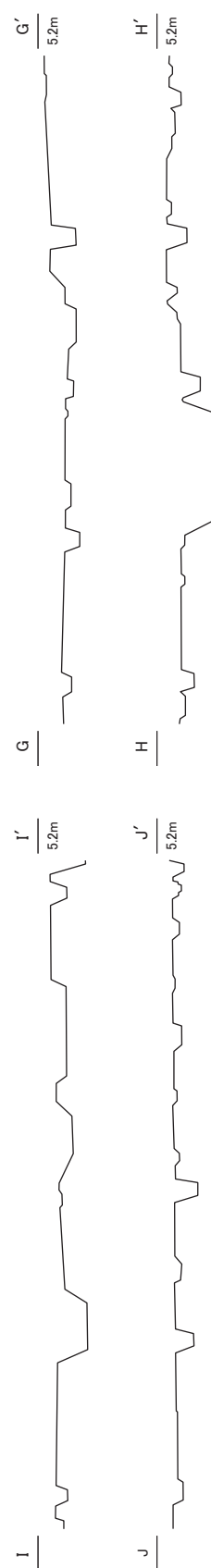
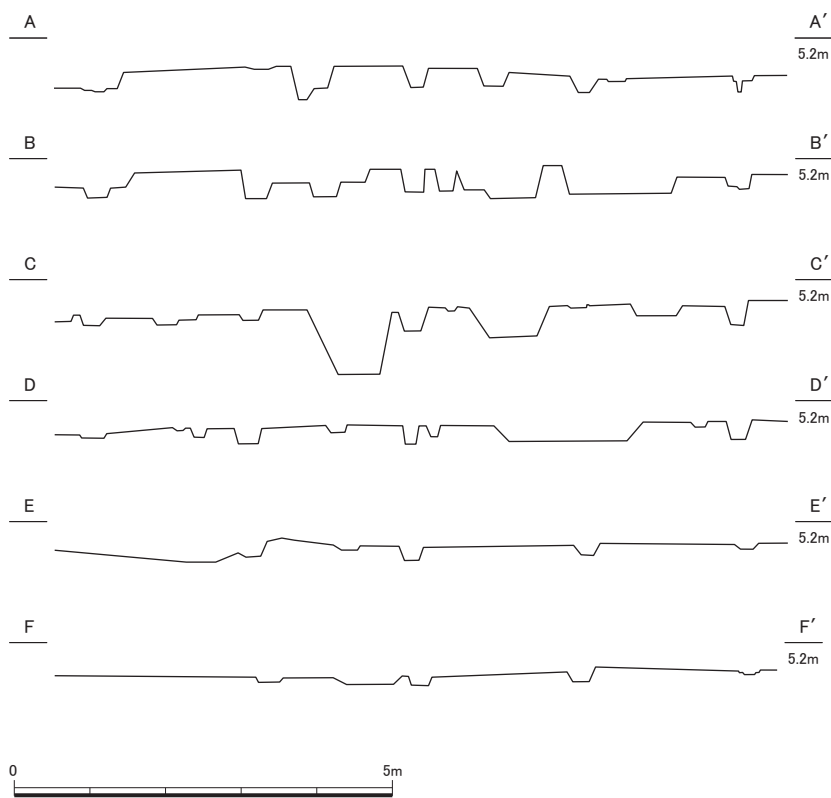
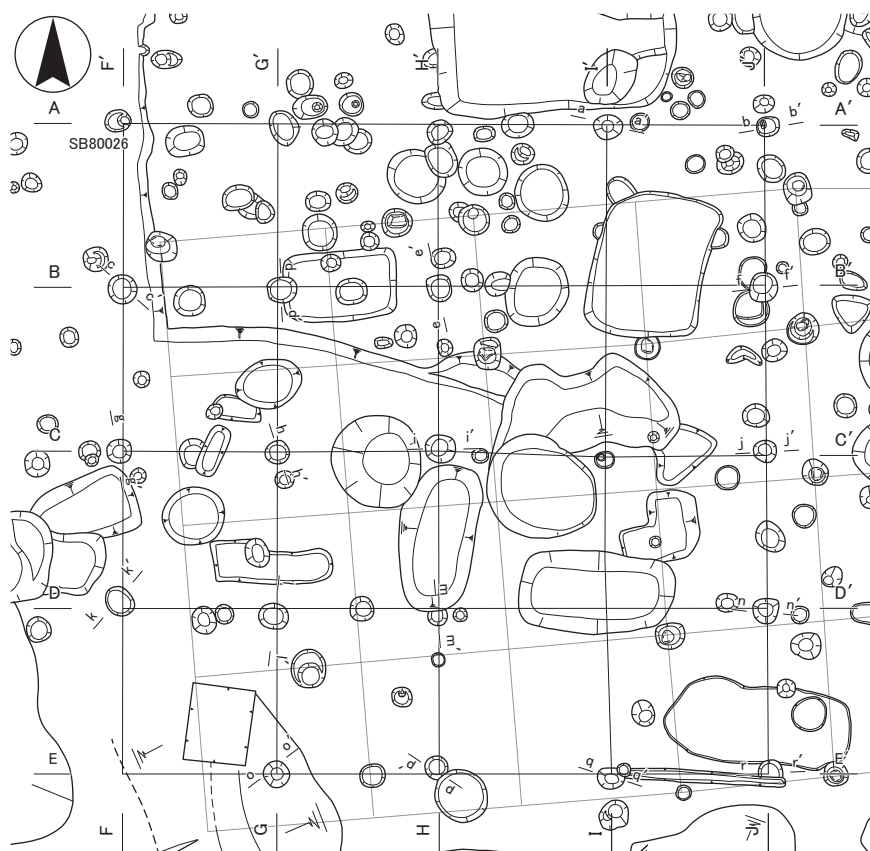


##### 【P137】

1. 10YR4/4 褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 30%含む)

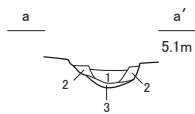


第Ⅲ-46図 S B 80025 柱穴土層断面図 (1:40)



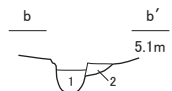
第Ⅲ-47 図 S B 80026 平面図・断面図 (1:100)





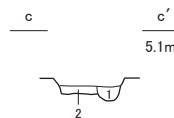
【P132】

- 10YR3/1 黒褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 20%含む)
- 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 40%含む)
- 5PB7/1 明青灰色極細粒砂



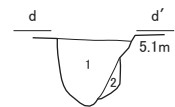
【P131】

- 10YR3/1 黒褐色極細粒砂 (炭化物 1%未満含む)
- 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 30%含む)



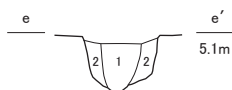
【A11-P6】

- 10YR3/3 暗褐色極細粒砂
- 10YR3/2 黒褐色極細粒砂



【A12-P21】

- 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 10%含む)
- 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 5%含む)



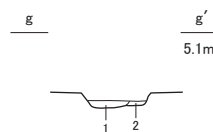
【A12-P20】

- 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 (10YR6/6 明黄褐色極細粒砂ブロック 10%含む)
- 10YR5/4 にぶい黄褐色極細粒砂



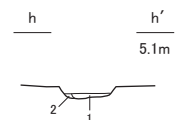
【P133】

- 10YR3/1 黒褐色極細粒砂
- 10YR3/3 暗褐色極細粒砂
- 10YR8/4 浅黄橙色極細粒砂



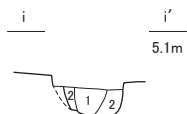
【A11-P7】

- 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂ブロック 10%含む)
- 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂



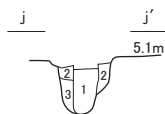
【A11-P8】

- 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂ブロック 5%含む)
- 10YR4/4 褐色極細粒砂



【B12-P4】

- 10YR3/3 暗褐色極細粒砂
- 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色極細粒砂ブロック 5%含む)



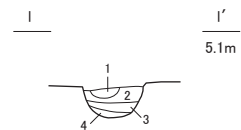
【P146】

- 10YR3/2 黒褐色極細粒砂
- 10YR4/4 褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 30%含む)
- 10YR4/4 褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色極細粒砂ブロック 20%含む)



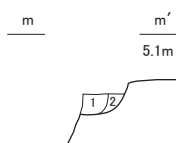
【B11-P2】

- 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 (10YR5/2 灰黄褐色シルトブロック 50%含む)



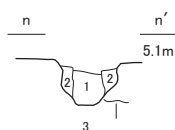
【B11-P3】

- 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂と 10YR4/4 褐色極細粒砂が混ざる
- 10YR5/6 黄褐色極細粒砂と 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂が混ざる
- 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色極細粒砂ブロック 20%含む)
- 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色極細粒砂ブロック 30%含む)



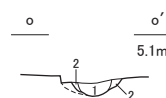
【B12-P2】

- 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色極細粒砂ブロック 10%含む)
- 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色極細粒砂ブロック 30%含む)



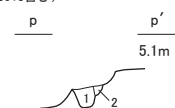
【P147】

- 10YR3/1 黒褐色極細粒砂
- 10YR5/4 にぶい黄褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色極細粒砂ブロック 20%含む)
- 5PB7/1 明青灰色極細粒砂



【C11-P1】

- 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 5%含む)
- 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂



【C12-P1】

- 10YR5/4 にぶい黄褐色極細粒砂と 10YR5/6 黄褐色極細粒砂が混ざる
- 10YR3/3 暗褐色極細粒砂



【P149】

- 10YR4/4 褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 10%含む)
- 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 30%含む)

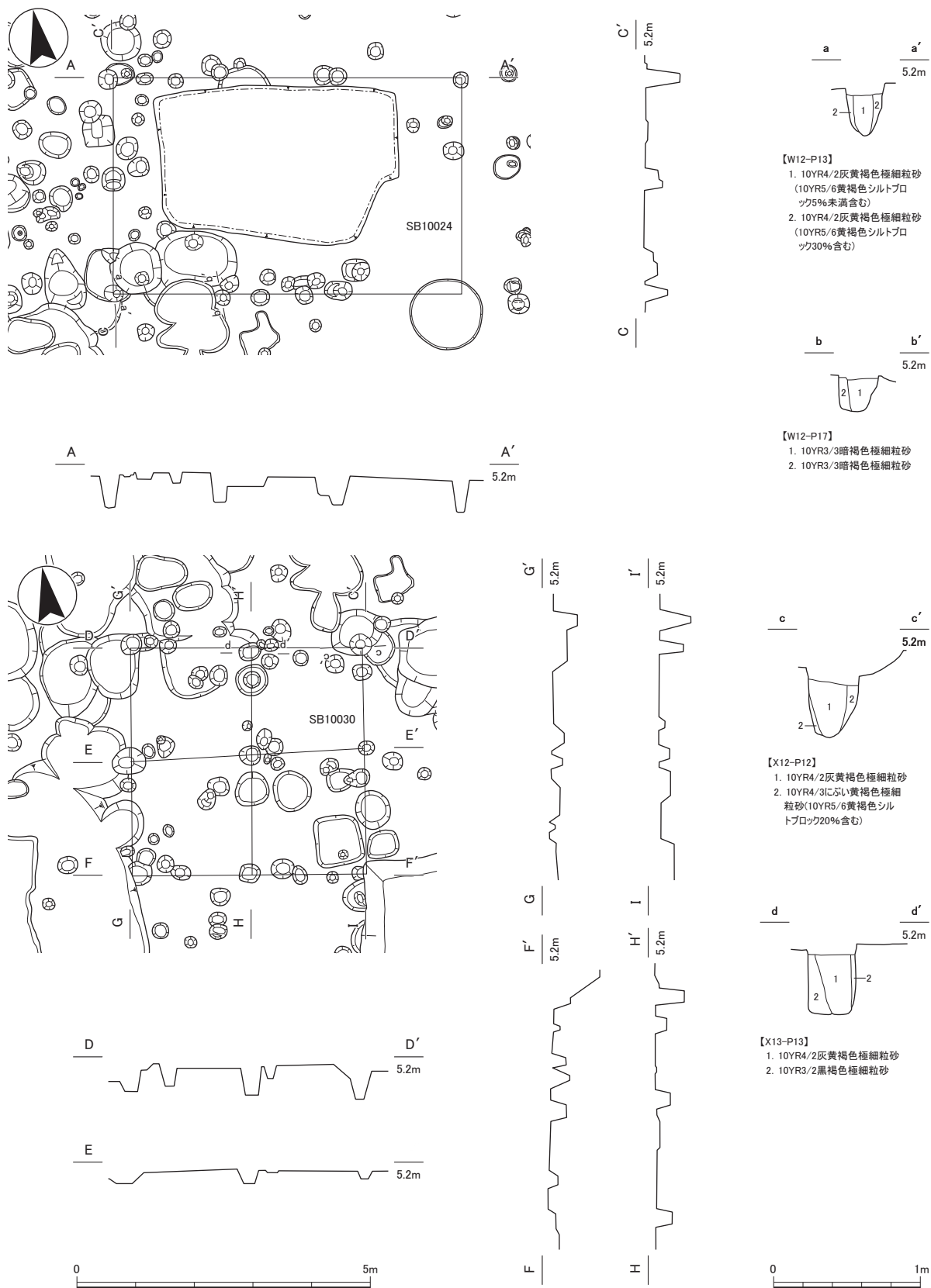


【P148】

- 10YR4/4 褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 10%含む)
- 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 30%含む)



第Ⅲ -48 図 S B 80026 柱穴土層断面図 (1:40)



第Ⅲ -49 図 S B 10024, 10030 平面図・断面図、柱穴土層断面図 (1:100、1:40)

# S A 80019 (第Ⅲ-40 図)

柱穴 5ヶ所からなる 4 間の南北方向の柱列で、方向は N 8° E である。南北端の柱穴芯々で 7.45m、各柱間の芯々距離は 1.55 ～ 2.1m で不等間である。

柱列を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.3m、短軸 0.2 ～ 0.3m、検出面からの深さは 0.1 ～ 0.4m である。柱穴 1ヶ所で底部に根石を確認した。柱穴 4ヶ所で断割を行い、柱痕跡などを確認することができた。

柱穴の埋土から中世の陶器甕などが出土した。

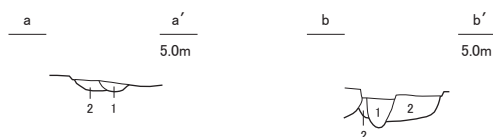
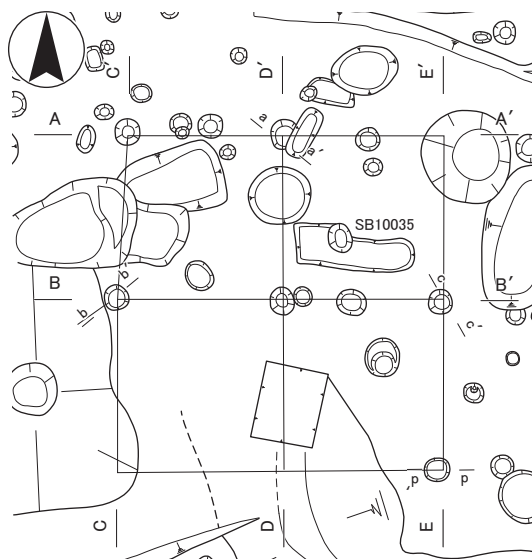
# S B 80021 (第Ⅲ-42 図)

桁行 3 間、梁行 2 間の総柱建物である。南東隅の柱穴は攪乱などにより確認することができなかつ

た。棟方向は N 4° E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で 6.5m、各柱間の芯々距離は 2.1 ～ 2.25m である。梁行は、東西端の柱穴芯々で 4.85m、各柱間の芯々距離は 2.3 ～ 2.7m である。全体的に柱通りが歪んでいる。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.2 ～ 0.5m、短軸 0.2 ～ 0.4m、検出面からの深さは 0.1 ～ 0.3m である。柱穴 10ヶ所で断割を行い、柱痕跡などを確認することができた。柱痕跡の径は 0.1m 以下のものが多い。P101 の柱痕跡から、ほぼ完形の山皿が出土しており、何らかの意図が感じられる。

柱穴の埋土から 12 世紀後半の山皿などが出土し

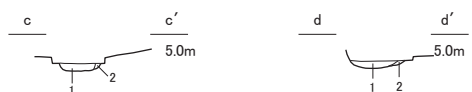
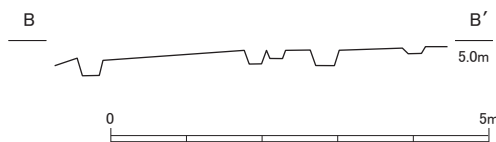
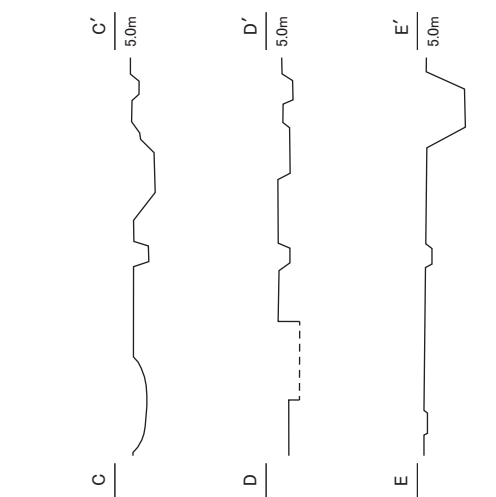


【A11-P9】

1. 10YR2/3 黒褐色極細粒砂 (10YR4/3 にふい黄褐色シルトブロック 20% 含む)
2. 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR4/3 にふい黄褐色シルトブロック 5% 含む)

【B11-P5】

1. 10YR3/3 暗褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルトブロック 5% 含む)
2. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂と 10YR5/6 黄褐色極細粒砂が混ざる



【B12-P3】

1. 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色極細粒砂ブロック 10% 含む)
2. 10YR5/3 にふい黄褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色極細粒砂ブロック 30% 含む)

【C12-P2】

1. 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 (10YR5/6 黄褐色極細粒砂ブロック 10% 含む)
2. 10YR3/3 暗褐色極細粒砂



第Ⅲ-50 図 S B 10035 平面図・断面図、柱穴土層断面図 (1:100、1:40)

た。

#### S B 80022 (第Ⅲ -43 図)

桁行 4 間、梁行 3 間である。南東隅の柱穴は攪乱などにより確認できなかった。棟方向は N 7° E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で 8.5m、各柱間の芯々距離は 2.0 ~ 2.2m である。梁行は、東西端の柱穴芯々で 5.8m、各柱間の芯々距離は 1.75 ~ 2.0m である。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.3 ~ 0.4m、短軸 0.3 ~ 0.4m、検出面からの深さは 0.2 ~ 0.4m である。柱穴 15 ケ所のうち、13 ケ所で底部に根石を確認した。P114 では長辺 0.2m、短辺 0.15m、厚さ 0.2m の石が根石として使われている。

柱穴の埋土から中世の山皿などが出土した。

#### S B 80025 (第Ⅲ -45, 46 図)

桁行 5 間、梁行 4 間の総柱建物である。棟方向は N 94° E、東西棟である。建物西側の柱穴の多くは攪乱などにより確認ができなかった。桁行は、東西端の柱穴芯々で 10.6m、各柱間の芯々距離は 1.95 ~ 2.2m である。梁行は、南北端の柱穴芯々で 7.7m、各柱間の芯々距離は 1.7 ~ 2.1m である。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.3 ~ 0.4m、短軸 0.3 ~ 0.4m、検出面からの深さは 0.05 ~ 0.2m である。柱穴 16 ケ所のうち、11 ケ所の底部で根石を確認した。根石の使用石材は、砂岩、泥岩、花崗岩である<sup>(1)</sup>。また、柱穴 12 ケ所で断割を行い、柱痕跡などを確認することができた。

柱穴の埋土からは 13 世紀前半の山皿などが出土した。

#### S B 80026 (第Ⅲ -47, 48 図)

桁行 4 間、梁行 4 間の総柱建物である。一部の柱穴は攪乱などにより確認することができなかった。棟方向は N 8° E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で 8.6m、各柱間の芯々距離は 2.05 ~ 2.2m である。梁行は、東西端の柱穴芯々で 8.5m、各柱間の芯々距離は 2.05 ~ 2.3m である。S B 80025 と重複している。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.3 ~ 0.5m、短軸 0.2

~ 0.5m、検出面からの深さは 0.1 ~ 0.4m である。柱穴 20 ケ所で断割を行い、一部で柱痕跡などを確認した。B11-P3 では、硬くしまった埋土を確認した。

柱穴の埋土から中世の土師器鍋小片などが出土した。

#### S B 10024 (第Ⅲ -49 図)

桁行 3 間、梁行 2 間の建物である。攪乱により総柱建物なのか否かを確認することができなかった。棟方向は N 98° E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で 5.9m、各柱間の芯々距離は 1.85 ~ 2.1m である。梁行は、南北端の柱穴芯々で 3.7m、各柱間の芯々距離は 1.85m である。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.3 ~ 0.5m、短軸 0.2 ~ 0.4m、検出面からの深さは 0.3 ~ 0.6m である。柱穴 2 ケ所で断割を行い、柱痕跡などを確認した。

柱穴の埋土から 15 世紀後半の土師器皿、山茶碗、陶器壺などが出土した。出土遺物の時期としては、13 世紀前半のものもあり、幅がある。

#### S B 10025 (第Ⅲ -40 図)

桁行 4 間、梁行 4 間の総柱建物である。建物東側の柱穴については攪乱などにより確認することができなかった。棟方向は N 9° E、南北棟である。桁行は、南北端の柱穴芯々で 7.8m、各柱間の芯々距離は 2.0 ~ 2.3m である。梁行は、東西端の柱穴芯々で 7.7m、柱間の芯々距離は 1.9 ~ 2.1m、一部短い 1.7m の柱間もある。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸 0.3 ~ 0.4m、短軸 0.2 ~ 0.3m、検出面からの深さは 0.2 ~ 0.7m である。

柱穴の埋土から土師器皿、18 世紀初頭前後の土師器鍋、土師器器台などが出土した。出土遺物の時期は、古墳時代前期と考えられるものもあり幅がある。

#### S B 10030 (第Ⅲ -49 図)

桁行 2 間、梁行 2 間の総柱建物である。関連する柱穴を全て確認することができた。棟方向は N 98° E、東西棟である。桁行は、東西端の柱穴芯々で 4.0m、柱間の芯々距離は東から 1.95m、2.05m である。梁行は、南北端の柱穴芯々で 3.9m、柱間の芯々距離は南から 1.95m、1.95m である。

報告番号	調査時番号	調査回数	グリッド	ピット番号	桁*梁 間	桁行 m	梁行 m	面積 m <sup>2</sup>	主軸方位	建物タイプ	備考
SB20011	SB20011	2	L-F10	Pit2	4*3	8.50	6.40	54.40	N96° E	総柱 東西棟	
			L-F10	Pit8							
			L-F10	Pit14							
			L-F11	Pit1							
			L-F11	Pit2							
			L-F11	Pit3							
			L-G10	Pit1							
			L-G10	Pit7							
			L-G10	Pit16							
			L-G11	Pit1							
			L-G11	Pit6							
			L-G11	Pit11							
			L-G11	Pit12							
			L-G12	Pit6							
SB20030	SB20030	2	L-E10	Pit2	6*5	12.90	10.7	138.03	N99° E	総柱 東西棟	
			L-E11	Pit6							
			L-E12	Pit3							
			L-E12	Pit4							
			L-E13	Pit14							
			L-F10	Pit10							
			L-F10	Pit12							
			L-F10	Pit13							
			L-F11	Pit7							
			L-F11	Pit10							
			L-F12	Pit5							
			L-F13	Pit2							
			L-G9	Pit5							
			L-G10	Pit3							
			L-G10	Pit4							
			L-G10	Pit5							
			L-G10	Pit15							
			L-G12	Pit7							
			L-G12	Pit8							
			L-G12	Pit9							
			L-G13	Pit1							
			L-H11	Pit5							
			L-H12	Pit2							
			L-H12	Pit9							
SB20039	SB20039	2	L-F10	Pit3	4*3	7.20	6.25	45.00	N6 ° E	総柱 南北棟	
			L-F10	Pit9							
			L-F10	Pit15							
			L-F10	Pit16							
			L-F10	Pit17							
			L-F10	Pit18							
			L-F11	Pit5							
			L-F11	Pit6							
			L-G10	Pit17							
			L-G11	Pit5							
			L-G11	Pit8							
SA20040	SA20040	2	L-G10	Pit12	3	6.30	—	—	N80° E	東西柱列	
			L-G11	Pit10							
SB20043	SA20043	2	L-H10	Pit1	2*1	3.40	1.80	6.12	N6° E	側柱 南北棟	
SA20044	SA20044	2	L-E14	Pit23	7	14.40	—	—	N8° E	南北柱列	
			L-G13	Pit7							

第Ⅲ－１表 掘立柱建物詳細情報 1

報告番号	調査時番号	調査次数	グリッド	ビット番号	桁*梁 間	桁行 m	梁行 m	面積 m <sup>2</sup>	主軸方位	建物タイプ	備考
SA20045	SA20045	2	L-H12	Pit5	4	8.40	—	—	N88° E	東西柱列	
SB32007	SB32007	3	L-P9	Pit1	2*1	3.70	2.90	10.73	N7° E	側柱 南北棟	
SA32008	SA32008	3	L-R12	Pit1	3	6.80	—	—	N12° E	南北柱列	
SB32009	SB32009	3	L-Q12	Pit3	2*1	3.60	2.20	7.92	N3° E	側柱 南北棟	
SB32010	SB32010	3	L-R11	Pit1	1*1+	2.30+	2.30+	5.29+	N1° E	—	
			L-R11	Pit3							
			L-S11	Pit3							
SB33014	SB33014	3	L-M9	Pit2	3*2	6.50	4.10	26.65	N96° E	総柱 東西棟	
			L-N9	Pit3							
			L-N10	Pit2							
			L-N10	Pit6							
			L-N10	Pit8							
			L-N10	Pit9							
	SB42011	4	L-O10	Pit2							
SB33015	SB33015	3	L-M8	Pit4	3*2	5.90	4.20	24.78	N6° E	側柱 南北棟	
			L-M9	Pit1							
			L-M9	Pit4							
			L-N8	Pit6							
			L-N8	Pit7							
SB33016	SB33016	3	L-M10	Pit8	5*3	8.70	5.40	46.98	N4° E	総柱 南北棟	
			L-M11	Pit4							
			L-M11	Pit10							
			L-N10	Pit5							
			L-N11	Pit1							
			L-N11	Pit4							
			L-N11	Pit5							
			L-N12	Pit2							
	SB42010	4	L-O11	Pit1							
	SB42010	4	L-O11	Pit2							
			L-O11	Pit3							
			L-O11	Pit7							
			L-O12	Pit2							
SB33017	SB33017	3	L-M10	Pit6	2*1	4.00	1.90	7.60	N5° E	側柱 南北棟	
SB33021	SB33021	3	L-N11	Pit10	2*2	3.90	3.70	14.43	N4° E	総柱 南北棟	
			L-N12	Pit5							
SA33022	SA33022	3	L-M12	Pit1	2	3.70	—	—	N0°	南北柱列	
			L-M12	Pit4							
			L-N12	Pit4							
SA33023	SA33023	3	L-M11	Pit1	2	3.60	—	—	N86° E	東西柱列	
SB34007	SB34007	3	L-A16	Pit5	4*2	7.90	4.00	31.60	N96° E	総柱 東西棟	
			L-A17	Pit1							
			L-A17	Pit7							
			L-A17	Pit8							
			L-A17	Pit11							
			L-A18	Pit5							
			L-A18	Pit13							
			L-B16	Pit1							
			L-B16	Pit3							
			L-B17	Pit1							
			L-B17	Pit13							
	SB80023	8	—	Pit126							
			—	Pit127							
			—	Pit128							
SA34011	SA34011	3	L-B17	Pit8	3	5.10	—	—	N6° E	南北柱列	

第Ⅲ－２表 掘立柱建物詳細情報２

報告番号	調査時番号	調査次数	グリッド	ピット番号	桁*梁 間	桁行 m	梁行 m	面積 m <sup>2</sup>	主軸方位	建物タイプ	備考
SB37001	SB37001	3	J-013	Pit5	3*2	6.50	4.00	26.00	N81° E	総柱 東西棟	
			J-014	Pit1							
			J-014	Pit2							
			J-014	Pit3							
			J-014	Pit5							
			J-015	Pit1							
			J-015	Pit2							
			J-P13	Pit1							
			J-P14	Pit2							
			J-P15	Pit1							
SB37008	SB37008	3	J-L18	Pit1	5*4	11.00	8.40	92.40	N96° E	総柱 東西棟	根石
			J-L18	Pit2							
			J-L19	Pit5							
			J-L19	Pit11							
			J-M17	Pit1							
			J-M17	Pit2							
			J-M17	Pit3							
			J-M17	Pit4							
			J-M18	Pit2							
			J-M18	Pit3							
			J-M18	Pit7							
			J-M19	Pit7							
			J-M19	Pit8							
			J-M20	Pit1							
			J-M20	Pit2							
			J-M20	Pit5							
			J-N17	Pit2							
			J-N17	Pit4							
			J-N17	Pit5							
			J-N17	Pit6							
			J-N18	Pit1							
			J-N18	Pit3							
			J-N18	Pit4							
			J-N18	Pit7							
			J-N19	Pit1							
			J-N20	Pit5							
			J-N20	Pit6							
			J-O17	Pit1							
			J-O17	Pit5							
			J-O18	Pit1							
			J-O18	Pit2							
			J-O19	Pit1							
SB37010	SB37010	3	J-F21	Pit1	2*2	4.40	3.90	17.16	N78° E	総柱 東西棟	根石
			J-F22	Pit1							
			J-G21	Pit2							
			J-G21	Pit4							
			J-G21	Pit10							
			J-G21	Pit11							
			J-G22	Pit2							
			J-G22	Pit4							
SB37013	SB37013	3	J-G22	Pit12	3*3	7.40	6.40	46.99	N83° E	総柱 東西棟	
			J-G20	Pit2							
			J-G21	Pit5							
			J-H19	Pit1							

第Ⅲ－３表 掘立柱建物詳細情報３



報告番号	調査時番号	調査回数	グリッド	ビット番号	桁*梁 間	桁行 m	梁行 m	面積 m <sup>2</sup>	主軸方位	建物タイプ	備考
SB37013	SB37013	3	J-H19	Pit8	3*3	7.40	6.35	46.99	N83° E	総柱 東西棟	
			J-H19	Pit11							
			J-H19	Pit15							
			J-H20	Pit4							
			J-H20	Pit8							
			J-H21	Pit12							
			L-H21	Pit16							
			J-I19	Pit4							
			J-I20	Pit4							
			J-I20	Pit5							
			J-I20	Pit16							
			J-I20	Pit18							
			J-I21	Pit3							
SB37014	SB37014	3	J-H19	Pit4	3*3	6.80	6.60	44.88	N7° W	総柱 南北棟	
			J-H20	Pit5							
			J-H20	Pit7							
			J-H20	Pit11							
			J-H21	Pit3							
			J-H21	Pit4							
			J-H21	Pit13							
			J-H21	Pit15							
			J-I20	Pit1							
			J-I20	Pit7							
			J-I20	Pit8							
			J-I20	Pit19							
SB37015	SB37015	3	J-H18	Pit2	2*2	4.80	4.20	19.95	N82° E	総柱 東西棟	
			J-H19	Pit2							
			J-H19	Pit12							
			J-H20	Pit12							
			J-I19	Pit3							
			J-I20	Pit15							
SB37016	SB37016	3	J-G19	Pit1	2*2	5.20	4.30	22.36	N88° E	側柱 東西棟	
			J-G19	Pit2							
			J-G20	Pit1							
			J-G21	Pit6							
			J-H19	Pit6							
SB37017	SB37017	3	J-H18	Pit1	2*2	5.80	4.40	25.52	N81° E	総柱 東西棟か	
			J-H19	Pit9							
			J-H20	Pit10							
			J-I19	Pit2							
SA37018	SA37018	3	J-J18	Pit1	5	11.90	—	—	N84° E	東西柱列	
			J-J19	Pit1							
			J-J20	Pit1							
SB37019	SB37019	3	J-I15	Pit1	3*2	5.70	4.80	27.36	N5° W	総柱 南北棟	
			J-I15	Pit2							
			J-I15	Pit3							
			J-I16	Pit1							
			J-I16	Pit4							
			J-J15	Pit3							
			J-K15	Pit4							
SB37020	SB37020	3	J-J15	Pit1	2*2	4.40	3.80	16.72	N97° E	総柱 東西棟	
			J-J15	Pit2							
			J-J15	Pit3							
			J-K15	Pit1							

第Ⅲ - 4表 掘立柱建物詳細情報4

報告番号	調査時番号	調査回数	グリッド	ピット番号	桁*梁 間	桁行 m	梁行 m	面積 m <sup>2</sup>	主軸方位	建物タイプ	備考
SB37020	SB37020	3	J-K15	Pit3	2*2	4.40	3.80	16.72	N97° E	総柱 東西棟	
			J-K15	Pit5							
SA37021	SA37021	3	J-J17	Pit1	4	8.60	—	—	N84° E	東西柱列	
			J-J18	Pit2							
SA37022	SA37022	3	J-I15	Pit4	3	6.70	—	—	N97° E	東西柱列	
			J-I16	Pit2							
			J-I16	Pit4							
			J-J16	Pit2							
SA37023	SA37023	3	—	—	2	5.20	—	—	N102° E	東西柱列	遺物の出土はなし。
SA37024	SA37024	3	J-K15	Pit2	2	5.50	—	—	N104° E	東西柱列	
			J-K15	Pit5							
SB42013	—	3	L-P9	Pit2	3*3	8.90	6.85	60.97	N95° E	総柱 東西棟	
			L-P9	Pit3							
			L-P11	Pit1							
	SB42013	4	L-O9	Pit6							
			L-O10	Pit1							
			L-O10	Pit7							
			L-O10	Pit9							
			L-O10	Pit12							
			L-O11	Pit2							
			L-O11	Pit4							
			L-P9	Pit1							
			L-P9	Pit4							
			L-P10	Pit2							
			L-P11	Pit1							
SB44048	SB44048	4	J-W3	Pit2	2*1	4.20	2.00	8.40	N1° E	側柱 南北棟	
SB44049	SB44049	4	J-W4	Pit7	2*2	4.60	4.20	19.32	N96° E	総柱 東西棟	
			J-X4	Pit1							
			J-X5	Pit3							
SB44050	SB44050	4	—	—	3*2	6.50	4.00	25.80	N98° E	総柱 東西棟	根石
SB44051	SB44051	4	J-Y3	Pit1	3*1+	6.00	1.8+	10.80+	N6° E	— 南北棟	
SB44052	SB44052	4	L-D4	Pit2	2*2	4.1	3.6	14.76	N102° E	総柱 東西棟	
			L-E4	Pit8							
			L-E4	Pit11							
SB44053	SB44053	4	—	—	2*1	4.40	2.00	8.80	N102° E	側柱 東西棟	
SB44054	SB44054	4	L-E2	Pit2	2*1+	3.70	1.70+	6.29+	N8° E	総柱 南北棟	
			L-F2	Pit3							
			L-F2	Pit4							
			L-F2	Pit5							
SB44055	SA44055	4	—	—	3*0+	5.40	1.00+	2.70+	N7° E	— —	建物になる可能性
SA80019	SA80019	8	—	Pit90	4	7.45	—	—	N8° E	南北柱列	
			—	Pit91							
			—	Pit92							
			—	Pit93							
			—	Pit94							
SB80021	SB80021	8	—	Pit99	3*2	6.50	4.85	31.53	N4° E	総柱 南北棟	
			—	Pit100							
			—	Pit101							
			—	Pit102							
			—	Pit104							
			—	Pit105							
			—	Pit106							
			—	Pit107							
			—	Pit108							

第Ⅲ－５表 掘立柱建物詳細情報５

報告番号	調査時番号	調査回数	グリッド	ピット番号	桁*梁 間	桁行 m	梁行 m	面積 m <sup>2</sup>	主軸方位	建物タイプ	備考
SB80021	SB80021	8	—	Pit109	3*2	6.50	4.90	31.85	N4° E	総柱 南北棟	
			—	Pit110							
SB80022	—	5	J-W17	Pit4	4*3	8.50	5.80	49.30	N7° E	総柱 南北棟	根石
			J-W17	Pit3							
	SB80022	8	—	Pit111							
			—	Pit112							
			—	Pit113							
			—	Pit114							
			—	Pit115							
			—	Pit116							
			—	Pit117							
			—	Pit118							
			—	Pit119							
			—	Pit120							
			—	Pit121							
			—	Pit122							
			—	Pit123							
SB80025	SB80025	8	—	Pit134	5*4	10.60	7.70	81.62	N94° E	総柱 東西棟	
			—	Pit135							
			—	Pit136							
			—	Pit137							
			—	Pit138							
			—	Pit139							
			—	Pit140							
			—	Pit141							
			—	Pit142							
			—	Pit143							
			—	Pit156							
	SB10044	10	L-A11	Pit1							
			L-A12	Pit7							
			L-A12	Pit17							
			L-A12	Pit19							
SB80026	SB80026	8	—	Pit131	4*4	8.6	8.5	73.1	N8° E	総柱 南北棟	
			—	Pit132							
			—	Pit133							
			—	Pit146							
		8	—	Pit147							
			—	Pit148							
	SB10036	10	J-Y11	Pit6							
		10	J-Y12	Pit5							
		10	L-A11	Pit6							
		10	L-A11	Pit7							
		10	L-A11	Pit8							
		10	L-A12	Pit5							
		10	L-A12	Pit20							
		10	L-A12	Pit21							
		10	L-B11	Pit2							
		10	L-B11	Pit3							
		10	L-B12	Pit2							
		10	L-B12	Pit4							
SB10024	—	8	—	Pit43	3*2	5.90	3.70	21.83	N98° E	総柱？ 東西棟	
	SB10024	10	J-V12	Pit9							

第Ⅲ - 6 表 掘立柱建物詳細情報 6

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.6m、短軸0.2～0.4m、検出面からの深さは0.3～0.5mを測り、柱穴底面の標高は概ね4.7～4.9mにある。柱穴2ヶ所で断割を行い、柱痕跡などを確認した。

埋土から13世紀後半の山茶碗などが出土した。

#### S B 10035（第Ⅲ-50図）

桁行2間、梁行2間の総柱建物である。建物に関連する全ての柱穴を確認することができた。棟方向はN4°Eである。桁行は、南北端の柱穴芯々で

4.4m、柱間の芯々距離は南から2.25m、2.15mである。梁行は、東西端の柱穴芯々で4.3m、柱間の芯々距離は東から2.1m、2.2mである。

建物を構成する各柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は長軸0.3～0.4m、短軸0.3m、検出面からの深さは0.1～0.3mである。柱穴4ヶ所で断割を行い、柱痕跡を確認することができた。

柱穴の埋土から中世の土師器小片などが出土した。

報告番号	調査時番号	調査回数	グリッド	ピット番号	桁・梁 間	桁行 m	梁行 m	面積 m <sup>2</sup>	主軸方位	建物タイプ	備考
SB10024	SB10024	10	J-W12	Pit1	3*2	5.90	3.70	21.83	N98° E	総柱？ 東西棟	
			J-W12	Pit13							
			J-W12	Pit17							
			J-W13	Pit7							
SB10025	—	8	—	Pit46	4*4	7.8	7.7	60.06	N9° E	総柱 南北棟	
			—	Pit47							
	SB10025	10	J-W12	Pit6							
			J-W12	Pit8							
			J-W12	Pit14							
			J-W12	Pit15							
			J-W12	Pit16							
			J-W13	Pit1							
			J-W13	Pit6							
			J-X11	Pit4							
			J-X12	Pit8							
			J-X12	Pit10							
			J-X12	Pit11							
			J-X12	Pit14							
			J-Y12	Pit3							
SB10030	SB10030	10	J-X11	Pit5	2*2	4.00	3.90	15.60	N98° E	総柱 東西棟	
			J-X11	Pit6							
			J-X12	Pit12							
			J-X12	Pit13							
SB10035	SB10035	10	L-A11	Pit9	2*2	4.40	4.30	18.92	N4° E	総柱 南北棟	
			L-A11	Pit10							
			L-B11	Pit4							
			L-B11	Pit5							
			L-B12	Pit3							
			L-C12	Pit2							

第Ⅲ-7表 掘立柱建物詳細情報7

## 第4節 土坑・井戸

土坑と井戸の記号については、土坑をS K、井戸をS Eとした。土坑と井戸の平面形の差はないものの、底部付近の形状や土層断面の状況から判断した。遺構番号の横には個別遺構図の番号を表記した。表記していないものは、第Ⅲ-8図～第Ⅲ-16図を参照ねがいたい。以下に報告する。

### S K 20004 (第Ⅲ-51 図)

平面形は円形、規模は直径2.2m、検出面からの深さ0.3mである。土坑と考えられる。

埋土から中世の陶器小片、磁器小片などが出土した。

### S K 20005 (第Ⅲ-51 図)

平面形は楕円形、規模は長軸2.2m、短軸2.1m、検出面からの深さ0.5mである。土坑と考えられる。S K 20004と近接した位置にある。埋土の上層には0.2～0.4m大の礫や炭化物が含まれていた。

埋土から19世紀前半の陶器播鉢、土師器鍋、陶器皿、陶器鉢、磁器碗、瓦などが出土した。出土遺物の時期は、17世紀代と考えられる遺物もあり幅がある。

### S K 20007 (第Ⅲ-51 図)

平面形は隅丸長方形、規模は長辺2.8m、短辺1.8m、検出面からの深さ0.5mである。土坑と考えられる。

埋土から土師器焙烙、19世紀代の陶器播鉢、陶器蓋、陶器壺、陶器鉢、磁器碗、磁器蓋、瓦などが出土した。出土遺物の時期は、18世紀代と考えられるものもあり幅がある。

### S K 20009

攪乱などにより全体を確認できなかった。残存部分は、長軸4.0m、短軸2.3m、検出面からの深さ0.5mである。土坑と考えられる。

埋土から19世紀前半の土師器鍋、陶器皿、天目茶碗などが出土した。出土遺物の時期は、17世紀前半と考えられるものもあり幅がある。

### S K 20013

平面形は楕円形、規模は長軸1.2m、短軸1.1m、検出面からの深さ0.2mである。土坑と考えられる。

埋土から中世の土師器皿、陶器片口鉢などが出土

した。

### S E 20016 (第Ⅲ-51 図)

平面形は楕円形、規模は長軸3.0m、短軸2.7m、検出面からの深さ3.8mである。井戸と思われる。井戸枠や曲物は確認できなかった。底部にむけ窄まっていく。底部には曲物が据えられていたのであろうか。

埋土から土師器皿、14世紀前半の須恵器鉢、山茶碗、陶器鉢、青磁碗などが出土した。

### S K 20019

平面形は楕円形、規模は長軸1.4m、短軸0.9m、検出面からの深さは0.5m、土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、13世紀前半の山茶碗などが出土した。

### S K 20020

平面形は楕円形、規模は長軸2.1m、短軸2.0m、検出面からの深さ0.8m、土坑と考えられる。

埋土から中世の陶器甕、山茶碗などが出土した。

### S K 20021

平面形は隅丸方形、規模は長辺1.4m、短辺0.9m、検出面からの深さは0.2m、土坑と考えられる。

埋土から鉄製鎌、中世の土師器皿、陶器小片などが出土した。

### S K 20023

平面形は隅丸方形、規模は長辺2.0m、短辺1.2m、検出面からの深さは0.4m、土坑と考えられる。

埋土から中世の陶器皿などが出土した。

### S K 20025

攪乱などにより全体を確認できなかった。残存部分は、長軸1.4m、短軸1.1mで、検出面からの深さ0.1mである。土坑と考えられる。

埋土から13世紀前半の土師器鍋、鉄製釘などが出土した。

### S K 20027

平面形は隅丸長方形、規模は長辺1.6m、短辺1.1m、検出面からの深さは0.3mである。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、土師器鍋、陶器皿、15世紀代の須恵器鉢などが出土した。15世紀代までは存

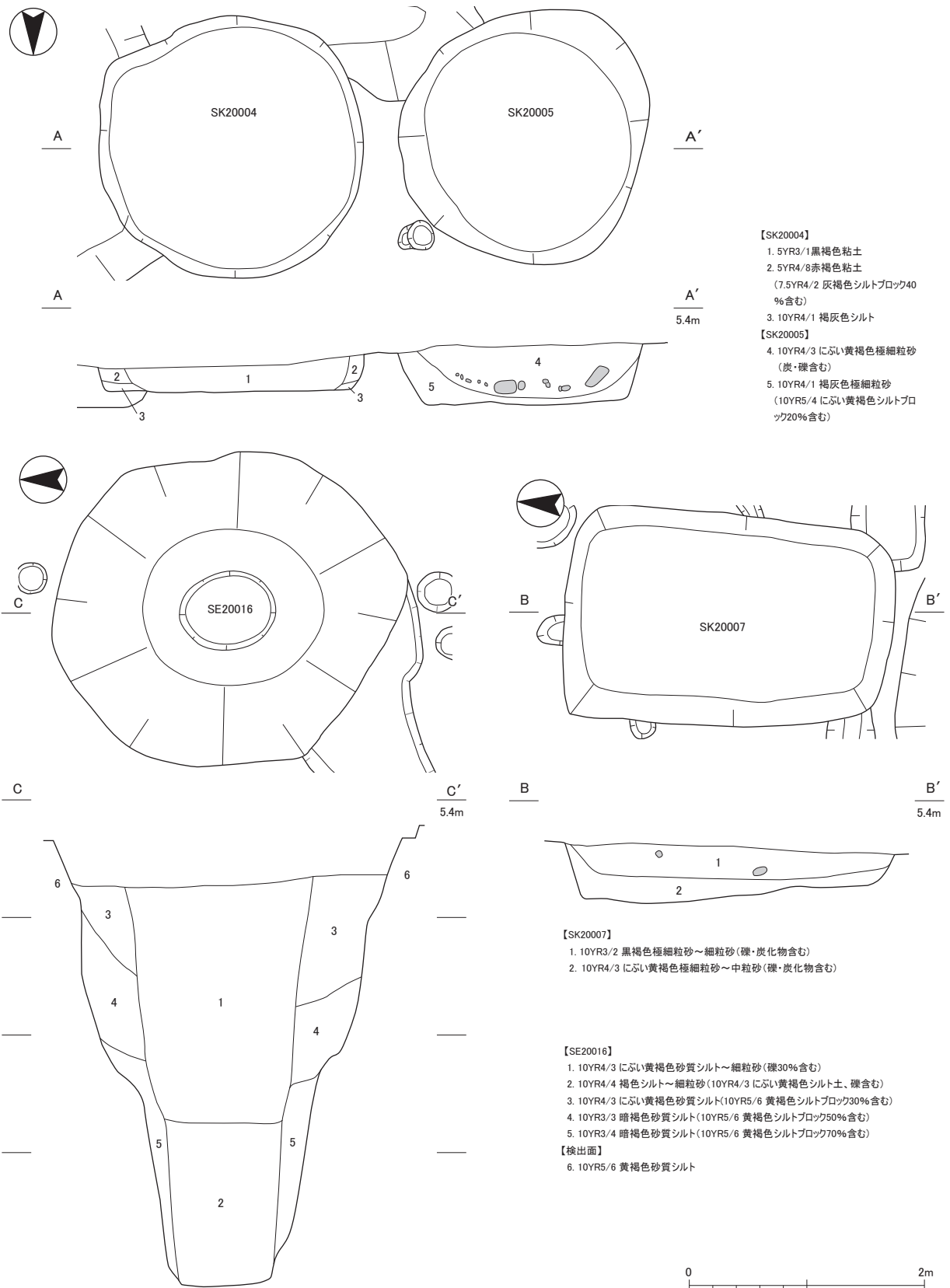
在したものであろう。

S K 20029

平面形は隅丸長方形、長辺 1.1m、短辺 0.8m、検

出面からの深さは 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から中世の土師器小片、土錘などが出土した。



第Ⅲ -51 図 S K 20004, 20005, 20007、S E 20016 平面図・土層断面図 (1:50)

### S K 20031 (第Ⅲ -52 図)

平面形は不整形、規模は長軸 3.8m、短軸 2.8m、検出面からの深さは 0.5m である。底部にむけて窄んでいく。土坑と考えられる。埋土の上方には 0.1 ～ 0.3m 大の礫が含まれていた。

埋土から 13 世紀前半の山茶碗、天目茶碗、磁器碗などが出土した。

### S K 20032

攪乱などにより全体を確認できなかった。残存部分は長軸 2.6m、短軸 1.5m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 17 世紀後半の天目茶碗や陶器壺などが出土した。

### S K 31003 (第Ⅲ -53 図)

攪乱などにより全体を確認できなかった。残存部分は、長軸 2.5m、短軸 0.7m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から中世の土師器皿などが出土した。

### S K 31004 (第Ⅲ -53 図)

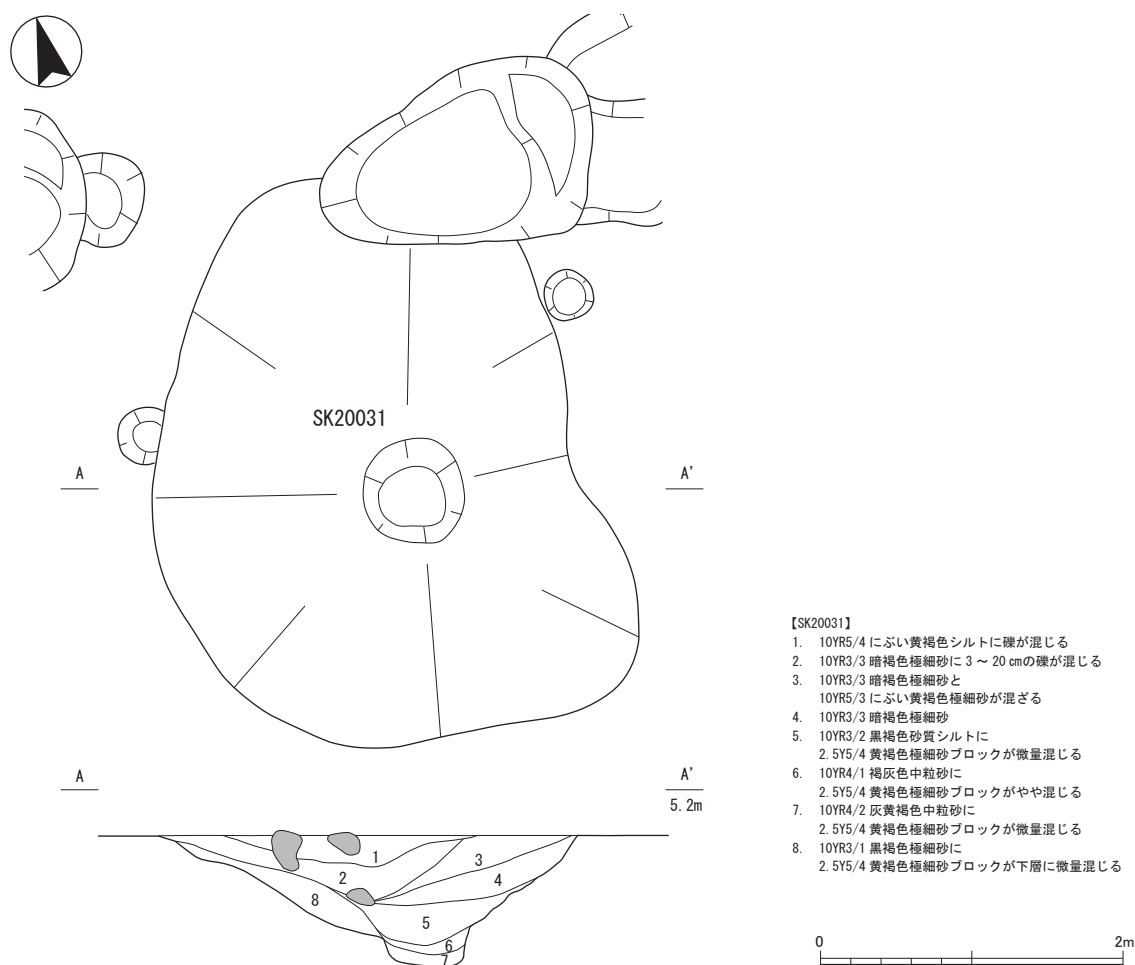
攪乱などにより全体は確認できなかった。残存部分は長軸 1.0m、短軸 0.5m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。南側の底部は北側よりやや深くなる。

埋土から土師器皿、山茶碗、18 世紀後半の磁器碗、丸瓦などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀前半と考えられる遺物もあり、かなり幅がある。

### S E 31005 (第Ⅲ -53 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 2.2m、短軸 1.9m、検出面からの深さ 0.7m である。井戸と思われる。土層断面の観察から井戸枠状のものが据えられていた可能性がある。S K 31012 と重複している。

埋土から土師器皿、灰釉陶器碗、天目茶碗、陶器皿、18 世紀前半の陶器播鉢、砥石などが出土した。出土遺物の時期は、11 世紀代と考えられる遺物もあり、かなり幅がある。



第Ⅲ -52 図 S K 20031 平面図・土層断面図 (1:50)



### S K 31006 (第Ⅲ -54 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 2.2m、短軸 2.1m、検出面からの深さは 0.7m である。土坑と考えられる。埋土の最下層では 0.1 ～ 0.3m 大の礫が多くに含まれていた。S D 31011、S D 31020 と重複している。

埋土から中世以降の土師器、陶器播鉢小片などが出土した。

### S K 31007 (第Ⅲ -54 図)

平面形は円形、規模は直径 1.5m、検出面からの

深さ 0.8m である。土坑と考えられる。S D 31001 と重複している。

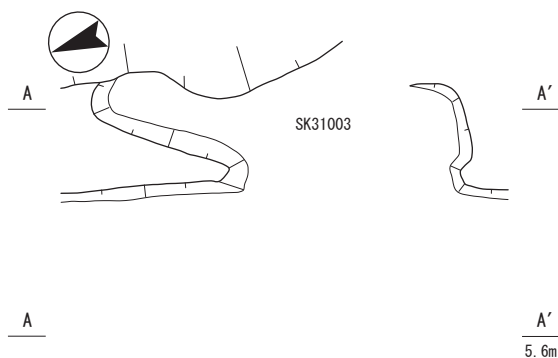
埋土から中世以降の陶器皿、磁器碗小片などが出土した。

### S K 31012 (第Ⅲ -53 図)

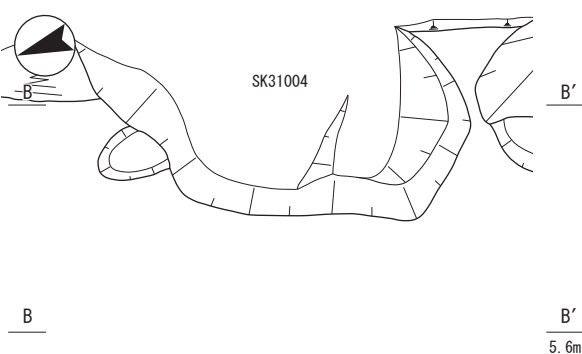
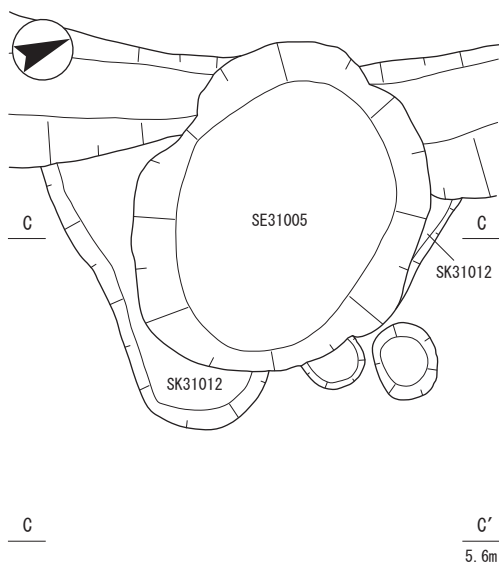
平面形は不整形、規模は長辺 5.0m、短辺 3.0m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

S D 31001、S K 31005 と重複している。

埋土から土師器羽釜などが出土した。



- 【SK31003】  
1. 10YR4/4 褐色極細粒砂～シルト (10YR5/3 にふい黄褐色シルトブロック5%含む)  
2. 攪乱



- 【SK31004】  
1. 10YR5/3 にふい黄褐色細粒砂～中粒砂 (礫含む)  
2. 10YR4/4 褐色極細粒砂 (礫含む)  
3. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂

- 【SE31005】  
1. 10YR3/4暗褐色極細粒砂  
(10YR6/8明黄褐色粘土ブロック3%、礫1%未満含む)  
2. 10YR4/3にふい黄褐色極細粒砂  
(10YR6/8明黄褐色粘土ブロック5%、炭化物1%未満含む)  
3. 10YR4/3 にふい黄褐色極細粒砂  
(10YR6/8 明黄褐色粘土ブロック3%、炭化物1%未満含む)  
4. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト  
(10YR6/8明黄褐色粘土ブロック30%含む)  
5. 2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂  
(10YR6/8明黄褐色粘土ブロック40%含む)  
6. 2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂と  
2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂が混ざる  
【SK31012】  
7. 10YR3/2黒褐色シルト

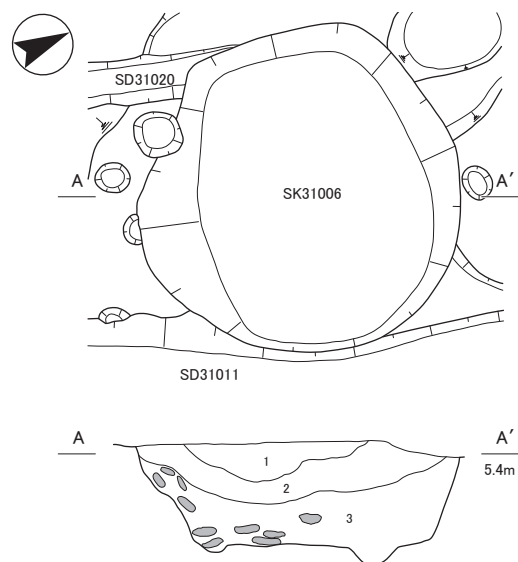


第Ⅲ -53 図 S K 31003, 31012, 31004、S E 31005 平面図・土層断面図 (1:50)

## S K 31013

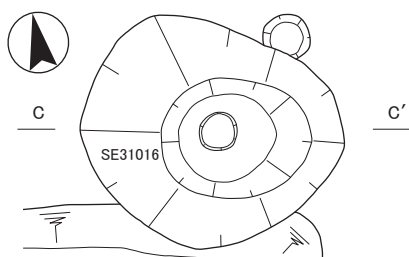
平面形は楕円形、規模は長軸 1.3m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から 19 世紀中頃の磁器仏飴具などが出土し



### 【SK31006】

1. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土（炭化物・小礫含む）
2. 10YR5/8 黄褐色粘質土（10YR5/1 褐灰色粘質土ブロック20%含む）
3. 10YR5/4 にふい黄褐色砂質土（礫30%含む）



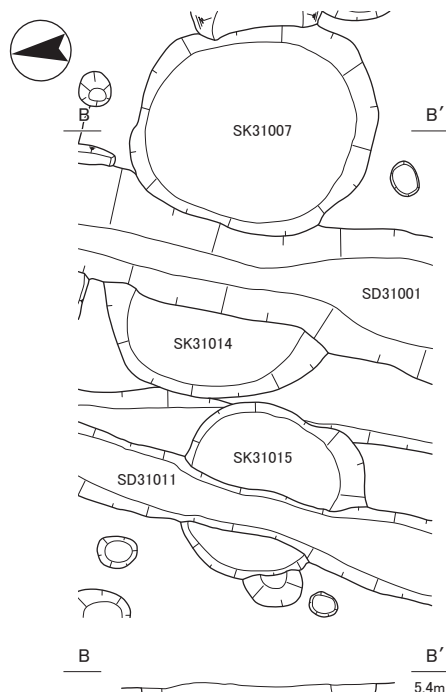
### 【SE31016】

1. 10YR5/1 褐灰色シルト～極細粒砂（小礫含む）
2. 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂（10YR6/4 にふい黄褐色シルト20%含む）
3. 10YR3/3 暗褐色シルト～粘土（炭化物1%未満含む）
4. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルトと10YR5/1 褐灰色粘土が混ざる（炭化物1%未満含む）
5. 2.5Y4/2 暗灰黄色シルトと 2.5Y5/1 黄灰色極細粒砂が混じる
6. 2.5Y4/1 黄灰色シルトと2.5YR6/ 2 灰黄色極細粒砂が混ざる（炭化物1%未満含む）
7. 2.5Y6/2 灰黄色極細粒砂（2.5Y6/8 明黄褐色ブロック60%含む）
8. 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土
9. 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト（2.5Y5/4 黄褐色極細粒砂ブロック20%含む）
10. 2.5Y6/2 灰黄色シルト～極細粒砂
11. 2.5Y5/2 暗灰黄色極細粒砂～細粒砂

た。

## S K 31014

平面形は楕円形、規模は長軸 1.4m、短軸 0.5m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

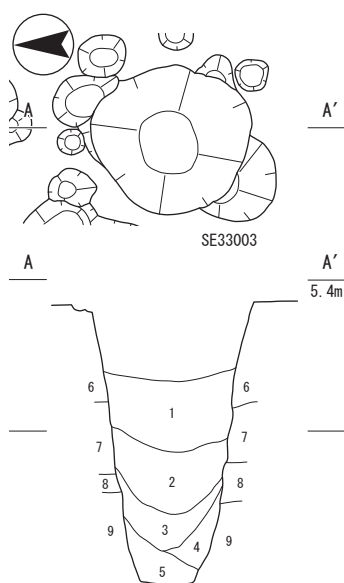


### 【SK31007】

1. 10YR5/4 にふい黄褐色極細粒砂（10YR6/6 明黄褐色シルトブロック10%、炭化物1%未満含む）
2. 10YR4/3 にふい黄褐色極細粒砂～細粒砂（10YR3/3 暗褐色シルトブロック5%含む）
3. 10YR4/3 にふい黄褐色極細粒砂
4. 10YR5/4 にふい黄褐色シルト10YR3/4 暗褐色シルトブロック5%含む）

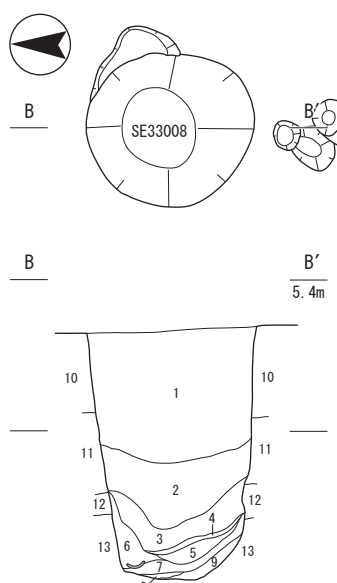


第Ⅲ -54 図 S K 31006, 31007、S E 31016 平面図・土層断面図 (1:50)



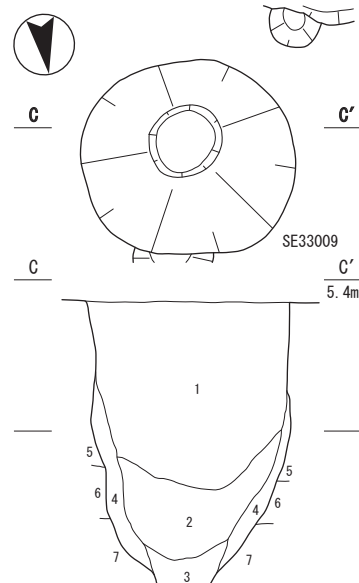
【SE33003】

1. 10YR3/3 暗褐色シルト（10YR5/6 黄褐色シルトブロック20%、炭化物1%未満含む）
  2. 10YR3/4 暗褐色シルトと10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂が混ざる
  3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト～極細粒砂（炭化物1%未満含む）
  4. 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂と10YR4/4 褐色シルトが混ざる
  5. 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト～極細粒砂
- 【検出面】
6. 10YR5/6 黄褐色シルト
  7. 2.5Y5/1 黄灰色極細粒砂～細粒砂
  8. 2.5Y6/6 明黄褐色シルト
  9. 2.5Y5/1 黄灰色極細粒砂と  
2.5Y5/4 黄褐色極細粒砂～細粒砂が混ざる



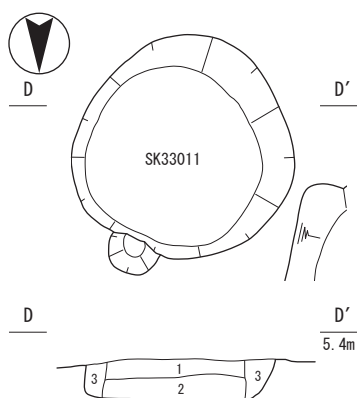
【SE33008】

1. 7.5YR3/1 黒褐色シルト（10YR5/4 にぶい黄褐色シルトブロック10%、炭化物1%未満含む）
  2. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト～極細粒砂（炭、炭化物1%未満含む）
  3. 2.5Y5/1 黄灰色極細粒砂と10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂が互層
  4. 10YR2/2 黒褐色シルト
  5. 10YR6/6 明黄褐色極細粒砂（10YR6/3 にぶい黄褐色極細粒砂ブロック20%含む）
  6. 2.5Y5/1 黄灰色極細粒砂～細粒砂
  7. 10YR6/3 にぶい黄褐色極細粒砂と2.5Y7/2 灰黄色極細粒砂が混ざる
  8. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト
  9. 10YR6/2 灰黄褐色シルト
- 【検出面】
10. 10YR5/6 黄褐色シルト
  11. 2.5Y5/1 黄灰色極細粒砂～細粒砂
  12. 2.5Y6/6 明黄褐色シルト
  13. 2.5Y5/1 黄灰色極細粒砂と2.5Y5/4 黄褐色極細粒砂～細粒砂が混ざる



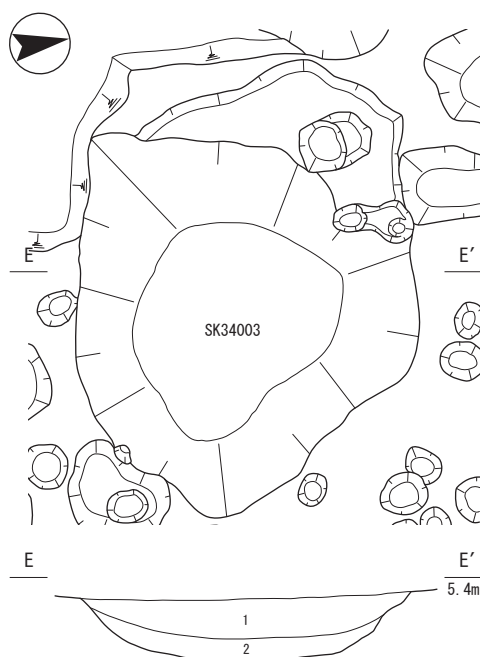
【SE33009】

1. 10YR3/3 暗褐色シルト（炭、炭化物含む）
  2. 10YR3/2 黒褐色シルト～極細粒砂（10YR5/3 にぶい黄褐色シルトブロック含む）
  3. 2.5Y4/1 褐灰色シルト～極細粒砂
  4. 2.5Y5/1 黄灰色シルト
- 【検出面】
5. 2.5Y5/1 黄灰色極細粒砂～細粒砂
  6. 2.5Y6/6 明黄褐色シルト
  7. 2.5Y5/1 黄灰色極細粒砂と  
2.5Y5/4 黄褐色極細粒砂～細粒砂が混ざる



【SK33011】

1. 10YR3/4 暗褐色シルト～極細粒砂（炭含む）
2. 10YR4/2 灰黄褐色シルトと10YR5/1 褐灰色が混ざる
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト（10YR5/6 黄褐色シルトブロック80%含む）



【SK34003】

1. 7.5YR3/2 黒褐色シルト（炭含む）
2. 7.5YR3/2 黒褐色シルトと  
7.5YR4/2 灰褐色極細粒砂が混ざる（10YR5/6 黄褐色シルト5%含む）



第Ⅲ -55 図 S K 33011, 34003、S E 33003, 33008, 33009 平面図・土層断面図 (1:50)

S D 31001 と重複している。

埋土から 16 世紀前半の土師器の鍋などが出土した。

#### S E 31016 (第Ⅲ -54 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.7m、短軸 1.6m の、検出面からの深さ 2.6m である。井戸と思われる。井戸枠や曲物は確認できなかった。底部むかって窄んでいく。

埋土から土師器皿、陶器鉢、13 世紀代の土師器鍋などが出土した。

#### S K 31019

平面形は円形、規模は直径 1.2m、検出面からの深さ 0.7m である。土坑と考えられる。

埋土から 13 世紀後半の山茶碗などが出土した。

#### S E 32002

平面形は円形、規模は直径 1.6m、検出面からの深さ 0.8m である。井戸と思われる。

埋土から 19 世紀前半の陶器碗、陶器甕、鉄製釘などが出土した。

#### S E 32003

平面形は楕円形、規模は長軸 1.6m、短軸 1.5m、検出面からの深さ 1.0m である。井戸と思われる。

埋土から 18 世紀後半以降の陶器播鉢、陶器碗などが出土した。

#### S E 32005

平面形は楕円形、規模は長軸 1.4m、短軸 1.3m、検出面からの深さ 1.0m である。井戸と思われる。

埋土から土師器皿、土師器台付皿、13 世紀前半の陶器甕などが出土した。

#### S E 33003 (第Ⅲ -55 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.0m、短軸 0.9m、検出面からの深さ 1.8m である。井戸と思われる。底部にむかって窄んでいく。

埋土から 15 世紀後半の土師器皿、青磁碗などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀前半と考えられるものもあり幅がある。

#### S K 33007

攪乱などにより全体を確認できなかった。残存部分は長軸 4.3m、短軸 1.8m、検出面からの深さ 0.1m である。土坑と考えられる。

埋土から中世以降の土師器皿などが出土した。

#### S E 33008 (第Ⅲ -55 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.1m、短軸 1.0m、検出面からの深さ 1.6m である。井戸と思われる。ほぼ垂直に掘り込まれている。井戸枠などは確認できなかった。

埋土から土師器皿、土師器台付皿、14 世紀前半の土師器鍋、山茶碗、瓦器碗などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀前半と考えられるものもあり幅がある。

#### S E 33009 (第Ⅲ -55 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.4m、短軸 1.3m、検出面からの深さ 1.9m である。井戸と思われる。ほぼ垂直に掘り込まれている。井戸枠などは確認できなかった。

埋土から土師器鍋、土師器羽釜、山茶碗、青磁碗、白磁皿、14 世紀前半の石鍋などが出土した。出土遺物の時期は、12 世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。

#### S K 33011 (第Ⅲ -55 図)

平面形は円形、規模は直径 1.5m、検出面からの深さ 0.3m である。

埋土から土師器台付皿、17 世紀前半の陶器播鉢、磁器碗などが出土した。

#### S K 33013

攪乱などにより全体を確認できなかった。残存部分は長軸 2.0m 以上、短軸 1.0m、検出面からの深さ 0.1m である。土坑と考えられる。S D 32004、S D 33004 と重複している。

埋土から 15 世紀後半の土師器鍋、山茶碗などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀後半と考えられる遺物もあり幅がある。

#### S K 34001

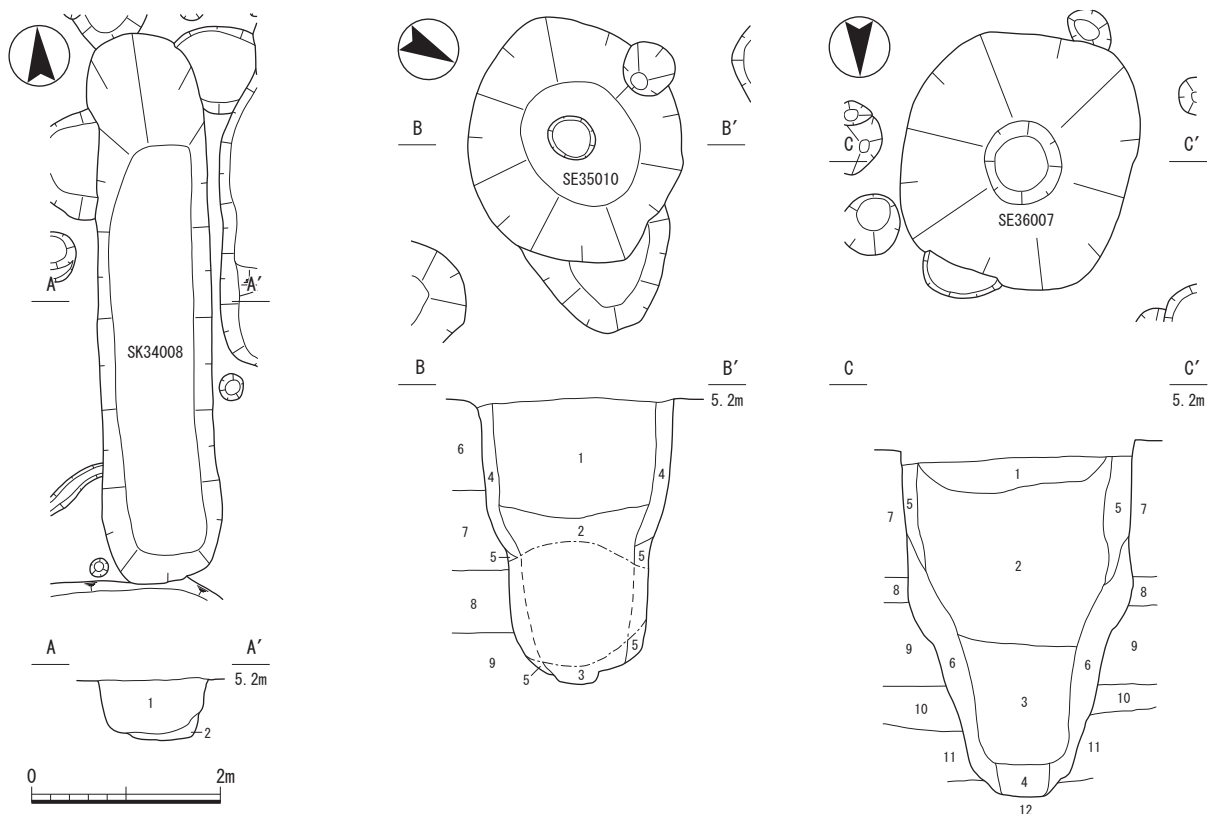
平面形は隅丸方形、規模は長辺 1.3m、短辺 1.0m、検出面からの深さ 0.6m である。土坑と考えられる。

埋土から中世以降の土師器皿などが出土した。

#### S K 34002

平面形は隅丸方形、規模は長辺 1.2m 以上、短辺 0.7m 以上、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。北側の調査区外に延びる。

埋土から土師器皿、15 世紀代の須恵器鉢、陶器鉢などが出土した。



【SK34008】

1. 10YR3/3 暗褐色シルト～極細粒砂  
(10YR5/6 黄褐色粘土ブロック2%、礫含む)
2. 10YR4/1 褐灰色シルト～粘土

【SE35010】

1. 10YR3/2 黒褐色シルト（炭化物含む）
2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト  
(10YR5/6 黄褐色シルト～極細粒砂ブロック20%含む)
3. 10YR4/1 褐灰色シルト
4. 10YR3/4 暗褐色シルト  
(10YR5/6 黄褐色シルト～極細粒砂ブロック10%含む)
5. 10YR4/1 褐灰色シルトと  
10YR4/3 にぶい黄褐色シルトが混ざる

【検出面】

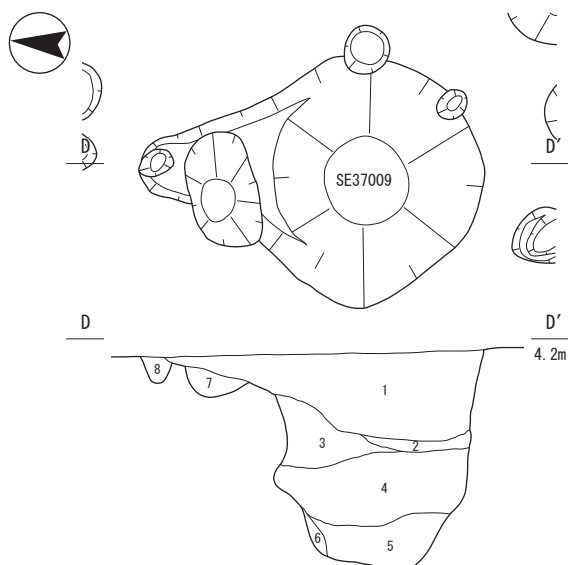
6. 10YR5/6 黄褐色シルト～極細粒砂
7. 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂
8. 10YR6/6 明黄褐色シルト～極細粒砂
9. 10YR5/1 褐灰色極細粒砂

【SE36007】

1. 10YR4/4 褐色シルト  
(10YR5/6 黄褐色シルトブロック70%、炭化物含む)
2. 10YR3/3 暗褐色シルト  
(10YR5/6 黄褐色シルトブロック20%、炭化物含む)
3. 10YR3/3 暗褐色シルト  
(10YR5/6 黄褐色シルトブロック5%含む)
4. 10YR4/1 褐灰色粘土
5. 10YR4/2 灰黄褐色シルト  
(10YR5/6 黄褐色シルトブロック70%含む)
6. 10YR5/2 灰黄褐色シルト～粘土

【検出面】

7. 10YR5/6 黄褐色シルト～極細粒砂
8. 2. 5Y5/1 黄灰色極細粒砂
9. 2. 5Y5/4 黄褐色シルト
10. 10YR5/2 暗灰黄色シルト～粘土
11. 2. 5Y5/6 黄褐色シルト～粘土
12. 砂礫



【SE37009】

1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト（炭含む）
2. 2. 5Y7/4 浅黄褐色シルト～粘土（炭含む）
3. 2. 5Y5/1 黄灰色シルト～粘土と  
5Y7/4 浅黄褐色極細粒砂～粘土が混ざる
4. 5Y5/1 灰色シルト～粘土と  
5Y7/4 浅黄褐色極細粒砂～粘土が混ざる（鉄分をやや含む）
5. 2. 5Y6/1 黄灰色極細粒砂  
(2. 5Y4/1 黄灰色シルト粘土ブロック、鉄分、礫含む)
6. 5Y7/2 灰白色シルト粘土（鉄分やや含む）

【柱穴】

7. 2. 5Y7/4 浅黄褐色極細粒砂に  
(10YR5/2 灰黄褐色粘土ブロックやや含む)
8. 10YR3/3 暗褐色シルト

第Ⅲ -56 図 S K 34008、S E 35010, 36007, 37009 平面図・土層断面図 (1:80、1:50)

S K 34003 (第Ⅲ -55 図)

平面形は不整円形、規模は長軸 2.5m、短軸 2.3m、検出面からの深さ 0.5m である。埋土の上層には、0.1 ～ 0.3m 大の礫が多く含まれていた。

埋土から 18 世紀前半の土師器焙烙、陶器甕、青磁碗などが出土した。

S K 34004

攪乱などにより全体を確認できなかった。残存部分は長軸 3.5m、短軸 2.0m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 16 世紀代の土師器鍋、陶器皿などが出土した。

S K 34005

平面形は隅丸方形、規模は長軸 1.4m、短軸 1.3m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から 15 世紀前半の瓦質土器風炉などが出土した。

S K 34006

平面形は隅丸方形、規模は長軸 2.5m、短軸 1.4m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 17 世紀中頃前後の陶器皿などが出土した。

S K 34008 (第Ⅲ -56 図)

平面形は隅丸方形、規模は長軸 6.0m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.9m である。土坑と考えられる。南北に細長い。埋土の上層から主に遺物が出土した。

埋土から土師器皿、土師器焙烙、陶器碗、陶器皿、19 世紀後半の陶器鉢、陶器瓶掛、陶器播鉢、陶器鍋、陶器壺、陶器土瓶、陶器汁次、磁器碗、青磁香炉、青磁壺、石製硯、縄文土器深鉢などが出土した。出土遺物の時期は、17 世紀前半以降と考えられるものもあり幅がある。

S K 34010

平面形は不整円形、規模は長軸 0.9m、短軸 0.7m、検出面からの深さ 0.6m である。土坑と考えられる。

埋土から 19 世紀初頭の土師器焙烙、陶器土瓶、陶器壺などが出土した。出土遺物の時期は、若干の幅がある。

S K 35002

平面形は楕円形、規模は長軸 1.9m、短軸 0.8m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 12 世紀後半の山皿などが出土した。

S E 35010 (第Ⅲ -56 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.5m、短軸 1.4m、検出面からの深さ 1.9m である。井戸と思われる。ほぼ垂直に掘り込まれていた。底部にむけて窄んでいく。下層部分は崩落の危険があり土層確認を行うことができなかった。

埋土から土師器皿、13 世紀前半の山茶碗、青磁碗などが出土した。

S E 36004

平面形は楕円形、規模は長軸 2.0m、短軸 1.8m、検出面からの深さ 0.8m である。井戸と思われる。S D 35003 と重複している。

埋土から 14 世紀後半の陶器卸皿などが出土した。

S E 36007 (第Ⅲ -56 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.7m、短軸 1.5m、検出面からの深さ 2.3m である。井戸と思われる。井戸枠や曲物は確認できなかった。底部には曲物が据えられていた可能性がある。

埋土から土師器羽釜、13 世紀後半の陶器片口鉢、白磁碗などが出土した。出土遺物の時期は、若干の幅がある。

S K 37003

平面形は不整円形、規模は長辺 11.6m、短辺 2.2m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、土師器鍋、山茶碗、13 世紀前半の山皿、陶器片口鉢、陶器甕、青磁碗などが出土した。出土遺物の時期は、若干の幅がある。

S K 37004

平面形は楕円形、規模は長軸 1.1m、幅 1.0m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から 13 世紀前半の山茶碗などが出土した。

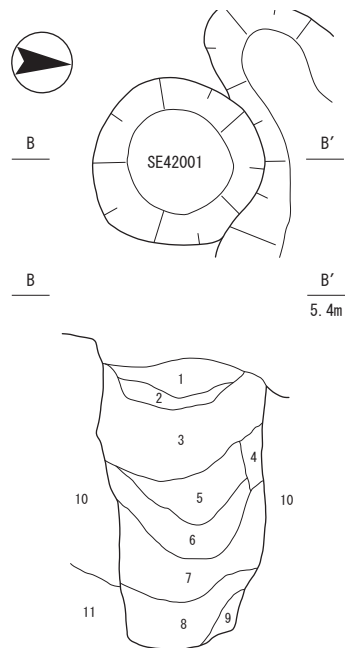
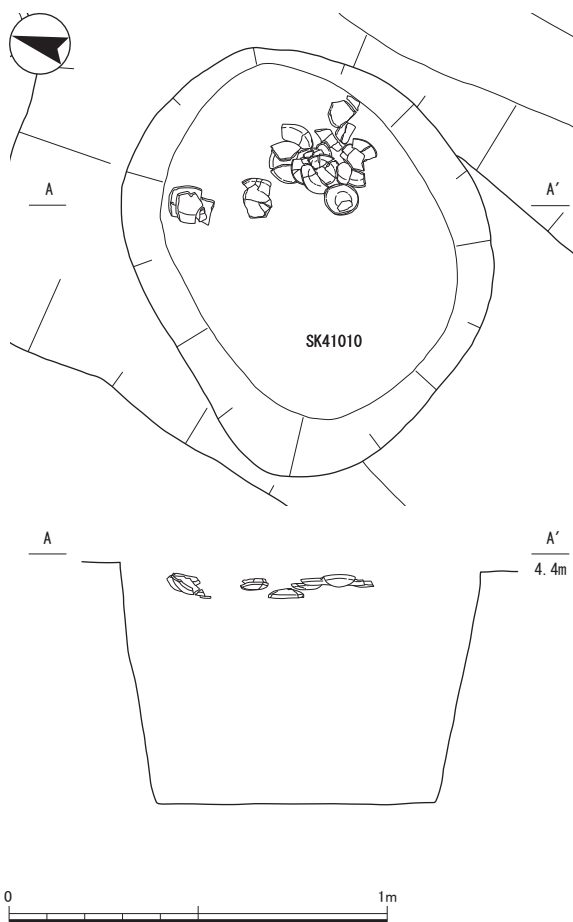
S E 37009 (第Ⅲ -56 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 2.0m、短軸 1.8m、検出面からの深さ 1.4m である。井戸と思われる。井戸枠や曲物は確認できなかった。

埋土から山茶碗、13 世紀前半の山皿などが出土した。出土遺物の時期は、12 世紀初頭前後と考えられる遺物もあり幅がある。

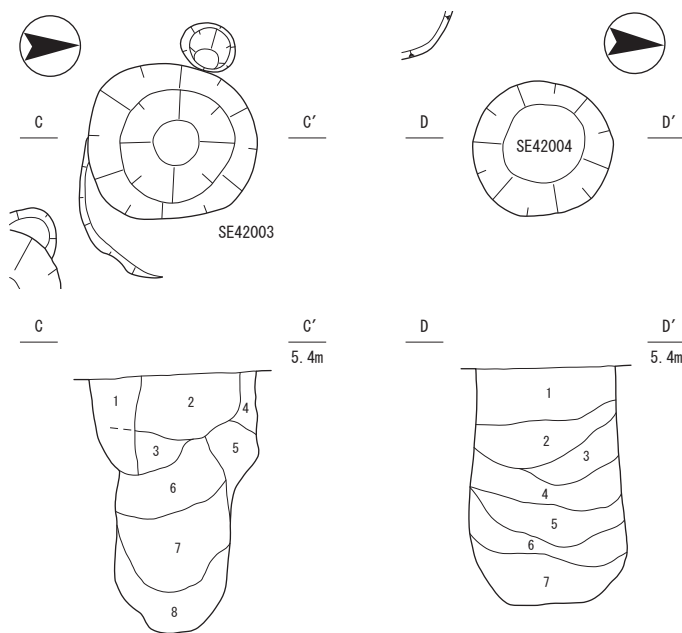
S K 37012

平面形は不整円形、規模は長軸 2.0m、短軸 1.1m、



【SE42001】

1. 2. 5Y5/2 暗灰黄色砂質土（炭化物、土器含む）
2. 2. 5Y7/4 浅黄色細粒砂
3. 10YR5/2 灰黄褐色砂質土（礫、炭化物、土器多量含む）
4. 10YR8/6 黄橙色砂質シルト
5. 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト（礫、炭化物、土器少量含む）
6. 2. 5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト（礫、炭化物多量含む）
7. 2. 5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト（2. 5Y8/4 淡黄色砂質シルトブロック含む）
8. 2. 5Y5/1 黄灰色砂質シルト（炭化物、土器含む）
9. 5Y7/2 灰白色砂質シルト
- 【検出面】
10. 2. 5Y6/3 にぶい黄色砂質土
11. 2. 5Y7/4 淡黄色砂質土



【SE42003】

1. 攪乱
2. 7. 5YR3/4 黒褐色砂質土（炭化物含む）
3. 7. 5YR3/4 黒褐色砂質土（2. 5Y4/6 オリーブ褐色砂質土少量含む）
4. 2. 5Y4/3 オリーブ褐色砂質土
5. 7. 5YR3/2 黒褐色砂質シルト
6. 10YR4/4 褐色砂質土（炭化物含む）
7. 10YR3/4 暗褐色砂質土（炭化物、礫含む）
8. 10YR4/2 灰黄褐色シルト（2. 5Y4/3 オリーブ褐色砂質土ブロック少量含む）

【SE42004】

1. 10YR3/3 暗褐色砂質土（炭化物含む）
2. 2. 5Y4/2 暗灰褐色砂質土
3. 2. 5Y4/3 オリーブ褐色砂質土（2. 5Y5/4 黄褐色砂質土ブロック含む）
4. 2. 5Y4/3 オリーブ褐色砂質土（炭化物少量含む）
5. 2. 5Y4/2 暗灰褐色砂質シルト
6. 2. 5Y4/3 オリーブ褐色砂質土
7. 10YR4/2 灰黄褐色シルト（炭化物極少量含む）



第Ⅲ -57 図 S K 41010、S E 42001, 42003, 42004 平面図・土層断面図 (1:20、1:50)



検出面からの深さ 0.1m である。土坑と考えられる。

埋土から 13 世紀前半の山茶碗、陶器瓶、陶器壺、陶器甕などが出土した。出土遺物の時期は、12 世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。

#### S K 41002

平面形は円形、規模は長軸 1.7m、短軸 1.6m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。S D 32006 と重複している。

埋土から 14 世紀後半の陶器鉢、縄文土器深鉢などが出土した。

#### S K 41004

平面形は円形、規模は直径 1.4m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。S D 32006 と重複している。

埋土から 18 世紀中頃以降の土師器皿などが出土した。

#### S K 41007

後世の攪乱などにより全体は確認できなかった。残存部分は長軸 1.8m、短軸 0.7m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、18 世紀後半の土師器焙烙などが出土した。

#### S K 41009

攪乱を受け全体を確認するには至らなかった。残存部分は長軸 1.3m、短軸 0.6m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。

埋土から 14 世紀前半の土師器鍋、山茶碗などが出土した。

#### S K 41010 (第Ⅲ -57 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.2m、短軸 0.9m、検出面からの深さ 0.7m である。土坑と考えられる。S D 33004 と重複している。

埋土から中世以降の土師器皿などが出土した。

#### S E 42001 (第Ⅲ -57 図)

平面形は円形、規模は直径 1.2m、検出面からの深さ 2.1m である。井戸と思われる。ほぼ垂直に掘り込まれている。井戸枠や曲物は確認できなかった。埋土上層に礫や炭化物が含まれていた。

埋土から土師器皿、土師器台付皿、土師器羽釜、山茶碗、陶器鉢、白磁碗、14 世紀以降の白磁皿、白磁壺、石製硯、鉄製刀子などが出土した。出土遺

物の時期は、12 世紀前半と考えられるものもあり幅がある。

#### S E 42003 (第Ⅲ -57 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.1m、短軸 1.0m、検出面からの深さ 1.7m である。土坑と思われる。ほぼ垂直に掘り込まれている。井戸枠などは確認できなかった。

埋土から土師器台付皿、14 世紀初頭前後の土師器鍋、鉄鏃などが出土した。

#### S E 42004 (第Ⅲ -57 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 0.9m、短軸 0.8m、検出面からの深さ 1.6m である。井戸と思われる。ほぼ垂直に掘り込まれている。井戸枠や曲物は確認できなかった。

埋土から中世以降の土師器皿などが出土した。

#### S K 42008

攪乱などにより全体を確認できなかった。残存部分は一辺 1.3m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。

埋土から陶器碗、18 世紀後半の陶器皿などが出土した。出土遺物の時期は、17 世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。

#### S K 43002

平面形は楕円形、規模は長軸 0.9m、短軸 0.8m、検出面からの深さ 0.8m である。土坑と考えられる。

埋土から 14 世紀前半の土師器羽釜などが出土した。

#### S K 43004

平面形は楕円形、規模は長軸 1.1m、短軸 0.8m、検出面からの深さ 1.2m である。土坑と考えられる。

埋土から中世以降の土師器皿など出土した。

#### S K 44001 (第Ⅲ -58 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 2.6m、短軸 1.7m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。埋土の上方には礫が含まれていた。

埋土から 18 世紀前半の土師器焙烙、土師器鍋、天目茶碗などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀代と考えられる遺物もあり幅がある。

#### S K 44002 (第Ⅲ -58 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.3m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.6m 以上である。土坑と考えら

れる。SK 44001 と重複している。

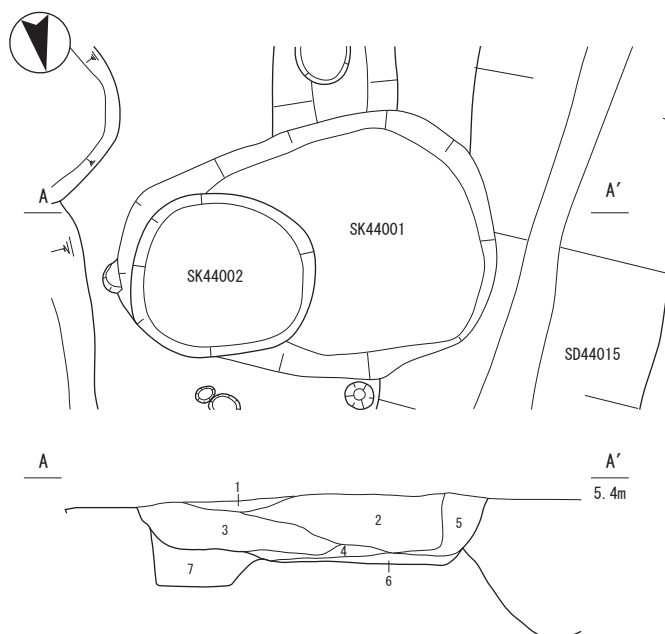
埋土から遺物の出土は確認できなかった。

# S K 44005

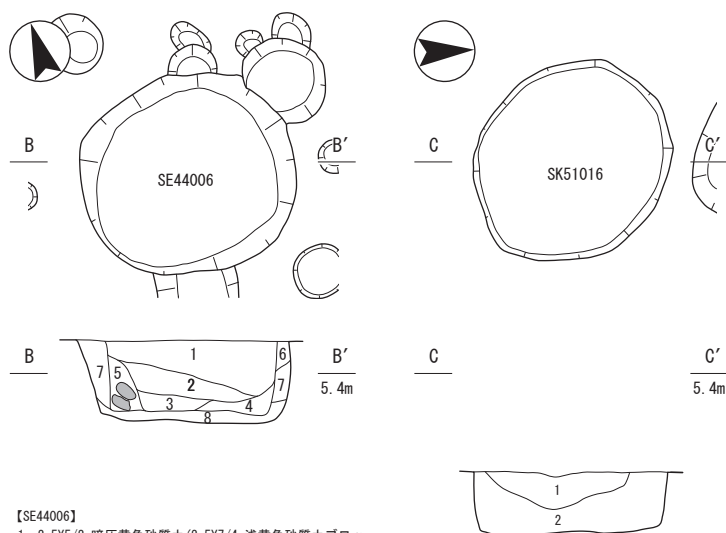
平面形は不整円形、規模は長軸 2.5m、短軸 0.9m、

検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から 19 世紀前半以降の陶器鉢、磁器皿、鉄製釘などが出土した。出土遺物の時期は、18 世紀後半と考えられる遺物もあり幅がある。

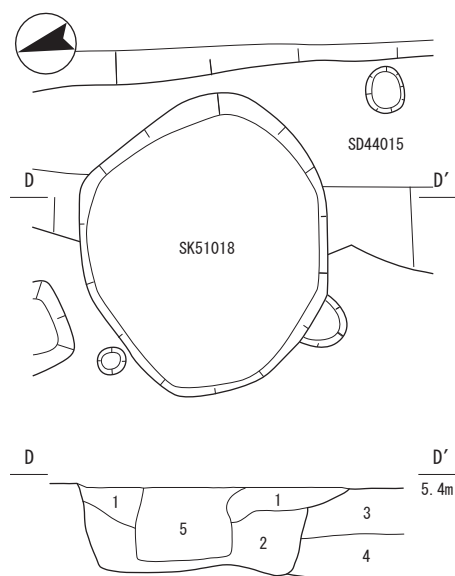


- 【SK44001】
1. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土（礫、炭化物含む）
  2. 10YR5/2 灰黄褐色砂質土（礫、炭化物含む）
  3. 2.5Y4/1 黄灰色砂質土（礫含む）
  4. 5Y6/2 灰オリーブ色砂質土
  5. 5Y5/1 灰色砂質土（2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック含む）
  6. 5Y6/3 オリーブ黄色砂質土
- 【SK44002】
7. 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト（炭化物少量含む）



- 【SE44006】
1. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土（2.5Y7/4 浅黄色砂質土ブロック、炭化物含む）
  2. 5Y5/2 灰オリーブ色砂質土（2.5Y7/4 浅黄色砂質土ブロック含む）
  3. 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト（礫含む）
  4. 5Y4/1 灰色砂質シルト（5Y6/3 オリーブ黄色砂質シルトブロック含む）
  5. 2.5Y4/1 黄灰色砂質土（礫含む）
  6. 5Y6/2 灰オリーブ色砂質土
  7. 5Y6/1 灰色砂質土
  8. 7.5Y6/1 灰色砂質土

- 【SK51016】
1. 10YR3/2 黒褐色砂質土（炭化物含む）
  2. 10YR2/3 黒褐色砂質シルト（10YR5/6 黄褐色ブロック多量含む）



- 【SK51018】
1. 2.5Y5/2 暗灰黄色極細粒砂～シルト（炭化物含む）
  2. 2.5Y5/1 黄灰色極細粒砂～シルト（炭化物含む）
- 【SD44015】
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土（10YR6/6 明黄褐色シルトブロック少量含む）
  4. 10YR4/4 褐色砂質土（10YR6/6 明黄褐色シルトブロック多量含む）
  5. 攪乱

第Ⅲ -58 図 S K 44001, 44002, 51016, 51018、S E 44006 平面図・土層断面図（1:50）

S E 44006 (第Ⅲ -58 図)

平面形は楕円形、長軸 1.4m、短軸 1.3m、検出面からの深さ 0.6m である。井戸と思われる。土層断面の状況から杵状のものが据えられていた可能性がある。

埋土から 18 世紀前半の陶器徳利、青磁壺、鉄製釘などが出土した。

S K 44008

平面形は円形、規模は直径 1.8m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。

埋土から陶器碗、13 世紀前半の陶器鉢、鉄製釘などが出土した。

S K 44009

平面形は楕円形、規模は長軸 1.5m、短軸 1.3m、検出面からの深さ 0.9m である。土坑と考えられる。S D 44015 と重複している。

埋土から 19 世紀初頭前後の土師器皿、陶器皿、陶器香炉、土鍾などが出土した。

S K 44010

平面形は楕円形、規模は長軸 1.5m、短軸 1.1m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から中世の山茶碗、陶器碗などが出土した。

S K 44012

平面形は楕円形、規模は長軸 1.2m、短軸 1.1m、検出面からの深さ 1.0m 以上である。土坑と考えられる。掘削の安全性を確保しながら必要な調査を行った。

埋土から土師器皿、18 世紀前半の土師器焙烙などが出土した。

S K 44013

平面形は楕円形、規模は長軸 1.2m、短軸 1.0m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。

埋土から 13 世紀前半の山茶碗、土製移動式カマドなどが出土した。出土遺物の時期は、若干の幅がある。

S K 44016

平面形は不整形円形、規模は長軸 1.3m、短軸 1.1m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

S B 44054 と重複している。

埋土から 13 世紀後半の山茶碗などが出土した。

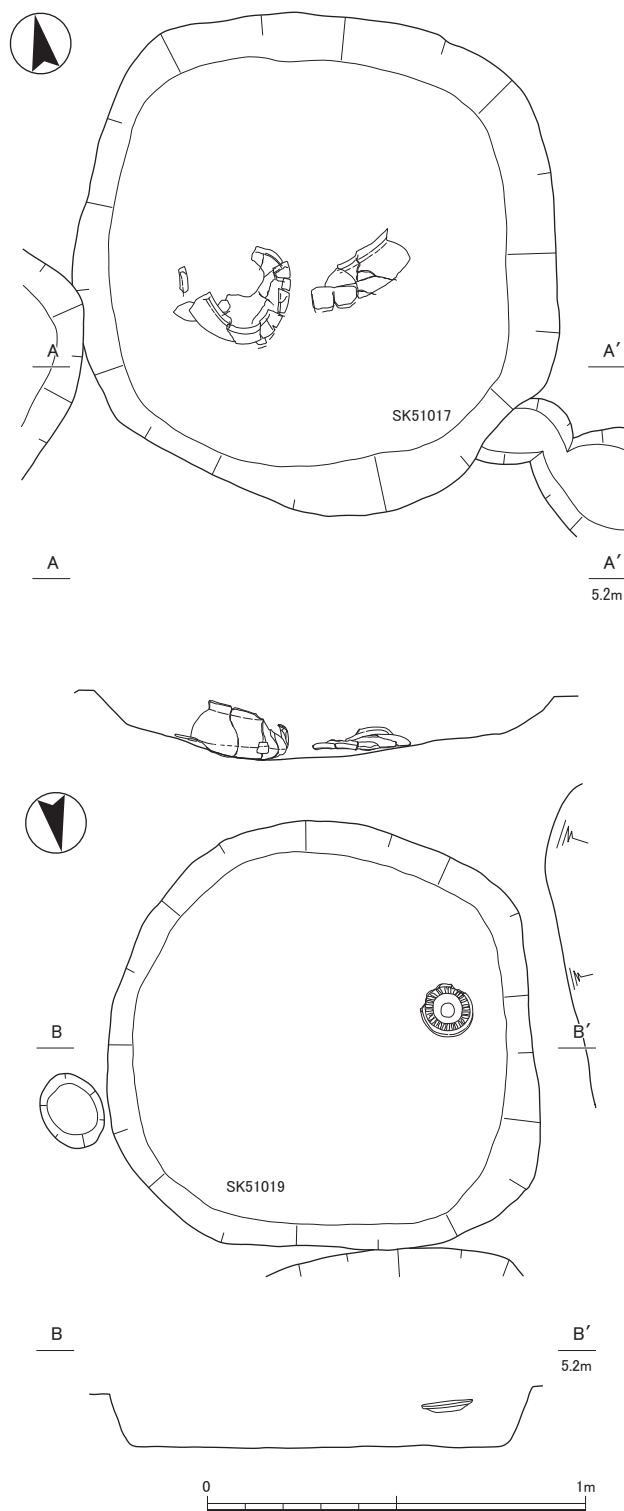
S K 44018

平面形は不整形円形、規模は長軸 1.3m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から 11 世紀代の灰釉陶器碗などが出土した。

S K 44019

平面形は不整形円形、規模は長軸 2.0m、短軸 1.9m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。



第Ⅲ -59 図 S K 51017, 51019 平面図・断面図 (1:20)

埋土から土師器茶釜、陶器香炉、陶器播鉢、陶器壺、磁器碗、18世紀末前後の磁器皿などが出土した。

#### S K 44020

平面形は楕円形、規模は長軸 1.3m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から近世の陶器土瓶などが出土した。

#### S K 44022

平面形は楕円形、規模は長軸 1.0m、短軸 0.9m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から 18 世紀前半以降の磁器碗などが出土した。

#### S K 44023

平面形は楕円形、規模は長軸 1.5m、短軸 1.4m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から 12 世紀後半の山皿、白磁碗などが出土した。

#### S K 44025

平面形は楕円形、規模は長軸 1.7m、短軸 1.5m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。

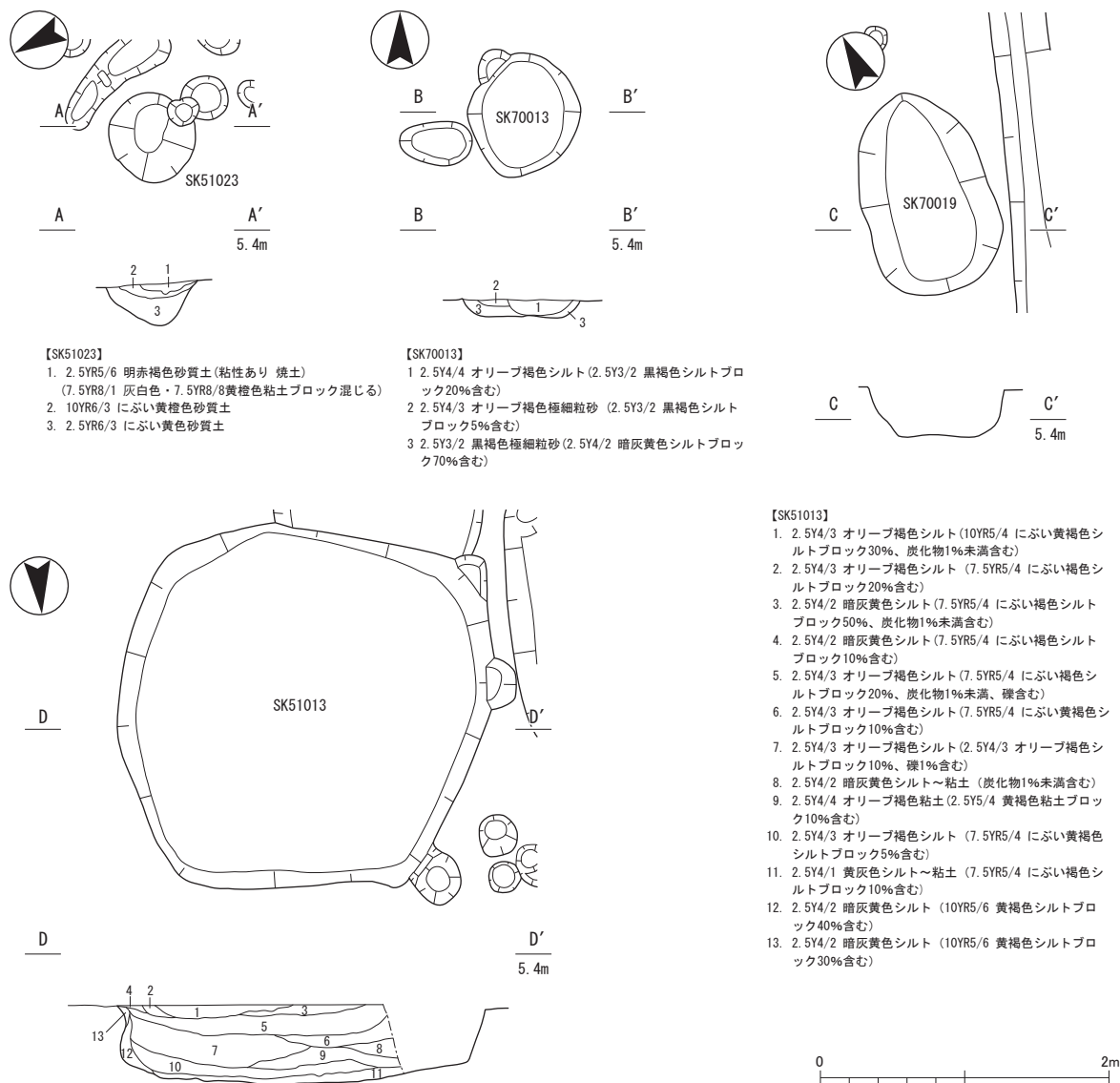
埋土から陶器蓋、19 世紀前半以降の磁器碗、土製 L 字状製品、石製円盤状製品、鉄製板状製品、鉄製釘などが出土した。

#### S K 44027

平面形は楕円形、規模は長軸 2.0m、短軸 1.7m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から 17 世紀後半の土師器焙烙、陶器小坏などが出土した。

#### S K 44028



第Ⅲ -60 図 S K 51013, 51023, 70013, 70019 平面図・土層断面図 (1:50)

平面形は不整円形、規模は長軸 2.6m、短軸 1.3m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。

埋土から山茶碗、18 世紀後半の陶器碗、陶器皿、磁器皿、軒丸瓦、砥石、石製硯などが出土した。出土遺物の時期は、12 世紀中頃前後と考えられる遺物もあり、かなりの幅がある。

#### S K 44031

他の遺構との重複などにより全体を確認できなかった。残存部分は長軸 1.2m、短軸 0.8m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。S K 44008 と重複している。

埋土から中世以降の磁器碗などが出土した。

#### S K 44032

平面形は円形、規模は直径 1.8m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。S D 44015 と重複している。

埋土から土師器皿、陶器甕、19 世紀前半の磁器碗、土製人形などが出土した。

#### S K 44033

平面形は円形、規模は長軸 2.1m、短軸 1.0m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から陶器碗、19 世紀前半の磁器碗などが出土した。

#### S K 44034

平面形は隅丸方形、規模は長辺 2.1m、短辺 1.3m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 18 世紀中頃以降の陶器碗、磁器碗などが出土した。

#### S K 44035

遺構が調査区外に延びるため全体を確認できなかった。調査区内での規模は長軸 1.1m、短軸 0.8m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器焙烙、磁器碗、磁器紅小皿、19 世紀代の磁器蓋、磁器鉢、土錘などが出土した。

#### S K 44036

平面形は楕円形、規模は長軸 1.3m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から陶器播鉢、19 世紀中頃以降の磁器碗などが出土した。

#### S K 44037

平面形は不整円形、規模は長軸 1.0m、短軸 0.8m、

検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 17 世紀後半の土師器焙烙などが出土している。

#### S K 44038

平面形は楕円形、規模は長軸 0.9m、短軸 0.8m、検出面からの深さは 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から陶器碗、18 世紀後半以降の陶器片口鉢、磁器碗などが出土した。

#### S K 44039

攪乱などにより全体は確認できなかった。残存部分は長軸 1.3m、短軸 0.8m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から陶器蓋、陶器壺、19 世紀代の磁器碗、青磁香炉などが出土した。

#### S K 44040

遺構が調査区外に延びるため全体を確認できなかった。調査区内での規模は長軸 1.3m 以上、短軸 0.9m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、19 世紀代の磁器碗などが出土した。

#### S K 44042

平面形は楕円形、規模は長軸 1.4m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から 18 世紀中頃以降の土師器皿などが出土した。

#### S K 44043

平面形は楕円形、規模は長軸 2.0m、短軸 1.3m、検出面からの深さは 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 19 世紀前半の陶器碗などが出土した。

#### S K 44044

平面形は不整円形、規模は長軸 1.6m 以上、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 19 世紀代の陶器皿、磁器碗、陶器仏餉具などが出土した。

#### S K 44046

北側は S K 44027、南側は後世の攪乱などにより全体を確認できなかった。残存部分は長軸 1.7m 以



上、短軸 1.5m、検出面からの深さ 0.1m である。土坑と考えられる。

埋土から陶器碗、陶器仏餉具、陶器德利、19 世紀代の磁器碗、18 世紀代の磁器紅小皿、磁器蓋、白磁碗などが出土した。出土遺物の時期については、12 世紀前半のものもあり幅がある。

#### S K 51004

平面形は楕円形、規模は長軸 1.3m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から 12 世紀後半の土師器鍋などが出土した。

#### S K 51006

平面形は楕円形、規模は長軸 2.2m、短軸 2.0m、検出面からの深さ 0.8m である。土坑と考えられる。S D 35004 と重複している。

埋土から土師器焙烙、19 世紀前半の陶器播鉢、磁器碗、磁器皿、青磁碗、砥石などが出土した。出土遺物の時期は、18 世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。

#### S K 51008

他遺構の重複により全体を確認できなかった。残存部分は長軸 0.8m、短軸 0.6m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。S K 51009 と重複している。

埋土から 18 世紀末の陶器碗、磁器皿などが出土した。

#### S K 51009

平面形は楕円形、規模は長軸 1.0m、短軸 0.8m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。S K 51008 と重複している。

埋土から 18 世紀前半の土師器焙烙などが出土した。

#### S K 51010

平面形は楕円形、規模は長軸 2.4m、短軸 1.3m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、陶器小碗、陶器蓋、陶器仏餉具、19 世紀前半の陶器播鉢、磁器碗、磁器蓋などが出土した。

#### S K 51011

平面形は円形、規模は直径 1.4m、検出面からの深さ 0.6m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、陶器皿、陶器仏餉具、陶器

鉢、陶器土瓶、陶器加工円盤、19 世紀前半の磁器碗、磁器猪口、磁器瓶、土製 L 字状製品、軒平瓦、砥石などが出土した。

#### S K 51012

平面形は楕円形、規模は長軸 1.4m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.1m である。土坑と考えられる。

埋土から 19 世紀中頃前後の陶器鉢、陶器蓋、砥石などが出土した。

#### S K 51013 (第Ⅲ -60 図)

平面形は隅丸方形、規模は長辺 2.5m、短辺 2.4m、検出面からの深さ 0.7m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、土師器焙烙、山茶碗、陶器碗、陶器皿、19 世紀前半の陶器播鉢、陶器德利、磁器碗、磁器小坏、磁器蓋、磁器水滴、磁器加工円盤、青磁碗、土製 L 字状製品、砥石、石製円盤状製品、鉄製鍋、銅製煙管などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀前半と考えられる遺物もあり、かなり幅がある。

#### S K 51014

平面形は円形、規模は直径 1.6m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から 19 世紀前半の陶器碗、陶器火鉢、磁器皿などが出土した。出土遺物の時期は、17 世紀初頭前後と考えられる遺物もあり幅がある。

#### S K 51015

平面形は楕円形、規模は長軸 1.5m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から中世の山皿などが出土した。

#### S K 51016 (第Ⅲ -58 図)

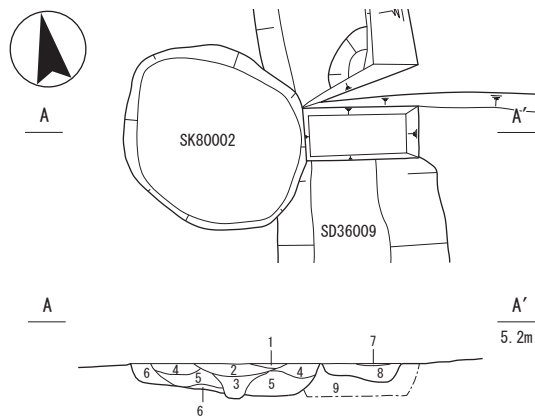
平面形は楕円形、規模は長軸 1.4m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器台付皿、土師器鍋、12 世紀後半の山皿、陶器鉢、土錘、縄文土器深鉢などが出土した。

#### S K 51017 (第Ⅲ -59 図)

平面形は隅丸方形、規模は長辺 1.3m、短辺 1.2m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。形状や規模から簡易な倉庫としての使用が考えられる。底部付近で正立した状態の土師器鍋が出土した。

埋土から土師器皿、土師器鍋、14 世紀前半の瓦器碗、陶器山茶碗、陶器山皿などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀後半と考えられる遺物もあ



【SK80002】

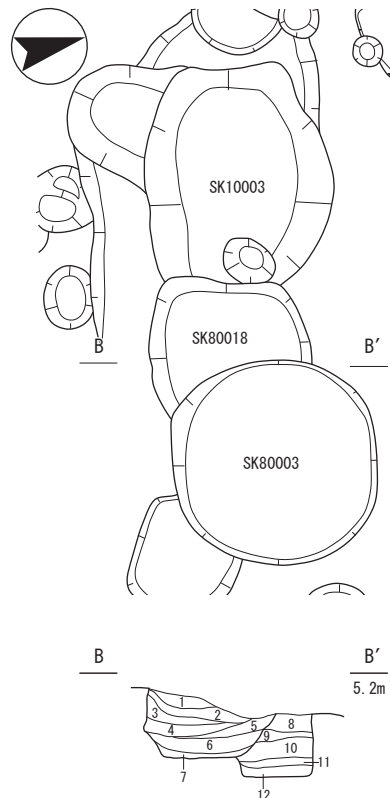
1. 7.5YR3/4暗褐色極細粒砂（炭化物含む）
2. 10YR3/3暗褐色極細粒砂（炭化物含む）
3. 10YR3/2黒褐色極細粒砂～シルト
4. 10YR3/3暗褐色極細粒砂
5. 10YR3/3暗褐色極細粒砂と10YR5/6黄褐色極細粒砂が混ざる
6. 10YR3/2黒褐色極細粒砂（10YR5/6黄褐色シルトブロック20%含む）

【SD36009】

7. 10YR4/4褐色極細粒砂
8. 10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂

【基盤層】

9. 10YR5/6黄褐色極細粒砂

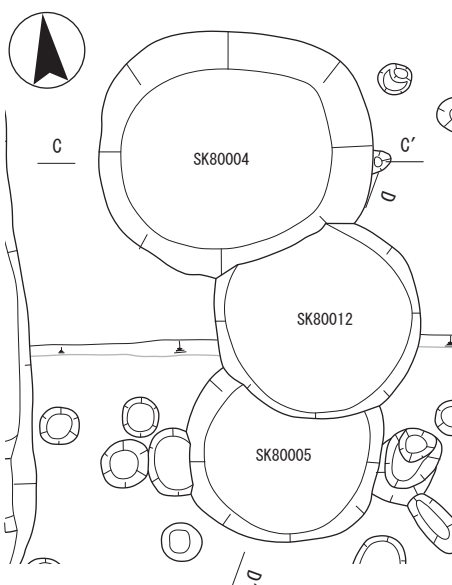


【SK80018】

1. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂（10YR3/2黒褐色極細粒砂ブロック10%含む）
2. 10YR4/4褐色極細粒砂（10YR3/2黒褐色極細粒砂ブロック2%含む）
3. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂（10YR3/2黒褐色極細粒砂ブロック2%含む）
4. 10YR3/2黒褐色極細粒砂（10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂ブロック10%含む）
5. 10YR4/1褐色極細粒砂（10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂ブロック10%含む）
6. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂（10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂ブロック10%含む）
7. 10YR3/1黒褐色極細粒砂（10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂ブロック10%含む）

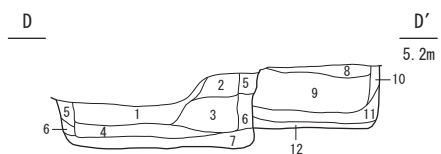
【SK80003】

8. 10YR5/1褐色極細粒砂（10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂ブロック20%含む）
9. 10YR6/2褐色極細粒砂（10YR3/2黒褐色極細粒砂ブロック5%含む）
10. 5Y4/1灰色極細粒砂（10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂ブロック2%含む）
11. 2.5Y4/1黄灰色極細粒砂（10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂ブロック10%含む）
12. 2.5Y5/1黄灰色極細粒砂（10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂ブロック20%含む）



【SK80004】

1. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂（焼土ブロック50%含む）
2. 10YR5/2灰黄褐色極細粒砂（礫20%含む）
3. 10YR3/1黒褐色極細粒砂（10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック5%未満含む）
4. 10YR3/2黒褐色極細粒砂（10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック30%、炭化物含む）
5. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂（10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック10%、炭化物含む）
6. 10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂～シルト（10YR5/2灰黄褐色シルト5%含む）
7. 10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂～シルト（10YR5/2灰黄褐色シルト5%含む）

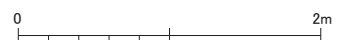


【SK80012】

1. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂（礫、炭化物1%未満含む）
2. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂（10YR6/8明黄褐色シルトブロック5%含む）
3. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂（10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック40%、炭化物1%未満含む）
4. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂（10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック5%、炭化物1%未満含む）
5. 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂（10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック30%含む）
6. 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂と10YR5/6黄褐色極細粒砂が混ざる
7. 10YR5/6黄褐色極細粒砂と10YR5/2灰黄褐色極細粒砂が混ざる

【SK80005】

8. 10YR5/2灰黄褐色極細粒砂（10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック20%含む）
9. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂
10. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂（10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック30%含む）
11. 10YR5/6黄褐色極細粒砂と10YR5/2暗灰黄色極細粒砂が混ざる
12. 10YR5/6黄褐色極細粒砂と10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂が混ざる



第Ⅲ -61 図 S K 80002, 80003, 80004, 80005, 80012, 80018 平面図・土層断面図 (1:50)



り幅がある。また、埋土には炭化物が含まれていた。

#### S K 51018 (第Ⅲ -58 図)

平面形は円形、規模は直径 1.7m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。ほぼ垂直に掘り込まれている。S D 44015 と重複している。

埋土から土師器焙烙、天目茶碗、陶器播鉢、18 世紀後半の磁器碗などが出土した。出土遺物の時期は、17 世紀後半と考えられる遺物もあり幅がある。

#### S K 51019 (第Ⅲ -59 図)

平面形は隅丸方形、規模は 1 辺 1.2m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。陶器皿が底部から 0.1m 上面で出土した。

埋土から 17 世紀初頭前後の陶器皿、砥石などが出土した。

#### S K 51020

平面形は楕円形、規模は長軸 2.0m、短軸 1.9m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から 16 世紀前半の土師器鍋などが出土した。

#### S K 51021

平面形は楕円形、規模は長軸 2.1m、短軸 1.5m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から陶器碗、陶器皿、陶器香炉、18 世紀中頃の磁器碗などが出土した。出土遺物の時期は、17 世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。

#### S K 51023 (第Ⅲ -60 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 0.8m、短軸 0.7m、検出面からの深さ 0.6m である。土坑と考えられる。埋土上面で多量の焼土ブロックや炭化物を確認した。埋土からの遺物の出土は確認できなかった。

#### S K 51025

後世の攪乱などにより全体を確認できなかった。残存部分は長軸 2.0m 以上、短軸 1.5m、検出面からの深さ 0.1m である。土坑と考えられる。

埋土から 17 世紀後半の土師器焙烙などが出土した。

#### S K 51026

平面形は不整円形、規模は長軸 1.6m、短軸 1.4m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、陶器水注、19 世紀中頃前後の陶器鉢、磁器碗、磁器蓋などが出土した。

#### S K 51027

平面形は不整方形、規模は長辺 2.1m、短辺 2.0m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から 11 世紀初頭前後の灰軸陶器碗などが出土した。

#### S K 51028

平面形は不整円形、規模は長軸 3.3m、短軸 1.8m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から陶器蓋、砥石などが出土した。

#### S K 53002

平面形は不整円形、規模は長軸 1.1m、短軸 0.5m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から 12 世紀後半の山茶碗などが出土した。

#### S K 70013 (第Ⅲ -60 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 0.9m、短軸 0.8m、検出面からの深さ 0.1m である。土坑と考えられる。

埋土から 18 世紀前半の陶器壺などが出土した。

#### S K 70019 (第Ⅲ -60 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.3m、短軸 0.9m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。埋土の下層で焼土ブロックを確認した。

埋土から土製 L 字状製品、近世の平瓦などが出土した。

#### S K 80002 (第Ⅲ -61 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.3m、短軸 1.1m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。S D 36009 と重複している。

埋土から 17 世紀前半の陶器皿などが出土した。

#### S K 80003 (第Ⅲ -61 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.4m、短軸 1.3m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器羽釜、19 世紀代の陶器瓶、陶器碗、磁器碗などが出土した。

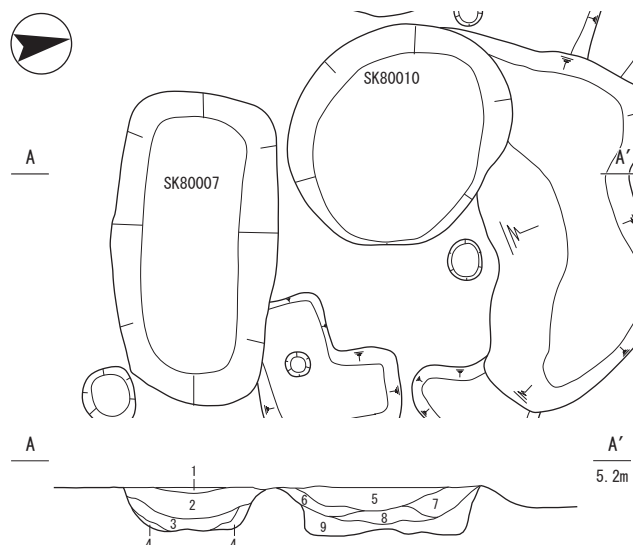
#### S K 80004 (第Ⅲ -61 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.8m、短軸 1.6m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。S K 80005, 80012 と重複している。

埋土から天目茶碗、陶器蓋、陶器播鉢、19 世紀代の陶器徳利、磁器猪口、砥石、石製円盤状製品、石板などが出土した。出土遺物の時期は、17 世紀後半と考えられる遺物もあり幅がある。

# S K 80005 (第Ⅲ -61 図)

平面形は円形か。規模は直径 1.3m、検出面から  
の深さは 0.4m である。土坑と考えられる。ほぼ垂

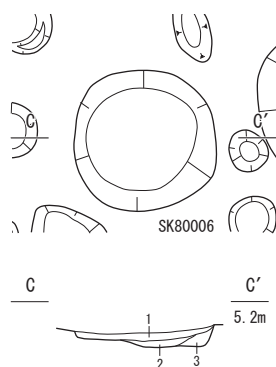


## 【SK80007】

1. 10YR3/2黒褐色極細粒砂
2. 10YR3/1黒褐色極細粒砂 (10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック1%含む)
3. 10YR3/2黒褐色極細粒砂 (10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック10%含む)
4. 10YR6/2灰黄褐色粘土

## 【SK80010】

5. 10YR3/1黒褐色極細粒砂
6. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂
7. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂と10YR3/1黒褐色極細粒砂が混ざる
8. 10YR3/1黒褐色極細粒砂
9. 10YR3/2黒褐色極細粒砂



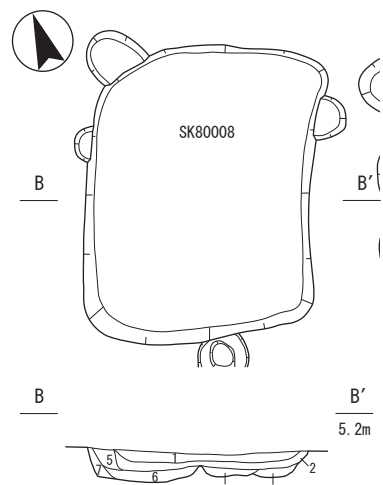
## 【SK80006】

1. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂と10YR3/3暗褐色極細粒砂が混ざる
2. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂 (10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂ブロック10%含む)
3. 10YR3/2黒褐色極細粒砂 (10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック1%未満含む)

## 【SK80009】

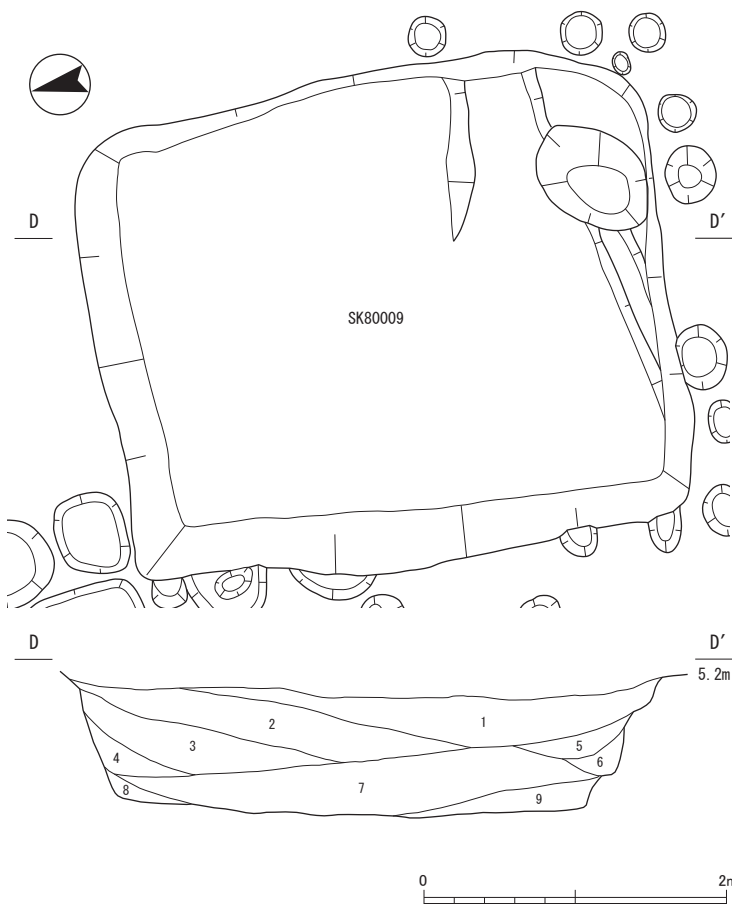
1. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂 (10YR6/6明黄褐色極細粒砂ブロック5%、炭化物1%未満含む)
2. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂 (10YR6/6明黄褐色極細粒砂ブロック1%、炭化物1%未満含む)
3. 10YR3/3暗褐色極細粒砂 (10YR6/6明黄褐色極細粒砂ブロック5%、炭化物1%未満含む)
4. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂 (10YR6/6明黄褐色極細粒砂ブロック10%、炭化物1%未満含む)
5. 10YR3/4暗褐色極細粒砂 (10YR6/6明黄褐色極細粒砂ブロック1%、炭化物1%未満含む)
6. 10YR3/3暗褐色極細粒砂 (10YR6/6明黄褐色極細粒砂ブロック5%未満、炭化物1%未満含む)
7. 10YR3/2黒褐色極細粒砂 (10YR6/6明黄褐色極細粒砂ブロック20%、炭化物1%未満含む)
8. 10YR3/2黒褐色極細粒砂 (10YR6/6明黄褐色極細粒砂ブロック40%含む)
9. 10YR3/2黒褐色極細粒砂 (10YR6/6明黄褐色極細粒砂ブロック20%含む)

直に掘り込まれている。S K 80012 と重複している。  
埋土から 18 世紀前半の陶器甕などが出土した。

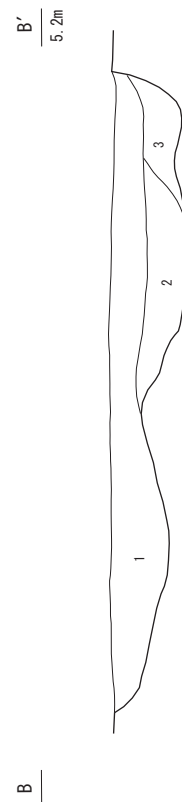
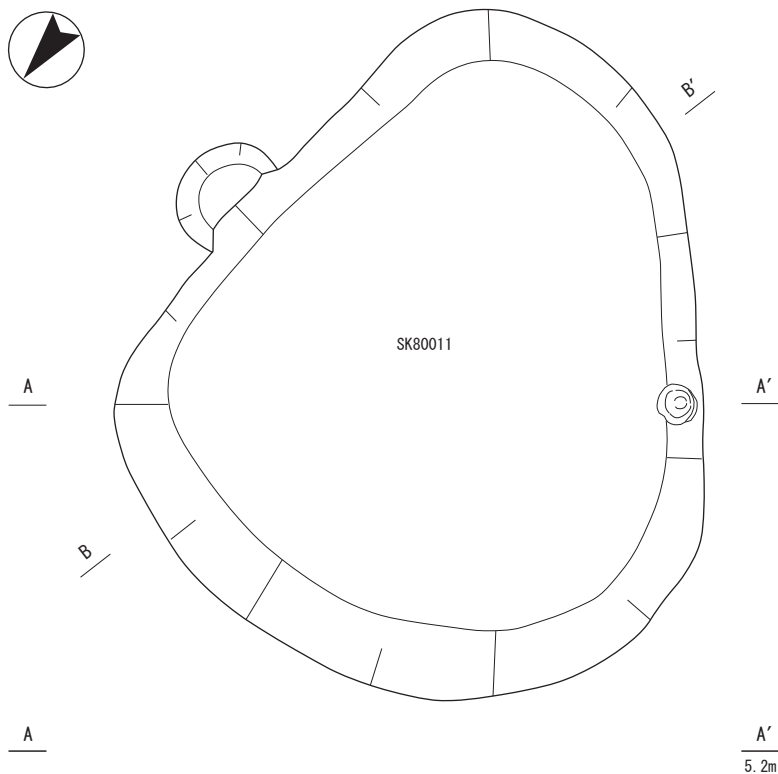


## 【SK80008】

1. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂 (炭1%未満含む)
2. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂 (10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック1%未満含む)
3. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂 (10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック40%含む)
4. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂 (10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック60%含む)
5. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂 (10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック20%含む)
6. 10YR5/6黄褐色極細粒砂 (10YR3/2黒褐色極細粒砂ブロック10%含む)
7. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂 (10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック30%含む)

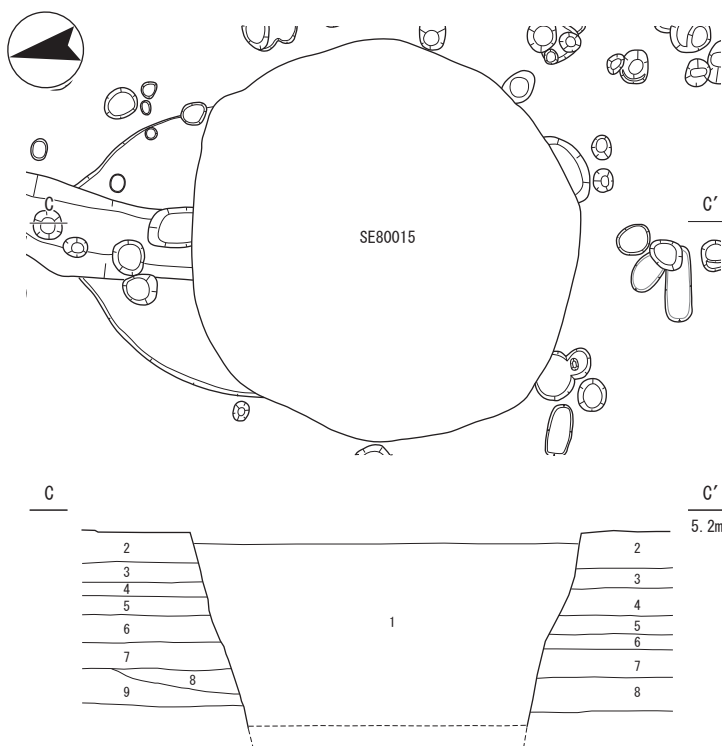


第Ⅲ -62 図 S K 80006, 80007, 80008, 80009, 80010 平面図・土層断面図 (1:50)



【SK80011】

1. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂(炭化物1%未満含む)
2. 10YR3/2黒褐色極細粒砂
3. 10YR4/1褐灰色極細粒砂と10YR5/6黄褐色極細粒砂が混ざる



【SE80015】

1. 石組、掘形埋土10YR3/4暗褐色極細粒砂
2. 10YR5/6黄褐色極細粒～シルト
3. 10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂～シルト
4. 10YR5/2灰黄褐色極細粒砂と10YR3/4暗褐色極細粒砂が混ざる
5. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂
6. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR6/2極細粒砂が混ざる
7. 10YR5/8黄褐色極細粒砂と10YR6/2灰黄褐色極細粒砂が混ざる
8. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂～細粒砂
9. 10YR6/3にぶい黄褐色粘土～シルト



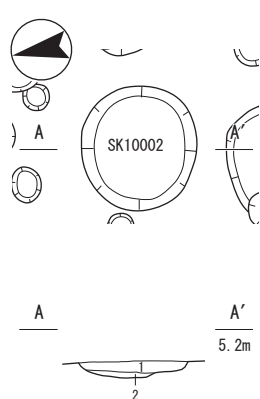
第Ⅲ -63 図 SK 80011、SE 80015 平面図・土層断面図 (1:20、1:80)

# S K 80006 (第Ⅲ -62 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.0m、短軸 0.9m、検出面からの深さ 0.1m である。土坑と考えられる。埋土の上層には砂礫が含まれていた。

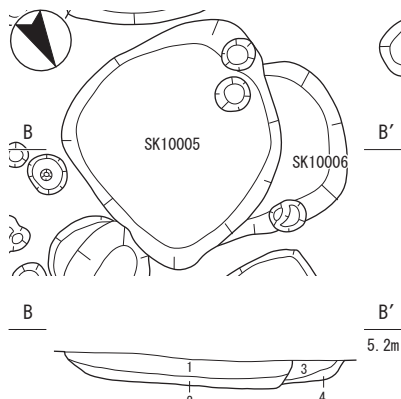
埋土からの遺物の出土は確認できなかった。

# S K 80007 (第Ⅲ -62 図)



【SK10002】

1. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂 (炭化物1%含む)
2. 10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂 (炭化物1%含む)



【SK10005】

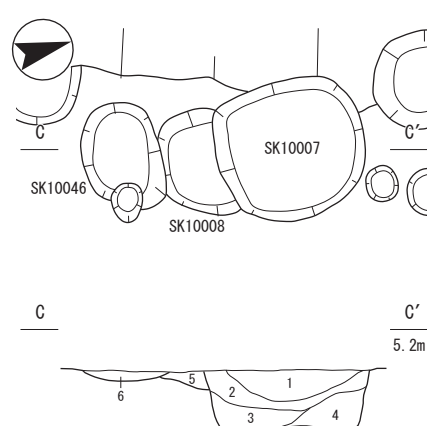
1. 10YR3/3暗褐色極細粒砂 (砂礫1%、10YR4/4褐色極細粒砂ブロック2%含む)
  2. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂 (10YR4/4褐色極細粒砂ブロック5%含む)
- 【SK10006】
3. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂
  4. 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂 (10YR4/4褐色極細粒砂ブロック2%含む)

平面形は細長い隅丸方形、規模は長辺 2.1m、短辺 1.1m、検出面からの深さ 0.4m である。

埋土から陶器仏餉具、陶器土瓶、19 世紀前半の磁器碗、砥石などが出土した。

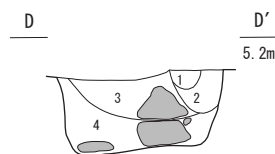
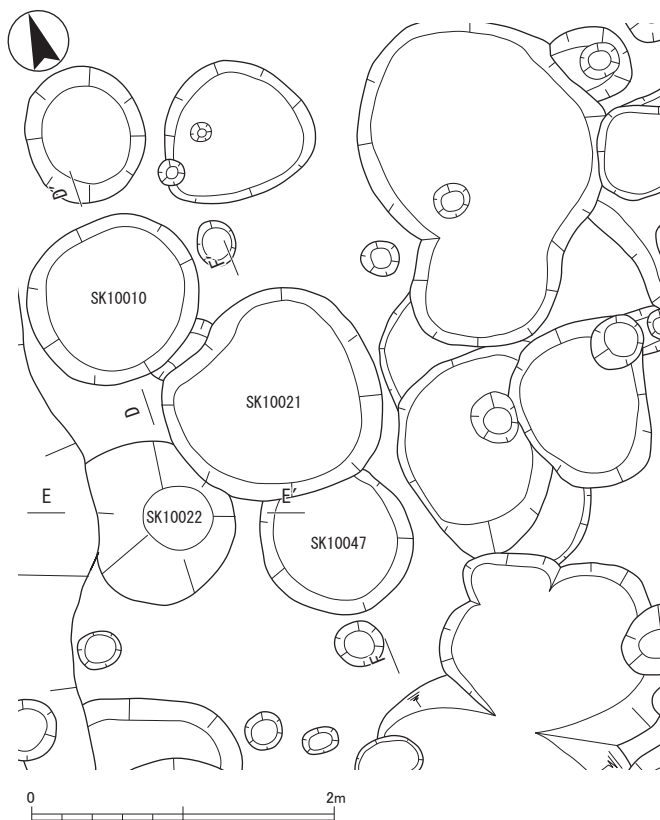
# S K 80008 (第Ⅲ -62 図)

平面形は不整形、規模は長辺 1.9m、短辺 1.5m、



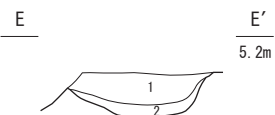
【SK10007】

1. 10YR3/2黒褐色極細粒砂 (10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂ブロック2%含む)
  2. 10YR3/4暗褐色極細粒砂 (10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂ブロック)
  3. 10YR4/4褐色極細粒砂 (10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂ブロック)
  4. 10YR3/3暗褐色極細粒砂 (10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂ブロック)
- 【SK10008】
5. 10YR4/6褐色極細粒砂 (10YR3/3暗褐色極細粒砂ブロック)
- 【SK10046】
6. 10YR3/3暗褐色極細粒砂



【SK10010】

1. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂と10YR5/1褐色シルトが混ざる
2. 10YR3/2黒褐色極細粒砂 (10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック20%含む)
3. 10YR2/2黒褐色極細粒砂 (炭化物1%未満含む)
4. 10YR3/3暗褐色極細粒砂 (10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック10%含む)



【SK10022】

1. 10YR3/3暗褐色極細粒砂 (炭化物1%含む)
2. 10YR3/2黒褐色極細粒砂 (10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂ブロック20%含む)



【SK10021】

1. 10YR4/4褐色極細粒砂 (10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック40%含む)
  2. 10YR3/3暗褐色極細粒砂 (10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック1%含む)
  3. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂 (10YR6/3にぶい黄褐色シルトブロック5%含む)
- 【SK10047】
4. 2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂

第Ⅲ -64 図 S K 10002, 10005, 10006, 10007, 10008, 10010, 10021, 10022 平面図・土層断面図 (1:50)

検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 19 世紀前半の磁器碗などが出土した。

#### S K 80009 (第Ⅲ -62 図)

平面形は隅丸長方形、規模は長軸 3.8m、短軸 3.3m、検出面からの深さは 1.1m である。土坑と考えられる。底面はほぼ平坦となっていた。土坑の南側には階段状の段がある。

埋土から土師器皿、土師器鍋、瓦器碗、瓦器皿、須恵器鉢、須恵器甕、山茶碗、山皿、陶器卸皿、陶器鉢、15 世紀前半の陶器搥鉢、陶器壺、陶器甕、緑釉陶器盤、白磁碗、青磁碗、青磁皿、石鍋、砥石、鉄製刀子、鉄製鋌などが出土した。出土遺物の時期は、12 世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。

#### S K 80010 (第Ⅲ -62 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.5m、短軸 1.3m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、瓦質土器火鉢、陶器鉢、19 世紀前半の陶器搥鉢、陶器壺、磁器碗、砥石などが出土した。出土遺物の時期は、18 世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。

#### S K 80011 (第Ⅲ -63 図)

平面形は不整円形、長軸 1.8m、短軸 1.6m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。ほぼ完形の陶器皿が遺構西端付近から出土した。

埋土から土師器皿、陶器皿、土師器焙烙、18 世紀後半の磁器碗、陶器加工円盤、石製円盤状製品、敲石などが出土した。

#### S K 80012 (第Ⅲ -61 図)

平面形は楕円形、規模は直径 1.4m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。遺構北部で S K 80004 と重複する。

埋土から遺物の出土は確認できなかった。

#### S E 80015 (第Ⅲ -63 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 2.7m、短軸 2.6m、検出面から深さ 1.3m 以上である。石組井戸で、一辺 30 ～ 40 cm の方形の石が円形に積み上げられていた。埋土には塩ビ管が入り込んでいた。掘削の安全性などを踏まえ記録作成を行った。

埋土から土師器鍋、17 世紀前半の陶器皿、陶器搥鉢、陶器甕、青磁碗、石製円盤状製品などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀前半と考えられ

る遺物もあり、かなりの幅がある。

#### S K 80018 (第Ⅲ -61 図)

平面形は円形、規模は直径 1.1m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。S K 80003 と重複している。

埋土から 18 世紀代の瓦質土器鍋などが出土した。

#### S K 10002 (第Ⅲ -64 図)

平面形は円形、規模は直径 0.8m、検出面からの深さ 0.1m である。土坑と考えられる。

埋土からの遺物の出土は確認できなかった。

#### S K 10003

他遺構との重複などで全体を確認することができなかった。残存部分は長軸 1.5m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。遺構の北側で S K 80018 と重複している。

埋土から 18 世紀中頃遺構の土師器皿、陶器鉢などが出土した。

#### S K 10004

他遺構との重複などで全体を確認することができなかった。残存部分は長軸 0.9m、短軸 0.7m 以上、検出面からの深さは 0.3m である。土坑と考えられる。遺構の北側で S K 10003 と重複している。

埋土から陶器鉢、19 世紀中頃前後、磁器碗などが出土した。

#### S K 10005 (第Ⅲ -64 図)

平面形は隅丸方形、規模は長辺 1.7m、短辺 1.4m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、18 世紀中頃前後の陶器香炉などが出土した。

#### S K 10006 (第Ⅲ -64 図)

他遺構との重複などで全体を確認することができなかった。残存部分は長軸 1.1m、短軸 0.4m 以上の規模、検出面からの深さ 0.1 m である。円形の土坑であったのではないだろうか。

埋土から遺物の出土は確認できなかった。

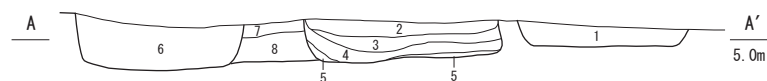
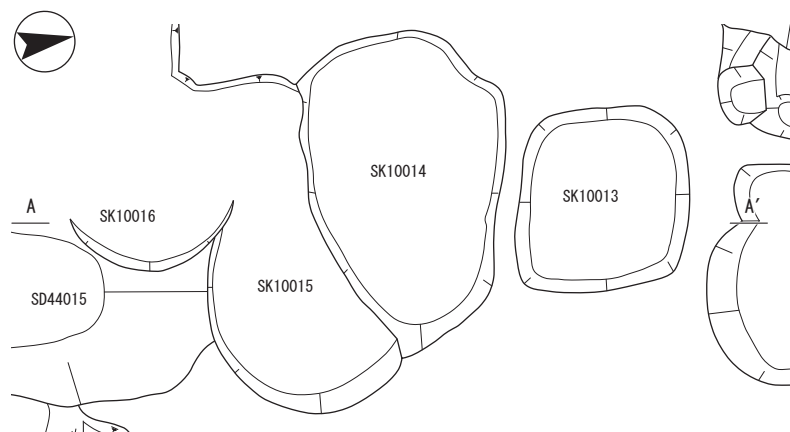
#### S K 10007 (第Ⅲ -64 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.0、短軸 0.9m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

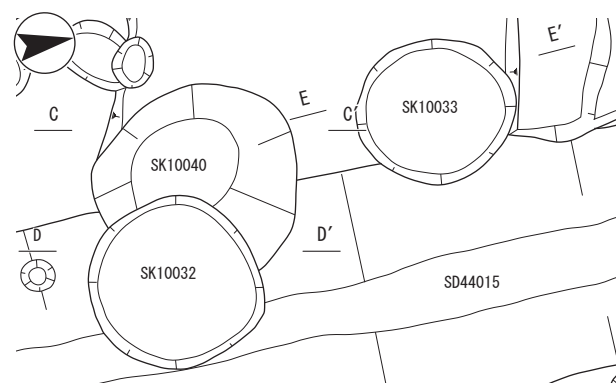
埋土から古代の須恵器などが出土している。

#### S K 10008 (第Ⅲ -64 図)

他遺構との重複で全体を確認できなかった。残存

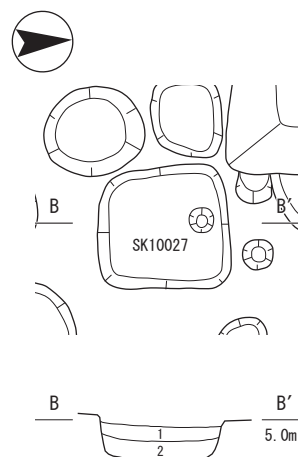


- 【SK10013】  
1. 10YR4/3にふい黄褐色極細粒砂
- 【SK10014】  
2. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂(マンガン粒5%含む、炭化物2%含む)  
3. 2. 5Y4/1黄灰色極細粒砂(マンガン粒20%含む、炭化物2%含む)  
4. 2. 5Y4/2暗灰黄色極細粒砂(炭化物70%含む)  
5. 2. 5Y4/3オリブ褐色極細粒砂
- 【SK10016】  
6. 10YR4/3にふい黄褐色極細粒砂(10YR5/3にふい黄褐色極細粒砂ブロック2%含む)
- 【SK10015】  
7. 10YR4/1褐灰色極細粒砂(10YR5/3にふい黄褐色極細粒砂ブロック10%含む)  
8. 10YR3/3暗褐色極細粒砂(10YR5/3にふい黄褐色極細粒砂ブロック5%含む)

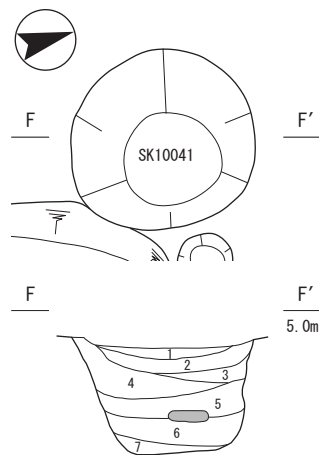


- 【SK10040】  
1. 2. 5Y5/1黄灰色極細粒砂(マンガン粒5%、砂礫20%、炭化物2%未満含む)  
2. 2. 5Y3/1黒褐色シルト(2. 5YR5/1黄灰色極細粒砂10%、炭化物10%未満含む)  
3. 2. 5Y5/2暗灰黄色(マンガン粒20%含む)

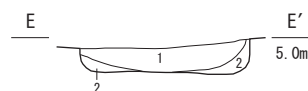
- 【SK10032】  
1. 10YR3/1黒褐色極細粒砂(焼土ブロック2%、礫10%含む)  
2. 10YR4/1褐灰色極細粒砂(10YR5/1褐灰色極細粒砂5%、マンガン粒含む)  
3. 2. 5Y4/1褐灰色極細粒砂(10YR5/1褐灰色極細粒砂10%、マンガン粒含む)



- 【SK10027】  
1. 7. 5YR4/2灰褐色極細粒砂  
(10YR5/6黄褐色シルトブロック1%、炭化物1%未満含む)  
2. 7. 5YR4/2灰褐色極細粒砂と7. 5YR4/3褐色極細粒砂が混ざる



- 【SK10041】  
1. 10YR3/1黒褐色極細粒砂～シルト(炭化物5%含む)  
2. 10YR3/2黒褐色極細粒砂(10YR6/6明黄褐色シルトブロック10%含む)  
3. 10YR5/6黄褐色極細粒砂(10YR3/3暗褐色極細粒砂ブロック5%含む)  
4. 10YR3/3暗褐色極細粒砂(10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック30%含む)  
5. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂(10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック5%、炭化物1%未満含む)  
6. 10YR3/3暗褐色極細粒砂(10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック40%含む)  
7. 10YR3/4暗褐色極細粒砂(10YR5/6黄褐色極細粒砂ブロック5%含む)



- 【SK10033】  
1. 10YR3/1黒褐色極細粒砂(10YR4/3にふい黄褐色極細粒砂ブロック10%、炭化物5%含む)  
2. 2. 5Y5/2暗灰黄色シルト(2. 5Y5/1黄灰色シルトブロック5%未満含む)



第Ⅲ -65 図 S K 10013, 10014, 10015, 10016, 10027, 10032, 10033, 10040, 10041 平面図・土層断面図(1:50)



部分は長軸 0.7m、短軸 0.3m 以上、検出面からの深さ 0.1m である。S K 10007 と重複している。

埋土から遺物の出土は確認できなかった。

#### S K 10010 (第Ⅲ -64 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.2m、短軸 1.1m、検出面からの深さは 0.5m である。土坑と考えられる。埋土には 0.1 ~ 0.4m の礫が入り込んでいた。

埋土から近世の磁器碗などが出土した。

#### S K 10013 (第Ⅲ -65 図)

平面形は隅丸方形、規模は長辺 1.2m、短辺 1.1m、検出面からの深さ 0.1m である。土坑と考えられる。

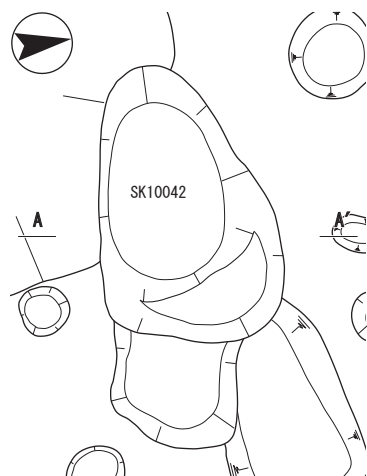
埋土から 17 世紀後半の陶器碗などが出土した。

#### S K 10014 (第Ⅲ -65 図)

平面形は不整円形、規模は長軸 2.2m、短軸 1.3m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から 17 世紀後半の陶器茶入、磁器加工円盤などが出土した。

#### S K 10015 (第Ⅲ -65 図)



##### 【SK10042】

1. 10YR3/3暗褐色極細粒砂(炭化物、礫1%未満含む)
2. 10YR4/1褐灰色極細粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂が混ざる(炭化物1%未満含む)
3. 10YR4/1褐灰色極細粒砂(10YR5/6黄褐色シルトブロック5%未満含む)
4. 10YR3/3暗褐色極細粒砂(10YR 5/6黄褐色シルトブロック20%含む)
5. 10YR4/1褐灰色極細粒砂と10YR6/6明黄褐色極細粒砂が混ざる



他遺構との重複などで全体を確認できなかった。残存部分は長軸 1.3m、短軸 1.0m 以上、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。遺構の北側で S K 10014、南側で S K 10016 と重複している。

埋土から 17 世紀前半の陶器播鉢などが出土した。

#### S K 10016 (第Ⅲ -65 図)

攪乱などにより全体を確認できなかった。残存部分は長軸 1.1m、短軸 0.3m 以上、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から 19 世紀初頭前後の陶器皿、陶器播鉢、磁器碗などが出土した。

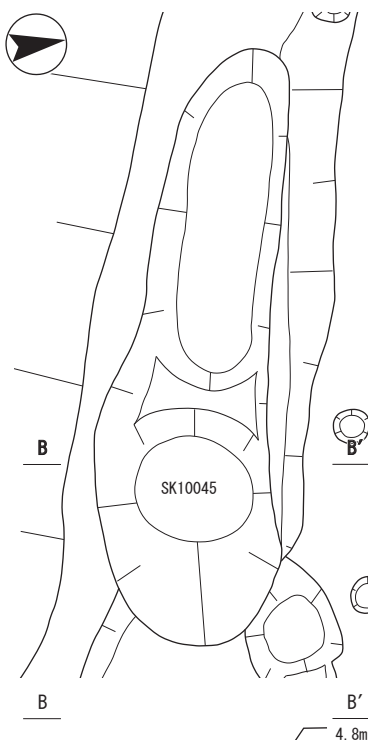
#### S K 10017

平面形は楕円形、規模は長軸 1.2m、短軸 1.0m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、13 世紀前半の山皿、土錘などが出土した。

#### S K 10018

平面形は楕円形、規模は長軸 1.7m、短軸 1.5m、



##### 【SK10045】

1. 2. 5Y4/3オリーブ褐色シルトと10YR3/4暗褐色極細粒砂が混ざる
2. 2. 5Y3/2黒褐色極細粒砂(2. 5Y5/3黄褐色極細粒砂ブロック30%含む)
3. 2. 5Y5/2暗灰黄色極細粒砂
4. 2. 5Y3/1黒褐色極細粒砂

第Ⅲ -66 図 S K 10042, 10045 平面図・土層断面図 (1:50)



検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 15 世紀前半の土師器皿などが出土した。

#### S K 10021 (第Ⅲ -64 図)

平面形は不整円形、規模は長軸 1.5m、短軸 1.4m、検出面からの深さは 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から 15 世紀前半の土師器皿、土師器茶釜、山茶碗などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。

#### S K 10022 (第Ⅲ -64 図)

他遺構との重複などで全体を確認できなかった。残存部分は長軸 1.1m、短軸 0.9m 以上、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。遺構西側で S D 32006、北東側で S K 10021 と重複している。

埋土から遺物の出土は確認できなかった。

#### S K 10027 (第Ⅲ -65 図)

平面形は隅丸長方形、規模は長辺 0.9m、短辺 0.8m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。埋土には炭化物が含まれていた。

埋土から土師器皿、15 世紀代の須恵器鉢などが出土した。

#### S K 10028

平面形は楕円形、規模は長軸 2.6m、短軸 1.2m、検出面からの深さは 0.3m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、陶器碗、陶器壺、19 世紀前半の磁器蓋などが出土した。

#### S K 10032 (第Ⅲ -65 図)

平面形は円形、規模は直径 1.1m、検出面からの深さ 0.3m である。土坑と考えられる。S D 44015 と重複している。

埋土から土師器皿、土師器焙烙、陶器香炉、陶器蓋、19 世紀前半の磁器猪口、青磁碗、敲石などが出土した。出土遺物の時期は、17 世紀中頃前後と考えられる遺物もあり幅がある。

#### S K 10033 (第Ⅲ -65 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 1.1m、短軸 1.0m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 17 世紀代の土師器焙烙などが出土した。

#### S K 10038

平面形は長方形、長辺 1.9m、短辺 1.2m、検出面からの深さ 0.2m である。土坑と考えられる。

埋土から 13 世紀前半の山皿などが出土した。

#### S K 10040 (第Ⅲ -65 図)

他遺構との重複などで全体を確認できなかった。残存部分は長軸 1.4m、短軸 1.3m、検出面からの深さは 0.3m である。遺構の東側で S K 10032 と重複する。

埋土から土師器茶釜、18 世紀後半の磁器碗などが出土した。出土遺物の時期は、16 世紀代と考えられるものもあり幅がある。

#### S K 10041 (第Ⅲ -65 図)

平面形は円形、規模は直径 1.2m の円形、検出面からの深さ 0.8m である。土坑と考えられる。ほぼ垂直に掘り込まれ、底面は平坦であった。

埋土から土師器皿、13 世紀前半の山皿、石鍋、鉄製 L 字状製品などが出土した。

#### S K 10042 (第Ⅲ -66 図)

平面形は楕円形、規模は長軸 2.6m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.4m である。土坑と考えられる。

埋土から土師器皿、土師器焙烙、陶器碗、陶器皿、陶器片口鉢、陶器土瓶、19 世紀中頃前後の磁器碗、磁器小坏、磁器皿、土製魚形製品、土製炉壁、瓦、砥石などが出土した。出土遺物の時期は、17 世紀末前後と考えられる遺物もあり幅がある。

#### S K 10045 (第Ⅲ -66 図)

平面形は不整円形、規模は長軸 4.0m、短軸 1.2m、検出面からの深さ 0.5m である。土坑と考えられる。S D 32006 と重複している。

埋土から土師器皿、陶器播鉢、磁器碗、19 世紀前半の磁器蓋、磁器鉢、石製円盤状製品、鉄製鎌などが出土した。

#### S K 10047 (第Ⅲ -64 図)

他遺構との重複などで全体を確認できなかった。残存部分は長軸 1.0 m、短軸 0.8 m 以上、検出面からの深さ 0.1 m である。土坑と考えられる。遺構の北側で S K 10021 と重複している。

埋土から遺物の出土は確認できなかった。

## 第5節 溝

溝については、記号はSDとした。軸の方向は、座標北から東西方向のいずれかに傾く。南北方向に延びるものはN $0^{\circ}$  E、N $0^{\circ}$  Wと表記した。東西方向に延びるものはN $0^{\circ}$  Eのみとした。遺構番号は、発掘調査は複数年度にわたっており、年度ごとに付与されている。そのため、遺構のつながりなどを整理したうえで、以下に報告する。溝の位置や規模などについては、第Ⅲ-8表～第Ⅲ-16表を参照ねがいたい。

### SD 20022 (第Ⅲ-77図)

規模は、調査区内での延長21.1m以上、幅0.3～0.6m、検出面からの深さ0.1mである。軸の方向はN $92^{\circ}$  E、東西方向に延びる溝である。L-D10で南側に屈曲する。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から山茶碗や14世紀前半の陶器皿などが出土した。出土遺物の時期は、13世紀前半と考えられるものもあり幅がある。14世紀前半までは存在したものといえよう。

### SD 20028

規模は、調査区内での延長7.1m以上、幅0.3m以上、検出面からの深さ0.1mである。軸の方向がN $104^{\circ}$  Eも溝である。途中で掘り込みが確認できなかった。調査時点のSD 80013とつながる。

埋土から陶器播鉢や16世紀代の土師器鍋などが出土した。出土遺物の時期は、若干の幅がある。16世紀代までは存在したものといえよう。

### SD 20041 (第Ⅲ-77図)

規模は、調査区内での延長14.7m、幅0.3～0.8m、検出面からの深さ0.1mである。軸の方向はN $98^{\circ}$  Eである。埋土から遺物の出土は確認できなかった。

### SD 31001 (第Ⅲ-67図)

規模は、調査区内での延長2.0m以上、幅1.0～1.2m、検出面からの深さ0.5mである。断面形はU字状となる。軸の方向がN $20^{\circ}$  Eの溝である。調査時点のSD 90002とつながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から土師器皿、15世紀前半の土師器鍋、須

恵器鉢、山茶碗、陶器皿、陶器壺、白磁碗、青磁碗、青白磁梅瓶、土錘、砥石、磨石などが出土した。出土遺物の時期は、12世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。15世紀前半までは存在したものといえよう。

### SD 31002 (第Ⅲ-67図)

規模は、調査区内での延長2.0m以上、幅0.5～1.0m、検出面からの深さ0.3mである。断面形はU字状となる。軸の方向がN $20^{\circ}$  Eの溝である。調査時点のSD 70008とつながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から16世紀前半の土師器鍋、陶器甕などが出土した。出土遺物の時期は、14世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。16世紀前半までは存在したものであろう。

### SD 31009 (第Ⅲ-67図)

規模は、調査区内での延長18.0m以上、幅0.3～0.9m、検出面からの深さ0.3mである。断面形はU字状となる。軸の方向はN $15^{\circ}$  E、南北方向に延びる溝である。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から16世紀代の土師器鍋、石製円盤状製品などが出土した。16世紀代までは存在したものといえよう。

### SD 31011 (第Ⅲ-67図)

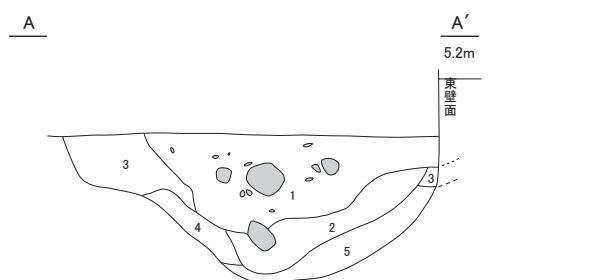
規模は、調査区内での延長17.0m以上、幅0.5～0.7m、検出面からの深さ0.3mである。断面形はU字状となる。軸の方向はN $21^{\circ}$  Eである。調査時点のSD 70017とつながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から16世紀代の土師器鍋、山茶碗、山皿、陶器鉢、陶器壺、青磁碗などが出土した。出土遺物の時期は、12世紀後半と考えられる遺物もあり幅がある。16世紀代までは存在したものであろう。

### SD 31020 (第Ⅲ-67図)

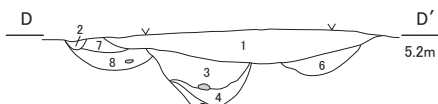
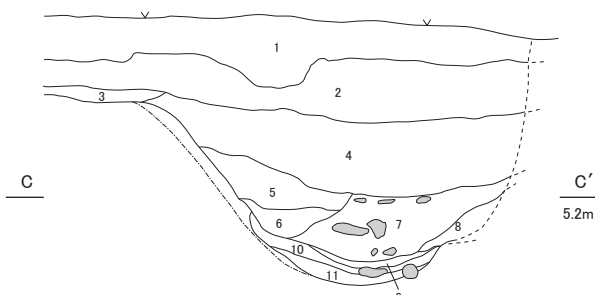
規模は、調査区内での延長16.0m以上、幅0.4～0.7m、検出面からの深さ0.3～0.5mである。軸の方向はN $21^{\circ}$  Eである。調査時点のSD 70018とつながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分





【SD32006(41001)】

1. 10YR4/4褐色シルト(礫含む、土器類大量に含む)
2. 2.5Y4/3にぶい褐色砂質土
3. 2.5Y4/6オリーブ褐色砂質土(10YR4/4褐色シルト20%含む)
4. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質土(砂礫含む)
5. 2.5Y3/2暗褐色砂質土(砂礫含む)



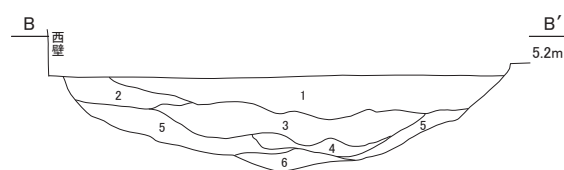
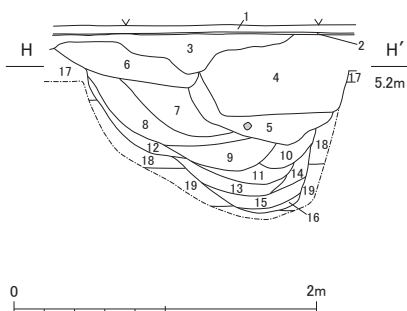
【SD31001・SD31002・SD31009・SK31010】

1. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト～極細粒砂(10YR5/6黄褐色シルトブロック20%含む)【SK31010埋土】
2. 10YR3/2黒褐色シルト
3. 10YR3/3暗褐色シルト(炭化物2%含む)【SD31001埋土】
4. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト～極細粒砂【SD31001埋土】
5. 10YR4/2灰黄褐色シルト～極細粒砂と10YR4/4褐色シルトが混ざる【SD31001埋土】
6. 10YR4/2灰黄褐色シルト(10YR6/4にぶい黄褐色シルト70%含む)【SD31009埋土】
7. 10YR5/4にぶい黄褐色シルト～極細粒砂【SD31002埋土】
8. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト～極細粒砂(10YR6/4にぶい黄褐色シルト50%含む)【SD31002埋土】



【SD31001・SD31002】

1. 10YR3/2黒褐色極細粒砂(10YR5/6黄褐色シルトブロック5%、礫含む)【SD31001埋土】
2. 10YR3/3暗褐色極細粒砂(礫、炭化物1%未満含む)【SD31001埋土】
3. 7.5YR3/4暗褐色極細粒砂【SD31001埋土】
4. 10YR4/4褐色極細粒砂～シルト(10YR6/4にぶい黄褐色シルトブロック10%含む)【SD31002埋土】

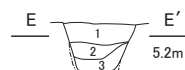


【SD32006(43003)】

1. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土(礫、炭化物少量含む)
2. 2.5Y5/4黄褐色砂質土(炭化物微量含む)
3. 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質土(礫、炭化物微量含む)
4. 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質土(礫、炭化物微量含む)
5. 2.5Y5/4黄褐色粘質土(礫、炭化物微量含む)
6. 2.5Y5/2暗灰黄色細砂(礫、炭化物少量含む)

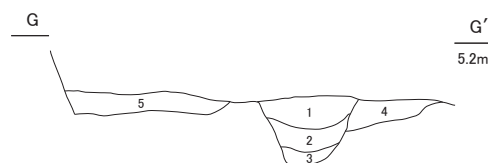
【SD32006(33001)】 東壁

1. 7.5YR3/3暗褐色シルトと10YR6/8明黄褐色極細粒砂～中粒砂が層状に堆積(礫含む)
2. 7.5YR3/4暗褐色シルト～極細粒砂(炭化物1%未満含む)
3. 7.5YR4/6褐色シルト～極細粒砂(礫多量含む)
4. 10YR3/3暗褐色シルト～細粒砂(礫含む)【SD33001埋土】
5. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト～極細粒砂【SD33001埋土】
6. 10YR4/2灰黄褐色シルト～極細粒砂【SD33001埋土】
7. 10YR3/2黒褐色シルト～極細粒砂(礫含む)【SD33001埋土】
8. 10YR4/2灰黄褐色シルト【SD33001埋土】
9. 10YR5/2灰黄褐色粘土【SD33001埋土】
10. 10YR3/2黒褐色極細砂(礫20%、炭化物1%未満含む)【SD33001埋土】
11. 10YR3/1黒褐色極細砂(礫30%含む)【SD33001埋土】



【SD31011】

1. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト～粘土
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト
3. 10YR4/2灰黄褐色シルトに10YR5/1褐灰色極細粒砂が混ざる



【SD31001・SD31002】 南壁

1. 10YR3/2黒褐色極細粒砂(10YR5/6黄褐色シルトブロック5%、礫含む)【SD31001埋土】
2. 10YR3/3暗褐色極細粒砂(礫、炭化物1%未満含む)【SD31001埋土】
3. 7.5YR3/4暗褐色極細粒砂【SD31001埋土】
4. 10YR4/4褐色極細粒砂～シルト(10YR6/4にぶい黄褐色シルトブロック10%含む)【SD31002埋土】
5. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト～極細粒砂【SD31009埋土】

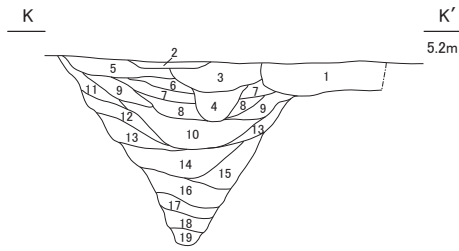
【SD44015(70016)】

1. 砕石
2. 10YR7/8黄褐色シルト【盛土】
3. 10YR4/1灰色シルト(礫、炭化物含む)【攪乱】
4. 砕石・コンクリート【攪乱】
5. 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト～極細粒砂(鉄分、炭化物含む)【SD70016埋土】
6. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト(礫含む)【SD70016埋土】
7. 10YR4/2灰黄褐色シルト(炭化物含む)【SD70016埋土】
8. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト(炭化物含む)【SD70016埋土】
9. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト～粘土(礫含む)【SD70016埋土】
10. 2.5Y4/2灰黄褐色極細粒砂と10YR5/6黄褐色極細粒砂が混じる
11. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト～粘土【SD70016埋土】
12. 10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR5/6黄褐色極細粒砂が混じる【SD70016埋土】
13. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト【SD70016埋土】
14. 10YR5/2灰黄褐色極細粒砂と10YR5/6黄褐色極細粒砂が混じる【SD70016埋土】
15. 2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂と2.5Y5/2暗灰黄色シルトが混じる【SD70016埋土】
16. 2.5Y5/3黄褐色極細粒砂と2.5Y5/2暗灰黄色シルトが混じる【SD70016埋土】
17. 10YR5/6黄褐色極細粒砂【遺構基盤層】
18. 2.5Y4/6オリーブ褐色極細粒砂と2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂が混じる【遺構基盤層】
19. 10YR5/6黄褐色シルト～極細粒砂【遺構基盤層】
20. 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂【遺構基盤層】

第Ⅲ -68 図 S D 31001, 31002, 31009, 31011, 32006, 44015 土層断面図 (1:50)

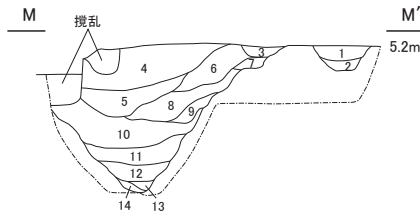






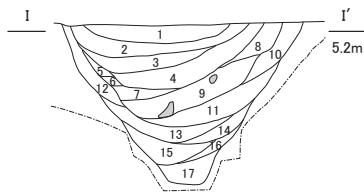
【SD44015(10023)】

- 7.5YR3/3暗褐色砂礫混礫[埋戻土※第5次調査区埋戻土]
- 7.5YR3/1黒褐色極細粒砂混砂礫[攪乱]
- 2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂(礫1%含む)
- 2.5Y4/2暗灰黄色極細粒砂(2.5Y5/2暗灰黄色細粒砂20%含む) [SD10039埋土]
- 10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂(10YR3/2黒褐色極細粒砂ブロック1%含む) [SD10023埋土]
- 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂(10YR4/1褐灰色極細粒砂ブロック1%含む) [SD10023埋土]
- 2.5Y4/4オリーブ褐色極細粒砂[SD10023埋土]
- 2.5Y3/3暗オリーブ褐色極細粒砂(10YR4/1褐灰色極細粒砂ブロック1%含む) [SD10023埋土]
- 10YR4/4褐色極細粒砂(炭化物1%未満含む) [SD10023埋土]
- 10YR3/2黒褐色極細粒砂(10YR4/3オリーブ褐色極細粒砂ブロック20%含む) [SD10023埋土]
- 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂(10YR4/1褐灰色極細粒砂ブロック10%含む) [SD10023埋土]
- 10YR3/3暗褐色極細粒砂(10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂ブロック5%含む) [SD10023埋土]
- 10YR3/4暗褐色極細粒砂(10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂ブロック10%含む) [SD10023埋土]
- 10YR3/2黒褐色極細粒砂(10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロック20%含む) [SD10023埋土]
- 10YR3/3暗褐色極細粒砂(10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロック30%含む) [SD10023埋土]
- 10YR2/2黒褐色極細粒砂(10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロック50%含む) [SD10023埋土]
- 10YR2/3黒褐色極細粒砂(10YR4/3にぶい黄褐色シルトブロック10%含む) [SD10023埋土]
- 10YR3/3暗褐色シルト(10YR4/3にぶい黄褐色シルトブロック5%、炭化物1%未満含む) [SD10023埋土]
- 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂(10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂5%、炭化物1%含む) [SD10023埋土]



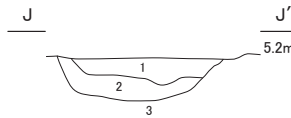
【SD31002(70008)・70009・44015(70010)】

- 10YR3/3黒褐色シルト～極細粒砂[SD70008埋土]
- 10YR4/3にぶい黄褐色シルト[SD70008埋土]
- 10YR4/2灰黄褐色シルト[SD70009埋土]
- 攪乱
- 10YR5/2灰黄褐色極細粒砂  
(10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロック10%、炭化物1%未満含む) [SD70010埋土]
- 10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂  
(10YR4/2灰黄褐色シルト5%、炭化物1%未満含む) [SD70010埋土]
- 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂  
(10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロック5%、炭化物1%未満含む) [SD70010埋土]
- 10YR4/3灰黄褐色極細粒砂[SD70010埋土]
- 10YR3/2黒褐色極細粒砂  
(10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロック5%未満、炭化物1%未満含む) [SD70010埋土]
- 10YR3/3暗褐色極細粒砂(炭化粒1%未満含む) [SD70010埋土]
- 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂(10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロック10%、10YR4/1褐灰色シルト5%未満含む) [SD70010埋土]
- 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂～細粒砂[SD70010埋土]
- 10YR4/1褐灰色極細粒砂(白色シルトブロック5%未満含む) [SD70010埋土]
- 10YR3/1黒褐色極細粒砂(白色シルトブロック5%未満含む) [SD70010埋土]
- 10YR4/1褐灰色極細粒砂～シルト(10YR4/1褐灰色シルトブロック1%含む) [SD70010埋土]



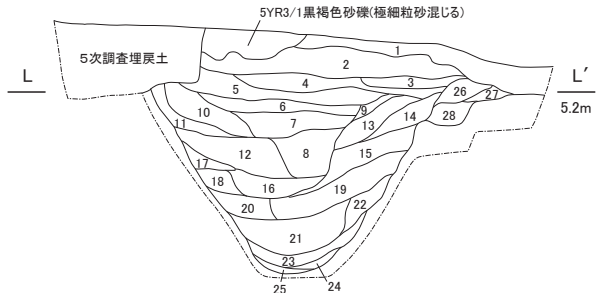
【SD44015(70010)】

- 10YR5/4にぶい黄褐色シルト(礫1%、炭化物含む)
- 10YR4/4褐色シルト(炭化物含む)
- 10YR4/3にぶい黄褐色シルト～極細粒砂(炭化物含む)
- 10YR6/6明黄褐色シルト～極細粒砂と10YR6/2灰黄褐色極細粒砂が混じる
- 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂～シルト(砂礫1%含む)
- 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂～シルト
- 10YR5/2灰黄褐色極細粒砂(砂礫1%未満含む)
- 10YR4/4褐色シルト(10YR5/6黄褐色シルトブロック5%、礫1%未満含む)
- 10YR5/2灰黄褐色極細粒砂(砂礫1%未満含む)
- 10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂(10YR5/6黄褐色シルトブロック10%、炭化物含む)
- 10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂と10YR6/2灰黄褐色極細粒砂が混じる
- 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂～シルト(炭化物含む)
- 2.5YR4/4オリーブ褐色極細粒砂と2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂が混じる(炭化物含む)
- 2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂～細粒砂(炭化物含む)
- 2.5Y5/3黄褐色極細粒砂と2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂が混じる(炭化物含む)
- 2.5Y4/2暗灰黄色極細粒砂と5Y4/2灰オリーブ色極細粒砂が混じる(炭化物含む)
- 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト～極細粒砂



【SD44030(51007)】

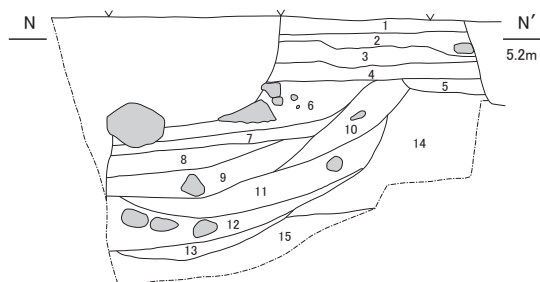
- 10YR5/2灰黄褐色砂質土
- 10YR6/3にぶい黄褐色砂質土



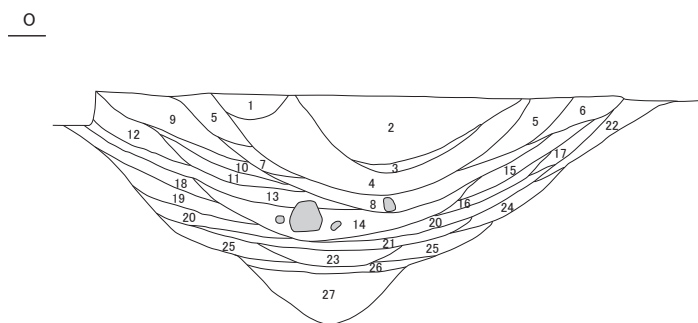
【SD31002(70008)・44015(70010)】

- 2.5Y3/3暗オリーブ褐色極細粒砂～砂礫
- 5YR3/1黒褐色砂礫(極細粒砂含む)
- 7.5YR4/2灰褐色極細粒砂(礫少量含む)
- 7.5YR3/3暗褐色極細粒砂(黄褐色シルトブロック5%含む) [SD70010埋土]
- 7.5YR4/3褐色極細粒砂(砂礫少量含む) [SD70010埋土]
- 7.5YR4/2灰褐色極細粒砂(砂礫少量含む) [SD70010埋土]
- 10YR4/4褐色シルト～極細粒砂[SD70010埋土]
- 10YR5/3にぶい黄褐色シルト～極細粒砂[SD70010埋土]
- 10YR6/3にぶい黄褐色シルト～極細粒砂[SD70010埋土]
- 10YR5/3にぶい褐色シルト[SD70010埋土]
- 10YR4/4褐色極細粒砂[SD70010埋土]
- 10YR3/2黒褐色極細粒砂(シルト10%含む) [SD70010埋土]
- 10YR5/2灰黄褐色シルト(10YR3/2黒褐色シルトブロック10%含む) [SD70010埋土]
- 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト[SD70010埋土]
- 2.5Y4/2暗灰黄色シルト～極細粒砂[SD70010埋土]
- 10YR3/2黒褐色シルト～極細粒砂(シルト5%含む) [SD70010埋土]
- 10YR3/2黒褐色極細粒砂(シルトブロック10%含む) [SD70010埋土]
- 10YR3/2黒褐色極細粒砂(シルトブロック40%含む) [SD70010埋土]
- 10YR3/3黒褐色極細粒砂(シルトブロック50%含む) [SD70010埋土]
- 2.5Y3/3暗オリーブ褐色極細粒砂(シルトブロック5%含む) [SD70010埋土]
- 2.5Y4/2暗灰黄色極細粒砂(シルトブロック10%含む) [SD70010埋土]
- 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂(シルトブロック5%含む) [SD70010埋土]
- 2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂(シルトブロック1%未満含む) [SD70010埋土]
- 10YR5/1褐灰色極細粒砂(シルトブロック5%含む) [SD70010埋土]
- 10YR4/2灰黄褐色シルト～極細粒砂[SD70010埋土]
- 10YR5/3にぶい黄褐色シルト～極細粒砂[SD70010埋土]
- 10YR3/4暗褐色極細粒砂[SD70008埋土]
- 10YR4/4褐色極細粒砂[SD70008埋土]
- 10YR4/4褐色シルト[SD70008埋土]

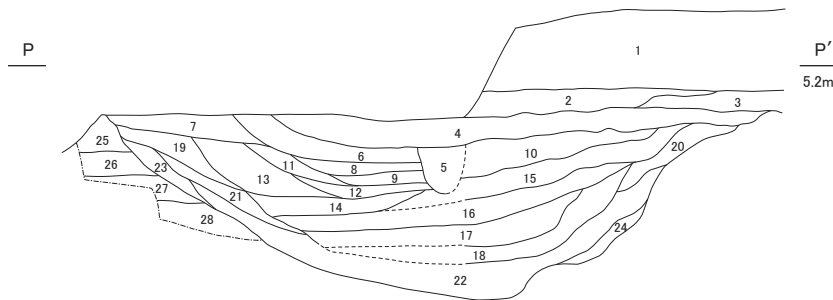
第Ⅲ -70 図 S D 31002, 44015, 44030 土層断面図(1:50)



- 【SD32006(70001)】
- 10YR5/4にぶい黄褐色シルト〔表土〕
  - 2.5Y4/2暗灰黄色粘土〔造成土〕
  - 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(砂礫含む)〔遺物包含層〕
  - 10YR4/4褐色シルト(10YR6/6明黄褐色シルトブロック5%、砂礫、炭化物含む)
  - 10YR5/3にぶい黄褐色シルト(10YR6/6明黄褐色シルトブロック20%含む)
  - 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック、礫含む)〔SD70001埋土〕
  - 10YR4/2灰黄褐色シルト〔SD70001埋土〕
  - 2.5Y4/6オリーブ褐色シルト〔SD70001埋土〕
  - 10YR4/2灰黄褐色シルト(礫含む)〔SD70001埋土〕
  - 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト(礫含む)〔SD70001埋土〕
  - 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト(炭化物含む)〔SD70001埋土〕
  - 10YR3/3暗褐色シルト～極細粒砂(礫含む)〔SD70001埋土〕
  - 2.5Y3/3暗オリーブ褐色極細粒砂〔SD70001埋土〕
  - 10YR5/6黄褐色シルト～極細粒砂〔検出面〕
  - 7.5Y5/1灰色極細粒砂と10YR6/6明黄褐色極細粒砂が混じる〔検出面〕



- 【SD32006(10001)】
- 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂と10YR5/2灰黄褐色極細粒砂が混じる(砂礫10%未満含む)
  - 10YR4/4褐色極細粒砂(10YR5/6黄褐色シルトブロック30%、砂礫10%含む)
  - 10YR3/4暗褐色極細粒砂(炭化物1%未満含む)
  - 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂(砂礫20%含む)
  - 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂
  - 10YR4/6褐色極細粒砂(10YR5/2灰黄褐色極細粒砂ブロック10%含む)
  - 10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂
  - 10YR4/4褐色極細粒砂
  - 10YR4/6褐色極細粒砂と10YR6/4にぶい黄褐色極細粒砂が混じる
  - 10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂～シルト
  - 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂～シルト
  - 10YR6/4にぶい黄褐色極細粒砂
  - 10YR4/4褐色極細粒砂
  - 10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂～シルト(砂礫10%未満含む)
  - 10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂
  - 2.5Y5/3黄褐色極細粒砂
  - 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂
  - 10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂～シルト
  - 10YR6/4にぶい黄褐色極細粒砂～シルト
  - 10YR6/3にぶい黄褐色極細粒砂～シルト
  - 2.5Y6/3にぶい黄色極細粒砂～シルト
  - 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂
  - 2.5Y6/1黄灰色極細粒砂と2.5Y5/4黄褐色極細粒砂が混じる
  - 2.5Y5/4黄褐色極細粒砂
  - 2.5Y6/1黄灰色極細粒砂と7.5YR4/4褐色極細粒砂がラミ状に堆積
  - 5Y6/2灰オリーブ色細粒砂と7.5YR4/4褐色極細粒砂がラミ状に堆積
  - 5Y4/2灰オリーブ色細粒砂～中粒砂と2.5YR6/4にぶい黄色極細粒砂がラミ状に堆積



- 【SD32006】
- 2.5Y3/1黒褐色極細粒砂～砂礫〔埋戻土〕
  - 2.5Y3/2黒褐色極細粒砂～細粒砂(オリーブ褐色極細粒砂20%含む)
  - 2.5Y5/3暗オリーブ色極細粒砂(砂礫1%未満、炭化物5%含む)
  - 10YR3/3暗褐色極細粒砂～細粒砂(灰白色シルトブロック5%、礫、炭化物20%含む)
  - 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂～細粒砂(炭化物1%未満含む)
  - 2.5Y4/2暗灰黄色極細粒砂～細粒砂(黄褐色極細粒砂10%含む)
  - 10YR4/2灰黄褐色シルト
  - 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト(炭化物1%未満含む)
  - 2.5Y3/2黒褐色シルト(橙色シルトブロック5%、炭化物5%含む)
  - 10YR3/2黒褐色極細粒砂～細粒砂(砂礫2%、炭化物1%含む)
  - 10YR3/3暗褐色シルト(礫20%含む)
  - 10YR3/3暗褐色シルト(礫5%含む)
  - 10YR4/3にぶい黄褐色シルト(炭化物1%未満含む)
  - 10YR4/2灰黄褐色シルト
  - 10YR4/3にぶい黄褐色シルト～極細粒砂(砂礫1%未満含む)
  - 10YR4/2灰黄褐色シルト～極細粒砂(礫含む)
  - 10YR3/2黒褐色シルト(灰白色シルトブロック20%、炭化物1%未満含む)
  - 10YR3/3暗褐色シルト(灰白色シルトブロック10%、炭化物含む)
  - 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂
  - 7.5YR4/2灰褐色シルト(灰白色シルトブロック5%含む)
  - 10YR4/4褐色シルト～極細粒砂
  - 10YR3/2黒褐色シルト(灰白色シルトブロック5%、炭化物含む)
  - 2.5Y4/2暗灰黄色極細粒砂(黄褐色極細粒砂5%含む)
  - 10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂～シルト〔ビット埋土〕
  - 10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂(上面土壌化による腐植物あり)〔検出面〕
  - 10YR5/6黄褐色極細粒砂〔検出面〕
  - 2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂～細粒砂〔検出面〕
  - 2.5Y5/4黄褐色シルト～極細粒砂〔検出面〕



第Ⅲ -71 図 S D 32006 土層断面図 (1:50)





するためのものといえよう。

埋土から14世紀代の土師器羽釜、山茶碗などが出土した。14世紀代までは存在したものといえよう。

#### SD 32004 (第Ⅲ -67 図)

規模は、調査区内での延長18.5m以上、幅0.3～1.5m、検出面からの深さ0.1～0.5mである。断面形は逆三角形状となる。調査時点のSD 33002、SD 42007 とつながる。軸の方向はN 21° Eである。

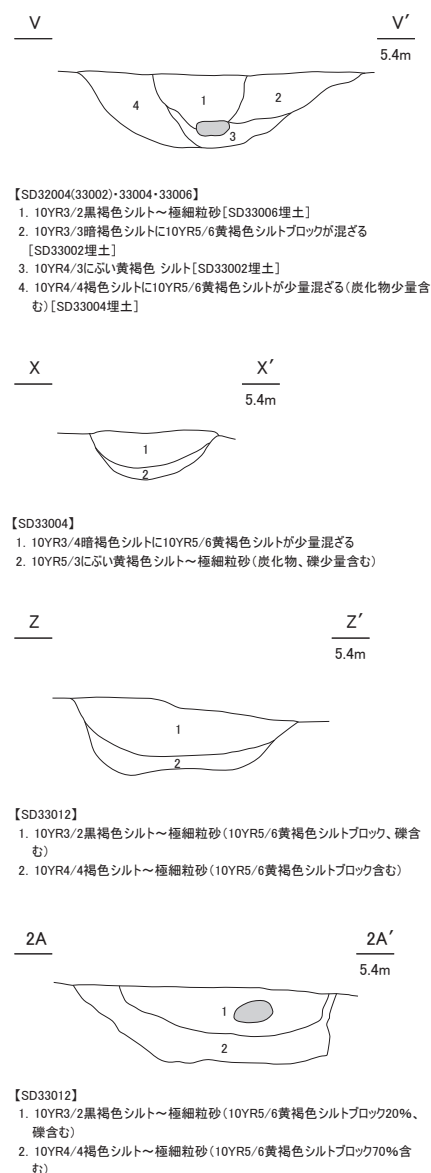
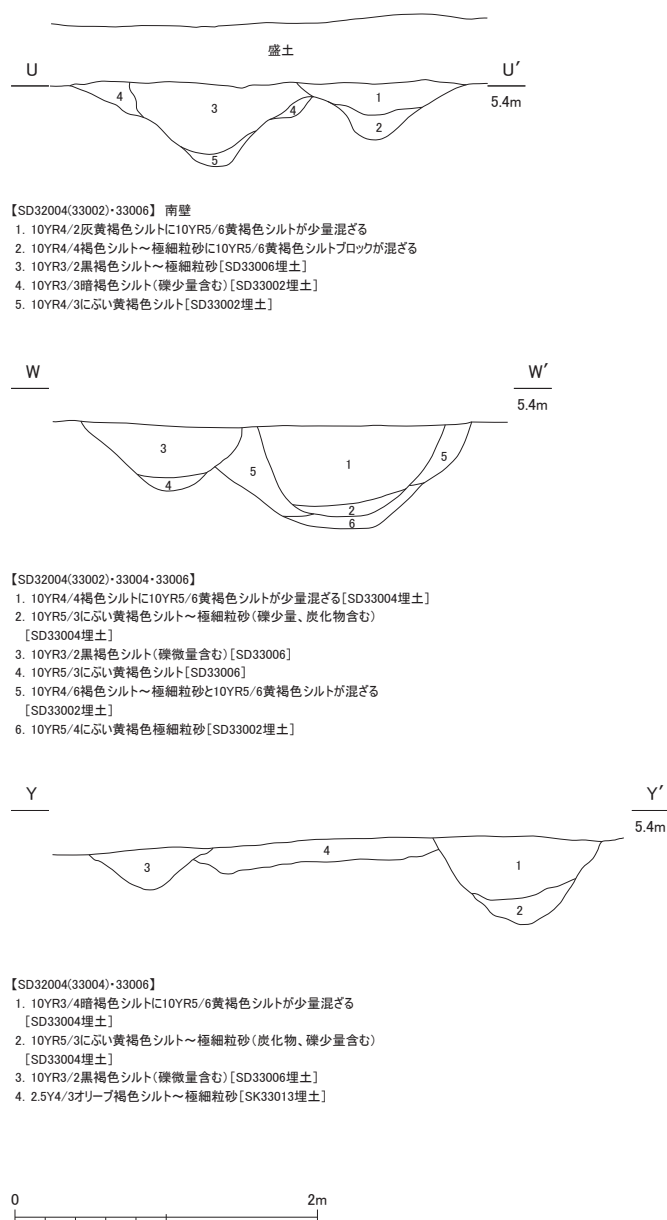
埋土から土師器皿、13世紀前半の山茶碗、陶器鉢、白磁碗、鉄製釘などが出土した。出土遺物の時期は、12世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。13

世紀前半までは存在したものであろう。

#### SD 32006 (第Ⅲ -67 図)

規模は、調査区内での延長30.5m以上、幅2.0～3.3m、検出面からの深さ0.3～1.1mである。断面形はU字状である。軸の方向はN 11° E、南北方向に延びる溝である。調査時点のSD 33001、SD 36001、SD 41001、SD 42009、SD 43003、SD 70001、SD 70011、SD 90001、SD 10001 につながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から土師器皿、土師器鍋、土師器焙烙、土師器羽釜、須恵器鉢、山茶碗、山皿、陶器碗、陶器皿、



第Ⅲ -73 図 SD 32004, 33004, 33006, 33012 土層断面図 (1:50)

SD 33004 (第Ⅲ-72 図)

埋土から土師器皿、14 世紀後半の土師器鍋、土師器羽釜、山茶碗、山皿、陶器卸皿、陶器鉢、陶器壺、陶器甕、青磁碗、鉄製釘などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。14 世紀後半までは存在したものであろう。

## SD 33006 (第Ⅲ-72 図)

規模は、調査区内での延長 10.0m 以上、幅 0.7 ～ 1.0m、検出面からの深さ 0.3 ～ 0.4m である。断面形は逆三角形状となる。軸の方向が N 84° E の溝である。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から17世紀前半の土師器鍋、山皿などが出



第Ⅲ-74 図 溝平面図4(1:300)

土した。出土遺物の時期は、14 世紀前半と考えられる遺物もありかなりの幅がある。17 世紀前半までは断続的に存在したものだといえよう。

#### SD 33012 (第Ⅲ -72 図)

規模は、調査区内での延長 14.0m 以上、幅 1.7m、検出面からの深さ 0.3 ～ 0.5m である。断面形は U 字状となる。軸の方向は N 90° E、東西方向に延びる溝である。

埋土から土師皿、17 世紀前半の土師器鍋、瓦器皿、山茶碗、山皿、天目茶碗、陶器鉢、陶器甕、白磁皿、青磁碗、青白磁梅瓶などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀と考えられる遺物もありかなりの幅がある。17 世紀前半までは断続的に存在したものである。

#### SD 35003 (第Ⅲ -75 図)

規模は、調査区内での延長 16.0m 以上、幅 1.0 ～ 1.4m、検出面からの深さ 0.2 ～ 0.6m である。断面形は逆三角形状となる。軸の方向は N 95° E、東西方向に延びる溝である。調査時点の SD 36005、SD 51003 につながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から土師器鍋、山茶碗、陶器皿、陶器碗、16 世紀後半の陶器播鉢、陶器壺、陶器甕などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀前半と考えられる遺物もあり、かなりの幅がある。16 世紀後半までは断続的に存在したものだといえよう。

#### SD 35004 (第Ⅲ -75 図)

規模は、調査区内での延長 20.0m 以上、幅 2.5 ～ 5.0m、検出面からの深さ 0.9 ～ 1.5m である。断面形は逆三角形状となる。軸の方向は N 95° E である。調査時点の SD 36002、SD 44021、SD 51001、SD 70004 とつながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から土師器皿、土師器鍋、土師器焙烙、瓦質土器羽釜、灰釉陶器碗、山茶碗、山皿、19 世紀前半の陶器碗、天目茶碗、陶器皿、陶器卸皿、陶器鉢、陶器片口鉢、19 世紀前半の陶器播鉢、陶器火鉢、陶器花瓶、陶器甕、磁器碗、磁器皿、白磁碗、白磁壺、青磁碗、青磁香炉、青磁壺、瓦、石鍋、石製碾臼、砥石、石製円盤状製品、鉄鏃、鉄製小札、鉄製釘などが出土した。出土遺物の時期は、9 世紀前半と考

えられる遺物もあり、かなりの幅がある。19 世紀前半までは断続的に存在したものであろう。

#### SD 35007 (第Ⅲ -75 図)

規模は、調査区内での延長 20.0m 以上、幅 0.7 ～ 1.5m、検出面からの深さ 0.2 ～ 0.6m である。断面形は U 字状となる。軸の方向は N 91° E、東西方向に延びる溝である。調査時点の SD 36008 につながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から 18 世紀中頃以降の土師器皿、土師器鍋、山茶碗、山皿、天目茶碗、陶器片口鉢、陶器播鉢、陶器壺、陶器甕、白磁碗、白磁皿、白磁壺、軒丸瓦などが出土した。出土遺物の時期は、12 世紀中頃前後と考えられる遺物もあり幅がある。18 世紀中頃以降までは断続的に存在したものだといえよう。

#### SD 36003 (第Ⅲ -75 図)

規模は、調査区内での延長 12.0m 以上、幅 1.5m、検出面からの深さ 0.1 ～ 0.5m である。断面形は U 字状となる。軸の方向が N 95° E の溝である。調査時点の SD 51005、SD 70003 につながる。

埋土から土師器皿、土師器焙烙、山茶碗、陶器碗、陶器皿、陶器鉢、19 世紀前半の陶器播鉢、陶器德利、陶器壺、磁器仏餉具、土製人形、石製碾臼などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀前半と考えられる遺物もあり、かなりの幅がある。19 世紀前半までは断続的に存在したものであろう。

#### SD 36006 (第Ⅲ -75 図)

規模は、調査区内での延長 10.0m 以上、幅 1.4m、検出面からの深さ 1.0m である。軸の方向が N 95° E の溝である。

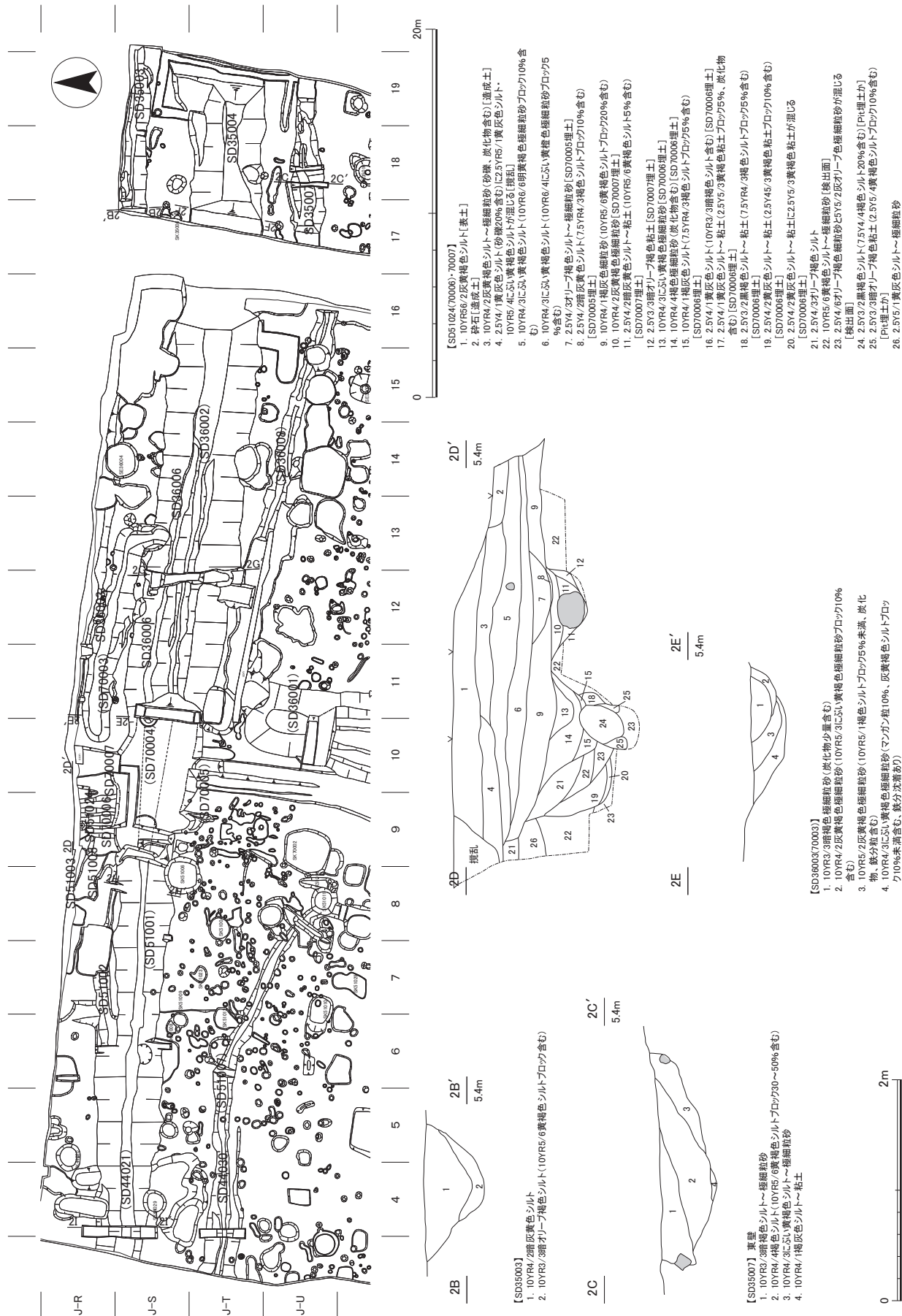
埋土から山茶碗、17 世紀代以降の銅製銭貨などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。17 世紀代までは断続的に存在したものだといえよう。

#### SD 36009

規模は、調査区内での延長 3.5m 以上、幅 1.0m 以上、検出面からの深さ 0.1 ～ 0.2m である。軸の方向が N 11° E の溝である。調査時点の SD 80001 につながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から 14 世紀前半の土師器鍋、土師器羽釜、





青磁碗などが出土した。出土遺物の時期は、12世紀後半と考えられる遺物もあり幅がある。14世紀前半までは断続的に存在したものであろう。

#### S D 37002 (第Ⅲ -74 図)

規模は、調査区内での延長 19.0m 以上、幅 0.5 ～ 0.9m、検出面からの深さ 0.1 ～ 0.3m である。軸の方向はN 0°、南北方向に延びる溝である。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から 13 世紀前半の山茶碗などが出土した。13 世紀前半までは断続的に存在したものでいえよう。

#### S D 37005 (第Ⅲ -74 図)

規模は、調査区内での延長 15.0m 以上、幅 0.7 ～ 1.0m、検出面からの深さ 0.3m である。軸の方向は

N 69° E、東西方向に延びる溝である。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

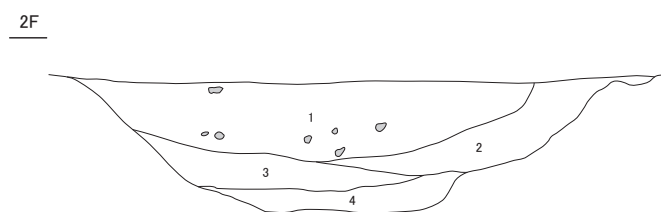
埋土から 15 世紀前半の土師器鍋などが出土した。

15 世紀前半までは断続的に存在したものであろう。

#### S D 37007 (第Ⅲ -74 図)

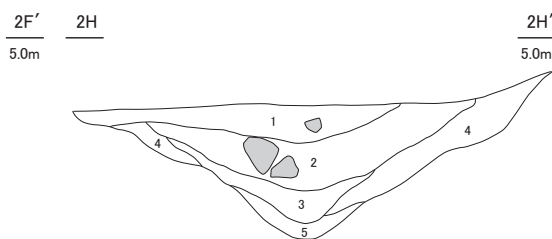
規模は、調査区内での延長 27.0m 以上、幅 0.2 ～ 3.0m、検出面からの深さ 0.1 ～ 0.8m である。軸の方向はN 75° E、東西方向に延びる溝である。調査時点のS D 37011、S D 53004、S D 53005 につながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から 15 世紀後半の土師器鍋、山茶碗、陶器鉢、陶器壺、陶器甕などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。15



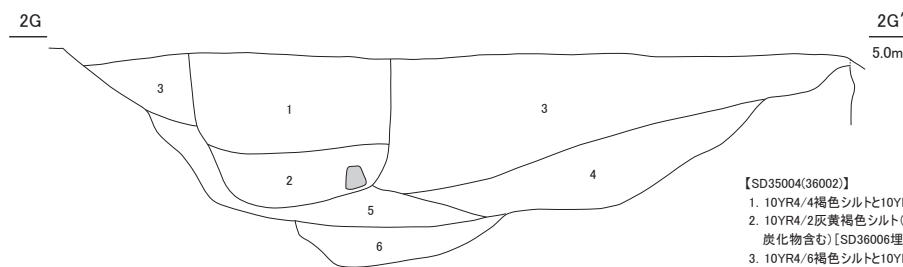
【SD35004】西壁

1. 10YR3/3暗褐色シルト～極細粒砂(礫、炭化物含む)
2. 10YR4/6褐色シルト～極細粒砂(地山ブロック含む)
3. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂(10YR5/1褐灰色シルトブロック10%、マンガン含む)
4. 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂～細粒砂(10YR5/1褐灰色粘土ブロック含む)



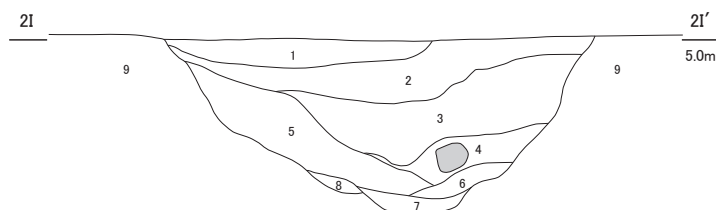
【SD35004(51001)】

1. 10YR6/2灰黄褐色砂質土(炭化物、鉄分含む)
2. 10YR6/3にぶち黄褐色砂質土(炭化物多量含む、礫含む)
3. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質土(炭化物、礫含む)
4. 2.5Y7/4浅黄色砂質土
5. 2.5Y7/1灰白色砂質シルト(鉄分多量含む、炭化物少量含む)



【SD35004(36002)】

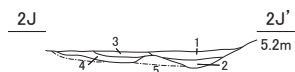
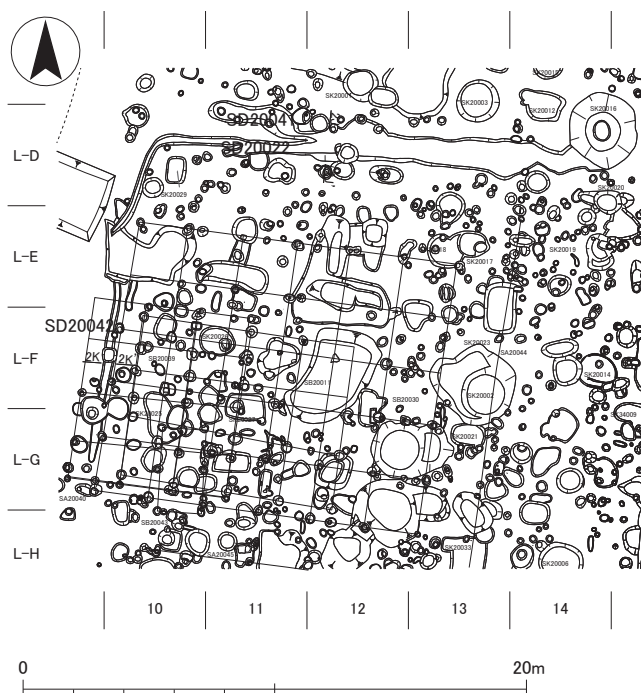
1. 10YR4/4褐色シルトと10YR3/3暗褐色シルトが混ざる【SD36006埋土】
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト(10YR4/1黄灰色粘土ブロック80%、マンガン、炭化物含む)【SD36006埋土】
3. 10YR4/6褐色シルトと10YR5/8黄褐色シルトが混ざる(礫含む)【SD36002埋土】
4. 10YR4/4褐色シルトと10YR5/6黄褐色シルト～極細粒砂が混ざる(礫含む)【SD36002埋土】
5. 10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR5/6黄褐色シルト～極細粒砂が混ざる(10YR5/2灰黄褐色粘土ブロック含む)【SD36002埋土】
6. 10YR4/1褐灰色シルト～極細粒砂【SD36002埋土】



【SD35004(44021)】

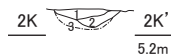
1. 2.5Y6/4にぶい黄色細粒砂
2. 2.5Y4/3黄褐色細粒砂(砂礫含む)
3. 2.5Y4/3オリブ褐色砂質土(礫含む)
4. 2.5Y4/3オリブ褐色砂質土(粘性あり、砂礫含む)
5. 2.5Y4/3オリブ褐色砂質土
6. 2.5Y5/3黄褐色砂質土
7. 2.5Y5/3黄褐色粘土
8. 2.5Y5/3黄褐色砂質土に5Y5/2灰オリブ色粘質土(鉄分含む)
9. 2.5Y5/6黄褐色細粒砂[検出面]

第Ⅲ -76 図 S D 35004 土層断面図 (1:50)



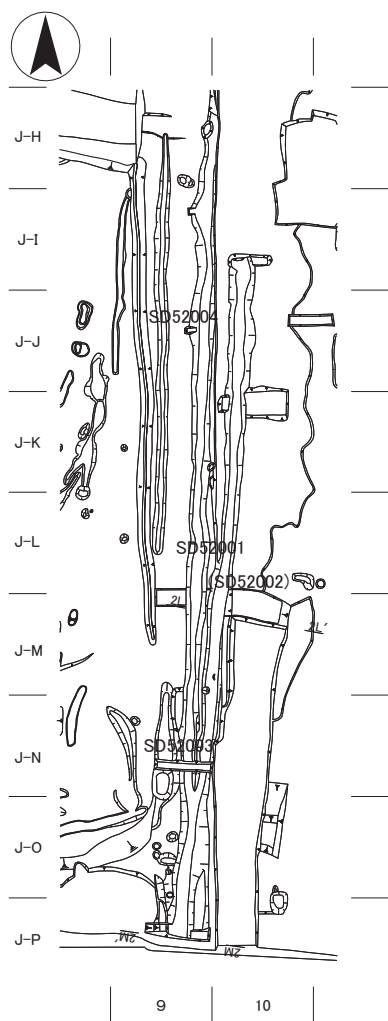
【SD20022-20041】

1. 10YR3/3暗褐色シルト(2.5Y5/3黄褐色極細粒砂ブロック30%含む) [SD20022埋土]
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト～極細粒砂(2.5Y5/3黄褐色極細粒砂ブロック10%含む) [SD20022埋土]
3. 10YR4/3にふい黄褐色シルト～極細粒砂 [SD20041埋土]
4. 10YR4/3にふい黄褐色シルト(2.5Y6/4にふい黄色極細粒砂ブロック20%含む) [SD20041埋土]
5. 10YR5/6黄褐色シルト～極細粒砂 [検出面]



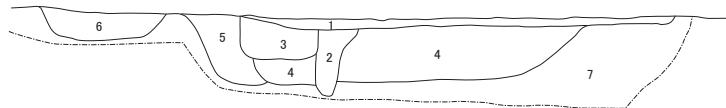
【SD20022】

1. 10YR2/3黒褐色シルト(2.5Y5/3黄褐色極細粒砂ブロック20%未満含む) [SD20022埋土]
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト(2.5Y5/3黄褐色極細粒砂ブロック10%未満含む) [SD20022埋土]
3. 10YR5/6黄褐色シルト～極細粒砂 [検出面]



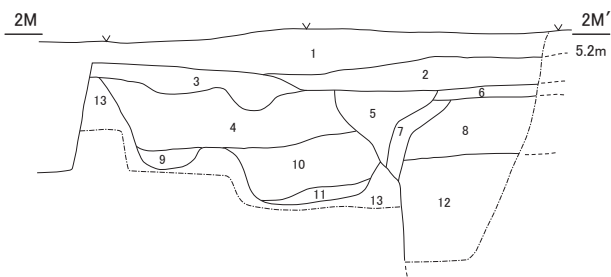
2L

2L'  
5.2m



【SD51024(52002)・52001】

1. 10YR7/2にふい黄褐色砂質土(礫多量含む) [攪乱]
2. 7.5Y5/1灰色シルト粘土(炭化物含む) [攪乱]
3. 5Y6/2灰オリーブ色粗砂 [攪乱、水道管理設土]
4. 7.5Y6/1灰色シルト粘土(炭化物含む) [攪乱]
5. 2.5Y7/3浅黄色砂質土 [SD52002]
6. 10YR5/2灰黄褐色砂質土 [SD52001]
7. 5Y6/3オリーブ黄色砂質土粘性少し含む



【SD51024(52002)・52001・52003】

1. 10YR7/8黄褐色砂質土(礫多く含む) [攪乱]
2. 10YR6/3にふい黄褐色砂質土 [攪乱]
3. 10YR6/4にふい黄褐色砂質土粘性あり [攪乱]
4. 2.5Y6/2灰黄色砂質土粘性あり [SD52003]
5. 5Y7/1灰白色細砂 [攪乱]
6. 2.5Y7/4浅黄色シルト粘土 [攪乱]
7. 5Y7/3浅黄色細砂(鉄分多く含む) [攪乱]
8. 10YR7/2にふい黄褐色砂質土に10YR8/2灰白色粘土ブロック含む [攪乱]

9. 2.5Y6/3にふい黄色シルト [SD52001]
10. 5Y6/3オリーブ黄色シルト(炭化物少し含む) [SD52002]
11. 5Y7/2灰白色シルト粘土(底部に鉄分沈殿) [SD52002]
12. 10YR6/3にふい黄褐色砂質土に10YR8/2灰白色粘土ブロック含む [攪乱]
13. 10YR5/6黄褐色シルト浅黄色砂質土



第Ⅲ -77 図 溝平面図6、SD 20022, 20041, 51024, 52001, 52003 土層断面図(1:300、1:50)



世紀後半までは断続的に存在したものであろう。

#### S D 43001 (第Ⅲ -67, 72 図)

規模は、調査区内での延長 40.0m 以上、幅 1.6 ～ 2.3m、検出面からの深さ 0.7 ～ 0.9m である。断面形は逆三角形状となる。軸の方向は N 90° E、東西の方位にのった溝である。調査時点の S D 70012 につながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から土師器皿、土師器鉢、土師器鍋、土師器羽釜、15 世紀代の須恵器鉢、山茶碗、山皿、陶器碗、陶器皿、陶器鉢、陶器壺、白磁碗、白磁壺、土錘、石鍋、砥石、鉄製釘、銅製筭などが出土した。出土遺物の時期は、12 世紀前半と考えられる遺物もあり幅がある。15 世紀代までは断続的に存在したものでいよう。

#### S D 44015 (第Ⅲ -67, 72 図)

規模は、調査区内での延長 35.0m 以上、幅 1.5 ～ 1.7m、検出面からの深さ 0.9 ～ 1.1m である。断面形は逆三角形状となる。軸の方向は N 18° E、南北方向に延びる溝である。L-M3 で N 104° E の方向に屈曲する。調査時点の S D 51022、S D 70010、S D 70016、S D 10023 につながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から土師器皿、土師器鍋、土師器焙烙、土師器羽釜、須恵器鉢、山茶碗、陶器皿、19 世紀後半の陶器播鉢、陶器甕または壺、磁器碗、白磁碗、青磁皿、青磁香炉、砥石などが出土した。出土遺物の時期は、12 世紀前半と考えられる遺物もあり、かなりの幅がある。19 世紀後半までは断続的に存在したものであろう。

#### S D 44030 (第Ⅲ -69 図)

規模は、調査区内での延長 27.5m、幅 0.9 ～ 2.2m、検出面からの深さ 0.2 ～ 1.2m である。断面形は U 字状となる。軸の方向は N 105° E の東西方向に延びる溝である。J-U8 で N 17° E の方向に屈曲する。調査時点の S D 51007 につながる。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から 16 世紀後半の土師器鍋、山茶碗、天目茶碗、陶器鉢、青磁器台などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀前半と考えられる遺物もあり幅

がある。16 世紀後半までは断続的に存在したものでいよう。

#### S D 51002 (第Ⅲ -69 図)

規模は、調査区内での延長 16.0m 以上、幅 0.9m、検出面からの深さ 0.3m である。軸の方向は N 83° E、東西方向に延びる溝である。

埋土から土師器焙烙、山茶碗、18 世紀中頃前後の陶器碗、天目茶碗、陶器皿、陶器播鉢、陶器壺、磁器碗、白磁碗、青磁碗などが出土した。出土遺物の時期は、12 世紀前半と考えられる遺物もあり、かなりの幅がある。18 世紀中頃までは断続的に存在したものであろう。

#### S D 51024 (第Ⅲ -74 図)

規模は、調査区内での延長 27.2m 以上、幅 0.5 ～ 1.8m、検出面からの深さ 0.2 ～ 0.6m である。断面形は U 字状となる。軸の方向は N 4° E、南北方向に延びる溝である。調査時点の S D 52002、S D 70006 につながる。

埋土から土師器羽釜、瓦質土器羽釜、灰釉陶器碗、山茶碗、山皿、17 世紀後半の陶器碗、白磁碗などが出土した。出土遺物の時期は、11 世紀前半と考えられる遺物もあり、かなりの幅がある。17 世紀後半までは断続的に存在したものでいよう。

#### S D 52001 (第Ⅲ -77 図)

規模は、調査区内での延長 32.0m 前後、幅 0.7 ～ 1.0m、検出面からの深さ 0.2 ～ 0.3m である。断面形は U 字状となる。軸の方向は N 1° E、南北方向に延びる溝である。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

埋土から土師器皿、土師器鍋、瓦器碗、瓦質土器羽釜、山茶碗、山皿、19 世紀前半の陶器碗、陶器鉢、磁器碗、青磁碗、石鍋、銅製銭貨などが出土した。出土遺物の時期は、13 世紀前半と考えられる遺物もあり、かなりの幅がある。19 世紀前半までは断続的に存在したものであろう。建物などの周囲の状況から、土地を区分するためのものといえよう。

#### S D 52003 (第Ⅲ -77 図)

規模は、調査区内での延長 5.4m 以上、幅 0.4 ～ 0.9m、検出面からの深さ 0.1m である。断面形は U 字状となる。軸の方向が N 1° E の溝である。

埋土から遺物の出土は確認できなかった。

### S D 52004 (第Ⅲ -77 図)

規模は、調査区内での延長 16.7m、幅 0.2 ～ 0.6m、検出面からの深さ 0.1 ～ 0.2m である。軸の方向が N 1° E の溝である。調査時点の S D 70005 につながる。

埋土から 13 世紀代の陶器甕または壺などが出土した。13 世紀代までは存在したものといえよう。

### S D 70007 (第Ⅲ -69 図)

規模は、調査区内での延長 2.0m 以上、幅 0.8 ～

1.1m、検出面からの深さ 0.2m である。断面形は U 字状となる。軸の方向が N 1° E の溝である。埋土から遺物の出土は確認できなかった。

### S D 70009 (第Ⅲ -69 図)

規模は、調査区内での延長 16.0m 以上、幅 0.6 ～ 1.2m、検出面からの深さ 0.1m である。断面形は U 字状となる。軸の方向が N 13° E の溝である。埋土から中世以降の土師器皿、土錘など出土した。

## 第 6 節 その他の遺構

遺構の性格が判然としないものについて、ここでは S Z として報告する。

### S Z 44041

平面形は不整円形、規模は長軸 2.0m、短軸 1.1m、検出面からの深さは 0.2m である。

埋土から山皿、陶器碗、17 世紀中頃前後の陶器片口鉢などが出土した。S D 44015 と重複している。

### S Z 44045

平面形は不整円形、規模は長軸 3.7m、短軸 2.2m、検出面からの深さは 0.3m 以上である。

埋土から山茶碗、18 世紀中頃以降の土師器皿、石製硯などが出土した。

### S Z 44047

平面形は長方形、規模は長軸 4.4m、短軸 0.5m、検出面からの深さは 0.2m である。

埋土から 18 世紀中頃の磁器碗・皿などが出土した。

(渡辺和仁 鐸木厚太 小濱学)

### 【註】

(1) 三重県立総合博物館 津村善博氏の御教授による。

報告番号	調査時 番号	調査 回数	グリッド	規模 (m)			主な出土遺物	備考
				長さ/長径 /桁行	幅/短径 /梁行	深さ/ 間数		
SK 20001	SK2001	2	L-C12	1.40	1.30	0.50	土師器、陶器、瓦	
SK 20002	SK2002	2	L-F13, L-G13	3.40	2.80	1.00	陶器、磁器、瓦	
SK 20003	SK2003	2	L-C13, L-D13	1.70	1.70	0.70	土師器、陶器、磁器	
SK 20004	SK2004	2	L-I13, L-K, L-J13, L4	2.20+	2.20	0.30	土師器、陶器、磁器	
SK 20005	SK2005	2	L-I13, L-J13	2.20	2.10	0.50	土師器、陶器、磁器、瓦	
SK 20006	SK2006	2	L-H14	1.80	1.50	0.40	陶器、磁器	
SK 20007	SK2007	2	L-I14, L5, L-H14, L15	2.80	1.80	0.50	土師器、陶器、磁器、瓦	
SK 20008	SK2008	2	L-J13, L4	2.10	0.90	0.30	なし	
SK 20009	SK2009	2	L-I14, L-J15	4.00	2.30	0.50	土師器、陶器	
SK 20010	SK2010	2	L-G14	1.10	1.00	0.40	陶器、磁器	
SB 20011	SB2011	2	L-F10, L11, L-G10, L11, L12	8.50	6.40	4*3	土師器、陶器、青磁、土製品	
SK 20012	SK2012	2	L-C14, L-D14	1.90	1.20	0.20	土師器、陶器	
SK 20013	SK2013	2	L-F14	1.20	1.10	0.20	土師器、陶器	
SK 20014	SK2014	2	L-F14	1.50	1.30	0.10	土師器、陶器	
SK 20015	SK2015	2	L-C14	1.20	0.70	0.10	土師器、陶器	
	SK80014	8						
SE 20016	SK2016	2	L-C14, L5, L-D14, L15	3.00	2.70	3.80	土師器、陶器、青磁	
SK 20017	SK2017	2	L-E13	1.30	1.10	0.20	土師器、陶器	
SK 20018	SK2018	2	L-E13	1.50	1.40	0.10	土師器、陶器	
SK 20019	SK2019	2	L-E14	1.40	0.90	0.50	土師器、陶器、白磁	
SK 20020	SK2020	2	L-D14, L15	2.10	2.00	0.80	土師器、陶器、青磁	

### 第Ⅲ - 8 表 遺構一覧表 1

報告番号	調査時 番号	調査 回数	グリッド	規模 (m)			主な出土遺物	備考
				長さ/長径 /桁行	幅/短径 /渠行	深さ/ 間数		
SK 20021	SK2021	2	L-G13	1.40	0.90	0.20	土師器、陶器、青磁、瓦、鉄製品	
SD 20022	SD2022	2	L-D10, 11. 12. 13. 14. 15, L-E10	21.10+	0.30～0.60	0.10	土師器、陶器、白磁、土製品	
SK 20023	SK2023	2	L-E13, 14, L-F13, 14	2.00	1.20	0.40	土師器、陶器	
SK 20024	SK2024	2	L-H13, 14	1.20	1.00	0.20	陶器、土製品	
SK 20025	SK2025	2	L-F10, L-G10	1.40	1.10	0.10	土師器、陶器、鉄製品	
SK 20026	SK2026	2	L-F10, 11	1.40	1.10	0.20	磁器	
SK 20027	SK2027	2	L-F11, L-G11	1.60	1.10	0.30	土師器、須恵器、陶器、鉄製品	
SD 20028	SD2028	2	L-B11, 12, L-C12	7.10+	0.30+	0.10	土師器、陶器	
	SD80013	8						
SK 20029	SK2029	2	L-D10	1.10	0.80	0.20	土師器、土製品	
SB 20030	SB2030	2	L-E10, 11. 12. 13, L-F10, 11. 12. 13, L-G9, 10. 12. 13, L-H11, 12	12.90	10.70	6*5	土師器、陶器、鉄製品	
SK 20031	SK2031	2	L-B10, 11	3.80	2.80	0.50	土師器、陶器、磁器、青磁、白磁	
	SK10034	10						
SK 20032	SK2032	2	L-H12, 13	2.60	1.50	0.20	陶器	
SK 20033	SK2033	2	L-H13	2.40	1.40	1.10	土師器、陶器	
SK 20034	SK2034	2	L-I10	1.20	1.10	0.30	陶器	
SK 20035	SK2035	2	L-I9, L-I10	2.10	2.00	0.10	陶器	
SD 20036	SD2036	2	L-H9, 10	2.60	0.50	0.10	陶器、瓦	
SD 20038	SD2038	2	L-B11, L-C11, 12	6.40+	1.50～2.00	0.40	土師器、磁器、瓦	
SB 20039	SB2039	2	L-F10, 11, L-G10, 11	7.20	6.25	4*3	土師器、陶器	
SA 20040	SA2040	2	L-G10, 11	6.30	—	3	土師器、陶器	
SD 20041	SD2041	2	L-D11, 12, 13, 14, 15	14.70	0.30～0.80	0.10	なし	
SD 20042	SD2042	2	L-E10, L-F10, L-G9	7.20+	0.40	0.10	なし	
SB 20043	SA2043	2	L-G10, L-H10	3.40	1.80	2*1	土師器	
SA 20044	SA2044	2	L-E14, L-F13, L-G13, L-H13	14.40	—	7	土師器、陶器	
SA 20045	SA2045	2	L-H10, 11, 12	8.40	—	4	土師器	
SD 31001	SD31001	3	L-04, L-P3, L-Q3, L-R2, 3, L-S2, L-U2, L-V1	2.00+	1.00～1.20	0.50	土師器、須恵器、陶器、青磁、白磁、青白磁、土製品、石製品	
	SD90002	9						
SD 31002	SD31002	3	L-P3, L-Q3, L-R2, L-S2, L-T2, L-U2	2.00+	0.50～1.00	0.30	土師器、陶器	
	SD70008	7						
SK 31003	SK31003	3	L-U2	2.50	0.70	0.20	土師器	
SK 31004	SK31004	3	L-S3	1.00	0.50	0.40	土師器、陶器、磁器、瓦	
	SK41008	4						
SE 31005	SE31005	3	L-Q3	2.20	1.90	0.70	土師器、灰釉陶器、陶器、瓦、石製品	
SK 31006	SK31006	3	L-Q2	2.20	2.10	0.70	土師器、陶器、磁器、瓦	
SE 31007	SE31007	3	L-Q3, 4, L-P3・4	1.50	1.50	0.80	陶器、磁器	
SK 31008	SK31008	3	L-R2	1.10	0.60	0.30	土師器、陶器	
SD 31009	SD31009	3	L-R2, 3	18.00+	0.30～0.90	0.30	土師器、陶器、石製品	
SK 31010	SK31010	3	L-R3, L-S2, L-T2, L-U2	3.00	2.00	0.20	土師器、陶器、磁器	
SD 31011	SD31011	3	L-N3, L-Q3, L-P3, L-Q2, L-R2, L-S2	17.00+	0.50～0.70	0.30	土師器、陶器、青磁	
	SD70017	7						
SK 31012	SK31012	3	L-Q2, 3	5.00	3.00	0.20	土師器、陶器	
SK 31013	SK31013	3	L-P2	1.30	1.20	0.30	土師器、磁器	
SK 31014	SK31014	3	L-Q3, L-P3	1.40	0.50	0.20	土師器、陶器、青磁、石製品	
SK 31015	SK31015	3	L-Q3, L-P3	1.20	1.20	0.20	なし	

第Ⅲ－9表 遺構一覧表2

報告番号	調査時 番号	調査 回数	グリッド	規模 (m)			主な出土遺物	備考
				長さ/長径 /桁行	幅/短径 /梁行	深さ/ 間数		
SE 31016	SE31016	3	K-R23	1.70	1.60	2.10	土師器、陶器	
SK 31017	SK31017	3	L-N1	2.80	1.20	0.50	土師器	
SD 31018	SD31018	3	K-N24.25, K-M25	3.00+	0.30	0.10	土師器、陶器	
SK 31019	SK31019	3	L-02	1.20	1.20	0.70	陶器	
SD 31020	SD31020	3	L-N3, L-03, L-P2, L-Q2, L-R2, L-S1	16.00+	0.40～0.70	0.30～0.50	土師器、陶器	
	SD70018	7						
SD 32001	SD32001	3	L-V4, L-W4	3.50+	0.50	0.10	土師器	
SE 32002	SK32002	3	L-R9	1.60	1.60	0.80	土師器、陶器、磁器、鉄製品	
SE 32003	SK32003	3	L-Q8	1.60	1.50	1.00	土師器、陶器、磁器	
SD 32004	SD32004	3	L-L8, L-M7.8, L-N7, L-O7, L-P6, L-Q6, L-R6, L-S5	18.50+	0.30～1.50	0.10～0.50	土師器、陶器、白磁、鉄製品	
	SD33002	3						
	SD42007	4						
SE 32005	SK32005	3	L-P6	1.40	1.30	1.00	土師器、陶器	
SD 32006	SD32006	3	J-T10.11, J-U10.11, J-V10.11, J-W9.10, J-X9.10, J-Y9.10, L-A9.10, L-B8.9, L-D8.9, L-E8.9, L-F7.8, L-G7.8, L-H7.8, L-I7.8, L-J7.8, L-K7, L-L6, L-N6, L-P5.6, L-O5.6, L-Q4.5, L-R4.5, L-S4, L-T3.4, L-U3.4, L-V3.4, L-W3, L-X3	30.50+	2.00～3.30	0.30～1.10	縄文土器、土師器、土師質土器、須恵器、灰釉陶器、陶器、磁器、青磁、白磁、青花磁器、瓦、土製品、石製品、鉄製品	
	SD33001	3						
	SD36001	3						
	SD41001	4						
	SD42009	4						
	SD43003	4						
	SD70001	7						
	SD70011	7						
	SD90001	9						
	SD10001	10						
SB 32007	SB32007	3	L-O9.10, L-P9.10	3.70	2.90	2*1	土師器	
SA 32008	SA32008	3	L-P12, L-Q12, L-R12	6.80	—	3	土師器	
SB 32009	SB32009	3	L-P11.12, L-Q11.12	3.60	2.20	2*1	土師器	
SB 32010	SB32010	3	L-R11, L-S11	2.30+	2.30+	1+*1+	土師器	
SE 33003	SK33003	3	L-M10	1.00	0.90	1.80	土師器、青磁	
SD 33004	SD33004	3	L-L6.7.8.9.10.11.12.13.14.15, L-M6.12.13, L-N5, L-O5, L-P5, L-Q4.5	26.50	0.80～2.00	0.30～0.70	土師器、陶器、青磁、鉄製品	
SD 33005	SD33005	3	L-L9.10, L-K10.11	11.00	0.40	0.10	なし	
SD 33006	SD33006	3	L-L8.9.10.11	10.00+	0.70～1.00	0.30～0.40	土師器、陶器	
SK 33007	SK33007	3	L-N11	4.30	1.80	0.10	土師器	
SE 33008	SK33008	3	L-M12	1.10	1.00	1.60	土師器、瓦器、陶器	
SE 33009	SK33009	3	L-N13	1.40	1.30	1.90	土師器、陶器、青磁、白磁、石製品	
SD 33010	SD33010	3	L-N13, L-M14	5.50+	0.50	0.10～0.20	土師器、陶器	
	SK42002	4						
SK 33011	SK33011	3	L-N13	1.50	1.50	0.30	土師器、陶器、磁器	
SD 33012	SD33012	3	L-K14.15, L-M13.14, L-N13.14	14.00+	1.70	0.30～0.50	土師器、瓦器、陶器、白磁、青磁、青白磁	
SK 33013	SD33013	3	L-L11	2.00+	1.00	0.10	土師器、陶器	
SB 33014	SB33014	3	L-M9, L-N8.9.10, L-O9.10	6.50	4.10	3*2	土師器、陶器	
	SB42011	4						
SB 33015	SB33015	3	L-M8.9, L-N8.9, L-O9.10	5.90	4.20	3*2	土師器、陶器	
SB 33016	SB33016	3	L-M10.11.12, L-N10.11.12, L-O10.11	8.70	5.40	5*3	土師器、陶器、青磁、土製品	
	SB42010	4						
SB 33017	SB33017	3	L-M10.11, L-N10.11	4.00	1.90	2*1	土師器、白磁	

第Ⅲ -10 表 遺構一覧表3

報告番号	調査時 番号	調査 回数	グリッド	規模 (m)			主な出土遺物	備考
				長さ/長径 /桁行	幅/短径 /渠行	深さ/ 間数		
SK 33018	SK33018	3	L-L14	1.40	1.00	0.80	土師器	
SD 33019	SD33019	3	L-M14	4.00+	0.60～0.80	0.50	土師器	
SB 33021	SB33021	3	L-N11, 12, L-M11, 12	3.90	3.70	2*2	土師器	
SA 33022	SA33022	3	L-M12, L-N12	3.65	—	2	土師器、陶器、鉄製品	
SA 33023	SA33023	3	L-M11, L-N11	3.55	—	2	土師器	
SK 34001	SK34001	3	L-A16	1.30	1.00	0.60	土師器、陶器	
SK 34002	SK34002	3	J-Y16	1.20+	0.70+	0.40	土師器、須恵器、陶器	
SK 34003	SK34003	3	L-F16, 17	2.50	2.30	0.50	土師器、陶器、青磁	
SK 34004	SK34004	3	L-D16	3.50	2.00	0.20	土師器、陶器、青磁	
SK 34005	SK34005	3	L-D15	1.40	1.30	0.40	土師器、瓦質土器、陶器	
	SK80016	8						
SK 34006	SK34006	3	L-F15	2.50	1.40	0.20	土師器、陶器	
SB 34007	SB34007	3	L-A16, 17, 18, L-B16, 17	7.90	4.00	4*2	土師器、瓦器、陶器	
	SB80023	8						
SK 34008	SD34008	3	L-H15, L-I15	6.00	1.20	0.90	縄文土器、土師器、土師質土器、陶器、磁器、青磁、石製品	
SK 34009	SK34009	3	L-G15	1.50	1.10	0.10	土師器、陶器、磁器	
SK 34010	SK34010	3	L-H16	0.90	0.70	0.60	土師器、陶器、磁器	
SA 34011	SA34011	3	L-B17	5.10	—	3	なし	
SK 35002	SK35002	3	J-W17	1.90	0.80	0.20	陶器	
	SK35009	3						
SD 35003	SD35003	3	J-R8, 9, 11, 12, 13, 14, J-S17, 18, 19, 20	16.0+	1.00～1.40	0.20～0.60	土師器、陶器、青磁、白磁	
	SD36005	3						
	SD51003	5						
SD 35004	SD35004	3	J-R3, 4, 5, 6, J-S3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, J-T10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19	20.0+	2.50～5.00	0.90～1.50	土師器、瓦質土器、灰釉陶器、陶器、磁器、青磁、白磁、瓦、石製品、鉄製品	
	SD36002	3						
	SD44021	4						
	SD51001	5						
	SD70004	7						
SK 35005	SK35005	3	J-V18	0.70	0.60	0.10	陶器	
SK 35006	SK35006	3	J-S17	0.60	0.40+	0.30	土師器、陶器	
SD 35007	SD35007	3	J-T11, 12, 13, J-U13, 14, 15, 16, 17, 18, 19	20.0+	0.70～1.50	0.20～0.60	土師器、陶器、白磁、瓦、鉄製品	
	SD36008	3						
SK 35008	SK35008	3	J-V18	0.70	0.70	—	土師器、陶器	
SE 35010	SK35010	3	J-V18	1.50	1.40	1.90	土師器、陶器、青磁	
SD 36003	SD36003	3	J-R8, 10, 11, 12, J-S12, 13	12.00+	1.50	0.10～0.50	土師器、陶器、磁器、土製品、石製品	
	SD51005	5						
	SD70003	7						
SE 36004	SE36004	3	J-S14	2.00	1.80	0.80	陶器、磁器	
SD 36006	SD36006	3	J-S11, 12, 13, 14	10.0+	1.40	1.00	土師器、陶器、銅製品	
SE 36007	SE36007	3	J-V15	1.70	1.50	2.30	土師器、陶器、白磁	
SD 36009	SD36009	3	J-V16	3.50+	1.00+	0.10～0.20	土師器、青磁	
	SD80001	8						
SB 37001	SB37001	3	J-O13, 14, 15, J-P13, 14, 15	6.50	4.00	3*2	土師器、陶器、白磁、土製品	
SD 37002	SD37002	3	J-L15, J-M15, J-N15, J-O15, J-P15	19.00+	0.50～0.90	0.10～0.30	土師器、陶器	
SK 37003	SK37003	3	J-M20	11.60	2.20	0.20	土師器、陶器、青磁	

第Ⅲ -11 表 遺構一覧表4

報告番号	調査時 番号	調査 回数	グリッド	規模 (m)			主な出土遺物	備考
				長さ/長径 /桁行	幅/短径 /梁行	深さ/ 間数		
SK 37004	SK37004	3	J-M17	1.10	1.00	0.30	陶器	
SD 37005	SD37005	3	J-L18, J-K19.20	15.00+	0.70～1.00	0.30	土師器	
SD 37006	SD37006	3	J-K21	4.00+	0.30～0.50	0.20	土師器、陶器	
SD 37007	SD37007	3	J-K15.16.17.18.19.20, J-L12.13.14.15, J-J19.20.21	27.00+	0.20～3.00	0.10～0.80	土師器、陶器、青磁、土製品	
	SD37011	3						
	SD53004	5						
	SD53005	5						
SB 37008	SB37008	3	J-L18.19, J-M17.18.19.20, J-N17.18.19.20, J-O17.18.19	11.00	8.40	5*4	土師器、陶器、石製品、鉄製品	
SE 37009	SK37009	3	J-G21	2.00	1.80	1.40	土師器、灰釉陶器?、陶器	
SB 37010	SB37010	3	J-F21.22, J-G21.22	4.40	3.90	2*2	土師器、陶器、鉄製品	
SK 37012	SK37012	3	J-M18	2.00	1.10	0.10	土師器、陶器	
SB 37013	SB37013	3	J-G20.21, J-H19.20.21, J-I19.20.21	7.40	6.40	3*3	土師器、陶器	
SB 37014	SB37014	3	J-H19.20.21, J-I19.20.21	6.80	6.60	3*3	土師器、陶器	
SB 37015	SB37015	3	J-H18.19.20, J-I18.19.20	4.80	4.20	2*2	土師器、陶器	
SB 37016	SB37016	3	J-G19.20.21, J-H19	5.20	4.30	2*2	土師器、陶器	
SB 37017	SB37017	3	J-H18.19.20, J-I18.19.20	5.80	4.40	2*2	土師器、陶器	
SA 37018	SA37018	3	J-J18.19.20.21	12.10	—	5	土師器、陶器	
SB 37019	SB37019	3	J-I15.16, J-J15.16, J-K15	5.70	4.80	3*2	土師器、陶器	
SB 37020	SB37020	3	J-J15.16, J-K15.16	4.40	3.80	2*2	土師器、陶器	
SA 37021	SA37021	3	J-J15.16.17.18, J-I18	8.60	—	4	土師器、陶器	
SA 37022	SA37022	3	J-I14.15.16	6.70	—	3	土師器、陶器	
SA 37023	SA37023	3	J-K15.16	5.20	—	2	なし	
SA 37024	SA37024	3	J-K15.16, J-J16	5.50	—	2	陶器	
SK 41002	SK41002	4	L-V3	1.70	1.60	0.20	縄文土器、土師器、陶器	
SK 41003	SK41003	4	L-T4	1.80	1.80	0.30	陶器、磁器	
SK 41004	SK41004	4	L-T4	1.40	1.40	0.30	土師器、陶器	
SK 41007	SK41007	4	L-S3, L-T3	1.80	0.70	0.40	土師器、陶器	
SK 41009	SK41009	4	L-R3	1.30	0.60	0.50	土師器、陶器	
SK 41010	SK41010	4	L-P5	1.20	0.90	0.70	土師器	
SK 41011	SK41011	4	L-W3	0.70	0.50	0.40	土師器	
SE 42001	SE42001	4	L-O13	1.20	—	2.10	土師器、陶器、青磁、白磁、石製品、鉄製品	
SZ 42002	SK42002	4	L-O13, L-P13	2.70	1.70+	0.14	なし	
SE 42003	SE42003	4	L-P11	1.10	1.00	1.70	土師器、陶器、白磁、鉄製品	
SE 42004	SE42004	4	L-P11	0.90	0.80	1.60	土師器	
SK 42005	SK42005	4	L-O9.10, L-P9.10	3.20	1.10	0.10	土師器、陶器、瓦	
SK 42006	SK42006	4	L-O8.9	1.90	1.20	0.30～0.80	陶器、磁器、瓦、	
SK 42008	SK42008	4	L-N6, L-O6	1.30	1.30	0.50	土師器、陶器	
SB 42013	SB42013	4	L-O9.10.11, L-P9.10.11	8.90	6.90	3*3	土師器、陶器	
SD 43001	SD43001	4	L-J6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17, L-K5.6, L-L5, L-M4.5	40.00+	1.60～2.30	0.70～0.90	土師器、須恵器、陶器、青磁、白磁、土製品、石 製品、鉄製品、銅製品	
	SD70012	7						
SK 43002	SK43002	4	L-K8	0.90	0.80	0.80	土師器、陶器	
SK 43004	SK43004	4	L-K7	1.10	0.80	1.20	土師器	
SD 43005	SD43005	4	L-J16.17	5.80+	0.90～1.00	0.10～0.20	なし	
SK 44001	SK44001	4	L-L4	2.60	1.70	0.50	土師器、陶器	
	SK70014	7	L-L4					

第Ⅲ -12 表 遺構一覧表5

報告番号	調査時 番号	調査 回数	グリッド	規模 (m)			主な出土遺物	備考
				長さ/長径 /桁行	幅/短径 /渠行	深さ/ 間数		
SK 44002	SE44002	4	L-L4	1.30	1.20	0.60+	なし	
SK 44003	SK44003	4	L-K1.2	1.60	0.80	0.20	なし	
SK 44004	SK44004	4	K-J25, K-K25, L-J1, L-K1	1.60	1.50	0.70	なし	
SK 44005	SK44005	4	K-I25, K-J25, L-I1	2.50	0.90	0.30	陶器、鉄製品、磁器	
SE 44006	SE44006	4	L-I2, L-J2	1.40	1.30	0.60	陶器、磁器、青磁	
SK 44007	SK44007	4	K-H25, K-I25, L-H1, L-I1	1.70	0.70	0.30	土師器、瓦器、磁器、青磁	
SK 44008	SK44008	4	L-J5, L-K5	1.80	1.80	0.50	陶器、鉄製品	
SK 44009	SK44009	4	L-I5, L-J5	1.50	1.30	0.90	土師器、陶器、土製品	
SK 44010	SK44010	4	L-I4.5, L-J4	1.50	1.10	0.40	陶器	
SK 44011	SK44011	4	L-H5, L-I5	1.20	1.20	1.00+	なし	
SK 44012	SK44012	4	L-G6	1.20	1.10	1.00+	土師器、陶器	
SK 44013	SK44013	4	L-F1	1.20	1.00	0.50	土師器、陶器、青磁、土製品	
SZ 44014	SK44014	4	L-F1.2, L-G1.2.3	4.90	4.00	0.80+	なし	
SD 44015	SD44015	4	J-V8.9, J-W8.9, J-X8, J-Y8, L-A7.8, L-B7.8, L-C7.8, L-D6.7, L-E6.7, L-F6, L-G5.6, L-H5.6, L-I5, L-J4.5, L-K4.5, L-L1.2.3.4, L-M1.2.3.4	35.00+	1.50～1.70	0.90～1.10	土師器、須恵器、陶器、磁器、青磁、白磁、石製品	
	SD51022	5						
	SD70010	7						
	SD70016	7						
	SD10023	10						
SK 44016	SK44016	4	L-F1.2	1.30	1.10	0.20	陶器	
SK 44017	SK44017	4	L-F1	1.30	1.10	0.30	土師器	
SK 44018	SK44018	4	L-G1	1.30	1.20	0.30	土師器、灰釉陶器、陶器	
SK 44019	SK44019	4	L-F3	2.00	1.90	0.50	土師器、陶器、磁器	
SK 44020	SK44020	4	J-R4.5	1.30	1.20	0.40	陶器	
SK 44022	SK44022	4	J-S5	1.00	0.90	0.40	磁器	
SK 44023	SK44023	4	J-X4, J-Y4	1.50	1.40	0.40	土師器、陶器、白磁	
SK 44024	SK44024	4	J-Y3	1.50	1.40	0.30	なし	
SK 44025	SK44025	4	J-Y4, L-A4	1.70	1.50	0.50	陶器、磁器、石製品、土製品、鉄製品	
SK 44026	SK44026	4	J-Y3, L-A3	1.30	1.20	0.40	陶器、磁器	
SK 44027	SK44027	4	L-C2	2.00	1.70	0.30	土師器、陶器、磁器	
SK 44028	SK44028	4	J-S3.4, J-T3	2.60	1.30	0.50	陶器、磁器、瓦、石製品	
SK 44029	SK44029	4	J-S4	1.50	1.20	0.70	なし	
SD 44030	SD44030	4	J-T3.4.5.6.7, J-U7.8, J-V8, J-W7.8, J-X7	27.50	0.90～2.20	0.20～1.20	土師器、陶器、白磁、青磁	
	SD51007	5						
SK 44031	SK44031	4	L-J5	1.20	0.80	0.30	青磁	
SK 44032	カクラン1	4	L-H5.6	1.80	1.80	0.30	土師器、陶器、磁器、土製品	
SK 44033	カクラン1	4	L-G6	2.10	1.00	0.30	陶器、磁器	
SK 44034	カクラン①	4	L-F2	2.10	1.30	0.20	陶器、磁器	
SK 44035	カクラン	4	K-J25	1.10	0.80	0.50	土師器、磁器、土製品	
SK 44036	カクラン?	4	L-H1	1.30	1.20	0.30	陶器、磁器	
SK 44037	カクラン1	4	L-F3	1.00	0.80	0.20	土師器	
SK 44038	カクラン①	4	L-J4	0.90	0.80	0.20	陶器、磁器	
SK 44039	カクラン1	4	L-G5.6	1.30	0.80	0.20	陶器、磁器、青磁	
SK 44040	カクラン1	4	J-X3	1.30+	0.90	0.20	土師器、磁器	
SZ 44041	カクラン 上層1	4	L-E6, L-F6	2.00	1.10	0.20	陶器、青磁	
SK 44042	カクラン	4	L-D3	1.40	1.20	0.40	土師器	

第Ⅲ-13表 遺構一覧表6



報告番号	調査時 番号	調査 回数	グリッド	規模 (m)			主な出土遺物	備考
				長さ/長径 /桁行	幅/短径 /梁行	深さ/ 間数		
SK 44043	カクラン	4	L-J2	2.00	1.30	0.20	陶器	
SK 44044	カクラン	4	J-V4, J-W4	1.60+	1.20	0.20	陶器、磁器	
SZ 44045	カクラン1	4	J-S4.5, J-T4.5	3.70	2.20	0.30+	土師器、陶器、磁器、石製品	
SK 44046	カクラン1	4	L-C2	1.70+	1.50	0.10	陶器、磁器、白磁	
SZ 44047	カクラン	4	J-Y3.4	4.40+	0.50	0.20	陶器、磁器	
SB 44048	SB44048	4	J-W3.4, J-V3.4	4.20	2.00	2*2	土師器	
SB 44049	SB44049	4	J-W4.5, J-X4.5	4.60	4.20	2*1	土師器、陶器	
SB 44050	SB44050	4	J-Y3.4, L-A2.3.4	6.50	4.00	3*2	なし	
SB 44051	SB44051	4	J-Y3, L-A2.3	6.00	1.80+	3*1+	陶器	
SB 44052	SB44052	4	L-D3.4, L-E3.4	4.10	3.60	2*2	土師器、陶器	
SB 44053	SB44053	4	L-E3.4, L-F3.4	4.40	2.00	2*1	なし	
SB 44054	SB44054	4	L-E1.2, L-F1.2	3.70	1.70+	2*1+	土師器、陶器	
SA 44055	SA44055	4	L-D1, L-E1, L-F1	5.40	1.00+	3*1+	なし	
SD 51002	SD51002	5	J-R6.7	16.0+	0.90	0.30	土師器、陶器、磁器、青磁、白磁	
SK 51004	SK51004	5	J-T8	1.30	1.20	0.40	土師器	
SK 51006	SK51006	5	J-S8.9, L-T8.9	2.20	2.00	0.80	土師器、陶器、磁器、青磁、石製品	
SK 51008	SK51008	5	J-S6	0.80	0.60	0.30	陶器、磁器	
SK 51009	SK51009	5	J-S6	1.00	0.80	0.50	土師器	
SK 51010	SK51010	5	J-U6.7	2.40	1.30	0.30	土師器、陶器、磁器	
SK 51011	SK51011	5	J-U8	1.40	1.40	0.60	土師器、陶器、磁器、瓦、石製品、土製品	
SK 51012	SK51012	5	J-T6.7	1.40	1.20	0.10	陶器、石製品	
SK 51013	SK51013	5	J-U8.9	2.50	2.40	0.70	土師器、陶器、磁器、青磁、土製品、石製品、鉄製品、銅製品	
	SK70002	7						
	SK10009	10						
SK 51014	SK51014	5	J-X7.8	1.60	1.60	0.40	陶器、磁器、瓦質土器	
SK 51015	SK51015	5	J-X7	1.50	1.20	0.20	陶器	
SK 51016	SK51016	5	J-Y4.5	1.40	1.20	0.50	縄文土器、土師器、陶器、土製品	
SK 51017	SK51017	5	J-X6, J-Y6	1.30	1.20	0.20	土師器、瓦器、陶器	
SK 51018	SK51018	5	L-C6.7	1.70	1.70	0.50	土師器、陶器、磁器	
SK 51019	SK51019	5	L-C6, L-D6	1.20	1.20	0.20	陶器、石製品	
SK 51020	SK51020	5	L-A7	2.00	1.90	0.30	土師器	
SK 51021	SK51021	5	L-B4.5	2.10	1.50	0.30	陶器、磁器	
SK 51023	SK51023	5	J-T7	0.80	0.70	0.60	なし	
SD 51024	SD51024	5	J-J10, J-J10, J-K10, J-L10, J-M9.10, J-N9.10, J-O9, J-P9, J-R9	27.20+	0.50~1.80	0.20~0.60	土師器、瓦質土器、灰釉陶器、陶器、白磁	
	SD52002	5						
	SD70006	7						
SK 51025	カクラン1	5	L-C6.7	2.00+	1.50	0.10	土師器	
SK 51026	カクラン1	5	J-X6.7	1.60	1.40	0.20	土師器、陶器、磁器	
SK 51027	カクラン1	5	L-A6, L-B6	2.10	2.00	0.40	灰釉陶器	
SK 51028	カクラン1	5	L-C5.6	3.30	1.80	0.30	磁器、石製品	
SK 51029	カクラン1・2	5	J-U7, J-V7	1.90	0.80	0.10	陶器	
SD 52001	SD52001	5	J-G9.10, J-H9.10, J-I9, J-J9, J-K9, J-L9, J-M9, J-N9, J-O9, J-P9	32.00	0.70~1.00	0.20~0.30	縄文土器、土師器、瓦器、瓦質土器、陶器、磁器、青磁、石製品、銅製品	
SD 52003	SD52003	5	J-M9, J-N9, J-O9	5.40+	0.40~0.90	0.10	なし	
SD 52004	SD52004	5	J-H9, J-I9, J-J9, J-K9, J-L9	16.70	0.20~0.60	0.10~0.20	陶器	
	SD70005	7						

第Ⅲ -14 表 遺構一覧表7

報告番号	調査時 番号	調査 回数	グリッド	規模 (m)			主な出土遺物	備考
				長さ/長径 /桁行	幅/短径 /渠行	深さ/ 間数		
SZ 53001	SK53001	5	J-G11. 12	1. 40	0. 40	0. 10	なし	
SK 53002	SK53002	5	J-H12	1. 10	0. 50	0. 30	陶器	
SK 53003	SK53003	5	J-H12	1. 00	0. 90	0. 40	なし	
SD 70007	SD70007	7	J-R9	2. 00+	0. 80～1. 10	0. 20	なし	
SD 70009	SD70009	7	K-B7, K-C7, K-D7	16. 00+	0. 60～1. 20	0. 10	土師器、陶器、土製品	
SK 70013	SK70013	7	L-K15	0. 90	0. 80	0. 10	陶器	
SK 70015	SK70015	7	L-L4, L-M4	1. 10	0. 80	0. 10	なし	
SK 70019	SK70019	7	L-O2	1. 30	0. 90	0. 20	瓦、土製品	
SK 70020	SK70020	7	L-N2	1. 00	0. 90	0. 20	なし	
SK 80002	SK80002	8	L-V16, L-W16	1. 30	1. 10	0. 40	陶器	
SK 80003	SK80003	8	J-X13	1. 40	1. 30	0. 40	土師器、陶器、磁器	
SK 80004	SK80004	8	J-Y13	1. 80	1. 60	0. 50	陶器、磁器、石製品	
SK 80005	SK80005	8	J-Y13. 14	1. 30	1. 30	0. 40	陶器	
SK 80006	SK80006	8	L-A14, L-B14	1. 00	0. 90	0. 10	なし	
SK 80007	SK80007	8	L-B12. 13	2. 10	1. 10	0. 40	陶器、磁器	
SK 80008	SK80008	8	L-A13	1. 90	1. 50	0. 20	磁器	
SK 80009	SK80009	8	J-Y12. 13	3. 80	3. 30	1. 10	土師器、須恵器、瓦器、陶器、緑釉陶器、青磁、 白磁、石製品、鉄製品	
	SK10029	10						
SK 80010	SK80010	8	L-B13	1. 50	1. 30	0. 40	土師器、瓦質土器、陶器、磁器、石製品	
	SK10037	10						
SK 80011	SK80011	8	L-B14, L-C14	1. 80	1. 60	0. 20	土師器、陶器、磁器、石製品	
SK 80012	SK80012	8	J-Y13. 14	1. 40	1. 40	0. 50	なし	
SE 80015	SE80015	8	J-Y15, L-A15	2. 70	2. 60	1. 30+	土師器、陶器、青磁、石製品	
SK 80017	SK80017	8	L-C15	1. 60	1. 20	0. 40	なし	
SK 80018	SK80018	8	J-X13	1. 10	1. 10	0. 40	瓦質土器	
	SK10026	10						
SA 80019	SA80019	8	J-W14, J-X14	7. 50	—	4	土師器、陶器	
SB 80021	SB80021	8	J-X14. 15, J-Y14. 15	6. 50	4. 90	3*2	土師器、陶器	
SB 80022	SB80022	8	J-W15. 16. 17, J-X15. 16. 17, J-Y15. 16. 17	8. 50	5. 80	4*3	土師器、陶器	
SB 80025	SB80025	8	L-A11. 12. 13. 14, L-B11. 12. 13. 14, L-C11. 12. 13. 14	10. 60	7. 70	5*4	土師器、陶器、青磁	
	SB10044	10						
SB 80026	SB80026	8	J-Y11. 12, L-A11. 12. 13, L-B11. 12. 13, L-C11. 12. 13	8. 60	8. 50	4*4	土師器、陶器	
	SB10036	10						
SK 10002	SK10002	10	J-V11. 12	0. 80	0. 80	0. 10	なし	
SK 10003	SK10003	10	J-X13	1. 50	1. 20	0. 30	土師器、陶器	
SK 10004	SK10004	10	J-X13	0. 90	0. 70+	0. 30	陶器、磁器	
SK 10005	SK10005	10	J-W11. 12	1. 70	1. 40	0. 20	土師器、陶器	
SK 10006	SK10006	10	J-W11	1. 10	0. 40+	0. 10	なし	
SK 10007	SK10007	10	J-V11	1. 00	0. 90	0. 40	須恵器	
SK 10008	SK10008	10	J-V11	0. 70	0. 30+	0. 10	なし	
SK 10010	SK10010	10	J-W11	1. 20	1. 10	0. 50	磁器	
SK 10011	SK10011	10	J-X11	1. 20	1. 00	0. 20	なし	
SK 10012	SK10012	10	J-U9, J-V9	1. 80	1. 10+	0. 50	なし	
SK 10013	SK10013	10	J-V8	1. 20	1. 10	0. 10	陶器	
SK 10014	SK10014	10	J-V8. 9	2. 20	1. 30	0. 30	陶器、磁器	

第Ⅲ -15 表 遺構一覧表 8

報告番号	調査時 番号	調査 回数	グリッド	規模 (m)			主な出土遺物	備考
				長さ/長径 /桁行	幅/短径 /梁行	高さ/ 間数		
SK 10015	SK10015	10	J-V8. 9	1. 30	1. 00+	0. 20	陶器	
SK 10016	SK10016	10	J-V8, J-W8	1. 10	0. 30+	0. 30	陶器、磁器	
SK 10017	SK10017	10	L-A12	1. 20	1. 00	0. 40	土師器、陶器、土製品	
SK 10018	SK10018	10	J-W11. 12	1. 70	1. 50	0. 20	土師器	
SK 10019	SK10019	10	J-X11	1. 50	1. 20+	0. 10	なし	
SK 10020	SK10020	10	J-W11, J-X11	1. 10	0. 90	0. 30	なし	
SK 10021	SK10021	10	J-W11	1. 50	1. 40	0. 30	土師器、陶器	
SK 10022	SK10022	10	J-W11, J-X11	1. 10	0. 90+	0. 30	なし	
SB 10024	SB10024	10	J-Y12. 13. 14, J-W12. 13	5. 90	3. 70	3*2	土師器、陶器	
SB 10025	SB10025	10	J-W12. 13. 14, J-X12. 13. 14, J-Y12. 13	7. 80	7. 70	4*4	土師器、陶器	
SK 10027	SK10027	10	J-X12, Y12	0. 90	0. 80	0. 30	土師器、須恵器	
SK 10028	SK10028	10	J-X10. 11	2. 60	1. 20	0. 30	土師器、陶器、磁器	
SB 10030	SB10030	10	J-X11. 12, J-W11, J-Y12	4. 00	3. 90	2*2	土師器、陶器	
SK 10031	SK10031	10	J-Y12	0. 80	0. 70	0. 20	なし	
SK 10032	SK10032	10	L-A8	1. 10	1. 10	0. 30	土師器、陶器、磁器、青磁、石製品	
SK 10033	SK10033	10	J-Y8	1. 10	1. 00	0. 20	土師器	
SB 10035	SB10035	10	L-A11, L-B11. 12, L-C12	4. 40	4. 30	2*2	土師器、陶器	
SK 10038	SK10038	10	L-A12	1. 90	1. 20	0. 20	陶器	
SK 10040	SK10040	10	L-A7. 8	1. 40	1. 30	0. 30	土師器、磁器	
SK 10041	SK10041	10	L-A12, L-B13	1. 20	1. 20	0. 80	土師器、陶器、石製品、鉄製品	
SK 10042	SK10042	10	L-B10. 11	2. 60	1. 20	0. 40	土師器、陶器、磁器、土製品、石製品、瓦	
SK 10045	SK10045	10	J-Y10, L-A10	4. 00	1. 20	0. 50	土師器、陶器、磁器、石製品、鉄製品	
SK 10046	SK10046	10	J-V11, W11	0. 70	0. 50	0. 10	なし	
SK 10047	SK10047	10	J-X11	1. 00	0. 80+	0. 10	なし	

第Ⅲ -16 表 遺構一覧表9

## 第Ⅳ章 遺 物

### 第 1 節 出土した遺物

鵜殿西遺跡（第 1～5・7～10 次）発掘調査では掘立柱建物・柱列、土坑・井戸、溝、その他の遺構（遺構の性格が判然としないもの及びピット）の各遺構埋土や表土及び包含層から遺物が出土した。出土した遺物は、縄文時代、平安時代末を含む古代、鎌倉時代～江戸時代、近代初頭頃にまで及んでおり、主体となる遺物は鎌倉時代～江戸時代の幕末にかけてのものである。以下、遺構単位や層位ごとに出土した遺物について報告する。

なお、本報告における中近世の土器・陶磁器の分類・編年や暦年代観は、註で特に断らない限り下記の文献に従っている。基本的に生産地編年・分類を重視しつつ、消費地編年・分類を補足的に参照している。なお、調査指導により指摘や助言を受けた内容を踏まえた年代観や特質すべき内容については、註にて補足している。

#### 【南伊勢系土師器】

- ・伊藤裕偉 1990「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『Mie history』vol. 1 三重歴史文化研究会
- ・伊藤裕偉 1996「伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る」『鍋と甕そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
- ・伊藤裕偉 2008「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史』資料編 考古 2 三重県
- ・伊藤裕偉 2015「近世土師器の形態と変遷」『高河原遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター

※本文中では、伊藤編年として示す。

#### 【播磨型土師器鍋】

- ・長谷川眞 2007「播磨における土製煮炊具の様相」『中近世土器の基礎研究』21 日本中世土器研究会

※本文中では、長谷川編年として示す。

#### 【大坂・明石系及び大坂・堺系土師器焙烙、大坂系土師器皿】

- ・積山 洋 1995「近世大坂出土の土師質土器編年、素描」『大阪府埋蔵文化財協会研究紀要』3 財団

法人大阪府埋蔵文化財協会

- ・積山 洋 1999「大坂の土師質土器－主要器種を中心に－」『関西近世考古学研究』Ⅶ 関西近世考古学研究会

※本文中では、積山編年として示す。

#### 【和泉型瓦器椀】

- ・佐藤亜聖 2022「第 2 章 畿内産瓦器椀」『新版 概説中世の土器・陶磁器』真陽社

※本文中では、上記で提示されている和泉型の画期区分で示す。

#### 【紀伊型瓦器椀】

- ・北野隆亮 2006「紀伊型瓦器椀の編年と分布」『中近世土器の基礎研究』XX 日本中世土器研究会

※本文中では、北野編年として示す。

#### 【東播系須恵器】

- ・佐藤亜聖 2022「第 4 章 東播系須恵器」『新版 概説中世の土器・陶磁器』真陽社

※本文中では、佐藤編年として示す。

#### 【灰釉陶器】

- ・井上喜久男「第 4 章 特論 第 5 節 編年論 瓷器」『愛知県史』別編 窯業 1 古代 猿投系 愛知県

※本文中では、上記で整理されている窯式編年の各期を示す。

#### 【山茶碗・山皿】

- ・藤澤良祐 1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』第 3 号 三重県埋蔵文化財センター
- ・山本智子 2022「第 3 章 山茶碗」『新版 概説中世の土器・陶磁器』真陽社

※本文中では、上記で整理されている各地域型の型式名を示す。

#### 【瀬戸・美濃製品陶器】

- ・愛知県史編さん委員会編 2007『愛知県史』別編 窯業 2 中世・近世 瀬戸系 愛知県
- ・田口昭二 1983『美濃焼』考古学ライブラリー 17 ニューサイエンス社
- ・檜崎彰一 1990「付表 1・2 近世美濃窯編年表」『尾

呂』瀬戸市教育委員会

※本文中では、上記で整理されている各様式期を示す。

【渥美製品陶器】

・安井俊則 2012「第1章 総論 第2節 渥美窯」『愛知県史』別編 中世・近世 常滑系 愛知県

※本文中では、上記で整理されている型式を示す。

【常滑製品陶器】

・中野晴久 2012「第1章 総論 第3節 常滑窯」『愛知県史』別編 中世・近世 常滑系 愛知県

・中野晴久 1996「常滑窯の研究～近世赤物について～」『知多古文化研究』10 知多古文化研究会

・扇浦正義 1987「常滑大甕の編年的考察」『自證院遺跡』新宿区教育委員会

※本文中では、上記で整理されている型式及び年代を示す。

【備前製品陶器】

・重根弘和 2022「第5章 中世陶器 第2節 備前」『新版 概説中世の土器・陶磁器』真陽社

※本文中では、重根編年として示す。

・乗岡 実 2002「第3節 近世備前焼播鉢の編年案」『岡山城三之曲輪跡』岡山市教育委員会

※本文中では、乗岡編年として示す。

【堺・明石系陶器播鉢】

・稲原昭嘉 2000「明石播鉢の編年について」『近世

の実年代資料』関西近世考古学研究会

※本文中では、稲原編年として示す。

【肥前系陶磁器】

・大橋康二 1989『肥前陶磁』考古学ライブラリー 55 ニューサイエンス社

・九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年』

・佐賀県教育委員会 1996『内野山北窯跡』

※本文中では、上記で整理されている年代を示す。

【白磁・青磁（貿易陶磁器）】

・山本信夫 2022「第7章 貿易陶磁器 第1節 中世前期の貿易陶磁器」『新版 概説中世の土器・陶磁器』真陽社

※本文中では、山本編年として示す。

・續伸一郎 2022「第7章 貿易陶磁器 第2節 中世後期の貿易陶磁器」『新版 概説中世の土器・陶磁器』真陽社

※本文中では、上記で整理されている時期区分として示す。

【滑石製石鍋】

・木戸雅寿 1993「石鍋の生産と流通について」『中近世土器の基礎研究』IX 日本中世土器研究会

・木戸雅寿 1995「13. 石鍋」『概説中世の土器・陶磁器』真陽社

※本文中では、木戸編年として示す。

## 第2節 掘立柱建物・柱列出土遺物

S B 20011（第Ⅳ－1図）

1は、土師器の甕である。口縁端部は内側に折り返されて肥厚する。2～5は、陶器の山茶碗である。口縁部に向かって直線的にのび、4は外反する。3・5の高台には靫殻痕が残る。尾張型のもので12世紀後半～13世紀前半のものと考えられる。6は、青磁の皿である。口縁端部に向かって外反し、端部には輪花がある。7・8は、土錘である。外面はナデにより調整されている。

S B 20030（第Ⅳ－1図）

9は、土師器の皿である。南伊勢系であり、16世紀前半のものと考えられる。10は、土師器の焙烙である。口縁部は外側へ屈曲し、内面には耳が貼り付けられている。口縁部の形状と内耳の存在から

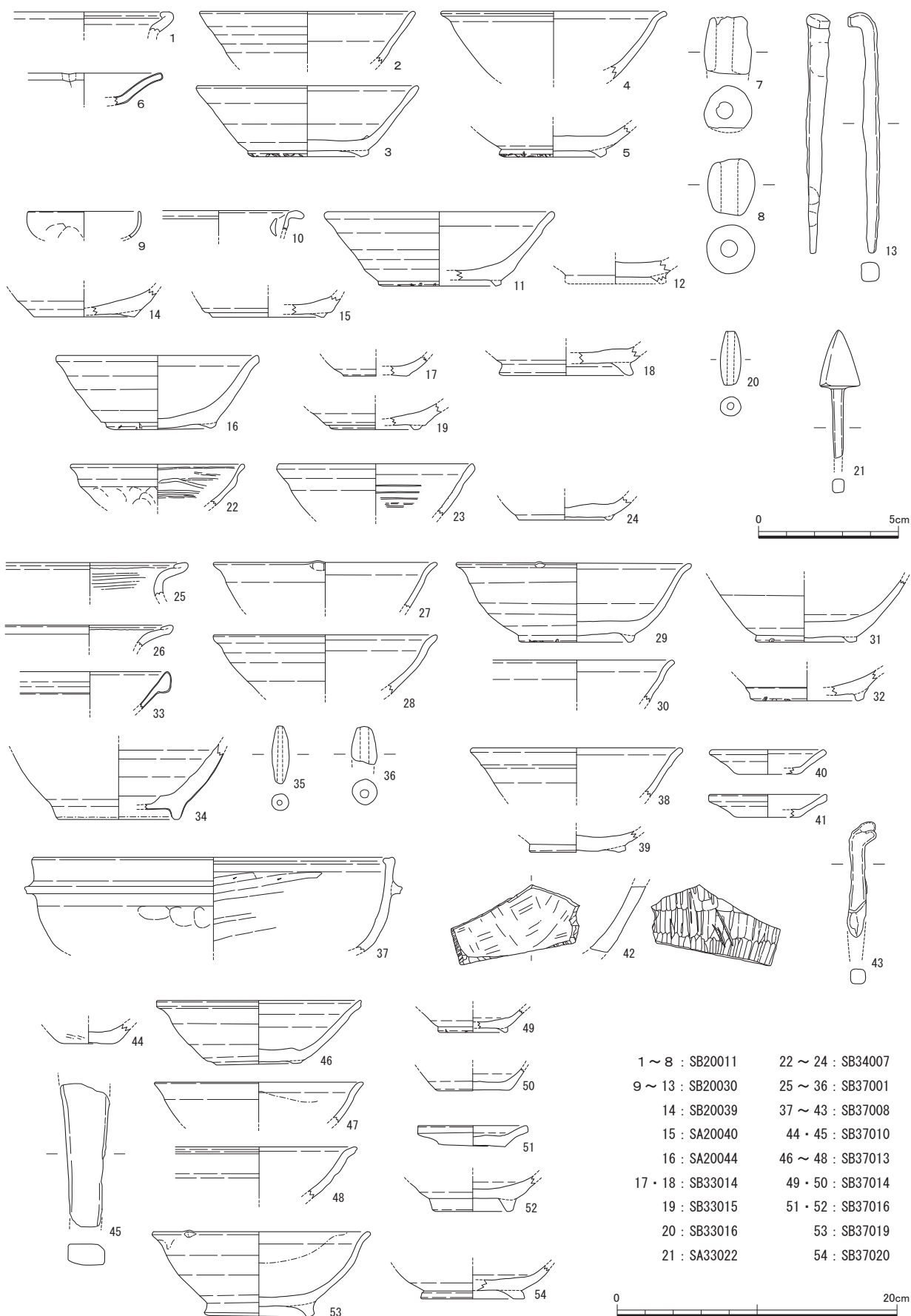
讃岐地域の中讃型焙烙と考えられる。中讃型焙烙 a 型式の17世紀～18世紀代のものと考えられる<sup>(1)</sup>。11・12は、陶器の山茶碗である。11の高台には靫殻痕が残る。尾張型第5型式の13世紀前半のものと考えられる。13は、鉄製の釘である。断面形状は方形で頂部が折れ曲がった折釘と考えられる。

S B 20039（第Ⅳ－1図）

14は、陶器の山茶碗である。高台の断面形状は、潰れた逆三角形である。尾張型とみられ13世紀前半～中頃のものと考えられる。

S A 20040（第Ⅳ－1図）

15は、陶器の山茶碗である。高台には靫殻痕が残る。



第IV - 1 図 出土遺物実測図1 (1:4、12、21、43は1:2)

#### S A 20044 (第IV - 1 図)

16 は、陶器の山茶碗である。口縁部は外反して端部は外傾面を持つ。高台には靱殻痕が残る。尾張型第5型式の13世紀前半のものと考えられる。

#### S B 33014 (第IV - 1 図)

17・18 は、陶器の山茶碗である。17 は、小型碗の高台が剥離してしまった状態の底部である。いずれも12世紀前半の渥美湖西型のものと考えられる。

#### S B 33015 (第IV - 1 図)

19 は、陶器の山茶碗である。高台には靱殻痕が残る。13世紀後半の渥美湖西型のものと考えられる。

#### S B 33016 (第IV - 1 図)

20 は、土錘である。中央がやや膨らんだ形状のもので、外面はナデで調整されている。

#### S A 33022 (第IV - 1 図)

21 は、鉄鏝である。鏝身部と篋被部の断面形状が方形のもので、津野分類が示す角根式のものである。鏝身部が小さく、全体の長さも短いことから、角根Ⅱ式であり、時期は15世紀～16世紀のものと考えられる<sup>(2)</sup>。

#### S B 34007 (第IV - 1 図)

22 は、瓦器の椀である。内面には口縁端部付近まで圈線状のミガキが施されている。ミガキの間隔は広い。和泉型のもので、和泉型Ⅲ - 3期の13世紀前半のものと考えられる。23・24 は、陶器の山茶碗である。23の内面には、沈線状の浅い凹線がみられる。尾張型第7型式の13世紀後半のものと考えられる。

#### S B 37001 (第IV - 1 図)

25・26 は、土師器の鍋である。口縁端部は粘土が内側に折り返されて肥厚し、端部は丸く収められ

ている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱ a・Ⅱ b期の13世紀代のものと考えられる。27～32 は、陶器の山茶碗である。27・29の口縁端部には輪花があり、32の高台には靱殻痕が残る。渥美湖西型2 a型式～2 b型式の12世紀後半～13世紀前半にかけてのものと考えられる。33・34 は、白磁の碗と壺である。33の口縁端部は肥厚して外傾面を持つ。福建省系であり、山本編年C期の11世紀後半～12世紀前半のものと考えられる。34 は、高台の両側面と外面底部の見込みまで釉が掛り、内面は露胎である。35・36 は、土錘である。外面はナデにより調整されている。

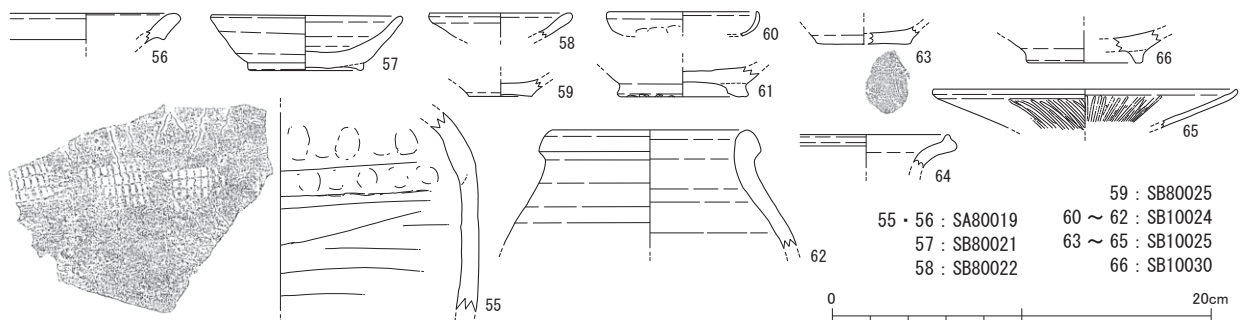
#### S B 37008 (第IV - 1 図)

37 は、土師器の羽釜である。口縁部は短く直立ぎみにのび、端部は内側に突出して上端は面を持つ。鐳の突出は短い。体部内面は工具ナデで調整され、一部がケズリ状に砂粒が動いている。外面には煤が付着している。38・39 は、陶器の山茶碗である。39の高台は、底部外面の見込みと高さがほぼ変わらない。渥美湖西型3 b型式の13世紀中頃～後半のものと考えられる。40・41 は、陶器の山皿である。口縁端部は外傾面を持つ。尾張型第6型式の13世紀前半のものと考えられる。42 は、滑石製の石鍋である。体部の破片で、外面には鑿による加工痕、内面には線状の使用痕が残る。側面には意図的に割られた痕跡があることから、石鍋として使用された後に二次加工されたものと考えられる。43 は、鉄製の釘である。先端が欠損している。

#### S B 37010 (第IV - 1 図)

44 は、陶器の山皿である。45 は、鉄製の釘である。断面形状は方形で、両端が欠損している。

#### S B 37013 (第IV - 1 図)



第IV - 2 図 出土遺物実測図2 (1:4)



46～48は、陶器の山茶碗である。46の高台は低く、断面形状は逆台形である。尾張型第6型式の13世紀前半のものと考えられる。

#### S B 37014 (第IV - 1図)

49・50は、陶器の山皿である。49の高台には靱殻痕、50の底部外面には糸切痕が残る。12世紀後半のものと考えられる。

#### S B 37016 (第IV - 1図)

51は、陶器の山皿である。口縁端部は角張った外傾面を持つ。尾張型第9型式の14世紀中頃前後のものと考えられる。52は山茶碗で、11世紀末～12世紀初頭のものと考えられる。

#### S B 37019 (第IV - 1図)

53は、陶器の山茶碗である。口縁端部には輪花が施されている。渥美湖西型1c型式の12世紀後半のものと考えられる。

#### S B 37020 (第IV - 1図)

54は、陶器の山茶碗である。渥美湖西型2a型式の12世紀後半～13世紀初頭のものと考えられる。

#### S A 80019 (第IV - 2図)

55は、陶器の甕である。体部肩付近の破片で、格子の押印がされている<sup>(3)</sup>。常滑製品と考えられる。56は、陶器の壺の可能性はある。

#### S B 80021 (第IV - 2図)

57は、陶器の山皿である。尾張型第4型式の12

世紀後半のものと考えられる。

#### S B 80022 (第IV - 2図)

58は、陶器の山皿である。口縁端部は膨らんで丸く収められている。

#### S B 80025 (第IV - 2図)

59は、陶器の山皿である。12世紀後半～13世紀前半のものと考えられる。

#### S B 10024 (第IV - 2図)

60は、土師器の皿である。南伊勢系であり、伊藤編年中世IV a期の15世紀前半～後半のものである。61は、陶器の山茶碗である。高台には靱殻痕が残る。13世紀前半のものと考えられる。62は、陶器の壺である。口縁部は短くのびて、端部は外側へ肥厚している。

#### S B 10025 (第IV - 2図)

63は、土師器の皿である。底部外面には糸切痕が残ることから、ロクロ土師器と考えられる。64は、土師器の鍋または焙烙である。南伊勢系であり、伊藤編年近世I期の17世紀後半～18世紀初頭前後のものと考えられる。65は、土師器の器台の可能性はある。内外面には縦方向の細かなミガキが施されている。古墳時代前期のものであろうか。

#### S B 10030 (第IV - 2図)

66は、陶器の山茶碗である。渥美湖西型2b型式の13世紀後半のものと考えられる。

## 第3節 土坑・井戸出土遺物

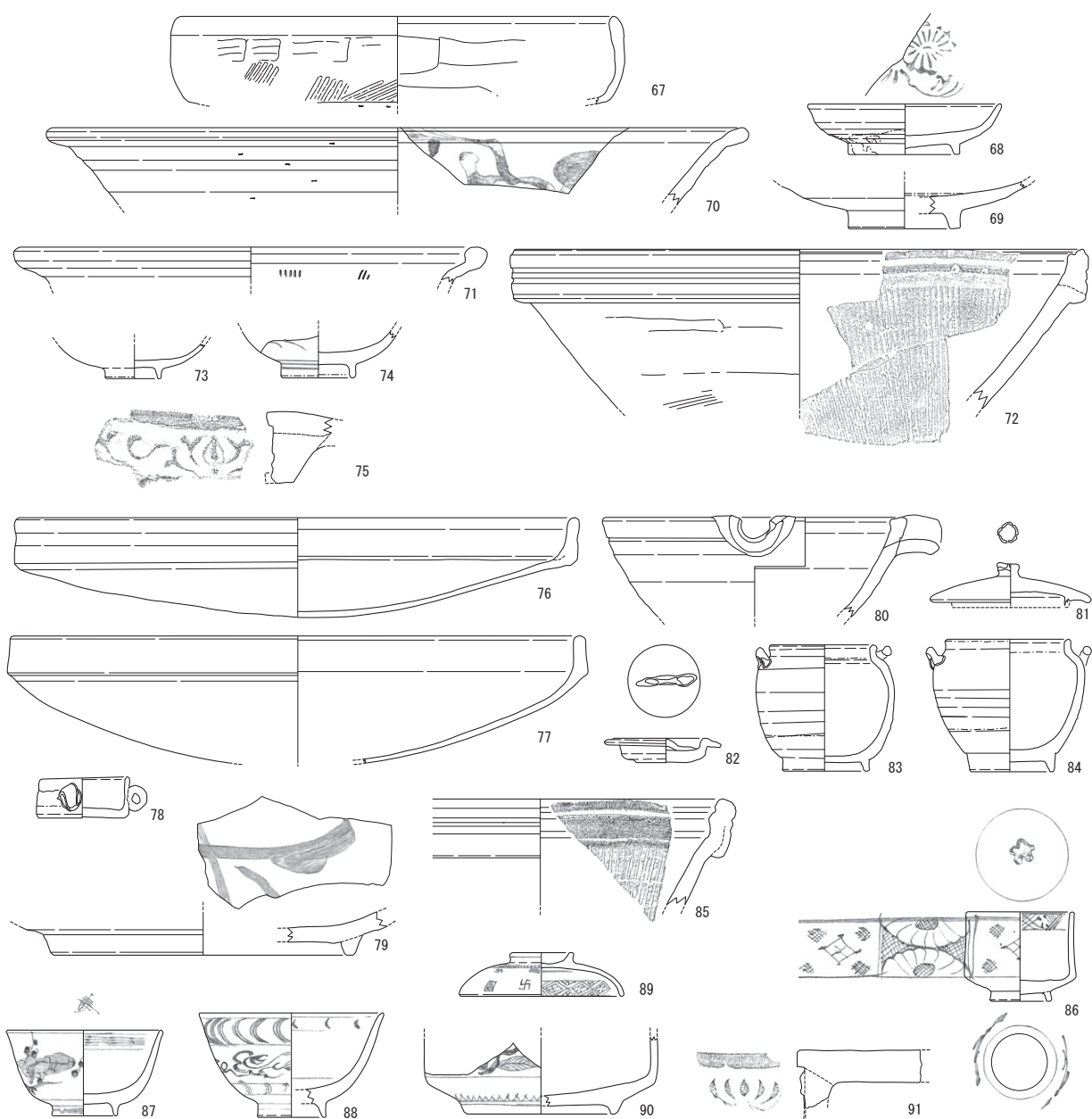
#### S K 20005 (第IV - 3図)

67は、土師器の鍋である。外面は平行タタキ、内面は工具ナデで調整されている。播磨型のもので、17世紀中頃のものと考えられる。68・69は、陶器の皿である。68は、内面見込みに菊文の摺絵がある。瀬戸・美濃製品であり、登窯第2段階第6小期～第7小期の18世紀前半のものと考えられる。70は、陶器の鉢である。口縁部は外反し、内面には鉄絵が描かれている。瀬戸・美濃製品であり、登窯第2段階第6小期～第7小期の18世紀前半のものと考えられる。71・72は、陶器の摺鉢である。71の口縁端部は玉縁状に膨らむ。瀬戸・美濃製品であり、登窯第1段階4小期の17世紀後半のものと考えられる。72は口縁部形状から堺・明石系のもので、稻

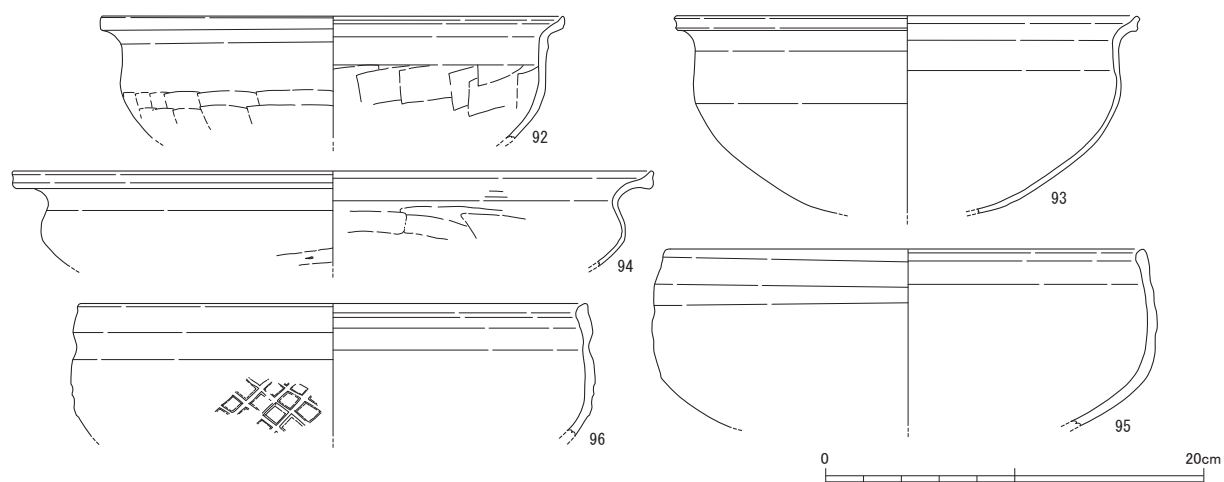
原編年I - 1類の18世紀～19世紀前半のものと考えられる。73・74は、磁器の碗である。74の外面には染付で文様等が描かれている。肥前系であり、17世紀後半～18世紀後半にかけてのものと考えられる。75は、軒平瓦である。瓦当は中心飾り付近が残り、左右に唐草文が展開するものと考えられる。

#### S K 20007 (第IV - 3図)

76・77は、土師器の焙烙である。いずれも口縁部が直立してのびたもので、76の口縁部と底部との境はケズリで面取りされている。大坂系のもので、積山編年13段階～14段階の19世紀前半のものと考えられる。78は、陶器の餌じょくである。把手が1箇所付く。瀬戸・美濃製品であり、登窯期のものと考えられる。79は、陶器の鉢である。内面に



67 ~ 75 : SK20005    76 ~ 91 : SK20007    92 ~ 96 : SK20009



0 20cm

第IV - 3図 出土遺物実測図3(1:4)

は鉄絵が描かれている。瀬戸・美濃製品である。80は、陶器の片口鉢である。瀬戸・美濃製品である。81・82は、陶器の蓋である。中央には切り込みが入った円形の鈕が付く。外面全体は緑色の釉が掛るが、内面は露胎であり煤が付着している。83・84は陶器の耳が付く双耳の小型壺である。82は83・84のいずれかに伴う陶器の蓋で、セット関係のものである。瀬戸・美濃製品であり、19世紀前半のものと考えられる。85は、陶器の搥鉢である。口縁端部は上方へ突出して玉縁状に膨らむ。堺・明石系であり、稲原編年Ⅱ－2類の18世紀後半～19世紀代のものと考えられる。

86～88は、磁器の碗である。86は筒形碗、87・88は端反碗である。いずれも内外面には染付で文様等が描かれており、86は菊文と菱文・格子文、87は椿文、88は飛雲が表現された文様がある。86の内面の見込みには、コンニャク印判の五弁花文、87には「壽」の文字がある。これらのうち、86・87は肥前系であり、88は瀬戸・美濃製品の可能性がある。18世紀～19世紀前半頃にかけてのものと考えられる。89は、磁器の蓋である。碗の蓋とみられ、内外面には染付で文様などが描かれている。外面には卍と変形字の文様、内面には四方嚢文がある。肥前系のもので、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。90は、磁器の鉢である。外面には染付で草花文が描かれている。肥前系のものである。91は、軒平瓦である。瓦当部は中心飾り部分のみが残る。

#### S K 20009 (第Ⅳ－3図)

92～97は、土師器の鍋である。92～94は南伊勢系で、口縁端部が上方へ突出している。伊藤編年近世Ⅱ期～Ⅲ期の18世紀～19世紀前半のものと考えられる。95～97は播磨型である。95は外面全体に煤が厚く付着しており、タタキの有無については不明である。96には格子タタキ、97には平行タタキが施され、97の内面は工具ナデで調整されている。95・96は長谷川編年Ⅷ期の16世紀後半～17世紀前半のものと考えられる。98は、陶器の天目茶碗である。内外面には鉄釉が施されているが、体部下半は露胎となる。瀬戸・美濃製品であり、大窯第2段階後半の16世紀中頃前後のものと考えられ

る。99は、陶器の皿である。底部内面には、摺絵による花文がある。瀬戸・美濃製品であり、登窯第2段階第7小期の18世紀中頃前後のものと考えられる。

#### S K 20013 (第Ⅳ－4図)

100は、土師器の皿である。口縁部はヨコナデ、その他はナデで調整されている。101は、陶器の片口鉢である。口縁端部は外傾面を持つ。常滑製品と考えられる。

#### S E 20016 (第Ⅳ－4図)

102～104は、土師器の皿である。102は平底で、口縁部は端部に向かって直線的にのびる。底部外面には糸切痕が残る。103・104は、椀に近い形状のもので、口縁端部はやや内傾して丸く収められている。103の外面には粘土紐の接合痕が残る。104の内面は工具ナデで調整されており、ハケメに近い条線を残す。105は、須恵器の鉢である。口縁端部は上方に突出して丸く収められている。東播系須恵器であり、佐藤編年Ⅲ－3類の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。106は、陶器の山茶碗である。内面は使用による摩耗が激しい。尾張型第5型式の13世紀前半頃のものと考えられる。107は、陶器の鉢である。内外面はロクロナデで調整され、底部外面には糸切痕が残る。108は、青磁の碗である。外面には鎬蓮弁文が施されている。龍泉窯系のもので、山本編年E期の13世紀前半頃のものと考えられる。

#### S K 20019 (第Ⅳ－4図)

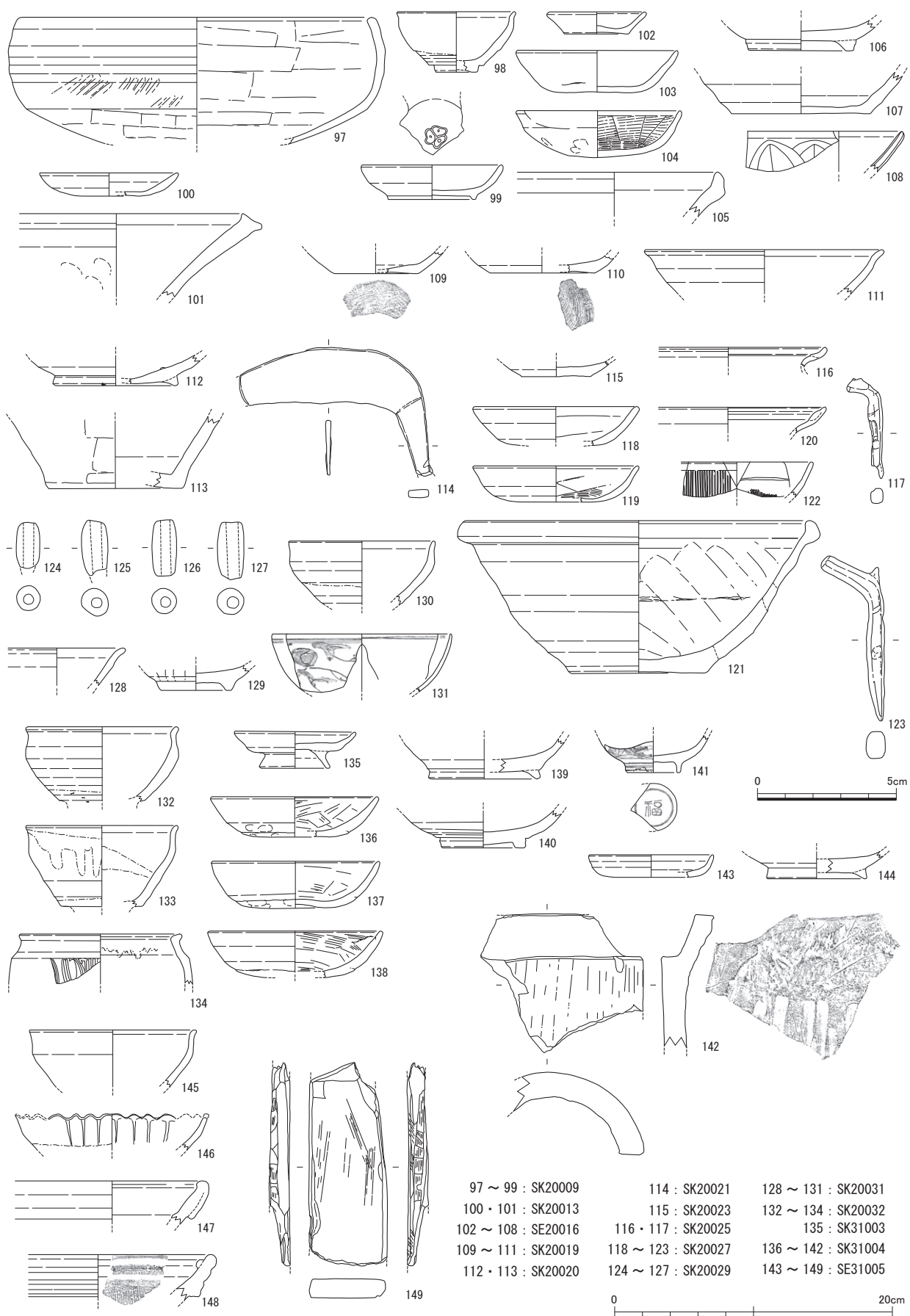
109・110は、土師器の皿である。いずれも平底で、外面には糸切痕が残る。111は、陶器の山茶碗である。尾張型第4型式～第5型式の12世紀後半～13世紀前半のものと考えられる。

#### S K 20020 (第Ⅳ－4図)

112は、陶器の山茶碗である。高台の形状は逆三角形を呈しており、靱殻痕がみられる。113は、陶器の甕である。外面には工具ナデの痕跡が残る。常滑製品と考えられる。

#### S K 20021 (第Ⅳ－4図)

114は、鉄製の鎌である。刃部と柄部の先端が欠損している。



第IV - 4図 出土遺物実測図4 (1:4、117, 123は1:2)



S K 20023 (第IV - 4 図)

115 は、陶器の皿である。平底のもので、糸切痕が残る。

S K 20025 (第IV - 4 図)

116 は、土師器の鍋である。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱ a 期の 13 世紀前半のものと考えられる。117 は、鉄製の釘である。断面形状は方形で、頂部が片側に折り曲げられた折釘と考えられる。

S K 20027 (第IV - 4 図)

118・119 は、土師器の皿である。119 の内面は工具ナデで調整され、ハケメ状の条線が残る。120 は、土師器の鍋である。口縁端部の粘土は内側に折り返されている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱ b 期～Ⅲ a 期の 13 世紀代のものと考えられる。121 は、須恵器の鉢である。口縁端部は内側に折り返されて玉縁状となる。内面には粘土の接合痕が残る。外面及び口縁端部内面には煤が付着している。東播系須恵器であり、佐藤編年Ⅳ類の 14 世紀末～15 世紀のものと考えられる。122 は、陶器の皿である。内外面には櫛描きによる条線が施されている。瀬戸・美濃製品の可能性がある。123 は、鉄製の釘である。頭部が欠損している。断面形状は方形である。

S K 20029 (第IV - 4 図)

124～127 は、土錘である。いずれも外面はナデで調整されている。

S K 20031 (第IV - 4 図)

128 は、陶器の山茶碗である。渥美湖西型 2 b 型式の 13 世紀前半のものと考えられる。129・130 は、陶器の碗である。129 の内外面には、黄色の釉が施されている。130 は天目茶碗であり、内外面には鉄釉が施されているが、体部下半は露胎となる。いずれも瀬戸・美濃製品である。131 は、磁器の碗である。外面には草花文とみられる文様が描かれている。染付の色調や胎土から漳州窯系の青花磁器の可能性はある。

S K 20032 (第IV - 4 図)

132・133 は、陶器の天目茶碗である。内外面には鉄釉が掛り、下半以下は露胎となる。瀬戸・美濃製品であり、登窯第 1 段階の 17 世紀前半～後半のものと考えられる。134 は、陶器の壺である。瀬戸・美濃製品と考えられる。

S K 31003 (第IV - 4 図)

135 は、土師器の台付皿である。「ハ」の字状に開く高台を持つ。

S K 31004 (第IV - 4 図)

136～138 は、土師器の皿である。椀に近い形状のもので、口縁端部は丸く収められている。内面は工具ナデで調整されている。137・138 には、粘土紐の接合痕が残る。139 は、陶器の山茶碗である。渥美湖西型 2 b 型式の 13 世紀前半のものと考えられる。140 は、陶器の碗である。片口鉢の底部の可能性もある。内面にはトチンの痕跡が残る。瀬戸・美濃製品とみられる。141 は、磁器の碗である。外面には染付で草木文があり、底部外面の見込みには「福」の文字がある。肥前系であり、17 世紀後半～18 世紀後半のものと考えられる。142 は、丸瓦である。凸面は縦方向のナデ後に横方向のナデで調整され、凹面には布目痕と棒状圧痕が残る。端部は面取り後にナデで整えられている。

S E 31005 (第IV - 4 図)

143 は、土師器の皿である。144 は、灰釉陶器の碗である。高台は断面逆三角形を呈する。百代寺窯式期の 11 世紀前半～後半のものと考えられる。145 は、陶器の天目茶碗である。内外面には鉄釉が掛かる。瀬戸・美濃製品と考えられる。146 は、陶器の皿である。口縁端部が波状になる。瀬戸・美濃製品の菊皿であり、登窯第 1 段階第 4 小期の 17 世紀後半のものと考えられる。147・148 は、陶器の擂鉢である。147 の口縁端部の粘土は、外側へ薄く折り返されている。瀬戸・美濃製品であり、登窯第 2 段階第 6 小期の 18 世紀前半のものと考えられる。148 は、堺・明石系のものの可能性がある。149 は、砥石である。表面には使用による線状の擦痕が顕著に残る。

S K 31008 (第IV - 5 図)

150 は、土師器の皿である。底部外面にはユビオサエの痕跡が残る。151 は、陶器の皿である。瀬戸・美濃製品の折縁皿である。

S K 31012 (第IV - 5 図)

152 は、土師器の羽釜である。口縁部は直立してのびる。

S K 31013 (第IV - 5 図)

153 は、磁器の仏飴具である。外面には染付で斜

格子文が描かれている。肥前系であり、18世紀後半～19世紀中頃のものと考えられる。

#### S K 31014 (第IV - 5図)

154・155は、土師器の鍋である。いずれも南伊勢系である。154の口縁端部は上方に摘み上げられ、内外面には煤が付着している。伊藤編年中世IV b期の16世紀前半のものと考えられる。156は、石製の円盤状製品である。円形に加工されており、端部は細かく打ち欠かれて尖っている。片面には自然面が残し、一部が階段状に剥離している。材質は泥岩系のものと考えられる。現状で類例が見当たらないため、どのように使われたのか不明だが、削器のような用途で使われたものの可能性がある<sup>(4)</sup>。

#### S E 31016 (第IV - 5図)

157～159は、土師器の皿である。いずれも椀に近い形状のもので、157・158の内面は工具ナデで調整されている。160は、土師器の鍋である。南伊勢系であり、伊藤編年中世II a期～II b期の13世紀代のものと考えられる。161は、陶器の鉢である。外面は縦方向のナデで調整されている。常滑製品とみられる。

#### S K 31019 (第IV - 5図)

162は、陶器の山茶碗である。尾張型第6型式の13世紀後半のものと考えられる。

#### S E 32002 (第IV - 5図)

163は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品の丸碗であり、登窯期のものと考えられる。164は、陶器の皿である。内面には蛇ノ目釉剥ぎの範囲がある。肥前系のものと考えられる。165は、陶器の甕である。口縁端部は水平面を持ち、両端は内外に突出する。常滑製品の大甕であり、19世紀前半のものと考えられる。166は、磁器の碗である。外面には染付でコンニャク印判の花文とみられる文様がある。肥前系であり、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。167は、鉄製の釘である。断面形状は方形である。

#### S E 32003 (第IV - 5図)

168は、陶器の播鉢である。堺・明石系であり、稲原編年I - 2類の18世紀後半以降のものと考えられる。169は、陶器の碗である。肥前系であり、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。

#### S E 32005 (第IV - 5図)

170・171は、土師器の皿である。平底のもので、外面には糸切痕が残る。172は、土師器の台付皿である。底部外面の見込みには糸切痕が残る。173は、陶器の甕である。渥美製品であり、渥美2 b型式の12世紀後半～13世紀前半のものと考えられる。

#### S E 33003 (第IV - 5図)

174～176は、土師器の皿である。174・175は椀に近い形状のもので、口縁端部はやや内湾する。175の口縁端部には煤が付着していることから、灯明皿として使用されたと考えられる。176は、南伊勢系である。伊藤編年中世IV a期の15世紀後半のものと考えられる。177・178は、青磁の碗である。いずれも外面には鎬蓮弁文が施されている。龍泉窯系のものとみられ、山本編年E期の13世紀前半のものと考えられる。

#### S K 33007 (第IV - 5図)

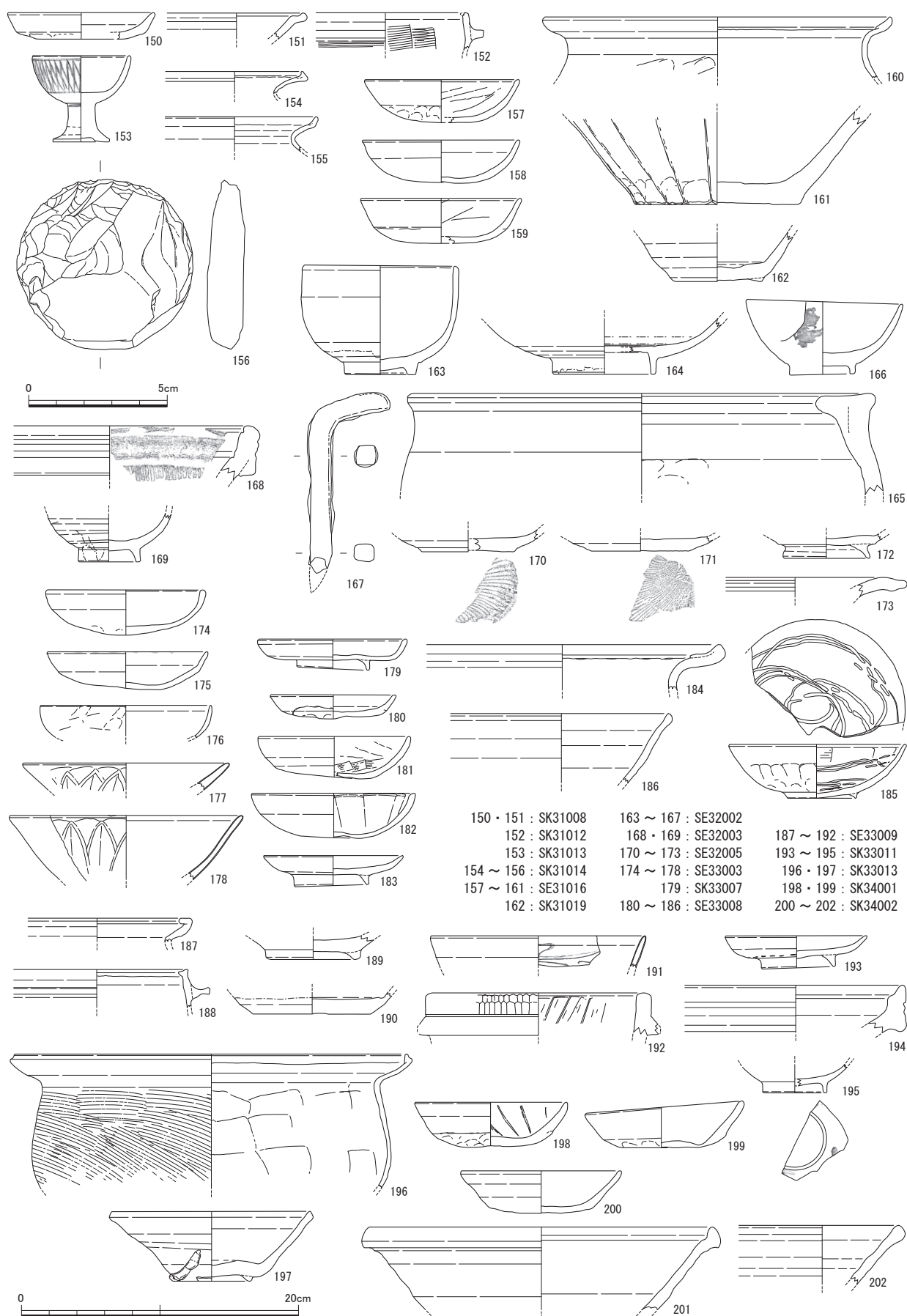
179は、土師器の台付皿である。平底の皿に低い高台が付いたものである。

#### S E 33008 (第IV - 5図)

180～182は、土師器の皿である。180は小型品で、外面には粘土紐の接合痕とコビオサエの痕跡が残る。181・182は、椀に近い形状のもので、内面は工具ナデで整えられており、182は口縁端部付近まで工具ナデが及んでいる。工具は左回りに動いて全周している。183は、土師器の台付皿である。平底で「ハ」の字状に開いた低い高台が付く。184は、土師器の鍋である。南伊勢系であり、伊藤編年中世II b期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。185は、瓦器の椀である。口縁部は外反して端部は丸く、高台は断面逆三角形の小さなものが付く。内面には螺旋状の暗文が施されているが、暗文は太くて密でない。紀伊型であり、北野編年III - 2期の13世紀後半のものと考えられる。186は、陶器の山茶碗である。口縁端部は外傾面を持って膨らむ。尾張型第6型式の13世紀前半のものと考えられる。

#### S E 33009 (第IV - 5図)

187は、土師器の鍋である。口縁端部は粘土が内側に折り返されている。南伊勢系と考えられる。188は、土師器の羽釜である。南伊勢系であり、伊



第Ⅳ - 5 図 出土遺物実測図5 (1:4, 156, 167 は 1:2)



藤編年中世Ⅱb期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。189は、陶器の山茶碗である。渥美湖西型3a型式の13世紀前半のものと考えられる。190は、白磁の皿である。福建省系とみられ、山本編年C期の11世紀後半～12世紀前半のものと考えられる。191は、青磁の碗である。内面には刻劃文の文様が施されている。龍泉窯系とみられ、山本編年D期の12世紀中頃～後半のものと考えられる。192は、滑石製の石鍋である。口縁部の破片で、鏝の端部は欠損している。口縁部外面と内面には細かな鑿の加工痕が残る。肥前西彼杵半島産の可能性がある<sup>(5)</sup>。木戸編年Ⅲ類-cの14世紀前半のものと考えられる。

#### S K 33011 (第Ⅳ-5図)

193は、土師器の台付皿である。器高が低い皿に小さな高台が付くもので、胎土は精良である。高台付近の外面には工具痕が残る。194は、陶器の播鉢である。口縁端部は両端と内面に拡張して広がり、外傾面には2条の沈線がめぐる。備前製品であり、乗岡編年近世Ⅱa期の17世紀前半のものと考えられる。195は、磁器の碗である。肥前系のものともみられる。

#### S K 33013 (第Ⅳ-5図)

196は、土師器の鍋である。口縁端部は摘み上げられている。体部外面には条線が太くて粗いハケメ、内面には工具ナデが施されている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅳa期の15世紀後半のものと考えられる。197は、陶器の山茶碗である。口縁部は外反しながら直線的にのび、端部は外傾面をもつ。高台の一部は、体部に付着した状態になっている。尾張型第7型式の13世紀後半のものと考えられる。

#### S K 34001 (第Ⅳ-5図)

198・199は、土師器の皿である。いずれも椀に近い形状のものである。198の内面は工具ナデで調整され、口縁端部付近まで及ぶ。199の内面には、底部から立ち上がる部分が大きく窪むことから、内面側から押し出し成形された可能性がある。

#### S K 34002 (第Ⅳ-5図)

200は、土師器の皿である。201は、須恵器の鉢である。口縁端部は膨らみ、上端は突出し下端も拡張して広がる。東播系須恵器であり、佐藤編年Ⅳ類

の14世紀末～15世紀代のものと考えられる。202は、陶器の鉢である。口縁端部は膨らんで玉縁状になっている。

#### S K 34003 (第Ⅳ-6図)

203は、土師器の焙烙である。口縁端部に向かって内湾しながらのび、端部は面を持つ。大坂・明石系であり、積山編年8段階の18世紀前半のものと考えられる。204は、陶器の甕である。205は、青磁の碗である。外面には櫛目の条線があり、内面にも文様が施されている。同安窯系の可能性がある。

#### S K 34004 (第Ⅳ-6図)

206は、土師器の鍋である。口縁端部は摘み上げられている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅳb期～Ⅳc期の16世紀代のものと考えられる。207は、陶器の皿である。瀬戸・美濃製品であり、大窯第2段階の16世紀前半～中頃前後のものと考えられる。

#### S K 34005 (第Ⅳ-6図)

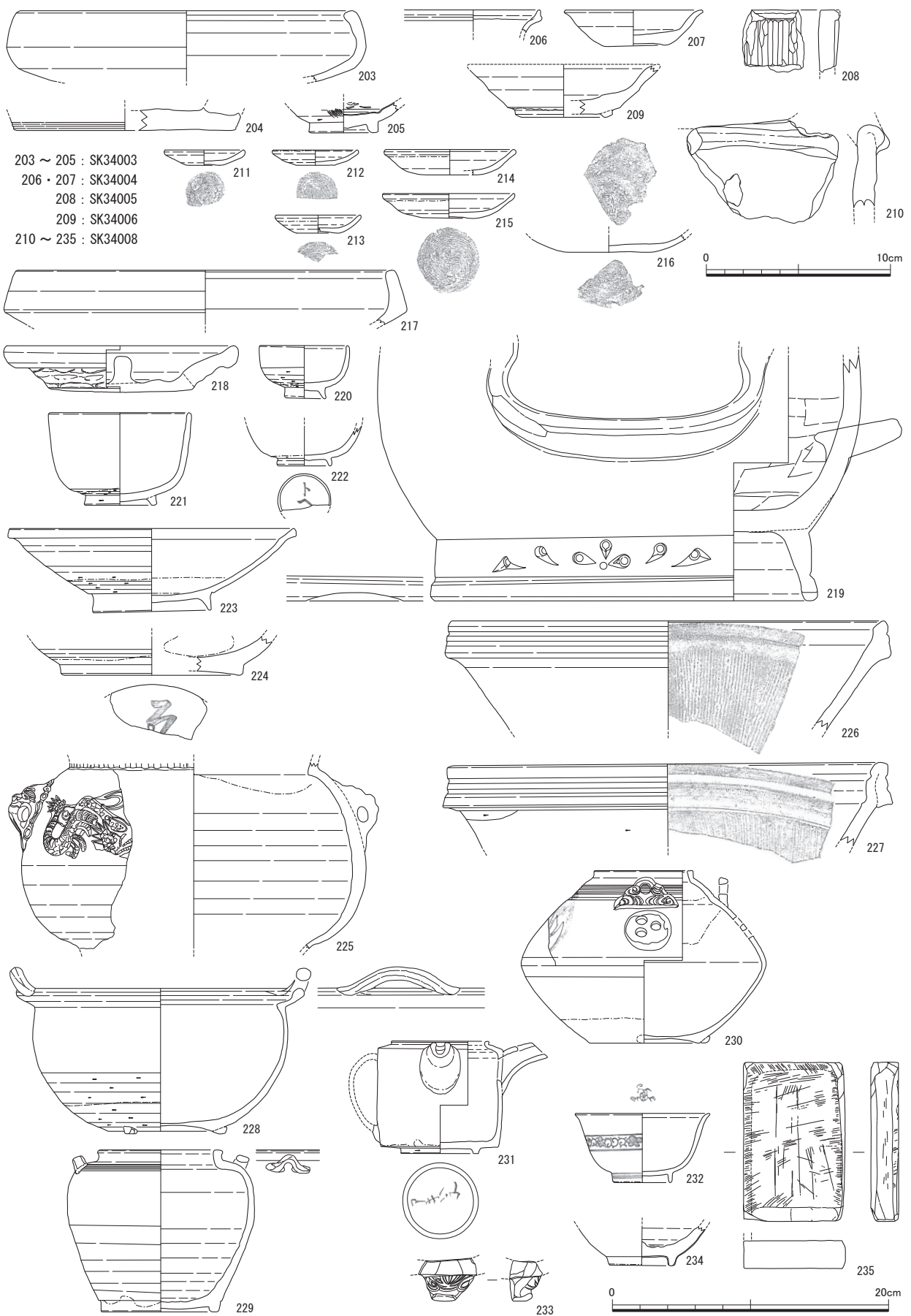
208は、瓦質土器の風炉である。口縁部の破片で、外面にはキザミ状の凹凸がめぐる。大和系の瓦質土器であり、14世紀後半～15世紀前半のものと考えられる<sup>(6)</sup>。

#### S K 34006 (第Ⅳ-6図)

209は、陶器の皿である。瀬戸・美濃製品の輪壳皿であり、登窯第1段階第3小期の17世紀中頃前後のものと考えられる。

#### S K 34008 (第Ⅳ-6図)

210は、縄文土器の深鉢である。緩い波状口縁になるもので、橋状突起または粘土塊貼付突起が付く個体の可能性がある。縄文時代後期後半頃のものと考えられる。211～216は、土師器の皿である。いずれも底部には糸切痕が残り、内外面ともにロクロナデで調整され、内面全体と口縁部外面には透明釉が掛かる。211と214の口縁端部には煤が付着しており、灯明皿として使用されたと考えられる。216の内面見込みには、文字の印刻があるが、何の文字かは不明である。いずれも大坂系であり、積山編年10段階～12段階の18世紀中頃～末前後のものと考えられる。217は、土師器の焙烙である。口縁部に向かって内傾しながら直線的にのび、端部は丸く収められている。大坂系であり、積山編年12段階の18世紀末前後のものと考えられる。218は土師



第IV - 6 図 出土遺物実測図6 (1:4、210は1:3)

質土器の蓋である。壺類の身にはめ込むタイプの落とし蓋となるもので、中央には柱状の鈕が付く。器面には煤が付着しており、ユピオサエの凹凸が顕著に残る。火消壺の蓋の可能性があり、18世紀以降のものと考えられる<sup>(7)</sup>。219は、土師質土器の風炉である。火窓は舌状に開いたタイプのもので、外面はナデ、内面は工具ナデで調整されている。高台の外面には透かし穴があるが、いずれも貫通しない。高台底面には2箇所半に半月状の挟りがある。外面全体には赤色の塗料が塗られている。同様の製品は和歌山城跡での出土がある<sup>(8)</sup>。

220～222は、陶器の碗である。いずれも瀬戸・美濃製品である。221は高台と底部外面を除いて内外面全体に赤褐色の釉が掛かっている。登窯第2段階第5小期～第6小期の17世紀後半～18世紀前半のものと考えられる。222の底部外面の見込みには、「トヘ口」と記された墨書がある。220・222は、登窯第3段階第8小期～第9小期の18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。223は、陶器の皿である。口縁部は外反しながら屈曲し、端部は外傾面を持つ。瀬戸・美濃製品であり、登窯第3段階第8小期の18世紀後半のものと考えられる。224は、陶器の鉢である。外面には墨書による文字の一部がみられ、内面には重ね焼きの痕跡が残る。瀬戸・美濃製品であり、登窯第3段階第11小期の19世紀中頃～後半のものと考えられる。225は、陶器の瓶掛である。体部は球形で、上部には把手が付く。把手の外面には獣面の文様、体部外面には龍の文様が型押しで施されている。外面全体には緑色の釉が掛かり、内面には煤が付着している。瀬戸・美濃製品であり、18世紀以降のものと考えられる。226・227は、陶器の搦鉢である。226は備前製品であり、乗岡編年近世2b期の17世紀後半のものと考えられる。227は堺・明石系のもので、稲原編年Ⅱ-2類の18世紀後半～19世紀代のものと考えられる。228は、陶器の鍋である。口縁部は受口状の形態で、2箇所に把手が付く。瀬戸・美濃製品の可能性があり、18世紀後半～19世紀前半のものであろうか。229は、陶器の双耳壺である。体部外面の肩には櫛状工具による沈線が5条めぐる。外面には高台を除いて黄色の釉が全面に掛かる。瀬戸・美濃製品とみられ、登

窯期のものと考えられる。230は、陶器の土瓶である。全体が算盤玉状の形態で、外面には絵付けがある。注口を欠損し、体部にある円孔は3つである。把手外面には、渦状の意匠がみられる。京都・信楽系の可能性がある。231は、陶器の汁次である。底部外面の見込みには文字が墨書されている。瀬戸・美濃製品であり、登窯第3段階第10小期以降の19世紀代のものと考えられる。

232は、磁器の碗である。口縁部が外反する端反碗であり、外面には染付で圈線と唐草文・花文、底部内面の見込みには草花文が描かれている。肥前系であり、18世紀末～19世紀中頃のものと考えられる。233は、青磁の香炉である。脚部の破片で、外面には型押しで獣面が表現されている。国産青磁の可能性もある。234は、青磁の壺である。内面は無釉で、ロクロ目の凹凸が顕著に残る。15世紀末以降のものと考えられる。235は、石製の硯を砥石として二次利用されたものである。硯としての形状は方形で、側面には二次利用に伴う加工がみられる。砥石として使用された面には、線状の顕著な擦痕が残る。17世紀前半以降のものと考えられる。

#### S K 34010 (第Ⅳ-7図)

236～239は、土師器の焙烙である。いずれも大坂・明石系のものである。238は底部から立ち上がる部分の外面は、膨らんで段状になる。積山編年8～12段階の18世紀前半～19世紀初頭にかけてのものと考えられる。240は、陶器の土瓶である。体部外面には山水が表現された文様が施されている。底部外面には文字が墨書されている。京都・信楽系の可能性がある。241は、陶器の壺である。備前製品の可能性がある。

#### S K 35002 (第Ⅳ-7図)

242は、陶器の山皿または山茶碗の口縁部である。渥美湖西型2a型式の12世紀後半のものと考えられる。

#### S E 35010 (第Ⅳ-7図)

243は、土師器の皿である。底部外面には糸切痕が残る。244は、陶器の山茶碗である。渥美湖西型3a型式の13世紀前半のものと考えられる。245・246は、青磁の碗である。内外面ともに無文様のものである。

#### S E 36004 (第IV - 7図)

247 は、陶器の卸皿である。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸後期様式 I 期の 14 世紀後半のものと考えられる。

#### S E 36007 (第IV - 7図)

248 は、土師器の羽釜である。口縁部は内傾し、端部は水平な面を持つ。鰐の突出は小さい。249 は、陶器の片口鉢である。口縁部は外反しながらのび、端部は外傾面を持つ。常滑製品であり、常滑第 2 段階 6 b 型式の 13 世紀後半のものと考えられる。250・251 は、白磁の碗である。250 の口縁端部は外側へ突出している。251 は底部外面が露胎で、内面に釉が掛かる。いずれも福建省系とみられ、山本編年 D 期の 12 世紀中頃～後半のものと考えられる。

#### S K 37003 (第IV - 8図)

252・253 は、土師器の皿である。252 は平底のものである。253 は椀に近い形状のもので、口縁部に向かって内湾ぎみにのびて端部は丸い。底部外面には 3 本の線刻が施されおり、工具痕の可能性がある短い線状痕が放射状に残る。254 は、土師器の鍋とみられる破片である。口縁端部は内側へ大きく屈曲し、端部は丸く収められている。特異な形状のもので、讃岐地域でみられる瓦質系土器の鍋に類似品があるという<sup>(9)</sup>。255～262 は、陶器の山茶碗である。このうち、256 が尾張型でそれ以外は渥美湖西型で

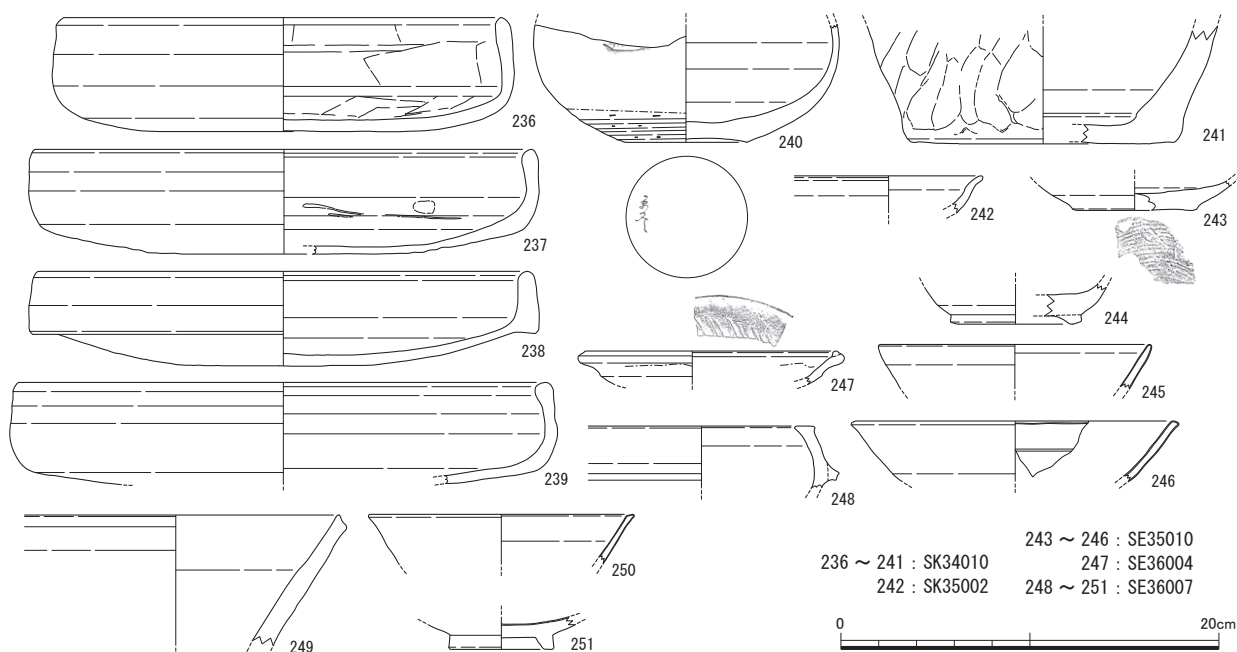
ある。12 世紀前半～13 世紀前半にかけてのものと考えられる。263～266 は、陶器の山皿である。いずれも平底のもので、263～265 の底部から立ち上がる部分の外面には段がある。渥美湖西型 2 a 型式～2 b 型式の 12 世紀後半～13 世紀前半のものと考えられる。267・268 は、陶器の片口鉢である。267 は渥美製品であり、渥美 2 b 型式の 12 世紀末～13 世紀前半のものと考えられる。268 は常滑製品であり、常滑第 2 段階 5 型式の 13 世紀前半のものと考えられる。269 は、陶器の甕である。体部は途中で大きく膨らんでおり、焼き歪みの可能性がある。内面には自然釉が全体に掛かる。常滑製品の可能性がある。270 は、青磁の碗である。内外面ともに無文様である。

#### S K 37004 (第IV - 8図)

271・272 は、陶器の山茶碗である。271 の高台接地面には、離れ砂が付着している。渥美湖西型 2 b 型式～3 a 型式の 13 世紀前半のものと考えられる。

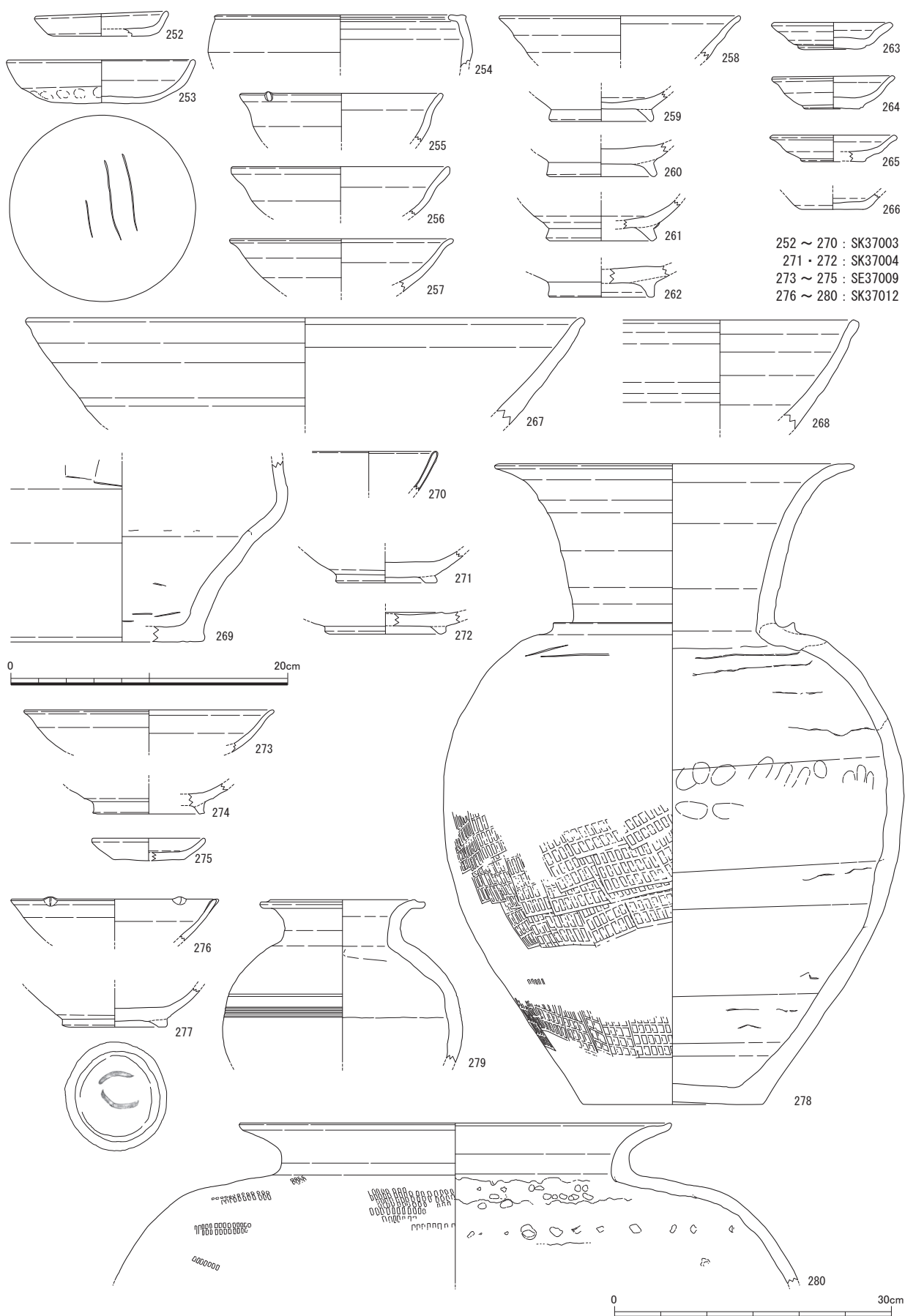
#### S E 37009 (第IV - 8図)

273 は、陶器の山茶碗である。尾張型第 3 型式の 12 世紀初頭前後のものと考えられる。274 は、灰釉陶器の可能性のある碗である。275 は、陶器の山皿である。平底のもので、口縁部に向かって直線的のびる。渥美湖西型 3 a 型式の 13 世紀前半のものと考えられる。



第IV - 7図 出土遺物実測図 7 (1:4)





第IV - 8図 出土遺物実測図8 (1:4、280は1:6)

#### S K 37012 (第IV - 8 図)

276・277 は、陶器の山茶碗である。276 の口縁端部には輪花があり、277 の底部外面の見込みには記号が墨書されている。渥美湖西型 1 c 型式～2 b 型式の 12 世紀後半～13 世紀前半のものと考えられる。278 は、陶器の瓶である。広口瓶であり、口縁部は頸部から直線的にのびて大きく外反する。体部の肩には、断面三角形の突帯がめぐり、体部は中位で最大径となり、底部に向かって窄まる。体部外面には格子タタキが施され、肩の外面にはヘラ記号状の線刻がある。常滑製品であり、常滑第 1 段階 1 b 型式の 12 世紀前半のものと考えられる。279 は、陶器の壺である。球形の体部とラッパ状に外反する頸部と口縁部が付く。体部外面には、櫛を使って施された浅い沈線が 5 条めぐり、常滑製品とみられ、常滑第 2 段階以降の 12 世紀後半頃のものとの可能性がある。280 は、陶器の甕である。大型のもので、口縁部は外反して、端部は小さく摘み上げられている。体部外面には、細かな格子タタキが施され、内面にはユビオサエの指頭圧痕と粘土紐の接合痕が顕著に残る。渥美製品であり、渥美 2 a 型式～2 b 型式の 12 世紀後半～13 世紀前半のものと考えられる。

#### S K 41002 (第IV - 9 図)

281～285 は、縄文土器の深鉢である。281 は、口縁部の破片で、縄文時代中期末以降のものと考えられる。282～285 は体部の破片で、外面には条線、内面にはミガキが施されている。いずれも縄文時代中期末以降のものと考えられる。286 は、陶器の鉢である。口縁端部は外傾面をもち、面の中央は窪む。常滑製品であり、常滑第 3 段階 8 型式の 14 世紀後半のものと考えられる。

#### S K 41004 (第IV - 9 図)

287・288 は、土師器の皿である。底部外面には糸切痕が残り、内外面ともにロクロナデで調整されている。口縁部には煤が付着していることから灯明皿として使用されたものと考えられる。いずれも大坂系であり、積山編年 10 段階以降の 18 世紀中頃以降のものと考えられる。

#### S K 41007 (第IV - 9 図)

289 は、土師器の皿である。椀に近い形状のもので、口縁部に向かって内湾ぎみにのび、端部は丸く

収められている。290 は、土師器の焙烙である。口縁部は内傾し、端部は丸く収められている。外面には円形の押圧痕とみられる痕跡がある。大坂・明石系であり、積山編年 6 段階の 18 世紀後半のものと考えられる。

#### S K 41009 (第IV - 9 図)

291 は、土師器の鍋である。口縁端部は粘土が内側に折り返されて肥厚する。南伊勢系であり、伊藤編年中世 II b 期の 13 世紀後半～14 世紀前半のものと考えられる。292 は、陶器の山茶碗である。

#### S K 41010 (第IV - 9 図)

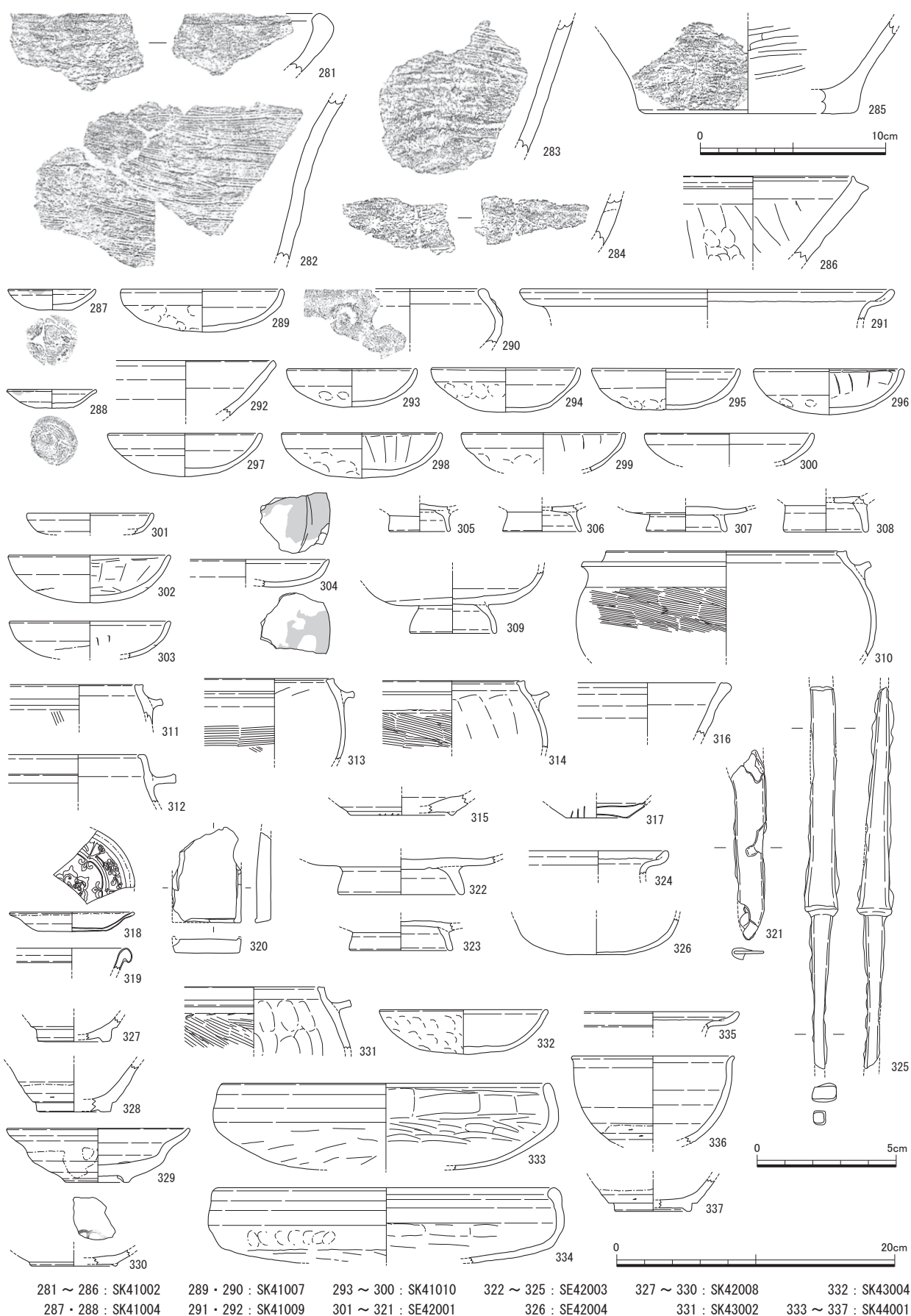
293～300 は、土師器の皿である。いずれも椀に近い形状のもので、口縁部に向かって内湾しながらのび、端部は丸く収められている。296・298・299 の内面は、工具ナデで調整されている。

#### S E 42001 (第IV - 9 図)

301～304 は、土師器の皿である。301・304 は器高が低く平らな形状のもので、302・303 は椀に近い形状のものである。302・303 の内面は工具ナデで調整されている。305～309 は、土師器の台付皿である。いずれも高台の破片であり、305・307・308 は下方に直線的にのびたもので、306・309 は「ハ」の字状に開いている。310～314 は、土師器の羽釜である。いずれも南伊勢系であり、伊藤編年中世 II b 期～III a 期の 13 世紀後半～14 世紀代のものと考えられる。

315 は、陶器の山茶碗である。断面逆三角形の高台で靱殻痕が残る。尾張型第 6 型式の 13 世紀前半のものと考えられる。316 は、陶器の鉢である。常滑製品であり、常滑第 2 段階 6 a 型式の 13 世紀後半のものと考えられる。317・318 は、白磁の皿である。317 は外面に工具痕とみられる条線が残る。福建省系であり、山本編年 C 期の 11 世紀後半～12 世紀前半のものと考えられる。318 の内面には、型押しによる唐草文と花文が組み合わさった文様が施されている。口縁端部のみ釉が掛からない口禿げ皿である。14 世紀以降のものと考えられる。319 は、白磁の壺である。口縁部の破片で、端部は外側に屈曲している。耳壺の可能性があり、福建省系とみられる。山本編年 C 期の 12 世紀末前後のものと考えられる。320 は、石製の硯である。墨受け側と左隅





第IV - 9図 出土遺物実測図9 (1:4、281 ~ 285は1:3、321, 325は1:2)

が欠損している。321 は、鉄製の刀子の可能性があり破片である。

#### S E 42003 (第Ⅳ - 9 図)

322・323 は、土師器の台付皿である。323 の底部外面の見込みには糸切痕とみられる痕跡が残る。324 は、土師器の鍋である。口縁端部は内側に折り返されて肥厚する。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱ a 期～Ⅱ b 期の 13 世紀中頃前後～14 世紀初頭前後のものと考えられる。325 は、鉄鏃である。鏃身部の断面形状が長方形の鑿根式のものである。全体の形状が長い鑿根Ⅰ式で、環状関・台状関タイプのもものとみられる。11 世紀後半以降のものと考えられる<sup>(10)</sup>。

#### S E 42004 (第Ⅳ - 9 図)

326 は、土師器の皿である。椀に近い形状のものと考えられる。

#### S K 42008 (第Ⅳ - 9 図)

327・328 は、陶器の碗である。いずれも瀬戸・美濃製品の天目茶碗の可能性があり。329・330 は、陶器の皿である。329 は、口縁部に向かって外側に屈曲する形態で、内面の見込みと高台の接地面には離れ砂が残る。肥前系であり、17 世紀末～18 世紀後半のものと考えられる。330 の底部内面の見込みには、菊文の印刻がある。瀬戸・美濃製品であり、大窯第 3 段階～第 4 段階の 16 世紀後半～17 世紀前半のものと考えられる。

#### S K 43002 (第Ⅳ - 9 図)

331 は、土師器の羽釜である。口縁部は短くのび、端部は水平な面を持つ。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱ b 期の 13 世紀後半～14 世紀前半のものと考えられる。

#### S K 43004 (第Ⅳ - 9 図)

332 は、土師器の皿である。椀に近い形状のもので、外面にはユビオサエの痕跡が顕著に残る。手づくね成形されたものと考えられる。

#### S K 44001 (第Ⅳ - 9 図)

333・334 は、土師器の焙烙である。いずれも口縁部に向かって内湾しながらのび、端部は丸く収められている。大坂・明石系であり、積山編年 6 段階～8 段階の 17 世紀後半～18 世紀前半のものと考えられる。335 は、土師器の鍋である。口縁端部の粘

土は内側に折り返されて肥厚する。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱ a 期～Ⅱ b 期の 13 世紀代のものと考えられる。336・337 は、陶器の天目茶碗である。瀬戸・美濃製品と考えられる。

#### S K 44005 (第Ⅳ -10 図)

338 は、陶器の鉢である。底部の破片で、内面には重ね焼き痕が残る。瀬戸・美濃製品の練鉢であり、登窯第 3 段階第 9 小期以降の 19 世紀前半以降のものと考えられる。339 は、陶器の擂鉢である。底部中央に円孔があることから、植木鉢として転用されたものと考えられる。円孔は、内面に剥離痕跡があることから、外面から打ち欠かれたと考えられる。340 は、磁器の皿である。口縁端部には輪花が施されている。内外面には染付で文様が描かれており、外面には唐草文、内面には魚文と竹文、底部内面の見込みにはコンニャク印判の五弁花文、底部外面の見込みには字体が崩れた「寿」とみられる文字がある。肥前系であり、17 世紀後半～18 世紀後半のものと考えられる。341 は、鉄製の釘である。断面形状は方形で、頂部が折れ曲がった折釘である。

#### S E 44006 (第Ⅳ -10 図)

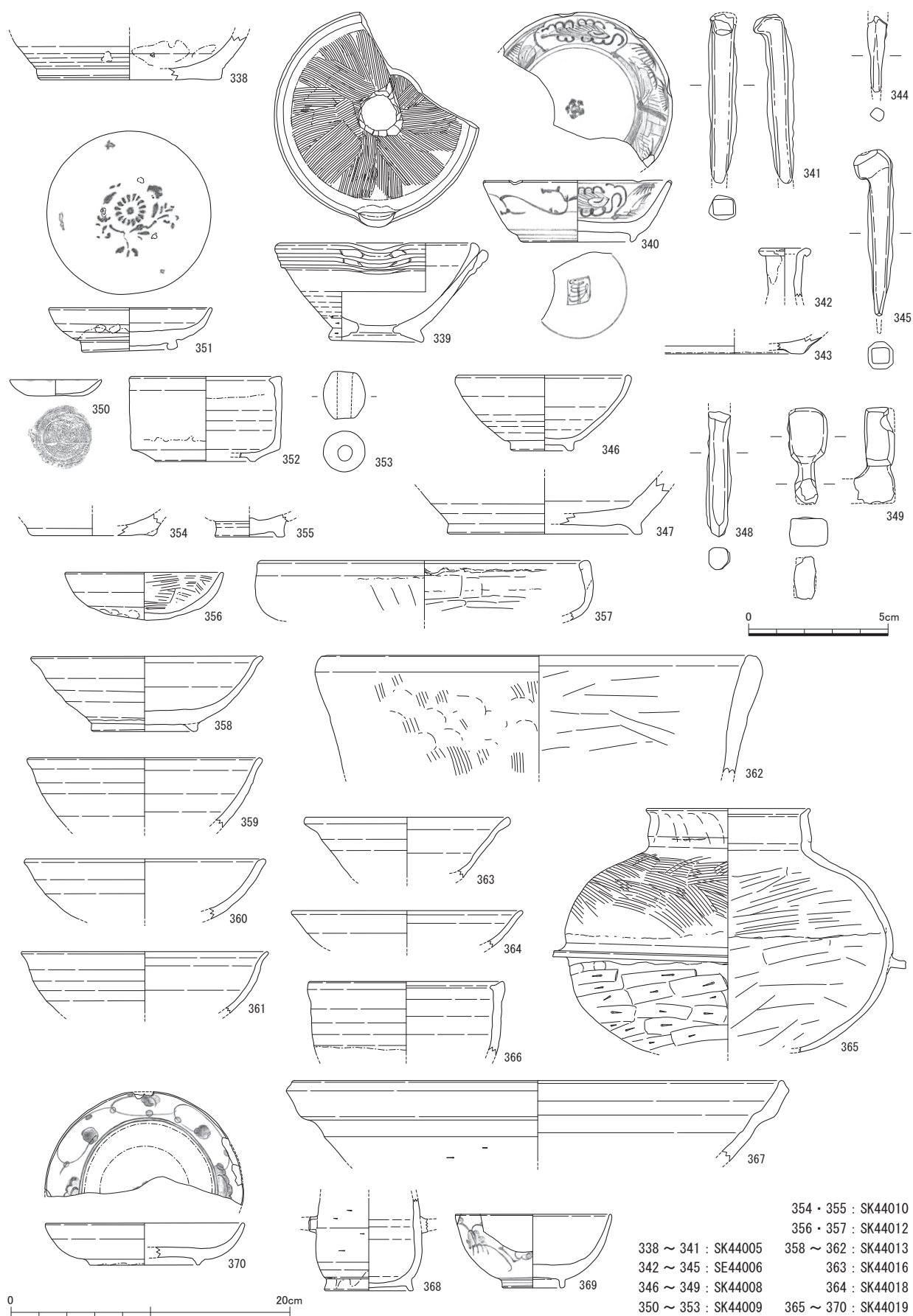
342 は、陶器の徳利である。細長い頸部が付くもので、口縁部は外側へ大きく屈曲している。瀬戸・美濃製品であり、登窯第 2 段階第 6 小期の 18 世紀前半のものと考えられる。343 は、青磁の壺である。内面は露胎となり、外面のみに釉が掛かる。344・345 は、鉄製の釘である。344 は先端部の破片、345 は断面形状が方形で、頂部が折れ曲がった折釘である。

#### S K 44008 (第Ⅳ -10 図)

346 は、陶器の碗である。口縁部はやや内湾し、端部は膨らんで小さく玉縁状になる。瀬戸・美濃製品とみられる。347 は、陶器の鉢である。高台の断面形状は逆台形である。常滑製品であり、常滑第 2 段階 5 型式の 13 世紀前半のものと考えられる。348 は、鉄製の釘である。頂部が欠損している。349 は、鉄製の金具の可能性があり破片である。

#### S K 44009 (第Ⅳ -10 図)

350 は、土師器の皿である。底部には糸切痕が残る。口縁端部には煤が付着し、灯明皿として利用されたものと考えられる。大坂系であり、積山編年 12 段階の 19 世紀初頭前後のものと考えられる。



第IV-10 図 出土遺物実測図10(1:4、341, 344, 346, 348, 349 は 1:2)

351 は、陶器の皿である。底部内面の見込みには、草花文の摺絵が施されている。瀬戸・美濃製品であり、登窯第2段階第6小期以降の18世紀前半～中頃前後のものと考えられる。352 は、陶器の香炉である。全体の形状は筒形で、口縁端部は内側へ屈曲して引き出されている。瀬戸・美濃製品の筒形香炉であり、登窯第3段階第8小期の18世紀後半のものと考えられる。353 は、土錘である。算盤玉状の形状で、外面はナデにより調整されている。

S K 44010 (第IV -10 図)

354 は、陶器の山茶碗である。355 は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品の可能性がある。

S K 44012 (第IV -10 図)

356 は、土師器の皿である。椀に近い形状のもので、口縁端部は丸く収められている。内面は工具ナデで調整されている。357 は、土師器の焙烙である。口縁部は内湾ぎみにのび、端部はやや膨らむ。内面は工具ナデで調整され、内外面には粘土紐の接合痕が残る。大坂・明石系であり、積山編年7段階～8段階の17世紀末～18世紀前半のものと考えられる。

S K 44013 (第IV -10 図)

358 ～ 361 は、陶器の山茶碗である。渥美湖西型または尾張型とみられ、12世紀前半～13世紀前半にかけてのものである。362 は、土製品の移動式カマドである。土製品としては硬く焼き締っており、陶器に近い印象を持つ。口縁部の破片とみられ、外面はユビオサエ及びハケメ、内面は工具ナデで調整されている。讃岐または河内地域で作られた船用の移動式カマドである可能性が考えられる<sup>(11)</sup>。

S K 44016 (第IV -10 図)

363 は、陶器の山茶碗である。尾張型第7型式の13世紀中頃～後半のものと考えられる。

S K 44018 (第IV -10 図)

364 は、灰釉陶器の碗とみられる破片である。口縁部はやや外反し、端部は丸く収められている。百代寺窯式期のものであろうか。

S K 44019 (第IV -10 図)

365 は、土師器の茶釜である。口縁部に向かって直立してのび、端部は外反している。体部の中位に鏝が付く。外面は体部上半がハケメ、下半がケズリ、内面は工具ナデで調整されている。南伊勢系であり、

伊藤編年中世IV c 期～近世I 期の17世紀以降のものと考えられる。366 は、陶器の香炉である。口縁端部は内傾面を持つ。瀬戸・美濃製品の筒形香炉であり、登窯第2段階第7小期の18世紀中頃前後～後半のものと考えられる。367 は、陶器の播鉢である。口縁部は外反しながら屈曲し、口縁端部は外傾面を持ち、上端は突出している。瀬戸・美濃製品であり、登窯第3段階第8小期の18世紀後半のものと考えられる。368 は、陶器の壺である。体部の中位には把手状のものが付く。瀬戸・美濃製品であり、登窯期のものであろうか。369 は、磁器の碗である。外面には染付で草花文とみられる文様が描かれている。肥前系であり、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。370 は、磁器の皿である。内面には染付で崩れた唐草文が描かれ、見込みにはコンニャク印判の五弁花文がある。肥前系であり、17世紀末～18世紀末前後のものと考えられる。

S K 44020 (第IV -11 図)

371 は、陶器の土瓶である。底部と注口が欠損している。球形の体部で、外面には草文とみられる文様が描かれている。京都・信楽系のものであろうか。

S K 44022 (第IV -11 図)

372・373 は、磁器の碗である。いずれも外面には染付で文様が描かれている。肥前系であり、18世紀前半以降のものと考えられる。

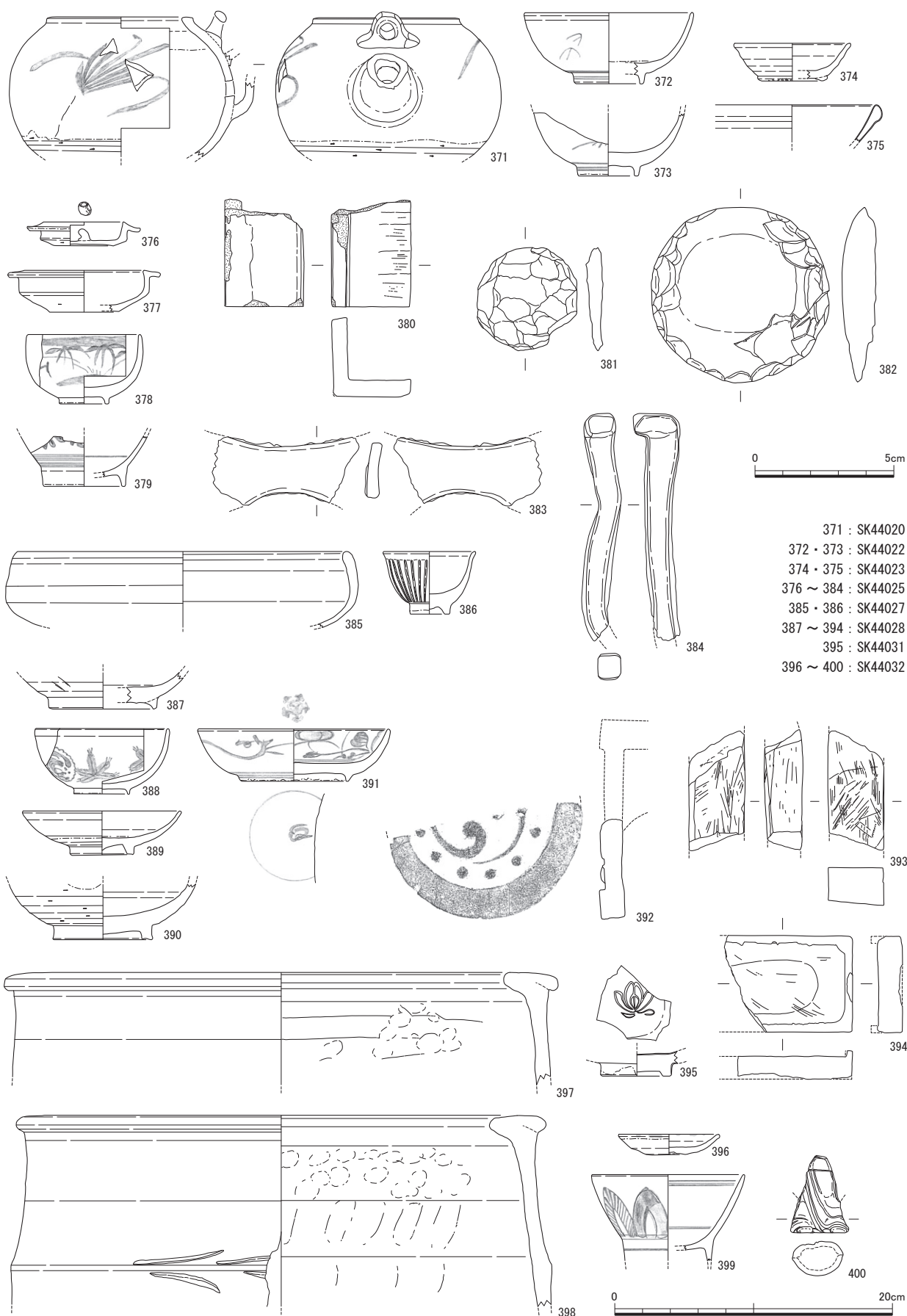
S K 44023 (第IV -11 図)

374 は、陶器の山皿である。高台には靱殻痕が残る。渥美湖西型2 a 型式の12世紀後半のものと考えられる。375 は、白磁の碗である。口縁端部は外側へ折り返されて肥厚する。福建省系であり、山本編年C期の11世紀後半～12世紀前半のものと考えられる。

S K 44025 (第IV -11 図)

376・377 は、陶器の蓋である。いずれも落とし蓋になるもので、376の中央には柱状の鈕が付く。瀬戸・美濃製品であり、登窯期のものと考えられる。378・379 は、磁器の碗である。378 は丸碗、379 は広東碗の底部である。いずれも染付の文様などがあり、378の外面には竹文が描かれている。肥前系とみられ、19世紀前半以降のものと考えられる。380 は、土製のL字状製品である。板状のものがL字に





第IV-11 図 出土遺物実測図 11(1:4、381～384 は 1:2)

曲がったもので、土師質というよりも瓦質に近い。表面はナデまたは工具ナデで調整されている。L字の凸面側には煤が付着していることから、何らかの火処で使用された製品と考えられるが、用途は不明である。381・382は、石製の円盤状製品である。円形に加工されており、端部は細かく打ち割られている。382の片面は端部を除いて未加工である。いずれも材質は泥岩系のもと考えられる。現状で類例が見当たらないため、どのように使われたものか不明だが、削器のような用途であった可能性が考えられる<sup>(12)</sup>。383は、加工された鉄製の板状製品である。384は、鉄製の釘である。先端が欠損している。断面形状は方形で、頂部が折れ曲がった折釘である。S K 44027 (第IV -11 図)

385は、土師器の焙烙である。口縁部に向かって内湾しながらのび、端部は丸く収められている。大坂・明石系であり、積山編年6段階の17世紀後半のものと考えられる。386は、陶器の小坏である。外面には削ぎによる縦方向の凹線が施されている。S K 44028 (第IV -11 図)

387は、陶器の山茶碗である。体部外面には工具の線状痕が残る。尾張型第4型式の12世紀前半～中頃前後のものと考えられる。388は、陶器の碗である。外面には染付で若松文が描かれた陶胎染付である。17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。389は、陶器の皿である。内面には蛇ノ目釉剥ぎの範囲があり、高台は削り出されて底部外面の見込みには兜巾がある。肥前系であり、17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。390は、陶器の鉢とみられる破片である。器厚が厚いことから、片口鉢である可能性が高い。瀬戸・美濃製品とみられ、登窯期のものであろうか。391は、磁器の皿である。外面には染付で崩れた唐草文、内面には草花文が描かれ、底部外面の見込みには崩れた文字、内面の見込みにはコンニャク印判の五弁花文がある。肥前系であり、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。392は、軒丸瓦である。瓦当下部の外縁及び中心付近にかけての破片である。外側に珠文を配し、内側には巴文が展開する。393は、砥石である。短辺の両端は欠損している。394は、石製の硯である。長方形のもので、墨受け側と外縁の大半が欠損

している。表面には墨を刷った際の使用痕が残る。S K 44031 (第IV -11 図)

395は、青磁の碗である。内面の見込みには花文の陰刻が施されている。

S K 44032 (第IV -11 図)

396は、土師器の皿である。底部には糸切痕が残る。内面と口縁部外面には透明釉が掛かり、口縁端部内外面には煤が付着している。大坂系であり、積山編年10段階以降の18世紀中頃以降のものと考えられる。397・398は、陶器の甕である。いずれも常滑製品であり、398の体部外面にはヘラによる文様がみられる。半胴甕の可能性もある。18世紀後半のものと考えられる。399は、磁器の碗である。広東碗で、内外面には染付で文様などが描かれている。18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。400は、土製の人形である。人物の脚部分の破片で、上半身が欠損している。内部は中空で側面に粘土の継ぎ目があることから、2つの粘土板を接合して成形され、型押しで作られたものと考えられる。

S K 44033 (第IV -12 図)

401は、陶器の碗である。外面には白土を掛けた刷毛目文様がある。肥前系であり、18世紀以降のものと考えられる。402・403は、磁器の碗である。いずれも外面には染付で文様が描かれており、402には雨降文、403には草花文がある。肥前系であり、18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。

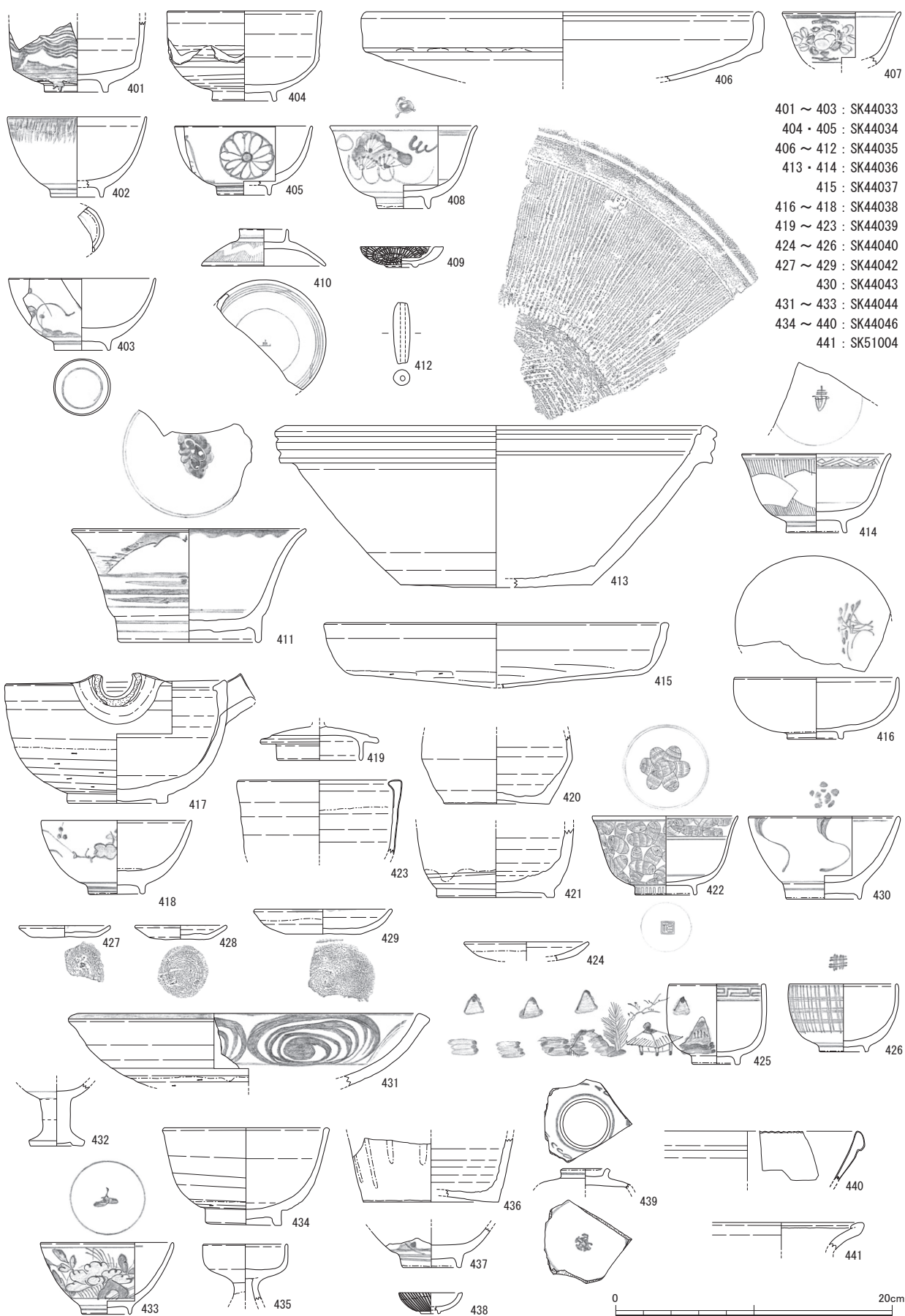
S K 44034 (第IV -12 図)

404は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品のいわゆる拳骨茶碗と呼ばれるもので、外面には筋状の窪みがある。18世紀中頃以降のものと考えられる。405は、磁器の碗である。外面には染付で菊花文が描かれている。肥前系であり、18世紀前半～中頃のものと考えられる。

S K 44035 (第IV -12 図)

406は、土師器の焙烙である。大坂・明石系であり、積山編年12段階の19世紀初頭前後のものと考えられる。407・408は、磁器の碗である。408は小碗で、外面には色絵で牡丹文が描かれている。肥前系であり、18世紀後半以降のものと考えられる。408は口縁部が外反する端反碗で、内外面には染付で松文などの文様が描かれている。肥前系であり、19世紀





第IV-12 図 出土遺物実測図 12(1:4)

代のものと考えられる。409 は、磁器の紅小皿である。型押し成形されたもので、蛸唐草状の文様がある。肥前系であり、19 世紀中頃のものと考えられる。410 は、磁器の蓋である。碗の蓋とみられ、内外面には染付で斜線文などの文様が描かれている。肥前系であり、19 世紀代のものと考えられる。411 は、磁器の鉢である。底部には蛇ノ目高台が付いている。内外面には染付で文様が描かれており、外面には山水文、内面には雲文、内面の見込みには圏線と花文とみられる文様がある。肥前系であり、17 世紀後半～19 世紀前半のものと考えられる。412 は、土錘である。細長い柱状のもので、外面はナデで調整されている。

#### S K 44036 (第IV -12 図)

413 は、陶器の播鉢である。播目は放射状に連続して施されている。堺・明石系であり、稲原編年 I - 2 類の 18 世紀中頃～19 世紀前半のものと考えられる。414 は、磁器の碗である。口縁部が外反する端反碗で、内外面には染付で文様が描かれている。外面には斜線文と扇文、内面には斜格子文、内面の見込みには「寿」の文字がある。肥前系であり、19 世紀中頃以降のものと考えられる。

#### S K 44037 (第IV -12 図)

415 は、土師器の焙烙である。大坂・明石系であり、積山編年 6 段階の 17 世紀後半のものと考えられる。

#### S K 44038 (第IV -12 図)

416 は、陶器の碗である。口縁部に向かって内湾しながらのびる。内面には草木文とみられる文様が描かれている。京都・信楽系の可能性がある。417 は、陶器の片口鉢である。半球状の形状で、口縁端部は内側に引き出されて突出している。瀬戸・美濃製品であり、登窯第 3 段階第 8 小期以降の 18 世紀後半以降のものと考えられる。418 は、磁器の碗である。外面には染付で枝梅花文が描かれている。肥前系であり、18 世紀前半のものと考えられる。

#### S K 44039 (第IV -12 図)

419・420 は、陶器の蓋と壺である。いずれも瀬戸・美濃製品と考えられる。421 は、陶器の壺または徳利である。瀬戸・美濃製品とみられ、登窯期の 18 世紀後半以降のものと考えられる。422 は、磁器の碗である。口縁部が外反した端反碗で、内外面には

染付で文様が描かれている。外面には米俵文、内面にも圏線内に米俵文が展開し、底部外面の見込みには「福」の文字がある。肥前系であり、19 世紀代のものと考えられる。423 は、青磁の香炉である。口縁端部は内側へ屈曲し、丸く収められている。釉の色調や胎土から国産のものと考えられる。

#### S K 44040 (第IV -12 図)

424 は、土師器の皿である。内面と口縁部には透明釉が掛かる。大坂系であり、積山編年 10 段階以降の 18 世紀中頃以降のものと考えられる。425・426 は、磁器の碗である。内外面には染付で文様が描かれている。425 の外面には東屋山水文、内面には雷文がある。426 の外面には格子文、内面の見込みには井桁文がある。いずれも肥前系であり、18 世紀後半～19 世紀代のものと考えられる。

#### S K 44042 (第IV -12 図)

427～429 は、土師器の皿である。いずれも内面と口縁部には透明釉が掛かり、端部には煤が付着している。大坂系であり、積山編年 10 段階以降の 18 世紀中頃以降のものと考えられる。

#### S K 44043 (第IV -12 図)

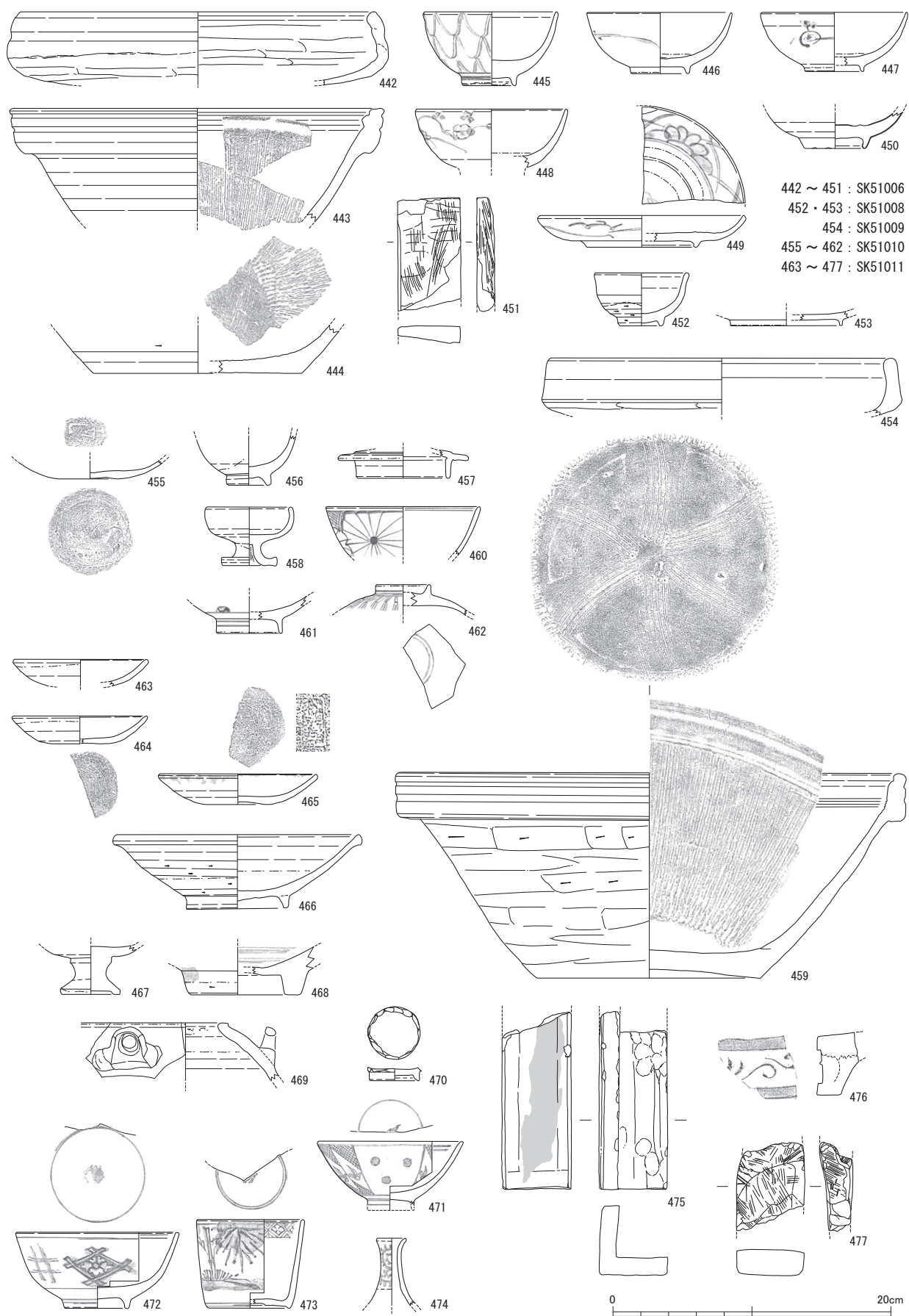
430 は、陶器の碗である。陶胎染付であり、外面には捻花文、内面の見込みには五弁花状の花文がある。瀬戸・美濃製品とみられ、19 世紀前半のものと考えられる。

#### S K 44044 (第IV -12 図)

431 は、陶器の皿である。いわゆる馬の目皿と呼ばれるもので、鉄釉で目が描かれている。瀬戸・美濃製品であり、19 世紀代のものと考えられる。432 は、磁器の仏飴具である。外面には染付で圏線が施されている。肥前系であり、17 世紀末～18 世紀後半のものと考えられる。433 は、磁器の碗である。内外面には染付で文様などが描かれており、外面には草花文がある。肥前系であり、18 世紀後半以降のものと考えられる。

#### S K 44046 (第IV -12 図)

434 は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品の丸碗であり、登窯第 2 段階第 5 小期～第 6 小期の 17 世紀末～18 世紀初頭前後のものと考えられる。435 は、陶器の仏飴具である。瀬戸・美濃製品と考えられる。436 は、陶器の徳利である。内面にはクロクロ目が顕



第IV-13図 出土遺物実測図 13(1:4)



著に残る。瀬戸・美濃製品と考えられる。437は、磁器の碗である。外面には染付で文様が描かれている。肥前系とみられ、18世紀前半～中頃のものと考えられる。438は、磁器の紅小皿である。外面には型押しで貝殻状の文様が施されている。肥前系であり、18世紀後半以降のものと考えられる。439は、磁器の蓋である。碗の蓋であり、内外面には染付で文様などが描かれている。内面にはコンニャク印判の五弁花文がある。肥前系であり、18世紀前半～中頃のものと考えられる。440は、白磁の碗である。口縁端部は外側に肥厚し、上端は細かな波状となっている。福建省系であり、山本編年C期の11世紀後半～12世紀前半のものと考えられる。

#### S K 51004 (第IV-12図)

441は、土師器の鍋である。南伊勢系であり、伊藤編年中世I b期の12世紀後半のものと考えられる。

#### S K 51006 (第IV-13図)

442は、土師器の焙烙である。底部から立ち上がる部分の外面にはケズリが施されており、粘土紐の接合痕が残る。大坂・明石系であり、積山編年8段階の18世紀前半のものと考えられる。443・444は、陶器の擂鉢である。443は堺・明石系であり、稲原編年I-1類の18世紀前半～19世紀前半のものと考えられる。445～448は、磁器の碗である。いずれも外面に染付で文様が描かれており、445は三段の網目文、447は花文、448は梅枝文がある。すべて肥前系であり、17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。449は、磁器の皿である。内外面には染付で文様が描かれており、外面には唐草文、内面には牡丹文と斜格子文がある。肥前系であり、17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。450は、青磁の碗である。451は、砥石である。表面には線状の擦痕が残る。

#### S K 51008 (第IV-13図)

452は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品の小碗であり、登窯第3段階第8小期の18世紀後半～末のものと考えられる。453は、磁器の皿である。

#### S K 51009 (第IV-13図)

454は、土師器の焙烙である。大坂・明石系であり、積山編年8段階の18世紀前半のものと考えられる。

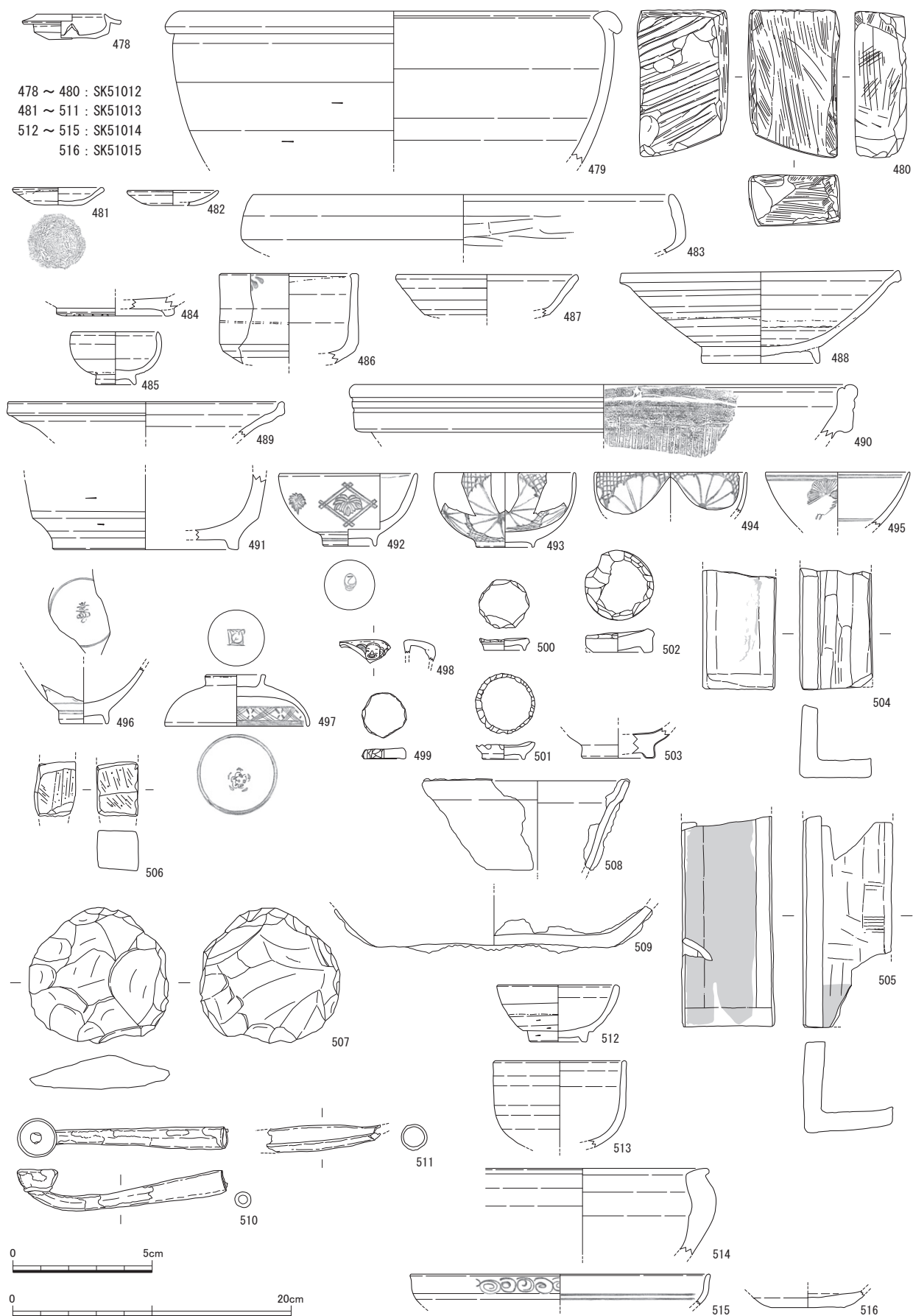
#### S K 51010 (第IV-13図)

455は、土師器の皿である。底部外面には糸切痕が残り、内面には四角の枠の中に「口井口」と記された印刻がある。内面には透明釉が掛かっている。大坂系であり、積山編年10段階の18世紀中頃以降のものと考えられる。456は、陶器の小碗である。瀬戸・美濃製品とみられる。457は、陶器の蓋である。土瓶に付随するもので、瀬戸・美濃製品と考えられる。458は、陶器の仏餉具である。瀬戸・美濃製品であり、登窯第3段階第7小期以降の18世紀中頃以降のものと考えられる。459は、陶器の擂鉢である。外面はケズリで調整されており、擂目は放射状に連続して施されている。堺・明石系であり、稲原編年I-2類の18世紀中頃前後～19世紀前半のものと考えられる。460・461は、磁器の碗である。内外面には染付で文様などが描かれており、460の外面には菊花文と斜格子文がある。肥前系であり、17世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。462は、磁器の蓋である。内外面には染付で文様などが描かれており、外面には網目文がある。肥前系であり、17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。

#### S K 51011 (第IV-13図)

463～465は、土師器の皿である。464・465の底部には糸切痕が残る。465の内面には四角の枠の中に「八口口八与」と記された印刻がある。いずれも内面と口縁端部外面には透明釉が掛かる。大坂系であり、積山編年10段階の18世紀中頃以降のものと考えられる。466は、陶器の皿である。内面には帯状に釉が無い範囲がある。瀬戸・美濃製品の輪禿皿であり、登窯第3段階第8小期の18世紀後半のものと考えられる。467は、陶器の仏餉具である。瀬戸・美濃製品であり、18世紀以降のものと考えられる。468は、陶器の鉢である。内面には白土を掛けた刷毛目文様が施されている。肥前系であり、17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。469は、陶器の土瓶である。口縁部と把手部分の破片で、瀬戸・美濃製品とみられる。470は、陶器の加工円盤である。碗底部の高台に沿って打ち欠かれて円形に加工されている。

471・472は、磁器の碗である。いずれも内外面



第IV -14 図 出土遺物実測図 14(1:4、507, 510, 511 は 1:2)

には染付で文様などが施されている。このうち 472 の外面には、コンニャク印判の井桁文と花菱文がある。肥前系であり、17 世紀後半～19 世紀前半のものと考えられる。473 は、磁器の猪口である。蛇ノ目高台で、内外面には染付で文様などが描かれている。外面には竹文、内面には四方櫛文がある。肥前系であり、19 世紀前半のものと考えられる。474 は、磁器の瓶である。口縁部から頸部の破片で、小型のものである。外面には染付で蛸唐草文が描かれている。肥前系であり、19 世紀前半のものと考えられる。475 は、土製の L 字状製品である。板状のものが L 字に曲がったもので、土師質というよりも瓦質に近い。表面はいずれもナデとユビオサエで調整されている。L 字の凸面側には煤が付着していることから、何らかの火処で使用された製品と考えられるが、用途は不明である。476 は、軒平瓦である。瓦当部の破片で、唐草文の中心飾りの一部が残る。断面には平瓦部に沈線を入れ、瓦当部の粘土を貼り付けた痕跡がある。477 は、砥石である。表面には線状の擦痕が残る。

#### SK 51012 (第Ⅳ-14 図)

478 は、陶器の蓋である。落とし蓋の形状で、外面中央には小さな鈕が付く。瀬戸・美濃製品であり、登窯第 3 段階第 11 小期の 19 世紀中頃前後のものと考えられる。479 は、陶器の鉢である。口縁部の粘土は外側に折り返されて肥厚し、端部は内傾している。瀬戸・美濃製品の練鉢であり、登窯第 3 段階第 11 小期の 19 世紀中頃前後のものと考えられる。480 は、砥石である。全ての面が使用されており、線状の擦痕と凹凸状の研磨痕が残る。

#### SK 51013 (第Ⅳ-14 図)

481・482 は、土師器の皿である。481 の底部外面には糸切痕が残り、内面全体と口縁端部外面には透明釉が掛かっている。482 の口縁端部には煤が付着しており、灯明皿として利用されたものと考えられる。いずれも大坂系であり、積山編年 10 段階以降の 18 世紀中頃以降のものと考えられる。483 は、土師器の焙烙である。口縁部に向かって内傾してのび、端部は丸く収められている。内面は工具ナデで調整されている。大坂・明石系であり、積山編年 7 段階の 17 世紀末前後のものと考えられる。484 は、

陶器の山茶碗である。高台の外面には靱殻痕が残る。渥美湖西型 2 b 型式の 13 世紀前半のものと考えられる。485・486 は、陶器の碗である。486 の口縁部外面には、花卉状の文様が施されている。いずれも瀬戸・美濃製品であり、登窯期の 18 世紀後半以降のものと考えられる。487～489 は、陶器の皿である。488 は輪禿皿であり、内面には帯状に釉が掛かっていない範囲がある。瀬戸・美濃製品であり、18 世紀以降のものと考えられる。490 は、陶器の播鉢である。堺・明石系であり、稻原編年 I - 1 類の 18 世紀前半～19 世紀前半のものと考えられる。491 は、陶器の徳利または壺とみられ、瀬戸・美濃製品の可能性がある。

492～495 は、磁器の碗である。いずれも肥前系のものである。内外面には染付で文様などが描かれており、492 の外面にはコンニャク印判の菊花文と桐文、底部外面の見込みには字体が崩れた「福」とみられる文字がある。17 世紀末～18 世紀後半のものと考えられる。493・494 には菊花文と格子文、495 の外面には松文がみられる。17 世紀末～19 世紀前半にかけてのものと考えられる。496 は、磁器の小坏である。内外面には染付で文様などが描かれており、内面の見込みには「壽」の文字がある。肥前系であり、18 世紀前半のものと考えられる。497 は、磁器の蓋である。内外面には染付で文様などが描かれており、内面には四方櫛文と五弁花文がある。肥前系であり、17 世紀末～18 世紀後半のものと考えられる。498 は、磁器の水滴である。型押し成形されており、大黒天の表現がある。肥前系であり、17 世紀後半～18 世紀代のものと考えられる。499～502 は、磁器で作られた加工円盤である。499 は碗または皿の底部、500・501 は小坏の底部、502 は碗の底部が利用されており、打ち欠いて円形にされている。503 は、青磁の碗である。

504・505 は、土製の L 字状製品である。板状のものが L 字に曲がったもので、土師質というよりも瓦質に近い。表面はいずれもナデまたは工具ナデで調整されている。L 字の凸面側には煤が付着していることから、何らかの火処で使用された製品と考えられるが、用途は不明である。506 は砥石である。表面には使用による線状の擦痕がある。507 は、石



製の円盤状製品である。円形に加工されており、端部は細かく打ち割られて尖る。材質は泥岩系のものと考えられる。現状で類例が見当たらないため、どのように使われたものか不明だが、削器のようなものである可能性が考えられる<sup>(13)</sup>。508・509は、鉄製の鍋である。508は口縁部の破片で、受口状に屈曲している。509は底部の破片である。510・511は、銅製の煙管である。510は雁首部分が完存したもので、火皿の中には炭が薄く付着している。形状から18世紀後半～19世紀代のものと考えられる<sup>(14)</sup>。511は吸口部分の破片である。

#### S K 51014 (第Ⅳ-14 図)

512・513は、陶器の碗である。いずれも瀬戸・美濃製品であり、登窯期の18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。514は、陶器の火鉢である。常滑製品の赤物であり、16世紀後半～17世紀初頭前後のものと考えられる。515は、磁器の皿である。内外面には染付で文様などが描かれており、外面には渦文がある。肥前系であり、17世紀後半～18世紀代のものと考えられる。

#### S K 51015 (第Ⅳ-14 図)

516は、陶器の山皿である。

#### S K 51016 (第Ⅳ-15 図)

517は、縄文土器の深鉢である。口縁部付近の破片で、外面には沈線で構成された文様がある。縄文時代後期前半以降のものと考えられる。518は、土師器の台付皿である。519は、土師器の鍋である。口縁端部の粘土は内側に折り返されて摘み出されている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅰb期の12世紀代のものと考えられる。520は、陶器の山皿である。尾張型第4型式の12世紀後半のものと考えられる。521は、陶器の鉢とみられる破片である。瀬戸・美濃製品であろうか。522は、土錘である。外面はナデで調整されている。

#### S K 51017 (第Ⅳ-15 図)

523～526は、土師器の皿である。口径・器高ともに小型で全体の器厚が厚い。13世紀後半における当地域の土師器皿の形態を示す資料とみられる。527は、土師器の鍋である。口縁端部の粘土は内側に折り返されて肥厚する。体部の内外面ともに上半はナデ及びユビオサエ、下半はケズリが施されてお

り、ユビオサエの指頭圧痕が顕著に残る。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱa期～Ⅱb期の13世紀初頭前後～後半のものと考えられる。528・529は、瓦器の椀である。528の口縁部はやや外反し、端部は丸く収められている。底部には低くて粗雑な高台が付く。外面はユビオサエの指頭圧痕が顕著に残り、内面の見込みには崩れた輪状の暗文、口縁部付近には放射状の暗文が施されている。紀伊型であり、北野編年Ⅲ-2期の13世紀後半のものと考えられる。529の口縁部はやや内湾し、端部は丸く収められている。外面にはユビオサエの指頭圧痕と粘土紐の接合痕が残り、内面には粗い螺旋状暗文が施されている。和泉型であり、和泉型Ⅳ-4期の14世紀前半のものと考えられる。530は、陶器の山茶碗である。口縁部に向かって外反しながら直線的にのび、端部は外傾面を持つ。高台は断面逆三角形が潰れた形状で、外面には靱殻痕が残る。尾張型第7型式の13世紀中頃前後～後半のものと考えられる。531は、陶器の山皿である。

#### S K 51018 (第Ⅳ-15 図)

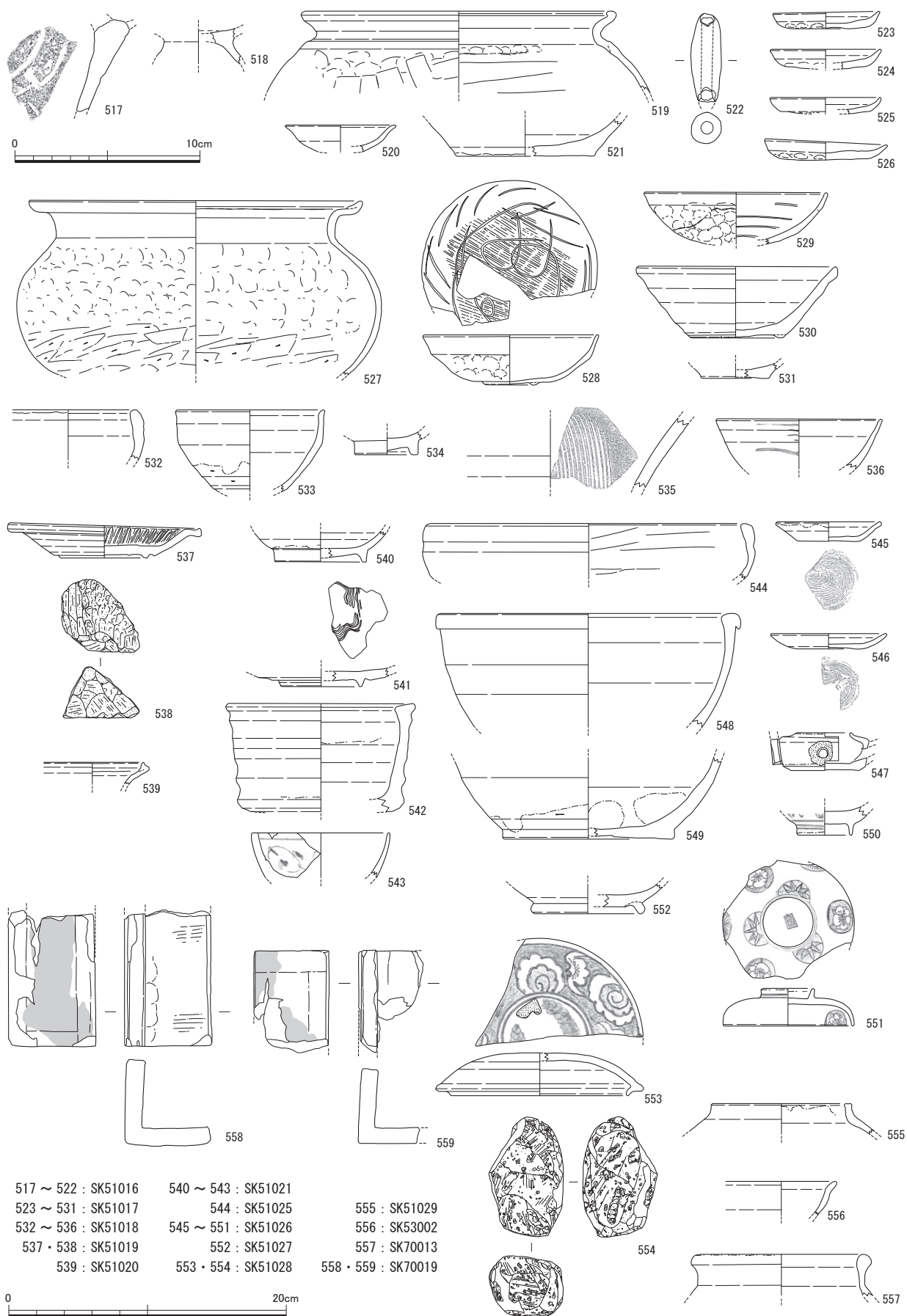
532は、土師器の焙烙である。大坂・明石系であり、積山編年6段階の17世紀後半のものと考えられる。533は、陶器の天目茶碗である。内外面には鉄釉が掛かっている。瀬戸・美濃製品であり、登窯第2段階第5小期の17世紀後半のものと考えられる。534は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品の天目茶碗の可能性もある。535は、陶器の搗鉢である。536は、磁器の碗である。外面には染付で文様が描かれている。肥前系とみられ、17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。

#### S K 51019 (第Ⅳ-15 図)

537は、陶器の皿である。内面には削ぎによって花卉が表現されている。瀬戸・美濃製品の折縁菊皿であり、大窯第4段階後半～末の16世紀末～17世紀初頭前後のものと考えられる。538は、軽石製の砥石である。表面は部分的に剥離しており、使用された面には線状の擦痕がみられる。

#### S K 51020 (第Ⅳ-15 図)

539は、土師器の鍋である。口縁端部は摘み上げられている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅳb期の15世紀末前後～16世紀前半のものと考えられる。



第IV-15 図 出土遺物実測図 15(1:4、517は1:3)

#### S K 51021 (第Ⅳ-15 図)

540 は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品と考えられる。541 は、陶器の皿である。内面には櫛描きで波状の文様が施されている。瀬戸・美濃製品と考えられる。542 は、陶器の香炉である。口縁端部は内傾面を持ち、両端は突出している。瀬戸・美濃製品の筒形香炉であり、登窯第 1 段階第 2 小期の 17 世紀前半のものと考えられる。543 は、磁器の碗である。外面には染付で文様が描かれている。肥前系であり、18 世紀前半～中頃のものと考えられる。

#### S K 51025 (第Ⅳ-15 図)

544 は、土師器の焙烙である。大坂・明石系であり、積山編年 6 段階の 17 世紀後半のものと考えられる。

#### S K 51026 (第Ⅳ-15 図)

545・546 は、土師器の皿である。外面には糸切痕が残る。内面全体と口縁端部外面には透明釉が掛かっている。大坂系であり、積山編年 10 段階以降の 18 世紀中頃以降のものと考えられる。547 は、陶器の水注である。注口と把手が欠損している。瀬戸・美濃製品であり、18 世紀以降のものと考えられる。548・549 は、陶器の鉢である。口縁端部は外側に折り返されて肥厚する。瀬戸・美濃製品の練鉢であり、登窯第 3 段階第 10 小期～第 11 小期の 19 世紀前半～中頃前後のものと考えられる。550 は、磁器の碗である。外面には染付で文様などが描かれている。17 世紀後半～18 世紀後半のものと考えられる。551 は、磁器の蓋である。碗の蓋であり、内外面には染付で文様などが描かれており、梅文と竹文がある。肥前系であり、19 世紀前半～中頃前後のものと考えられる。

#### S K 51027 (第Ⅳ-15 図)

552 は、灰釉陶器の碗である。H-72 号窯式期の 10 世紀後半～11 世紀初頭前後のものと考えられる。

#### S K 51028 (第Ⅳ-15 図)

553 は、磁器の蓋である。鉢の蓋とみられ、外面には熨斗形の鈕があった痕跡が残る。外面に染付で文様が描かれている。554 は、軽石製の砥石である。表面は部分的に剥離しているが、全ての面で使用による線状の擦痕がある。

#### S K 51029 (第Ⅳ-15 図)

555 は、陶器の土瓶とみられる破片である。口縁

部は短くのびて、水平な面を持つ。

#### S K 53002 (第Ⅳ-15 図)

556 は、陶器の山茶碗である。渥美湖西型 2 a 型式の 12 世紀後半のものと考えられる。

#### S K 70013 (第Ⅳ-15 図)

557 は、陶器の壺である。頸部から直立ぎみにのび、口縁端部は玉縁状に膨らむ。瀬戸・美濃製品とみられ、登窯第 2 段階第 6 小期の 18 世紀前半のものと考えられる。

#### S K 70019 (第Ⅳ-15, 16 図)

558・559 は、土製の L 字状製品である。板状のものが L 字に曲がったもので、土師質というよりも瓦質に近い。表面はいずれもナデまたは工具ナデで調整されている。L 字の凸面側には煤が付着していることから、何らかの火処で使用された製品と考えられるが、用途は不明である。560～562 は、平瓦である。凸面は工具ナデまたはナデ、凹面はナデで調整され、端面は面取り後にナデが施されている。563 は、丸瓦である。凸面は縦方向のナデ、凹面には縦方向の工具ナデで調整され、布目痕が残る。端面は面取り後にナデが施されている。

#### S K 80002 (第Ⅳ-16 図)

564 は、陶器の皿である。底部外面には兜巾があり、削り出された高台は低い。肥前系であり、16 世紀末～17 世紀前半のものと考えられる。

#### S K 80003 (第Ⅳ-16 図)

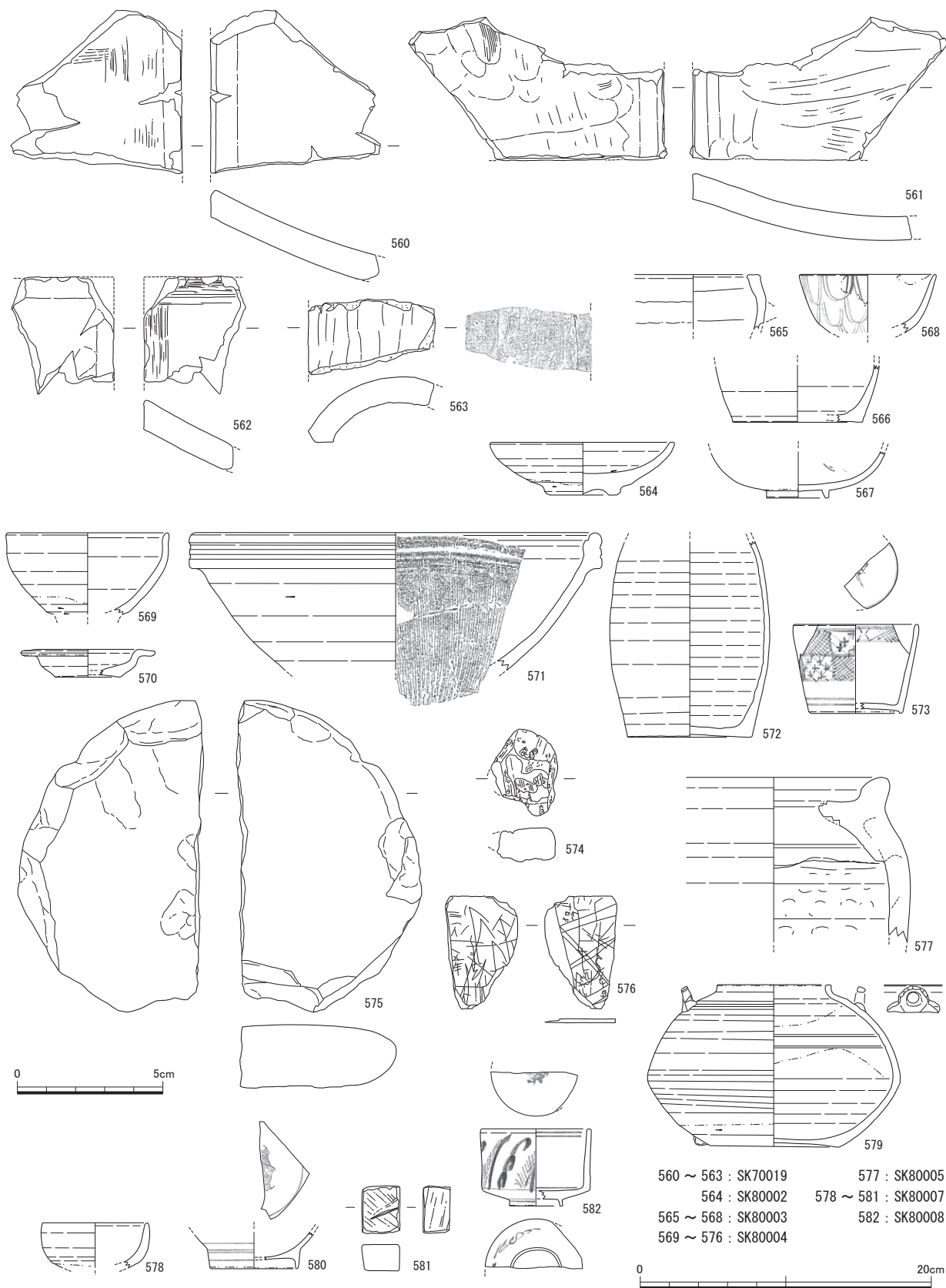
565 は、土師器の羽釜とみられる破片である。外面には鏝が付着していた痕跡が残る。566 は、陶器の瓶または徳利である。底部は平底で、外面には暗褐色の釉が掛かっている。瀬戸・美濃製品であり、登窯期の 19 世紀代のものと考えられる。567 は、陶器の碗である。内面には草文とみられる文様がある。京都・信楽系の可能性がある。568 は、磁器の碗である。外面には染付で三段の網目文が描かれている。肥前系であり、17 世紀末～18 世紀後半のものと考えられる。

#### S K 80004 (第Ⅳ-16 図)

569 は、陶器の天目茶碗である。瀬戸・美濃製品であり、登窯第 2 段階第 5 小期の 17 世紀後半のものと考えられる。570 は、陶器の蓋である。落とし蓋タイプのもので、瀬戸・美濃製品であり登窯期の

17世紀～18世紀代のものと考えられる。571は、陶器の播鉢である。播目は重なり合いながら密に施されている。堺・明石系であり、稲原編年Ⅰ-Ⅰ類

の18世紀前半～19世紀前半のものと考えられる。572は、陶器の徳利である。体部の膨らみが弱く、頸部に向かって緩やかに窄まる形状で、底部は平底



560 ~ 563 : SK70019  
564 : SK80002  
565 ~ 568 : SK80003  
569 ~ 576 : SK80004  
577 : SK80005  
578 ~ 581 : SK80007  
582 : SK80008

第Ⅳ-16 図 出土遺物実測図 16(1:4、575は1:2)



である。外面には灰褐色の釉が掛かっている。瀬戸・美濃製品であり、登窯期の19世紀代のものの可能性がある。573は、磁器の猪口である。高台は蛇ノ目凹形のものである。内外面には染付で文様などが描かれており、外面には格子文、内面には四方禪文がある。肥前系であり、19世紀前半のものと考えられる。574は、軽石製の砥石である。表面は部分的に剥離しているが、線状の擦痕が残る。575は、石製の円盤状製品である。他の円盤状製品とは異なり大型のもので、材質は砂岩系のものと考えられる。576は、石板である。厚さが薄く、表面は両面ともに平滑で無数の線状痕が残る。材質は泥岩系のものと考えられる。

#### S K 80005 (第IV-16図)

577は、陶器の甕である。常滑製品の赤物であり、17世紀後半～18世紀前半のものと考えられる。

#### S K 80007 (第IV-16図)

578は、陶器の仏飴具である。瀬戸・美濃製品であり、登窯第1段階第4小期の17世紀後半のものと考えられる。579は、陶器の土瓶である。体部は算盤玉状の形状で、底部外面には足が三方に付く。外面と内面の一部には、灰褐色の釉が掛かっている。瀬戸・美濃製品の可能性がある。580は、磁器の碗である。高台の長さや形状から広東碗とみられ、内外面には染付で文様などが描かれている。肥前系であり、18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。581は、砥石である。表面には使用による線状の擦痕がみられる。

#### S K 80008 (第IV-16図)

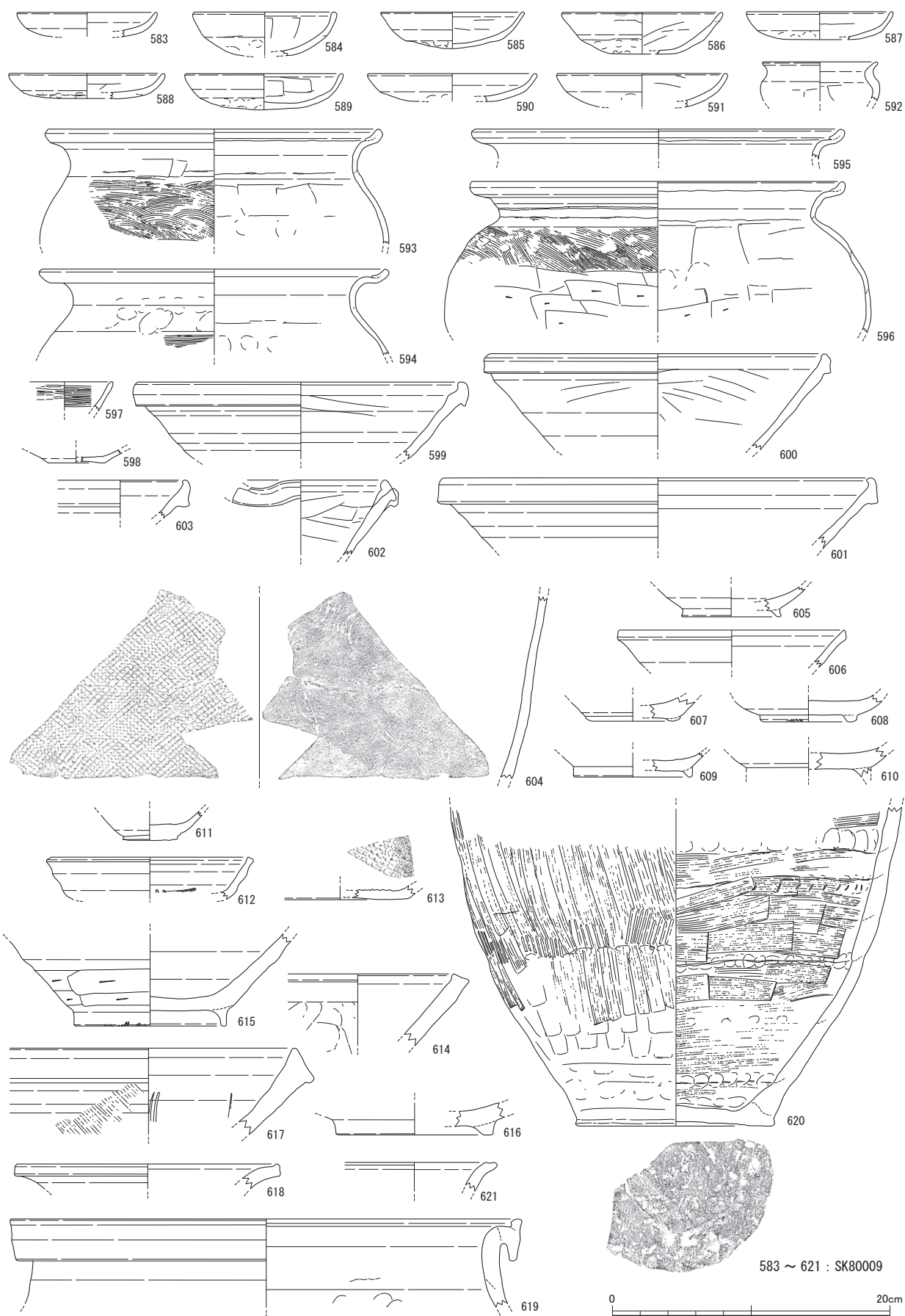
582は、磁器の碗である。内外面には染付で文様などが描かれており、外面には唐草文と草文、内面の見込みにはコンニャク印判の五弁花文がある。肥前系の筒形碗であり、18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。

#### S K 80009 (第IV-17,18図)

583～591は、土師器の皿である。583・587・589～591は、口縁部に向かって内湾ぎみにのびているもので、584～586は、椀に近い形状のものである。内面が工具ナデで調整されているものが多い。592は、土師器の壺とみられる破片である。593～596は、土師器の鍋である。口縁部は粘土が

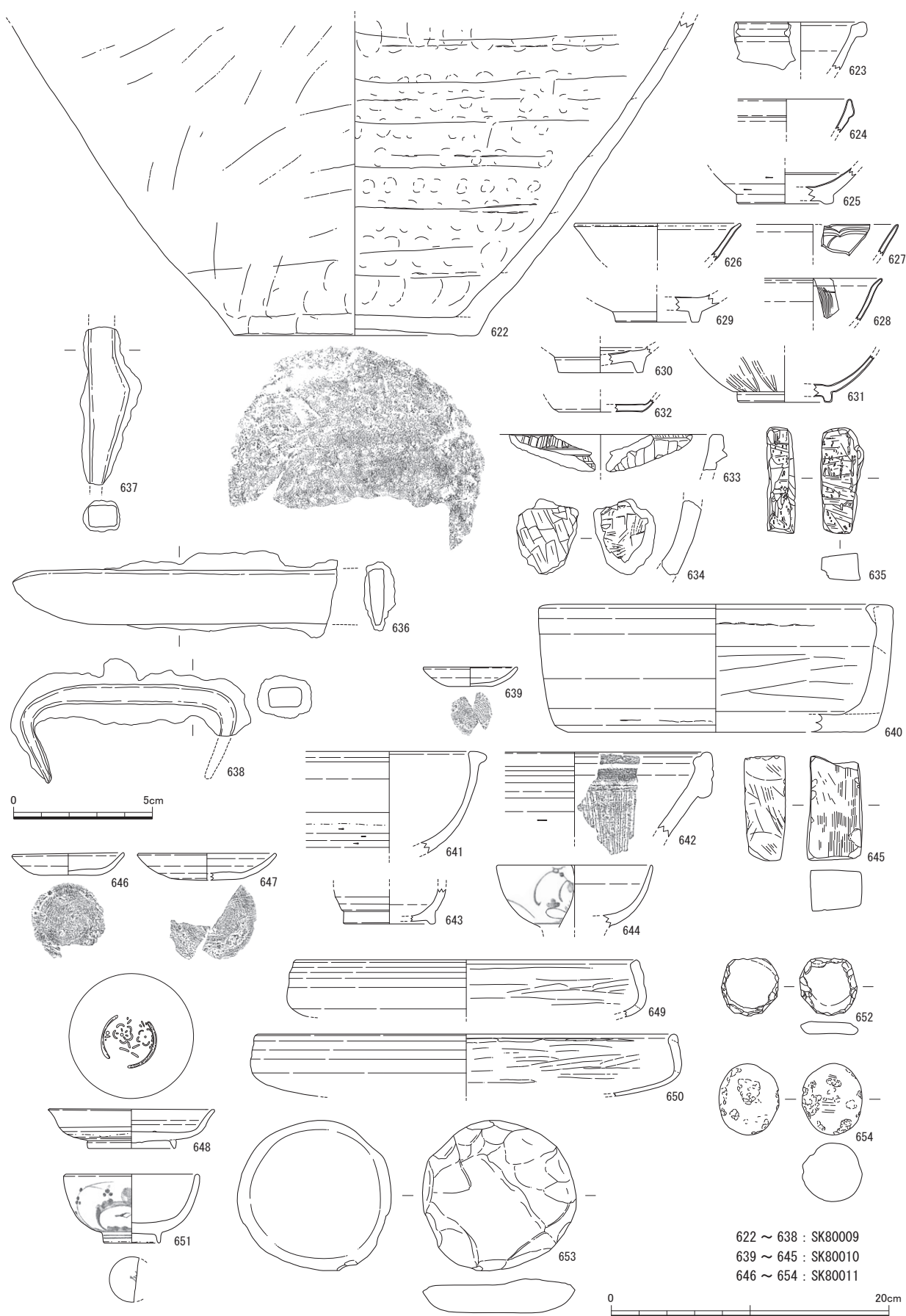
内側に折り返されて肥厚し、端部は丸く収められている。いずれも南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱb期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。597は、瓦器の椀である。内外面には横方向のミガキが施されている。13世紀頃までのものと考えられる。598は、瓦器の皿または椀の底部である。外面には糸切痕が残る。599～603は、須恵器の鉢である。口縁端部は上下に突出して外傾面を持つ。600の内面には使用時の擦痕があるが、摩滅が著しい。いずれも東播系須恵器であり、佐藤編年Ⅲ-3類～Ⅲ-4類の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。604は、須恵器の甕である。体部の破片で、外面には格子タタキ、内面には同心円状の当て具痕がナデ消されている。

605～610は、陶器の山茶碗である。605・606は尾張型、607～609は渥美湖西型のもので、12世紀後半～13世紀後半のものと考えられる。611は、陶器の山皿である。渥美湖西型2b型式の13世紀前半のものと考えられる。612・613は、陶器の卸皿である。613には格子状に卸目が施されている。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸前期様式Ⅳ期～中期様式Ⅱ期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。614～616は、陶器の鉢である。614・615は常滑製品、616は渥美製品とみられる。12世紀後半～13世紀後半のものと考えられる。617は、陶器の播鉢である。口縁端部は外傾面を持ち、両端は突出している。外面には板状工具の痕跡がある。備前製品であり、重根編年ⅣA期の14世紀中頃～15世紀前半のものと考えられる。618～620は、陶器の壺である。618の口縁端部は、外傾面を持ち上端は小さく突出している。常滑製品であり、常滑第1段階4型式～第2段階5型式の12世紀末前後～13世紀前半のものと考えられる。619の口縁部は、外側へ大きく折り曲げられ、端部が上下に突出して広い外傾面を持つ。常滑製品であり、常滑第2段階7型式の14世紀前半のものと考えられる。620は底部から体部にかけての破片で、体部外面は平行タタキと工具ナデ、内面は工具ナデで調整されており、内面には成形時のユビオサエによる指頭圧痕と粘土紐の接合痕が顕著に残る。底部外面には、方形の板材を敷いていたとみられる痕跡が残る。渥美製品で



第IV-17 図 出土遺物実測図 17(1:4)





第IV -18 図 出土遺物実測図 18(1:4、636 ~ 638, 653 は 1:2)

あり、渥美 2 a 型式～ 2 b 型式の 13 世紀初頭前後のものと考えられる。621 は、陶器の甕または壺の口縁部である。渥美製品であり、渥美 2 a 型式の 12 世紀後半のものと考えられる。622 は、陶器の甕である。底部から体部にかけての破片で、内面には成形時のユビオサエによる指頭圧痕と粘土紐の接合痕が顕著に残る。常滑製品とみられる。

623 は、緑釉陶器の盤である。口縁部の破片で、端部は外側に屈曲して玉縁状に膨らむ。中国華南地方のものの可能性がある<sup>(15)</sup>。624・625 は、白磁の碗である。624 の口縁端部は、外側に肥厚する。いずれも福建省系であり、山本編年 C 期の 11 世紀後半～12 世紀前半のものと考えられる。626～631 は、青磁の碗である。627 の口縁端部には、輪花状の窪みがあり内面には刻劃文が施されている。龍泉窯系であり、山本編年 D 期の 12 世紀中頃～後半のものと考えられる。628 の外面には、櫛による条線の文様がみられる。同安窯系とみられ、山本編年 D 期の 12 世紀中頃～後半のものと考えられる。631 の外面には、鎬蓮弁文が施されている。龍泉窯系であり、山本編年 E 期の 13 世紀初頭前後～前半のものと考えられる。632 は、青磁の皿である。633・634 は、滑石製の石鍋である。633 は口縁部の破片で、鐙は断面形状が三角形になっている。634 は体部の破片である。いずれも内外面には鑿による加工痕が残る。肥前西彼杵半島産の可能性があり、14 世紀前半のものと考えられる<sup>(16)</sup>。635 は、軽石製の砥石である。表面には使用による線状の擦痕が残る。636 は、鉄製の刀子である。茎は残存していない。637 は、鉄製の片刃状製品である。両端が欠損しているため、どのような製品かは断定できないが、片刃がある鉄鏃の可能性もある。638 は、鉄製の鏃である。断面形状は方形で、片側の先端が欠損している。

#### S K 80010 (第 IV -18 図)

639 は、土師器の皿である。外面には糸切痕が残る。大坂系であり、積山編年 10 段階以降の 18 世紀中頃以降のものと考えられる。640 は、瓦質土器の火鉢である。口縁部は内側へ摘み出されて、端部は丸く収められている。底部外面には足が剥離した痕跡が残る。17 世紀末～18 世紀前半のものと考えられる。641 は、陶器の鉢である。口縁端部は外側へ

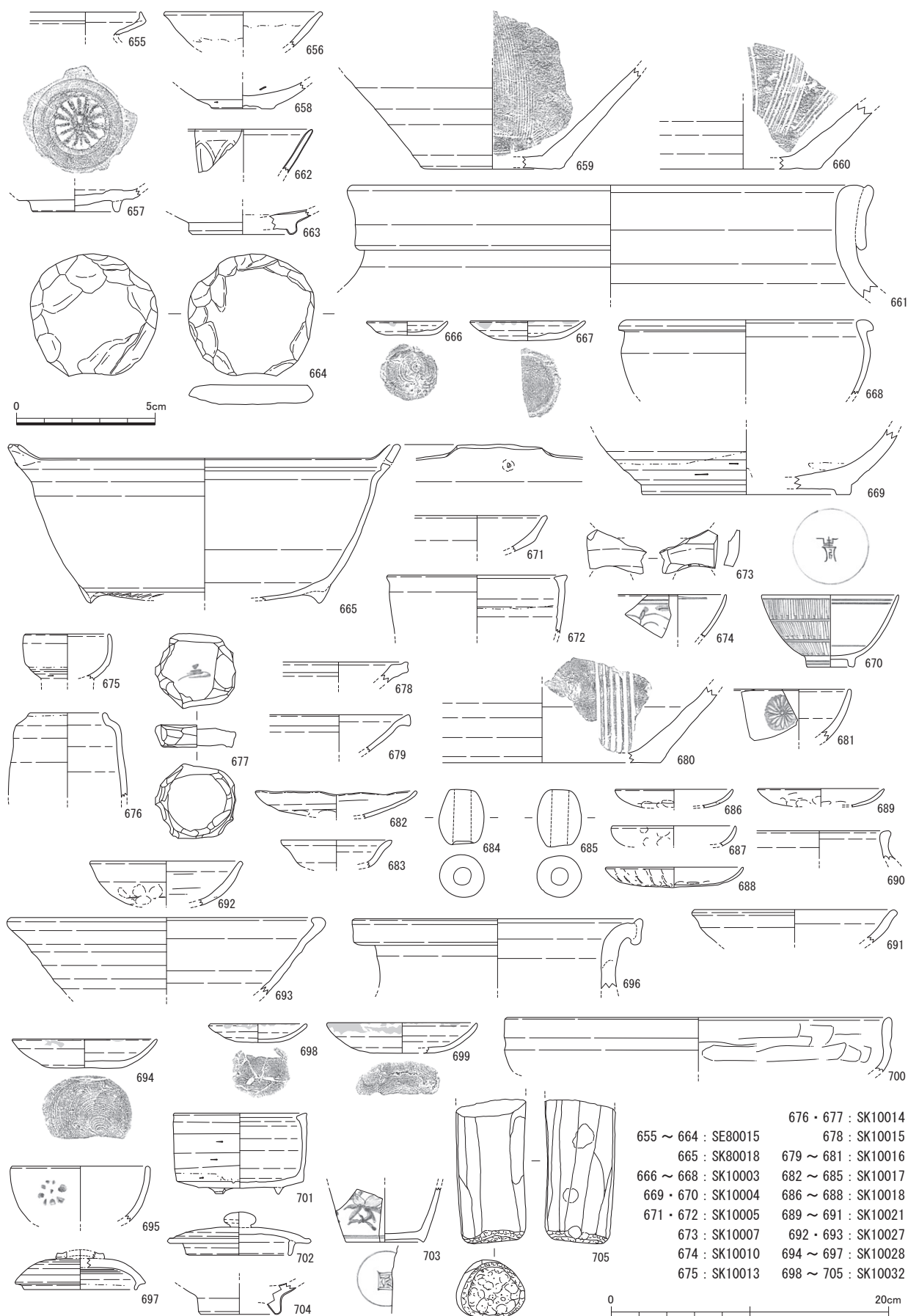
膨らんで肥厚する。瀬戸・美濃製品の練鉢であり、17 世紀後半のものと考えられる。642 は、陶器の播鉢である。堺・明石系であり、稲原編年 I - 1 類の 18 世紀前半～19 世紀前半のものと考えられる。643 は、陶器の壺である。644 は、磁器の碗である。肥前系のものと考えられる。645 は、砥石である。表面には使用による線状の擦痕が残る。

#### S K 80011 (第 IV -18 図)

646・647 は、土師器の皿である。外面には糸切痕が残る。大坂系であり、積山編年 10 段階以降の 18 世紀中頃以降のものと考えられる。648 は、陶器の皿である。底部内面の見込みには、梅文の摺絵が施されている。瀬戸・美濃製品であり、登窯第 2 段階第 5 小期～第 6 小期の 17 世紀後半のものと考えられる。649・650 は、土師器の焙烙である。大坂・明石系であり、積山編年 7 段階の 17 世紀末前後のものと考えられる。651 は、磁器の碗である。外面には染付で草花文が描かれている。肥前系であり、17 世紀末～18 世紀後半のものと考えられる。652 は、陶器の山茶碗が転用された加工円盤である。底部を打ち欠かき円形に加工されており、端部は鋭くなっている。表面の一部には高台があった痕跡が残る。653 は、石製の円盤状製品である。端部は細かく打ち欠かれて円形に加工されており、端部は尖る。一方の面は無加工である。材質は泥岩系のものと考えられる。現状で類例が見当たらないため、どのように使われたものか不明だが、削器のようなものである可能性が考えられる<sup>(17)</sup>。654 は、敲石である。敲打痕と線状の擦痕がみられる。

#### S E 80015 (第 IV -19 図)

655 は、土師器の鍋または焙烙である。口縁端部は摘み上げられて突出している。南伊勢系であり、伊藤編年中世 IV b 期～IV c 期の 16 世紀代のものと考えられる。656～658 は、陶器の皿である。657 の内面には菊文の印刻がある。瀬戸・美濃製品であり、登窯 1 段階第 2 小期の 17 世紀前半のものと考えられる。658 の高台は低く、兜巾がみられる。肥前系の可能性がある。659・660 は、陶器の播鉢である。661 は、陶器の甕である。常滑製品であり、常滑第 3 段階 10 型式の 15 世紀後半のものと考えられる。662・663 は、青磁の碗である。662 の外面に



第IV-19図 出土遺物実測図19(1:4、664は1:2)

は鎬蓮弁文が施されている。龍泉窯系とみられ、山本編年E期の13世紀初頭前後～前半のものと考えられる。664は、石製の円盤状製品である。円形に打ち欠かれて加工されており、端部は尖る。材質は泥岩系のものと考えられる。現状で類例が見当たらないため、どのように使われたものか不明だが、削器のようなものである可能性が考えられる<sup>(18)</sup>。

#### S K 80018 (第IV -19 図)

665は、瓦質土器の鍋である。口縁部には円形の孔があり、底部には断面逆三角形の足が付く。双耳鍋とみられ、安濃津柳山遺跡(津市)で類似品が出土している<sup>(19)</sup>。17世紀後半～18世紀代のものと考えられる。

#### S K 10003 (第IV -19 図)

666・667は、土師器の皿である。いずれも外面には糸切痕が残り、内面には透明釉が掛かっている。口縁端部外面には煤が付着していることから、灯明皿として利用されたものと考えられる。大坂系であり、積山編年10段階以降の18世紀中頃以降のものと考えられる。668は、陶器の鉢である。口縁端部は外側へ折り返されて膨らむ。瀬戸・美濃製品の練鉢であり、登窯第3段階第9小期の19世紀前半のものと考えられる。

#### S K 10004 (第IV -19 図)

669は、陶器の鉢である。瀬戸・美濃製品の練鉢であり、登窯第3段階第8小期～第9小期の18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。670は、磁器の碗である。内外面には染付で文様などが描かれており、外面には線状文、内面の見込みには篆書体の銘がある。肥前系であり、19世紀前半～中頃前後のものと考えられる。

#### S K 10005 (第IV -19 図)

671は、土師器の皿である。672は、陶器の香炉である。瀬戸・美濃製品の筒形香炉であり、登窯第2段階第7小期の18世紀中頃前後のものと考えられる。

#### S K 10007 (第IV -19 図)

673は、須恵器破片。器種は不明だが、側面には円形状の切り込みがあり、透かしの可能性がある。

#### S K 10010 (第IV -19 図)

674は、磁器の碗である。内外面には染付で文様

などが描かれている。肥前系とみられる。

#### S K 10013 (第IV -19 図)

675は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品の小碗であり、登窯第2段階第5小期の17世紀後半のものと考えられる。

#### S K 10014 (第IV -19 図)

676は、陶器の茶入である。口縁部は短くのび、体部が筒形のものである。瀬戸・美濃製品であり、17世紀後半のものと考えられる。677は、磁器の碗を転用した加工円盤である。高台を含めて打ち欠き円形に加工されている。

#### S K 10015 (第IV -19 図)

678は、陶器の播鉢である。口縁端部は外傾面を持つ。瀬戸・美濃製品であり、登窯第1段階第1小期の17世紀前半のものと考えられる。

#### S K 10016 (第IV -19 図)

679は、陶器の皿である。瀬戸・美濃製品の輪壳皿であり、登窯第3段階第8小期の18世紀後半～19世紀初頭前後のものと考えられる。680は、陶器の播鉢である。681は、磁器の碗である。外面には染付でコンニャク印判の菊花文がある。肥前系であり、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。

#### S K 10017 (第IV -19 図)

682は、土師器の皿である。口縁部の成形と調整が不十分で波状になっている。683は、陶器の山皿である。渥美湖西型3a型式の13世紀前半のものと考えられる。684・685は、土錘である。丸みを帯びた算盤玉状のもので、外面はナデにより調整されている。

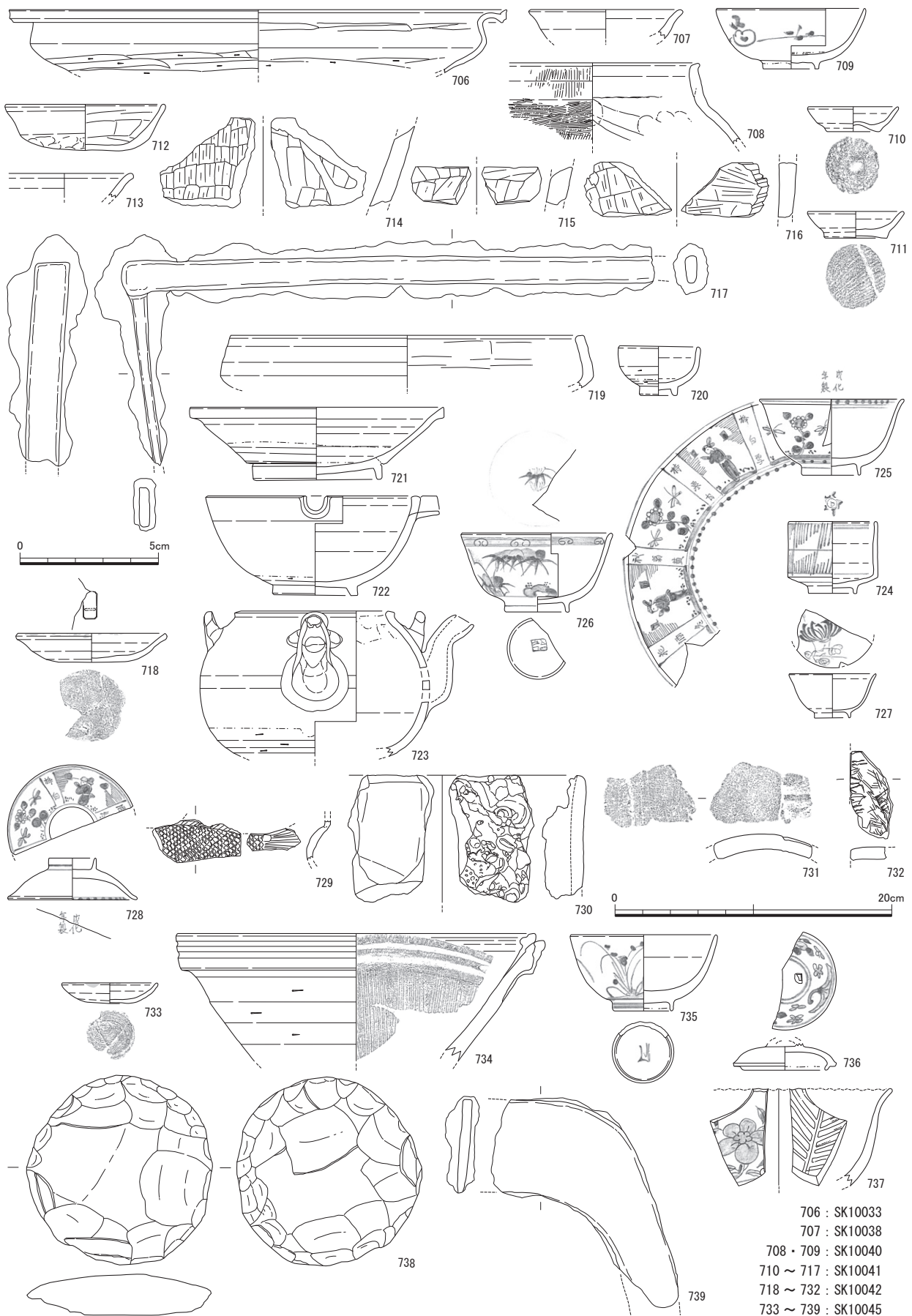
#### S K 10018 (第IV -19 図)

686～688は、土師器の皿である。器厚が薄く、口縁端部以外は内外面ともにナデ及びユビオサエで調整されている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅲb期の15世紀前半のものと考えられる。

#### S K 10021 (第IV -19 図)

689は、土師器の皿である。器厚が薄く、口縁端部以外は内外面ともにナデ及びユビオサエで調整されている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅳa期の15世紀前半のものと考えられる。690は、土師器の茶釜の口縁部とみられる。691は、陶器の山茶碗である。尾張型第6型式の13世紀前半のものと考え





第IV-20 図 出土遺物実測図 20(1:4、717, 738, 739 は 1:2)

られる。

#### S K 10027 (第IV-19 図)

692 は、土師器の皿である。椀に近い形状のもので、外面には粘土紐の接合痕が残り、内面は工具ナデで調整されている。693 は、須恵器の鉢である。口縁部は内側に折り返されて、端部は内側へ突出している。東播系須恵器であり、佐藤編年IV類の14世紀末前後～15世紀代のものと考えられる。

#### S K 10028 (第IV-19 図)

694 は、土師器の皿である。外面には糸切痕が残り、内面と口縁端部外面には透明釉が掛かっている。口縁端部内外面には煤が付着しており、灯明皿として利用されたものと考えられる。大坂系であり、積山編年10段階以降の18世紀中頃以降のものと考えられる。695 は、陶器の碗である。外面には染付で花文が施された陶胎染付である。17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。696 は、陶器の壺である。口縁部は外反し、端部は上下に突出して外傾面を持つ。常滑製品であり、常滑第2段階5型式の13世紀前半のものと考えられる。697 は、磁器の蓋である。鉢の蓋とみられ、外面には熨斗形の鈕が付く。肥前系であり、17世紀末～19世紀前半のものと考えられる。

#### S K 10032 (第IV-19 図)

698・699 は、土師器の皿である。外面には糸切痕が残り、口縁端部内外面には煤が付着している。699 の内面には透明釉が掛かっている。大坂系であり、積山編年10段階以降の18世紀中頃以降のものと考えられる。700 は、土師器の焙烙である。大坂・明石系であり、積山編年7段階の17世紀末前後のものと考えられる。701 は、陶器の香炉である。口縁端部は内傾面を持つ。瀬戸・美濃製品の筒形香炉であり、登窯第2段階第7小期の17世紀中頃前後のものと考えられる。702 は、陶器の蓋である。土瓶の蓋とみられ、瀬戸・美濃製品の可能性がある。703 は、磁器の猪口である。外面には染付で草花文、底部の見込みにはいわゆる渦福の「福」がある。肥前系であり、18世紀中頃～19世紀前半のものと考えられる。704 は、青磁の碗である。705 は、敲石である。加工された棒状石材の先端には、敲打痕がみられる。材質は砂岩系のものと考えられる。

#### S K 10033 (第IV-20 図)

706 は、土師器の焙烙である。内外面ともにケズリで、頸部の内面には工具ナデが施されている。南伊勢系であり、伊藤編年中世IVc期～近世I期の16世紀末～17世紀代のものと考えられる。

#### S K 10038 (第IV-20 図)

707 は、陶器の山皿である。渥美湖西型3a型式の13世紀前半のものと考えられる。

#### S K 10040 (第IV-20 図)

708 は、土師器の茶釜である。外面はハケメ、内面はナデで調整されており、頸部内面には粘土紐の接合痕が残る。南伊勢系であり、16世紀代のものと考えられる。709 は、磁器の碗である。外面には染付で梅枝文が描かれており、内面には蛇ノ目釉剥ぎの範囲がある。肥前系であり、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。

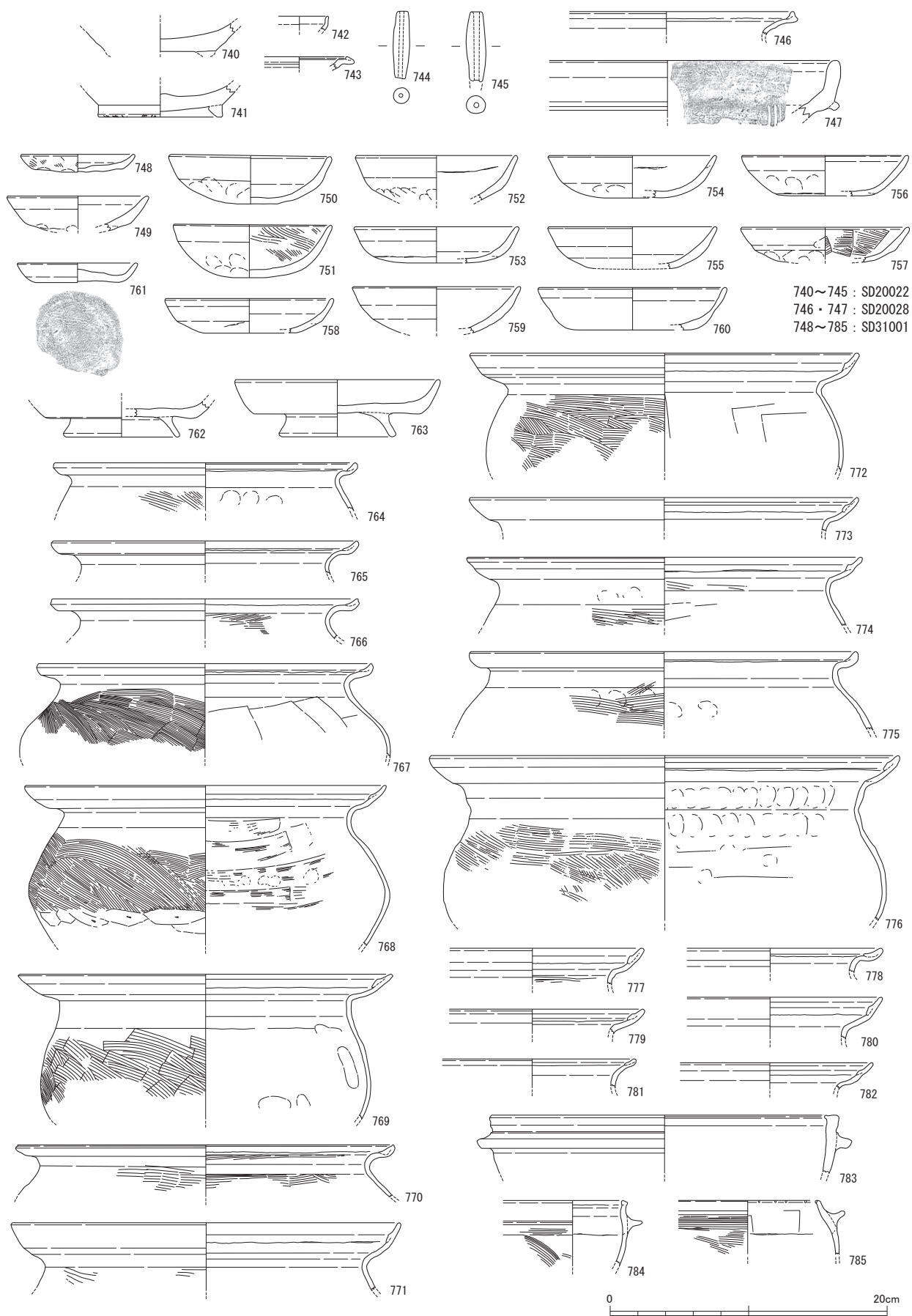
#### S K 10041 (第IV-20 図)

710～712 は、土師器の皿である。710 の底部は上げ底状の平底で、外面には縦方向の木目状の痕跡が残る。711 は平底で外面に縦方向の木目状の痕跡が残る。712 は、椀に近い形状のもので、内面は工具ナデで調整されている。713 は、陶器の山皿である。渥美湖西型の13世紀前半のものと考えられる。714～716 は、滑石製の石鍋である。いずれも体部の破片で、表面には鑿による加工痕が残る。714 の外面には煤が付着している。715 の側面には、加工痕とみられる単位がある。717 は、鉄製のL字状製品である。断面形状は扁平な方形で、2つの扁平な棒状製品が合わさっている可能性がある。

#### S K 10042 (第IV-20 図)

718 は、土師器の皿である。外面には糸切痕が残り、内面には方形枠の印刻がされている。内面と口縁部内外面には透明釉が掛る。大坂系であり、積山編年10段階以降の18世紀中頃以降のものと考えられる。719 は、土師器の焙烙である。大坂・明石系であり、積山編年7段階の17世紀末前後のものと考えられる。720 は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品の小碗であり、登窯第3段階9小期の19世紀前半のものと考えられる。721 は、陶器の皿である。内面には帯状に釉が掛かっていない範囲がある。瀬戸・美濃製品の輪壳皿であり、登窯第2段階第8小





第IV -21 図 出土遺物実測図 21(1:4)

期の18世紀後半のものと考えられる。722は、陶器の片口鉢である。瀬戸・美濃製品であり、18世紀前半～19世紀前半のものと考えられる。723は、陶器の土瓶である。瀬戸・美濃製品の可能性がある。724～726は、磁器の碗である。いずれも内外面には染付で文様などが描かれている。724の外面には斜線文、内面の見込みには五弁花文がみられる。肥前系の筒形碗とみられ、18世紀後半～19世紀初頭前後のものと考えられる。725の外面には、花蝶唐人文と文字から構成された中華風の文様、内面には丸文と「成化年製」の銘がある。肥前系の端反碗であり、18世紀後半～19世紀中頃前後のものと考えられる。726の外面には、笹文と如意頭文、内面には如意頭文などがある。肥前系であり、18世紀後半～19世紀中頃前後のものと考えられる。727は、磁器の小坏である。内面には色絵で花文が描かれている。肥前系であり、18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。728は、磁器の蓋である。碗の蓋で、文様構成と大きさから725とセットである。外面には花蝶唐人文と文字から構成された中華風の文様、内面には丸文と「成化年製」の銘がある。肥前系であり、18世紀後半～19世紀中頃前後のものと考えられる。729は、土製の魚形製品である。型押し成形で、表面には鱗や尾鰭と背鰭が表現されている。730は、鍛冶炉の壁面とみられる破片である。表面にはガラス質の凹凸がある。731は、丸瓦状の

製品である。凸面には横方向の凹凸、凹面には布目痕が残る。732は、砥石である。表面には使用による線状の擦痕がみられる。

#### S K 10045（第IV -20 図）

733は、土師器の皿である。外面には糸切痕が残る。口縁端部内外面には煤が付着している。大坂系であり、積山編年10段階以降の18世紀中頃以降のものと考えられる。734は、陶器の播鉢である。堺・明石系であり、稻原編年I - 1類の18世紀前半～19世紀前半のものと考えられる。735は、磁器の碗である。外面には染付で草花文などが描かれている。肥前系であり、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。736は、磁器の蓋である。外面には熨斗形の鈕が付き、染付で花文が描かれている。肥前系であり、17世紀末～19世紀前半のものと考えられる。737は、磁器の鉢である。型押し技法により成形されており、口縁端部は細かな波状が表現されている。外面には染付で牡丹文が描かれており、内面は型で文様が施されている。肥前系であり、17世紀末～19世紀前半のものと考えられる。738は、石製の円盤状製品である。端部は細かく打ち欠かれ、表面は階段状に剥離している。円形に加工されており、端部は尖る。材質は泥岩系のものと考えられる。現状で類例が見当たらないため、どのように使われたのか不明だが、削器のようなものである可能性が考えられる<sup>(20)</sup>。739は、鉄製の鎌である。

## 第4節 溝出土遺物

#### S D 20022（第IV -21 図）

740・741は、陶器の山茶碗である。741の高台には靱殻痕が残る。尾張型第5型式の13世紀前半のものと考えられる。742は、陶器の天目茶碗である。瀬戸・美濃製品と考えられる。743は、陶器の皿である。口縁端部が内側へ折り曲げられており、内外面には緑色系の釉が掛かっている。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸中期様式期の14世紀前半のものと考えられる。744・745は、土錘である。細長い棒状の形態で、外面はナデにより調整されている。

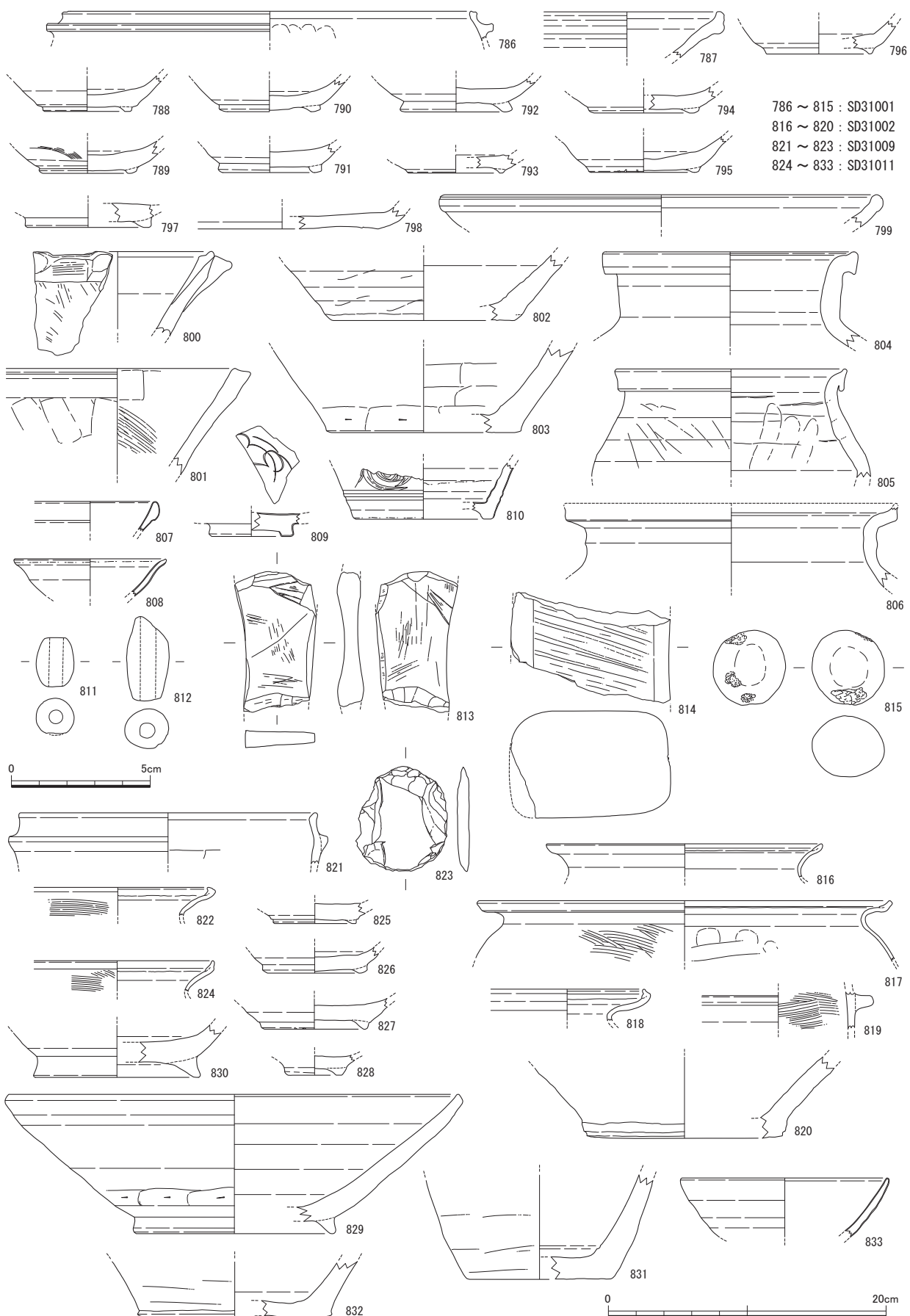
#### S D 20028（第IV -21 図）

746は、土師器の鍋である。南伊勢系であり、伊藤編年中世IV期の16世紀代のものと考えられる。

747は、陶器の播鉢である。備前製品であり、重根編年IV b期の15世紀前半～16世紀初頭のものと考えられる。

#### S D 31001（第IV -21, 22 図）

748～761は、土師器の皿である。748は、口径・器高ともに小さく、外面には工具ナデの条線がみられる。750～760は、椀に近い形状のもので、751・757の内面は工具ナデで調整されている。761の底部には糸切痕が残る。762・763は、土師器の台付皿である。いずれも平底の皿に「ハ」の字状に開いた高台が付く。764～782は、土師器の鍋である。全て南伊勢系であり、764～767・770・775・776・778・781は、口縁端部の粘土が内側に折り返され



第IV -22 図 出土遺物実測図 22(1:4、823 は 1:2)

て肥厚するもので、768・769・771～774・777・779・780・782は、口縁端部からやや下がった内面に断面三角形の膨らみを持つものである。外面はハケメ、内面はハケメや工具ナデで調整され、776の内面にはユビオサエによる指頭圧痕が顕著に残る。伊藤編年中世Ⅱb期～Ⅲb期の13世紀後半～15世紀前半にかけてのものと考えられる。783～786は、土師器の羽釜である。口縁部は直立し、端部は内側に小さく引き出されている。786の口縁端部にはキザミ状の小さな窪みがある。いずれも南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱb期～Ⅲa期の13世紀後半～14世紀後半のものと考えられる。

787は、須恵器の鉢である。口縁端部の上端は突出して外傾面を持つ。東播系須恵器であり、佐藤編年Ⅲ-3類の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。788～797は、陶器の山茶碗である。789～792・794・797は渥美湖西型、793・795・796は尾張型とみられる。12世紀前半～13世紀後半にかけてのものと考えられる。798・799は、陶器の皿である。798は、外面に粘土の剥離痕があり、脚が付くものと考えられる。瀬戸・美濃製品と考えられる。800は、陶器の片口鉢である。片口部分の破片であり、常滑製品と考えられる。801・802は、陶器の鉢である。いずれも常滑製品と考えられる。803は、陶器の甕である。底部外面はケズリ、内面は強いナデが施されている。804～806は、陶器の壺である。いずれも常滑製品であり、常滑第2段階5型式～6b型式の13世紀前半～後半のものと考えられる。807は、白磁の碗である。口縁端部は外側へ肥厚している。福建省系であり、山本編年C期の11世紀後半～12世紀前半のものと考えられる。808・809は、青磁の碗である。808は口縁端部のみ釉が掛かっていない口禿げである。809の底部内面に見込みには、刻劃文が施されている。龍泉窯系とみられ、山本編年D期の12世紀中頃～後半のものと考えられる。810は、青白磁の梅瓶（メイピン）である。底部から体部の破片で、外面には渦文とみられる文様が展開している。内面底部と高台までの体部外面に釉が掛かっている。811・812は、土錘である。811は、算盤玉に近い形状で、外面はナデにより調整されている。813は、砥石である。814は、

磨石である。表面は研磨されており、線状の擦痕もみられる。815は、敲石である。

#### SD 31002（第Ⅳ-22図）

816～818は、土師器の鍋である。すべて南伊勢系である。816・817の口縁端部の粘土は、内側に折り返されて肥厚する。伊藤編年中世Ⅱa期～Ⅱb期の13世紀前半～14世紀前半のものと考えられる。818の口縁端部は、摘み上げられて突出している。伊藤編年中世Ⅳa期～Ⅳb期の15世紀後半～16世紀前半のものと考えられる。819は、土師器の羽釜である。内面はハケメで調整されている。820は、陶器の甕である。常滑製品の可能性がある。

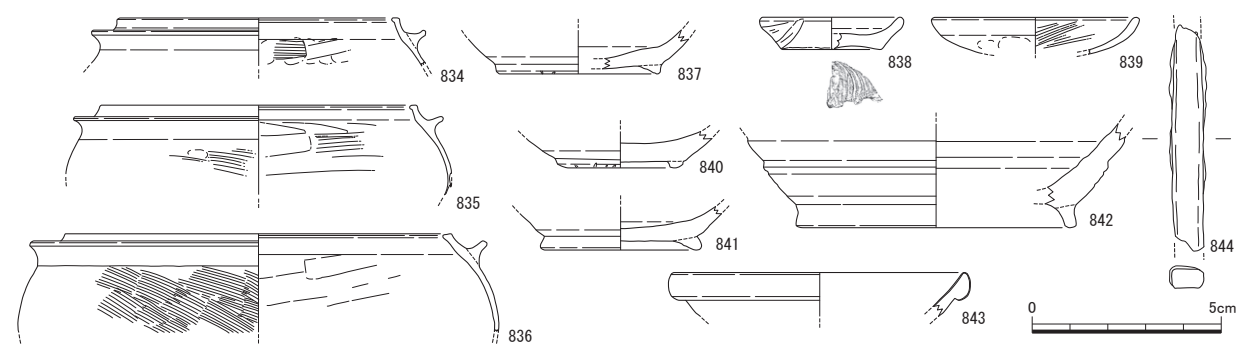
#### SD 31009（第Ⅳ-22図）

821・822は、土師器の鍋である。821の口縁部直下には、鐔状の突起がめぐる。播磨型の羽釜形タイプとみられ、長谷川編年Ⅶ期の16世紀代のものと考えられる。822は、南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅳa期の15世紀後半のものと考えられる。823は、石製の円盤状製品である。端部は細かく打ち欠かれて楕円形に加工され、端部は尖る。もう一方の面には自然面が残り、一部が階段状に剥離している。材質は泥岩系のものと考えられる。現状で類例が見当たらないため、どのように使われたのか不明だが、削器のようなものである可能性が考えられる<sup>(21)</sup>。

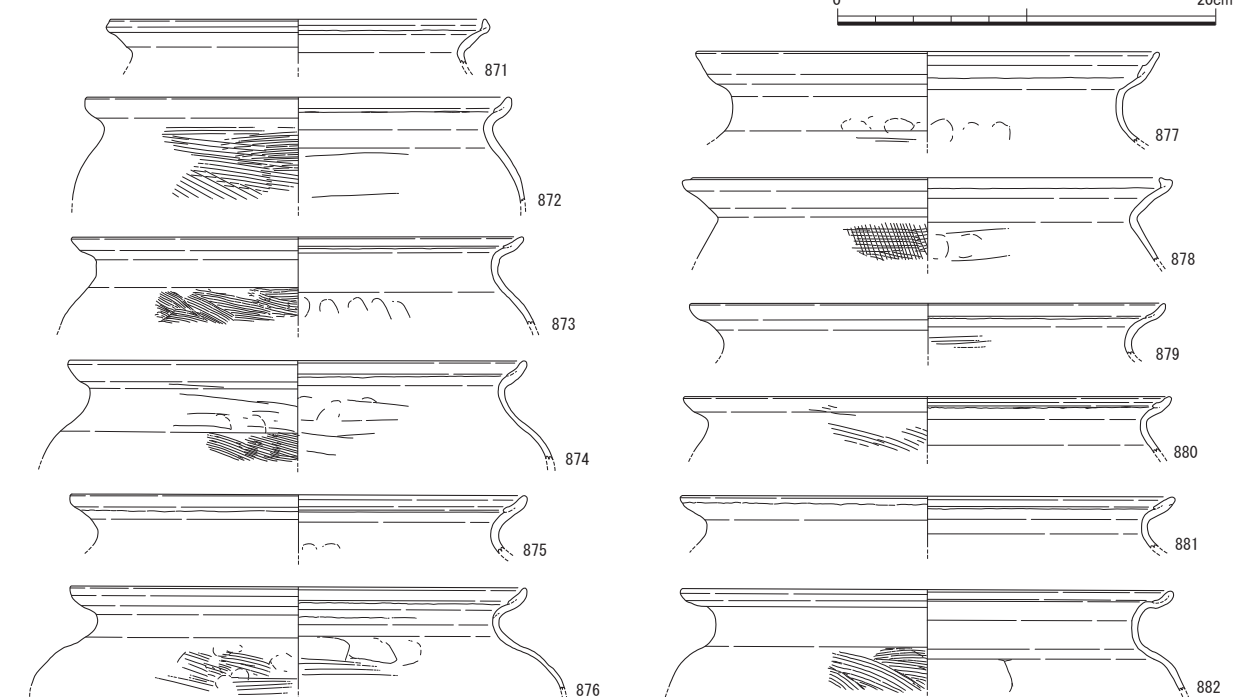
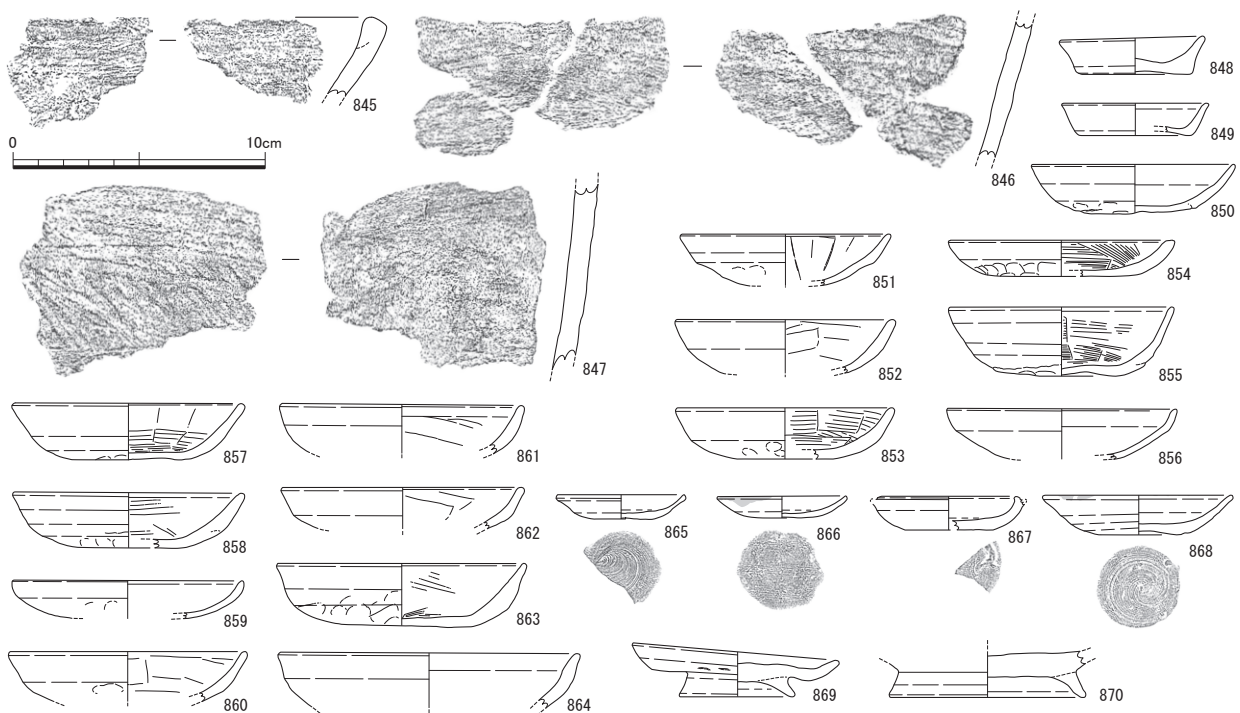
#### SD 31011（第Ⅳ-22図）

824は、土師器の鍋である。口縁端部は摘み上げられている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅳ期の16世紀代のものと考えられる。825～827は、陶器の山茶碗である。825・826は渥美湖西型、827は尾張型とみられ、12世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。828は、陶器の山皿である。渥美湖西型1c型式の12世紀後半のものと考えられる。829・830は、陶器の鉢である。829は、底部から立ち上がる部分の外面にケズリが施されている。常滑製品であり、常滑第1段階3型式の12世紀後半のものと考えられる。831・832は、陶器の壺である。いずれも外面は工具ナデで調整されており、内面には自然釉が掛かっている。833は、青磁の碗である。内外面ともに無文様である。14世紀後半以降のものと考えられる。





834 ~ 837 : SD31020 838 ~ 844 : SD32004 845 ~ 882 : SD32006



第IV-23図 出土遺物実測図 23(1:4、844は1:2、845～847は1:3)



#### S D 31020 (第IV -23 図)

834 ～ 836 は、土師器の羽釜である。いずれも口縁部は短く内傾しながらのび、端部は内側へ引き出されている。内面は工具ナデで調整されている。すべて南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱb 期～Ⅲa 期の 13 世紀後半～14 世紀代のものと考えられる。837 は、陶器の山茶碗である。高台には粃殻痕が残る。尾張型第 5 型式の 12 世紀後半～13 世紀前半のものと考えられる。

#### S D 32004 (第IV -23 図)

838・839 は、土師器の皿である。838 の底部には糸切痕が残る、839 の内面には工具ナデが施されている。840・841 は、陶器の山茶碗である。840 は尾張型第 6 型式、841 は渥美湖西型 2 b 型式でいずれも 13 世紀前半のものと考えられる。842 は、陶器の鉢である。常滑製品であり、常滑第 2 段階 5 型式の 13 世紀前半のものと考えられる。843 は、白磁の碗である。口縁端部は外側へ玉縁状に膨らんでいる。福建省系であり、山本編年 C 期の 11 世紀後半～12 世紀前半のものと考えられる。844 は、鉄製の釘である。両端が欠損している。

#### S D 32006 (第IV -23 ～ 34 図)

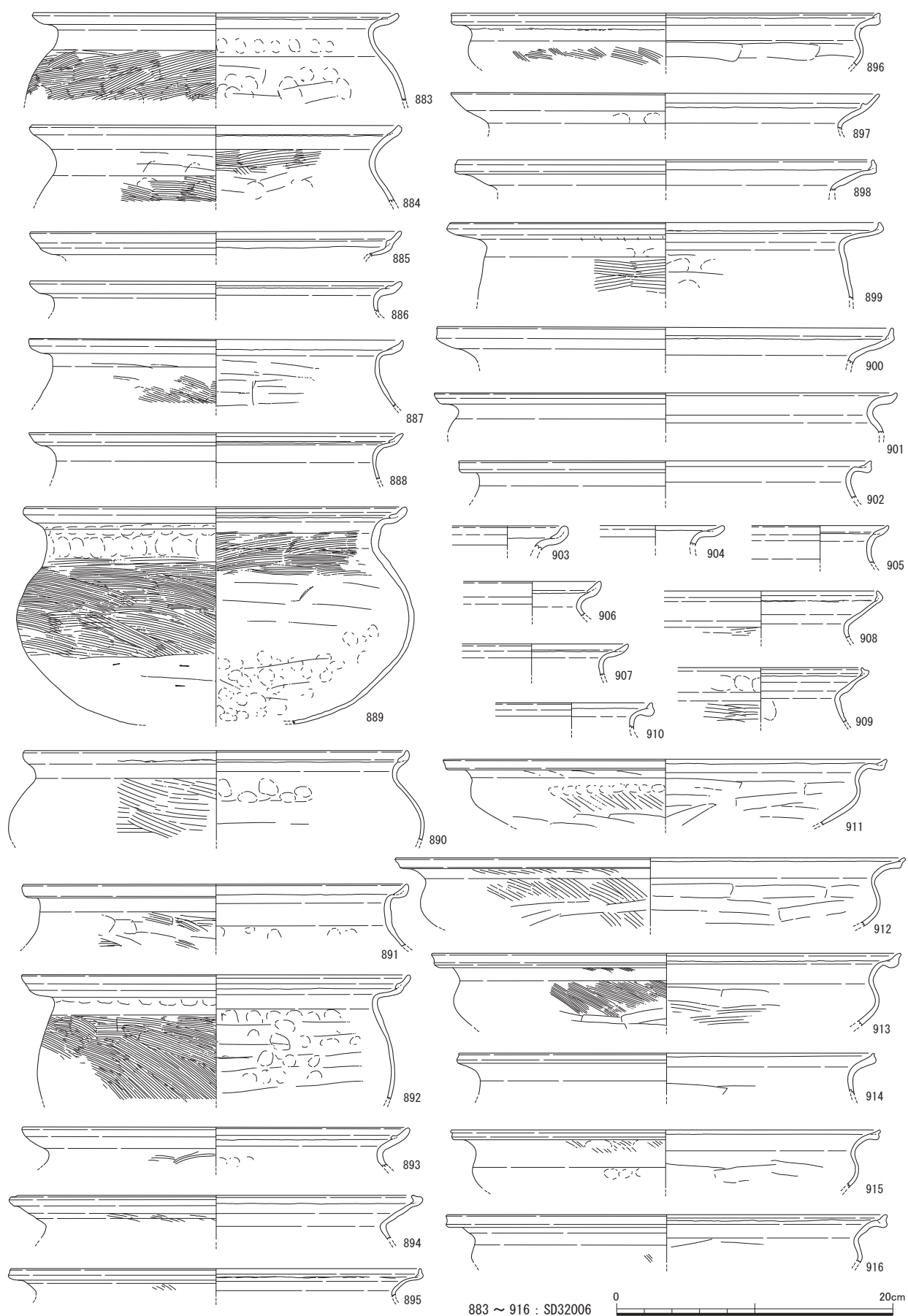
845 ～ 847 は、縄文土器の深鉢である。845 は口縁部の破片で、端部と内面はミガキ、外面は条線で調整されている。846・847 は体部の破片で、外面は条線またはナデ、内面はミガキで調整されている。いずれも縄文時代中期末以降のものと考えられる。

848 ～ 868 は、土師器の皿である。848・849 は平底で小型のもの、850 ～ 853・855 ～ 858・860 ～ 864 は椀に近い形状のもの、854 は器高が低いもの、859 は器厚が薄くて胎土が精良なもの、865 ～ 868 は底部に糸切痕が残るものがある。このうち、851 ～ 855・857・858・860 ～ 863 の内面は工具ナデで調整されている。底部に糸切痕が残るもののうち、867 は口縁部の外側に受け状の突出が付き、865・867・868 の内面から口縁端部外面には透明釉が掛かっている。糸切痕があるものは、すべて大坂系であり、積山編年 10 段階以降の 18 世紀代のものと考えられる。869・870 は、土師器の台付皿である。「ハ」の字状に開いた低い高台が付く。

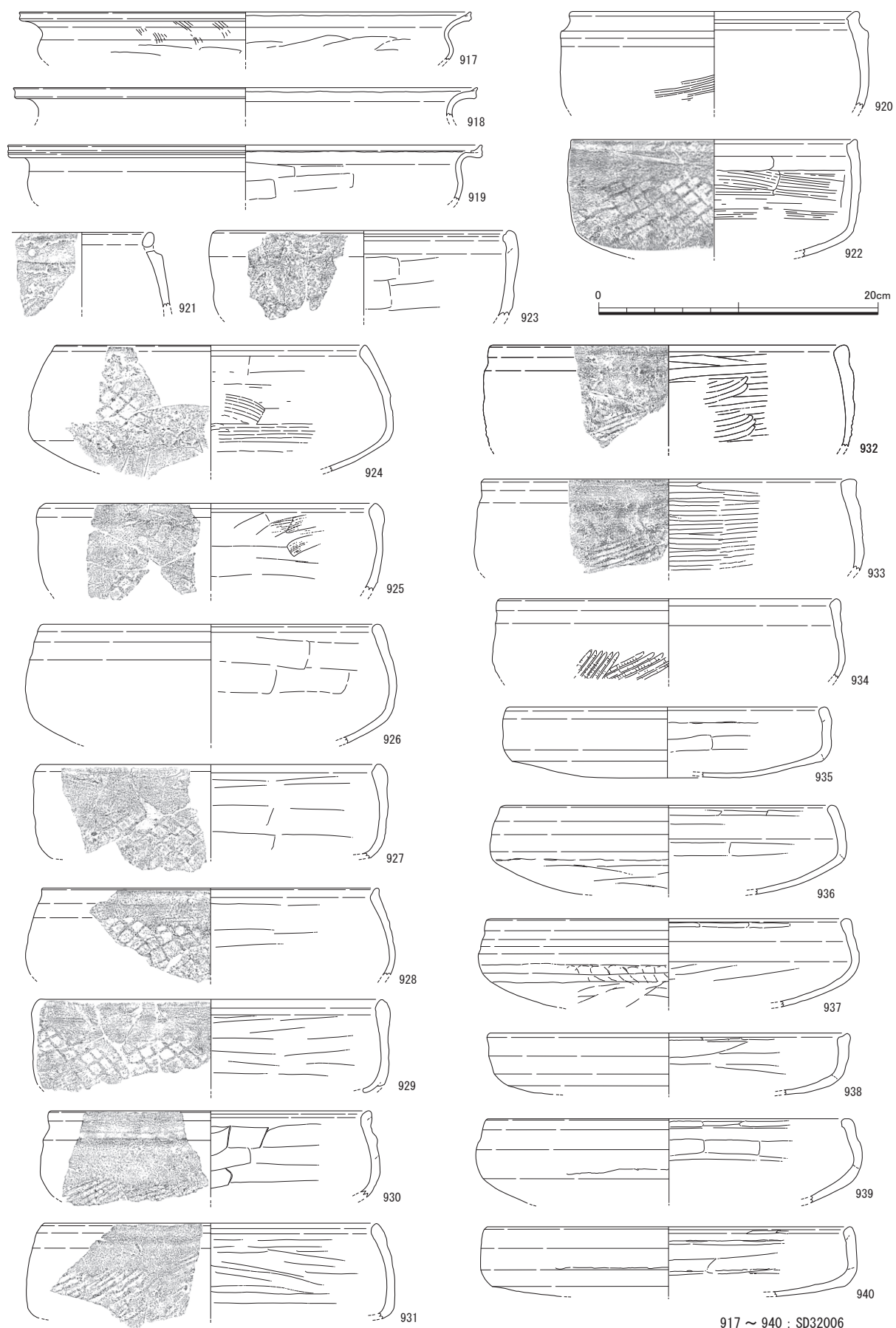
871 ～ 919 は、南伊勢系の土師器の鍋と焙烙であ

る。871 ～ 910 は鍋である。口縁部の形状から 4 つに分かれる。872 ～ 876・879 ～ 884・886・887 ～ 891・903 ～ 907 は口縁部の粘土が内側に折り返されて肥厚するもの (①)、877・885・892・893・897 は口縁端部からやや下がった内面に断面三角形の膨らみを持つもの (②)、871・878・894・895・898 ～ 900・908・909 は口縁端部が摘み上げられているもの (③)、896・901・902・910 は口縁端部に外傾面を持つもの (④) がある。①は伊藤編年中世Ⅱb 期の 13 世紀後半～14 世紀前半、②は伊藤編年中世Ⅲa 期～Ⅲb 期の 14 世紀後半～15 世紀前半、③は伊藤編年中世Ⅳa 期～Ⅳb 期の 15 世紀後半～16 世紀前半、④は伊藤編年中世Ⅳc 期～近世Ⅰ期の 16 世紀後半～17 世紀代のものと考えられる。911 ～ 919 は、焙烙である。いずれも口縁端部の上端は、小さく摘み上げられて外側へと突出するが、911 ～ 913 は突出が大きく、914 ～ 919 は突出が小さい。伊藤編年中世Ⅳc 期～近世Ⅱ期の 16 世紀末前後～18 世紀後半にかけてのものと考えられる。

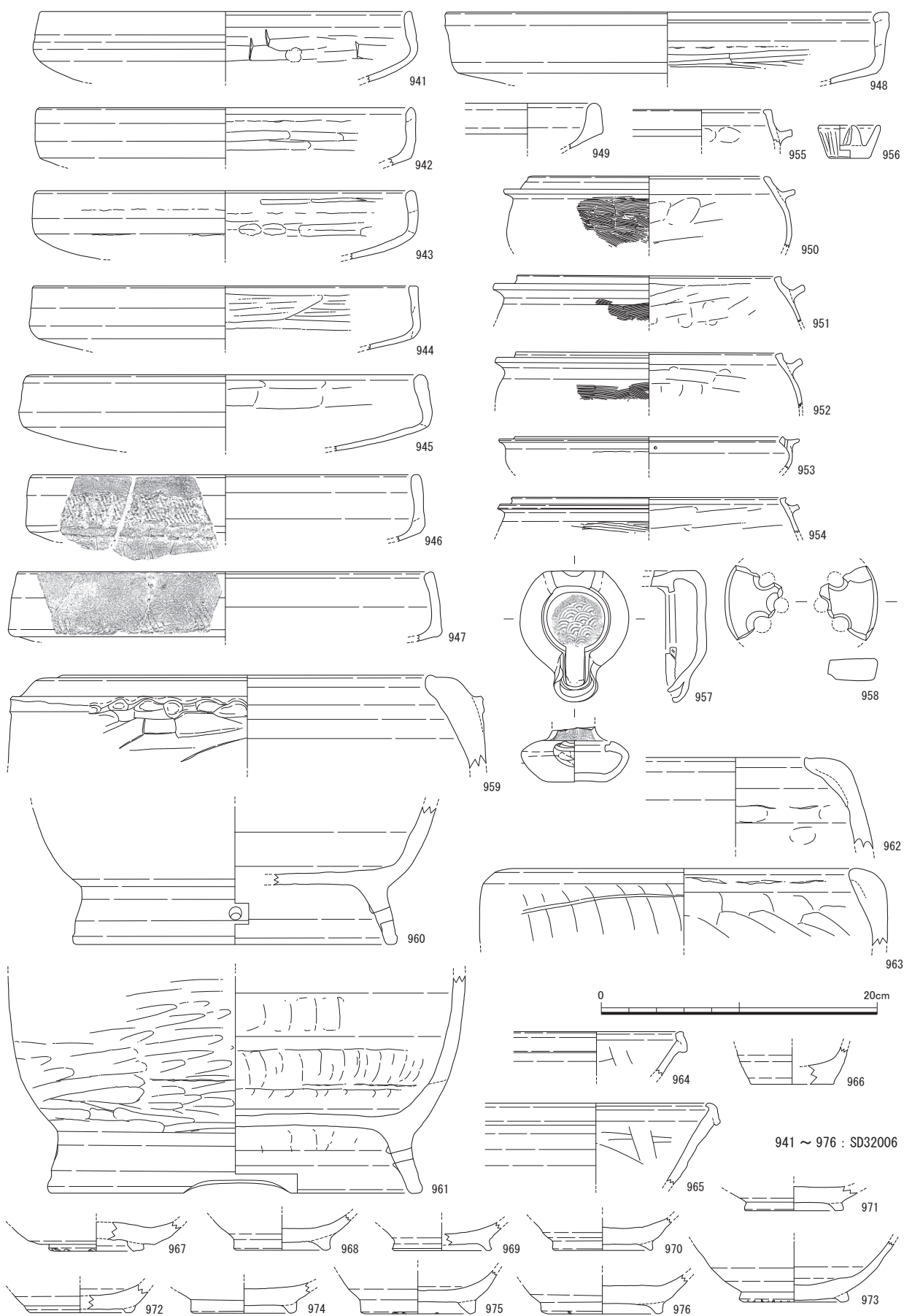
920 ～ 949 は、播磨型または大坂・堺系、大坂・明石系の土師器の鍋と焙烙である。920 ～ 934 は、播磨型の鍋である。920・921 は、羽釜形の形状で口縁部の直下に鐔状の突出がある。いずれも外面は平行タタキが施されている。921 の口縁部には小さな円孔が穿かれている。いずれも外面には煤が厚く付着している。922 ～ 934 は、羽釜形にあった鐔状の突出が消失したものである。外面は格子タタキまたは平行タタキが施され、煤が付着している。内面は多くが工具ナデで調整されている。これら播磨型の鍋は、長谷川編年Ⅶ期～Ⅷ期の 16 世紀前半～17 世紀前半のものと考えられる。935 ～ 949 は、大坂・明石系あるいは大坂・堺系の焙烙である。936・937・939・941 は口縁端部に向かって内湾ぎみにのびた形状のもので、935・938・940・942 ～ 949 は底部から直立ぎみに立ち上がり、口縁端部に向かってのびた形状のものである。外面は主にヨコナデまたはナデにより調整されているが、946・947 は平行タタキと底部から立ち上がる部分にはケズリが施されている。内面は多くが工具ナデで調整されている。935・938・943・949 の底部外面には細かな砂の付着が確認できることから、外型作りされたもの



第IV-24 図 出土遺物実測図 24(1:4)



第IV-25 図 出土遺物実測図 25(1:4)



第IV-26 図 出土遺物実測図 26(1:4)



と考えられる。これら大坂・明石系あるいは大坂・堺系の焙烙は、17世紀中頃～19世紀前半のものと考えられる。950～955は、土師器の羽釜である。いずれも口縁部は内傾しながら短くのび、鐳は斜め上方へと突出している。953の口縁部には円孔がある。すべて南伊勢系であり、950～952・954・955は、伊藤編年中世Ⅱb期の13世紀後半～14世紀前半、953は伊藤編年中世Ⅳc期の16世紀後半のものと考えられる。

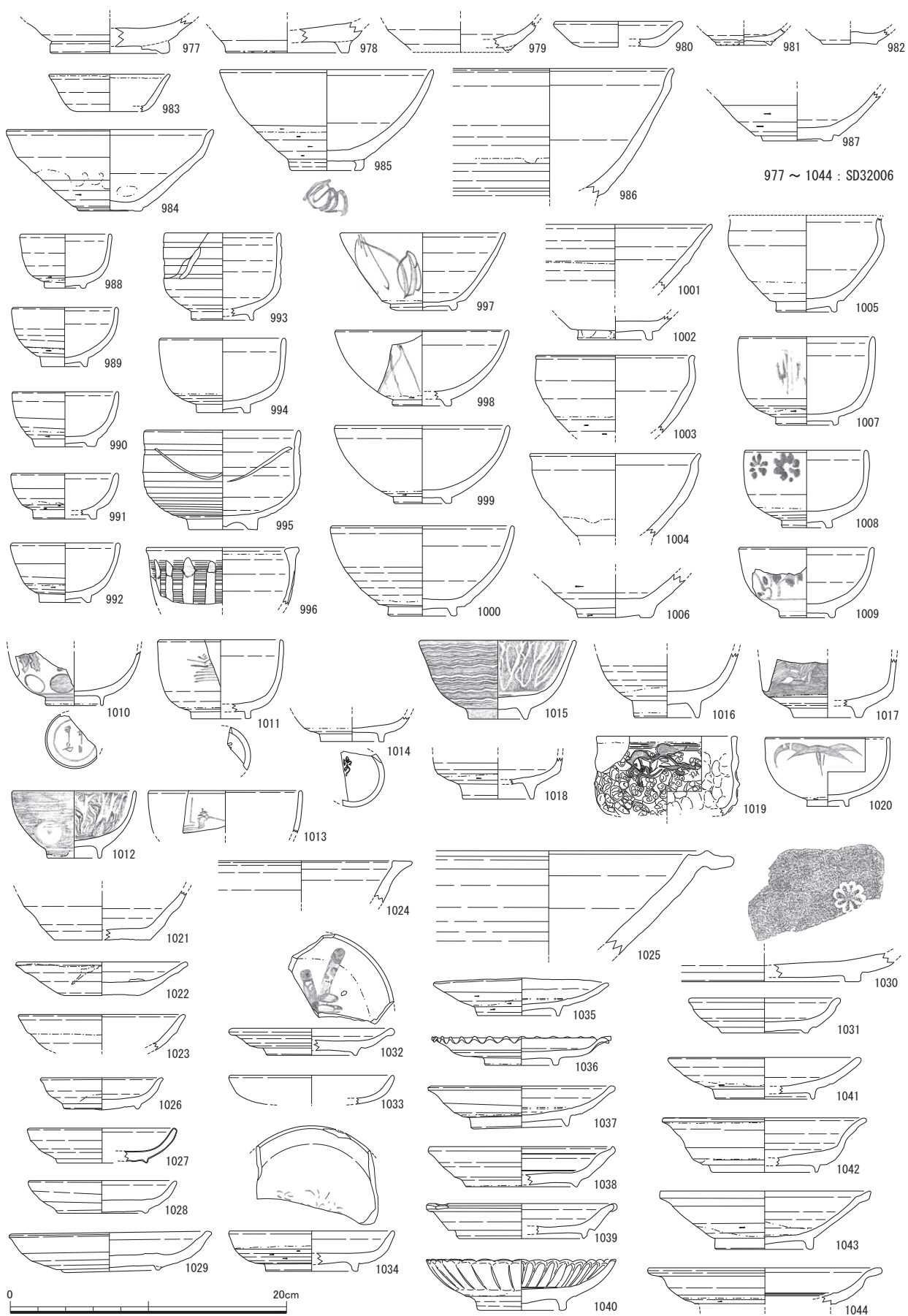
956・957は、土師質土器の乗燭である。956は小型のもので、外面には煤が付着している<sup>(22)</sup>。957は、舌状の口と扁平な棒状の把手が付くもので、内面には青海波の文様、把手の付け根部分には文字の可能性のある印刻がある。いずれも18世紀後半以降のものと考えられる。江戸遺跡で出土例がある<sup>(23)</sup>。958は、土師質土器の目皿である。円形の穿孔が複数あり、焔炉などの火具に付属するものと考えられる<sup>(24)</sup>。959～963は、土師質土器の風炉または火鉢である。959の口縁部は、内傾して丸く収められている。外面には指で押圧された突帯状の凹凸がめぐる。外面は工具ナデで調整されている。960・961は底部から体部にかけての破片である。960の高台には円形の透かしが穿かれている。残存する円孔は2箇所、完全に貫通していないものがあり、配置から想定すると四方に穿かれているものと考えられる。961の高台には円形の透かしと接地面から穿かれた半月状の透かしが交互に配されている。体部外面は幅が広い粗い横方向のミガキが施されており、内面には当て具痕の可能性のある圧痕が残る。962・963は、口縁部の破片で、いずれも口縁端部は内傾し、煤が付着している。963の破片側面には、工具で切り込みを入れた面があることから、口縁部が窓状に窪んだ部分がある可能性が高い。

964・965は、須恵器の鉢である。東播系須恵器であり、佐藤編年Ⅳ類の14世紀後半～15世紀代のものと考えられる。966は、灰釉陶器の壺とみられる破片である。小型壺と考えられ、内面には朱が付着している。967～979は、陶器の山茶碗である。このうち、967・968・971～974・977・978は渥美湖西型、969・970・975・976は尾張型とみられ、12世紀後半～13世紀前半のものと考えられる。

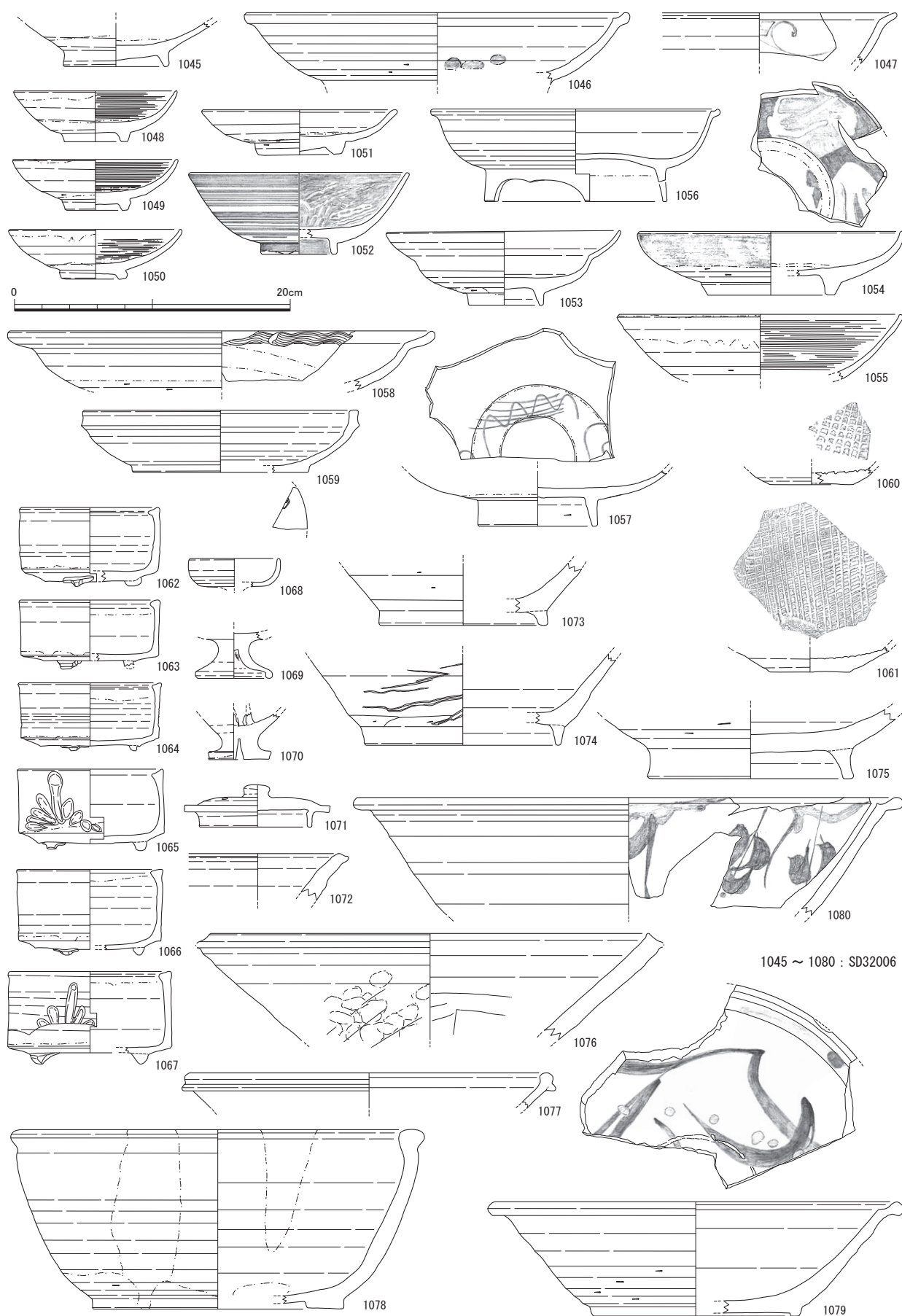
980～982は、陶器の山皿である。980・982は渥美湖西型、981は尾張型とみられ、12世紀後半～13世紀前半のものと考えられる。

983～1020は、陶器の碗である。983は、内外面に濃い緑色の釉が掛かっており、青織部とみられる。984～986は平碗で、内外面には浅黄色の釉が掛かっている。985の底部外面の見込みには、墨書による花押がみられ、古瀬戸後期様式Ⅰ期のものである。いずれも瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸後期様式期の14世紀後半～15世紀後半のものと考えられる。987は平碗の底部である可能性がある。988～992は、小碗である。いずれも瀬戸・美濃製品であり、登窯第2段階第7小期～第3段階第9小期の18世紀中頃前後～19世紀前半のものと考えられる。993・995は、いわゆる拳骨茶碗と呼ばれるものである。内外面にはロクロ目が顕著に残り、外面には線状の窪みがある。瀬戸・美濃製品とみられ、18世紀中頃以降のものと考えられる。994・998～1000は、丸碗である。このうち998の外面には鉄絵による文様が施されている。いずれも瀬戸・美濃製品であり、登窯期のものと考えられる。996の外面は、カキメ状の条線が施されたのち、縦方向の削ぎがされている。瀬戸・美濃製品の可能性がある。997は、柳茶碗である。外面には鉄絵が描かれている。瀬戸・美濃製品であり、18世紀中頃～後半のものと考えられる。1001は、平碗の口縁部である可能性がある。1002は、口縁部に向かって「ハ」の字状に開く稜碗とみられる。1003～1005は、天目茶碗である。内外面には鉄釉が掛かっている。瀬戸・美濃製品であり、登窯期のものと考えられる。1007～1009は、陶胎染付の碗である。外面には染付で文様が施されている。瀬戸・美濃製品とみられる。1010は陶胎染付の可能性のある碗である。胎土や釉が細かく貫入している状況から判断したが、磁器の可能性もある。外面には染付でコンニャク印判の丸文などがあり、底部外面の見込みには字体が崩れた「大明年製」とみられる銘がある。肥前系の可能性がある。1011・1013・1014は、京焼風陶器またはその可能性がある碗である。1011・1013の外面には、山水文とみられる文様が描かれており、1011の底部外面の見込みには印刻の一部がある。1014





第IV-27図 出土遺物実測図 27(1:4)



第IV-28 図 出土遺物実測図 28(1:4)

の底部外面の見込みには「清水」の印刻がある<sup>(25)</sup>。いずれも17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。1012・1015・1017は、白土を掛けた刷毛目模様や丸文などがある碗である。いずれも肥前系のもので、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。1016・1018も形態と胎土から肥前系の可能性があるものである。1019は、外面に鉄絵で馬が描かれた型押しによる駒形が貼り付けられており、内外面に不定形の凹凸がある。オリブ色の釉が掛かり、釉の中に無数のヒビが入った貫入がある。福島県の大堀相馬製品の手びねり碗とみられ、18世紀末～19世紀中頃前後のものと考えられる<sup>(26)</sup>。1020は、陶器の碗である。外面には色絵で笹文が描かれており、肥前系の可能性がある。1021は、陶器の皿または碗である。平底で糸切痕が残る。

1022～1059は、陶器の皿である。1022・1023は、緑釉小皿である。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸後期様式期～大窯第1段階の14世紀後半～15世紀後半にかけてのものと考えられる。1024・1025は、折縁皿である。いずれも瀬戸・美濃製品であり、1024は古瀬戸後期様式I期の14世紀後半のもの、1025も古瀬戸後期様式期に収まるものと考えられる。1026～1028・1033は、丸皿である。いずれも瀬戸・美濃製品であり、大窯期の15世紀～16世紀代のものと考えられる。1029は、内禿皿である。大窯第3段階の16世紀後半のものと考えられる。1030は、底部径が大きい皿で、内面には菊花文の押印が施されている。瀬戸・美濃製品の大窯期のものと考えられる。1031は、志野丸皿である。内外面には灰白色の釉が掛かる。登窯第1段階第1小期～第3小期の17世紀前半～中頃前後のものと考えられる。1032は、鉄絵皿である。内面に鉄絵で文様が描かれている。登窯第1段階第4小期の17世紀後半のものと考えられる。1034は、摺絵皿である。底部内面の見込みに摺絵で花文が描かれている。登窯第2段階第7小期の18世紀前半～中頃前後のものと考えられる。1035～1039・1041・1042・1044は、反り皿である。1036の口縁部は大きく外反し、端部は波状になっている。1039の口縁端部には輪花状の窪みがある。いずれも瀬戸・美濃製品であり、登窯期の17世紀前半～18世紀中頃にかけてのもの

と考えられる。1040は、菊皿である。内面は菊花文が型押しされており、外面は削ぎで花卉が表現され、口縁端部はヘラで花卉状に切り込まれて波状になっている。瀬戸・美濃製品であり、登窯第1段階第4小期以降の17世紀後半～18世紀前半のものと考えられる。1043・1045は、輪禿皿である。内面には帯状に釉が掛からない範囲がある。瀬戸・美濃製品であり、登窯第2段階～第3段階の18世紀初頭前後～後半のものと考えられる。1047は、陶胎染付の皿または鉢である。口縁部は外反し、端部は丸く収められている。内面には染付で文様が描かれている。

1048～1050・1055は銅緑釉が掛かった皿である。内面はカキメ状の条線と蛇ノ目釉剥ぎの範囲がある。肥前系であり、17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。1052は、外面に白土を掛けた刷毛目文様、内面には斑状の文様が施された皿である。1054にも内面に刷毛目の不定形な文様が施されている。いずれも肥前系であり、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。1053の口縁部は外側へ屈曲して内湾し、端部は丸く収められている。肥前系であり、17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。1051・1056・1057・1058は肥前系の可能性がある皿である。1051の高台には、半円形の透かしが三方にある。1057は内面に蛇ノ目釉剥ぎの範囲があり、鉄絵が描かれている。1058は、口縁部内面に刷毛目状の文様が施されている。1059は、口縁部外面の直下には突帯状の突出があり、底部外面には印刻の一部がある。1060・1061は、陶器の卸皿である。底部内面には格子状の卸目がある。1060の内面には緑色の釉がかかっている。瀬戸・美濃製品と考えられ、古瀬戸後期様式期の14世紀後半～15世紀代のものと考えられる。

1062～1067は、陶器の香炉である。いずれも瀬戸・美濃製品である。口縁端部は内側へ突出して内傾面を持ち、底部には三足の脚が付く。1065・1067の外面には削ぎの文様が施されており、登窯第2段階第7小期の18世紀中頃前後のものと考えられる。1068・1069は、陶器の仏餉具である。1069の脚部内面には、粘土の絞り目痕が残る。いずれも瀬戸・美濃製品であり、登窯期の18世紀代のものと考え

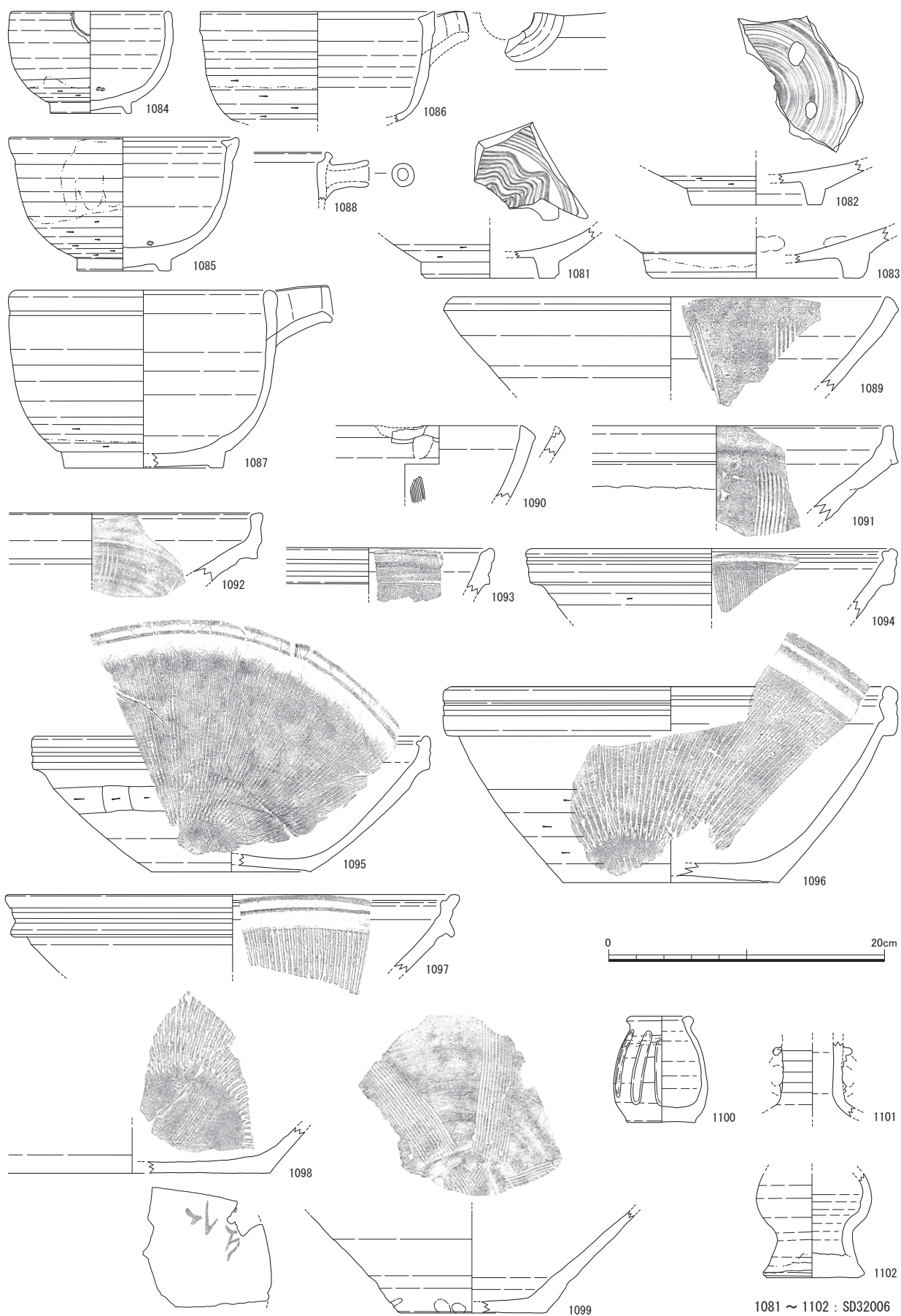
られる。1070 は、陶器の乗燭である。瀬戸・美濃製品であり、登窯第3段階第8小期の18世紀後半のものと考えられる。1071 は、陶器の蓋である。土瓶の蓋と考えられ、外面には釉が掛かっている。瀬戸・美濃製品とみられる。1046・1072～1083 は、陶器の鉢である。1072・1073 は渥美製品、1074・1075 は常滑製品と考えられる。片口鉢の可能性もある。1074 の外面には、工具痕の可能性のある不定方向の沈線が残る。12世紀中頃～13世紀前半にかけてのものと考えられる。1076 は、播鉢の可能性もある鉢である。常滑製品であろうか。1077 は、口縁端部は上方が玉縁状となり、下端が突出している。1078 は、練鉢である。口縁端部は大きく膨らみ外側へ丸く突出している。瀬戸・美濃製品であり、登窯第3段階第8小期の18世紀後半のものと考えられる。1046・1079・1080 は、鉄絵鉢である。口縁部は外反して端部は玉縁状に膨らむ。内面には鉄絵が描かれている。瀬戸・美濃製品とみられ、登窯第1段階第4小期の17世紀後半のものと考えられる。1081・1082 は、内面に白土を掛けた刷毛目文様が施されたものである。肥前系であり、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。1083 も高台の形状と胎土から肥前系とみられる。1084～1087 は、陶器の片口鉢である。1084・1087 は口縁端部が丸く収められており、1085・1086 は口縁端部が内側に突出して内傾面を持つ。いずれも瀬戸・美濃製品であり、登窯第2段階第5小期以降の17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。1088 は、陶器の柄付片口である。小さな受口状の口縁部とその直下に中空の柄が付くものである。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸中期様式Ⅱ期の14世紀前半のものと考えられる。

1089～1099 は、陶器の播鉢である。1089～1093 は備前製品である。1089・1090 は口縁端部に外傾面を持つもので、重根編年ⅣA期の14世紀後半～15世紀初頭前後のものと考えられる。1091・1092 は、口縁部が受口状で外面下端が突出しており、重根編年ⅣB期～ⅤA期の15世紀前半～16世紀前半のものと考えられる。1093 の口縁端部は内傾面をもち、外面には2条の沈線がめぐむもので、乗岡編年近世4期の18世紀中頃のものと考えられ

る。1094～1097 は堺・明石系のものである。口縁部の形状から、1094・1095 は稲原編年Ⅰ-1類の18世紀前半～19世紀前半のもの、1095～1097 は稲原編年Ⅱ-2類の18世紀後半～19世紀中頃前後のものと考えられる。1098 の底部外面には、文字と思われる墨書がある。1099 は形態と播目の状況から瀬戸・美濃製品の可能性がある。1100 は、陶器の茶入である。外面には縦方向の削ぎが施されている。瀬戸・美濃製品の可能性がある。1101・1102 は、陶器の花瓶である。1101 は頸部の破片で、外面には耳の一部が残る。いずれも瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸中期様式期～後期様式期の14世紀前半～15世紀前半のものと考えられる。1103～1105 は、陶器の土瓶である。1103 の底部外面には三方に足が付く。1103・1104 の外面と内面の一部には暗赤褐色の釉が掛かっている。瀬戸・美濃製品の可能性がある。1105 の外面には竹文とみられる文様が描かれている。京都・信楽系の可能性がある。1106・1108・1109 は陶器の徳利である。1106・1108 は、体部の膨らみが弱く、頸部に向かって緩やかに窄まる形状のもので、底部は平底である。外面には暗赤褐色の釉が掛かっている。1109 の外面にはケズリ状の調整が施されている。1107 は徳利の可能性があるので、底部には高台が付く。いずれも瀬戸・美濃製品の可能性があり、18世紀代～19世紀代のものであろうか。1110・1112・1113 は陶器の瓶または壺である。1110 の外面には、白土を掛けた刷毛目文様が施されている。肥前系のものであろうか。1112・1113 は高台が付くもので、体部は上方へ直線的にのびている。このうち1112 の外面には「壽」の文字がある。1111 は、陶器の瓶で陶胎染付である。19世紀代のものか。

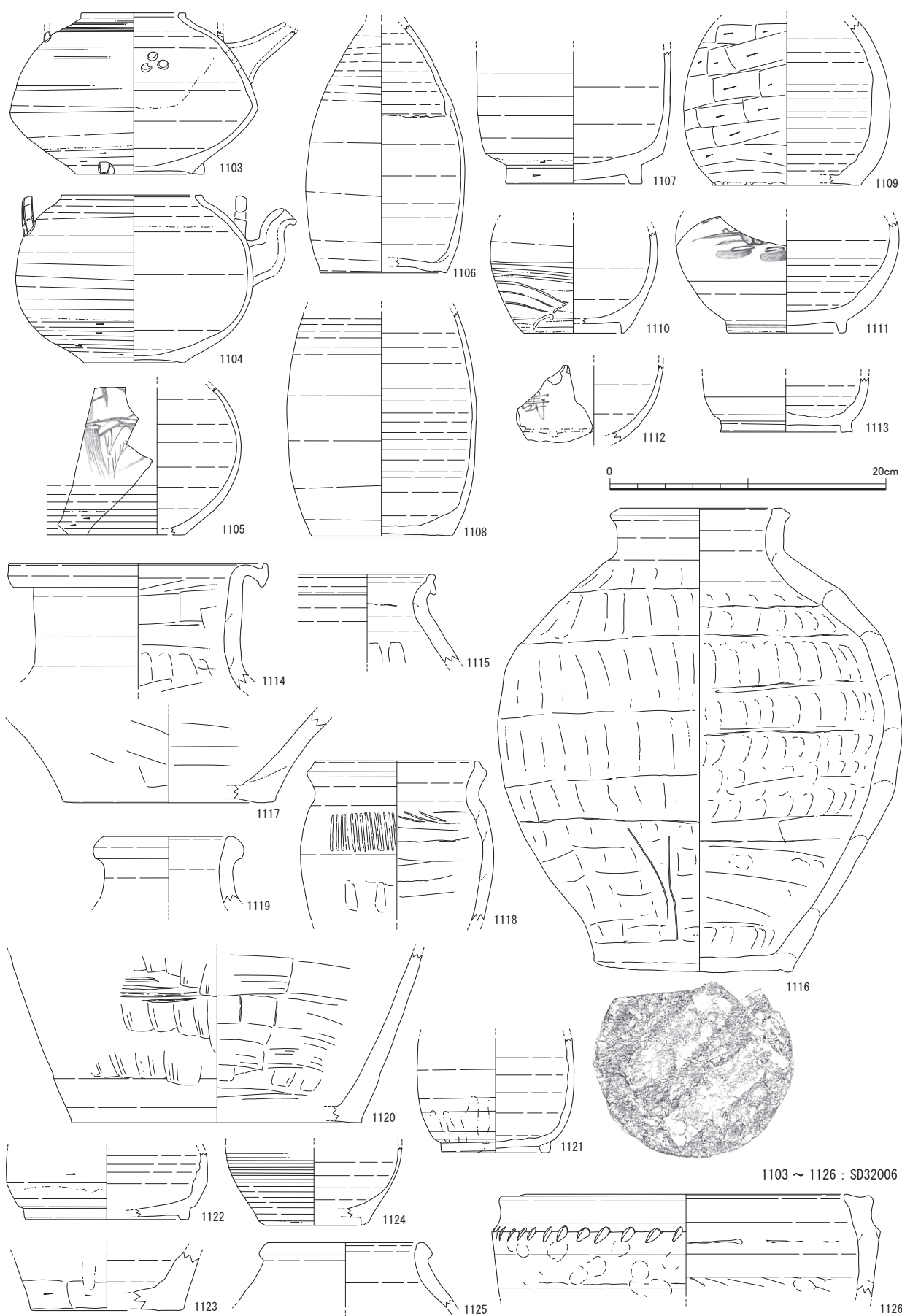
1114～1125 は、陶器の壺である。1114～1118 は常滑製品またはその可能性があるものである。1114 の頸部は直立してのび、口縁部は外側へ大きく屈曲して端部は上下に突出している。常滑第2段階6型式の13世紀後半のものと考えられる。1115 の口縁端部は、両端が突出して丸く収められており、上端が外側へ少し屈曲する。常滑第2段階6b型式の13世紀中頃～後半のものと考えられる。1116 は、体部が大きく口縁部が小さい短頸壺に近い形状のも





第IV-29 図 出土遺物実測図 29(1:4)





第IV-30 図 出土遺物実測図 30(1:4)

のである。外面には線刻と粘土紐の接合痕、内面には成形時の押圧痕と粘土紐の接合痕がある。外面に掛かる釉の一部は濁っている。底部外面には方形の板材を敷いていた痕跡が残る。常滑第3段階12型式の16世紀後半のものと考えられる<sup>(27)</sup>。1118は、肩の張りや頸部の屈曲が弱い体部のもので、外面には平行タタキ、内面は工具ナデで調整されている。内外面には粘土紐の接合痕が残り、粗く整えられている。蛸壺の可能性があり、19世紀代の常滑製品であろうか。1119は、備前製品の可能性があるものである。口縁端部は膨らみ外側へと肥厚する。1120は、渥美製品の可能性があるもので、体部内外面には工具ナデが施されており、外面には工具の線状痕がある。1121～1123・1125は、瀬戸・美濃製品またはその可能性があるものである。登窯期の17世紀中頃～19世紀代にかけてのものであろうか。1124は、壺または瓶で肥前系の可能性があるものである。外面には沈線状の凹線が施されている。1126～1129は陶器の甕である。すべて常滑製品である。1126・1128は赤物で、1128は17世紀後半のものと考えられる。1127・1128は、常滑第3段階9型式～10型式の15世紀前半～後半のものと考えられる。1130は、陶器の台付製品である。何らかの製品の脚部であり、外面には彫られた線文様が展開している。内面にはユビオサエ及びナデの痕跡が顕著に残る。1131～1133は、陶器の碗を使用して作られた加工円盤である。1131は、色絵の碗の高台に沿って打ち欠かれ、円形に加工されている。

1134～1171は、磁器の碗である。1135～1169の内外面には染付で文様などが描かれており、このうち1158は陶胎染付の可能性があり、1134・1135は、筒形碗である。1134の外面には唐草文と梅竹文、内面の見込みには昆虫文がある。1135の外面には唐草文と丸文、内面には四方禪文、底部内面の見込みにはコンニャク印判の五弁花文がある。1136～1169は丸碗などである。1136の外面には二段の網目文、1137・1138の外面には笹文、1139の外面には雨降文、1140の外面にはコンニャク印判の花文、1141の外面には三段の網目文がある。1142は外面に圈線文があり、口縁端部には釉が掛かっていない口禿げの状態で、煤が付着している。1143の外面

には草花文、1144の外面には梅枝文、1145の外面にはコンニャク印判の菊花文がある。1146は外面にコンニャク印判の桐文、底部外面の見込みにはいわゆる渦福の「福」の銘がある。1147の外面には、三段の網目文があり他の網目文と比べて網の先端が尖っている。1148の外面にはコンニャク印判の桐文がある。1149は外面に草花文、底部外面の見込みに変形字がある。1150は外面に三段の網目文、内面にコンニャク印判の菊花文と花卉状の文様が全体に展開している。1151は外面に梅枝文、底部外面の見込みには字体が崩れた「大明年製」とみられる銘がある。1152の外面には型紙刷りの桜花文、1153の外面には菊花文、1154の外面には三段の網目文がある。1155は外面に四段の網目文、内面には菊花文と三段の網目文が展開し、底部外面の見込みには変形字がある。1156は外面に三段の網目文、内面にはコンニャク印判の桜花文と三段の網目文状の文様が展開している。1157の外面にはコンニャク印判の桜花文がある。1159は外面に丸文、内面に四方禪文、内面の見込みにはコンニャク印判の五弁花文、外面の見込みには方形枠内に変形字がある。1162は底部外面の見込みには字体が崩れた「大明年製」とみられる銘がある。1163は外面に縦方向の圈線と「中」の文字が描かれ、底部内面の見込みには圈線と花文とみられる文様がある。1164は底部外面の見込みには字体が崩れた「大明年製」の銘がある。1165は外面に四段の網目文、内面には菊花文と網の先端が尖った四段の網目文が展開し、底部外面の見込みには二重の方形枠内に変形字が記されている。1166は外面に草花文、底部外面の見込みには二重の方形枠内にいわゆる渦福「福」の銘がある。1169は外面に縦方向の沈線が入り、沈線間には染付で「□福壽」と記されている。1158・1160・1161・1167・1168の外面または内面にも文様や文字があるが、文様の種類は判然としない。これら染付がある碗は、すべて肥前系のもので、17世紀後半～18世紀後半にかけてのものと考えられる。1170・1171は色絵で文様が描かれており、1170の外面には梅枝文、1171の外面には草花文がある。いずれも肥前系であり、18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。1172・1173は、磁器の小坏

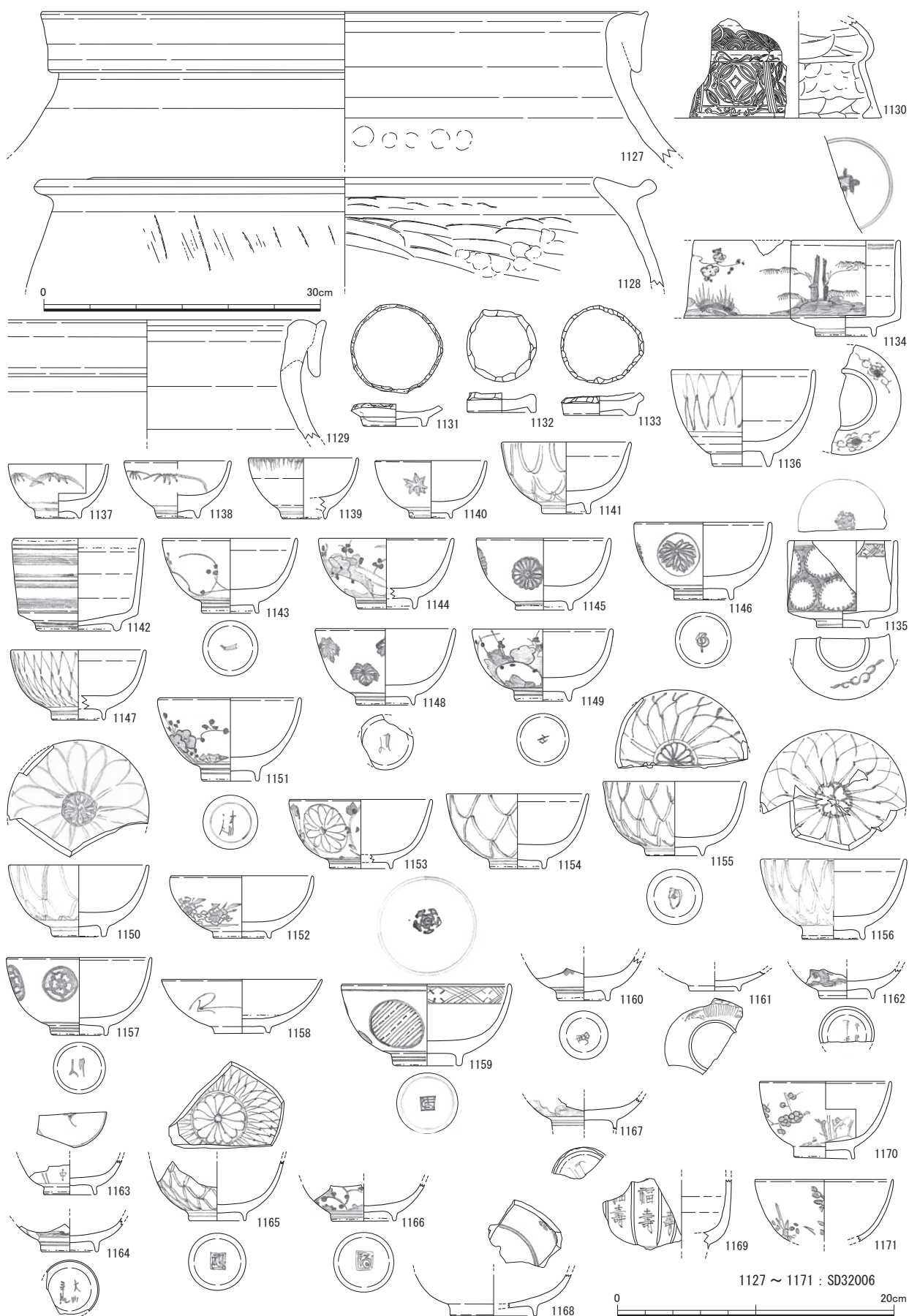
である。いずれも外面に染付で文様が描かれており、1173には松文がある。肥前系であり、17世紀後半～18世紀前半のものと考えられる。1174は、磁器の猪口とみられる。外面には染付で草文とみられる文様が描かれている。肥前系とみられ、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。1175・1176は、磁器の仏餉具である。いずれも外面には染付で笹文があり、1175の底部外面の見込みには墨書で文字が記されている。

1177～1193は、磁器の皿である。内外面には染付で文様などが描かれている。1177は、型押し技法により花卉状に成形されており、内面には型紙刷りの文様がある。1178・1180は、内面に蛇ノ目釉剥ぎの範囲があり、斜線状の文様がある。1181・1182は、外面に唐草文、内面に網目鮎文、内面の見込みにはコンニャク印判の五弁花文があり、底部外面の見込みには字体が崩れた「大明年製」とみられる銘がある。1183～1185・1187は、外面に唐草文、内面に草花文がある。1183・1184には内面の見込みにコンニャク印判の五弁花文があり、1183の底部外面の見込みには、いわゆる渦福の「福」の文字がある。1186は、高台が蛇ノ目凹形のもので、口縁端部に輪花状の窪みがある。外面には唐草文、内面に大きな菊花文と草花文があり、底部外面の見込みには二重の方形枠内に窯場名である「筒江」の銘が記されている<sup>(28)</sup>。1188・1189は大皿である。1188は、口縁端部が輪花状に窪んだもので、外面には唐草文、内面は草花文がある。内面の見込みには手描きの五弁花文、底部外面の見込みには「太明成化年製」の銘があり、焼成時のハリの痕跡が6箇所残る。1189は、外面に唐草文とみられる文様の一部、内面には見込みにある牡丹文を中心に文様が展開している。1190は、外面に花唐草文とみられる文様、内面に花文とみられる文様がある。1191は、型押し技法により花卉状に成形されたもので、内面には文様がある。1192・1193は大皿の破片とみられ、1192の内面には花文とみられる文様の一部、1193の内面には虎文がある。これらは、すべて肥前系の17世紀後半～19世紀前半にかけてのものと考えられる。

1194～1196は、磁器の蓋で鉢に伴うものであ

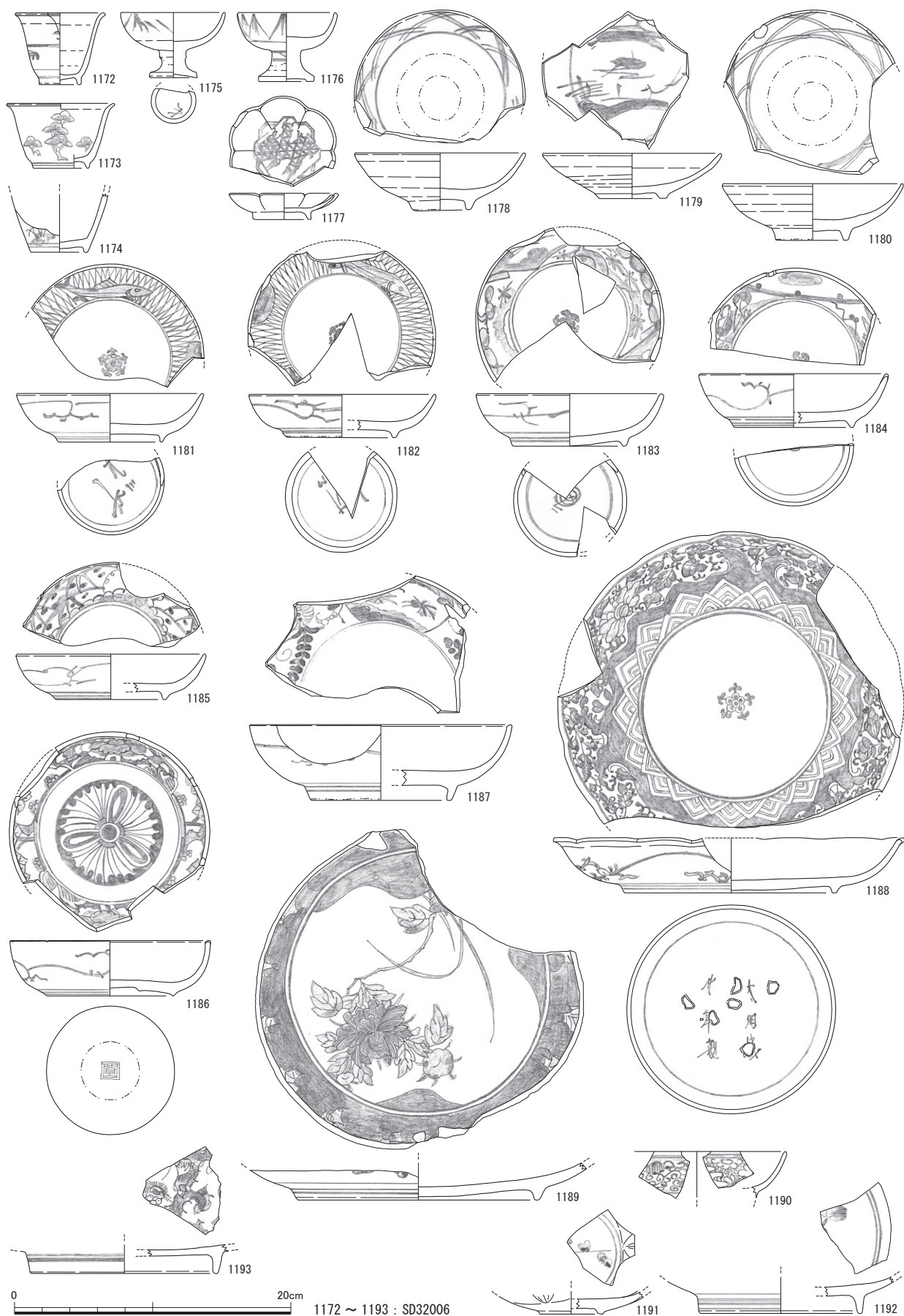
る。1194は、外面に染付で花文とみられる文様が描かれている。1195・1196は中央に柱状の鈕が付くものである。外面には染付で文様が描かれており、1195には圈線文、1196には草花文がある。すべて肥前系の17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。1197は、磁器の鉢である。外面には染付で草花文が描かれている。肥前系とみられ、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。1198は、磁器の水滴である。表面は型押しにより成形された文様の凹凸が表現され、染付により着色されている。1199～1212は、磁器の瓶である。1199～1210の外面には染付で文様が描かれている。1199は、体部が大きく下膨れしているもので、外面には草花文がある。1200～1202は、下膨れした体部のもので、外面には花唐草文がある。1201の外面には松文がある。1202の外面には、圈線のみがある。1203は、体部が縦長にのびたもので、外面には牡丹草文がある。1204の外面には圈線がある。1207・1208は、体部が大きく下膨れしているもので、1207の外面には花文、1208の外面には梅枝文がある。1210は、体部が下膨れしているもので、外面には蛸唐草文がある。1211・1212は、外面に朱色の圈線が施されている。いずれも全て肥前系の17世紀後半～19世紀中頃にかけてのものと考えられる。1213は、磁器の水指である。外面には把手が付いていた痕跡があり、染付の文様の一部が残る。1214～1217は青磁の香炉である。青磁釉が掛かったもので、白い胎土や釉の発色から国産青磁と考えられる。1218は、青磁の仏花瓶である。外面と内面頸部付近の内面まで青磁釉が掛かる。国産青磁と考えられる。1219～1221は、磁器の碗を使用した加工円盤である。高台に沿って打ち欠かれて円形に加工されている。

1222～1227は、白磁の碗である。1222は、口縁端部が外反しているもので、内面には櫛の条線が施されている。福建省系であり、山本編年D期の12世紀中頃～後半のものと考えられる。1223・1224は、口縁端部が外側へ肥厚するものである。福建省系であり、山本編年C期の11世紀後半～12世紀前半のものと考えられる。1225の高台は、兜巾を残す形で削り出され、内面には花文の陰刻がある。福建省系であり、山本編年G期の14世紀初頭～中頃のも



第IV-31 図 出土遺物実測図 31(1:4、1128 は 1:6)





第IV-32 図 出土遺物実測図 32(1:4)



のと考えられる。1226の外面は露胎で、内面に釉が掛かっている。福建省系であり、山本編年G期の14世紀初頭～中頃のものと考えられる。1227の高台は直線的に長くのびたもので、内面には櫛の条線が放射状に施されている。福建省系であり、山本編年D期の12世紀中頃～後半のものと考えられる。1228～1240は、青磁の碗またはその可能性があるものである。1228・1240は、内外面とも無文様またはその可能性が高いものである。1229・1230・1232・1233は、外面に鎬蓮弁文が施されているものである。龍泉窯系であり、山本編年E期～G期の13世紀初頭前後～14世紀中頃にかけてのものと考えられる。1234・1235・1238は、内面に花文または花卉状の陰刻があるものである、14世紀中頃～15世紀中頃にかけてのものと考えられる。1241は、青磁の皿である。器高が低い小型のものとみられる。1242は、青磁の瓶とみられる。1243は、青磁の壺とみられる。内面の一部と外面には釉が掛かっている。龍泉窯系の13世紀頃のものであろうか。1244は、白磁の壺である。体部の肩付近の破片で、外面には耳の貼り付け部分が残っていることから、四耳壺である可能性が高い。山本編年E期の13世紀初頭前後～前半のものと考えられる。1245は、輸入磁器の碗である。淡い発色の染付で文様が描かれており、胎土はくすんだ灰白色である。漳州窯系の青花磁器と考えられる<sup>(29)</sup>。

1246～1249は、土錘である。いずれも外面はナデにより調整されている。1250は、土製のL字状製品である。板状のものがL字に曲がったもので、土師質というよりも瓦質に近い。Lのうち片側が残った破片で、表面はいずれもナデまたは工具ナデで調整されている。1251は、土製の犬形製品である。脚部と尾の部分が欠損している。表面にはナデやユビオサエの痕跡が残り、手づくねで成形されたものである。1252は、土製の人形である。上半身の破片で、手や顔・足は欠損している。表面は型押しされていると考えられる。1253～1254は、軒丸瓦である。1253の瓦当部は、外側に珠文を配し中心部に巴文から構成されている。丸瓦部の凸面はナデ、凹面と瓦当部裏面はナデ及びユビオサエで調整されている。1254は、瓦当部に菊花文が展開する。

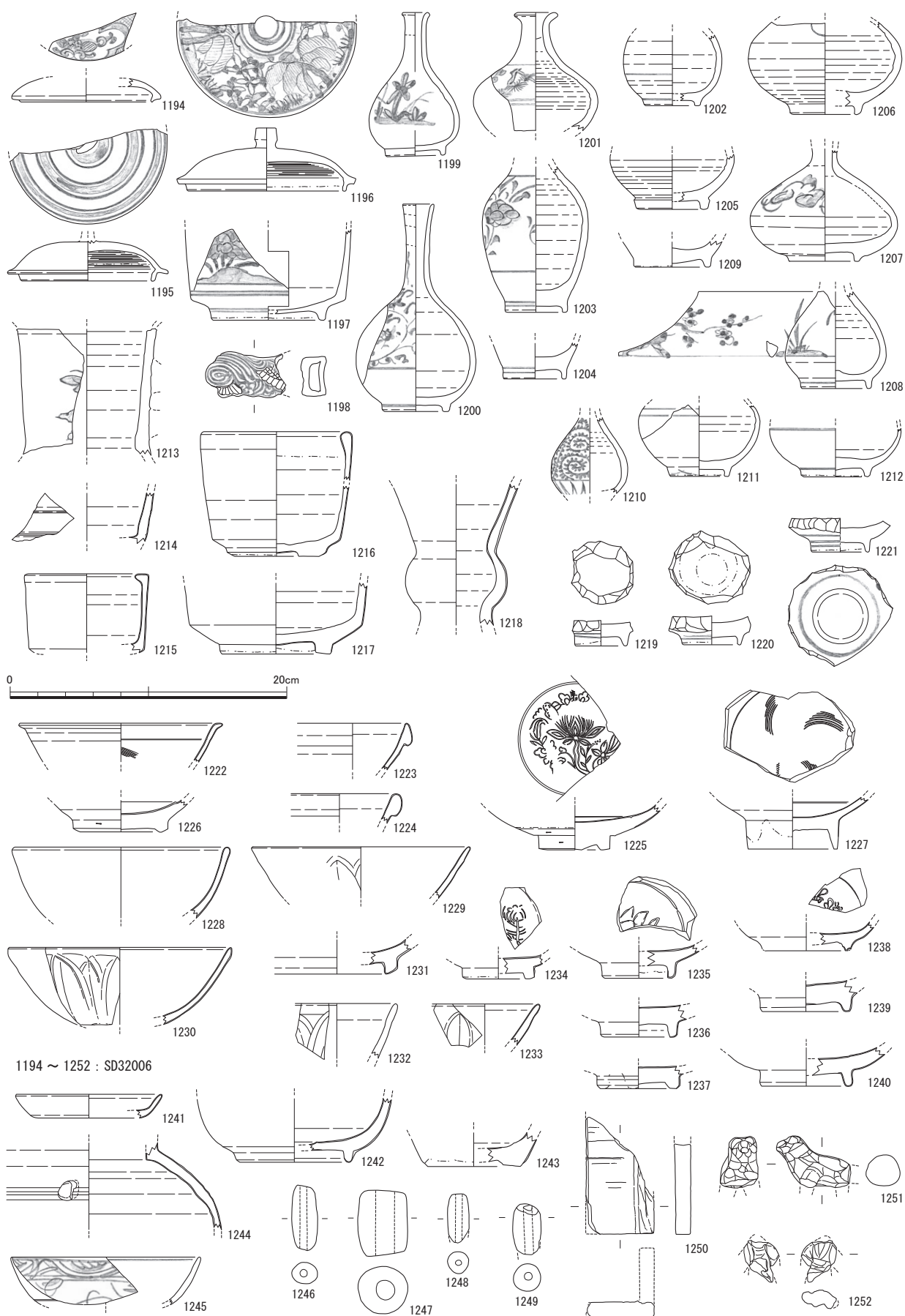
断面では丸瓦部と接合するための沈線状の凹凸が確認できる。1255は、軒平瓦である。瓦当部の中心飾り付近の破片で、唐草文が左右に展開するものと考えられる。

1256・1257は、滑石製の石鍋である。いずれも羽釜形のもので、内外面には鑿による加工痕が残り、内面には使用時の線状の擦痕がみられる。1257の側面には、部分的に打ち欠かれた箇所があることから、二次加工されて温石等に再利用されたものである可能性がある。肥前西彼杵半島産の可能性があり、木戸編年Ⅲ類-bの13世紀代のものと考えられる<sup>(30)</sup>。1258～1260は、砥石である。このうちの1258・1259は軽石製である。いずれも表面は部分的に剥離しているが、線状の擦痕が残る。1261は、敲石である。表面には敲打痕が残る。1262～1264は、石製の円盤状製品である。打ち欠かれて円形に加工され、端部は尖る。1262は両面が加工されており、階段状に剥離している。材質は泥岩系のものと考えられる。1263の材質は砂岩系のものと考えられ、両面には絵の可能性のある墨書がある。1264は両面とも一部に自然面が残る。材質は泥岩系のものと考えられる。これらは、現状で類例が見当たらないため、どのように使われたものか不明だが、削器のような用途のものの可能性が考えられる<sup>(31)</sup>。

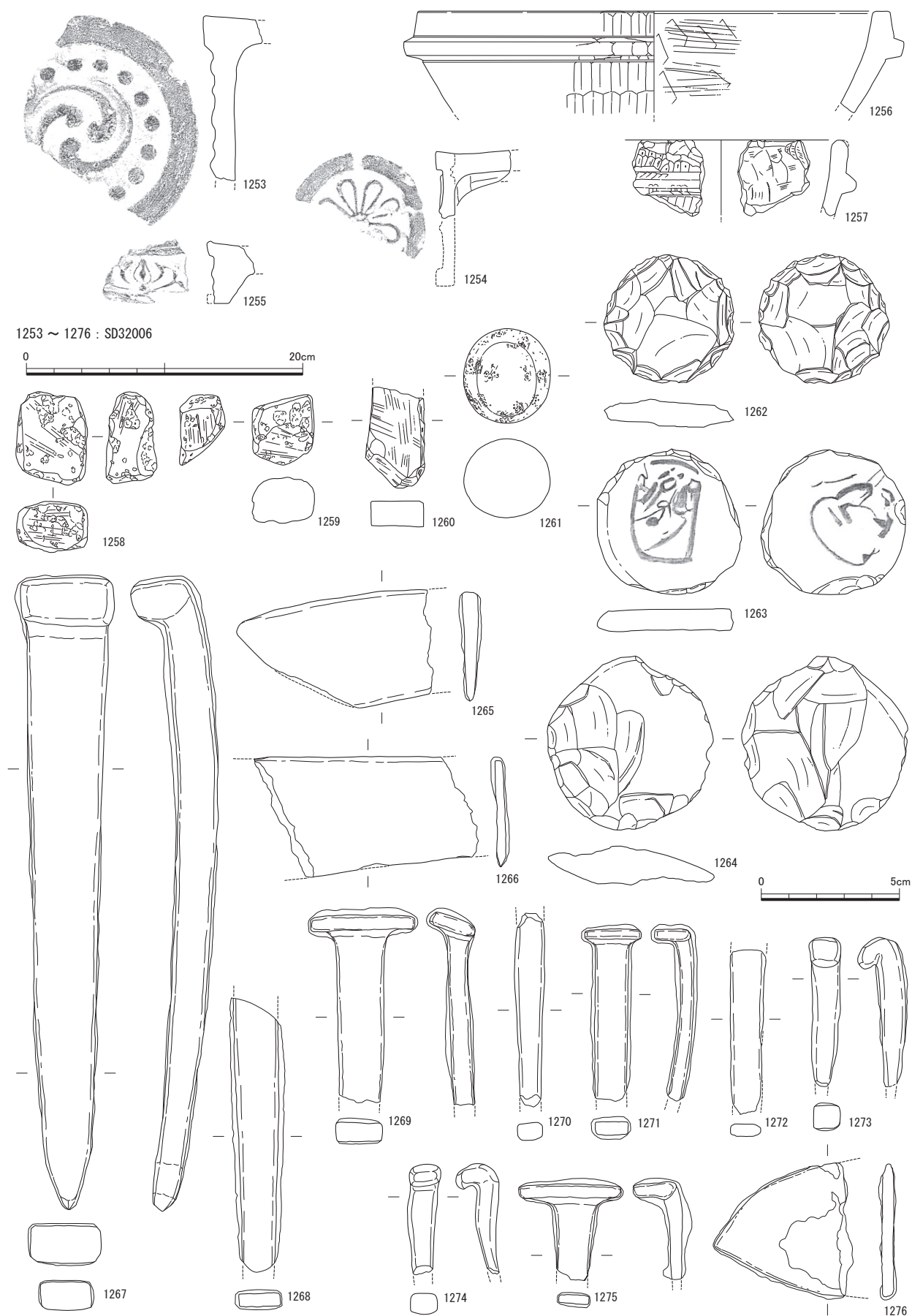
1265・1266は、鉄製の刀状製品である。1265は刀先部分の破片、1266は刀先から茎までの間の破片である。いずれも断面形状から刀状製品と判断した。1267～1275は、鉄製の釘である。1267は大型の釘で完存した状態で出土した。頂部が折れ曲がった折釘で、長さ23.0cm、厚さ1.1～1.5cmを測る。大きさから大型の構造物に用いられたものである可能性が考えられる。1268・1270・1272は頂部と先端が欠損したものである。1269・1271・1273～1275は先端側が欠損したもので、頂部の形状が横に広がるものと広がらないものがある。いずれも断面形状は方形だが、正方形に近いものと長方形に近いものの2つがある。1276は、鉄製の板状製品である。

#### S D 33004 (第Ⅳ-35図)

1278～1284は、土師器の皿である。いずれも椀に近い形状のもので、1278・1282～1284の内面



第IV-33図 出土遺物実測図 33(1:4)



第IV-34図 出土遺物実測図 34(1:4、1262 ~ 1276 は 1:2)

は工具ナデで調整されている。1278・1284の口縁部には煤が付着しており、灯明皿として使用された可能性がある。1285・1286は、土師器の鍋である。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱa期～Ⅱb期の13世紀前半～14世紀後半のものと考えられる。1287～1290は、土師器の羽釜である。1287は南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱb期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。1288～1290は、口縁部は短く直立してのび、鐏の突出が短いものである。1290は鐏が口縁端部のほぼ直下に付いている。体部内面は工具ナデまたはハケメで調整されている。1291は、陶器の山皿である。1292は、陶器の山茶碗である。渥美湖西型3a型式の13世紀前半のものと考えられる。1293は、陶器の卸皿である。内面には格子状に卸目が入り、緑色系の釉が掛かる。瀬戸・美濃製品と考えられる。1294は、陶器の鉢である。常滑製品であり、常滑第2段階5型式の13世紀前半のものと考えられる。1295は、陶器の壺である。口縁端部の両端は突出している。常滑製品であり、常滑第2段階6b型式の13世紀後半のものと考えられる。1296は、陶器の甕である。常滑製品であり、常滑第2段階7型式の14世紀前半のものと考えられる。1297・1298は、青磁の碗である。1297は龍泉窯系のもので、山本編年E期の13世紀前半のものと考えられる。1299は、鉄製の釘である。先端が欠損している。頂部が折れ曲がった折釘である。断面形状は方形である。

#### SD 33006 (第IV-35 図)

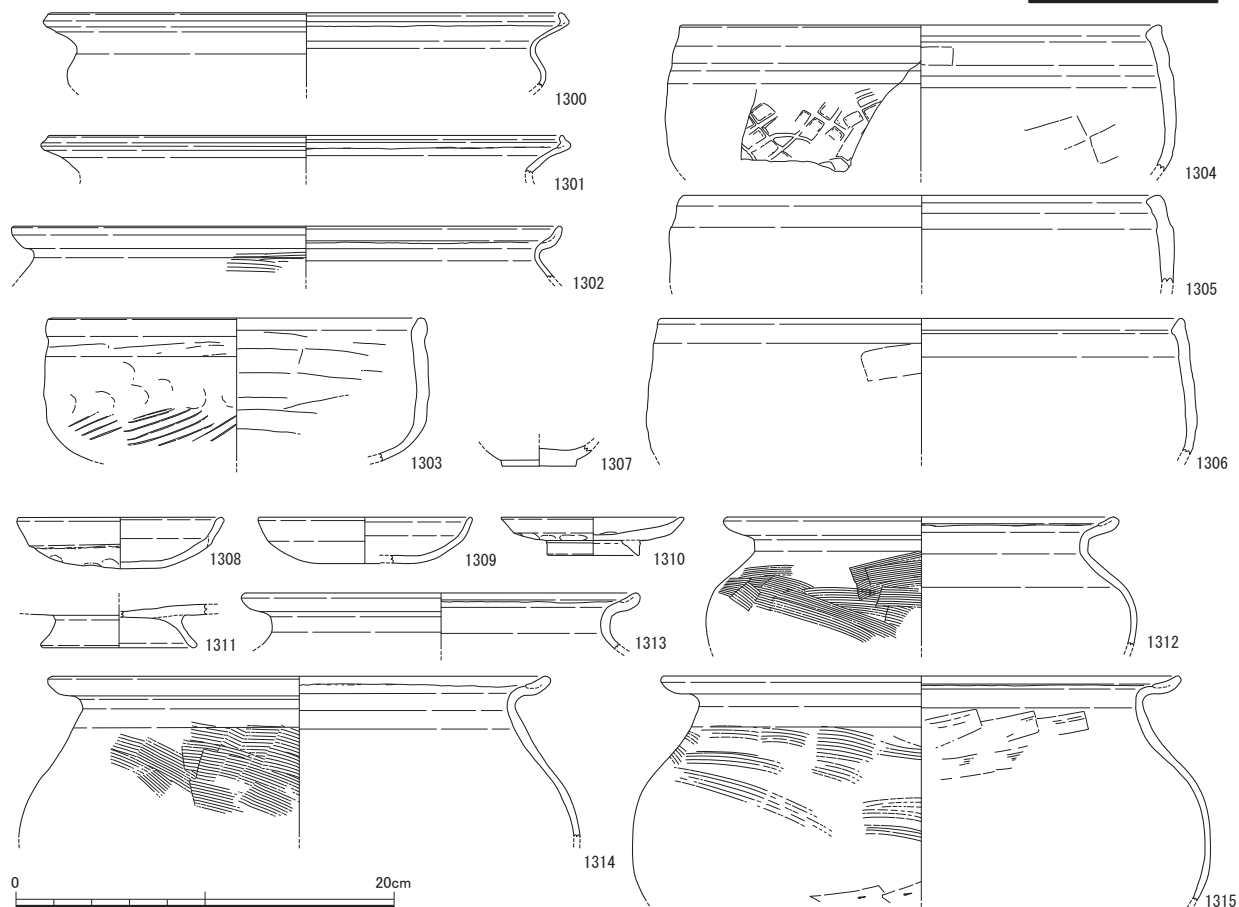
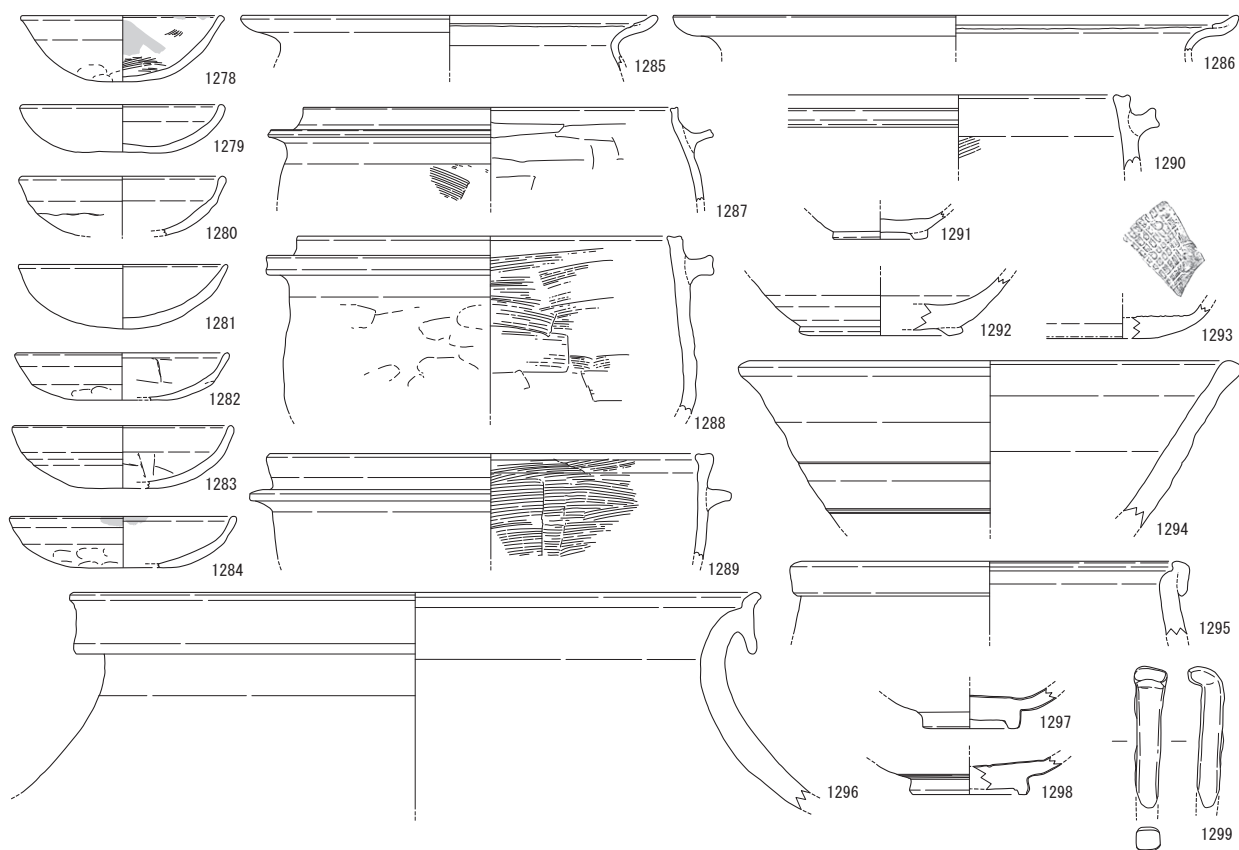
1300～1306は、土師器の鍋である。1300～1302は南伊勢系のものである。1300・1301は口縁端部が摘み上げられたもので、伊藤編年中世Ⅳ期の15世紀後半～16世紀代のものと考えられる。1302は口縁部の粘土が内側に折り返されて、端部が肥厚したもので、伊藤編年中世Ⅱb期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。1303～1306は播磨型のものである。1303の外面には平行タタキ、1304の外面には格子タタキが施され、内面は工具ナデで調整される。いずれも長谷川編年Ⅷ期の16世紀後半～17世紀前半のものと考えられる。1307は、陶器の山皿である。

#### SD 33012 (第IV-35, 36 図)

1308・1309は、土師器の皿である。いずれも椀に近い形状のものだが、1309は器厚が薄いものである。南伊勢系の影響を受けたものの可能性がある。1310・1311は、土師器の台付皿である。1310は器高が低い小型の皿に小さな高台が付くもので、胎土は精良である。体部外面にはユビオサエが顕著に残る。1312～1321は、土師器の鍋である。1312～1321は、南伊勢系のものである。1312～1318は、口縁部の粘土が内側に折り返されて肥厚したもので、伊藤編年中世Ⅱb期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。1319・1320は、伊藤編年中世Ⅳb期の15世紀末～16世紀前半のものと考えられる。1321は、播磨型のもので、長谷川編年Ⅷ期の16世紀後半～17世紀前半のものと考えられる。1322は、土師器の羽釜である。口縁部が短く直立し、鐏の突出も短いものである。1323は、土師器の羽釜または羽釜形の鍋である。口縁部と鐏が一連でつながっており、口縁端部は丸みをおびた水平面を持つ。阿波や讃岐地域の羽釜形の鍋の形状に似ている<sup>(32)</sup>。1324は、土師器の茶釜の可能性のあるものである。口縁部は直立ぎみに外反し、端部は内側に屈曲している。1325は、瓦器の皿である。炭素の吸着が弱く焼成も甘いため、土師器に似た黄色となっている。このような焼成となる瓦器は、泉南地域で見られるものに類似する<sup>(33)</sup>。口縁端部内面にはミガキが施され、底部外面はユビオサエによる指頭圧痕や粘土紐の接合痕が顕著に残る。12世紀後半～13世紀代のものと考えられる。

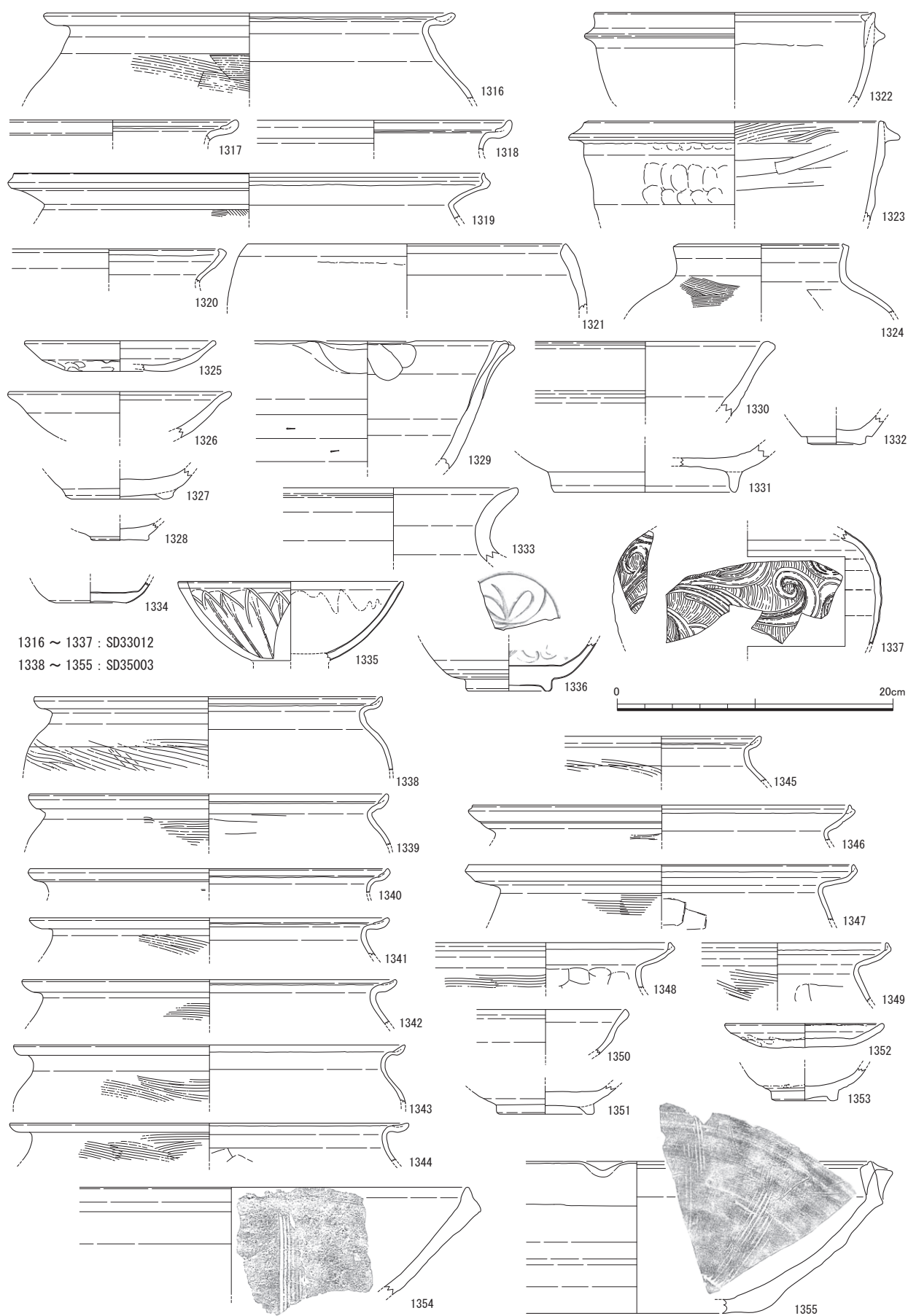
1326・1327は、陶器の山茶碗である。1326は尾張型、1327は渥美湖西型とみられ、12世紀後半～13世紀後半のものと考えられる。1328は、陶器の山皿である。渥美湖西型とみられ、12世紀後半～13世紀前半のものと考えられる。1329は、陶器の片口鉢である。口縁部は外反し、上端は水平な面を成して浅い沈線がめぐる。1330・1331は、陶器の鉢である。1332は、陶器の天目茶碗である。外面は露胎となり、内面には鉄釉が掛かっている。瀬戸・美濃製品と考えられる。1333は、陶器の甕である。口縁部は大きく外反し、端部は丸く収められている。渥美製品であり、渥美2b型式の12世紀後半～13世紀前半のものと考えられる。



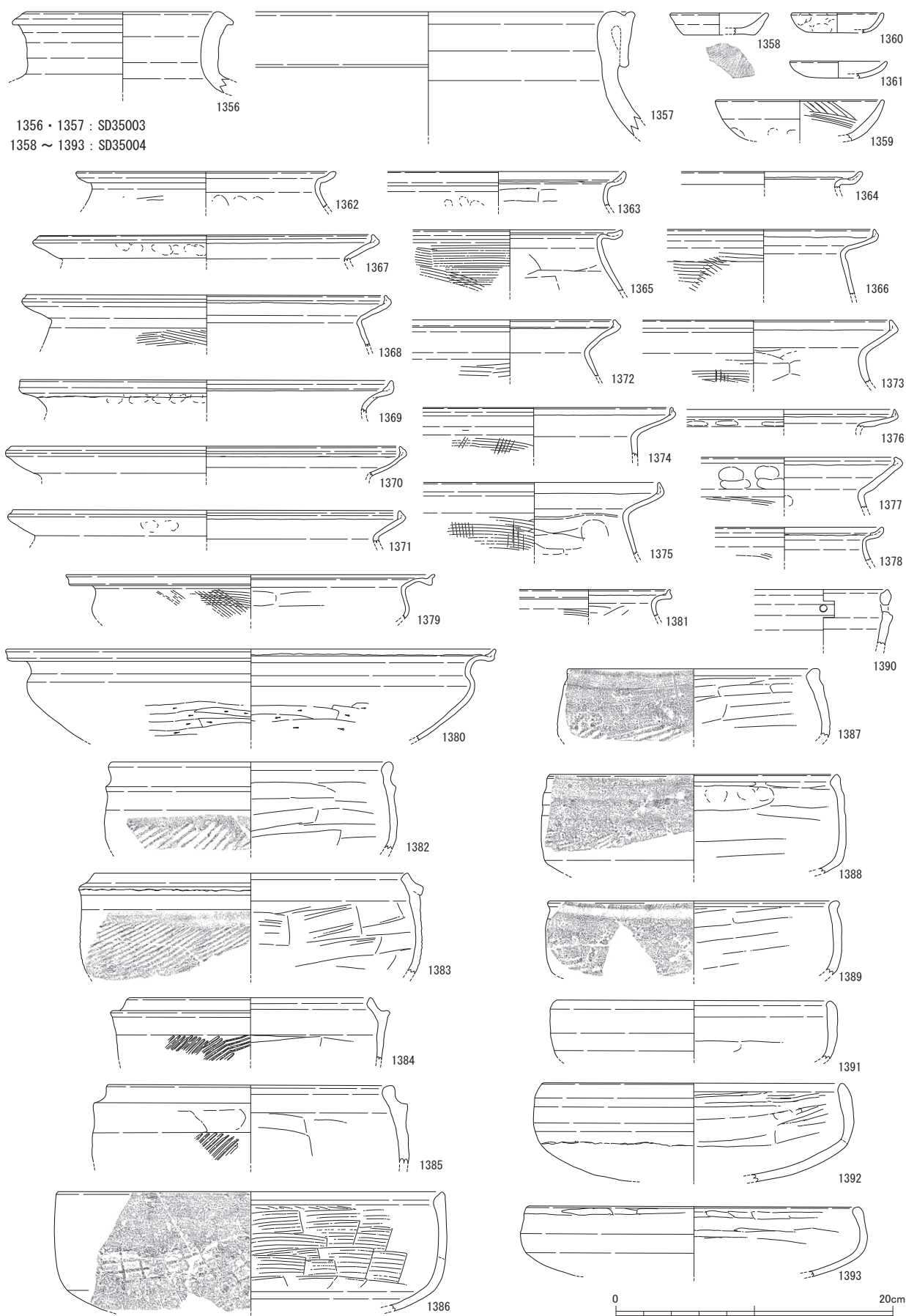


第IV-35 図 出土遺物実測図 35(1:4、1299 は 1:2)





第IV-36 図 出土遺物実測図 36(1:4)



第IV -37 図 出土遺物実測図 37(1:4)

1334 は、白磁の皿である。1335・1336 は、青磁の碗である。1335 の体部外面には鎬蓮弁文、1336 の内面の見込みには刻劃文が施されている。いずれも龍泉窯系とみられ、山本編年D期～F期の12世紀前半～14世紀前半のものと考えられる。1337 は、青白磁の梅瓶（メイピン）である。体部の破片で肩に近い部分のものと考えられる。図上では、同一品とみられる破片を復元的に合成して表現した。器厚が薄く、内面にはロクロ目が残る。外面には鎬渦花文が配され、櫛による条線で充填されている。青白磁の優品であり、同様の梅瓶は熊野川の対岸にある新宮下本町遺跡（和歌山県新宮市）でも出土している<sup>(34)</sup>。

#### SD 35003（第IV-36, 37 図）

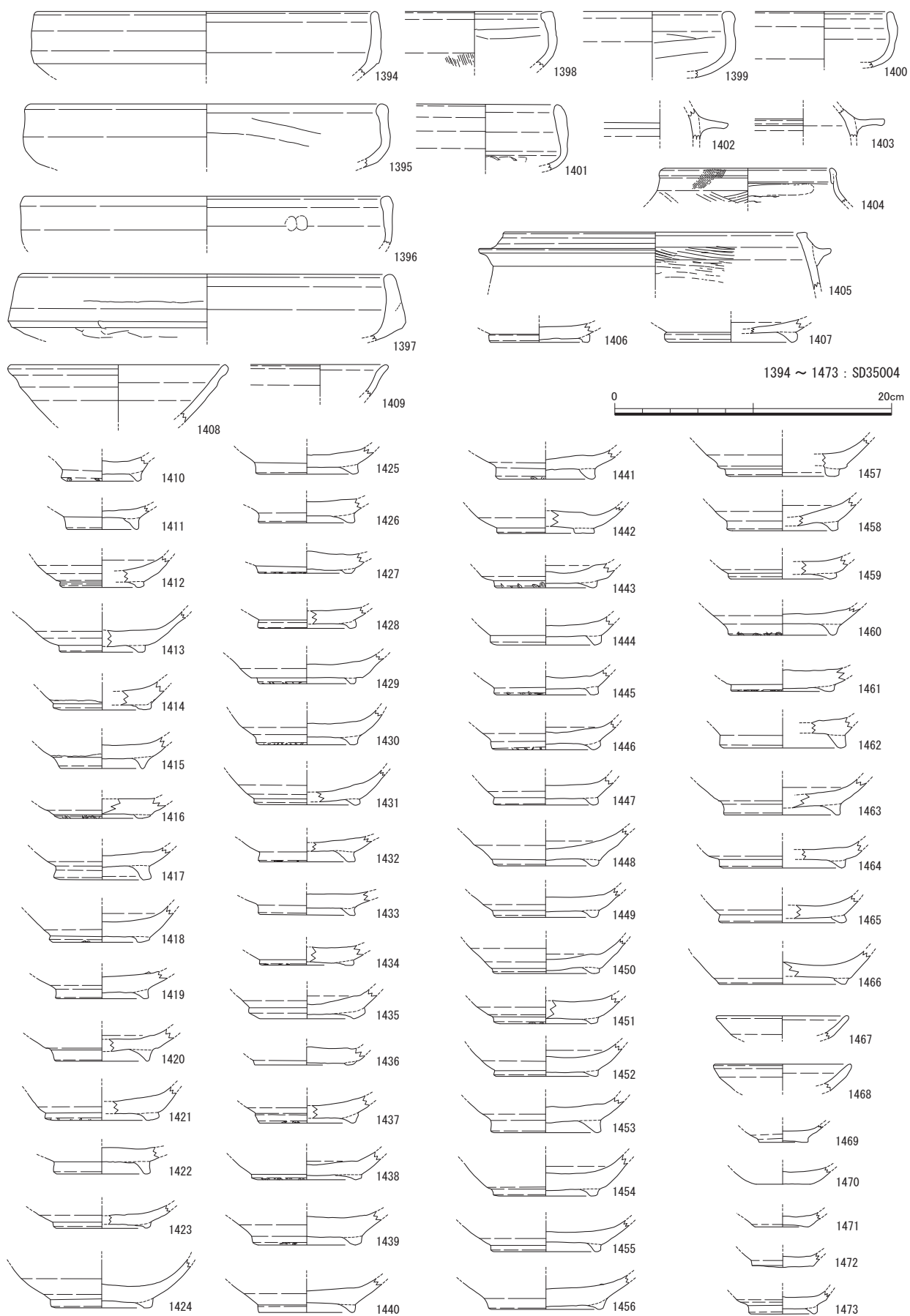
1338 ～ 1349 は、土師器の鍋である。すべて南伊勢系のものである。1338 ～ 1345 は、口縁端部の粘土が内側に折り返されて肥厚するもので、伊藤編年中世Ⅱb期～Ⅲa期の13世紀後半～14世紀後半にかけてのものと考えられる。1346 ～ 1349 は、口縁端部が摘み上げられたもので、伊藤編年中世Ⅳa期～Ⅳb期の15世紀後半～16世紀前半のものと考えられる。1348 の外面は、条線が太くて粗いハケメで調整されている。

1350・1351 は、陶器の山茶碗である。1350 は尾張型、1351 は渥美湖西型とみられ、13世紀前半～後半のものと考えられる。1352 は、陶器の皿である。口縁部内外面に緑色の釉が掛かるもので、器高は低い。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸後期様式Ⅲ期の15世紀前半のものと考えられる。1353 は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品とみられる。1354・1355 は、陶器の播鉢である。いずれも備前製品であり、内面の播目は1単位ごとの間隔が広い。1355 には片口となる窪みがある。重根編年ⅣB期～ⅤA期の15世紀前半～16世紀後半にかけてのものと考えられる。1356 は、陶器の壺である。口縁部は外反し、端部は下端が小さく突出している。渥美製品であり、渥美2b型式の12世紀後半～13世紀前半のものと考えられる。1357 は、陶器の甕である。口縁部は外側に大きく折り返され、端部両端は突出して丸く収められている。常滑製品であり、常滑第3段階9型式の15世紀前半のものと考えられる。

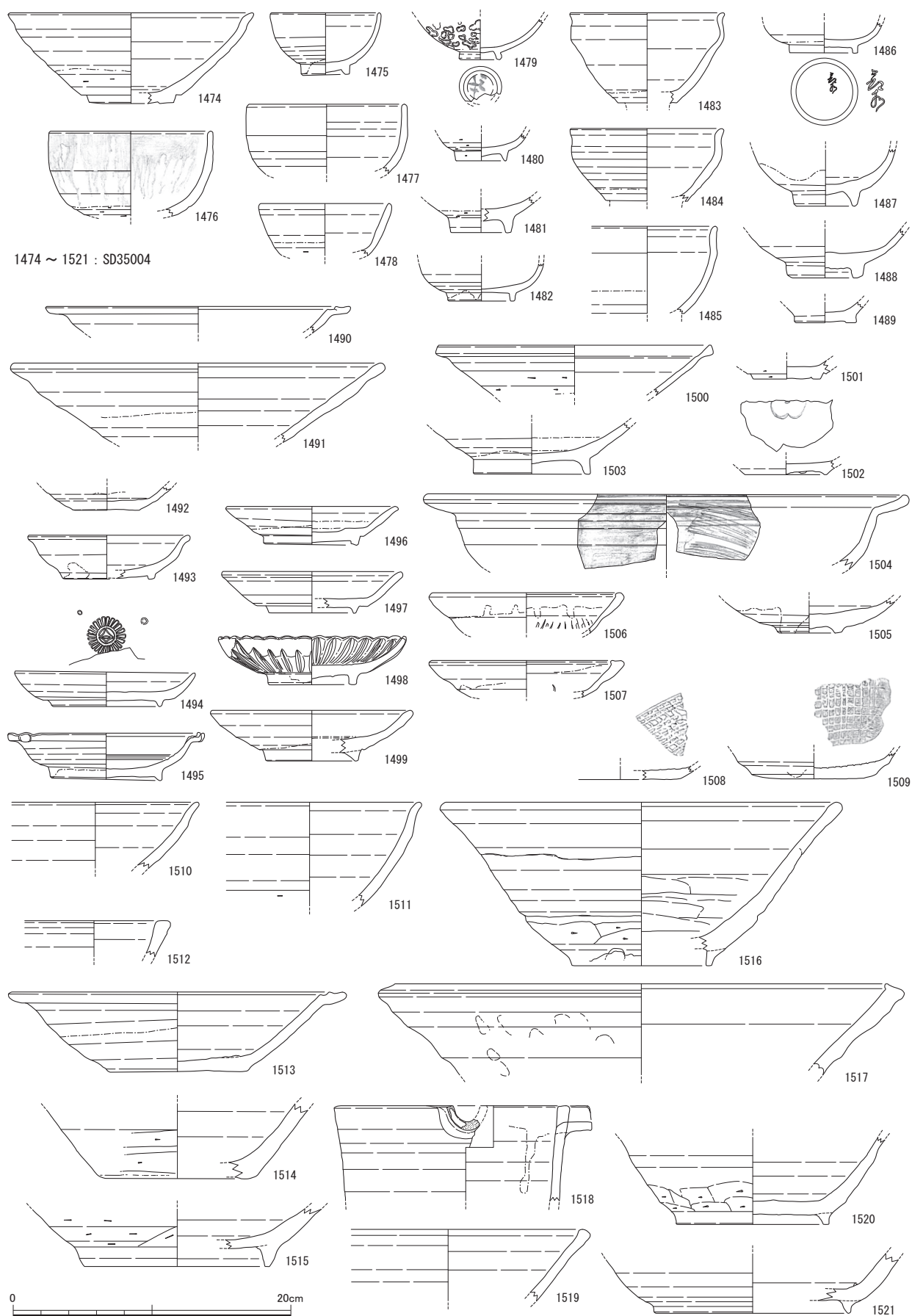
#### SD 35004（第IV-37 ～ 43 図）

1358 ～ 1361 は、土師器の皿である。1358 は平底で、口径・器高ともに小型のものである。底部には糸切痕が残る。1359 は椀に近い形状のもので、内面は工具ナデで調整されており、口縁端部付近まで及んでいる。1360・1361 は南伊勢系のものである。器厚が薄く、小型のものでナデ及びユビオサエで調整されている。1362 ～ 1381 は南伊勢系の鍋と焙烙である。1362 ～ 1378 は鍋である。1362 ～ 1366・1378 は、口縁端部の粘土が内側に折り返されて肥厚するもので、伊藤編年中世Ⅱb期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。1365 の外面に施されたハケメは、頸部屈曲付近まで及んでいる。1367 ～ 1377 は、口縁端部が摘み上げられているもので、伊藤編年中世Ⅳa期～Ⅳb期の15世紀後半～16世紀前半のものと考えられる。1368・1373 ～ 1375 の外面は、粗いハケメで調整されている。1379 ～ 1381 は、焙烙である。口縁部は外側に大きく屈曲し、口縁端部は上方へ摘み上げられている。伊藤編年中世Ⅳc期の16世紀後半～17世紀初頭前後のものと考えられる。

1382 ～ 1401 は、播磨型または大坂・明石系の土師器の鍋と焙烙である。1382 ～ 1390 は、播磨型の鍋である。1382 ～ 1385 は、羽釜形のもので口縁部の直下に鰐状の突出がある。外面は平行タタキ、内面は工具ナデまたはナデで調整されている。長谷川編年Ⅶ期の16世紀前半～後半のものと考えられる。1386 ～ 1390 は、羽釜形にあった鰐状の突出が消失したものである。外面は格子タタキまたは平行タタキ、内面は工具ナデまたはナデで調整されている。1390 には口縁端部の直下に円形の穿孔がある。長谷川編年Ⅷ期の16世紀後半～17世紀前半のものと考えられる。1391 ～ 1401 は、大坂・明石系の焙烙である。口縁部に向かって内湾しながらのびるものと、立ち上がりから直線的にのびるものがある。1398 は口縁部の器厚が厚いものである。内面は工具ナデで調整されたものがある。これら大坂・明石系のものは、積山編年4段階～12段階の17世紀中頃～18世紀末前後にかけてのものと考えられる。1402・1403 は、土師器の羽釜である。いずれも鰐の破片である。1404 は、土師器の茶釜とみられる。



第IV-38図 出土遺物実測図 38(1:4)



第IV-39 図 出土遺物実測図 39(1:4)



1405 は、瓦質土器の羽釜である。口縁端部は水平な面を持ち、鰐の端部は丸く収められている。内面はハケメで調整されている。

1406・1407 は、灰釉陶器の碗である。1406 の高台端部はシャープに作り出されている。1406 は K-14 号窯式期の 9 世紀前半のもの、1407 は H-72 号窯式または百代寺窯式期の 10 世紀後半以降のものと考えられる。1408～1466 は、陶器の山茶碗である。12 世紀前半～14 世紀初頭前後にかけての尾張型または渥美湖西型のものと考えられる。1467～1473 は、陶器の山皿である。尾張型及び渥美湖西型の 12 世紀後半～13 世紀前半のものと考えられる。1474～1489 は、陶器の碗である。1474 は、口縁部に向かって直線的に外反しながらのびるもので、瀬戸・美濃製品の平碗である。古瀬戸後期様式Ⅳ期古段階の 15 世紀中頃～後半のものと考えられる。1475・1480 は、瀬戸・美濃製品の小碗である。登窯第 2 段階第 7 小期～第 3 段階第 9 小期の 18 世紀中頃前後～19 世紀前半のものと考えられる。1476・1477 は、瀬戸・美濃製品の丸碗である。登窯第 2 段階第 7 小期の 18 世紀中頃前後のものと考えられる。1479 の底部外面の見込みには、墨書で文字が記されている。1483～1485 は、瀬戸・美濃製品の天目茶碗である。1485 は大窯第 3 段階後半の 16 世紀後半、1483・1484 は登窯第 1 段階第 4 小期～登窯第 2 段階第 6 小期の 17 世紀～18 世紀前半のものと考えられる。1486 は肥前系の京焼風陶器であり、底部外面見込みに「清水」の印刻がある<sup>(35)</sup>。1481・1482・1487～1489 は、肥前系とみられ、17 世紀後半～18 世紀後半のものと考えられる。

1490～1505・1513 は、陶器の皿である。1490～1503 は瀬戸・美濃製品、1504・1505 は肥前系のものと考えられる。1490・1513 は折縁深皿である。1490 は古瀬戸中期様式Ⅰ期の 14 世紀後半、1513 は古瀬戸後期様式Ⅲ期の 15 世紀前半のものと考えられる。1495 の口縁端部には輪花状の窪みがあり、口縁部内面の屈曲部分と底部からの立ち上がり部分には、圏線状の沈線がめぐる。大窯第 4 段階の 16 世紀末前後～17 世紀初頭のものと考えられる。1491 は口径が大きい直縁大皿であり、内外面には浅黄色の釉が掛かっている。古瀬戸後期様式Ⅳ期古

段階の 15 世紀中頃前後のものと考えられる。1492 は、緑釉小皿である。古瀬戸後期様式期の 14 世紀後半～15 世紀後半にかけてのものと考えられる。1493 は、端反皿である。底部外面の見込みには輪トチの痕跡が残る。大窯第 2 段階の 16 世紀前半～中頃前後のものと考えられる。1494・1498 は、菊皿である。1494 は、底部内面の見込みに菊花文の印刻が施されており、大窯第 2 段階後半の 16 世紀中頃前後のものと考えられる。1498 の内面には菊花文が型押しされており、外面は削ぎで花卉が表現され、口縁端部はヘラで切り込まれて波状になっている。登窯第 1 段階第 4 小期の 17 世紀後半のものと考えられる。1496・1499・1500・1503 は、輪禿皿である。登窯第 1 段階第 4 小期～第 3 段階第 8 小期の 17 世紀後半～18 世紀後半のものと考えられる。1497 は、稜皿である。登窯第 1 段階第 3 小期の 17 世紀中頃前後～後半のものと考えられる。1502 は、丸皿である。1504 の内面には、刷毛目文様が施されている。1505 の内面には砂目が残り、高台は低くて兜巾がみられる。17 世紀後半～18 世紀後半にかけてのものと考えられる。1506～1509 は、陶器の卸皿である。いずれも瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸中期様式Ⅲ期～後期様式期の 14 世紀前半～後半のものと考えられる。

1510～1512・1514～1521 は、陶器の鉢である。このうち 1516・1518～1521 は、片口鉢である。1510・1511・1515 は渥美製品であり、渥美 1 b～2 b 型式の 12 世紀後半～13 世紀前半のものと考えられる。1516・1517・1520 は常滑製品であり、常滑第 2 段階 5 型式～第 3 段階 10 型式の 13 世紀前半～15 世紀後半のものと考えられる。1518 は、瀬戸・美濃製品であり、登窯第 1 段階第 3 小期の 17 世紀中頃前後のものと考えられる。1521 は、尾張型のものと考えられる。1522～1548 は、陶器の擂鉢である。1522～1536 は、備前製品またはその可能性があるものである。1522・1523・1527 の口縁端部は、両端が小さく突出して外傾面を持つもので、重根編年ⅣA期の 14 世紀中頃～15 世紀前半のものと考えられる。1526 には舌状の片口を持ち、外面の一部には工具ナデが施されている。1524～1526・1528 は、口縁端部の両端が突出して外傾面を持つ



第IV-40 図 出土遺物実測図 40(1:4)

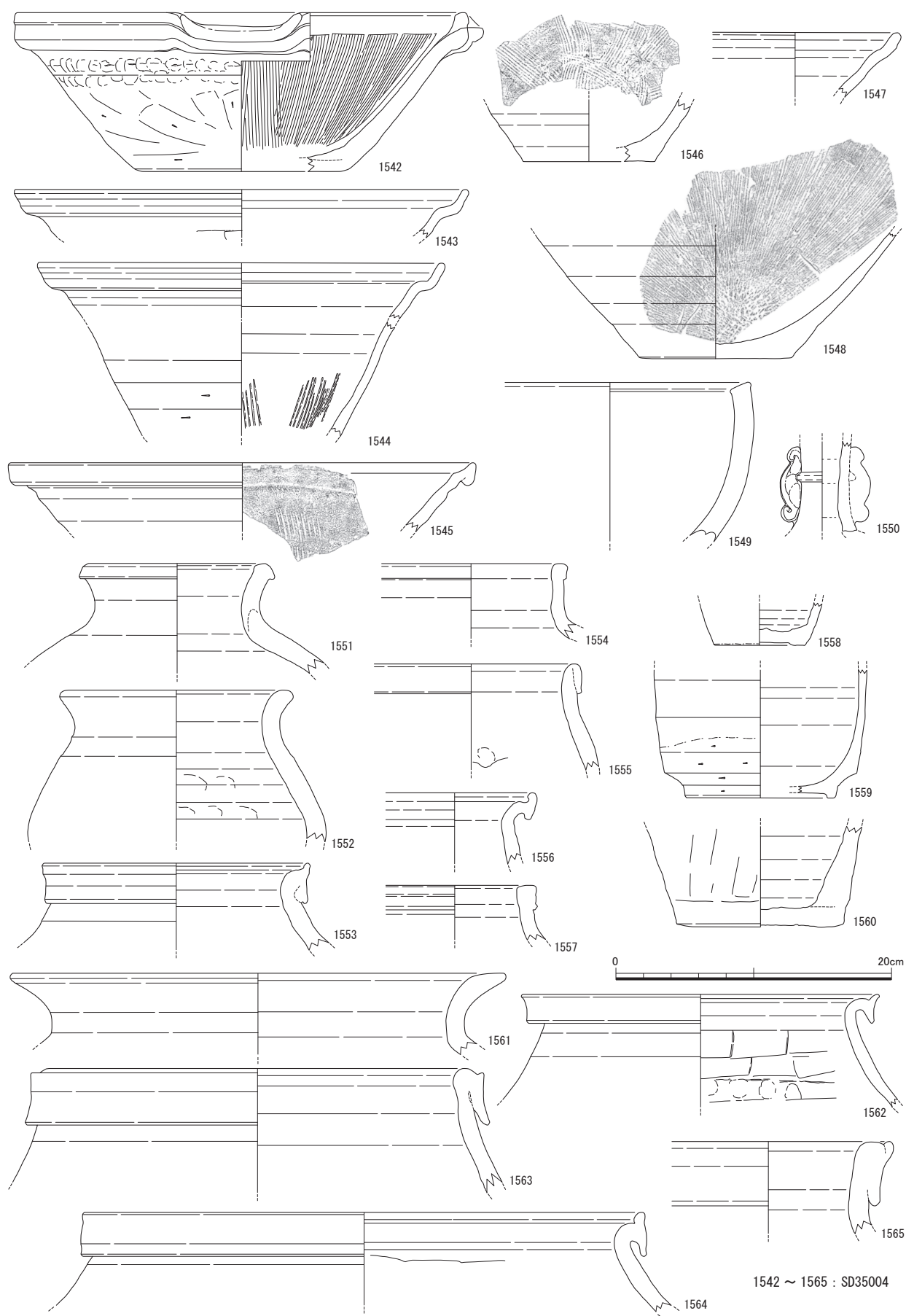
ものである。1528・1529 は、口縁部が上方へ大きく拡張しており、上端は小さく玉縁状に膨らむ。播目と口縁部の境には強いロクロナデによる段がある。重根編年ⅣB期～ⅤA期の15世紀末～16世紀後半のものと考えられる。1530・1531の口縁端部は丸く収められて内側は段をなし、外傾面には2～3条の沈線がめぐる。乗岡編年近世1期の16世紀後半～17世紀初頭前後のものと考えられる。1532～1534 は、乗岡編年近世2～4期の17世紀前半～18世紀中頃のものと考えられる。1537～1540 は、堺・明石系のものである。1540の口縁端部は上端が突出している。端部の内側に1条の深い沈線、外傾面に2条の沈線がめぐる。内面の播目は各单位が間隔を空けず放射状に施されている。稲原編年Ⅰ～Ⅰ類の18世紀前半～19世紀前半のものと考えられる。1541・1543～1548 は、瀬戸・美濃製品またはその可能性があるものである。1541 は、口縁端部の内面に突線がめぐり、内面にある播目は放射状に施されて、体部中位までのびている。古瀬戸後期様式Ⅳ期古段階の15世紀中頃前後のものと考えられる。1543～1545・1547・1548 は、登窯第1段階第4小期～登窯第3段階第8小期の17世紀後半～18世紀初頭前後のものと考えられる。

1549 は、陶器の火鉢である。口縁端部は内傾面を持つ。常滑製品の赤物であり、16世紀後半～17世紀前半のものと考えられる。1550 は、陶器の花瓶である。頸部の外面には蕨手状の耳が付く。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸中期様式Ⅰ期～Ⅱ期の14世紀前半のものと考えられる。1551～1557・1560 は、陶器の壺または徳利の可能性があるものである。1551 は、口縁端部の両端が小さく突出し、先端は丸く収められている。丹波または越前製品であろうか<sup>(36)</sup>。1552 は、体部の肩の張りが弱いもので、16世紀後半以降の備前製品の可能性がある。1553～1557 は常滑製品であり、常滑第2段階6b型式～第3段階12型式の13世紀後半～16世紀後半にかけてのものと考えられる。1558・1559 は瀬戸・美濃製品の可能性があるものである。1561～1567 は、陶器の甕である。1561 は渥美製品であり、渥美2b型式の13世紀初頭前後のものと考えられる。1562～1567 は常滑製品またはその可能性があるも

のである。常滑第2段階7型式～常滑第3段階10型式の14世紀前半～15世紀後半にかけてのものと考えられる。1568 は、陶器の加工円盤である。山茶碗の底部を打ち欠いて作られており、片面には高台が残る。

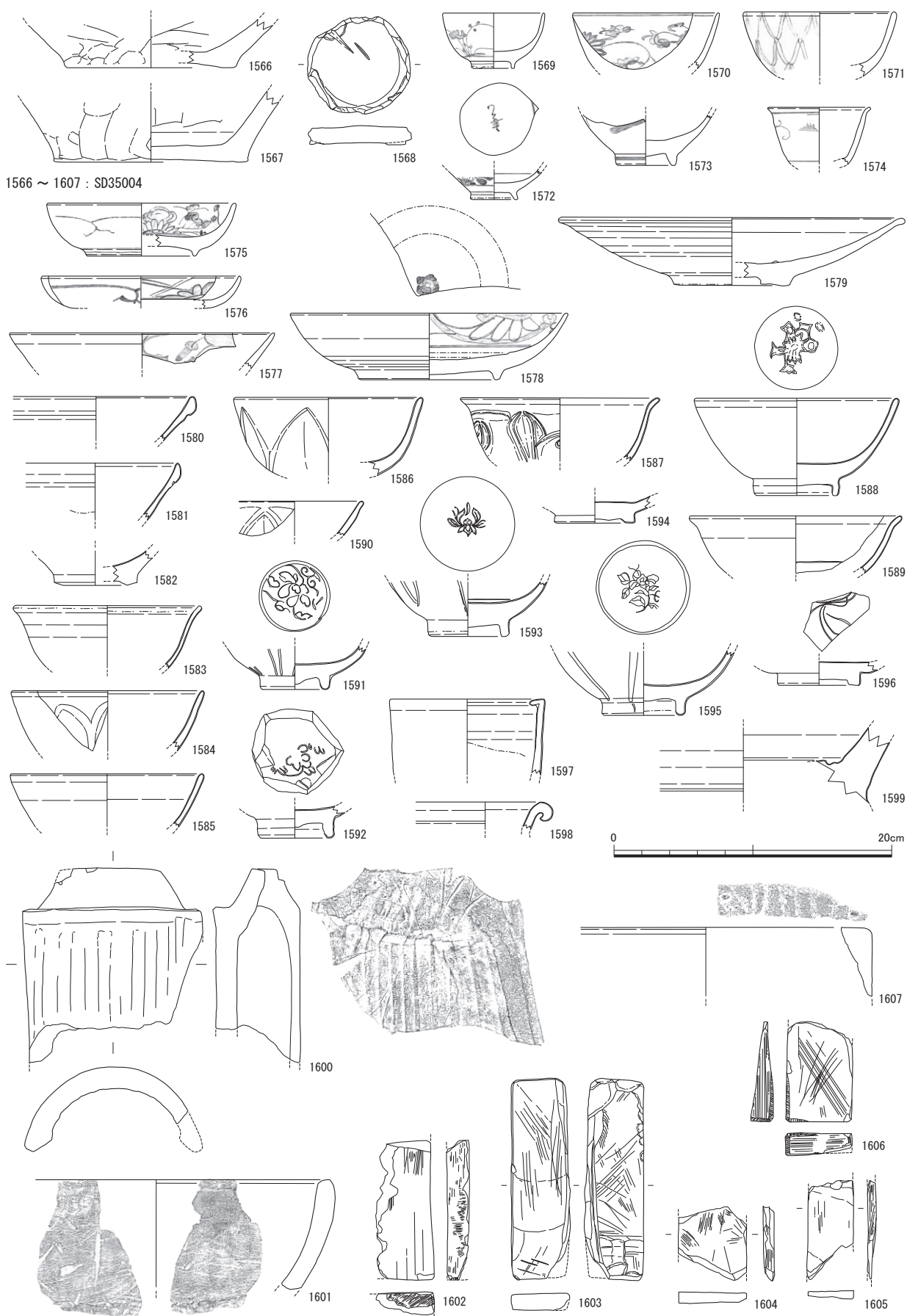
1569～1572 は、磁器の碗である。いずれも染付で文様などが描かれている。1569の外面には草花文、1570の外面には草花文と菊文、1571の外面には三段の網目文、1572の底部内面の見込みには「寿」とみられる崩れた文字がある。1573 は、碗または瓶で外面には文様などが描かれている。いずれも肥前系で、17世紀末～18世紀後半のものと考えられる。1574 は、磁器の小坏である。肥前系とみられ、17世紀後半～18世紀前半のものと考えられる。1575～1579 は、磁器の皿である。1579 以外には染付で文様などが描かれている。1575の外面には唐草文と内面には草花文、1576の外面には唐草文と内面には花文、1578の内面には菊花とみられる花文と見込みにコンニャク印判の五弁花文がある。1579の底部内面には、蛇ノ目釉剥ぎの範囲がある。いずれも肥前系であり、17世紀末～18世紀後半にかけてのものと考えられる。

1580～1582 は、白磁の碗である。1580・1581の口縁端部は玉縁状に肥厚する。福建省系とみられ、山本編年B期～C期の10世紀後半～12世紀前半にかけてのものと考えられる。1583～1596 は、青磁の碗である。1584・1586・1587・1590・1591・1593の外面には鎬蓮弁文があり、それ以外は無文様である。1588・1591～1593・1595・1596の内面の見込みには花文などの陰刻がある。1586・1593の鎬蓮弁文は1つの蓮弁が大きいもので、1591は細蓮弁文あるいはそれが退化した縦線で表現されている。いずれも龍泉窯系のものとみられ、山本編年F期～Ⅵ類の13世紀初頭～16世紀前半にかけてのものと考えられる。1597 は、青磁の香炉である。口縁部は内側へ屈曲して端部は丸い。1598 は、白磁の壺である。口縁部は外側へ折り曲げられて蕨手状になる。四耳壺の可能性がある。1599 は、青磁の壺である。底部から体部へ立ち上がる部分の破片で、器厚が厚い。内面にはロクロ目の凹凸が顕著にみられ、内外面ともに釉が掛かる。龍泉窯系の大型壺の優品



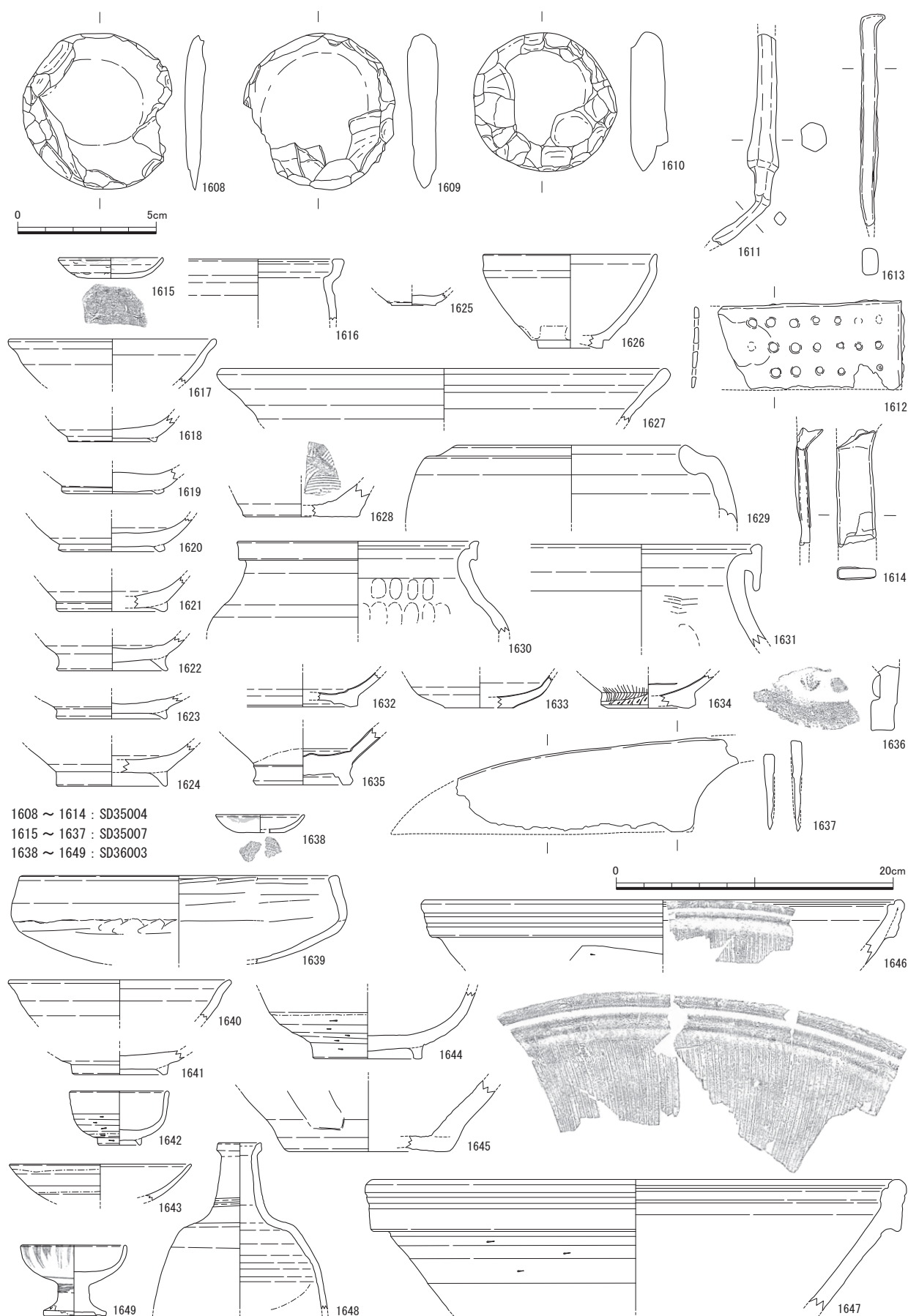
第IV-41 図 出土遺物実測図 41(1:4)





第IV-42 図 出土遺物実測図 42(1:4)





第IV-43 図 出土遺物実測図 43 (1:4、1608 ~ 1614・1637 は 1:2)

である可能性がある。

1600 は、丸瓦である。玉縁部を含む破片で、凸面には縦方向のナデ、凹面には棒状圧痕が残る。各端面は面取りされ、一部は面取り後にナデで整えられている。1601 は、滑石製の石鍋である。口縁部の可能性がある破片だが、下方も加工されているため断定できない。内外面ともに平滑で、加工痕または使用時の擦痕が残る。肥前西彼杵半島産の可能性がある<sup>(37)</sup>。1602 ～ 1606 は、砥石である。このうち 1603 はほぼ完存したものである。表面には使用時の擦痕が残る。1607 は、石製の礪臼である。上面に礪目が施されている。1608 ～ 1610 は、石製の円盤状製品である。円形に加工されたもので、端部は打ち欠かれて尖っている。片面は加工が表面全体に及んでいるが、もう一方の面は端部以外が自然面となる。いずれも材質は泥岩系のものと考えられる。現状で類例が見当たらないため、どのように使われたものか不明だが、削器のようなものである可能性が考えられる<sup>(38)</sup>。

1611 は、鉄鏝である。鏝身部の断面形状が丸に近い多角形状をしていることから、丸根式であろうか。時期は 14 世紀以降の可能性がある<sup>(39)</sup>。1612 は、鉄製の小札である。径 2 ～ 3 mm の孔が 16 ～ 19 箇所確認できる。一枚に 3 列で孔が配されていることから、三ツ目札と考えられる<sup>(40)</sup>。1613 は、鉄製の釘である。いずれも断面形状は方形で、頂部が折れ曲がった折釘である。1614 は、湾曲する側面があることから、鉄鏝の可能性も考えられる。

#### S D 35007 (第Ⅳ -43 図)

1615 は、土師器の皿である。外面には糸切痕が残り、内外面ともにクロロナデで調整されている。内面全体と口縁部外面には透明釉が掛かり、口縁端部には煤が付着している。大坂系のもので、積山編年 10 段階以降の 18 世紀中頃以降のものと考えられる。1616 は、土師器の鍋である。口縁部は受口状で、端部上端は面を持つ。鉄鍋を模倣したものと考えられ、外面には煤が付着している。

1617 ～ 1624 は、陶器の山茶碗である。1619 ～ 1622・1624 は、渥美湖西型、1617・1618・1623 は尾張型のものと考えられ、12 世紀中頃前後～ 13 世紀後半のものと考えられる。1625 は、陶器の山皿

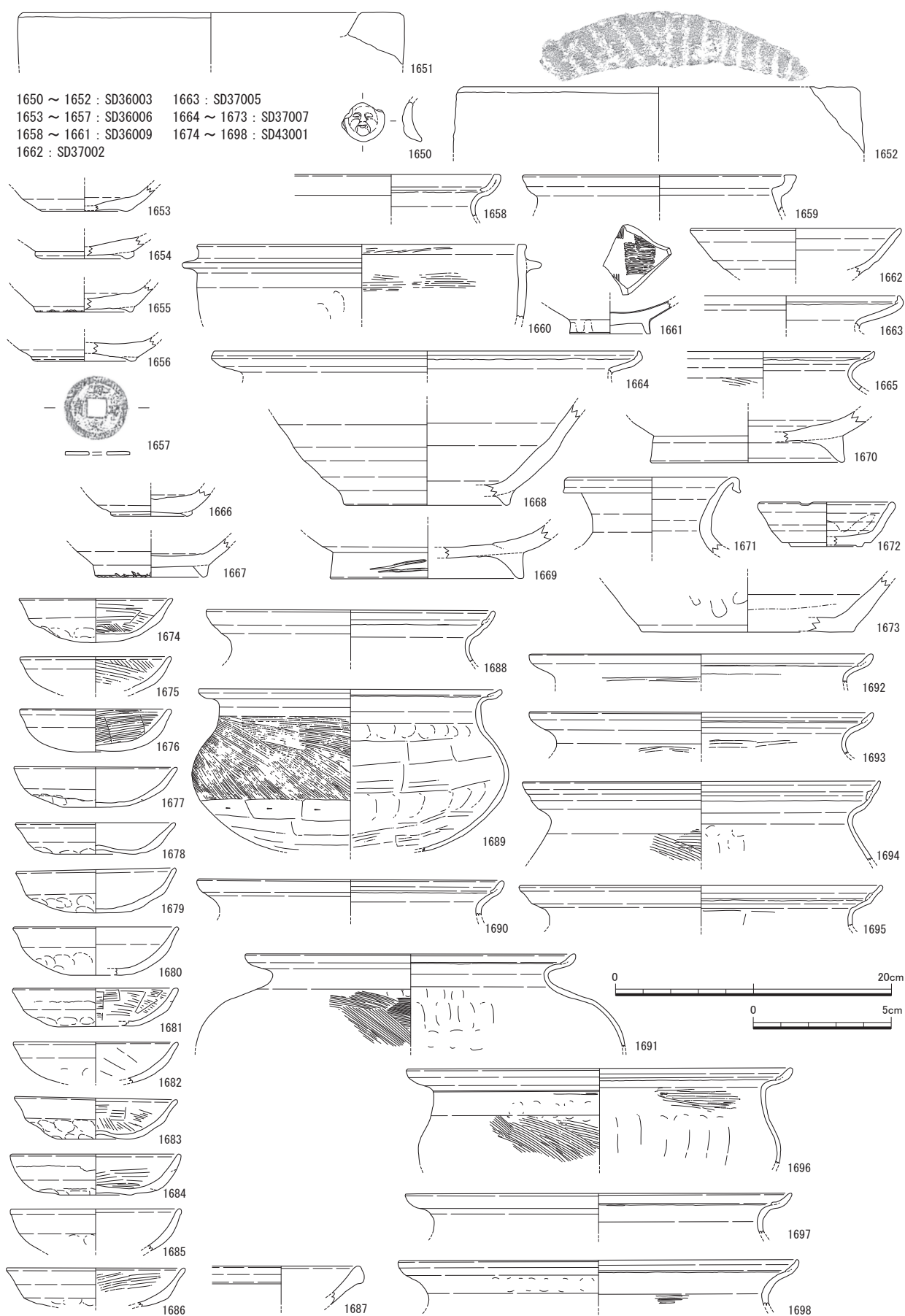
である。1626 は、陶器の天目茶碗である。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸後期様式Ⅱ期の 14 世紀末～ 15 世紀初頭前後のものと考えられる。1627 は、陶器の片口鉢である。口縁部に向かって外反しながら直線的にのび、端部は丸い。1628 は、陶器の播鉢である。内面の播目は見込みから放射状に施されている。1629 は、陶器の火鉢である。口縁部は内傾し端部は膨らんで丸く収められている。1630 は、陶器の壺である。口縁部は外側へ屈曲し、端部の両端は突出している。常滑製品であり、常滑第 2 段階 6 b 型式の 13 世紀後半のものと考えられる。1631 は、陶器の甕である。口縁部は外側へ大きく折り返され、端部の両端は突出して下端は長くのびている。常滑製品であり、常滑第 3 段階 8 型式の 14 世紀後半のものと考えられる。

1632 は、白磁の碗または皿である。1633 は、白磁の皿である。福建省系であり、山本編年 D 期の 12 世紀中頃～後半のものと考えられる。1634 は、白磁の碗または壺である。外面は露胎でケズリの単位が顕著に残る。1635 は、白磁の壺である。器厚が厚く、底部内面の中央は凸状に膨らむ。高台の外面と底部外面の見込みは、露胎となる。高台の端部は面取りされている。耳壺の底部である可能性がある。時期の特定は難しいが、高台の形状から山本編年 E 期の 13 世紀初頭前後～前半のものである可能性が考えられる。1636 は、軒丸瓦である。顎部分の破片であり、外側に珠文がみられる。1637 は、鉄製の鋏と考えられる。

#### S D 36003 (第Ⅳ -43, 44 図)

1638 は、土師器の皿である。底部外面には糸切痕が残り、口縁端部には煤が付着している。大坂系であり、積山編年 10 段階以降の 18 世紀中頃以降のものと考えられる。1639 は、土師器の焙烙である。外面には粘土紐の接合痕が残り、内外面は工具ナデにより調整されている。大坂・明石系であり、積山 6 段階の 17 世紀後半のものと考えられる。

1640・1641 は、陶器の山茶碗である。いずれも渥美湖西型 2 b 型式の 13 世紀前半のものと考えられる。1642 は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品の小碗であり、登窯第 2 段階第 7 小期～第 3 段階第 8 小期の 18 世紀中頃～後半のものと考えられる。



第IV-44 図 出土遺物実測図 44(1:4、1657は1:2)

1643 は、陶器の皿である。肥前系の銅緑釉皿であり、17 世紀後半～18 世紀後半のものと考えられる。1644 は、陶器の鉢である。瀬戸・美濃製品であり、内面にはトチン痕が残る。登窯第2段階第6小期～第7小期の18 世紀代のものと考えられる。1646・1647 は、陶器の播鉢である。いずれも堺・明石系のもので、1646 は稲原編年Ⅰ－1 類の18 世紀代のもの、1647 は稲原編年Ⅱ－2 類の18 世紀後半～19 世紀前半のものと考えられる。1648 は、陶器の徳利である。細長くのびた頸部外面には、3 条の沈線がある。瀬戸・美濃製品とみられ、登窯第2段階第6小期前後の17 世紀末～18 世紀前半のものと考えられる。1645 は陶器の壺である。1649 は、磁器の仏飴具である。外面には染付で雨降文が描かれている。肥前系であり、17 世紀末～19 世紀初頭頃のものと考えられる。1650 は、土製の人形である。顔面部分の破片で、内面にはユビオサエが残る。型押しにより成形されたと考えられる。1651・1652 は、石製の碾臼である。1651 は外縁から中央部に向かって窪んでいることから上臼であり、1652 は上面に碾目があることから下臼と考えられる。

#### S D 36006 (第Ⅳ-44 図)

1653～1656 は、陶器の山茶碗である。1654 は渥美湖西型、1655・1656 は尾張型とみられ、12 世紀前半～13 世紀前半のものと考えられる。1657 は、銭貨の「寛永通寶」である。

#### S D 36009 (第Ⅳ-44 図)

1658・1659 は、土師器の鍋である。1658 は南伊勢系であり、伊藤編年Ⅱb 期の13 世紀後半～14 世紀前半のものと考えられる。1659 は口縁部が受口状で、上端は水平な面を持つ。鉄鍋を模倣したものと考えられる。1660 は、土師器の羽釜である。口縁部は短く直立してのび、鐔は口縁部の直下に取り付いている。1661 は、青磁の碗である。底部内面の見込みには、櫛描きの条線で文様が施されている。同安窯系であり、山本編年D 期の12 世紀中頃～後半のものと考えられる。

#### S D 37002 (第Ⅳ-44 図)

1662 は、陶器の山茶碗である。尾張型第5 型式の13 世紀前半のものと考えられる。

#### S D 37005 (第Ⅳ-44 図)

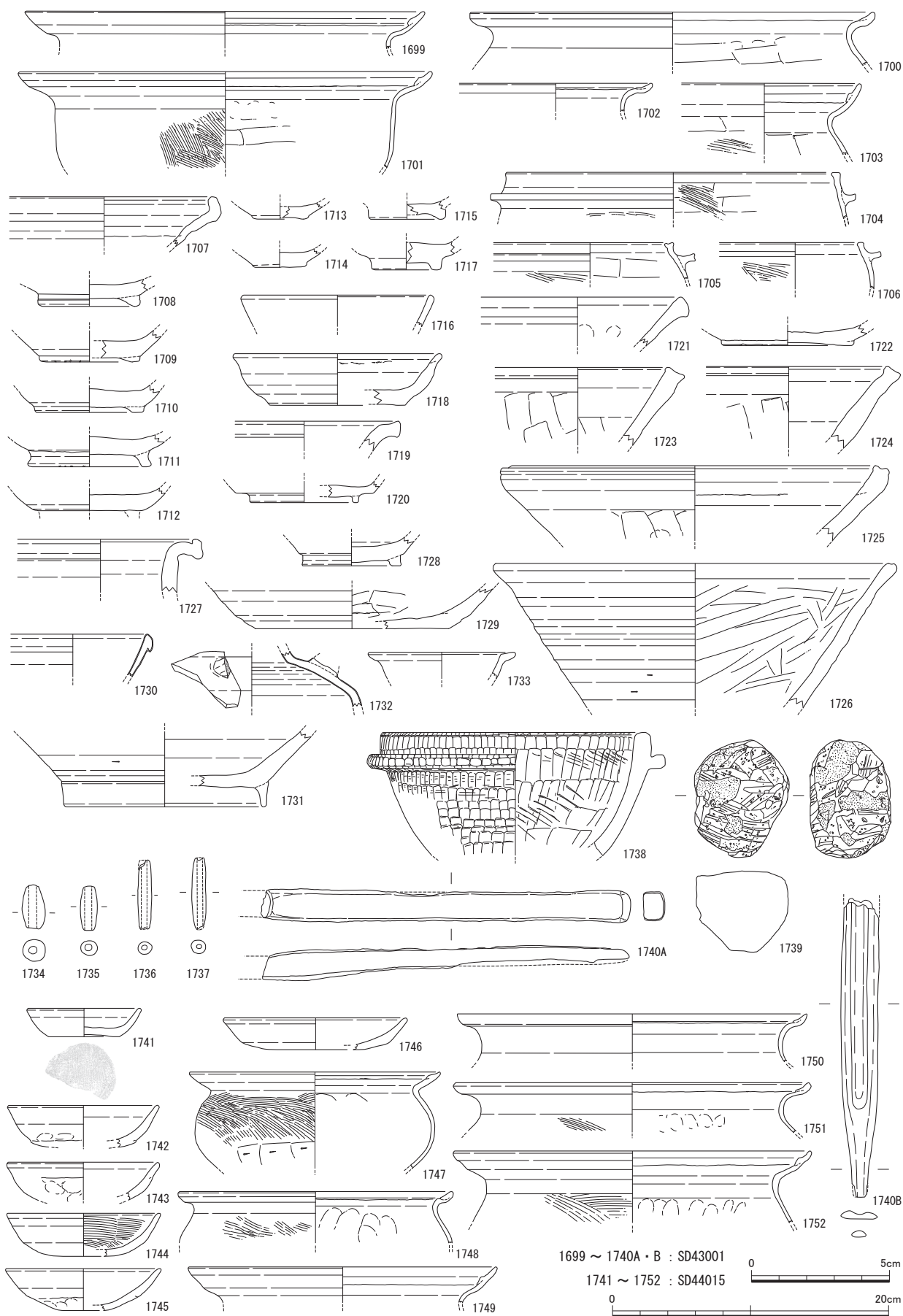
1663 は、土師器の鍋である。口縁端部は摘み上げられている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅳa 期の15 世紀前半のものと考えられる。

#### S D 37007 (第Ⅳ-44 図)

1664・1665 は、土師器の鍋である。いずれも南伊勢系である。1664 の口縁端部は摘み上げられており、頸部の屈曲が鈍いもので、伊藤編年中世Ⅳa 期の15 世紀後半のものと考えられる。1665 は、伊藤編年中世Ⅲb 期の15 世紀前半のものと考えられる。1666・1667 は、陶器の山茶碗である。1666 は渥美湖西型、1667 は尾張型とみられ、12 世紀後半～13 世紀前半のものと考えられる。1668～1670 は、陶器の鉢である。いずれも高台の断面形状は逆三角形を呈している。1669 の外面には、工具が当たった沈線状の痕跡がみられる。1671 は、陶器の壺である。広口壺の口縁部とみられ、端部は外側へ大きく折り曲げられている。渥美製品の可能性がある。1672 は、陶器の鉢である。坏に近い形状の小鉢である。口縁端部は丸く収められており、1 箇所には窪みがある。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸後期様式Ⅱ期の14 世紀末～15 世紀初頭のものと考えられる。1673 は、陶器の壺または甕である。外面及び内面の一部に自然釉が掛かっている。常滑製品の可能性がある。

#### S D 43001 (第Ⅳ-44, 45 図)

1674～1686 は、土師器皿である。1674～1677・1679～1685 は椀に近い形状のもので、1683 は上げ底ぎみの底部を持つ。1674～1676・1681～1684 の内面は工具ナデで調整されている。1678・1686 は、口縁部に向かって外反しながら直線的にのびるものである。1686 の内面は工具ナデで調整されている。1687・1721 は、土師器の鉢である。口縁端部は、両端に広がって肥厚して外傾面を持つ。形状から東播系須恵器の鉢を写したのものと考える<sup>(41)</sup>。1688～1703 は、土師器の鍋である。すべて南伊勢系のものである。1689～1693・1696～1698・1700・1702 は、口縁端部の粘土が内側へ折り返されて肥厚するもので、伊藤編年中世Ⅱa 期～Ⅱb 期の13 世紀前半～14 世紀前半のものと考えられる。1688・1694・1695・1699・1701・1703 は、口縁端部からやや下がった内面に断面三角形の膨らみを



第IV-45 図 出土遺物実測図 45 (1:4、1740A・1740B は1:2)



持つ。伊藤編年中世Ⅲ a 期～Ⅲ b 期の 14 世紀後半～15 世紀前半のものと考えられる。1704～1706 は、土師器の羽釜である。すべて南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱ b 期の 13 世紀後半～14 世紀前半のものと考えられる。

1707・1722 は、須恵器の鉢である。1707 は色調が黄橙色となっており、焼成不良のものとみられる<sup>(42)</sup>。東播系須恵器であり、佐藤編年Ⅳ類の 14 世紀後半～15 世紀代のものと考えられる。1722 は底部の破片で、東播系須恵器の可能性ある。1708～1712 は、陶器の山茶碗である。すべて渥美湖西型の 12 世紀後半～13 世紀前半のものと考えられる。1712 には高台の剥離痕がみられる。1713～1715 は、陶器の山皿である。1713・1714 は、渥美湖西型 2 b 型式～3 b 型式の 13 世紀前半のものと考えられる。1716 は陶器の碗、1717 は青磁の碗である。1718・1720 は、陶器の皿である。1718 は、焼成が土師質で不良品と考えられる。1719 は、陶器の壺である。口縁部の破片で、端部は外傾面を持つ。1723～1726・1729・1731 は、陶器の鉢である。いずれも常滑製品またはその可能性が高いものである。1723・1724 は、口縁端部の両端が小さく突出して外傾面を持つもので、常滑第 3 段階 8 型式の 14 世紀後半のものと考えられる。1725・1726 は、口縁端部は外形面を持ち、面の中央が沈線状に窪んでいる。常滑第 2 段階 5 型式の 13 世紀前半のものと考えられる。1727 は、陶器の壺である。口縁部は外側へ大きく屈曲し、端部の両端が突出して外傾面を持ち、上端は玉縁状に丸く収められている。常滑製品であり、常滑第 2 段階 5 型式の 13 世紀前半のものと考えられる。1728 は、陶器の壺とみられる破片である。器厚が厚く、高台の幅が広いもので、瀬戸・美濃製品の可能性がある。

1730 は、白磁の碗である。口縁端部は外側へ折り返されて肥厚している。福建省系であり、山本編年 C 期の 11 世紀後半～12 世紀前半のものと考えられる。1732 は、白磁の壺である。体部の肩付近の破片で、外面には耳が貼り付いていた部分が残る。四耳壺である可能性が高い。山本編年 E 期の 13 世紀初頭前後～前半のものと考えられる。1733 は、青磁の坏である。口縁部は外側へ屈曲してのび、端

部は丸く収められている。1734～1737 は、土錘である。1734・1735 は、中央がやや膨らんだ形状のもの、1736・1737 は柱状の形状のもので、外面はナデで調整されている。1738 は、滑石製の石鍋である。内外面には鑿による加工痕が残り、内面には使用時の線状痕が残るが、摩耗で表面は滑々である。肥前西彼杵半島産の可能性があり、木戸編年Ⅲ類 - b の 13 世紀前半のものと考えられる<sup>(43)</sup>。1739 は、軽石製の砥石である。線状の擦痕がみられる。1740A は、鉄製の釘と考えられる。断面の形状は方形である。1740B は銅製の筭である。片方の先端が欠損しており、表面には筋状の窪みがある。

#### S D 44015 (第Ⅳ -45, 46 図)

1741～1746 は、土師器の皿である。1741 は平底のもので、外面に糸切痕が残る。1741～1745 は、椀形に近い形状のものである。1744 の内面は工具ナデで調整されている。1746 は、口縁端部に向かって外反して、直線的にのびるものである。1747～1757・1759 は、土師器の鍋である。1759 は播磨型のもので、それ以外は全て南伊勢系のものである。口縁端部の粘土が内側に折り返されて肥厚するものと、端部から下がったところの内面に断面三角形の膨らみをもつものがある。伊藤編年中世Ⅱ a 期～Ⅲ b 期の 13 世紀～15 世紀前半にかけてのものと考えられる。1759 は長谷川編年Ⅷ期の 16 世紀後半～17 世紀前半のものと考えられる。1758・1760 は、土師器の焙烙である。1758 の口縁部は外側に大きく屈曲し、端部は摘み上げられている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅳ c 期の 16 世紀後半～17 世紀代のものと考えられる。1760 は、大坂・明石系であり、積山編年 8 段階の 18 世紀初頭前後のものと考えられる。1761～1763 は、土師器の羽釜である。1761・1762 の口縁部は短く直線的にのび、鐙は短く突出したものである。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱ b 期の 13 世紀後半～14 世紀前半のものと考えられる。1763 の口縁部はやや内傾して短くのびたものである。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅳ b 期の 16 世紀代のものと考えられる。

1764～1766 は、須恵器の鉢である。いずれも東播系須恵器であり、佐藤編年Ⅲ - 3 類～Ⅳ類の 13 世紀後半～15 世紀代にかけてのものと考えられ

る。1767～1772は、陶器の山茶碗である。1767～1770・1772は尾張型、1771は渥美湖西型とみられ、12世紀後半～13世紀後半にかけてのものと考えられる。1773は、陶器の碗または皿の可能性はある。平底のもので器厚が薄い。1774～1776は、陶器の皿でいずれも瀬戸・美濃製品の折縁皿である。1774は、手洗状の形で口縁部は外側へ大きく屈曲し、端部は玉縁状に膨らむ。1775の口縁部は外側へ大きく屈曲し、端部は外傾面を持つ。1774・1775は、古瀬戸中期様式Ⅰ期の13世紀末～14世紀初頭前後のものと考えられる。1777は、陶器の播鉢である。堺・明石系であり、稲原編年Ⅱ-3類の19世紀前半～後半のものと考えられる。1778～1781は、陶器の甕または壺である。いずれも常滑製品であり、1778・1779は、常滑第2段階5型式～6型式の13世紀前半～後半にかけてのものと考えられる。1782は、磁器の碗である。外面には染付で草花文が描かれており、底部外面の見込みには圈線と文字の一部とみられるものがある。肥前系とみられ、18世紀前半のものと考えられる。1783～1785は、白磁の碗である。1783・1785の口縁端部は肥厚して外傾面を持つ。福建省系であり、山本編年C期の11世紀後半～12世紀前半のものと考えられる。1786・1787は、青磁の皿である。1787は口縁部が大きく外反している。1788は、青磁の香炉である。口縁端部は内側へ屈曲して丸く収められている。1789は、砥石である。表面には細かな擦痕が残る。

#### S D 44030 (第Ⅳ-46 図)

1790・1791は、土師器の鍋である。1790は南伊勢系であり、口縁端部は摘み上げられており、伊藤編年中世Ⅳb期の16世紀前半のものと考えられる。1791は播磨型の羽釜形のもので、口縁端部は膨らんで丸く収められており、鰐の突出は小さい。長谷川編年Ⅶ期の16世紀前半～後半のものと考えられる。1792は、陶器の山茶碗である。渥美湖西型3a型式の13世紀前半のものと考えられる。1793は、陶器の碗である。天目茶碗の可能性があり、瀬戸・美濃製品とみられる。1794は、陶器の皿または碗である。1795は、陶器の鉢の可能性はある。口縁端部は内側に摘み出されて水平な面を持つ。内外面ともに工具ナデで調整されている。1796は、白磁

の皿の可能性はある。1797は、青磁の器台である。器台の脚部付近の破片で、口縁部を含む上部は欠損している。龍泉窯系の優品とみられ、北畠氏館跡(津市美杉町)で類例がある<sup>(44)</sup>。

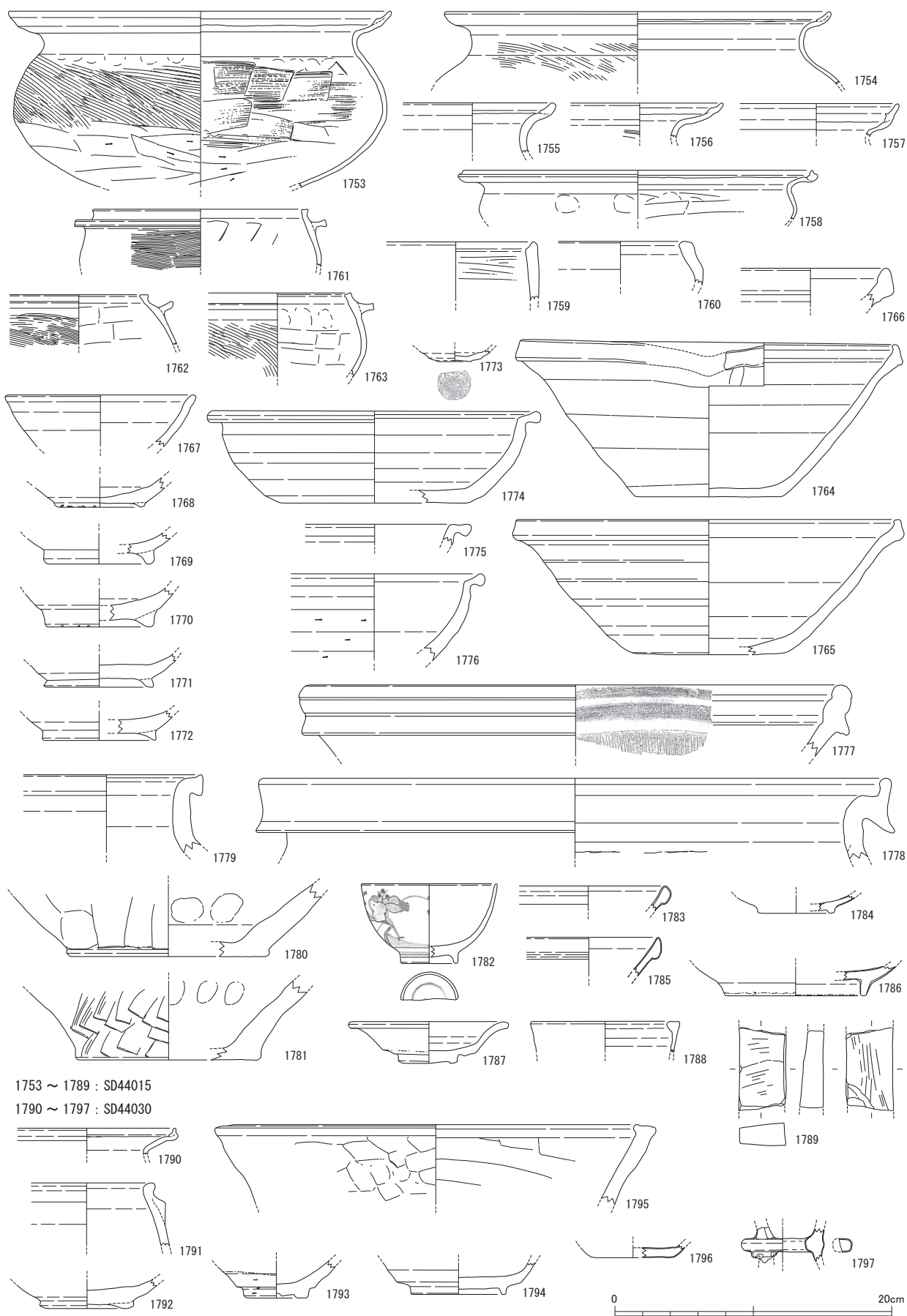
#### S D 51002 (第Ⅳ-47 図)

1798～1800は、土師器の焙烙である。いずれも大坂・明石系のもので、口縁部は内傾しながらのび、丸く膨らんで玉縁状になっている。積山編年3段階～7段階の17世紀前半～後半のものと考えられる。1801は、陶器の山茶碗である。尾張型第5型式の12世紀後半のものと考えられる。1802～1805は、陶器の碗である。1802は、口縁端部は丸く収められており、内外面には鉄釉が掛かっている。瀬戸・美濃製品であり、登窯第2段階第7小期の18世紀中頃前後のものと考えられる。1803～1805は天目茶碗である。瀬戸・美濃製品であり、登窯第1段階第4小期の17世紀後半のものと考えられる。1806は陶器の皿である。1807は陶器の壺とみられ、底部に向かって下膨れした体部のものと考えられる。備前製品の可能性がある。1808～1810は、陶器の播鉢である。1808は、瀬戸・美濃製品であり、登窯第1段階第4小期の17世紀後半のものと考えられる。1809の口縁部は内傾面を持つ。備前製品であり、乗岡編年近世3期の17世紀後半～18世紀初頭前後のものと考えられる。1811は、陶器の壺である。内外面は工具ナデにより調整されている。常滑製品の可能性がある。

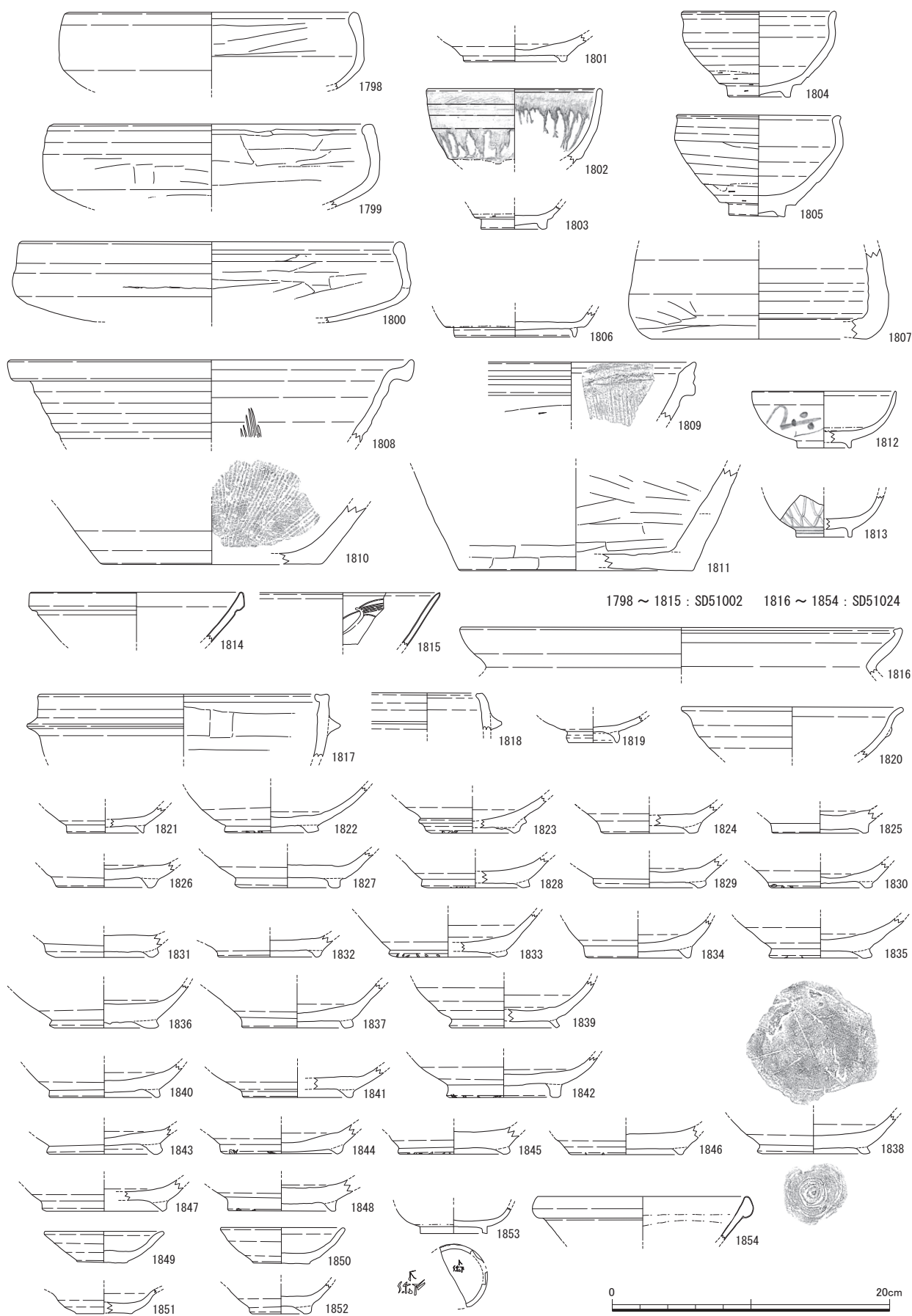
1812・1813は、磁器の碗である。いずれも外面には染付で文様が描かれており、1813には網目文がある。肥前系とみられ、17世紀後半～18世紀前半のものと考えられる。1814は、白磁の碗である。福建省系であり、山本編年C期の11世紀後半～12世紀前半のものと考えられる。1815は、青磁の碗である。口縁部は端部に向かって外反しながら直線的にのびるもので、内面には刻劃文が施されている。龍泉窯系であり、山本編年D期の12世紀中頃～後半のものと考えられる。

#### S D 51024 (第Ⅳ-47 図)

1816は、土師器の甕とみられる。口縁部はやや内湾して、端部は肥厚している。1817は、土師器の羽釜である。口縁部は短く直立してのび、端部は



第IV -46 図 出土遺物実測図 46(1:4)



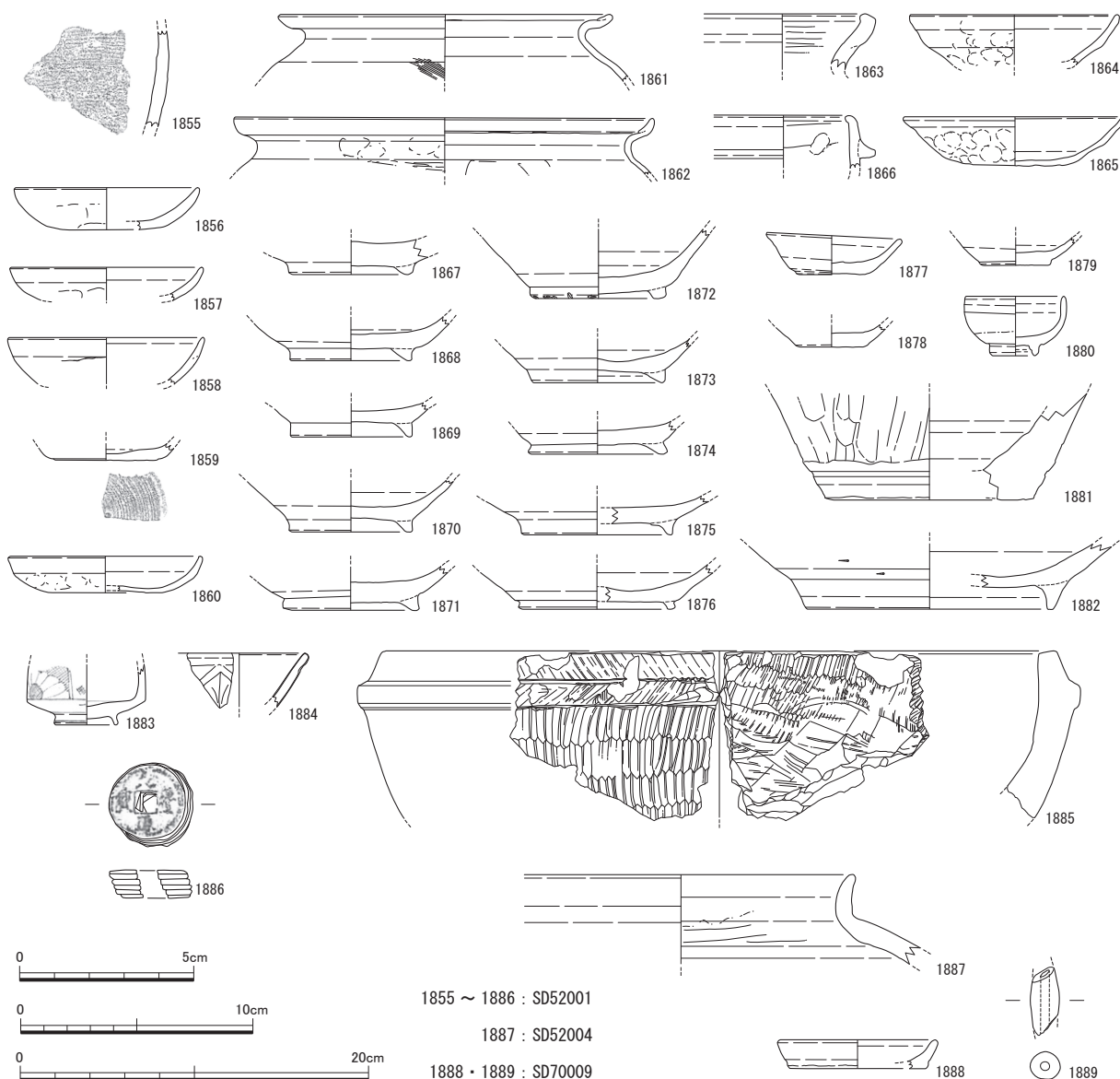
第IV-47 図 出土遺物実測図 47(1:4)

内側へ屈曲しており、内面は工具ナデで調整されている。1818 は、瓦質土器の羽釜である。口縁端部は内側に屈曲して丸く収められている。1819 は、灰釉陶器の碗である。三日月形の高台が付くもので、O-53 号窯式～H-72 号窯式期の 10 世紀後半～11 世紀前半のものと考えられる。1820～1848 は、陶器の山茶碗である。12 世紀後半～13 世紀前半にかけての尾張型または渥美湖西型のものと考えられる。1838 の底部内面には葉脈痕とみられる痕跡、底部外面の見込みには棒状工具の先端で施された渦巻状の痕跡がある。何らかの記号の可能性はある。1849～1852 は、陶器の山皿である。渥美湖西型及び尾張型の 12 世紀後半～13 世紀前半のものと考え

られる。1853 は、陶器の碗である。底部外面の見込みには「木下弥」の印刻<sup>(45)</sup>がみられることから、京焼風陶器と考えられる。肥前系であり、17 世紀後半のものと考えられる。1854 は、白磁の碗である。口縁端部は外側へと膨らみ肥厚している。福建省系であり、山本編年 C 期の 11 世紀後半～12 世紀前半のものと考えられる。

#### SD 52001 (第IV-48 図)

1855 は、縄文土器の深鉢である。体部の破片で、外面には条線が施されている。縄文時代中期末以降のものと考えられる。1856～1860 は、土師器の皿である。1857・1860 は、器厚が薄いもので、南伊勢系の可能性がある。1858 は椀に近い形状のもの、



第IV-48 図 出土遺物実測図 48(1:4、1855 は 1:3、1886 は 1:2)



1859 は平底のもので外面に糸切痕が残る。1861・1862 は、土師器の鍋である。口縁端部の粘土は内側に折り返されて肥厚する。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱb期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。1863 は、土師器の甕の可能性ある。口縁端部に向かってやや内湾してのび、端部は内側に小さく肥厚する。1864・1865 は、瓦器の椀である。炭素の吸着が不十分で黄灰色となっている。外面にはユビオサエの指頭痕跡が残り、内外面にミガキや暗文は施されていない。紀伊型のもので、北野編年Ⅳ期の14世紀前半までのものと考えられる。1866 は、瓦質土器の羽釜である。口縁端部は内側に屈曲して丸く収められている。内面は工具ナデで調整されている。

1867～1876 は、陶器の山茶碗である。尾張型または渥美湖西型のものともみられる。12世紀後半～13世紀前半のものと考えられる。1877～1879 は、陶器の山皿である。1879 は、渥美湖西型2a型式の12世紀後半のものと考えられる。1880 は、陶器の碗である。瀬戸・美濃製品の小碗であり、登窯第3段階第8段階～第9段階の18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。1881 は、陶器の壺であ

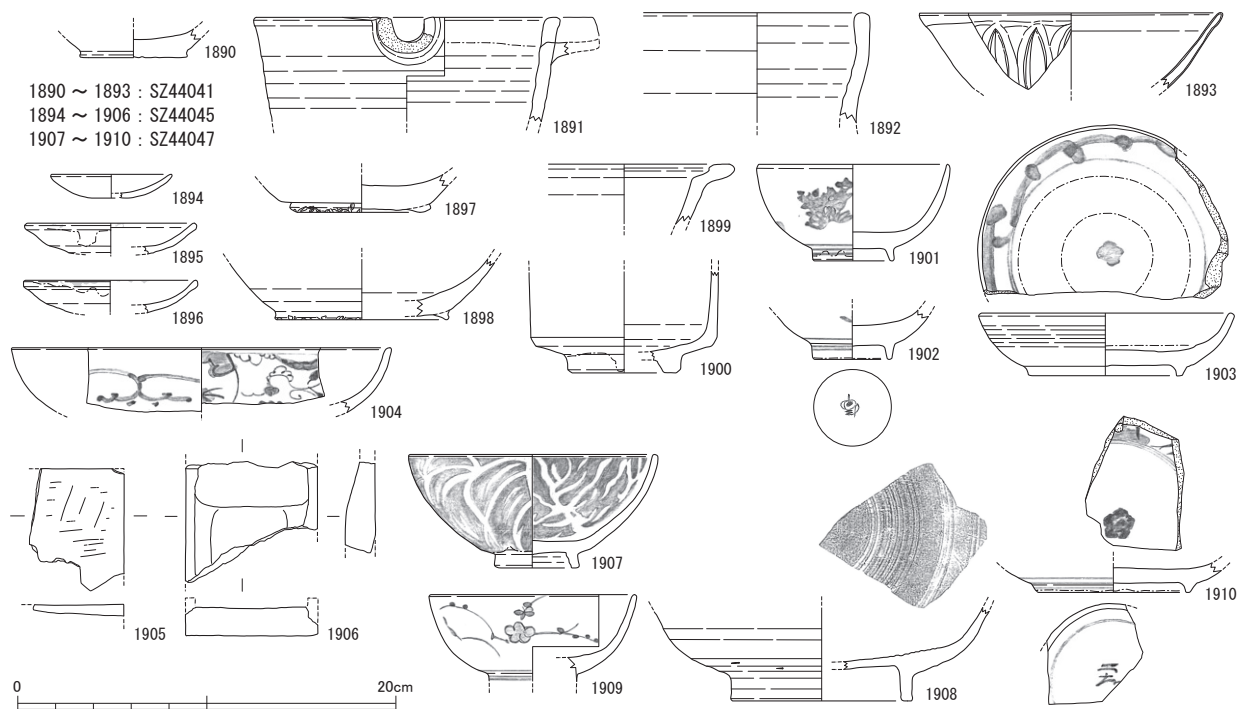
る。外面は工具ナデで調整されている。常滑製品の可能性がある。1882 は、陶器の鉢である。渥美製品であり、渥美2b型式の12世紀末前後～13世紀前半のものと考えられる。1883 は、磁器の碗である。外面には染付で菊花文と格子文が描かれている。肥前系の筒形碗であり、18世紀後半～19世紀前半のものと考えられる。1884 は、青磁の碗である。外面には鎬蓮弁文が施されている。龍泉窯系であり、山本編年Ⅴ期の13世紀前半のものと考えられる。1885 は、滑石製の石鍋である。口縁部の長さが短く、鰐状の部分の突出も短い。内外面ともに鑿による加工痕と線状痕が残る。また、口縁部以外の側面には打ち欠かれた痕跡があることから、二次加工して再利用された可能性がある<sup>(46)</sup>。1886 は、銅製の銭貨である。6枚が重なって出土したもので、表面に出ているものは「元豊通寶」である。

#### S D 52004 (第Ⅳ-48 図)

1887 は、陶器の甕または壺である。渥美製品の13世紀代のものと考えられる。

#### S D 70009 (第Ⅳ-48 図)

1888 は、土師器の皿である。平底のものである。1889 は、土錘である。外面はナデで調整されている。



第Ⅳ-49 図 出土遺物実測図 49(1:4)

## 第5節 その他遺構出土遺物

### S Z 44041 (第IV-49 図)

1890 は、陶器の山皿である。渥美湖西型 2 b 型式の 13 世紀前半のものと考えられる。1891 は、陶器の片口鉢である。口縁部に向かって直線的にのび、端部には片口が付く。瀬戸・美濃製品であり、登窯第 1 段階第 3 小期の 17 世紀中頃前後のものと考えられる。1892 は、陶器の壺の可能性があり。口縁部はほぼ直線的にのびるが、端部の手前で内湾ぎみになり、端部は丸く収められている。1893 は、青磁の碗である。口縁部は外反しながら直線的にのび、端部は丸く収められている。外面には鎬蓮弁文が施されている。龍泉窯系であり、山本編年 E 期の 13 世紀初頭前後～前半のものと考えられる。

### S Z 44045 (第IV-49 図)

1894 ～ 1896 は、土師器の皿である。内面と口縁部には透明釉が掛かり、端部には煤が付着している。大坂系であり、積山編年 10 段階以降の 18 世紀中頃以降のものと考えられる。1897・1898 は、陶器の山茶碗である。高台に靱殻痕が残るもので、13 世紀中頃前後～後半のものと考えられる。1899 は、陶器の皿である。瀬戸・美濃製品の折縁皿であり、古瀬戸中期様式 IV 期の 14 世紀中頃前後のものと考えられる。1900 は、陶器の碗である。筒形のもので、瀬戸・美濃製品の可能性がある。1901・1902 は、磁器の碗である。いずれも外面には染付で文様などが描かれており、1901 にはコンニャク印判の草花文、1902 の底部の見込みにはいわゆる渦福の「福」が記されている。肥前系であり、18 世紀前半～中頃のものと考えられる。1903・1904 は、磁器の皿である。内外面には染付で文様が描かれており、1903 の内面には雲文、1904 の外面には唐草文と内面には草木文がある。肥前系であり、18 世紀前半～中頃のものと考えられる。1905 は、砥石である。表面には線状の擦痕がある。1906 は、石製の硯である。

### S Z 44047 (第IV-49 図)

1907 は、陶器の碗である。内外面には、白土を掛けた斑状の文様がある。肥前系とみられ、18 世紀以降のものと考えられる。1908 は、陶器の皿で

ある。高台が長くのびたもので、底部内面にはカキメ状の条線が施されている。肥前系の可能性がある。1909 は、磁器の碗である。外面には染付で梅枝文が描かれている。肥前系とみられ、18 世紀前半～中頃のものと考えられる。1910 は、磁器の皿である。内面の見込みにはコンニャク印判の五弁花文、底部外面の見込みには文字がみられる。肥前系とみられ、18 世紀前半～中頃のものと考えられる。

### J - G 21 Pit 7 (第IV-50 図)

1911 は、灰釉陶器の碗である。高台は「ハ」の字状に開いてのび、端部は丸く収められている。高台の外面には工具痕の可能性がある沈線状の窪みがある。百代寺窯式期の 11 世紀前半～後半のものと考えられる。

### J - H 18 Pit 4 (第IV-50 図)

1912 は、土師器の皿である。大型のもので、口縁部内外面はヨコナデ、底部外面にはナデ及びユビオサエで調整されている。外面には粘土紐の痕跡が残る。

### J - K 14 Pit 2 (第IV-50 図)

1913 は、鉄製の釘の可能性がある。

### J - K 20 Pit 2 (第IV-50 図)

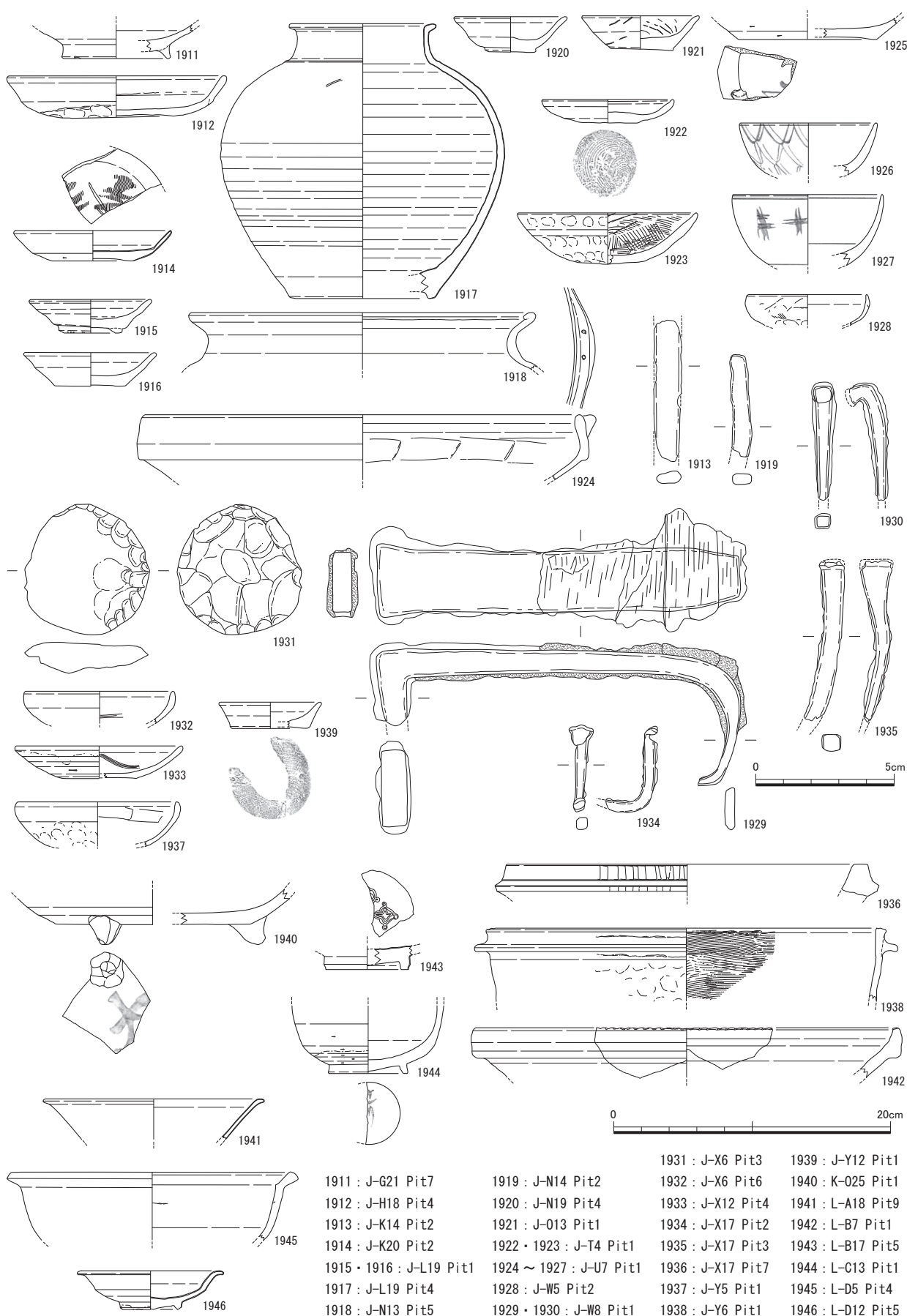
1914 は、青磁の皿である。底部内面の見込みには、細篋の画線と櫛による条線で模様が施されている。条線は点綴文の可能性がある。同安窯系であり、山本編年 D 期の 12 世紀中頃～後半のものと考えられる。

### J - L 19 Pit 1 (第IV-50 図)

1915・1916 は、陶器の山皿である。1916 は平底のものである。1915 は渥美湖西型 1 c 型式、1916 は渥美湖西型 2 b 型式で、12 世紀中頃～13 世紀前半のものと考えられる。

### J - L 19 Pit 4 (第IV-50 図)

1917 は、陶器の壺である。図は、複数の破片を復元的に図化したものである。口縁部は外側へ屈曲して端部は丸く収められている。体部の肩にはヘラ状工具による文様が描かれていると考えられる。内外面にはオリ－ブ色の釉が掛かり、全体の器厚が薄い。外国産の陶器とみられるが、産地は不明である。



第IV-50 図 出土遺物実測図 50(1:4、1913、1919、1929 ~ 1931、1934、1935 は 1:2)

J - N 13 Pit 5 (第IV -50 図)

1918 は、土師器の鍋である。口縁端部は粘土が内側へ折り返されて肥厚する。南伊勢系であり、伊藤編年中世 I b 期の 12 世紀後半のものと考えられる。

J - N 14 Pit 2 (第IV -50 図)

1919 は、鉄製の釘である。頂部の可能性がある。

J - N 19 Pit 4 (第IV -50 図)

1920 は、陶器の山皿である。平底で、底部外面の立ち上がりとの境には段がある。渥美湖西型 2 a 型式の 12 世紀後半のものと考えられる。

J - O 13 Pit 1 (第IV -50 図)

1921 は、陶器の山皿である。渥美湖西型 2 a 型式の 12 世紀後半のものと考えられる。

J - T 4 Pit 1 (第IV -50 図)

1922・1923 は、土師器の皿である。1922 は小型のもので、底部外面には糸切痕が残る。大坂系であり、積山編年 10 段階以降の 18 世紀中頃以降のものと考えられる。1923 は、内面に工具ナデが施されており、ハケメ状の条線が顕著に残る。外面にはユビオサエによる指頭圧痕がみられる。

J - U 7 Pit 1 (第IV -50 図)

1924 は、土師器の焙烙である。口縁端部を外側へ拡張して平坦面を作り、平坦面には 2 つの孔が穿かれている。孔は貫通せずに途中で止まっている。大坂系であり、積山編年 9 段階の 18 世紀中頃前後のものと考えられる。1925 は、陶器の土瓶または行平鍋の可能性がある。外面には足の痕跡が残り、底部には墨書で記されたの文字の一部がある。瀬戸・美濃製品であろうか。1926・1927 は、磁器の碗である。いずれも外面に染付で文様が描かれており、1026 は三段の網目文、1927 は井桁文がある。肥前系であり、17 世紀後半～18 世紀前半のものと考えられる。

J - W 5 Pit 2 (第IV -50 図)

1928 は、土師器の皿である。南伊勢系であり、器厚が薄いもので、外面はナデ及びユビオサエで調整されている。

J - W 8 Pit 1 (第IV -50 図)

1929 は、鉄製の鋸である。表面には、木質とみられる有機物が付着している。1930 は、鉄製の釘

である。頂部が折れ曲がっていることから折釘と考えられる。

J - X 6 Pit 3 (第IV -50 図)

1931 は、石製の円盤状製品である。端部を細かく打ち欠かいて円形に加工されており尖っている。片面には一部に自然面が残る。材質は泥岩系のものと考えられる。現状で類例が見当たらないため、どのように使われたものか不明だが、削器のようなものである可能性が考えられる<sup>(47)</sup>。

J - X 6 Pit 6 (第IV -50 図)

1932 は、土師器の皿である。椀に近い形状のもので、内面は工具ナデで調整されている。

J - X 12 Pit 4 (第IV -50 図)

1933 は、陶器の皿である。内面には櫛による条線がある。瀬戸・美濃製品であり、大窯第 1 段階後半の 16 世紀前半のものと考えられる。

J - X 17 Pit 2 (第IV -50 図)

1934 は、鉄製の釘である。頂部の形状から、頭巻釘の可能性がある。

J - X 17 Pit 3 (第IV -50 図)

1935 は、鉄製の釘である。先端と頂部の一部が欠損している。

J - X 17 Pit 7 (第IV -50 図)

1936 は、滑石製の石鍋である。口縁部から鏝までが辛うじて残る。口縁部の立ち上がりが短く、鏝の断面形状は崩れた台形状で突出が小さい。外面には細かな鑿による加工痕がある。木戸編年Ⅲ類 - d の 15 世紀後半のものと考えられ、肥前西彼杵半島産の可能性が<sup>(48)</sup>ある。

J - Y 5 Pit 1 (第IV -50 図)

1937 は、土師器の皿である。椀に近い形状のもので、内面は工具ナデにより調整されている。

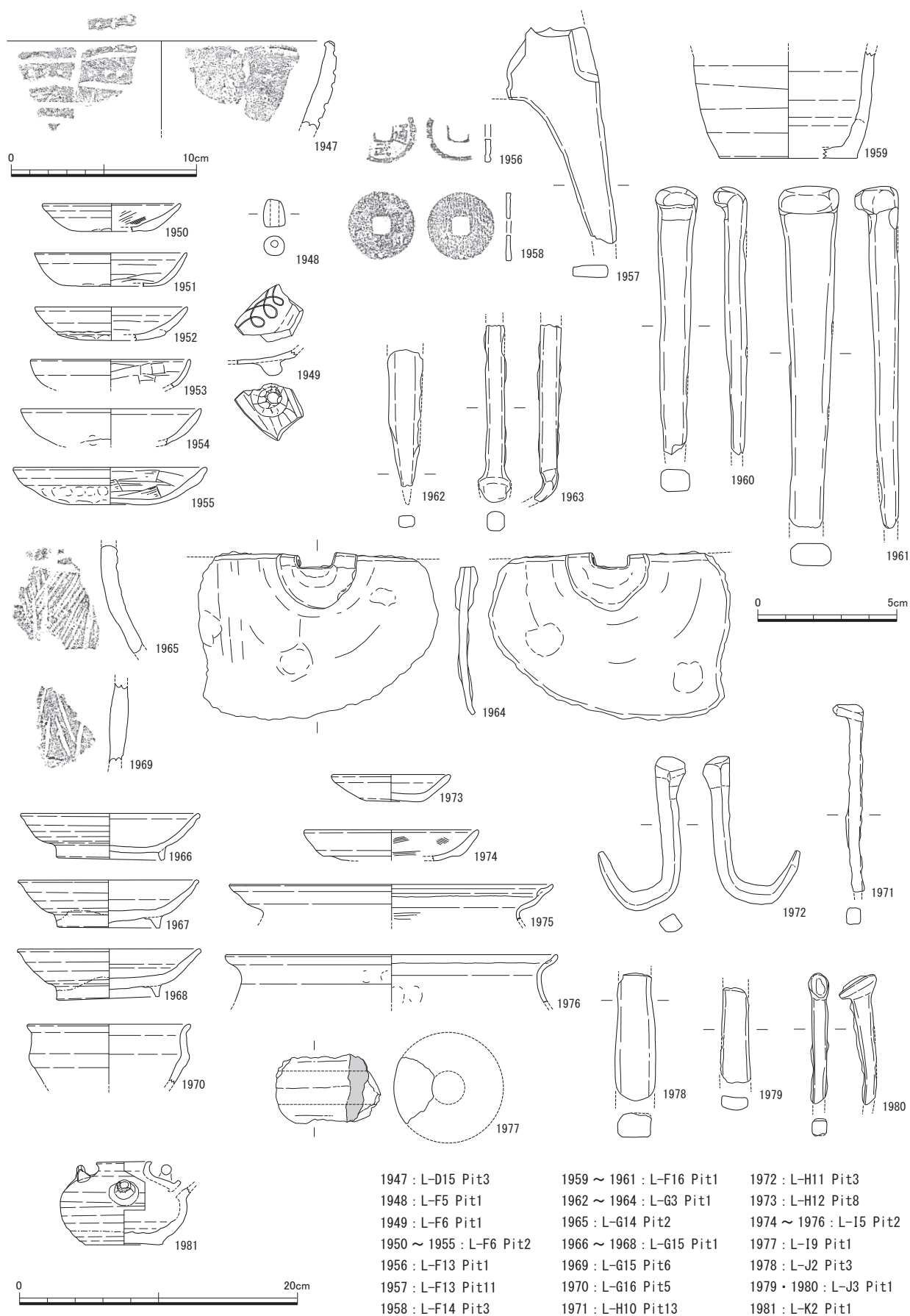
J - Y 6 Pit 1 (第IV -50 図)

1938 は、土師器の羽釜である。口縁部は短くのび、端部はやや外傾する面を持つ。鏝は口縁端部のほぼ直下に付く。外面にはユビオサエの指頭圧痕と粘土紐の接合痕が残り、内面はハケメで調整されている。

J - Y 12 Pit 1 (第IV -50 図)

1939 は、土師器の皿である。底部外面には糸切痕が残る。





第IV -51 図 出土遺物実測図 51(1:4、1947, 1965, 1969 は 1:3、1956 ~ 1958, 1960 ~ 1964, 1971, 1972 は 1:2)



K - O 25 Pit 1 (第IV -50 図)

1940 は、陶器の皿である。三方に足が付くものと考えられる。底部外面には墨書で「大カ」とみられる文字がある。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸後期様式期の 14 世紀代のものと考えられる。

L - A 18 Pit 9 (第IV -50 図)

1941 は、白磁の碗である。口縁部は外側へ屈折して、端部は丸く収められている。福建省系であり、山本編年 C 期の 11 世紀後半～ 12 世紀前半のものと考えられる。

L - B 7 Pit 1 (第IV -50 図)

1942 は、須恵器の鉢である。口縁端部は波状に加工されている。東播系須恵器であり、佐藤編年Ⅲ - 3 類の 13 世紀後半～ 14 世紀前半のものと考えられる。

L - B 17 Pit 5 (第IV -50 図)

1943 は、青磁の碗である。内面の見込みには花文の陰刻がある。龍泉窯系であり、山本編年 E 期の 13 世紀前半のものと考えられる。

L - C 13 Pit 1 (第IV -50 図)

1944 は、陶器の碗である。体部の下部は露胎となり、底部外面の見込みには墨書の文字がある。瀬戸・美濃製品であり、登窯第 1 段階 4 小期～第 2 段階 5 小期の 17 世紀後半のものと考えられる。

L - D 5 Pit 4 (第IV -50 図)

1945 は、瓦質土器の焙烙である。口縁部は外反して、端部は外傾面をもつ。

L - D 12 Pit 5 (第IV -50 図)

1946 は、白磁の皿である。口縁部は大きく外反し、高台は逆台形状を呈する。陶器質に近い仕上がりで、胎土には微細な黒色粒を含む。広東省系の可能性があり、山本編年 C 期の 11 世紀後半～ 12 世紀前半のものであろうか。

L - D 15 Pit 3 (第IV -51 図)

1947 は、縄文土器の深鉢である。外面には多重沈線が施され、沈線間に刺突が充填されており、口縁端部の上端にも刺突がめぐる。縄文時代後期前半のものと考えられる。

L - F 5 Pit 1 (第IV -51 図)

1948 は、土錘である。外面はナデにより調整されている。

L - F 6 Pit 1 (第IV -51 図)

1949 は、瓦器の香炉とみられる脚部である<sup>(49)</sup>。外面には工具ナデ及びナデ、内面には連結輪状の暗文が施されている。

L - F 6 Pit 2 (第IV -51 図)

1950 ～ 1955 は、土師器の皿である。1950 ～ 1953・1955 の内面には、工具ナデが施されている。1953 は、全体的に器厚が薄いもので、南伊勢系と考えられる。

L - F 13 Pit 1 (第IV -51 図)

1956 は、銭貨の「洪武通寶」とみられる破片である。「通」と「武」のみが残る。

L - F 13 Pit11 (第IV -51 図)

1957 は、鉄製の鎌の破片である。刃部の大部分と柄部の先端が欠損している。

L - F 14 Pit 3 (第IV -51 図)

1958 は、銭貨である。完形だが、表面が摩耗しており文字が判別できない。

L - F 16 Pit 1 (第IV -51 図)

1959 は、須恵器の壺である。内外面ともにロクロナデが施されており、底部外面はヘラ切り後にナデで調整されている。平安時代のものの可能性がある。1960・1961 は、鉄製の釘である。いずれも先端が欠損している。頂部が折れ曲がっていることから折釘と考えられる。

L - G 3 Pit 1 (第IV -51 図)

1962 は、鉄製の釘である。頂部が欠損している。1963 は、鉄製の鉈の可能性のあるものである、先端が欠損しているため刃先の状態は不明である。1964 は、鉄製の用途不明製品である。板状のもので、弧状に曲がっている。破片の側面にソケット状に差し込む穴があり、本体とは別に鉄のパーツと接続する構造のものと考えられる。

L - G 14 Pit 2 (第IV -51 図)

1965 は、縄文土器の深鉢である。頸部付近の破片とみられ、沈線間に条線が羽状に施されたものである。縄文時代中期末～後期前半のものと考えられる。

L - G 15 Pit 1 (第IV -51 図)

1966 ～ 1968 は、陶器の皿である。いずれも瀬戸・美濃製品の輪秃皿であり、登窯第 2 段階第 6 小期の

18 世紀前半のものと考えられる。

L - G 15 Pit 6 (第IV -51 図)

1969 は、縄文土器の深鉢である。外面には沈線が施されており、沈線間に沈線を充填した文様の可能性がある。縄文時代中期末～後期前半のものと考えられる。

L - G 16 Pit 5 (第IV -51 図)

1970 は、陶器の天目茶碗である。内外面には白色の釉が掛っている。瀬戸・美濃製品の白天目であり、登窯第 1 段階第 2 小期～第 3 小期の 17 世紀前半～中頃前後のものと考えられる。

L - H 10 Pit13 (第IV -51 図)

1971 は、鉄製の釘である。断面形状は方形で、頂部が折り曲げられた、折釘と考えられる。

L - H 11 Pit 3 (第IV -51 図)

1972 は、鉄製の釘の可能性はある。断面形状は菱形に近い形状をしている。

L - H 12 Pit 8 (第IV -51 図)

1973 は、陶器の山皿である。底部から緩やかに屈曲し、口縁端部に向かって直線的に延びている。口縁端部には自然釉が掛る。渥美湖西型第 2 b 型式の 13 世紀前半のものと考えられる。

L - I 5 Pit 2 (第IV -51 図)

1974 は、土師器の皿である。口縁部に向かって外反しながら直線的にのび、端部は丸く収められている。内面は工具ナデで調整されている。1975・1976 は、土師器の鍋である。いずれも南伊勢系である。1975 は、口縁端部からやや下がった内面に断面三角形の膨らみを持つものである。伊藤編年中世Ⅲb 期の 14 世紀末～15 世紀前半のものと考えられる。1976 の口縁端部は、粘土が内側に折り返されて肥厚する。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅱb 期の 13 世紀後半～14 世紀前半のものと考えられる。

L - I 9 Pit 1 (第IV -51 図)

1977 は、土製の轆羽口である。両端ともに欠損しているが、片側には強い被熱痕があることから、羽口の先端に近い部分の破片と考えられる。

L - J 2 Pit 3 (第IV -51 図)

1978 は、鉄製の釘である。断面形状は方形である。

L - J 3 Pit 1 (第IV -51 図)

1979 は、鉄製の釘である。断面形状は方形である。

1980 は、鉄製の鉾の可能性はある。先端を欠損しており、断面形状は方形である。

L - K 2 Pit 1 (第IV -51 図)

1981 は、陶器の水注である。耳と注口が付く。瀬戸・美濃製品であり、大窯第 4 段階後半～末の 17 世紀初頭前後のものと考えられる。

L - K 13 Pit 1 (第IV -52 図)

1982 は、磁器の人形である。頭部が欠損したもので、型押し成形されたものである。

L - N 14 Pit 1 (第IV -52 図)

1983 は、灰釉陶器の碗とみられる。高台は断面逆三角形のものが付く。百代寺窯式期の 11 世紀前半～後半のものであろうか。

L - Q 10 Pit 2 (第IV -52 図)

1984 は、鉄製の釘である。先端は屈曲して全体の形が L 字状になっている。

L - R 7 Pit 7 (第IV -52 図)

1985 は、鉄製の片刃状製品である。先端が刃物状になるものと考えられる。片刃がある鉄鏃の可能性も考えられる。

L - S 6 Pit 1 (第IV -52 図)

1986 は、土師器の皿である。底部には糸切痕が残る。内面全体と口縁部外面には透明釉が掛かっており、底部内面の見込みには四角に囲われた中に「割口合」の文字を配した印刻がある。大坂系であり、積山編年 10 段階以降の 18 世紀中頃以降のものと考えられる。

L - T 5 Pit 4 (第IV -52 図)

1987 は、石製の礪臼である。上面に礪目、下面が平坦面になることから下臼と考えられ、中央には芯棒を挿し込む円孔がある。上面の一部が欠損しているが、残存する主溝と副溝の単位から、礪目は全体が 8 分割で配されたものと考えられる。

L - T 10 Pit 1 (第IV -52 図)

1988 は、土師器の皿である。器厚が薄く、内面は工具ナデで調整されている。南伊勢系と考えられる。

L - U 5 Pit10 (第IV -52 図)

1989 は、陶器の皿である。口縁部は外反し、内外面には緑色系の釉が掛かる。瀬戸・美濃製品であ

り、古瀬戸様式期のものと考えられる。

#### L-U6 Pit 7 (第IV-52 図)

1990 は、陶器の皿である。瀬戸・美濃製品の小型丸皿で、底部外面には輪トチの痕が残る。大窯第4段階の16世紀末前後～17世紀前半のものと考えられる。

#### L-V5 Pit 5 (第IV-52 図)

1991 は、陶器の皿である。内外面全体に灰白色の釉が掛ったもので、瀬戸・美濃製品の志野皿と考えられる。登窯第1段階の17世紀代のものと考えられる。

#### L-V6 Pit 8 (第IV-52 図)

1992 は、陶器の皿である。胎土や釉の色調から肥前系のものと考えられる。

#### L-W18 Pit 4 (第IV-52 図)

1993 は、青磁の皿である。内面には、櫛による条線の文様が施されている。同安窯系であり、山本編年D期の12世紀中頃～後半のものと考えられる。

#### 攪乱 (第IV-52 図)

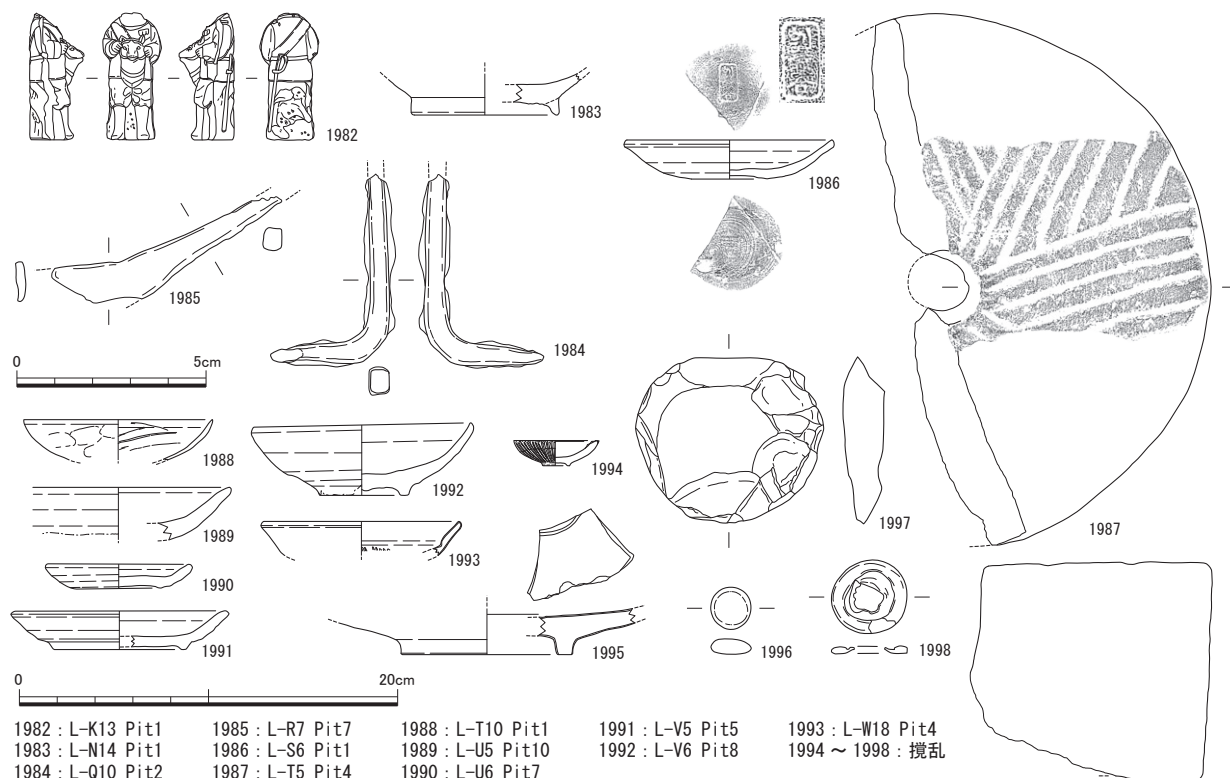
1994 は、磁器の紅小皿である。口縁端部は幅広の面を持ち、1箇所片口状に窪む。外面は貝殻状に型押しされており、釉は内面全体と口縁部外面に掛かる。肥前系のもので、18世紀末前後～19世紀前半のものと考えられる。1995 は、青磁の皿である。高台は直線的にのびている。釉の色調や胎土から国産のものと考えられる。1996 は、基石である。材質は泥岩系のもので、表面は平滑である。1997 は、石製の円盤状製品である。端部は細かく打ち欠かれて円形に加工されており尖っている。片面には、未加工の自然面が残るが、端部のみ加工が及んでいる。材質は泥岩系のものと考えられる。現状で類例が見当たらないため、どのように使われたものか不明だが、削器のような使用の可能性が考えられる<sup>(50)</sup>。1998 は、銅製の雁首銭である。煙管の火皿部分を潰して平らにしたものと考えられる。

## 第6節 表土・包含層等出土遺物

#### 包含層 (第IV-53 図)

1999 は、陶器の香炉である。三足の脚が付くも

ので、口縁端部は内側へ突出して内傾する。瀬戸・美濃製品の筒形香炉であり、18世紀代のものと考え



第IV-52 図 出土遺物実測図 52(1:4、1984, 1985, 1997, 1998 は 1:2)

えられる。2000 は、白磁の壺を転用して作られた加工円盤である。高台に沿って打ち欠かれて円形に加工されている。2001 は、銅製の銭貨「洪武通寶」である。

#### 表土（第Ⅳ-53, 54 図）

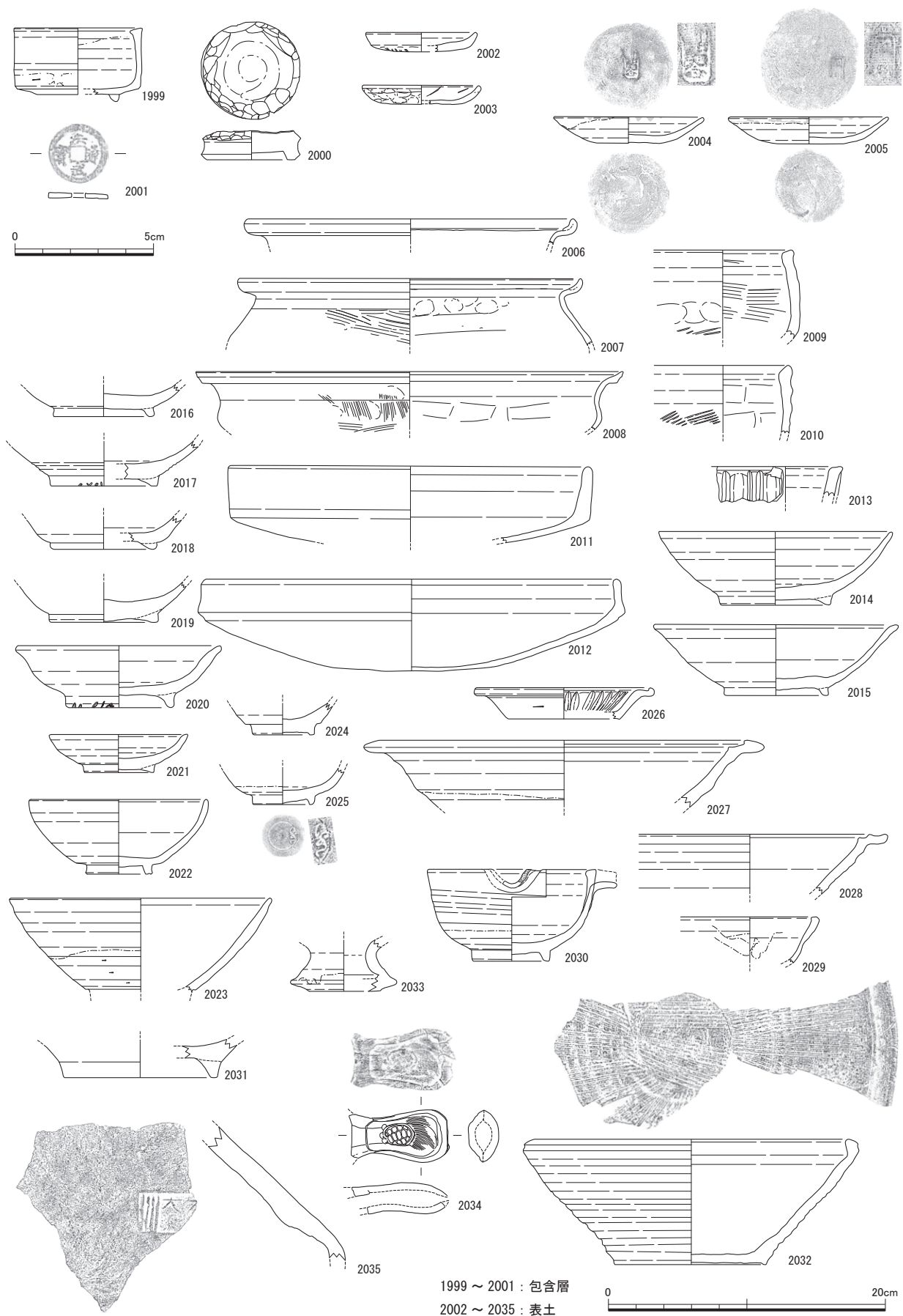
2002 ～ 2005 は、土師器の皿である。2002 は、底部外面には木目状の凹凸痕が残る。2003 の外面にはユビオサエによる指頭圧痕と粘土紐の接合痕残り、内面は工具ナデで調整されている。南伊勢系であり、伊藤編年中世Ⅲb期の14世紀末前後～15世紀前半のものと考えられる。2004・2005の底部には糸切痕残り、内面と口縁端部外面には透明釉が施され、口縁端部には煤が付着している。いずれも内面の見込みには方形の枠中に文字を配した印刻があり、2004には「口請合」の文字がみえる。大坂系であり、積山編年10段階～12段階の18世紀代のものと考えられる。

2006 ～ 2012 は、土師器の鍋または焙烙である。2006 ～ 2008 は南伊勢系、2009 ～ 2012 は播磨型または大坂系のものである。2006・2007 は、口縁端部の粘土が内側に折り返されて肥厚している。伊藤編年中世Ⅱb期の13世紀後半～14世紀前半のものと考えられる。2008 の口縁端部は外反し、端部は外側へと引き出されている。外面はハケメ、内面は工具ナデで調整されている。伊藤編年近世Ⅱa期の18世紀前半のものと考えられる。2009・2010 は播磨型のものである。端部に内傾面を持ち、外面は平行タタキ、内面は工具ナデで調整されている。長谷川編年Ⅶ期の16世紀後半～17世紀前半のものと考えられる。2011・2012 は大坂系のものである。2011 の口縁部は直立ぎみにのび、端部は丸く収められている。外面の口縁部と底部の境は明瞭に突出している。積山編年12段階以降の18世紀末前後～19世紀前半のものと考えられる。2012 は、口縁部と体部との境にケズリが施されている。外面には砂の付着がみられることから、型押しされたものとみられる。積山編年12段階の18世紀末前後のものと考えられる。2013 は、瓦質土器の風炉である。口縁部の破片で、外面にはギザミ状の凹凸がめぐる。大和系であり、14世紀後半～15世紀前半のものと考えられる<sup>(51)</sup>。

2014 ～ 2020 は、陶器の山茶碗である。2014・2015・2017・2020 は尾張型で、2020 は、口縁部がやや外反するもので、高台には靱殻痕が残る。尾張型第4型式の12世紀中頃～後半のものと考えられる。2016・2018・2019 は渥美湖西型とみられる。いずれも12世紀中頃～13世紀前半にかけてのものと考えられる。2021 は、陶器の山皿である。口縁部が内湾ぎみにのびるもので、高台の形状は逆三角形を呈する。東濃型の12世紀中頃～後半のものと考えられる。2022・2023 は陶器の碗である。2022 は、瀬戸・美濃製品の丸碗で、登窯第3段階第8小期の18世紀後半のものと考えられる。2023 は、瀬戸・美濃製品の平碗で、古瀬戸後期様式Ⅱ期～Ⅲ期の14世紀末前後～15世紀前半のものと考えられる。2024 は、陶器の天目茶碗である。2025 は、底部外面の見込みに崩れた字体で「清水」の印刻があることから、肥前系の京焼風陶器と考えられる<sup>(52)</sup>。17世紀後半頃のものと考えられる。2026 ～ 2028 は、陶器の皿である。2026 の内面には、削ぎによる花卉が施されている。瀬戸・美濃製品の折縁皿であり、大窯第4段階後半～末の16世紀末～17世紀初頭前後のものと考えられる。2027・2028 は、瀬戸・美濃製品の折縁深皿であり、2027 は古瀬戸中期様式Ⅳ期の14世紀中頃前後のもの、2028 は古瀬戸後期様式Ⅰ期の14世紀後半のものと考えられる。2029 は、陶器の卸皿とみられる。口縁端部は内側に引き出されて突出している。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸中期様式Ⅱ期の15世紀初頭前後のものと考えられる。

2030 は、陶器の片口鉢である。瀬戸・美濃製品であり、登窯期の18世紀中頃前後のものと考えられる。2031 は、陶器の鉢である。常滑製品であり、常滑第1段階4型式の12世紀末前後～13世紀前半のものと考えられる。2032 は、陶器の搦鉢である。口縁部は内側に折り曲げられ、端部は丸く収められている。2033 は、陶器の花瓶である。外面には釉が掛かり、内面は露胎となる。瀬戸・美濃製品であり、古瀬戸後期様式期の14世紀後半～15世紀後半のものと考えられる。2034 は、陶器の把手である。中空で先端が穿孔されており、上面には亀の文様がみられる。型押し成形されたものと考えられる。行





第IV -53 図 出土遺物実測図 53(1:4、2001 は 1:2)

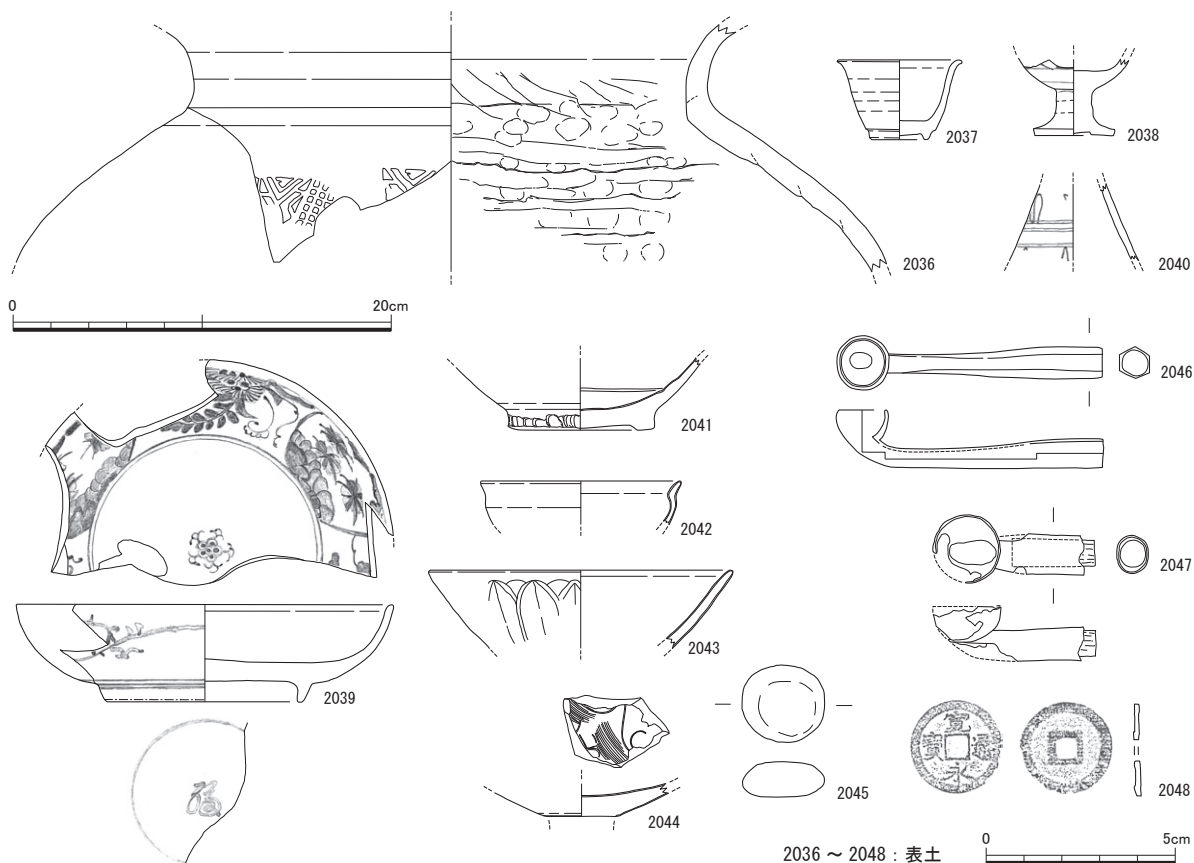


平鍋の把手の可能性があり、18世紀後半～19世紀前半の再興伊賀期の製品である可能性が考えられる<sup>(53)</sup>。2035・2036は、陶器の甕である。2025は外面に「大」の文字を意匠した押印<sup>(54)</sup>がある。2036には格子状と幾何学的な形状の押印<sup>(55)</sup>があり、内面は成形時のユビオサエによる指頭圧痕と粘土紐の接合痕が顕著に残る。いずれも常滑製品であり、常滑第1段階の12世紀前半～13世紀初頭前後のものと考えられる。

2037は、磁器の小坏である。肥前系であり、17世紀中頃～18世紀前半のものと考えられる。2038は、磁器の仏餉具である。外面には染付で文様などが描かれている。肥前系であり、17世紀末～19世紀中頃のものと考えられる。2039は、磁器の皿である。内外面には染付で文様が描かれている。外面には唐草文、内面には草花文、底部内面の見込みには五弁花文、底部外面の見込みにいわゆる渦福の「福」の文字がある。肥前系であり、17世紀後半～18世紀後半のものと考えられる。2040は、磁

器の瓶である。外面には染付で網目文が描かれている。肥前系とみられる。2041は、白磁の碗である。内面には圈線がめぐり、高台外面には細かな単位でケズり出された痕跡が残る。山本編年F期～G期の14世紀代のものと考えられる。2042・2043は、青磁の碗である。2042の口縁部は外反して端部は丸く収められている。釉の色調や胎土から国産のものと考えられる。2043の外面には鎬蓮弁文が施されている。龍泉窯系であり、山本編年D期～E期の13世紀代のものと考えられる。2044は、青磁の皿である。内面には櫛による条線と刻劃文の一部がみられる。龍泉窯系であり、山本編年D期の12世紀中頃～後半のものと考えられる。

2045は、碁石である。2046・2047は、銅製の煙管である。2046は雁首の部分で小口の形状は断面六角形である。19世紀代のものと考えられる<sup>(56)</sup>。2047は、雁首の破片であり、表面には緑青が付着し木棒が刺さった状態が残っている。2048は、銭貨の「寛永通寶」である。 (渡辺和仁)



第IV-54図 出土遺物実測図 54(1:4、2046～2048は1:2)

## 〔註〕

- (1) 佐藤竜馬 1994「⑤ 18～19世紀の土器・瓦について」『空港跡地遺跡発掘調査概報 平成5年度』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター、佐藤竜馬・濱野圭司 1995「近世讃岐における土器生産」『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要』Ⅲ 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- (2) 津野 仁 1990「古代・中世の鉄鏃」『物質文化』考古学民俗学研究 54 物質文化研究会
- (3) 安井俊則・中野晴久 2012「第4章特論 第1節押印・刻文」『愛知県史』別編 中世・近世 常滑系 愛知県
- (4) 用途については、推測の域を出ないが、手のひらに収まるサイズの大きさを、端部が尖っていることから、モノを割いたり切するための道具であった可能性を指摘しておきたい。
- (5) 和歌山市の紀ノ川と貴志川が合流する地点の周辺で滑石の産出が知られている。また、紀ノ川南岸にある奥山田遺跡からは滑石製の温石や石鍋の未製品が出土していることから、紀ノ川流域においても滑石製石鍋の生産地を指摘する意見がある（河内浩一 1991「和歌山県下における石鍋について」『中近世土器の基礎研究』Ⅶ 日本中世土器研究会、前田敬彦 1992「9. 奥山田遺跡 第3次」『和歌山県埋蔵文化財発掘調査年報』1 財団法人和歌山市文化体育振興事業団）。その可能性を排除することはできないが、現状においては紀ノ川流域での滑石製石鍋の生産が明確に示された状況でないことから、本遺跡の出土資料については、長崎県西彼杵半島産の可能性を示しておきたい。
- (6) 新田和央 2022「第6章 瓦質土器（火鉢・風炉）」『新版 中世土器・陶磁器』真陽社
- (7) 小川 望 2001「厨房具 2 火消壺」『図説江戸考古学研究事典』柏書房株式会社
- (8) 公益財団法人和歌山県文化財センター 2021『和歌山城跡』
- (9) 佐藤亜聖氏からのご教示による。
- (10) 前掲註 (2) に同じ。
- (11) 調査指導を受けた佐藤亜聖氏からのご教示による。当該品はカマドの上部であり、時期は中世の中で捉えられるという。
- (12) 前掲註 (4) に同じ。
- (13) 前掲註 (4) に同じ。
- (14) 古泉 弘 2021「喫煙 1 煙管」『図説 江戸考古学研究事典』柏書房株式会社
- (15) 前掲註 (9) に同じ。
- (16) 前掲註 (5) に同じ。
- (17) 前掲註 (4) に同じ。
- (18) 前掲註 (4) に同じ。
- (19) 三重県埋蔵文化財センター 1997『安濃津』
- (20) 前掲註 (4) に同じ。
- (21) 前掲註 (4) に同じ。
- (22) 小川 望 2001「灯火具 3 乗燭」『図説江戸考古学研究事典』柏書房株式会社
- (23) 前掲註 (22) に同じ。
- (24) 小川 望 2001「火具 3 焔炉と付属品」「厨房具 1 焔炉」『図説江戸考古学研究事典』柏書房株式会社
- (25) 大橋康二 1983「鍋島藩窯跡出土の京焼風陶器（上）－印銘を中心として－」『セラミック九州 佐賀県立九州陶磁文化館報』No. 7 佐賀県立九州陶磁文化館、大橋康二 1989『肥前陶磁』考古学ライブラリー 55 ニューサイエンス社、角谷江津子 2016「第3章 肥前京焼風陶器と京焼」『近世京焼の考古学的研究』雄山閣
- (26) 福島県教育委員会 1989『国営請戸川農業水利事業遺跡発掘調査報告 中平遺跡』、関根達人 1998「相馬藩における近世窯業

- 生産の展開」『東北大学埋蔵文化財調査年報』10 東北大学埋蔵文化財調査研究センター、成瀬晃司 2001「大堀相馬」『図説江戸考古学研究事典』柏書房株式会社
- (27) 中野晴久 2005「常滑・渥美」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』発表要旨集 全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会
  - (28) 大橋康二 1989『肥前陶磁』考古学ライブラリー 55 ニューサイエンス社
  - (29) 續伸一郎 1995「11. 貿易陶磁器 [3] 中世後期の貿易陶磁器」『概説中世の土器・陶磁器』真陽社
  - (30) 前掲註 (5) に同じ。
  - (31) 前掲註 (4) に同じ。
  - (32) 吉成承三 2007「四国の土製甕・羽釜・鍋－古代末から中世の土製煮炊具の様相－」『中近世土器の基礎研究』21 日本中世土器研究会
  - (33) 佐藤亜聖氏からのご教示による。
  - (34) 長谷部楽爾・今井 敦 1995『日本出土の中国陶磁』中国の陶磁② 平凡社、新宮市教育委員会・公益財団法人和歌山県文化財センター 2021『新宮城下町遺跡』、新宮市教育委員会 2022『新宮下本町遺跡総合調査報告書』
  - (35) 前掲註 (25) に同じ。
  - (36) 兵庫県教育委員会 1992『下相野窯址』、長谷川真 2005「丹波」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』資料集 全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会、田中照久・木村孝一郎 2005「越前窯」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』資料集 全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会
  - (37) 前掲註 (5) に同じ。
  - (38) 前掲註 (4) に同じ。
  - (39) 前掲註 (2) に同じ。
  - (40) 笹間良彦 1981『図録日本の甲冑武具辞典』柏書房株式会社、小川 望 2001「武器・武具 1 甲冑・具足」『図説江戸考古学研究事典』柏書房株式会社
  - (41) 佐藤亜聖氏からのご教示による。
  - (42) 前掲註 (41) に同じ。
  - (43) 前掲註 (5) に同じ。
  - (44) 当該の青磁器台は、北畠氏館跡第1次調査と第8次調査で出土している。美杉村教育委員会 1997『多気北畠氏遺跡発掘調査報告－北畠氏館跡Ⅰ－』、美杉村教育委員会 2002『多気北畠氏遺跡発掘調査報告－北畠氏館跡Ⅴ－』、美杉村教育委員会 2005『北畠氏館跡Ⅸ－多気北畠氏遺跡第26次調査・北畠氏館跡総括編－』
  - (45) 前掲註 (25) に同じ。
  - (46) 前掲註 (5) に同じ。
  - (47) 前掲註 (4) に同じ。
  - (48) 前掲註 (5) に同じ。
  - (49) 前掲註 (41) に同じ。
  - (50) 前掲註 (4) に同じ。
  - (51) 前掲註 (6) に同じ。
  - (52) 前掲註 (25) に同じ。
  - (53) 金子智子・前川嘉宏・竹内英昭 1999「阿山丸柱所在の弥助窯跡について」『研究紀要』第8号－創立10周年記念論文集－三重県埋蔵文化財センター
  - (54) 前掲註 (3) に同じ。
  - (55) 前掲註 (3) に同じ。
  - (56) 前掲註 (14) に同じ。

報告 №	実測 №	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0001	042-05 2次	土師器	甕	L-F10	SB20011 Pit14	SB2011 Pit14	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	5YR6/6	南伊勢系？
0002	040-02 2次	陶器	山茶碗	L-G10	SB20011 Pit1	SB2011 Pit1	15.2	—	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
0003	040-01 2次	陶器	山茶碗	L-G10	SB20011 Pit1	SB2011 Pit1	15.6	5.1	7.7	底部 7/12	外：ロクロナデ、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/3	尾張型 内面重ね焼き痕
0004	041-06 2次	陶器	山茶碗	L-G10	SB20011 Pit1	SB2011 Pit1	15.8	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
0005	041-08 2次	陶器	山茶碗	L-G10	SB20011 Pit1	SB2011 Pit1	—	—	7.0	底部 6/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ、ナデ	5Y7/1	尾張型
0006	042-08 2次	青磁	皿	L-F11	SB20011 Pit2	SB2011 Pit2	13.2	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y6/1 釉：7.5Y5/1	
0007	042-02 2次	土製品	土鍾	L-G12	SB20011 Pit6	SB2011 Pit6	—	幅 3.4	—	半欠	外：ナデ	10YR8/3	35.0g
0008	042-01 2次	土製品	土鍾	L-F10	SB20011 Pit2	SB2011 Pit2	長さ 4.0	幅 3.4	—	完存	外：ナデ	2.5Y7/2	37.8g
0009	043-01 2次	土師器	皿	L-E11	SB20030 Pit6	SB2030 Pit6	8.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ	10YR7/4	南伊勢系
0010	034-06 2次	土師器	焙烙	L-F13	SB20030 Pit2	Pit2	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR5/2	中讃型 孔が1対残る、外面 煤付着
0011	040-05 2次	陶器	山茶碗	L-G10	SB20030 Pit3	SB2030 Pit3	16.0	5.3	8.0	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
0012	040-04 2次	陶器	山茶碗	L-F11	SB20030 Pit10	SB2030 Pit10	—	—	7.0	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y6/2	
0013	019-05 2次	鉄製品	釘	L-F11	SB20030 Pit10	SB2030 Pit10	長さ 9.3	幅 1.1	厚さ 0.8	完存	—	—	16.6g
0014	041-02 2次	陶器	山茶碗	L-F10	SB20039 Pit15	SB2039 Pit15	—	—	7.2	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	尾張型
0015	041-03 2次	陶器	山茶碗	L-G11	SA20040 Pit10	SA2040 Pit10	—	—	8.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
0016	025-01 2次	陶器	山茶碗	L-E14	SA20044 Pit23	Pit23	14.2	5.3	6.8	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	5Y7/1	尾張型
0017	013-01 3次	陶器	山茶碗	L-N9	SB33014 Pit3	SB33014 Pit3	—	—	4.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	渥美湖西型
0018	013-02 3次	陶器	山茶碗	L-M9	SB33014 Pit2	SB33014 Pit2	—	—	9.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	渥美湖西型
0019	013-03 3次	陶器	山茶碗	L-N8	SB33015 Pit6	SB33015 Pit6	—	—	5.5	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y8/2	渥美湖西型
0020	010-09 4次	土製品	土鍾	L-O12	SB33016 Pit2	Pit2	長さ 3.8	幅 1.5	—	完存	外：ナデ	2.5Y7/2	6.7g
0021	123-07 3次	鉄製品	鉄鏃	L-M12	SA33022 Pit4	Pit4	—	幅 1.5	厚さ 1.5	完存	—	—	角根式
0022	027-04 3次	瓦器	椀	L-B17	SB34007 Pit13	SB34007 Pit13	12.4	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、ミガキ	N4/0	和泉型
0023	028-02 3次	陶器	山茶碗	L-B16	SB34007 Pit3	SB34007 Pit3	13.9	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、沈線	2.5Y7/2	尾張型
0024	027-03 3次	陶器	山茶碗	L-B16	SB34007 Pit3	SB34007 Pit3	—	—	6.5	底部 1/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
0025	114-02 3次	土師器	鍋	J-O14	SB37001 Pit3	SB37001 Pit3	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ハケム	2.5YR7/6	南伊勢系
0026	114-03 3次	土師器	鍋	J-P13	SB37001 Pit1	SB37001 Pit1	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7.5YR8/3	南伊勢系
0027	062-08 3次	陶器	山茶碗	J-O15	SB37001 Pit2	SB37001 Pit2	15.8	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、輪花 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
0028	114-06 3次	陶器	山茶碗	J-P13	SB37001 Pit1	SB37001 Pit1	16.0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N7/0	渥美湖西型
0029	062-06 3次	陶器	山茶碗	J-O15	SB37001 Pit2	SB37001 Pit2	16.5	5.7	7.5	底部 12/12	外：ロクロナデ、輪花、粉殻痕 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
0030	062-03 3次	陶器	山茶碗	J-O15	SB37001 Pit1	SB37001 Pit1	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
0031	062-07 3次	陶器	山茶碗	J-O15	SB37001 Pit2	SB37001 Pit2	—	—	6.4	底部 10/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、ナデ	N8/0	渥美湖西型
0032	063-02 3次	陶器	山茶碗	J-O14	SB37001 Pit3	SB37001 Pit3	—	—	7.2	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
0033	114-09 3次	白磁	碗	J-P13	SB37001 Pit1	SB37001 Pit1	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：5Y7/2	福建省系
0034	063-07 3次	白磁	壺	J-O13	SB37001 Pit5	SB37001 Pit5	—	—	8.6	底部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：7.5GY8/1	福建省系
0035	114-05 3次	土製品	土鍾	J-P13	SB37001 Pit1	SB37001 Pit1	長さ 4.1	幅 1.2	—	完存	外：ナデ	7.5YR8/3	4.9g
0036	114-04 3次	土製品	土鍾	J-P13	SB37001 Pit1	SB37001 Pit1	—	幅 1.8	—	半欠	外：ナデ	10YR8/2	6.4g
0037	064-01 3次	土師器	羽釜	J-O17	SB37008 Pit1	SB37008 Pit1	25.6	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	2.5YR6/6	外面煤付着
0038	066-05 3次	陶器	山茶碗	J-L19	SB37008 Pit5	SB37008 Pit5	15.9	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y6/1	尾張型
0039	064-02 3次	陶器	山茶碗	J-O19	SB37008 Pit1	SB37008 Pit1	—	—	6.2	底部 6/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	5Y7/1	渥美湖西型
0040	066-07 3次	陶器	山皿	J-L19	SB37008 Pit5	SB37008 Pit5	8.0	1.8	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5Y7/1	尾張型

第Ⅳ－1表 遺物観察表1

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0041	066-06 3次	陶器	山皿	J-L19	SB37008 Pit5	SB37008 Pit5	8.2	2.1	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y7/1	尾張型
0042	066-01 3次	石製品	石鍋	J-M17	SB37008 Pit3	SB37008 Pit3	—	—	—	体部 小片	外：鑿痕 内：擦痕	—	滑石製 肥前西彼杵半島 二次加工による転用品
0043	124-04 3次	鉄製品	釘	J-O17	SB37008 Pit1	SB37008 Pit1	—	幅 0.5	厚さ 0.5	一部欠	—	—	
0044	067-05 3次	陶器	山皿	J-G21	SB37010 Pit2	SB37010 Pit2	—	—	3.6	底部 6/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
0045	125-05 3次	鉄製品	釘	J-F21	SB37010 Pit1	SB37010 Pit1	—	幅 2.8	厚さ 0.8	小片	—	—	
0046	068-05 3次	陶器	山茶碗	J-H19	SB37013 Pit8	Pit8	14.8	4.6	5.5	口縁部 11/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	尾張型
0047	067-06 3次	陶器	山茶碗	J-I20	SB37013 Pit5	SB37013 Pit5	14.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N7/0	渥美湖西型
0048	068-04 3次	陶器	山茶碗	J-H21	SB37013 Pit12	SB37013 Pit12	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N7/0	尾張型
0049	067-09 3次	陶器	山皿	J-I20	SB37014 Pit7	SB37014 Pit7	—	—	4.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、粉殻痕 内：ロクロナデ	N8/0	尾張型
0050	068-06 3次	陶器	山皿	J-I20	SB37014 Pit8	SB37014 Pit8	—	—	5.0	底部 8/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y7/1	
0051	067-04 3次	陶器	山皿	J-G19	SB37016 Pit2	Pit2	7.7	1.5	4.5	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	尾張型
0052	067-03 3次	陶器	山茶碗	J-G19	SB37016 Pit2	Pit2	—	—	5.4	底部 4/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
0053	095-07 3次	陶器	山茶碗	J-K15	SB37019 Pit4	Pit4	15.0	6.1	7.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、輪花、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y7/1	渥美湖西型
0054	063-04 3次	陶器	山茶碗	J-K15	SB37020 Pit3	Pit3	—	—	7.2	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N7/0	渥美湖西型
0055	012-01 8次	陶器	甕	—	SA80019 Pit90	SB80019 Pit90抜取	—	—	—	体部 小片	外：ロクロナデ、押印・タタキ 内：ユビオサエ、ナデ、工具ナデ	2. 5YR5/2、5Y6/1	常滑
0056	012-02 8次	陶器	壺？	—	SA80019 Pit94	SB80019 Pit94抜取	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y7/1 釉：5Y7/3	
0057	012-03 8次	陶器	山皿	—	SB80021 Pit101	SB80021 Pit101抜取	10.0	2.9	5.7	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	5Y8/1	尾張型
0058	011-06 8次	陶器	山皿	—	SB80022 Pit113	SB80022 Pit113抜取	7.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2. 5Y8/1	尾張型
0059	046-01 10次	陶器	山皿	L-A11	SB80025 Pit1	Pit1	—	—	3.3	底部 6/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y8/2	
0060	046-08 10次	土師器	皿	J-W12	SB10024 Pit13	SB10024 Pit13	7.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ	10YR7/3	南伊勢系
0061	046-04 10次	陶器	山茶碗	L-V12	SB10024 Pit9	SB10024 Pit9	—	—	6.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、ナデ、粉殻痕 内：ロクロナデ	2. 5Y7/2	尾張型
0062	047-01 10次	陶器	壺	J-W12	SB10024 Pit13	SB10024 Pit13	10.2	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	7. 5YR3/1	
0063	047-03 10次	土師器	皿	J-W13	SB10025 Pit6	Pit6	—	—	—	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	7. 5YR8/4	ロクロ土師器
0064	046-06 10次	土師器	鍋または焙 焙	J-W12	SB10025 Pit8	Pit8	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7. 5YR5/6	南伊勢系 外面煤付着
0065	047-02 10次	土師器	器台？	J-W13	SB10025 Pit1	Pit1	16.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ミガキ 内：ヨコナデ、ミガキ	7. 5YR5/3	
0066	048-01 10次	陶器	山茶碗	J-X12	SB10030 Pit12	SB10030 Pit12	—	—	6.0	底部 2/12	外：ロクロナデ 内：ヨコナデ	2. 5Y7/2	渥美湖西型
0067	032-03 2次	土師器	鍋	L-I13	SK20005	SK2005	25.6	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ、平行タタキ、ケズリ 内：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	7. 5YR7/4	播磨型
0068	033-04 2次	陶器	皿	L-I13	SK20005	SK2005	11.4	3.0	6.4	底部 7/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、摺絵、施釉	素：2. 5Y6/1 釉：5Y7/2	瀬戸・美濃
0069	033-02 2次	陶器	皿	L-I13	SK20005	SK2005	—	—	6.6	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y7/2 釉：7. 5YR4/3、 10Y7/1	
0070	033-01 2次	陶器	鉢	L-I13	SK20005	SK2005	41.2	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、鉄絵、施釉 内：ロクロナデ、ロクロケズリ、鉄絵、施釉	素：5Y6/1 釉：2. 5Y7/1	瀬戸・美濃
0071	032-01 2次	陶器	播鉢	L-I13	SK20005	SK2005	27.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、播目、施釉	素：10YR7/3 釉：7. 5YR4/3	瀬戸・美濃
0072	032-02 2次	陶器	播鉢	L-I13	SK20005	SK2005	33.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ 内：ヨコナデ、播目	2. 5YR5/4	堺・明石系
0073	033-03 2次	磁器	碗	L-I13	SK20005	SK2005	—	—	3.2	底部 12/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	肥前系
0074	033-05 2次	磁器	碗	L-I13	SK20005	SK2005	—	—	4.3	底部 3/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7. 5Y7/1	肥前系 蛇ノ目釉剥ぎ
0075	032-04 2次	瓦	軒平瓦	L-I13	SK20005	SK2005	—	—	—	瓦当部 小片	四：ナデ 凸：ナデ	N4/0	唐草文
0076	039-01 2次	土師器	焙烙	L-I14	SK20007	SK2007	33.0	5.9	—	口縁部 10/12	外：ヨコナデ、ケズリ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	5YR7/6	大坂系
0077	038-01 2次	土師器	焙烙	L-I14	SK20007	SK2007	33.6	—	—	口縁部 5/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	5YR7/6	大坂系 外面煤付着
0078	027-02 2次	陶器	餌じょく	L-I14	SK20007	SK2007	5.1	2.4	5.0	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y8/2 釉：10G6/1	瀬戸・美濃
0079	027-01 2次	陶器	鉢	L-I14	SK20007	SK2007	—	—	17.8	底部 1/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、鉄絵、施釉	素：2. 5Y8/2 釉：2. 5Y8/2	瀬戸・美濃
0080	029-01 2次	陶器	片口鉢	L-I14	SK20007	SK2007	17.5	—	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、ナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/3 釉：2. 5Y5/4	瀬戸・美濃

第IV－2表 遺物観察表2

報告 №	実測 №	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0081	028-01 2次	陶器	蓋	L-I14	SK20007	SK2007	9.6	—	—	受部 4/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/1 釉：10GY5/1	内面煤付着
0082	027-04 2次	陶器	蓋	L-I14	SK20007	SK2007	7.0	1.4	3.0	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5Y8/1 釉：5Y6/2	瀬戸・美濃
0083	027-06 2次	陶器	壺	L-I14	SK20007	SK2007	6.5	7.5	5.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5Y8/1 釉：5GY8/1	瀬戸・美濃
0084	028-05 2次	陶器	壺	L-I14	SK20007	SK2007	7.2	7.9	4.8	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/3 釉：5GY8/1	瀬戸・美濃
0085	028-04 2次	陶器	播鉢	L-I14	SK20007	SK2007	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、播目、施釉	素：2.5GY2/1 釉：10R4/2	堺・明石系
0086	028-02 2次	磁器	碗	L-I14	SK20007	SK2007	6.2	5.3	3.5	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0 釉：5GY8/1	肥前系 コンニャク印判
0087	029-02 2次	磁器	碗	L-I14	SK20007	SK2007	9.1	5.1	3.7	底部 12/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0 釉：10GY8/1	肥前系
0088	027-05 2次	磁器	碗	L-I14	SK20007	SK2007	10.8	6.2	4.0	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0 釉：5GY7/1	瀬戸・美濃？
0089	028-03 2次	磁器	蓋	L-I14	SK20007	SK2007	9.4	2.4	3.6	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0 釉：5GY8/1	肥前系
0090	027-03 2次	磁器	鉢	L-I14	SK20007	SK2007	—	—	8.8	底部 6/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0 釉：7.5GY8/1	肥前系
0091	026-01 2次	瓦	軒平瓦	L-I14	SK20007	SK2007	—	—	—	瓦当部 小片	凹：ナデ、ケズリ 凸：ナデ	N3/0	唐草文
0092	018-02 2次	土師器	鍋	L-I・J14	SK20009	SK2009	24.4	—	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ、ナデ、ケズリ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR6/3	南伊勢系
0093	036-01 2次	土師器	鍋	L-I・J14	SK20009	SK2009	24.4	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ？ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR7/3	南伊勢系 内外面煤付着
0094	024-01 2次	土師器	鍋	L-I・J14	SK20009	SK2009	33.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、ケズリ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR6/2	南伊勢系
0095	037-01 2次	土師器	鍋	L-I・J14	SK20009	SK2009	24.9	—	—	口縁部 10/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	5YR6/4	播磨型 内外面煤付着
0096	036-02 2次	土師器	鍋	L-I・J14	SK20009	SK2009	26.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、格子タタキ 内：ヨコナデ、ナデ	5YR7/6	播磨型 外面煤付着
0097	035-01 2次	土師器	鍋	L-I・J14	SK20009	SK2009	25.2	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ、平行タタキ、工具ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR7/6	播磨型 外面煤付着
0098	024-03 2次	陶器	天目茶碗	L-I・J14	SK20009	SK2009	8.4	4.3	3.0	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：2.5YR2/1	瀬戸・美濃
0099	024-02 2次	陶器	皿	L-I・J14	SK20009	SK2009	10.0	2.5	6.4	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、摺絵、施釉	素：2.5Y8/1 釉：7.5Y7/3	瀬戸・美濃
0100	025-06 2次	土師器	皿	L-F14	SK20013	SK2013	10.0	1.65	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR8/3	
0101	025-07 2次	陶器	片口鉢	L-F14	SK20013	SK2013	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ロクロナデ	2.5YR4/1	常滑
0102	017-02 2次	土師器	皿	L-D15	SE20016	SK2016	7.0	1.7	4.4	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR8/4	ロクロ土師器
0103	017-03 2次	土師器	皿	L-D15	SE20016	SK2016	11.5	3.0	—	口縁部 4/12	外：摩耗により調整不明 内：摩耗により調整不明	10YR7/4	
0104	017-04 2次	土師器	皿	L-D15	SE20016	SK2016	11.6	3.4	—	口縁部 9/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR6/3	
0105	017-01 2次	須恵器	鉢	L-D15	SE20016	SK2016	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	10YR7/2	東播系
0106	016-01 2次	陶器	山茶碗	L-D15	SE20016	SK2016	—	—	7.5	底部 3/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：摩耗により調整不明	10YR7/1	尾張型
0107	016-02 2次	陶器	鉢	L-D15	SE20016	SK2016	—	—	10.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR5/1	
0108	016-03 2次	青磁	碗	L-D15	SE20016	SK2016	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、鎮蓮弁文、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/1 釉：5GY6/1	龍泉窯系
0109	033-07 2次	土師器	皿	L-E15	SK20019	SK2019	—	—	6.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	7.5YR8/2	ロクロ土師器
0110	041-01 2次	土師器	皿	L-E15	SK20019	SK2019	—	—	7.6	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	7.5YR8/4	ロクロ土師器
0111	033-06 2次	陶器	山茶碗	L-E15	SK20019	SK2019	17.0	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	10YR7/1	尾張型
0112	026-02 2次	陶器	山茶碗	L-D14・ 15	SK20020	SK2020	—	—	8.6	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉粒痕 内：ロクロ：ナデ	N8/0	尾張型 内面重ね焼き痕
0113	026-03 2次	陶器	甕	L-D14・ 15	SK20020	SK2020	—	—	9.6	底部 小片	外：ロクロナデ、ナデ、工具ナデ 内：ロクロ：ナデ	7.5YR5/3	常滑
0114	020-02 2次	鉄製品	鎌	L-G13	SK20021	SK2021	—	幅 5.0	厚さ 0.4	一部欠	—	—	
0115	025-02 2次	陶器	皿	L-E13	SK20023	SK2023	—	—	5.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y8/2	
0116	041-07 2次	土師器	鍋	L-F・G10	SK20025	SK2025	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	2.5Y7/3	南伊勢系
0117	019-06 2次	鉄製品	釘	L-F・G10	SK20025	SK2025	—	幅 0.7	厚さ 0.45	半欠	—	—	
0118	025-04 2次	土師器	皿	L-F・G11	SK20027	SK2027	11.6	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	2.5Y8/2	
0119	025-05 2次	土師器	皿	L-F・G11	SK20027	SK2027	11.8	2.6	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	2.5Y8/2	
0120	043-02 2次	土師器	鍋	L-F・G11	SK20027	SK2027	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着

第Ⅳ－３表 遺物観察表３



報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0121	018-01 2次	須恵器	鉢	L-F・G11	SK20027	SK2027	24.5	11.0	9.6	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ、ナデ		東播系 外面煤付着
0122	025-03 2次	陶器	皿	L-F・G11	SK20027	SK2027	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、櫛描条線、施釉 内：ロクロナデ、櫛描条線、施釉	素：5Y8/1 釉：7.5Y7/2	瀬戸・美濃
0123	019-08 2次	鉄製品	釘	L-F・G11	SK20027	SK2027	長さ 6.3	幅 1.5	厚さ 1.0	完存	—	—	
0124	026-08 2次	土製品	土錘	L-D10	SK20029	SK2029	—	幅 1.8	—	一部欠	外：ナデ	7.5YR8/3	7.6g
0125	026-07 2次	土製品	土錘	L-D10	SK20029	SK2029	—	幅 2.0	—	一部欠	外：ナデ	7.5YR7/4	11.5g
0126	026-05 2次	土製品	土錘	L-D10	SK20029	SK2029	長さ 4.1	幅 1.8	—	完存	外：ナデ	2.5YR7/6	10.7g
0127	026-06 2次	土製品	土錘	L-D10	SK20029	SK2029	長さ 4.2	幅 1.9	—	完存	外：ナデ	2.5YR7/6	11.7g
0128	019-04 10次	陶器	山茶碗	L-B11	SK20031	SK10034	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	渥美湖西型
0129	024-05 2次	陶器	碗	L-B10・ 11	SK20031	SK2031	—	—	5.0	底部 9/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/1 釉：10YR2/1	瀬戸・美濃
0130	024-04 2次	陶器	天目茶碗	L-B10・ 11	SK20031	SK2031	10.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5YR2/1	瀬戸・美濃
0131	026-04 2次	磁器	碗	L-B10・ 11	SK20031	SK2031	12.8	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	青花磁器？
0132	034-01 2次	陶器	天目茶碗	L-H13	SK20032	SK2032	10.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロケズリ、ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/3 釉：10YR2/1	瀬戸・美濃
0133	031-05 2次	陶器	天目茶碗	L-H13	SK20032	SK2032	10.8	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5YR4/3	瀬戸・美濃
0134	034-02 2次	陶器	壺	L-H13	SK20032	SK2032	11.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/3 釉：10YR5/6	瀬戸・美濃
0135	004-01 3次	土師器	台付皿	L-U2	SK31003	SK31003	8.6	2.6	4.8	底部 8/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ	10YR8/3	
0136	005-01 4次	土師器	皿	L-S3	SK31004	SK41008	12.0	2.9	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/2	
0137	005-02 4次	土師器	皿	L-S3	SK31004	SK41008	12.0	3.4	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/3	
0138	004-06 4次	土師器	皿	L-S3	SK31004	SK41008	12.4	—	—	口縁部 5/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/2	
0139	037-01 4次	陶器	山茶碗	L-S3	SK31004	SK41008	—	—	8.0	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y6/2	渥美湖西型
0140	004-02 3次	陶器	碗または片 口鉢	L-S3	SK31004	SK31004	—	—	5.8	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：2.5GY8/1	瀬戸・美濃 内面重ね焼き痕
0141	004-07 3次	磁器	碗	L-S3	SK31004	SK31004	—	—	3.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
0142	005-03 4次	瓦	丸瓦	L-S3	SK31004	SK41008	—	—	—	小片	凸：ヨコナデ、面取、ナデ 凹：面取、ナデ、棒状圧痕、布目痕	N2/0	
0143	006-03 3次	土師器	皿	L-Q3	SE31005 掘形	SE31005 掘形	8.8	1.6	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR8/3	
0144	110-07 3次	灰釉 陶器	碗	L-Q3	SE31005 掘形	SE31005 掘形	—	—	7.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	
0145	005-07 3次	陶器	天目茶碗	L-Q3	SE31005 掘形	SE31005 掘形	12.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：2.5YR2/1	瀬戸・美濃
0146	006-04 3次	陶器	皿	L-Q3	SE31005 井戸枠内	SE31005 井戸枠内	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：7.5Y5/3	瀬戸・美濃
0147	005-08 3次	陶器	擂鉢	L-Q3	SE31005 I層	SE31005 I層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/1 釉：5YR4/2	瀬戸・美濃
0148	005-09 3次	陶器	擂鉢	L-Q3	SE31005 I層	SE31005 I層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、擂目	素：10R6/6 釉：7.5YR5/3	堺・明石系
0149	006-05 3次	石製品	砥石	L-Q3	SE31005 掘形	SE31005 掘形	—	幅 5.7	厚さ 1.5	一部欠	擦痕	—	
0150	004-04 3次	土師器	皿	L-R2	SK31008	SK31008	10.4	1.9	6.4	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR8/3	
0151	004-03 3次	陶器	皿	L-R2	SK31008	SK31008	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5YR8/3 釉：5Y6/4	瀬戸・美濃
0152	004-08 3次	土師器	羽釜	L-Q3	SK31012	SK31012	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ	10YR8/3	外面煤付着
0153	120-02 3次	磁器	仏餉具	L-P2	SK31013	SK31013	7.0	6.3	4.0	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ	素：9/0	肥前系
0154	004-05 3次	土師器	鍋	L-O2	SK31014	SK31014	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7.5YR7/4	南伊勢系 外面煤付着
0155	004-06 3次	土師器	鍋	L-O3 L-P3	SK31014	SK31014	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/3	南伊勢系 外面煤付着
0156	096-06 3次	石製品	円盤状製品	L-O3 L-P3	SK31014	SK31014	径 6.3	厚さ 1.4	—	—	端部打ち欠き、表面剥離	—	77.0g
0157	003-04 3次	土師器	皿	K-R23・ 24	SE31016	SE31016 6層	11.0	3.1	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	10YR8/2	
0158	006-02 3次	土師器	皿	K-R23	SE31016 掘形	SE31016 掘形	11.2	3.1	—	口縁部 9/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0159	003-05 3次	土師器	皿	K-R23・ 24	SE31016 I層	SE31016 I層	11.5	3.2	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0160	003-03 3次	土師器	鍋	K-R23・ 24	SE31016 I層	SE31016 I層	25.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ？	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着

第IV－4表 遺物観察表4

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0161	003-01 3次	陶器	鉢	K-R23・ 24	SE31016	SE31016 II層	—	—	11.6	底部 5/12	外：工具ナデ 内：摩耗により調整不明	5YR7/6	常滑
0162	002-02 3次	陶器	山茶碗	L-02	SK31019	SK31019	—	—	6.3	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
0163	009-03 3次	陶器	碗	L-R9	SE32002	SK32002	10.8	7.8	4.8	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/2 釉：7.5Y7/2	瀬戸・美濃
0164	009-02 3次	陶器	皿	L-R9	SE32002	SK32002	—	—	7.2	底部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/2 釉：7.5Y6/3	肥前系
0165	009-01 3次	陶器	甕	—	SE32002	SK32002	32.7	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、ユビオサエ	7.5YR5/2 7.5YR3/2	常滑
0166	009-04 3次	磁器	碗	—	SE32002	SK32002	11.1	5.4	4.5	底部 9/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	肥前系 コンニャク印判
0167	124-01 3次	鉄製品	釘	L-R9	SE32002	SK32002	—	幅 0.8	厚さ 0.8	一部欠	—	—	
0168	009-06 3次	陶器	描鉢	L-Q8	SE32003	SK32003	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、描目	5YR4/2	堺・明石系
0169	009-05 3次	陶器	碗	L-Q8	SE32003	SK32003	—	—	4.3	底部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	素：10R5/4	肥前系
0170	010-02 3次	土師器	皿	L-P6	SE32005	SK32005	—	—	6.6	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ、ナデ	7.5YR8/4	ロクロ土師器
0171	010-03 3次	土師器	皿	L-P6	SE32005	SK32005	—	—	7.0	底部 1/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ナデ	7.5YR7/4	ロクロ土師器
0172	009-07 3次	土師器	台付皿	L-P6	SE32005	SK32005	—	—	6.1	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5YR8/2	ロクロ土師器
0173	010-01 3次	陶器	甕	L-P6	SE32005	SK32005	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5Y5/1	渥美
0174	015-03 3次	土師器	皿	L-M10	SE33003	SK33003	11.2	3.2	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	2.5YR8/3	
0175	095-03 3次	土師器	皿	L-M10	SE33003	SE33003 2層	11.5	2.7	—	口縁部 8/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	2.5YR8/1	内外面煤付着
0176	115-02 3次	土師器	皿	—	SE33003	SK33003	12.2	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	南伊勢系
0177	017-02 3次	青磁	碗	—	SE33003	SK33003	14.8	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、鎮蓮弁文、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/1 釉：7.5GY7/1	龍泉窯系
0178	017-03 3次	青磁	碗	L-M10	SE33003	SK33003	16.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、鎮蓮弁文、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/1 釉：10GY8/1	龍泉窯系
0179	021-04 3次	土師器	台付皿	L-N11	SK33007	SK33007	10.6	2.2	—	口縁部 10/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	10YR8/1	
0180	076-02 3次	土師器	皿	—	SE33008	SK33008 6層	9.0	1.8	—	口縁部 9/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	2.5YR8/2	
0181	022-02 3次	土師器	皿	L-M12	SE33008	SK33008	10.8	3.0	—	口縁部 8/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR8/3	
0182	022-01 3次	土師器	皿	L-M12	SE33008	SK33008	11.6	3.3	—	口縁部 11/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR8/3	
0183	095-04 3次	土師器	台付皿	L-M12	SE33008	SE33008 2層	10.0	2.2	5.2	底部 12/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ	10YR8/3	
0184	022-03 3次	土師器	鍋	L-M12	SE33008	SK33008	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7.5YR8/3	南伊勢系 外面煤付着
0185	095-02 3次	瓦器	椀	L-M12	SE33008	SE33008 6層	12.6	3.9	4.8	底部 6/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、ミガキ、暗文	N5/0	紀伊型
0186	101-03 3次	陶器	山茶碗	L-M12	SE33008	SK33008	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	10R5/6	尾張型
0187	022-04 3次	土師器	鍋	L-N13	SE33009	SK33009	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR4/1	南伊勢系 外面煤付着
0188	023-02 3次	土師器	羽釜	L-N13	SE33009	SK33009 2層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR8/2	南伊勢系 外面煤付着
0189	022-05 3次	陶器	山茶碗	L-N13	SE33009	SK33009	—	—	7.0	底部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N7/0	渥美湖西型
0190	023-03 3次	白磁	皿	L-N13	SE33009	SK33009 2層	—	—	5.2	底部 3/12	外：ロクロナデ、ヘラ切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：7.5GY8/1	福建省系
0191	022-06 3次	青磁	碗	L-N13	SE33009	SK33009	15.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、刻劃文、施釉	素：N8/0 釉：5GY7/1	龍泉窯系
0192	023-01 3次	石製品	石鍋	L-N13	SE33009	SK33009	12.8	—	—	口縁部 1/12	外：鑿痕 内：鑿痕	—	滑石製 肥前西彼杵半島
0193	023-05 3次	土師器	台付皿	L-N13	SK33011	SK33011	10.2	2.4	5.2	底部 6/12	外：ヨコナデ、ナデ、工具痕？ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	7.5YR8/4	
0194	023-04 3次	陶器	描鉢	L-N13	SK33011	SK33011	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	10R5/4	備前
0195	026-04 3次	磁器	碗	L-N13	SK33011	SK33011	—	—	4.4	底部 6/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5YR8/2	肥前系
0196	097-01 3次	土師器	鍋	L-L11	SK33013	SK33013	28.2	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR6/3	南伊勢系 外面煤付着
0197	025-01 3次	陶器	山茶碗	L-L11	SK33013	SK33013	14.4	5.1	5.6	底部 8/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ、ナデ	5Y7/2	尾張型
0198	095-01 3次	土師器	皿	L-A16	SK34001	SK34001	10.8	3.3	—	口縁部 12/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR8/3	
0199	029-03 3次	土師器	皿	L-A16	SK34001	SK34001	11.2	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/3	底部煤付着
0200	029-04 3次	土師器	皿	J-Y16	SK34002	SK34002	11.5	3.1	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：摩滅により調整不明	10YR8/2	

第Ⅳ－5表 遺物観察表5

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0201	029-02 3次	須恵器	鉢	J-Y16	SK34002	SK34002	24.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	東播系 外面煤付着
0202	028-06 3次	陶器	鉢	J-Y16	SK34002	SK34002	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5Y6/1	
0203	029-01 3次	土師器	焙烙	L-F17	SK34003	SK34003	24.0	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	5YR6/4	大坂・明石系 外面煤付着
0204	028-04 3次	陶器	甕	L-F17	SK34003	SK34003	—	—	15.6	底部 2/12	外：ロクロナデ、工具痕？ 内：ロクロナデ	7.5YR7/4	
0205	028-05 3次	青磁	碗	L-F17	SK34003	SK34003	—	—	4.4	底部 9/12	外：ロクロケズリ、櫛描条線、施釉 内：ロクロナデ、陰刻？、施釉	素：5Y6/1 釉：5Y6/2	同安窯系？
0206	028-03 3次	土師器	鍋	L-D16	SK34004	SK34004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7.5YR7/4	南伊勢系 外面煤付着
0207	095-05 3次	陶器	皿	L-D16	SK34004	SK34004	9.8	2.6	4.4	底部 10/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：7.5YR4/6	瀬戸・美濃 外面重ね焼き痕
0208	027-08 3次	瓦質 土器	風炉	L-D15	SK34005	SK34005	—	—	—	口縁部？ 小片	外：ナデ、キザミ状凹凸 内：ナデ	10YR6/4	大和系
0209	027-05 3次	陶器	皿	L-F15	SK34006	SK34006	—	—	5.8	底部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/3 釉：2.5Y8/3	瀬戸・美濃 内面重ね焼き痕
0210	077-04 3次	縄文 土器	深鉢	L-H15	SK34008	SD34008	—	—	—	口縁部 小片	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR6/6	
0211	116-07 3次	土師器	皿	L-H15	SK34008	SD34008	5.7	1.1	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	5YR7/6 釉：透	大坂系 ロクロ土師器 外面口縁部煤付着
0212	116-06 3次	土師器	皿	L-H15	SK34008	SD34008	6.0	1.1	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	5YR7/6 釉：透	大坂系 ロクロ土師器
0213	116-05 3次	土師器	皿	L-H15	SK34008	SD34008	6.0	1.3	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	5YR7/8 釉：透	大坂系 ロクロ土師器
0214	116-04 3次	土師器	皿	L-H15	SK34008	SD34008	9.3	1.9	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	5YR7/8 釉：透	大坂系 ロクロ土師器 外面口縁部煤付着
0215	116-03 3次	土師器	皿	L-H15	SK34008	SD34008	9.4	1.8	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	5YR6/6 釉：透	大坂系 ロクロ土師器
0216	116-02 3次	土師器	皿	L-H15	SK34008	SD34008	—	—	—	底部 小片	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ、印刻、施釉	5YR7/6 釉：透	大坂系 ロクロ土師器
0217	116-01 3次	土師器	焙烙	L-H15	SK34008	SD34008	27.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ	5YR7/4	大坂系 外面煤付着
0218	115-05 3次	土師質 土器	蓋	L-H15	SK34008	SD34008	16.4	3.3	—	口縁部 7/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	7.5YR6/4	内外面煤付着
0219	034-01 3次	土師質 土器	風炉	L-H15	SK34008	SD34008	—	—	47.4	底部 7/12	外：ロクロナデ、塗料塗布 内：ロクロナデ、工具ナデ	素：10YR7/4 釉：2.5YR5/6	内面煤付着
0220	033-01 3次	陶器	碗	L-H15	SK34008	SD34008	6.4	3.9	2.9	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1 釉：5Y8/2	瀬戸・美濃
0221	032-03 3次	陶器	碗	L-H15	SK34008	SD34008	10.0	6.7	5.1	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1 釉：5YR4/3	瀬戸・美濃
0222	121-01 3次	陶器	碗	L-H15	SK34008	SD34008	—	—	3.8	底部 7/12	外：ロクロナデ？、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ？、施釉	素：2.5Y8/1 釉：10Y7/1	瀬戸・美濃 底部外面に墨書
0223	030-02 3次	陶器	皿	L-H15	SK34008	SD34008	20.6	6.1	8.6	底部 11/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：2.5Y7/3	瀬戸・美濃
0224	115-04 3次	陶器	鉢	L-H15	SK34008	SD34008	—	—	12.5	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉、トチン痕	素：2.5Y8/2 釉：7.5Y6/3	瀬戸・美濃 底部外面に墨書
0225	113-02 3次	陶器	瓶掛	L-H15	SK34008	SD34008	—	—	—	底部 3/12	外：ロクロナデ、型押し、ナデ、施文、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：7.5Y6/4/1	瀬戸・美濃 内面煤付着
0226	031-02 3次	陶器	撞鉢	L-H15	SK34008	SD34008	31.2	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、撞目	2.5YR5/4	備前
0227	031-01 3次	陶器	撞鉢	L-H15	SK34008	SD34008	31.4	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ、撞目	2.5YR4/4	堺・明石系
0228	032-01 3次	陶器	鍋	L-H15	SK34008	SD34008	20.6	12.0	7.6	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y6/1 釉：5YR3/3	瀬戸・美濃？ 底部外面煤付着
0229	032-02 3次	陶器	壺	L-H15	SK34008	SD34008	9.0	11.7	8.4	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、櫛描沈 線、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5Y6/1 釉：2.5Y5/4	瀬戸・美濃
0230	033-02 3次	陶器	土瓶	L-H15	SK34008	SD34008	7.0	12.5	8.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5YR6/4 釉：5YR4/3	京都・信楽系？
0231	033-03 3次	陶器	汁次	L-H15	SK34008	SD34008	7.0	8.1	5.6	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/1 釉：7.5YR4/4	瀬戸・美濃 底部外面に墨書
0232	117-02 3次	磁器	碗	L-H15	SK34008	SD34008	9.6	5.0	4.0	底部 10/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/1	肥前系
0233	099-01 3次	青磁	香炉	L-H15	SK34008	SD34008	—	—	—	脚部 小片	型押し、施文	素：10YR8/1 釉：5GY7/1	国産青磁
0234	117-01 3次	青磁	壺	L-H15	SK34008	SD34008	—	—	4.6	底部 7/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ	素：2.5Y7/2 釉：10Y7/1	
0235	115-03 3次	石製品	硯 (砥石)	L-H15	SK34008	SD34008	11.5	7.4	2.0	完存	擦痕	—	328.6g 砥石として再利用
0236	085-01 3次	土師器	焙烙	L-H16	SK34010	SK34010	23.0	—	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR6/6	大坂・明石系 外面煤付着
0237	087-02 3次	土師器	焙烙	L-H16	SK34010	SK34010	26.2	5.5	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	5YR6/6	大坂・明石系
0238	089-01 3次	土師器	焙烙	L-H16	SK34010	SK34010	26.0	5.0	—	口縁部 5/12	外：ヨコナデ、ナデ？ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR4/4	大坂・明石系 外面煤付着
0239	087-01 3次	土師器	焙烙	L-H16	SK34010	SK34010	27.8	—	—	口縁部 5/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	5YR6/6	大坂・明石系 外面煤付着
0240	119-02 3次	陶器	土瓶	L-H16	SK34010	SK34010	—	—	6.4	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施文、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5Y7/3	京都・信楽系？ 底部外面に墨書

第IV－6表 遺物観察表6

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0241	088-02 3次	陶器	壺	L-H16	SK34010	SK34010	13. 8	—	—	底部 3/12	外：ナデ 内：ロクロナデ	2. 5YR5/3	備前？
0242	048-05 3次	陶器	山皿または 山茶碗	J-W17	SK35002	SK35009	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
0243	048-04 3次	土師器	皿	—	SE35010 掘形	SK35010 掘形	—	—	6. 2	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	7. 5YR8/4	ロクロ土師器
0244	110-08 3次	陶器	山茶碗	J-V18	SE35010	SK35010	—	—	6. 0	底部 4/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2. 5Y8/1	渥美湖西型
0245	099-05 3次	青磁	碗	J-V18	SE35010	SK35010	14. 2	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y8/2 釉：5Y6/2	
0246	048-03 3次	青磁	碗	—	SE35010 抜取	SK35010 抜取	16. 8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、陰刻、施釉	素：N8/0 釉：7. 5Y7/2	
0247	058-03 3次	陶器	卸皿	J-S14	SE36004	SE36004	13. 2	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、卸目、施釉	素：10YR8/3 釉：5Y6/3	瀬戸・美濃
0248	061-04 3次	土師器	羽釜	J-V15	SE36007	SE36007	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	5YR6/4	外面煤付着
0249	107-01 3次	陶器	片口鉢	J-V15	SE36007	SE36007	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2. 5YR5/3 N7/0	常滑
0250	099-06 3次	白磁	碗	J-V15	SE36007	SE36007	14. 0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1 釉：10Y8/1	福建省系
0251	060-04 3次	白磁	碗	J-V15	SE36007	SE36007	—	—	5. 4	底部 2/12	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：7. 5Y7/2	福建省系
0252	072-05 3次	土師器	皿	J-M20	SK37003	SK37003	9. 4	1. 8	—	口縁部 5/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR7/3	歪み顕著
0253	072-02 3次	土師器	皿	J-M20	SK37003	SK37003	13. 5	3. 2	—	口縁部 9/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ、線刻 内：ヨコナデ	10YR8/3	底部に線刻3条
0254	073-02 3次	土師器	鍋？	J-M20	SK37003	SK37003	18. 0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	2. 5Y4/1	外面煤付着
0255	074-03 3次	陶器	山茶碗	J-M20	SK37003	SK37003	14. 4	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、輪花 内：ロクロナデ	2. 5Y7/1	渥美湖西型
0256	074-02 3次	陶器	山茶碗	J-M20	SK37003	SK37003	15. 6	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2. 5Y7/2	尾張型
0257	073-05 3次	陶器	山茶碗	J-M20	SK37003	SK37003	16. 0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2. 5Y7/1	渥美湖西型
0258	074-01 3次	陶器	山茶碗	J-M20	SK37003	SK37003	17. 2	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5Y7/1	渥美湖西型
0259	107-07 3次	陶器	山茶碗	J-M20	SK37003	SK37003	—	—	7. 2	底部 1/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
0260	073-03 3次	陶器	山茶碗	J-M20	SK37003	SK37003	—	—	7. 4	底部 6/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y7/1	渥美湖西型
0261	073-04 3次	陶器	山茶碗	J-M20	SK37003	SK37003	—	—	7. 4	底部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5Y7/1	渥美湖西型
0262	074-04 3次	陶器	山茶碗	J-M20	SK37003	SK37003	—	—	7. 4	底部 6/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	5Y7/1	渥美湖西型
0263	074-07 3次	陶器	山皿	J-M20	SK37003	SK37003	8. 4	2. 0	4. 2	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y7/2	渥美湖西型
0264	074-05 3次	陶器	山皿	J-M20	SK37003	SK37003	8. 6	2. 4	3. 8	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y7/1	渥美湖西型
0265	074-06 3次	陶器	山皿	J-M20	SK37003	SK37003	8. 8	1. 9	4. 2	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y6/2	渥美湖西型
0266	107-08 3次	陶器	山皿	J-M20	SK37003	SK37003	—	—	4. 4	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
0267	073-01 3次	陶器	片口鉢	J-M20	SK37003	SK37003	40. 0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2. 5Y7/1	渥美
0268	108-01 3次	陶器	片口鉢	J-M20	SK37003	SK37003	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5YR6/2	常滑
0269	072-01 3次	陶器	甕	J-M20	SK37003	SK37003	—	—	—	底部 小片	外：タタキ（無文の板状工具？）、ナデ、施釉 内：工具ナデ、ナデ？	素：2. 5Y7/2 釉：7. 5YR4/4	常滑？
0270	072-03 3次	青磁	碗	J-M20	SK37003	SK37003	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/2 釉：2. 5GY6/1	
0271	069-01 3次	陶器	山茶碗	J-M17	SK37004	SK37004	—	—	7. 0	底部 9/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y7/1	渥美湖西型
0272	069-02 3次	陶器	山茶碗	J-M17	SK37004	SK37004	—	—	8. 0	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y7/1 10YR7/2	
0273	069-04 3次	陶器	山茶碗	J-G21	SE37009	SK37009	18. 0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2. 5Y7/2	尾張型
0274	069-05 3次	灰釉 陶器？	碗	J-G21	SE37009	SK37009	—	—	7. 3	底部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2. 5Y7/1	
0275	071-02 3次	陶器	山皿	J-G21	SE37009	SK37009 ①層	8. 0	1. 6	5. 0	底部 6/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y6/3	渥美湖西型
0276	067-02 3次	陶器	山茶碗	J-M18	SK37012	SK37012	14. 8	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、輪花 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
0277	069-03 3次	陶器	山茶碗	J-M18	SK37012	SK37012	—	—	7. 0	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR7/1 10YR7/2	渥美湖西型 底部外面に墨書
0278	079-01 3次	陶器	瓶	J-M18 J-L19・ 20	SK37012	SK37012 Pit4 Pit1	25. 4	46. 3	13. 0	底部 8/12	外：ロクロナデ、ナデ、格子タタキ、線刻 内：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ	5Y5/1	常滑
0279	067-01 3次	陶器	壺	J-M18	SK37012	SK37012	10. 4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、櫛描文 内：ロクロナデ	N8/0	常滑
0280	078-01 3次	陶器	甕	J-M18	SK37012	SK37012	47. 2	—	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、格子タタキ 内：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ	10YR5/2	渥美

第Ⅳ－7表 遺物観察表7

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0281	033-04 4次	縄文 土器	深鉢	L-V3	SK41002 掘形	SK41002 掘形	—	—	—	口縁部 小片	外：ミガキ、条線、ナデ 内：ミガキ、ナデ	7. 5YR7/4	
0282	033-01 4次	縄文 土器	深鉢	L-V3	SK41002 掘形	SK41002 掘形	—	—	—	体部 小片	外：条線 内：ミガキ	7. 5YR7/4	
0283	033-02 4次	縄文 土器	深鉢	L-V3	SK41002 掘形	SK41002 掘形	—	—	—	体部 小片	外：条線 内：ミガキ	7. 5YR6/4	
0284	033-05 4次	縄文 土器	深鉢	L-V3	SK41002 掘形	SK41002 掘形	—	—	—	体部 小片	外：条線 内：ミガキ	7. 5YR7/4	
0285	033-03 4次	縄文 土器	深鉢	L-V3	SK41002 掘形	SK41002 掘形	—	—	11. 0	底部 2/12	外：条線、ナデ 内：ミガキ	7. 5YR6/4	
0286	036-04 4次	陶器	鉢	L-V3	SK41002 掘形	SK41002 掘形？	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、工具ナデ、ユビオサエ 内：ロクロナデ、ナデ	5YR6/4 2. 5Y5/2	常滑
0287	004-02 4次	土師器	皿	L-T4	SK41004	SK41004	6. 3	1. 5	—	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	7. 5YR6/6	大坂系 ロクロ土師器 内外面煤付着
0288	004-03 4次	土師器	皿	L-T4	SK41004	SK41004	6. 4	1. 4	—	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	7. 5YR7/6	大坂系 ロクロ土師器 外面煤付着
0289	004-04 4次	土師器	皿	L-T3	SK41007	SK41007	11. 4	3. 1	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0290	004-05 4次	土師器	焙烙	L-T3	SK41007	SK41007	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ、押圧痕？ 内：ヨコナデ	7. 5YR5/4	大坂・堺系 外面煤付着
0291	006-01 4次	土師器	鍋	L-R3	SK41009	SK41009	26. 5	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR7/4	南伊勢系 外面煤付着
0292	037-02 4次	陶器	山茶碗	L-R3	SK41009	SK41009	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2. 5Y7/1	
0293	009-07 4次	土師器	皿	L-P5	SK41010	SK41010 Na6	9. 3	2. 7	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、ナデ	2. 5Y8/1	内外面煤付着
0294	006-02 4次	土師器	皿	L-P5	SK41010	SK41010 Na1	10. 5	3. 2	—	口縁部 10/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0295	006-03 4次	土師器	皿	L-P5	SK41010	SK41010 Na5	10. 6	3. 0	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/1	
0296	006-04 4次	土師器	皿	L-P5	SK41010	SK41010 Na9	10. 6	3. 3	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/2	
0297	009-06 4次	土師器	皿	L-P5	SK41010	SK41010 Na3	10. 8	3. 1	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	摩耗顕著
0298	009-03 4次	土師器	皿	L-P5	SK41010	SK41010	11. 4	3. 3	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	10YR8/3	
0299	009-04 4次	土師器	皿	L-P5	SK41010	SK41010	11. 6	—	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	2. 5Y8/1	
0300	009-05 4次	土師器	皿	L-P5	SK41010	SK41010	12. 0	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	摩耗顕著
0301	007-08 4次	土師器	皿	L-O10	SE42001	SE42001	9. 0	—	—	底部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ	2. 5Y8/1	
0302	010-04 4次	土師器	皿	L-O13	SE42001	SE42001 Ⅱ層	11. 5	3. 4	—	口縁部 5/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/2	
0303	007-06 4次	土師器	皿	L-O10	SE42001	SE42001 中層	11. 5	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	2. 5Y8/1	
0304	008-06 4次	土師器	皿	L-P11	SE42001	SE42001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	内外面煤付着
0305	007-03 4次	土師器	台付皿	L-O13	SE42001	SE42001 3層	—	—	4. 2	底部 12/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0306	007-02 4次	土師器	台付皿	L-O13	SE42001	SE42001 3層	—	—	5. 5	底部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0307	007-07 4次	土師器	台付皿	L-O10	SE42001	SE42001 下層	—	—	5. 6	底部 12/12	外：ロクロナデ？、ナデ 内：ロクロナデ？	10YR8/2	
0308	007-01 4次	土師器	台付皿	L-O13	SE42001	SE42001 上層	—	—	5. 7	底部 5/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0309	008-03 4次	土師器	台付皿	L-P11	SE42001	SE42001 上層	—	—	6. 0	底部 9/12	外：ロクロナデ、ナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	7. 5YR8/2	
0310	008-01 4次	土師器	羽釜	L-O13	SE42001	SE42001 3層	17. 2	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	7. 5YR6/3 10YR7/3	南伊勢系 内外面煤付着
0311	007-04 4次	土師器	羽釜	L-O13	SE42001	SE42001 Ⅲ層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ	10YR6/2	南伊勢系 外面煤付着
0312	007-05 4次	土師器	羽釜	L-O13	SE42001	SE42001 3層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR6/2	南伊勢系 外面煤付着
0313	008-04 4次	土師器	羽釜	L-P11	SE42001	SE42001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR6/2	南伊勢系
0314	008-05 4次	土師器	羽釜	L-P11	SE42001	SE42001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7. 5YR6/3	南伊勢系
0315	038-03 4次	陶器	山茶碗	L-O13	SE42001	SE42001 Ⅱ層	—	—	7. 4	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	10YR7/1	尾張型
0316	038-01 4次	陶器	鉢	L-P11	SE42001	SE42001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2. 5Y6/1	常滑
0317	010-02 4次	白磁	皿	L-O13	SE42001	SE42001 Ⅲ層	—	—	4. 4	底部 12/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：10Y7/1	福建省系
0318	010-01 4次	白磁	皿	L-O13	SE42001	SE42001 Ⅲ層	8. 8	1. 4	4. 8	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、型押し、施文、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：N8/0	
0319	010-03 4次	白磁	壺	L-P11	SE42001	SE42001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：5GY7/1	福建省系
0320	008-02 4次	石製品	硯	L-O10	SE42001	SE42001 中層	—	幅 5. 0	厚さ 1. 0	小片	擦痕	—	

第Ⅳ－８表 遺物観察表８



報告 №	実測 №	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0321	093-01 4次	鉄製品	刀子?	L-013	SE42001	SE42001 皿層	—	幅 1.1	厚さ 0.7	半欠	—	—	
0322	010-07 4次	土師器	台付皿	L-P11	SE42003	SE42003	—	—	5.4	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕、ナデ 内：ナデ	10YR8/2	
0323	010-06 4次	土師器	台付皿	L-P11	SE42003	SE42003 中層	—	—	7.2	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ナデ	2.5Y8/1	
0324	010-05 4次	土師器	鍋	L-P11	SE42003	SE42003 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7.5YR7/2	南伊勢系
0325	057-07 4次	鉄製品	鉄鏃	L-P11	SE42003	SE42003	—	幅 1.3	厚さ 0.7	一部欠	—	—	鑿根式
0326	010-08 4次	土師器	皿	L-P12	SE42004	SE42004	—	—	—	体部 3/12	外：ナデ? 内：ナデ?	10YR8/2	
0327	038-02 4次	陶器	碗	L-07	SK42008	SK42008	—	—	5.1	底部 4/12	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5YR4/3	瀬戸・美濃
0328	038-04 4次	陶器	碗	L-07	SK42008	SK42008	—	—	5.3	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/3 釉：5YR4/3	瀬戸・美濃
0329	036-06 4次	陶器	皿	L-07	SK42008	SK42008	13.0	3.9	4.6	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR6/3 釉：7.5Y6/1	肥前系 内面重ね焼き痕、外 面離れ砂
0330	038-05 4次	陶器	皿	L-07	SK42008	SK42008	—	—	6.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、印刻、施釉	素：10YR8/2 釉：5Y7/3	瀬戸・美濃
0331	014-03 4次	土師器	羽釜	L-K8	SK43002	SK43002	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	10YR6/2 10YR7/2	南伊勢系
0332	014-07 4次	土師器	皿	L-J8	SK43004	SK43004	12.0	3.2	—	口縁部 5/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、ナデ	2.5Y8/1	
0333	015-01 4次	土師器	焙烙	L-L4	SK44001	SK44001	23.2	—	—	口縁部 5/12	外：ヨコナデ、工具ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR6/3	大坂・明石系 外面煤付着
0334	017-01 4次	土師器	焙烙	L-L4	SK44001	SK44001	24.0	—	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ、工具ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	7.5YR4/2 5YR6/6	大坂・明石系
0335	018-02 4次	土師器	鍋	L-L4	SK44001	SK44001	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0336	042-05 4次	陶器	天目茶碗	L-L4	SK44001	SK44001	11.6	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5YR2/1	瀬戸・美濃
0337	042-04 4次	陶器	天目茶碗	L-L4	SK44001	SK44001	—	—	5.4	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5YR2/2	瀬戸・美濃
0338	043-05 4次	陶器	鉢	L-J1	SK44005	SK44005	—	—	12.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	10YR8/3	瀬戸・美濃 内面重ね焼き痕
0339	072-01 4次	陶器	播鉢	L-J1	SK44005	SK44005	11.8	7.1	6.6	口縁部 8/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、播目、施釉	素：10YR8/3 釉：5YR4/4	底部焼成後穿孔 植木鉢へ転用
0340	071-02 4次	磁器	皿	L-J1	SK44005	SK44005	13.4	4.4	7.8	底部 5/12	外：ロクロナデ、染付、輪花、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：7.5Y8/1	肥前系 コンニャク印判
0341	057-01 4次	鉄製品	釘	L-J1	SK44005	SK44005	—	幅 1.0	厚さ 0.9	一部欠	—	—	
0342	044-06 4次	陶器	徳利	L-J2	SE44006	SE44006	3.2	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/3 釉：10YR7/3、 10YR4/4	瀬戸・美濃
0343	018-03 4次	青磁	壺	L-J2	SE44006	SE44006	—	—	—	底部 小片	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ	素：10YR8/2 釉：7.5GY7/1	
0344	056-08 4次	鉄製品	釘	L-J2	SE44006	SE44006	—	幅 0.7	厚さ 0.5	小片	—	—	
0345	056-07 4次	鉄製品	釘	L-J2	SE44006	SE44006	—	幅 1.4	厚さ 1.0	一部欠	—	—	
0346	043-04 4次	陶器	碗	L-K5	SK44008	SK44008 上層	12.2	5.4	4.2	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/2 釉：7.5Y6/2	瀬戸・美濃
0347	045-01 4次	陶器	鉢	L-K5	SK44008	SK44008	—	—	13.7	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	常滑
0348	056-04 4次	鉄製品	釘	L-K5	SK44008	SK44008	—	幅 1.0	厚さ 0.8	小片	—	—	
0349	056-05 4次	鉄製品	金具?	L-K5	SK44008	SK44008	—	幅 1.4	厚さ 1.0	小片	—	—	
0350	018-04 4次	土師器	皿	L-J5	SK44009	SK44009	6.5	1.2	—	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ、ナデ	7.5YR8/4	大坂系 ロクロ土師器 内外面煤付着
0351	045-02 4次	陶器	皿	L-J5	SK44009	SK44009	11.6	3.2	6.3	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、播絵、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/3 釉：10YR5/3、 5Y7/1	瀬戸・美濃
0352	044-03 4次	陶器	香炉	L-J5	SK44009	SK44009	10.6	6.1	7.1	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/3 釉：2.5Y4/3	瀬戸・美濃
0353	018-05 4次	土製品	土錘	L-J5	SK44009	SK44009	長さ 3.4	幅 3.0	—	完存	外：ナデ	10YR7/1	21.7g
0354	043-03 4次	陶器	山茶碗	L-14	SK44010	SK44010	—	—	8.6	底部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	
0355	044-05 4次	陶器	碗	L-14	SK44010	SK44010	—	—	4.8	底部 12/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、ロクロケズリ	素：10YR8/3 釉：10YR4/3	瀬戸・美濃?
0356	017-04 4次	土師器	皿	L-G6	SK44012	SK44012 下層	11.3	3.4	—	口縁部 7/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	2.5Y8/2	
0357	017-02 4次	土師器	焙烙	L-G6	SK44012	SK44012	23.0	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR6/3	大坂・明石系
0358	044-01 4次	陶器	山茶碗	L-F1	SK44013	SK44013 下層	16.4	5.4	7.3	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	屋美湖西型 内面重ね焼き痕
0359	044-02 4次	陶器	山茶碗	L-F1	SK44013	SK44013 下層	16.6	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	尾張型
0360	044-04 4次	陶器	山茶碗	L-F1	SK44013	SK44013 下層	16.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型

第Ⅳ－9表 遺物観察表9

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0361	043-01 4次	陶器	山茶碗	L-F1	SK44013	SK44013	17.6	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5Y7/1	尾張型
0362	018-01 4次	土製品	移動式 カマド	L-F1	SK44013	SK44013	29.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ？、ハケメ、ユビオサエ 内：ヨコナデ？、工具ナデ	5YR7/4 7.5YR6/2	讃岐または河内？
0363	048-02 4次	陶器	山茶碗	L-F1	SK44016	SK44016	14.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ	N8/0	尾張型
0364	048-03 4次	灰釉 陶器	碗	L-G1	SK44018	SK44018	16.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N7/0	
0365	022-01 4次	土師器	茶釜	L-F3	SK44019	SK44019	11.6	—	—	口縁部 10/12	外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ、ユビオサエ、ケズ リ 内：ヨコナデ、工具ナデ、粘土継接合痕	5YR7/6 7.5YR7/4	南伊勢系 外面煤付着
0366	048-04 4次	陶器	香炉	L-F3	SK44019	SK44019	13.8	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/1 釉：7.5Y8/2	瀬戸・美濃
0367	048-06 4次	陶器	撞鉢	L-F3	SK44019	SK44019	34.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5YR8/3 釉：2.5YR4/3	瀬戸・美濃
0368	048-05 4次	陶器	壺	L-F3	SK44019	SK44019	—	—	6.2	底部 6/12	外：ロクロケズリ、ナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：10YR5/4	瀬戸・美濃
0369	024-03 4次	磁器	碗	L-F3	SK44019	SK44019	11.1	5.3	4.8	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
0370	024-04 4次	磁器	皿	L-F3	SK44019	SK44019	14.2	3.0	7.8	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0 釉：7.5Y8/1	肥前系 コンニャク印判
0371	071-01 4次	陶器	土瓶	J-R5	SK44020	SK44020	10.0	—	—	口縁部 9/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：5Y6/2	京都・信楽系？
0372	073-01 4次	磁器	碗	J-S5	SK44022	SK44022	12.0	5.1	4.8	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系 蛇ノ目釉剥ぎ
0373	073-02 4次	磁器	碗	J-S5	SK44022	SK44022	—	—	4.2	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系 蛇ノ目釉剥ぎ
0374	052-03 4次	陶器	山皿	J-X4	SK44023	SK44023	8.3	2.7	4.3	底部 3/12	外：ロクロナデ、粉散痕 内：ロクロナデ	2.5Y8/1	渥美湖西型
0375	027-04 4次	白磁	碗	J-X4	SK44023	SK44023	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1 釉：7.5Y8/1	福建省系
0376	073-04 4次	陶器	蓋	L-A4	SK44025	SK44025 中層	5.7	1.7	4.3	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、ロクロケズリ	素：N8/0 釉：5YR4/4	瀬戸・美濃 内面煤付着
0377	073-03 4次	陶器	蓋	L-A4	SK44025	SK44025 中層	8.6	3.0	5.0	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉	素：N8/0 釉：10Y7/2	瀬戸・美濃
0378	073-05 4次	磁器	碗	L-A4	SK44025	SK44025 上層	8.0	5.0	3.4	底部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
0379	073-06 4次	磁器	碗	L-A4	SK44025	SK44025 上層	—	—	5.8	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	
0380	073-07 4次	土製品	L字状製品	L-A4	SK44025	SK44025 上層	—	幅 5.7	厚さ 1.3	半欠	凸：ヨコナデ、ナデ 凹：工具ナデ？	10YR8/2	断面L字形 凹凸面煤付着
0381	032-05 4次	石製品	円盤状製品	L-A6	SK44025	SK44025 上層	長径 3.7	短径 3.5	厚さ 0.6	—	端部打ち欠き、表面剥離	—	8.5g
0382	032-04 4次	石製品	円盤状製品	L-A6	SK44025	SK44025 上層	長径 6.4	短径 6.3	厚さ 1.2	—	端部打ち欠き、表面剥離	—	69.1g
0383	057-02 4次	鉄製品	板状製品	L-A4	SK44025	SK44025 上層	—	幅 2.5	厚さ 0.7	小片	—	—	
0384	057-03 4次	鉄製品	釘	L-A4	SK44025	SK44025	—	幅 1.4	厚さ 1.0	一部欠	—	—	
0385	028-01 4次	土師器	焙烙	L-C2	SK44027	SK44027	24.0	—	—	口縁部 9/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	5YR5/6	大坂・明石系 外面煤付着
0386	074-01 4次	陶器	小坏	L-C2	SK44027	SK44027	6.6	4.5	2.8	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、削ぎ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5YR8/2 釉：N8/0	
0387	052-05 4次	陶器	山茶碗	J-S4	SK44028	SK44028	—	—	7.3	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型 外面線状痕
0388	071-03 4次	陶器	碗	J-S4	SK44028	SK44028	9.5	4.7	4.0	底部 8/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	陶胎染付
0389	053-02 4次	陶器	皿	J-S4	SK44028	SK44028	11.2	3.2	4.3	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/3 釉：2.5Y6/3	肥前系
0390	053-03 4次	陶器	鉢？	J-S4	SK44028	SK44028	—	—	7.0	底部 5/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：7.5Y7/2	瀬戸・美濃
0391	029-01 4次	磁器	皿	J-S4	SK44028	SK44028	13.8	3.8	7.2	口縁部 7/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系 コンニャク印判
0392	027-05 4次	瓦	軒丸瓦	J-S4	SK44028	SK44028	—	—	—	瓦当部 破片	外：ケズリ、ナデ 内：ナデ	N4/0	珠文、巴文
0393	029-03 4次	石製品	砥石	J-S4	SK44028	SK44028	—	幅 4.1	厚さ 2.7	半欠	擦痕	—	132.0g
0394	029-04 4次	石製品	硯	J-S4	SK44028	SK44028	—	幅 6.9	厚さ 1.7	半欠	擦痕	—	
0395	054-04 4次	青磁	碗	L-J5	SK44031	SK44031	—	—	5.4	底部 8/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、陰刻、施釉	素：5Y8/1 釉：2.5G7/1	
0396	078-03 4次	土師器	皿	L-H5	SK44032	カクラン1	7.2	1.5	2.6	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	7.5YR8/4 釉：透	大坂系 ロクロ土師器 内外面煤付着
0397	079-01 4次	陶器	甕	L-H5	SK44032	カクラン1	33.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、ユビオサエ、工具ナデ、施釉	素：5Y6/6 釉：2.5Y4/2	常滑
0398	079-02 4次	陶器	甕	L-H5	SK44032	カクラン1	34.0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、線刻 内：ロクロナデ、ユビオサエ	2.5YR4/1	常滑
0399	078-02 4次	磁器	碗	L-H5	SK44032	カクラン1	11.0	—	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ？、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	
0400	078-04 4次	土製品	人形	L-H5	SK44032	カクラン1	—	幅 4.2	—	半欠	外：型押し 内：ナデ、ユビオサエ	7.5YR7/4	

第IV-10表 遺物観察表 10

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0401	086-06 4次	陶器	碗	L-G6	SK44033	カクラン1	—	—	4.6	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、刷毛目文様、施釉 内：ロクロナデ	素：7.5YR4/1 釉：10YR5/1、 10YR8/2	肥前系
0402	085-04 4次	磁器	碗	L-G6	SK44033	カクラン1	10.0	5.8	3.8	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ？、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	肥前系
0403	085-03 4次	磁器	碗	L-G6	SK44033	カクラン1	10.5	5.2	4.0	底部 10/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系 蛇ノ目釉剥ぎ
0404	077-03 4次	陶器	碗	L-F2	SK44034	カクラン①	11.0	6.5	4.6	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N7/0 釉：5YR5/6	瀬戸・美濃
0405	078-01 4次	磁器	碗	L-F2	SK44034	カクラン①	9.9	5.0	3.8	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1	肥前系
0406	076-05 4次	土師器	焙烙	K-J25	SK44035	カクラン	28.4	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ	5YR5/4	大坂・明石系 外面煤付着
0407	076-04 4次	磁器	碗	K-J25	SK44035	カクラン	8.4	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、色絵、施釉 内：ロクロナデ、色絵、施釉	素：9/0	肥前系
0408	076-02 4次	磁器	碗	K-J25	SK44035	カクラン	10.6	6.0	3.6	底部 10/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：5Y8/1	肥前系
0409	077-01 4次	磁器	紅小皿	K-J25	SK44035	カクラン	6.0	1.5	2.0	底部 8/12	外：型押し、施釉 内：型押し、施釉	素：N8/0	肥前系
0410	076-03 4次	磁器	蓋	K-J25	SK44035	カクラン	8.8	2.7	—	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：5Y8/1	肥前系
0411	076-01 4次	磁器	鉢	K-J25	SK44035	カクラン	16.8	8.2	10.1	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：5Y8/1	肥前系
0412	077-02 4次	土製品	土錘	K-J25	SK44035	カクラン	長さ 4.4	幅 1.2	—	完存	外：ナデ	2.5YR6/4	4.8g
0413	081-01 4次	陶器	描鉢	L-H1	SK44036	カクラン？	30.6	11.7	13.8	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ、描目	2.5YR5/4	堺・明石系
0414	081-02 4次	磁器	碗	L-H1	SK44036	カクラン？	10.6	5.7	4.0	底部 11/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系
0415	080-01 4次	土師器	焙烙	L-F3	SK44037	カクラン1	24.4	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、ケズリ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR4/2	大坂・明石系 外面煤付着
0416	082-03 4次	陶器	碗	L-J4	SK44038	カクラン①	11.8	4.5	4.0	底部 9/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：7.5Y7/2	京都・信楽系？
0417	082-01 4次	陶器	片口鉢	L-J4	SK44038	カクラン①	16.0	8.6	7.0	口縁部 10/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5Y8/2	瀬戸・美濃 内面重ね焼き痕、底 部外面煤付着
0418	082-02 4次	磁器	碗	L-J4	SK44038	カクラン①	10.8	5.4	3.8	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系 蛇ノ目釉剥ぎ
0419	080-02 4次	陶器	蓋	L-G5	SK44039	カクラン1	6.0	—	—	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ	素：7.5YR8/4 釉：2.5YR4/4	瀬戸・美濃
0420	080-04 4次	陶器	壺	L-G5	SK44039	カクラン1	—	—	7.5	底部 10/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ	素：7.5YR7/2 釉：10R3/2	瀬戸・美濃
0421	080-05 4次	陶器	壺または徳利	L-G5	SK44039	カクラン1	—	—	8.4	底部 8/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、ヘラ切痕、施釉 内：ロクロナデ	素：N7/0 釉：10YR3/4	瀬戸・美濃
0422	090-01 4次	磁器	碗	L-G5	SK44039	カクラン1	10.5	5.7	4.3	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系
0423	031-05 4次	青磁	香炉	L-G5	SK44039	カクラン1	11.6	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：5G7/1	国産青磁
0424	084-04 4次	土師器	皿	J-X3	SK44040	カクラン1	8.9	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	7.5YR7/4 釉：透	大坂系 ロクロ土師器
0425	085-02 4次	磁器	碗	J-X3	SK44040	カクラン1	6.8	5.8	3.3	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：2.5Y8/1	肥前系
0426	085-01 4次	磁器	碗	J-X3	SK44040	カクラン1	7.7	4.9	3.5	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10Y8/1	肥前系
0427	086-03 4次	土師器	皿	L-D3	SK44042	カクラン	6.5	0.9	4.8	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	7.5YR7/6 釉：透	大坂系 ロクロ土師器 内外面煤付着
0428	086-02 4次	土師器	皿	L-D3	SK44042	カクラン	6.5	1.1	3.8	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	7.5YR7/6 釉：透	大坂系 ロクロ土師器 内外面煤付着
0429	086-01 4次	土師器	皿	L-D3	SK44042	カクラン	10.0	1.8	5.4	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	7.5YR7/6 釉：透	大坂系 ロクロ土師器 内外面煤付着
0430	086-07 4次	陶器	碗	L-J2	SK44043	カクラン	10.8	6.0	5.3	口縁部 10/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：10YR7/3 釉：10Y8/1	瀬戸・美濃？ 陶胎染付
0431	087-06 4次	陶器	皿	J-V4	SK44044	カクラン	24.8	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、鉄絵、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5Y8/1	瀬戸・美濃
0432	087-05 4次	磁器	仏餉具	J-V4	SK44044	カクラン	—	—	4.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/1 釉：N8/0	肥前系
0433	087-04 4次	磁器	碗	J-V4	SK44044	カクラン	9.6	5.2	3.5	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系
0434	052-04 4次	陶器	碗	L-C2	SK44046	カクラン1	11.8	7.2	5.3	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：5YR3/2	瀬戸・美濃
0435	088-03 4次	陶器	仏餉具	L-C2	SK44046	カクラン1	6.0	—	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：7.5Y7/2	瀬戸・美濃
0436	088-02 4次	陶器	徳利	L-C2	SK44046	カクラン1	—	—	9.8	底部 5/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5YR7/4 釉：10R5/4	瀬戸・美濃
0437	089-02 4次	磁器	碗	L-C2	SK44046	カクラン1	—	—	4.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
0438	088-04 4次	磁器	紅小皿	L-C2	SK44046	カクラン1	4.6	1.5	1.4	口縁部 3/12	外：型押し、施釉 内：型押し、施釉	素：N8/0	肥前系
0439	089-01 4次	磁器	蓋	L-C2	SK44046	カクラン1	—	—	3.2	摘まり部 12/12	外：ロクロケズリ、ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系 コンニャク印判
0440	031-02 4次	白磁	碗	L-C2	SK44046	カクラン1	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：7.5Y8/1	福建省系

第Ⅳ-11表 遺物観察表 11

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0441	031-01 5次	土師器	鍋	J-T8	SK51004	SK51004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7. 5YR7/3	南伊勢系 内面煤付着
0442	033-01 5次	土師器	焙烙	J-S8	SK51006	SK51006	25. 2	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ケズリ 内：ヨコナデ、ナデ	5YR6/8	大坂・明石系
0443	033-02 5次	陶器	播鉢	J-S8	SK51006	SK51006	26. 4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ、播目	10R5/6	堺・明石系
0444	033-03 5次	陶器	播鉢	J-S8	SK51006	SK51006	—	—	15. 0	底部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ、播目	2. 5YR5/4	
0445	033-07 5次	磁器	碗	J-S8	SK51006	SK51006	9. 4	5. 3	3. 7	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ？、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7. 5Y8/1	肥前系
0446	034-01 5次	磁器	碗	J-S8	SK51006	SK51006	10. 3	4. 4	4. 0	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1	肥前系 蛇ノ目釉剥ぎ
0447	033-06 5次	磁器	碗	J-S8	SK51006	SK51006	10. 4	4. 2	4. 0	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y8/1	肥前系 蛇ノ目釉剥ぎ
0448	033-08 5次	磁器	碗	J-S8	SK51006	SK51006	10. 8	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1	肥前系
0449	033-05 5次	磁器	皿	J-S8	SK51006	SK51006	14. 7	2. 3	8. 0	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：10Y8/1	肥前系
0450	033-04 5次	青磁	碗	J-S8	SK51006	SK51006	—	—	4. 1	底部 5/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/1 釉：7. 5Y8/1	内面重ね焼き痕
0451	034-02 5次	石製品	砥石	J-S8	SK51006	SK51006	—	幅 4. 5	厚さ 1. 2	一部欠	擦痕	—	72. 7g
0452	031-04 5次	陶器	碗	J-S6	SK51008	SK51008	6. 7	3. 8	3. 0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y7/2 釉：2. 5Y6/2	瀬戸・美濃
0453	031-03 5次	磁器	皿	J-S6	SK51008	SK51008	—	—	8. 0	底部 1/12	外：ロクロナデ？、施釉 内：ロクロナデ？、施釉	素：5Y8/1	
0454	031-02 5次	土師器	焙烙	J-S6	SK51009	SK51009	24. 6	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ケズリ、型押し？ 内：ヨコナデ	5YR7/4	大坂・明石系 外面煤付着
0455	039-01 5次	土師器	皿	J-U6	SK51010	SK51010	—	—	4. 5	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ、印刻、施釉	7. 5YR8/6 釉：7. 5Y7/1	大坂系 クロロ土師器
0456	038-02 5次	陶器	小坏	J-U6	SK51010	SK51010	—	—	3. 0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ？、施釉	素：2. 5YR6/4 釉：7. 5YR2/1	瀬戸・美濃
0457	038-03 5次	陶器	蓋	J-U6	SK51010	SK51010	6. 4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ	素：10YR7/2 釉：2. 5YR4/4	瀬戸・美濃
0458	038-01 5次	陶器	仏餉具	J-U6	SK51010	SK51010	6. 0	4. 2	3. 8	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、シボリ痕、施釉	素：2. 5Y8/2 釉：7. 5Y7/1	瀬戸・美濃
0459	037-01 5次	陶器	播鉢	J-U6	SK51010	SK51010	35. 7	14. 8	16. 1	底部 12/12	外：ロクロナデ、ケズリ、工具ナデ、施釉 内：ロクロナデ、播目、施釉	素：7. 5R4/6 釉：7. 5R3/1	堺・明石系 底部外面離れ砂
0460	038-06 5次	磁器	碗	J-U6	SK51010	SK51010	11. 0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系
0461	038-05 5次	磁器	碗	J-U6	SK51010	SK51010	—	—	4. 6	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
0462	038-04 5次	磁器	蓋	J-U6	SK51010	SK51010	—	—	鈕径 3. 8	鈕 1/12	外：ロクロケズリ、ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系
0463	035-03 5次	土師器	皿	J-U8	SK51011	SK51011	9. 5	—	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	5YR6/8 釉：透	大坂系 クロロ土師器
0464	035-02 5次	土師器	皿	J-U8	SK51011	SK51011	9. 6	2. 0	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	7. 5YR6/6 釉：透	大坂系 クロロ土師器
0465	035-01 5次	土師器	皿	J-U8	SK51011	SK51011	11. 2	2. 2	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、印刻、施釉	7. 5YR6/6 釉：透	大坂系 クロロ土師器 内外面煤付着
0466	035-05 5次	陶器	皿	J-U8	SK51011	SK51011	17. 4	5. 3	7. 2	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y7/2 釉：10Y7/1	瀬戸・美濃
0467	035-04 5次	陶器	仏餉具	J-U8	SK51011	SK51011	—	—	4. 2	底部 10/12	外：ロクロナデ？、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ？、施釉	素：5Y8/1 釉：7. 5Y8/1	瀬戸・美濃
0468	035-06 5次	陶器	鉢	J-U8	SK51011	SK51011	—	—	6. 8	底部 4/12	外：ロクロケズリ、刷毛目文様、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7. 5YR6/3 釉：2. 5Y7/3、 10YR5/2	肥前系
0469	035-07 5次	陶器	土瓶	J-U8	SK51011	SK51011	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ナデ？、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/3 釉：5YR4/3	瀬戸・美濃
0470	035-09 5次	陶器	加工円盤 (碗)	J-U8	SK51011	SK51011	長径 3. 8	短径 3. 8	—	—	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ？、施釉	素：2. 5Y8/2 釉：7. 5Y7/2	12. 0g 端部打ち欠き
0471	036-01 5次	磁器	碗	J-U8	SK51011	SK51011	10. 4	—	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ？、染付、施釉 内：ロクロナデ？、染付、施釉	素：9/0	肥前系
0472	036-03 5次	磁器	碗	J-U8	SK51011	SK51011	11. 5	5. 5	4. 6	口縁部 8/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系 コンニャク印判
0473	036-02 5次	磁器	猪口	J-U8	SK51011	SK51011	7. 6	6. 4	5. 9	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系
0474	036-04 5次	磁器	瓶	J-U8	SK51011	SK51011	2. 0	—	—	口縁部 9/12	外：ロクロナデ？、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	肥前系
0475	036-05 5次	土製品	L字状製品	J-U8	SK51011	SK51011	—	幅 5. 0	厚さ 1. 2	一部欠	凸：ナデ 凹：ナデ、ユビオサエ	10YR6/4	断面L字形 凸面煤付着
0476	035-08 5次	瓦	軒平瓦	J-U8	SK51011	SK51011	—	—	—	瓦当部 小片	凹：ナデ 凸：ナデ	N3/0	唐草文
0477	036-06 5次	石製品	砥石	J-U8	SK51011	SK51011	—	幅 4. 9	厚さ 2. 4	半欠	擦痕	—	81. 0g
0478	034-05 5次	陶器	蓋	J-T6	SK51012	SK51012	4. 9	1. 8	3. 3	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y7/1 釉：5YR4/3	瀬戸・美濃
0479	034-04 5次	陶器	鉢	J-T6	SK51012	SK51012	30. 3	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y8/2 釉：5Y8/3	瀬戸・美濃
0480	034-03 5次	石製品	砥石	J-T6	SK51012	SK51012	長さ 10. 5	幅 6. 6	厚さ 1. 9	完存	擦痕	—	434. 0g

第IV -12 表 遺物観察表 12

報告 №	実測 №	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0481	021-04 7次	土師器	皿	1区10	SK51013	SK70002 9層	6.2	1.3	—	口縁部 9/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	5YR7/6 釉：透	大坂系 ロクロ土師器
0482	044-03 5次	土師器	皿	J-U8	SK51013	SK51013	6.4	1.1	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ユビオサエ、糸切痕 内：ロクロナデ、ユビオサエ	10YR7/3	大坂系 ロクロ土師器 内外面煤付着
0483	013-03 10次	土師器	焙烙	J-U9	SK51013	SK10009	30.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ？ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR 6 /4	大坂・明石系 外面煤付着
0484	031-08 5次	陶器	山茶碗	J-U8	SK51013	SK51013	—	—	7.7	底部 1/12	外：ロクロナデ、粉殻痕、糸切痕 内：ロクロナデ	5Y7/1	渥美湖西型
0485	021-05 7次	陶器	碗	1区10	SK51013	SK70002	6.2	3.8	2.8	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/1 釉：5GY7/1	瀬戸・美濃
0486	014-01 10次	陶器	碗	J-U9	SK51013	SK10009	9.8	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5YR7/3 釉：7.5YR6/2、 5YR4/3	瀬戸・美濃
0487	031-05 5次	陶器	皿	J-U8	SK51013	SK51013	12.9	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/2 釉：5Y7/2	瀬戸・美濃
0488	021-01 7次	陶器	皿	1区10	SK51013	SK70002	20.0	6.6	8.2	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5Y8/2	瀬戸・美濃
0489	014-03 10次	陶器	皿	J-U9	SK51013	SK10009	19.7	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/1 釉：2.5Y3/3	瀬戸・美濃
0490	013-04 10次	陶器	播鉢	J-U9	SK51013	SK10009	35.6	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、播目	10R5/2	堺・明石系
0491	014-02 10次	陶器	徳利または 壺	J-U9	SK51013	SK10009	—	—	13.2	底部 2/12	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5YR6/3 釉：5YR6/3	瀬戸・美濃？
0492	013-01 10次	磁器	碗	J-U9	SK51013	SK10009	9.8	5.2	3.7	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：10Y8/1	肥前系 コンニャク印判
0493	021-06 7次	磁器	碗	1区10	SK51013	SK70002	10.0	5.4	4.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ？、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系 高台離れ砂
0494	031-06 5次	磁器	碗	J-U8	SK51013	SK51013	10.9	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系
0495	031-07 5次	磁器	碗	J-U8	SK51013	SK51013	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系
0496	021-03 7次	磁器	小坏	1区10	SK51013	SK70002	—	—	3.3	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系 高台離れ砂
0497	013-02 10次	磁器	蓋	J-U9	SK51013	SK10009	10.3	3.7	鈕径 4.0	口縁部 10/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：10Y8/1	肥前系
0498	016-05 10次	磁器	水滴	J-U9	SK51013	SK10009	—	—	—	小片	外：型押し、染付、ナデ 内：ナデ？	素：2.5Y8/1	肥前系
0499	016-04 10次	磁器	加工円盤 (碗または 皿)	J-U9	SK51013	SK10009	長径 3.3	短径 3.2	—	—	上：ロクロナデ？、施釉 下：ロクロナデ？、染付、施釉	素：5Y8/1	12.0g 端部打ち欠き コンニャク印判
0500	016-03 10次	磁器	加工円盤 (小坏)	J-U9	SK51013	SK10009	長径 3.5	短径 3.6	—	—	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2	9.0g 端部打ち欠き
0501	016-02 10次	磁器	加工円盤 (小坏)	J-U9	SK51013	SK10009	長径 4.3	短径 4.2	—	—	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	16.0g 端部打ち欠き
0502	016-01 10次	陶器	加工円盤 (碗)	J-U9	SK51013	SK10009	長径 5.0	短径 4.8	—	—	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：5Y7/2	32.0g 端部打ち欠き
0503	015-02 10次	青磁	碗	J-U9	SK51013	SK10009	—	—	5.1	底部 3/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：10Y6/2	
0504	032-01 5次	土製品	L字状製品	J-U8	SK51013	SK51013	—	幅 5.2	厚さ 1.3	半欠	凸：ナデ 凹：ナデ、工具ナデ？	2.5Y7/1	断面L字形 凸面煤付着
0505	015-01 10次	土製品	L字状製品	J-U9	SK51013	SK10009	—	幅 6.4	厚さ 1.4	一部欠	凸：ナデ 凹：ナデ、工具ナデ？	7.5YR7/4	断面L字形 凸面煤付着
0506	015-04 10次	石製品	砥石	J-U9	SK51013	SK10009	—	幅 3.0	厚さ 2.9	半欠	擦痕	—	62.0g
0507	015-03 10次	石製品	円盤状製品	J-U9	SK51013	SK10009	長径 4.9	短径 5.0	厚さ 1.2	—	端部打ち欠き、表面剥離	—	30.0g
0508	051-02 10次	鉄製品	鍋	J-U9	SK51013	SK10009	—	—	厚さ 0.5	口縁部 小片	—	—	鋳造
0509	080-01 7次	鉄製品	鍋	1区10	SK51013	SK70002 2層	—	—	厚さ 0.9	底部 小片	—	—	鋳造
0510	079-03 7次	銅製品	煙管 (雁首)	1区10	SK51013	SK70002	長さ 7.6	幅 1.4	厚さ 0.1	完存	—	—	内面炭付着
0511	079-04 7次	銅製品	煙管 (吸口)	1区10	SK51013	SK70002	—	幅 1.0	厚さ 0.1	一部欠	—	—	
0512	039-04 5次	陶器	碗	J-X7	SK51014	SK51014	8.4	4.1	4.0	底部 10/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/1 釉：5YR2/1	瀬戸・美濃
0513	039-02 5次	陶器	碗	J-X7	SK51014	SK51014	9.2	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：2.5Y8/3	瀬戸・美濃
0514	039-05 5次	陶器	火鉢	J-X7	SK51014	SK51014	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉？ 内：ロクロナデ、施釉？	素：5YR7/4 釉：2.5YR5/4	常滑(赤物)
0515	039-03 5次	磁器	皿	J-X7	SK51014	SK51014	21.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系
0516	041-05 5次	陶器	山皿	J-X7	SK51015	SK51015	—	—	5.2	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	
0517	041-09 5次	縄文土器	深鉢	J-Y6	SK51016	SK51016	—	—	—	口縁部 小片	外：ナデ、沈線 内：ナデ？	7.5YR4/2 7.5YR7/4	内外面煤付着
0518	041-06 5次	土師器	台付皿	J-Y6	SK51016	SK51016	—	—	—	小片	外：ヨコナデ？ 内：ナデ？	7.5YR8/4	
0519	041-07 5次	土師器	鍋	J-Y6	SK51016	SK51016	22.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、工具ナデ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、工具ナデ	5YR7/6	南伊勢系
0520	042-01 5次	陶器	山皿	J-Y6	SK51016	SK51016	7.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	10YR7/1	尾張型

第Ⅳ-13表 遺物観察表 13



報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0521	041-08 5次	陶器	鉢?	J-Y6	SK51016	SK51016	—	—	9.8	底部 1/12	外：ロクロナデ、ナデ?、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y8/1	瀬戸・美濃
0522	042-02 5次	土製品	土鍾	J-Y6	SK51016	SK51016	—	幅 2. 2	—	一部欠	外：ナデ	10YR8/2	21. 0g
0523	041-02 5次	土師器	皿	J-X6	SK51017	SK51017	7. 5	1. 3	—	口縁部 7/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0524	041-03 5次	土師器	皿	J-X6	SK51017	SK51017	7. 8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0525	041-04 5次	土師器	皿	J-X6	SK51017	SK51017	7. 8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0526	041-01 5次	土師器	皿	J-X6	SK51017	SK51017	8. 7	1. 5	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	10YR8/2	
0527	040-02 5次	土師器	鍋	J-X6	SK51017	SK51017	24. 0	—	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ、ケズリ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ケズリ	7. 5YR7/3 7. 5YR5/2	南伊勢系 外面煤付着
0528	040-03 5次	瓦器	椀	J-X6	SK51017	SK51017	12. 4	3. 6	3. 5	口縁部 8/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、ミガキ、暗文	N5/0	紀伊型
0529	050-01 5次	瓦器	椀	J-X6	SK51017	SK51017	13. 0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、暗文	2. 5Y7/1 7. 5Y5/1	和泉型
0530	040-01 5次	陶器	山茶碗	J-X6	SK51017	SK51017	14. 2	5. 2	6. 5	底部 9/12	外：ロクロナデ、ヘラ切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2. 5Y7/1	尾張型
0531	040-04 5次	陶器	山皿	J-X6	SK51017	SK51017	—	—	4. 8	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR7/1	
0532	042-05 5次	土師器	焙烙	L-C7	SK51018	SK51018	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ?、ナデ? 内：ヨコナデ、ナデ	5YR5/8	大坂・明石系 外面煤付着
0533	042-03 5次	陶器	天目茶碗	L-C7	SK51018	SK51018	10. 5	—	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y7/2 釉：2. 5Y2/1	瀬戸・美濃
0534	042-04 5次	陶器	天目茶碗?	L-C7	SK51018	SK51018	—	—	4. 5	底部 6/12	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ?、施釉	素：2. 5Y7/2 釉：2. 5Y2/1	瀬戸・美濃
0535	043-01 5次	陶器	擂鉢	L-C7	SK51018	SK51018	—	—	—	体部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、撞目、施釉	素：7. 5YR7/3 釉：10R3/1	
0536	043-02 5次	磁器	碗	L-C6	SK51018	SK51018	11. 8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
0537	017-04 5次	陶器	皿	L-D6	SK51019	SK51019	13. 7	3. 0	6. 3	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、削ぎ、施釉	素：N8/0 釉：2. 5Y7/4	瀬戸・美濃 底部外面窯道具痕
0538	021-04 5次	石製品	砥石	L-D6	SK51019	SK51019	長さ 6. 6	幅 4. 2	厚さ 3. 6	—	擦痕	—	軽石製 16. 0g
0539	036-07 5次	土師器	鍋	L-A7	SK51020	SK51020	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7. 5YR8/3	南伊勢系 外面煤付着
0540	043-04 5次	陶器	碗	L-B4	SK51021	SK51021	—	—	6. 2	底部 2/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ?、施釉	素：2. 5YR6/4 釉：7. 5YR2/3	瀬戸・美濃
0541	043-03 5次	陶器	皿	L-B4	SK51021	SK51021	—	—	5. 6	底部 2/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ?、櫛描条線、施釉	素：2. 5Y8/3 釉：5Y8/2	瀬戸・美濃
0542	044-01 5次	陶器	香炉	L-B4	SK51021	SK51021	13. 1	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y7/3 釉：5Y7/4	瀬戸・美濃
0543	044-02 5次	磁器	碗	L-B4	SK51021	SK51021	9. 8	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
0544	048-03 5次	土師器	焙烙	L-C7	SK51025	カクラン1	22. 8	—	—	口縁部 1/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：工具ナデ	5YR7/6	大坂・明石系 外面煤付着
0545	049-05 5次	土師器	皿	J-X7	SK51026	カクラン1	7. 4	1. 4	3. 8	底部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	5YR8/4 釉：透	大坂系 ロクロ土師器
0546	049-06 5次	土師器	皿	J-X7	SK51026	カクラン1	8. 2	1. 1	4. 4	底部 6/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	10YR8/2 釉：透	大坂系 ロクロ土師器
0547	049-03 5次	陶器	水注	J-X7	SK51026	カクラン1	3. 8	2. 7	4. 9	口縁部 12/12	外：ロクロナデ?、ロクロケズリ、、ヘラ切痕、 施釉 内：ロクロナデ?、施釉	素：2. 5Y8/2 釉：7. 5Y8/2	瀬戸・美濃
0548	049-01 5次	陶器	鉢	J-X7	SK51026	カクラン1	21. 2	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：2. 5Y8/2	瀬戸・美濃
0549	049-02 5次	陶器	鉢	J-X7	SK51026	カクラン1	—	—	12. 0	底部 6/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y8/2 釉：10Y8/1	瀬戸・美濃 内面重ね焼き痕
0550	049-04 5次	磁器	碗	J-X7	SK51026	カクラン1	—	—	3. 8	底部 5/12	外：ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ?、施釉	素：N8/0	肥前系
0551	048-06 5次	磁器	蓋	J-X7	SK51026	カクラン1	9. 3	2. 7	3. 6	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
0552	048-02 5次	灰釉 陶器	碗	L-B6	SK51027	カクラン1	—	—	7. 6	底部 2/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ	N8/0	
0553	051-04 5次	磁器	蓋	L-C5・6	SK51028	カクラン1 カクラン2	12. 8	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	肥前系
0554	051-05 5次	石製品	砥石	L-C5・6	SK51028	カクラン1 カクラン2	長さ 8. 7	幅 5. 4	厚さ 4. 4	—	擦痕	—	軽石製 27. 9g
0555	051-01 5次	陶器	土瓶	J-V7	SK51029	カクラン1	10. 0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5YR6/6 釉：5Y6/6	
0556	044-04 5次	陶器	山茶碗	J-H12	SK53002	SK53002	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2. 5Y7/2	渥美湖西型
0557	021-02 7次	陶器	壺	2区30	SK70013	SK70013	11. 6	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y7/2 釉：7. 5YR2/2	瀬戸・美濃
0558	020-02 7次	土製品	L字状製品	2区54	SK70019	SK70019	—	幅 6. 2	厚さ 1. 4	半欠	凸：ナデ、ヨコナデ 凹：ナデ、ユビオサエ、工具ナデ	7. 5YR7/4 N3/0	断面L字形 凸面煤付着
0559	022-03 7次	土製品	L字状製品	2区54	SK70019	SK70019	—	幅 5. 4	厚さ 1. 2	小片	凸：ナデ、ヨコナデ 凹：ナデ	7. 5YR4/2 10YR2/1	断面L字形 凸面煤付着
0560	020-01 7次	瓦	平瓦	2区54	SK70019	SK70019	—	—	—	小片	凹：ナデ、ヨコナデ 凸：工具ナデ、ナデ、ヨコナデ	N5/0 N3/0	

第IV -14 表 遺物観察表 14

報告 №	実測 №	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0561	022-01 7次	瓦	平瓦	2区54	SK70019	SK70019	—	—	—	小片	凹：ナデ、ヨコナデ 凸：ユビオサエ、ナデ、工具ナデ？、ヨコナデ	N4/0	
0562	022-02 7次	瓦	平瓦	2区54	SK70019	SK70019	—	—	—	小片	凹：ナデ、ヨコナデ 凸：ナデ、ヨコナデ	N3/0	
0563	020-03 7次	瓦	丸瓦	2区54	SK70019	SK70019	—	—	—	小片	凸：ナデ 凹：工具ナデ、布目痕	N5/0	
0564	003-01 8次	陶器	皿	—	SK80002	SK80002	12.4	3.6	4.5	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、トチン痕、施釉	素：10YR8/4 釉：2.5YR8/2	肥前系
0565	003-04 8次	土師器	羽釜	—	SK80003	SK80003	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR7/4	
0566	003-03 8次	陶器	瓶または徳利	—	SK80003	SK80003	—	—	8.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、ナデ、施釉 内：ロクロナデ	素：2.5Y7/1 釉：7.5YR3/3	瀬戸・美濃
0567	003-05 8次	陶器	碗	—	SK80003	SK80003	—	—	4.2	底部 12/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/1 釉：2.5GY8/1	京都・信楽系？
0568	003-02 8次	磁器	碗	—	SK80003	SK80003	9.2	—	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
0569	001-02 8次	陶器	天目茶碗	—	SK80004	SK80004	11.0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/1 釉：7.5YR2/1	瀬戸・美濃
0570	001-04 8次	陶器	蓋	—	SK80004	SK80004	7.0	1.9	4.6	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5Y8/2	瀬戸・美濃
0571	002-01 8次	陶器	播鉢	—	SK80004	SK80004	27.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ、播目	5YR6/3	堺・明石系
0572	002-02 8次	陶器	徳利	—	SK80004	SK80004	—	—	8.4	底部 12/12	外：ロクロナデ、ナデ、施釉 内：ロクロナデ	素：10YR6/1 釉：5YR4/2	瀬戸・美濃
0573	002-03 8次	磁器	猪口	—	SK80004	SK80004	8.4	6.2	6.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：5YR8/1	肥前系
0574	001-05 8次	石製品	砥石	—	SK80004	SK80004	—	—	厚さ 2.3	一部欠	擦痕	—	軽石製 13.7g
0575	001-01 8次	石製品	円盤状製品	—	SK80004	SK80004	—	—	厚さ 2.2	半欠	端部打ち欠き、表面剥離	—	223.5g
0576	001-03 8次	石製品	石板	—	SK80004	SK80004	—	—	厚さ 0.3	破片	縁状痕、擦痕	—	15.7g
0577	002-04 8次	陶器	壺	—	SK80005	SK80005	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、ユビオサエ	2.5YR6/4	常滑(赤物)
0578	002-05 8次	陶器	仏飯具	—	SK80007	SK80007	7.2	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5Y7/2	瀬戸・美濃
0579	003-06 8次	陶器	土瓶	—	SK80007	SK80007	7.7	11.2	8.7	底部 12/12	外：ロクロナデ、ナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/4 釉：7.5YR4/1、 7.5YR4/2	瀬戸・美濃
0580	003-07 8次	磁器	碗	—	SK80007	SK80007	—	—	6.0	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：7.5Y8/1	肥前系
0581	003-08 8次	石製品	砥石	—	SK80007	SK80007	—	幅 2.6	厚さ 1.8	半欠	擦痕	—	32.4g
0582	004-01 8次	磁器	碗	—	SK80008	SK80008	7.3	5.3	3.6	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：2.5Y8/1	肥前系 コンニャク印判
0583	007-03 10次	土師器	皿	J-Y13	SK80009	SK10029	10.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0584	004-02 8次	土師器	皿	—	SK80009	SK80009	10.2	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	2.5Y8/1	
0585	004-03 8次	土師器	皿	—	SK80009	SK80009	10.2	2.6	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	2.5Y8/2	
0586	007-01 10次	土師器	皿	J-Y13	SK80009	SK10029	10.4	3.0	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/1	外面口縁部煤付着
0587	007-05 10次	土師器	皿	—	SK80009	SK10029	10.6	2.0	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	10YR8/1	
0588	007-08 10次	土師器	皿	—	SK80009	SK10029 3層	11.0	1.8	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ、粘土細接合痕 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	10YR8/2	
0589	007-02 10次	土師器	皿	J-Y13	SK80009	SK10029	11.2	2.6	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	10YR8/1	
0590	007-04 10次	土師器	皿	J-Y13	SK80009	SK10029	12.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/1	
0591	007-06 10次	土師器	皿	—	SK80009	SK10029 3層	12.1	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	10YR8/2	
0592	009-06 10次	土師器	壺？	J-Y12	SK80009	SK10029	8.2	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/3	
0593	008-02 10次	土師器	鍋	J-Y13	SK80009	SK10029	24.0	—	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ユビオサエ、ナデ	10YR6/3	南伊勢系 外面煤付着
0594	009-01 10次	土師器	鍋	J-Y13	SK80009	SK10029	24.8	—	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ハケメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ、工具ナデ？	10YR7/2	南伊勢系
0595	009-02 10次	土師器	鍋	—	SK80009	SK10029 3層	26.4	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR6/3	南伊勢系
0596	008-01 10次	土師器	鍋	—	SK80009	SK10029 4層	26.8	—	—	口縁部 5/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ハケメ、ケズリ。粘土細接合痕 内：ヨコナデ、工具ナデ、ケズリ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0597	005-05 8次	瓦器	椀	—	SK80009	SK80009	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ミガキ 内：ヨコナデ、ミガキ	N5/0、5Y8/1	
0598	009-05 10次	瓦器	皿または椀	J-Y13	SK80009	SK10029	—	—	4.0	底部 3/12	外：ヨコナデ、糸切痕 内：ヨコナデ、ナデ	10Y6/1	
0599	002-02 10次	須恵器	鉢	J-Y13	SK80009	SK10029	23.2	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、工具ナデ	10YR8/2	東播系
0600	002-01 10次	須恵器	鉢	J-Y13	SK80009	SK10029	24.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、工具ナデ 内：ロクロナデ、工具ナデ	10YR8/3、 10YR4/1	東播系 使用痕顕著

第Ⅳ-15表 遺物観察表 15

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0601	005-02 8次	須恵器	鉢	—	SK80009	SK80009	30.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5Y6/1	東播系
0602	002-03 10次	須恵器	鉢	J-Y13	SK80009	SK10029	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、工具ナデ	10YR8/2、 7.5YR4/1	東播系
0603	003-05 10次	須恵器	鉢	J-Y12	SK80009	SK10029	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N6/0	東播系
0604	005-01 10次	須恵器	甕	J-Y12	SK80009	SK10029	—	—	—	体部 小片	外：格子タタキ 内：当て具痕、ナデ	5Y5/1	
0605	004-08 10次	陶器	山茶碗	J-Y13	SK80009	SK10029	—	—	7.0	底部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	尾張型
0606	005-01 8次	陶器	山茶碗	—	SK80009	SK80009	16.2	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
0607	004-04 8次	陶器	山茶碗	—	SK80009	SK80009	—	—	5.8	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	渥美湖西型
0608	003-06 10次	陶器	山茶碗	J-Y12	SK80009	SK10029	—	—	6.4	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y8/1	渥美湖西型
0609	002-05 10次	陶器	山茶碗	J-Y13	SK80009	SK10029	—	—	8.4	底部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、糸切痕	2.5Y8/1	渥美湖西型
0610	002-04 10次	陶器	山茶碗	J-Y13	SK80009	SK10029	—	—	—	底部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、糸切痕	N8/0	
0611	003-08 10次	陶器	山皿	J-Y12	SK80009	SK10029	—	—	3.1	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
0612	004-07 10次	陶器	卸皿	J-Y13	SK80009	SK10029	14.2	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、卸目、施釉	素：2.5Y6/3 釉：2.5Y8/1	瀬戸・美濃
0613	005-04 8次	陶器	卸皿	—	SK80009	SK80009	—	—	—	底部 小片	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ、卸目	素：2.5Y8/3 釉：7.5Y8/1	瀬戸・美濃
0614	005-02 10次	陶器	鉢	J-Y13	SK80009	SK10029	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ロクロナデ	7.5Y4/2 5Y5/1	常滑
0615	002-06 10次	陶器	鉢	J-Y13	SK80009	SK10029	—	—	10.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	N6/0	常滑
0616	003-07 10次	陶器	鉢	J-Y12	SK80009	SK10029	—	—	11.0	底部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N7/0	渥美
0617	007-07 10次	陶器	擂鉢	—	SK80009	SK10029 2層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、工具ナデ 内：ロクロナデ、擂目	2.5YR6/6	備前
0618	004-04 10次	陶器	壺	J-Y12	SK80009	SK10029	18.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	常滑
0619	006-01 10次	陶器	壺	J-Y13	SK80009	SK10029	36.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ユビオサエ、粘土紐接合痕、施 釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/1 釉：5YR4/3	常滑
0620	001-01 10次	陶器	壺	J-Y13	SK80009	SK10029	—	—	13.8	底部 5/12	外：工具ナデ、タタキ、ナデ、ユビオサエ、粘土 紐接合痕、板状痕 内：工具ナデ、ユビオサエ、ナデ、粘土紐接合痕	N7/0	渥美
0621	007-09 10次	陶器	甕	J-Y12	SK80009	SK10029	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	7/0	渥美
0622	006-02 10次	陶器	甕	J-Y13	SK80009	SK10029	—	—	17.3	底部 7/12	外：ロクロナデ、工具ナデ、ナデ、ユビオサエ 内：工具ナデ、ユビオサエ、ナデ、粘土紐接合痕	素：2.5Y7/1 釉：5YR4/3	常滑
0623	003-01 10次	緑釉 陶器	盤	J-Y13	SK80009	SK10029	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：7.5Y5/3	中国華南地方？
0624	004-05 10次	白磁	碗	J-Y13	SK80009	SK10029	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5Y7/1 釉：7.5Y7/1	福建省系
0625	004-06 10次	白磁	碗	J-Y13	SK80009	SK10029	—	—	6.6	底部 1/12	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0 釉：9/0	福建省系
0626	004-02 10次	青磁	碗	J-Y12	SK80009	SK10029	11.8	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10Y7/3 釉：5Y7/2	龍泉窯系
0627	003-04 10次	青磁	碗	J-Y12	SK80009	SK10029	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、輪花、施釉 内：ロクロナデ、刻劃文、施釉	素：N8/0 釉：2.5GY6/1	龍泉窯系
0628	004-03 10次	青磁	碗	J-Y12	SK80009	SK10029	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、樹描条線、施釉	素：10YR7/1 釉：2.5GY7/1	同安窯系
0629	004-01 10次	青磁	碗	J-Y12	SK80009	SK10029	—	—	6.0	底部 2/12	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/2 釉：10Y8/1	
0630	005-03 8次	青磁	碗	—	SK80009	SK80009	—	—	6.1	底部 4/12	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：10Y7/1	
0631	003-03 10次	青磁	碗	J-Y12	SK80009	SK10029	—	—	6.4	底部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、鎚蓮弁文、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N7/0 釉：2.5GY6/1	龍泉窯系
0632	003-02 10次	青磁	皿	J-Y13	SK80009	SK10029	—	—	6.0	底部 2/12	外：ロクロナデ？、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：10Y7/1	
0633	009-03 10次	石製品	石鍋	J-Y12	SK80009	SK10029	—	—	—	口縁部 小片	外：鑿痕 内：鑿痕、擦痕	—	滑石製 肥前西彼杵半島
0634	009-04 10次	石製品	石鍋	J-Y12	SK80009	SK10029	—	—	—	体部 小片	外：鑿痕 内：鑿痕、擦痕	—	滑石製 肥前西彼杵 半島 外面煤付着
0635	005-03 10次	石製品	砥石	J-Y13	SK80009	SK10029	長さ 7.7	幅 3.1	厚さ 2.1	—	擦痕	—	軽石製 12.0g
0636	049-01 10次	鉄製品	刀子	J-Y12	SK80009	SK10029	—	幅 3.1	厚さ 1.1	半欠	—	—	
0637	049-03 10次	鉄製品	片刃状製品	—	SK80009	SK10029 9層	—	幅 2.2	厚さ 1.1	小片	—	—	鉄鐵？
0638	049-02 10次	鉄製品	鍔	J-Y13	SK80009	SK10029	長さ 8.7	幅 4.5	厚さ 1.5	一部欠	—	—	
0639	005-06 8次	土師器	皿	—	SK80010	SK80010	6.7	1.4	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	7.5YR7/4	大坂系 ロクロ土師器
0640	005-07 8次	瓦質 土器	火鉢	—	SK80010	SK80010	22.2	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ケズリ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5Y8/1、N5/0	足の剥離痕あり

第IV -16 表 遺物観察表 16

報告 №	実測 №	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0641	006-02 8次	陶器	鉢	—	SK80010	SK80010	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5Y7/2	瀬戸・美濃
0642	006-01 8次	陶器	描鉢	—	SK80010	SK80010	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ、描目	2.5YR5/1	堺・明石系
0643	021-05 10次	陶器	壺	L-B17	SK80010	SK10037	—	—	6.4	底部 3/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ	素：10YR7/3 釉：10YR5/6	
0644	022-01 10次	磁器	碗	L-B17	SK80010	SK10037	11.0	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	肥前系
0645	006-03 8次	石製品	砥石	—	SK80010	SK80010	—	幅 4.0	厚さ 2.9	半欠	擦痕	—	155.6g
0646	007-03 8次	土師器	皿	—	SK80011	SK80011	8.0	1.6	—	口縁部 8/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	5YR6/6	大坂系 ロクロ土師器
0647	007-02 8次	土師器	皿	—	SK80011	SK80011	9.8	1.9	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	7.5YR6/4、 10YR4/2	大坂系 ロクロ土師器
0648	007-04 8次	陶器	皿	—	SK80011	SK80011 №1	11.8	2.8	6.1	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、ヘラ切痕、施釉 内：ロクロナデ、摺絵、重ね焼き痕、施釉	素：2.5Y7/3 釉：7.5Y7/2	瀬戸・美濃
0649	006-05 8次	土師器	焙烙	—	SK80011	SK80011	25.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR6/4	大坂・明石系 外面煤付着
0650	007-01 8次	土師器	焙烙	—	SK80011	SK80011	30.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR4/1	大坂・明石系 外面煤付着
0651	006-04 8次	磁器	碗	—	SK80011	SK80011	9.4	4.9	3.9	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
0652	008-01 8次	陶器	加工円盤 (山茶碗)	—	SK80011	SK80011	長径 4.2	短径 4.2	—	—	外：ロクロナデ 内：糸切痕	—	20.5g 端部打ち欠き
0653	008-02 8次	石製品	円盤状製品	—	SK80011	SK80011	長径 5.4	短径 5.2	厚さ 1.2	—	端部打ち欠き、表面剥離	—	47.9g
0654	008-03 8次	石製品	敲石	—	SK80011	SK80011	長さ 5.2	幅 4.3	厚さ 4.2	—	敲打痕	—	111.7g
0655	008-04 8次	土師器	鍋または焙 烙	—	SE80015	SE80015	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR8/3	南伊勢系
0656	009-02 8次	陶器	皿	—	SE80015	SE80015	11.2	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：7.5Y7/2	
0657	008-05 8次	陶器	皿	—	SE80015	SE80015 掘形	—	—	6.2	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ、印刻	素：2.5Y8/3 釉：2.5Y8/1	瀬戸・美濃
0658	009-01 8次	陶器	皿	—	SE80015	SE80015 掘形	—	—	4.0	底部 7/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ、トチン痕、施釉	素：7.5YR7/3 釉：5Y6/2	肥前系？
0659	009-04 8次	陶器	描鉢	—	SE80015	SE80015 掘形	—	—	9.7	底部 2/12	外：ロクロナデ、ナデ？ 内：ロクロナデ、描目	2.5YR5/1	
0660	010-01 8次	陶器	描鉢	—	SE80015	SE80015	—	—	—	底部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、描目	5Y6/1	
0661	009-03 8次	陶器	甕	—	SE80015	SE80015	37.2	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5YR6/2、 2.5YR5/3	常滑
0662	010-03 8次	青磁	碗	—	SE80015	SE80015	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、鎮蓮弁文、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/1 釉：2.5GY6/1	龍泉窯系
0663	010-02 8次	青磁	碗	—	SE80015	SE80015	—	—	7.2	底部 1/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：10Y7/2	
0664	010-04 8次	石製品	円盤状製品	—	SE80015	SE80015	長径 4.4	短径 4.6	厚さ 0.7	—	端部打ち欠き、表面剥離	—	21.1g
0665	004-05 8次	瓦質 土器	鍋	—	SK80018	SK80018 8層	27.0	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ、タタキ？ 内：ヨコナデ、ナデ	N3/0、7.5YR7/6	双耳鍋 外面煤付着
0666	011-06 10次	土師器	皿	J-X13	SK10003	SK10003	5.8	1.0	—	口縁部 11/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ、施釉	5YR8/4 釉：透	大坂系 ロクロ土師器 外面口縁部煤付着
0667	011-05 10次	土師器	皿	J-X13	SK10003	SK10003	8.2	1.4	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ、施釉	7.5YR8/4 釉：透	大坂系 ロクロ土師器 外面口縁部煤付着
0668	012-02 10次	陶器	鉢	J-X13	SK10003	SK10003	17.2	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5Y8/2	瀬戸・美濃
0669	011-07 10次	陶器	鉢	J-X13	SK10004	SK10004	—	—	15.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、ヘラ切痕、施釉 内：ロクロナデ、重ね焼き痕	素：10YR8/2 釉：5Y7/3	瀬戸・美濃
0670	012-01 10次	磁器	碗	J-X13	SK10004	SK10004	5.8	5.2	3.4	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系
0671	011-04 10次	土師器	皿	J-W12	SK10005	SK10005	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ？	10YR8/2	
0672	011-03 10次	陶器	香炉	J-W12	SK10005	SK10005	12.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/3 釉：10YR5/6	瀬戸・美濃
0673	011-01 10次	須恵器	器種不明	J-V11	SK10007	SK10007	—	—	—	小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N4/0	円形の透かしが2箇 所あり、部位不明 (脚部？)
0674	011-02 10次	磁器	碗	J-W11	SK10010	SK10010	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系
0675	010-01 10次	陶器	碗	J-V8	SK10013	SK10013	6.0	—	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ	素：2.5Y8/2 釉：2.5GY7/1	瀬戸・美濃
0676	010-03 10次	陶器	茶入	J-V8	SK10014	SK10014	5.4	—	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ	素：10YR8/2 釉：2.5YR1.7/1	瀬戸・美濃
0677	010-02 10次	磁器	加工円盤 (碗)	J-V8	SK10014	SK10014	長径 5.8	短径 5.4	—	—	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	56.0g 端部打ち欠き
0678	010-04 10次	陶器	描鉢	J-V8	SK10015	SK10015	—	—	—	底部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：10R4/1	瀬戸・美濃
0679	010-06 10次	陶器	皿	J-V8	SK10016	SK10016	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/1 釉：2.5GY8/1	瀬戸・美濃
0680	010-05 10次	陶器	描鉢	J-V8	SK10016	SK10016	—	—	—	底部 小片	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ、描目	10R6/6、 2.5YR5/2	

第Ⅳ-17表 遺物観察表 57

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0681	010-07 10次	磁器	碗	J-V8	SK10016	SK10016	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	N8/0	肥前系 コンニャク印判
0682	012-03 10次	土師器	皿	L-A12	SK10017	SK10017	11.4	2.0	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR8/2	
0683	012-06 10次	陶器	山皿	L-A12	SK10017	SK10017	8.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
0684	012-04 10次	土製品	土錘	L-A12	SK10017	SK10017	長さ 3.9	幅 3.3	—	完存	外：ナデ	7.5YR8/3	33.0g
0685	012-05 10次	土製品	土錘	L-A12	SK10017	SK10017	長さ 4.1	幅 3.2	—	完存	外：ナデ	7.5YR8/3	35.0g
0686	017-02 10次	土師器	皿	J-W11	SK10018	SK10018	8.0	—	—	口縁部 1/12	外：ナデ、ユビオサエ、粘土継接合痕 内：ナデ	10YR7/4	南伊勢系
0687	017-03 10次	土師器	皿	J-W11	SK10018	SK10018	8.8	—	—	口縁部 3/12	外：ナデ、ユビオサエ 内：ナデ	7.5YR7/4	南伊勢系
0688	017-01 10次	土師器	皿	J-W11	SK10018	SK10018	9.8	1.5	—	口縁部 10/12	外：ナデ、ユビオサエ 内：ナデ	10YR7/4	南伊勢系
0689	017-04 10次	土師器	皿	J-W11	SK10021	SK10021	9.0	—	—	口縁部 2/12	外：ナデ、ユビオサエ 内：ナデ	10YR7/4	南伊勢系
0690	017-05 10次	土師器	茶釜	J-W11	SK10021	SK10021	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7.5YR6/4	外面煤付着
0691	017-06 10次	陶器	山茶碗	J-W11	SK10021	SK10021	14.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
0692	018-03 10次	土師器	皿	J-Y12	SK10027	SK10027	10.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ、粘土継接合痕 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/2	
0693	018-04 10次	須恵器	鉢	J-X12	SK10027	SK10027	22.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y6/1	東播系
0694	018-05 10次	土師器	皿	J-X11	SK10028	SK10028	10.4	2.1	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	7.5YR7/6 釉：透	大坂系 ロクロ土師器、内外 面口縁部煤付着
0695	019-02 10次	陶器	碗	J-X11	SK10028	SK10028	9.8	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1	陶胎染付
0696	019-01 10次	陶器	壺	J-X11	SK10028	SK10028	20.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5Y4/1	常滑
0697	019-03 10次	磁器	蓋	J-X11	SK10028	SK10028	8.1	—	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、工具ナデ（カキメ状）、施釉	素：9/0	肥前系
0698	020-04 10次	土師器	皿	L-A8	SK10032	SK10032	7.0	1.3	—	口縁部 9/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	7.5YR7/4	大坂系 ロクロ土師器、内外 面口縁部煤付着
0699	020-03 10次	土師器	皿	L-A8	SK10032	SK10032	10.6	2.1	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ、施釉	5YR5/6 釉：透	大坂系 ロクロ土師器、内外 面口縁部煤付着
0700	020-02 10次	土師器	焙烙	L-A8	SK10032	SK10032	27.6	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	7.5YR5/3	大坂・明石系 外面煤付着
0701	020-05 10次	陶器	香炉	L-A8	SK10032	SK10032	9.4	5.8	—	口縁部 9/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/1 釉：2.5Y5/4	瀬戸・美濃
0702	021-01 10次	陶器	蓋	L-A8	SK10032	SK10032	7.4	3.1	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ？、施釉 内：ロクロナデ	素：2.5Y7/3 釉：5YR4/3	瀬戸・美濃
0703	021-02 10次	磁器	猪口	L-A8	SK10032	SK10032	—	—	5.6	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N9/0	肥前系
0704	021-04 10次	青磁	碗	L-A8	SK10032	SK10032	—	—	5.6	底部 3/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/1 釉：5Y4/2	
0705	021-03 10次	石製品	敲石	L-A8	SK10032	SK10032	—	幅 5.0	厚さ 4.0	半欠	敲打痕、加工痕？	—	359.0g
0706	020-01 10次	土師器	焙烙	J-Y8	SK10033	SK10033	36.0	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ケズリ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ケズリ	10YR7/4 7.5YR4/2	南伊勢系
0707	022-02 10次	陶器	山皿	L-A12	SK10038	SK10038	10.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	渥美湖西型
0708	022-03 10次	土師器	茶釜	L-A8	SK10040	SK10040	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、粘土継接合痕	5YR6/6	南伊勢系
0709	022-04 10次	磁器	碗	L-A8	SK10040	SK10040	10.8	4.4	4.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	肥前系
0710	024-02 10次	土師器	皿	L-B12	SK10041	SK10041	6.4	1.8	3.8	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、木目痕？ 内：ロクロナデ	5YR8/4	
0711	024-03 10次	土師器	皿	L-B12	SK10041	SK10041	6.8	1.9	4.4	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、木目痕？ 内：ロクロナデ	5YR5/4 10YR8/2	
0712	024-04 10次	土師器	皿	L-B12	SK10041	SK10041	11.4	3.3	—	口縁部 9/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	2.5YR7/4	
0713	024-05 10次	陶器	山皿	L-B12	SK10041	SK10041	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5Y8/1	渥美湖西型
0714	024-06 10次	石製品	石鍋	L-B12	SK10041	SK10041	—	—	—	体部 小片	外：鑿痕 内：鑿痕	—	滑石製 肥前西彼杵半島 外面煤付着
0715	025-01 10次	石製品	石鍋	L-B12	SK10041	SK10041	—	—	—	体部 小片	外：鑿痕 内：鑿痕	—	滑石製 肥前西彼杵半島 端部二次加工？
0716	025-02 10次	石製品	石鍋	L-B12	SK10041	SK10041	—	—	—	体部 小片	外：鑿痕 内：鑿痕、線状痕	—	滑石製 肥前西彼杵半島
0717	050-01 10次	鉄製品	L字状製品	L-B12	SK10041	SK10041	—	幅 8.2	厚さ 1.1	半欠	—	—	
0718	026-02 10次	土師器	皿	L-B11	SK10042	SK10042	10.6	2.1	—	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、印刻、施釉	10YR6/2 釉：透	大坂系 ロクロ土師器、内外 面口縁部煤付着
0719	026-01 10次	土師器	焙烙	L-B11	SK10042	SK10042	25.6	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	5YR6/6	大坂・明石系 外面煤付着
0720	027-01 10次	陶器	碗	L-B11	SK10042	SK10042	5.6	3.6	2.6	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/1 釉：5Y7/1	瀬戸・美濃

第IV -18 表 遺物観察表 18



報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0721	014-04 10次	陶器	皿	J-B11	SK10042	SK10042	18.3	5.3	9.0	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/2 釉：2.5Y6/1	瀬戸・美濃
0722	028-01 10次	陶器	片口鉢	L-B11	SK10042	SK10042	15.0	7.2	6.0	完形	外：ロクロナデ、ナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：2.5YR3/4	瀬戸・美濃
0723	028-02 10次	陶器	土瓶	L-B11	SK10042	SK10042	10.6	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ナデ、ユビオサエ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5YR3/4	瀬戸・美濃
0724	028-04 10次	磁器	碗	L-B11	SK10042	SK10042	6.2	5.2	3.6	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：10Y8/1	肥前系
0725	027-04 10次	磁器	碗	L-B11	SK10042	SK10042	10.3	5.5	4.1	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	肥前系 「成化年製」銘
0726	027-02 10次	磁器	碗	L-B11	SK10042	SK10042	10.7	5.7	4.6	底部 8/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系
0727	028-03 10次	磁器	小坏	L-B11	SK10042	SK10042	6.2	3.2	2.6	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、色絵、施釉	素：2.5Y8/1	肥前系
0728	027-03 10次	磁器	蓋	L-B11	SK10042	SK10042	9.4	3.0	鈕径 3.3	6/12	外：ロクロケズリ？、ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系 「成化年製」銘
0729	026-03 10次	土製品	魚形製品	L-B11	SK10042	SK10042	—	—	—	小片	外：型押し 内：ナデ、ユビオサエ	10YR7/4	
0730	026-06 10次	土製品	炉壁	L-B11	SK10042	SK10042	—	—	—	小片	ナデ？	—	ガラス質の溶融物付着
0731	026-04 10次	瓦？	丸瓦？	L-B11	SK10042	SK10042	—	—	—	小片	凸：ナデ、タタキ？ 凹：布目痕	7.5YR8/6	
0732	026-05 10次	石製品	砥石	L-B11	SK10042	SK10042	—	—	—	小片	擦痕	—	
0733	024-01 10次	土師器	皿	L-A10	SK10045	SK10045	6.8	1.5	—	口縁部 8/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	5YR8/4	大坂系 ロクロ土師器、内外 面口縁部煤付着
0734	023-01 10次	陶器	播鉢	L-A10	SK10045	SK10045	25.8	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ、描目	2.5YR4/3	堺・明石系
0735	023-02 10次	磁器	碗	L-A10	SK10045	SK10045	10.5	5.5	4.1	底部 9/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
0736	023-03 10次	磁器	蓋	L-A10	SK10045	SK10045	5.8	—	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ	素：N8/0	肥前系
0737	023-04 10次	磁器	鉢	L-A10	SK10045	SK10045	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、型押し、施釉	素：N8/0	肥前系
0738	023-05 10次	石製品	円盤状製品	L-A10	SK10045	SK10045	長さ 6.8	幅 6.7	厚さ 1.5	—	端部打ち欠き、表面剥離	—	83.0g
0739	051-01 10次	鉄製品	鎌	L-A10	SK10045	SK10045	—	幅 7.5	厚さ 1.0	半欠	—	—	
0740	041-04 2次	陶器	山茶碗	L-D13	SD20022	SD2022	—	—	8.0	底部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	
0741	041-05 2次	陶器	山茶碗	L-D13	SD20022	SD2022	—	—	8.8	底部 4/12	外：ロクロナデ、ナデ、糸切痕、靱殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
0742	015-02 2次	陶器	天目茶碗	L-D13	SD20022	SD2022	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：10Y2/1	瀬戸・美濃
0743	042-07 2次	陶器	皿	L-D13	SD20022	SD2022	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/2 釉：7.5Y6/3	瀬戸・美濃
0744	042-03 2次	土製品	土鍾	L-D10	SD20022	SD2022	長さ 4.9	幅 1.2	—	完存	外：ナデ	2.5Y6/3	6.3g
0745	042-04 2次	土製品	土鍾	L-D12	SD20022	SD2022	長さ 5.1	幅 1.4	—	完存	外：ナデ	2.5Y7/2	8.0g
0746	031-06 2次	土師器	鍋	L-C12	SD20028	SD2028	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7.5YR8/4	南伊勢系 外面煤付着
0747	031-07 2次	陶器	播鉢	L-C12	SD20028	SD2028	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、描目、施釉	素：N4/0 釉：10R5/2	備前
0748	007-04 3次	土師器	皿	L-Q3	SD31001	SD31001	8.1	—	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、工具ナデ、オサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0749	012-03 7次	土師器	皿	2区29	SD31001	SD70012	10.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ	10YR8/2	
0750	008-02 3次	土師器	皿	L-U2	SD31001	SD31001	11.4	3.4	2.9	口縁部 9/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR8/3	
0751	008-03 3次	土師器	皿	L-U2	SD31001	SD31001	11.4	3.8	2.0	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/2	
0752	081-03 3次	土師器	皿	L-U2	SD31001	SD31001	11.6	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	2.5Y7/2	
0753	098-08 3次	土師器	皿	L-R3	SD31001	SD31001	11.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0754	013-06 7次	土師器	皿	2区32・ 38	SD31001	SD70012	12.0	3.1	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ？	10YR8/2 10YR5/3	
0755	081-04 3次	土師器	皿	L-U2	SD31001	SD31001	12.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	2.5Y7/3	
0756	098-07 3次	土師器	皿	L-R3	SD31001	SD31001	12.0	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0757	013-01 7次	土師器	皿	2区32	SD31001	SD70012 一括	12.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR7/3	
0758	013-04 7次	土師器	皿	2区32・ 38	SD31001	SD70012	12.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0759	013-05 7次	土師器	皿	2区32・ 38	SD31001	SD70012	12.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ？ 内：ヨコナデ、ナデ？	10YR8/3	
0760	083-02 3次	土師器	皿	L-U2	SD31001	SD31001	13.6	—	—	口縁部 2/12	外：ナデ 内：ナデ	2.5Y6/3	

第Ⅳ-19表 遺物観察表 19

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0761	012-02 7次	土師器	皿	2区29	SD31001	SD70012	8.4	1.4	6.0	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR8/3	ロクロ土師器
0762	098-04 3次	土師器	台付皿	L-03	SD31001	SD31001	—	—	8.0	底部 5/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ?	浅5YR8/3 2.5Y8/1	
0763	008-04 3次	土師器	台付皿	L-03	SD31001	SD31001	14.6	4.1	8.0	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ	10YR8/2	
0764	014-02 7次	土師器	鍋	2区32・ 38	SD31001	SD70012	21.6	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	7.5YR7/4	南伊勢系
0765	082-01 3次	土師器	鍋	L-U2	SD31001	SD31001	22.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	2.5Y7/3	南伊勢系 外面煤付着
0766	006-01 9次	土師器	鍋	—	SD31001	SD90002	22.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ハケメ	7.5YR4/1	南伊勢系
0767	080-03 3次	土師器	鍋	L-U2	SD31001	SD31001	24.0	—	—	口縁部 5/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	2.5Y7/3	南伊勢系 内外面煤付着
0768	083-01 3次	土師器	鍋	L-S2	SD31001	SD31001	25.9	—	—	口縁部 10/12	外：ヨコナデ、ハケメ、ケズリ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、工具ナデ	10YR7/4	南伊勢系 外面煤付着
0769	081-01 3次	土師器	鍋	L-S2	SD31001	SD31001	26.8	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	2.5Y7/3	南伊勢系 外面煤付着
0770	080-02 3次	土師器	鍋	L-U2	SD31001	SD31001	27.2	—	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ハケメ	2.5Y7/3	南伊勢系
0771	080-01 3次	土師器	鍋	L-U2	SD31001	SD31001	28.0	—	—	口縁部 5/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR4/2	南伊勢系 内外面煤付着
0772	081-02 3次	土師器	鍋	L-U2	SD31001	SD31001	28.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	2.5Y7/3	南伊勢系 内外面煤付着
0773	082-02 3次	土師器	鍋	L-U2	SD31001	SD31001	28.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	2.5Y7/3	南伊勢系 外面煤付着
0774	006-02 9次	土師器	鍋	—	SD31001	SD90002	28.4	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	10YR5/2	南伊勢系
0775	002-03 3次	土師器	鍋	L-03	SD31001	SD31001	27.6	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ハケメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	7.5YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0776	014-01 7次	土師器	鍋	2区32	SD31001	SD70012 一括	28.4	—	—	口縁部 10/12	外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	7.5YR7/3	外面煤付着 南伊勢系
0777	082-03 3次	土師器	鍋	L-U2	SD31001	SD31001	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ハケメ	2.5Y7/3	南伊勢系
0778	082-04 3次	土師器	鍋	L-V1	SD31001	SD31001	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0779	082-05 3次	土師器	鍋	L-U2	SD31001	SD31001	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	2.5Y7/3	南伊勢系 内外面煤付着
0780	082-06 3次	土師器	鍋	L-U2	SD31001	SD31001	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	2.5Y7/3	南伊勢系 外面煤付着
0781	083-03 3次	土師器	鍋	L-V1	SD31001	SD31001	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	2.5Y8/2	南伊勢系
0782	084-03 3次	土師器	鍋	L-U2	SD31001	SD31001	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR7/4	南伊勢系 内外面煤付着
0783	007-01 3次	土師器	羽釜	L-R2	SD31001	SD31001	24.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	2.5YR6/6	南伊勢系 外面煤付着
0784	007-03 3次	土師器	羽釜	L-03	SD31001	SD31001	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR7/4	南伊勢系 外面煤付着
0785	006-03 9次	土師器	羽釜	—	SD31001	SD90002	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、刻目、粘土継接 合痕	7.5YR6/2	南伊勢系
0786	015-03 7次	土師器	羽釜	2区30	SD31001	SD70012	29.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0787	013-02 7次	須恵器	鉢	2区32・ 38	SD31001	SD70012	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	10YR7/2	東播系
0788	002-05 9次	陶器	山茶碗	—	SD31001	SD90002	—	—	6.2	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	尾張型
0789	008-01 3次	陶器	山茶碗	L-Q3	SD31001	SD31001	—	—	6.3	底部 11/12	外：ロクロナデ、工具痕?、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR7/2	渥美湖西型
0790	110-01 3次	陶器	山茶碗	L-P2	SD31001	SD31001	—	—	6.4	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	渥美湖西型
0791	098-06 3次	陶器	山茶碗	L-R3	SD31001	SD31001	—	—	6.5	底部 10/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	渥美湖西型
0792	098-03 3次	陶器	山茶碗	L-Q3	SD31001	SD31001	—	—	7.0	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	渥美湖西型
0793	013-07 7次	陶器	山茶碗	2区32・ 38	SD31001	SD70012	—	—	7.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、ナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
0794	013-08 7次	陶器	山茶碗	2区32・ 38	SD31001	SD70012	—	—	7.3	底部 2/12	外：ロクロナデ、ナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	渥美湖西型
0795	098-02 3次	陶器	山茶碗	L-Q3	SD31001	SD31001	—	—	7.5	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y8/1	尾張型
0796	012-04 7次	陶器	山茶碗	2区29	SD31001	SD70012	—	—	7.6	底部 2/12	外：ロクロナデ、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
0797	098-01 3次	陶器	山茶碗	L-Q3	SD31001	SD31001	—	—	8.7	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR8/1	渥美湖西型
0798	002-04 3次	陶器	皿	L-03	SD31001	SD31001	—	—	—	底部 小片	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/2 釉：10Y7/1	瀬戸・美濃 外面離れ砂
0799	013-03 7次	陶器	皿	2区32	SD31001	SD70012	31.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y6/1 2.5Y7/1	
0800	007-06 3次	陶器	片口鉢	L-03	SD31001	SD31001	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、工具ナデ、ユビオサエ 内：ロクロナデ、工具ナデ	N5/0	常滑

第IV-20 表 遺物観察表 20

報告 №	実測 №	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0801	112-02 3次	陶器	鉢	L-03	SD31001	SD31001	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、工具ナデ 内：ロクロナデ、工具ナデ	N5/0	常滑
0802	012-05 7次	陶器	鉢	2区29	SD31001	SD70012	—	—	13.0	底部 1/12	外：ロクロナデ？、ナデ？ 内：使用による摩耗のため不明	5Y8/1	常滑
0803	112-01 3次	陶器	甕	L-V1	SD31001	SD31001	—	—	13.2	底部 3/12	外：ロクロナデ、ケズリ、ナデ 内：ナデ	2.5YR5/4	
0804	096-01 3次	陶器	壺	L-D3	SD31001	SD31001	18.0	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、ユビオサエ	5YR4/8	常滑
0805	003-01 9次	陶器	壺	—	SD31001	SD90002	16.4	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、工具ナデ 内：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ	10YR6/1	常滑
0806	007-02 3次	陶器	壺	L-V2	SD31001	SD31001	24.2	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/1 釉：7.5Y5/3	常滑
0807	006-04 9次	白磁	碗	—	SD31001	SD90002	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/1 釉：5Y8/2	福建省系
0808	014-03 7次	青磁	碗	2区32・ 38	SD31001	SD70012	10.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0 釉：7.5GY8/1	
0809	015-01 7次	青磁	碗	2区29	SD31001	SD70012	—	—	5.7	底部 6/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、刻劃文、施釉	素：5Y7/1 釉：7.5Y5/2	龍泉窯系
0810	014-04 7次	青白磁	梅瓶 (メイビン)	2区29	SD31001	SD70012	—	—	9.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、鎚文、施釉 内：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉	素：5Y8/1 釉：10GY7/1	
0811	012-06 7次	土製品	土鉢	2区29	SD31001	SD70012	長さ 3.5	幅 2.7	—	一部欠	外：ナデ	10YR8/2	20.0g
0812	007-05 3次	土製品	土鉢	L-Q3	SD31001	SD31001	長さ 6.6	幅 3.2	—	完存	外：ナデ	7.5YR8/4	40.0g
0813	112-03 3次	石製品	砥石	L-03	SD31001	SD31001	—	幅 5.9	厚さ 1.9	一部欠	擦痕	—	132.1g
0814	015-02 7次	石製品	磨石	2区30	SD31001	SD70012	—	幅 11.5	厚さ 7.7	半欠	擦痕	—	966.0g
0815	004-04 9次	石製品	敲石	—	SD31001	SD90002	長さ 5.4	幅 5.2	厚さ 4.4	—	敲打痕	—	160.4g
0816	005-01 3次	土師器	鍋	L-V1	SD31002	SD31002	19.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	2.5Y8/1 7.5YR6/2	南伊勢系
0817	008-05 7次	土師器	鍋	2区43	SD31002	SD70008	29.4	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	10YR8/3	南伊勢系 外面煤付着
0818	009-01 7次	土師器	鍋	2区23	SD31002	SD70008	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ	7.5YR7/4	南伊勢系
0819	009-02 7次	土師器	羽釜	2区23	SD31002	SD70008	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ハケメ	7.5YR6/3	外面煤付着
0820	008-04 7次	陶器	甕	2区43	SD31002	SD70008	—	—	11.2	底部 1/12	外：ナデ 内：ナデ？	素：N5/0 釉：5YR5/3	常滑？
0821	006-01 3次	土師器	鍋	L-Q3	SD31009	SD31009	21.2	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	7.5YR7/4	播磨型 外面煤付着
0822	005-03 3次	土師器	鍋	L-P3	SD31009	SD31009	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ	10YR8/3	南伊勢系 外面煤付着
0823	097-04 3次	石製品	円盤状製品	L-S2	SD31009	SD31009	長径 3.8	短径 3.3	厚さ 0.4	—	端部打ち欠き、表面剥離	—	7.0g
0824	005-02 3次	土師器	鍋	L-03	SD31011	SD31011	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ	10YR7/3	南伊勢系
0825	005-04 3次	陶器	山茶碗	L-03	SD31011	SD31011	—	—	5.8	底部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
0826	005-05 3次	陶器	山茶碗	L-R2	SD31011	SD31011	—	—	6.8	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
0827	016-03 7次	陶器	山茶碗	2区55	SD31011	SD70017	—	—	7.2	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
0828	016-04 7次	陶器	山皿	2区55	SD31011	SD70017	—	—	3.2	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	渥美湖西型
0829	019-01 7次	陶器	鉢	2区55	SD31011	SD70017	32.4	10.0	14.2	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ケズリ 内：ロクロナデ	N7/0	常滑
0830	098-05 3次	陶器	鉢	L-P2	SD31011	SD31011	—	—	11.6	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	常滑
0831	018-04 7次	陶器	壺	2区55	SD31011	SD70017	—	—	10.0	底部 2/12	外：工具ナデ、ナデ？ 内：ロクロナデ、ナデ	5YR5/1	
0832	018-03 7次	陶器	壺	2区49	SD31011	SD70017 3層	—	—	12.2	底部 2/12	外：工具ナデ、ナデ 内：ロクロナデ？	7.5YR4/1 N7/0	
0833	005-06 3次	青磁	碗	L-R2	SD31011	SD31011	14.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N7/0 釉：10Y5/2	
0834	019-02 7次	土師器	羽釜	2区48	SD31020	SD70018 1層	14.6	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、工具ナデ	10YR8/2	南伊勢系 外面煤付着
0835	019-03 7次	土師器	羽釜	2区54	SD31020	SD70018	16.6	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR4/2	南伊勢系 外面煤付着
0836	003-02 3次	土師器	羽釜	L-03	SD31020	SD31020	20.4	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	10YR6/3	南伊勢系 外面煤付着
0837	002-05 3次	陶器	山茶碗	L-Q2	SD31020	SD31020	—	—	8.4	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
0838	015-04 3次	土師器	皿	L-L11	SD32004	SD33002	7.2	1.7	5.2	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	5YR7/4	ロクロ土師器
0839	112-05 3次	土師器	皿	L-L11	SD32004	SD33002	10.6	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	2.5Y8/1	
0840	014-04 3次	陶器	山茶碗	L-L10	SD32004	SD33002	—	—	5.7	底部 8/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型

第Ⅳ-21 表 遺物観察表 21

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0841	014-05 3次	陶器	山茶碗	L-L10	SD32004	SD33002	—	—	8.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y7/2	渥美湖西型
0842	015-02 3次	陶器	鉢	L-L9	SD32004	SD33002	—	—	14.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ	7. 5Y7/1	常滑
0843	016-05 3次	白磁	碗	L-L・M8	SD32004	SD33002 最下層	15.3	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y8/2 釉：7. 5Y7/1	福建省系
0844	123-01 3次	鉄製品	釘	L-L9	SD32004	SD33002	—	幅 0.9	厚さ 0.6	半欠	—	—	
0845	033-07 4次	縄文 土器	深鉢	L-V3	SD32006	SD41001 トレンチ	—	—	—	口縁部 小片	外：ミガキ、条線 内：ミガキ	7. 5YR7/6	
0846	034-01 4次	縄文 土器	深鉢	L-V3	SD32006	SD41001 トレンチ②	—	—	—	体部 小片	外：条線、ナデ 内：ミガキ	7. 5YR7/6	
0847	034-02 4次	縄文 土器	深鉢	L-V3	SD32006	SD41001 トレンチ②	—	—	—	体部 小片	外：条線、ナデ 内：ミガキ	7. 5YR7/4	
0848	001-04 4次	土師器	皿	L-S4	SD32006	SD41001 下層	7.5	2.0	5.6	底部 9/12	外：ロクロナデ、ナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	7. 5YR7/4 10YR8/2	
0849	001-05 4次	土師器	皿	L-T4	SD32006	SD41001 下層	7.6	1.7	6.0	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7. 5YR8/3	
0850	002-01 4次	土師器	皿	L-U3	SD32006	SD41001 上層	10.6	—	—	口縁部 9/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、ナデ	7. 5YR8/3	
0851	062-04 4次	土師器	皿	L-T4	SD32006	SD41001 下層	11.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	2. 5Y8/2	
0852	062-05 4次	土師器	皿	L-T4	SD32006	SD41001 下層	11.4	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/3	
0853	001-03 4次	土師器	皿	L-V3	SD32006	SD41001 上層	11.4	2.7	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/2	
0854	002-03 4次	土師器	皿	L-U3	SD32006	SD41001 下層	11.8	1.9	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/2	
0855	002-04 4次	土師器	皿	L-V3	SD32006	SD41001 アゼ下層	10.9	3.7	—	口縁部 10/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/2	
0856	062-02 4次	土師器	皿	L-P5	SD32006	SD41001 下層	12.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0857	069-02 4次	土師器	皿	L-J8	SD32006	SD43003	12.0	3.0	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	2. 5Y8/2	
0858	069-03 4次	土師器	皿	L-J8	SD32006	SD43003	12.0	2.9	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR7/3	
0859	062-03 4次	土師器	皿	L-Q5	SD32006	SD41001	12.1	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0860	002-02 4次	土師器	皿	L-U4	SD32006	SD41001	12.4	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7. 5YR8/3	
0861	061-05 4次	土師器	皿	L-V3	SD32006	SD41001 上層	12.7	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/2	
0862	062-06 4次	土師器	皿	L-U3	SD32006	SD41001 下層	12.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/3	
0863	062-01 4次	土師器	皿	L-W3	SD32006	SD41001 中層	13.0	3.3	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/3	
0864	061-04 4次	土師器	皿	L-V3	SD32006	SD41001 中層	15.7	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR7/3 10YR8/2	
0865	028-02 7次	土師器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 4・5Tr間	6.7	1.3	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	5YR7/6 釉：透	大坂系 ロクロ土師器
0866	028-01 7次	土師器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	6.8	1.2	—	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ、ナデ	7. 5YR7/6	大坂系 ロクロ土師器 外面煤付着
0867	028-03 7次	土師器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	7.0	1.7	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	5YR7/8 釉：透	大坂系 ロクロ土師器
0868	027-04 7次	土師器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 4・5Tr間	9.7	2.1	—	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	5YR7/8 釉：透	大坂系 ロクロ土師器 内外面煤付着
0869	037-04 10次	土師器	台付皿	—	SD32006	SD10001	11.0	—	6.1	底部 6/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
0870	014-01 3次	土師器	台付皿	—	SD32006	SD33001 I層	—	—	10.4	底部 10/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7. 5YR8/4	
0871	030-03 10次	土師器	鍋	J-V10	SD32006	SD10001 下層	19.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR6/3	南伊勢系
0872	005-03 9次	土師器	鍋	—	SD32006	SD90001 下層	22.4	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ？	10YR8/3	南伊勢系
0873	059-03 4次	土師器	鍋	L-R5	SD32006	SD41001 下層	23.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0874	060-02 4次	土師器	鍋	L-V3	SD32006	SD41001 中層	24.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR4/1 10YR7/3	南伊勢系
0875	069-04 4次	土師器	鍋	L-J8	SD32006	SD43003	24.0	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0876	070-02 4次	土師器	鍋	L-J8	SD32006	SD43003	24.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR7/3	南伊勢系 内外面煤付着
0877	069-05 4次	土師器	鍋	L-J8	SD32006	SD43003	24.3	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	10YR6/3	南伊勢系 外面煤付着
0878	040-04 10次	土師器	鍋	南側	SD32006	SD10001	24.6	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	7. 5YR7/4	南伊勢系
0879	070-03 4次	土師器	鍋	L-J8	SD32006	SD43003	25.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ハケメ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0880	010-04 3次	土師器	鍋	L-Q5	SD32006	SD32006 II層	25.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ	7. 5YR7/3	南伊勢系 外面煤付着

第IV -22 表 遺物観察表 22

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施軸等	色調	特記事項
0881	064-04 4次	土師器	鍋	L-W3	SD32006	SD41001 トレンチ	26.0	—	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR6/3	南伊勢系 外面煤付着
0882	065-01 4次	土師器	鍋	L-V3	SD32006	SD41001 トレンチ②	26.0	—	—	口縁部 5/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0883	060-01 4次	土師器	鍋	L-V3	SD32006	SD41001 上層	26.3	—	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ハケメ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ユビオサエ	10YR7/2 7.5YR5/2	南伊勢系 内外面煤付着
0884	060-03 4次	土師器	鍋	L-V3	SD32006	SD41001 下層	26.6	—	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	7.5YR4/1 10YR8/2	南伊勢系 外面煤付着
0885	059-02 4次	土師器	鍋	L-V3	SD32006	SD41001 下層	26.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0886	060-04 4次	土師器	鍋	L-V3	SD32006	SD41001 下層	26.9	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR7/2 7.5YR5/2	南伊勢系
0887	061-01 4次	土師器	鍋	L-V3	SD32006	SD41001 下層	27.0	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR5/2 10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0888	070-01 4次	土師器	鍋	L-J8	SD32006	SD43003	27.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0889	058-01 4次	土師器	鍋	L-T4	SD32006	SD41001 下層	27.4	—	—	口縁部 9/12	外：ヨコナデ、ハケメ、ケズリ 内：ヨコナデ、ハケメ、ユビオサエ、ナデ	10YR6/4	南伊勢系 外面煤付着
0890	003-01 4次	土師器	鍋	L-W3	SD32006	SD41001 下層	27.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、工具ナデ	10YR8/3	南伊勢系 外面煤付着
0891	059-01 4次	土師器	鍋	L-V3	SD32006	SD41001 下層	27.8	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、工具ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0892	058-02 4次	土師器	鍋	L-T4	SD32006	SD41001 下層	28.0	—	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ、ユビオサエ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0893	065-02 4次	土師器	鍋	L-W3	SD32006	SD41001 アゼ上層	28.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ	10YR7/2	南伊勢系 外面煤付着
0894	030-02 10次	土師器	鍋	J-V10	SD32006	SD10001 下層	28.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR7/3	南伊勢系
0895	049-03 3次	土師器	鍋	J-U11	SD32006	SD36001	29.6	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ	7.5YR7/4	南伊勢系 外面煤付着
0896	050-03 3次	土師器	鍋	J-U11	SD32006	SD36001	31.0	—	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0897	062-08 4次	土師器	鍋	L-U4	SD32006	SD41001 上層	31.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR7/3 10YR6/3	南伊勢系 外面煤付着
0898	002-03 7次	土師器	鍋	1区12	SD32006	SD70001 断割	30.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR6/3	南伊勢系 外面煤付着
0899	041-05 10次	土師器	鍋	—	SD32006	SD10001	31.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ハケメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	10YR7/3	南伊勢系
0900	062-07 4次	土師器	鍋	L-U3	SD32006	SD41001 上層	32.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0901	042-02 10次	土師器	鍋	J-Y10	SD32006	SD10001	33.4	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR8/3	南伊勢系
0902	026-03 7次	土師器	鍋	2区3	SD32006	SD70011 最上層	29.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	5YR4/2 7.5YR8/3	南伊勢系 外面煤付着
0903	042-04 10次	土師器	鍋	南側	SD32006	SD10001 一括	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7.5YR5/2	南伊勢系 外面煤付着
0904	042-05 10次	土師器	鍋	南側	SD32006	SD10001 一括	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0905	016-04 4次	土師器	鍋	L-J8	SD32006	SD43003 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR7/3 7.5YR6/3	南伊勢系 外面煤付着
0906	016-03 4次	土師器	鍋	L-J8	SD32006	SD43003 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0907	016-02 3次	土師器	鍋	L-M6	SD32006	SD33001 II層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0908	049-04 3次	土師器	鍋	J-U11	SD32006	SD36001	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/3	南伊勢系 外面煤付着
0909	003-02 4次	土師器	鍋	L-Q5	SD32006	SD41001 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ハケメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、工具ナデ	10YR8/2	南伊勢系
0910	026-04 7次	土師器	鍋	2区21	SD32006	SD70011 5Tr	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7.5YR8/3	南伊勢系 外面煤付着
0911	001-01 7次	土師器	焙烙	1区12	SD32006	SD70001	32.0	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ハケメ、ケズリ 内：ヨコナデ、ケズリ	10YR5/2 7.5YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0912	001-03 7次	土師器	焙烙	1区12	SD32006	SD70001	36.8	—	—	口縁部 5/12	外：ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR4/2 7.5YR7/4	南伊勢系 外面煤付着
0913	030-01 10次	土師器	焙烙	J-V10	SD32006	SD10001 下層	33.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケメ、ケズリ 内：ヨコナデ、ナデ、ハケメ	10YR7/3	南伊勢系
0914	002-01 7次	土師器	焙烙	1区12	SD32006	SD70001	30.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR7/4	南伊勢系 外面煤付着
0915	001-04 7次	土師器	焙烙	1区12	SD32006	SD70001	31.0	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ハケメ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0916	029-04 7次	土師器	焙烙	2区	SD32006	SD70011 下層(23層)	31.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/3	南伊勢系
0917	001-02 7次	土師器	焙烙	1区12	SD32006	SD70001	32.2	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR5/2 10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0918	002-02 7次	土師器	焙烙	1区12	SD32006	SD70001	33.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7.5YR6/2 7.5YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0919	026-02 7次	土師器	焙烙	2区	SD32006	SD70011上層 1・3・4Tr間	33.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ？ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR4/1 7.5YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0920	011-01 3次	土師器	鍋	L-R5	SD32006	SD32006 I層	20.1	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ、平行タタキ 内：ヨコナデ、ナデ	5YR7/4	播磨型 外面煤付着

第Ⅳ-23表 遺物観察表 23



報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0921	043-03 10次	土師器	鍋	南側	SD32006	SD10001 一括	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、平行タタキ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR6/4	播磨型 外面煤付着、穿孔あり
0922	049-01 3次	土師器	鍋	J-U11	SD32006	SD36001	20.4	—	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、平行タタキ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR6/4	播磨型 外面煤付着
0923	024-02 7次	土師器	鍋	2区 確トレ	SD32006	SD70011 上層	20.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、格子タタキ 内：ヨコナデ、工具ナデ	2.5YR6/6	播磨型 外面煤付着
0924	104-01 3次	土師器	鍋	J-U11	SD32006	SD36001	22.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、格子タタキ、ケズリ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR6/3	播磨型 内外面煤付着
0925	044-01 10次	土師器	鍋	—	SD32006	SD10001	23.5	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、格子タタキ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR6/3 7.5YR5/2	播磨型 外面煤付着
0926	049-02 3次	土師器	鍋	J-U11	SD32006	SD36001	23.8	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR7/6	播磨型 外面煤付着
0927	003-01 7次	土師器	鍋	1区12	SD32006	SD70001 第1トレンチ	24.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、格子タタキ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR6/6	播磨型 外面煤付着
0928	026-01 7次	土師器	鍋	2区21	SD32006	SD70011 5Tr	24.0	—	—	口縁部 5/12	外：ヨコナデ、格子タタキ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ?	2.5YR6/6	播磨型 外面煤付着
0929	003-02 7次	土師器	鍋	1区12	SD32006	SD70001	24.3	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、格子タタキ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR6/4	播磨型 外面煤付着
0930	044-02 10次	土師器	鍋	—	SD32006	SD10001	22.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、平行タタキ、粘土細接合痕 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR6/6 10YR6/1	播磨型 外面煤付着、硬質
0931	035-03 10次	土師器	鍋	南側	SD32006	SD10001 一括	23.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、平行タタキ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR7/6	播磨型
0932	029-03 10次	土師器	鍋	J-V10	SD32006	SD10001 下層	25.2	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ、平行タタキ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR6/4	播磨型 外面煤付着
0933	029-04 10次	土師器	鍋	J-V10	SD32006	SD10001 下層	26.5	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ、平行タタキ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR6/4	播磨型 外面煤付着
0934	014-03 3次	土師器	鍋	—	SD32006	SD33001 1層	24.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、平行タタキ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR6/4	播磨型 外面煤付着
0935	023-01 7次	土師器	焙烙	2区	SD32006	SD70011 7層 1Tr	22.6	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ? 内：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ、粘土細接合痕	5YR4/2 5YR5/3	大坂・明石系 外面煤付着
0936	043-02 10次	土師器	焙烙	—	SD32006	SD10001	23.2	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、粘土細接合痕 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	7.5YR6/4	大坂・明石系 外面煤付着
0937	043-01 10次	土師器	焙烙	南側	SD32006	SD10001 一括	25.4	—	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ、工具ナデ? 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR6/6	大坂・明石系 外面煤付着
0938	027-02 7次	土師器	焙烙	2区 0+ 45～33.4	SD32006	SD70011 最上層	25.6	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ヘラナデ?、工具ナデ、ナデ	5YR6/6	大坂・明石系 外面煤付着
0939	024-01 7次	土師器	焙烙	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	25.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ?、粘土細接合痕 内：ヨコナデ、ヘラナデ?、工具ナデ、ナデ	2.5YR6/6	大坂・明石系 外面煤付着
0940	025-02 7次	土師器	焙烙	2区 0+ 45～33.4	SD32006	SD70011 最上層	26.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ?、粘土細接合痕 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ?	7.5YR3/1 5YR4/3	大坂・明石系 外面煤付着
0941	025-01 7次	土師器	焙烙	2区3	SD32006	SD70011 1Tr	26.6	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、工具ナデ? 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	2.5YR6/8	大坂・明石系 外面煤付着
0942	024-03 7次	土師器	焙烙	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	27.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ? 内：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ、粘土細接合痕	2.5YR7/8 5YR6/4	大坂・明石系 外面煤付着
0943	025-03 7次	土師器	焙烙	2区15	SD32006	SD70011 4Tr	27.2	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、粘土細接合痕 内：ヨコナデ、ヘラナデ?、ナデ、工具ナデ?、 ユビオサエ、粘土細接合痕	7.5YR7/3	大坂・明石系 外面煤付着
0944	023-03 7次	土師器	焙烙	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	27.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ? 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ?	5YR6/6	大坂・明石系 外面煤付着
0945	027-01 7次	土師器	焙烙	2区 0+ 45～33.4	SD32006	SD70011 最上層	28.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	7.5YR6/6	大坂・明石系
0946	023-04 7次	土師器	焙烙	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	28.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、平行タタキ、ケズリ、ナデ、工具 ナデ? 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR7/3	大坂・堺系 外面煤付着
0947	035-01 10次	土師器	焙烙	南側	SD32006	SD10001 一括	30.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、平行タタキ、ナデ 内：ヨコナデ	7.5YR6/6	大坂・堺系
0948	023-02 7次	土師器	焙烙	2区	SD32006	SD70011 8層 1Tr	31.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ? 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、粘土細接合痕	5YR5/4 5YR6/6	大坂・明石系 外面煤付着
0949	027-03 7次	土師器	焙烙	2区 0+33.4 ～	SD32006	SD70011 最上層(灰 褐)	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ? 内：ヨコナデ	7.5YR6/6	大坂・明石系 外面煤付着
0950	069-06 4次	土師器	羽釜	L-J8	SD32006	SD43003	17.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0951	061-03 4次	土師器	羽釜	L-W3	SD32006	SD41001 下層	19.2	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR7/2	南伊勢系 内外面煤付着
0952	061-02 4次	土師器	羽釜	L-W3	SD32006	SD41001 下層	19.3	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ユビオサエ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0953	117-06 3次	土師器	羽釜	J-U11	SD32006	SD36001	19.4	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ? 内：ヨコナデ、ナデ	10YR7/2	南伊勢系
0954	065-05 4次	土師器	羽釜	L-W3	SD32006	トレンチ	19.8	—	—	口縁部 5/12	外：ヨコナデ、ハクメ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ユビオサエ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
0955	016-02 4次	土師器	羽釜	L-J8	SD32006	SD43003	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ユビオサエ	10YR6/2	南伊勢系 内面煤付着
0956	037-03 10次	土師質 土器	乗燭	J-Y10	SD32006	SD10001	4.3	—	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ、ミガキ?、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR7/4	外面煤付着
0957	064-05 7次	土師質 土器	乗燭	2区	SD32006	SD70011 上層 4・5Tr間	4.4	—	—	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ナデ、印刻、施釉 内：ナデ、印刻(青海波文)、施釉	7.5YR8/4 釉：透	把手欠損
0958	033-04 10次	土師質 土器	目皿	J-V10	SD32006	SD10001 上層	—	—	—	—	ナデ	5YR6/6	
0959	071-02 7次	土師質 土器	風炉または 火鉢	2区 確トレ	SD32006	SD70011 上層	26.6	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、工具ナデ?、ユビオサエ 内：ヨコナデ	2.5YR6/6	
0960	072-01 7次	土師質 土器	風炉または 火鉢	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	—	—	23.0	底部 6/12	外：ヨコナデ、穿孔 内：ヨコナデ、穿孔	7.5YR6/6	摩耗激しい

第IV-24表 遺物観察表 24

報告 №	実測 №	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
0961	072-02 7次	土師質 土器	風炉または 火鉢	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	—	—	26.7	底部 12/12	外：ヨコナデ、ミガキ、工具ナデ、穿孔 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR6/6	
0962	030-05 10次	土師質 土器	風炉または 火鉢	J-V10	SD32006	SD10001 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ、粘土紐接合痕	7.5YR7/4	内面口縁部煤付着
0963	071-01 7次	土師質 土器	風炉または 火鉢	2区 罐トレ	SD32006	SD70011 上層	25.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、工具ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	2.5YR6/6	内面煤付着
0964	003-04 4次	須恵器	鉢	L-W3	SD32006	SD41001 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、ナデ	N6/0	束播系
0965	003-03 4次	須恵器	鉢	L-U3	SD32006	SD41001 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、工具ナデ	10BG6/1	束播系 外面煤付着
0966	091-04 4次	灰釉 陶器	壺	L-Q5	SD32006	SD41001 下層	—	—	6.0	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	7.5YR7/2	内面朱付着
0967	110-02 3次	陶器	山茶碗	L-Q5	SD32006	SD32006 II層	—	—	6.6	底部 4/12	外：ロクロナデ、粉殻痕 内：ロクロナデ	10YR7/1	渥美湖西型
0968	041-05 4次	陶器	山茶碗	L-J8	SD32006	SD43003	—	—	6.6	底部 1/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5YR/2	渥美湖西型
0969	028-05 7次	陶器	山茶碗	2区21	SD32006	SD70011 5Tr	—	—	6.9	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
0970	039-04 10次	陶器	山茶碗	南側	SD32006	SD10001 一括	—	—	7.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5YR/1	尾張型
0971	040-05 10次	陶器	山茶碗	南側	SD32006	SD10001	—	—	7.0	底部 1/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR7/1	渥美湖西型
0972	035-03 4次	陶器	山茶碗	L-Q5	SD32006	SD41001 下層	—	—	7.2	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y6/3	渥美湖西型
0973	094-01 3次	陶器	山茶碗	—	SD32006	SD33001 I層	—	—	7.3	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	5Y6/2	渥美湖西型
0974	035-04 4次	陶器	山茶碗	L-Q5	SD32006	SD41001 下層	—	—	7.4	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N7/0	渥美湖西型
0975	002-04 9次	陶器	山茶碗	—	SD32006	SD90001 下層	—	—	7.5	底部 5/12	外：ロクロナデ、粉殻痕、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
0976	028-04 7次	陶器	山茶碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	8.0	底部 11/12	外：ロクロナデ、ナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	10YR7/2	尾張型
0977	041-07 4次	陶器	山茶碗	L-J8	SD32006	SD43003 下層	—	—	8.2	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5YR/2	渥美湖西型
0978	002-05 7次	陶器	山茶碗	1区12	SD32006	SD70001	—	—	8.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	10YR7/2	渥美湖西型
0979	029-02 10次	陶器	山茶碗	J-X10	SD32006	SD10001 最下層	—	—	—	底部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	
0980	002-06 9次	陶器	山皿	—	SD32006	SD90001 上層	9.0	1.9	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	渥美湖西型
0981	115-06 3次	陶器	山皿	L-R5	SD32006	SD32006 II層	—	—	3.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ、ナデ	2.5YR/3	尾張型
0982	104-02 3次	陶器	山皿	J-V10	SD32006	SD36001	—	—	3.9	底部 6/12	外：ロクロナデ、ナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	渥美湖西型
0983	003-05 4次	陶器	碗	L-Q5	SD32006	SD41001 下層	8.4	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5GY8/1 釉：7.5GY8/1	瀬戸・美濃
0984	003-03 9次	陶器	碗	—	SD32006	SD90001 一括	14.8	5.9	4.4	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、重ね焼き痕、施釉	素：2.5Y7/2 釉：5Y7/3	瀬戸・美濃
0985	096-02 3次	陶器	碗	L-L7	SD32006	SD33001 I層	15.3	7.3	5.0	底部 7/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5YR8/3 釉：2.5Y7/3	瀬戸・美濃 底部外面に花押 内面重ね焼き痕
0986	037-03 4次	陶器	碗	L-X3	SD32006	SD41001 トレンチ3	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/3 釉：5Y7/3	瀬戸・美濃
0987	029-05 10次	陶器	碗	J-V10	SD32006	SD10001 下層	—	—	5.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/2 釉：2.5Y7/3	瀬戸・美濃
0988	053-01 7次	陶器	碗	2区9	SD32006	SD70011 3Tr	6.4	3.9	3.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1 釉：7.5Y8/2	瀬戸・美濃
0989	053-06 7次	陶器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	7.5	4.3	3.2	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/2 釉：5Y7/2	瀬戸・美濃
0990	051-04 7次	陶器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	7.6	4.0	4.3	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：2.5Y7/6	瀬戸・美濃
0991	041-04 10次	陶器	碗	J-X10	SD32006	SD10001	7.6	3.3	4.4	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：10YR7/4	瀬戸・美濃
0992	051-05 7次	陶器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	7.6	4.8	3.7	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/2 釉：2.5Y7/3	瀬戸・美濃
0993	033-03 10次	陶器	碗	J-V10	SD32006	SD10001 上層	8.2	6.3	4.4	底部 4/12	外：ロクロケズリ、ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：2.5YR/2	瀬戸・美濃
0994	051-03 7次	陶器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	9.0	5.4	3.8	底部 7/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/2 釉：5YR4/4	瀬戸・美濃
0995	050-03 7次	陶器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	11.0	7.2	4.9	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N7/0 釉：5YR5/6	瀬戸・美濃
0996	052-02 7次	陶器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	11.0	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、カキメ状条線、削ぎ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：7.5YR4/3、 5Y7/2	瀬戸・美濃？
0997	040-03 7次	陶器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	11.8	5.6	3.9	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、鉄絵、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0、 10YR8/2 釉：10Y6/1	瀬戸・美濃
0998	053-04 7次	陶器	碗	2区21	SD32006	SD70011 5Tr	12.4	5.5	4.2	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、鉄絵、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/2 釉：2.5Y7/1	瀬戸・美濃
0999	053-02 7次	陶器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 4・5Tr間	12.6	5.7	4.0	底部 7/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/2 釉：7.5YR/2	瀬戸・美濃
1000	050-04 7次	陶器	碗	2区15	SD32006	SD70011 4Tr	13.0	6.5	4.7	底部 9/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：10GY2/1	瀬戸・美濃

第Ⅳ－25表 遺物観察表 25

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1001	035-01 4次	陶器	碗	L-Q5	SD32006	SD41001 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/3 釉：5Y6/3	瀬戸・美濃
1002	051-07 7次	陶器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	5.3	底部 12/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5YR6/4 釉：10YR6/2	瀬戸・美濃
1003	039-02 10次	陶器	天目茶碗	南側	SD32006	SD10001 一括	11.2	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/2 釉：5YR3/4	瀬戸・美濃
1004	010-05 3次	陶器	天目茶碗	L-S4・5	SD32006	SD32006 II層	12.4	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：10YR1.7/1	瀬戸・美濃
1005	049-03 7次	陶器	天目茶碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	4.2	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5YR3/2	瀬戸・美濃
1006	037-05 10次	陶器	碗	—	SD32006	SD10001	—	—	5.2	底部 9/12	外：ロクロケズリ、ロクロナデ 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/2 釉：5Y7/3	
1007	052-01 7次	陶器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	8.6	6.4	4.2	底部 9/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付？、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/2	瀬戸・美濃 陶胎染付
1008	051-02 7次	陶器	碗	2区 0+33.4 南	SD32006	SD70011 最上層(褐)	8.8	5.6	3.6	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1 釉：5Y7/2	瀬戸・美濃 陶胎染付
1009	051-01 7次	陶器	碗	2区 0+45～ 33.4	SD32006	SD70011 最上層	9.8	5.1	3.9	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0 釉：7.5Y7/1	瀬戸・美濃 陶胎染付
1010	039-03 7次	陶器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 4・5Tr間	—	—	4.0	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系 陶胎染付？ 「大明年製」銘？ コンニャク印判
1011	051-08 7次	陶器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	8.8	5.7	4.2	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、印刻、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2	肥前系 京焼風陶器？
1012	052-04 7次	陶器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	8.8	4.9	3.8	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、刷毛目文様、施 釉 内：ロクロナデ、刷毛目文様、施釉	素：5YR4/2 釉：10YR3/2	肥前系
1013	031-06 10次	陶器	碗	J-V10	SD32006	SD10001 上層	11.0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：2.5Y8/2	肥前系 京焼風陶器？
1014	053-05 7次	陶器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	—	—	4.6	底部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、印刻、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2	肥前系 京焼風陶器 「清水」印刻
1015	052-05 7次	陶器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	11.2	5.7	4.2	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、刷毛目文様、施 釉 内：ロクロナデ、刷毛目文様、施釉	素：5Y5/1、 5YR6/4 釉：5Y3/2、 2.5Y8/1	肥前系
1016	052-06 7次	陶器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	4.7	底部 10/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5YR7/4 釉：2.5G5/1	肥前系？
1017	052-03 7次	陶器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	4.8	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、刷毛目文様、施 釉 内：ロクロナデ	素：5YR5/2 釉：5YR2/1	肥前系
1018	052-07 7次	陶器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	5.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ	素：2.5YR5/4 釉：N9/0	肥前系？
1019	038-01 10次	陶器	碗	J-Y10	SD32006	SD10001	10.0	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、条線、型押し、鉄絵、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5Y8/1 釉：7.5Y5/2、 10YR4/2	大塚相馬 釉の貫入あり
1020	053-03 7次	陶器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 4・5Tr間	9.0	5.0	3.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、色絵、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/3 釉：2.5Y7/3	肥前系？
1021	031-03 10次	陶器	皿または碗	J-V10	SD32006	SD10001 下層	—	—	7.0	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR7/2	
1022	035-07 4次	陶器	皿	L-V3	SD32006	SD41001 上層	12.0	2.4	5.4	底部 6/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/3 釉：7.5Y6/2	瀬戸・美濃 内面重ね焼き痕
1023	036-02 4次	陶器	皿	L-T4	SD32006	SD41001 上層	12.0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/2 釉：5Y6/3	瀬戸・美濃
1024	101-01 3次	陶器	皿	L-T4	SD32006	SD32006 I層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：7.5Y7/2	瀬戸・美濃
1025	036-03 4次	陶器	皿	L-S4	SD32006	SD41001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/1 釉：2.5Y7/6	瀬戸・美濃
1026	040-01 10次	陶器	皿	南側	SD32006	SD10001 一括	8.7	2.3	5.3	底部 10/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/1 釉：5Y8/3	瀬戸・美濃
1027	048-06 3次	陶器	皿	J-U11	SD32006	SD36001	10.4	2.5	6.4	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1 釉：7.5Y7/3	瀬戸・美濃
1028	003-03 7次	陶器	皿	1区12	SD32006	SD70001	10.5	2.4	6.4	口縁部 8/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：2.5Y7/3	瀬戸・美濃 外面底部重ね焼き痕
1029	030-04 10次	陶器	皿	J-V10	SD32006	SD10001 下層	14.1	2.8	6.8	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/1 釉：2.5Y7/4	瀬戸・美濃
1030	003-04 9次	陶器	皿	—	SD32006	SD90001 最上層	—	—	—	底部 小片	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、押印	素：10YR7/3 釉：5Y7/3	瀬戸・美濃
1031	058-03 7次	陶器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	10.6	2.5	6.2	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：5Y8/1	瀬戸・美濃
1032	058-01 7次	陶器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	11.4	2.9	6.4	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、鉄絵、施釉	素：2.5Y8/1 釉：2.5Y8/2	瀬戸・美濃
1033	029-02 7次	陶器	皿	2区	SD32006	SD70011 1Tr 7層	11.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/3 釉：5Y8/2	瀬戸・美濃
1034	056-03 7次	陶器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	11.8	2.9	6.5	底部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、摺絵、施釉	素：2.5Y7/1 釉：5Y7/2	瀬戸・美濃
1035	032-05 10次	陶器	皿	J-V10	SD32006	SD10001 上層	12.4	2.7	5.9	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、重ね焼き痕、施釉	素：2.5Y7/1 釉：5Y7/3	瀬戸・美濃
1036	055-02 7次	陶器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	13.0	2.1	5.2	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、型押し？、施釉	素：2.5Y8/2 釉：透	瀬戸・美濃

第IV-26表 遺物観察表 26

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1037	032-04 10次	陶器	皿	J-V10	SD32006	SD10001 上層	13.0	3.1	6.8	底部 7/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、重ね焼き痕、施釉	素：10YR7/2 釉：5Y8/2	瀬戸・美濃
1038	055-03 7次	陶器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	13.3	2.9	8.0	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/1 釉：5Y7/2	瀬戸・美濃
1039	060-01 7次	陶器	皿	2区15	SD32006	SD70011 4Tr	13.4	2.5	9.0	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、輪花、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5Y7/2	瀬戸・美濃
1040	055-01 7次	陶器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	13.6	3.7	6.0	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、削ぎ、施釉 内：ロクロナデ、型押し、施釉	素：10YR8/2 釉：2.5Y8/3	瀬戸・美濃
1041	003-02 9次	陶器	皿	—	SD32006	SD90001 上層	13.6	3.0	7.0	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、重ね焼き痕、施釉	素：2.5Y8/2 釉：2.5Y7/3	瀬戸・美濃
1042	045-01 10次	陶器	皿	—	SD32006	SD10001	14.6	4.9	7.4	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	2.5Y8/2 2.5Y7/3	瀬戸・美濃
1043	056-02 7次	陶器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	15.2	4.2	6.8	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：2.5Y7/1	瀬戸・美濃
1044	057-05 7次	陶器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	16.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/3 釉：2.5Y8/3	瀬戸・美濃
1045	064-01 7次	陶器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	7.4	底部 11/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5Y8/1	瀬戸・美濃
1046	004-01 9次	陶器	鉢	—	SD32006	SD90001 最上層	27.6	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、鉄絵、施釉	素：2.5Y7/1 釉：5Y7/2、 10Y5/2	瀬戸・美濃？
1047	041-01 10次	陶器	皿または鉢	J-X10	SD32006	SD10001 小片	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：2.5Y8/1 釉：5Y8/2	陶胎染付
1048	054-04 7次	陶器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	11.8	3.7	4.5	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、カキメ状条線、施釉	素：10YR7/2 釉：7.5Y6/1、 5Y5/4	肥前系 銅緑釉
1049	054-03 7次	陶器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	11.9	3.8	4.5	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、カキメ状条線、施釉	素：10YR8/2 釉：7.5Y6/3	肥前系 銅緑釉
1050	032-02 10次	陶器	皿	J-V10	SD32006	SD10001 上層	12.2	3.6	3.8	底部 10/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、カキメ状条線、施釉	素：10YR7/2 釉：5Y6/1、 10GY7/1	肥前系 銅緑釉
1051	032-03 10次	陶器	皿	J-V10	SD32006	SD10001 上層	14.0	3.3	5.1	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：2.5Y8/2	肥前系？
1052	059-03 7次	陶器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	15.6	5.9	5.4	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、刷毛目文様、施釉 内：ロクロナデ、刷毛目文様、施釉	素：N5/0 釉：7.5YR3/2	肥前系
1053	054-05 7次	陶器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	16.8	5.4	5.3	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y6/2 釉：5Y5/3	肥前系
1054	060-04 7次	陶器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	19.0	4.6	9.2	底部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、刷毛目文様、施釉	素：10R5/6 釉：10YR4/2	肥前系
1055	054-02 7次	陶器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	20.4	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、カキメ状条線、施釉	素：2.5Y8/1 釉：2.5Y7/2、 10Y6/2	肥前系 銅緑釉
1056	056-01 7次	陶器	皿	2区9	SD32006	SD70011 3Tr	20.6	6.7	13.2	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/2 釉：10YR5/3	肥前系？
1057	054-01 7次	陶器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	8.4	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、鉄絵、施釉	素：2.5Y7/2 釉：7.5YR6/3	肥前系？
1058	037-01 10次	陶器	皿	J-X10	SD32006	SD10001	30.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、刷毛目文様、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y5/1 釉：10YR4/4、 7.5GY5/1	肥前系？
1059	060-03 7次	陶器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	19.6	4.5	12.6	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、糸切痕？、印刻、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5YR6/1 釉：2.5YR4/2	
1060	010-06 3次	陶器	卸皿	L-S4・5	SD32006	SD32006 II層	—	—	6.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：卸目、施釉	素：2.5Y8/1 釉：5Y8/1	瀬戸・美濃
1061	003-04 7次	陶器	卸皿	1区12	SD32006	SD70001 断割	—	—	5.8	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ、描目	2.5Y7/2	瀬戸・美濃
1062	049-06 7次	陶器	香炉	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	9.8	5.7	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ？、ヘラ切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：10YR7/4	瀬戸・美濃 脚三か所
1063	050-02 7次	陶器	香炉	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	10.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、ヘラ切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：5Y4/4	瀬戸・美濃 脚三か所
1064	050-01 7次	陶器	香炉	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	10.2	4.9	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、ヘラ切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/1 釉：2.5Y4/6	瀬戸・美濃 脚三か所
1065	049-04 7次	陶器	香炉	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	10.4	5.9	—	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、削ぎ、ヘラ切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5YR8/3 釉：5Y8/1	瀬戸・美濃 脚三か所
1066	050-05 7次	陶器	香炉	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	10.4	6.2	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、ヘラ切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/1 釉：2.5Y4/4	瀬戸・美濃 脚三か所
1067	049-05 7次	陶器	香炉	2区 0+45～ 33.4	SD32006	SD70011 最上層	11.6	6.7	—	口縁部 9/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、削ぎ、ヘラ切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/3 釉：10YR6/6	瀬戸・美濃 脚三か所
1068	053-07 7次	陶器	仏鉢具	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	6.4	—	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ？、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/2 釉：5Y7/2	瀬戸・美濃
1069	059-05 7次	陶器	仏鉢具	2区3	SD32006	SD70011 1Tr	—	—	5.2	底部 11/12	外：ロクロナデ、しぼり痕 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/1 釉：10Y6/2	瀬戸・美濃
1070	031-04 10次	陶器	乗燭	J-V10	SD32006	SD10001 上層	—	—	4.4	底部 10/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、ナデ、施釉	素：2.5Y7/2 釉：2.5Y4/6	瀬戸・美濃
1071	064-04 7次	陶器	蓋	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	8.4	3.1	—	完形	外：ロクロナデ、トチン痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：2.5Y3/2	瀬戸・美濃
1072	035-02 4次	陶器	鉢	L-Q5	SD32006	SD41001 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	7.5Y5/1	渥美

## 第Ⅳ－27表 遺物観察表 27

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1073	035-05 4次	陶器	鉢	L-Q5	SD32006	SD41001 下層	—	—	12.0	底部 3/12	外：ロクロケズリ、ロクロナデ 内：ロクロナデ？	7.5Y6/1	渾美
1074	035-06 4次	陶器	鉢	L-V3	SD32006	SD41001 中層	—	—	14.2	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、工具ナデ？ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	常滑
1075	041-02 10次	陶器	鉢	J-X10	SD32006	SD10001	—	—	14.7	底部 1/12	外：ロクロケズリ、ロクロナデ、ナデ、ユビオサ 内：ロクロナデ	2.5Y6/1	常滑
1076	036-01 10次	陶器	擂鉢または 鉢	南側	SD32006	SD10001 一括	32.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ロクロナデ、工具ナデ	5YR5/4	常滑？
1077	016-04 3次	陶器	鉢	L-M6	SD32006	SD33001 Ⅱ層	26.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：7.5YR5/1	瀬戸・美濃
1078	062-01 7次	陶器	鉢	2区	SD32006	SD70011 下層 4・5Tr間	28.4	13.0	18.0	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、トチン痕、施釉	素：5Y8/1 釉：7.5Y5/3	瀬戸・美濃
1079	063-02 7次	陶器	鉢	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	29.2	8.3	15.0	底部 7/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、鉄絵、施釉	素：5Y8/2 釉：7.5YR6/6、 7.5YR4/3	瀬戸・美濃
1080	045-02 10次	陶器	鉢	J-Y10	SD32006	SD10001	39.4	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、鉄絵、施釉	2.5Y8/3 2.5Y7/3	瀬戸・美濃
1081	057-01 7次	陶器	鉢	2区 0+ 45～33.4	SD32006	SD70011 最上層	—	—	9.2	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ、刷毛目文様、施釉	素：10YR5/4 釉：5Y4/2	肥前系
1082	060-02 7次	陶器	鉢	2区9	SD32006	SD70011 3Tr	—	—	9.4	底部 4/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、刷毛目文様、施釉	素：5YR6/4 釉：10YR7/2	肥前系
1083	064-02 7次	陶器	鉢	2区9	SD32006	SD70011 3Tr	—	—	15.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、重ね焼き痕、施釉	素：5YR5/3 釉：5YR4/2、 2.5Y6/2	肥前系？
1084	061-03 7次	陶器	片口鉢	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	11.3	7.4	5.7	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉5Y8/2	瀬戸・美濃
1085	061-01 7次	陶器	片口鉢	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	16.2	9.7	6.7	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、トチン痕、施釉	素：10YR7/2 釉：5Y8/2、 5Y5/4	瀬戸・美濃 外面煤付着
1086	061-02 7次	陶器	片口鉢	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	17.0	—	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：7.5Y7/2、 7.5Y6/3	瀬戸・美濃
1087	062-02 7次	陶器	片口鉢	2区 0+33.4 ～	SD32006	SD70011 最上層（灰 褐）	18.3	12.9	11.5	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/3 釉：2.5Y7/6	瀬戸・美濃
1088	035-08 4次	陶器	柄口片口	L-V3	SD32006	SD41001 トレンチ㊟	—	—	—	把手部 破片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1 釉：5Y7/3	瀬戸・美濃
1089	070-02 7次	陶器	擂鉢	2区9	SD32006	SD70011 3Tr	31.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、擂目	7.5YR5/2	備前
1090	001-02 4次	陶器	擂鉢	L-V3	SD32006	SD41001 上層 小片	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ユビオサエ、施釉 内：ロクロナデ、擂目	素：2.5YR7/6 釉：5YR6/3	備前
1091	002-04 7次	陶器	擂鉢	1区12	SD32006	SD70001 断割	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ、擂目	2.5YR5/2 5YR6/4	備前
1092	014-02 3次	陶器	擂鉢	—	SD32006	SD33001 Ⅰ層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、擂目、施釉	素：5YR6/1 釉：10R5/2	備前
1093	065-03 4次	陶器	擂鉢	L-U4	SD32006	SD41001 上層 小片	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、擂目、施釉	素：5YR4/1 釉：2.5YR5/3	備前
1094	029-03 7次	陶器	擂鉢	2区	SD32006	SD70011 1Tr 7層	26.2	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ、擂目	5YR5/2	堺・明石系
1095	070-01 7次	陶器	擂鉢	2区15	SD32006	SD70011 4Tr	28.4	9.8	11.6	底部 7/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ、擂目	10R5/6	堺・明石系
1096	069-01 7次	陶器	擂鉢	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	31.8	14.2	15.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、工具ナデ 内：ロクロナデ、擂目	2.5YR5/4	堺・明石系
1097	069-02 7次	陶器	擂鉢	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	32.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、擂目、施釉	素：10R5/6 釉：7.5R5/3	堺・明石系
1098	017-03 7次	陶器	擂鉢	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	—	底部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、擂目	10R5/6	底部墨書
1099	011-02 3次	陶器	擂鉢	L-S4・5	SD32006	SD32006 Ⅰ層	—	—	10.2	底部 5/12	外：ロクロナデ、ユビオサエ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、擂目、施釉	素：2.5Y8/2 釉：N3/0	瀬戸・美濃？
1100	057-03 7次	陶器	茶入	2区 0+33.4 南	SD32006	SD70011 最上層（褐）	4.1	7.7	4.8	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：2.5GY7/1、 2.5Y3/3	
1101	064-03 7次	陶器	花瓶	2区 0+45～ 33.4	SD32006	SD70011 最上層	—	—	—	頸部 3/12	外：ロクロナデ、ナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/1 釉：10YR2/1	瀬戸・美濃
1102	039-03 10次	陶器	花瓶	南側	SD32006	SD10001 一括	—	—	6.5	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ	素：7.5YR8/2 釉：7.5YR5/3	瀬戸・美濃
1103	067-01 7次	陶器	土瓶	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	7.4	11.7	8.3	底部 12/12	外：ロクロナデ、工具ナデ（ハケメ状）、ナデ、 ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/2 釉：5YR5/3、 5YR3/3	瀬戸・美濃？
1104	067-02 7次	陶器	土瓶	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	10.3	12.2	7.3	底部 12/12	外：ロクロナデ、ナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/2 釉：5YR4/3	瀬戸・美濃？
1105	058-02 7次	陶器	土瓶	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	—	体部 小片	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ	素：2.5Y8/2 釉：透	京都・信楽系
1106	066-05 7次	陶器	德利	2区	SD32006	SD70011 5Tr南	—	—	8.4	底部 10/12	外：ロクロナデ、ナデ、施釉 内：ロクロナデ	素：10YR6/2 釉：2.5YR4/2	瀬戸・美濃？
1107	033-01 10次	陶器	德利？	J-V10	SD32006	SD10001 上層	—	—	9.8	底部 4/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：2.5GY7/1	瀬戸・美濃？
1108	066-02 7次	陶器	德利	2区21	SD32006	SD70011 5Tr	—	—	10.3	底部 6/12	外：ロクロナデ、ナデ、施釉 内：ロクロナデ	素：10YR6/2 釉：2.5YR3/2	瀬戸・美濃？
1109	034-01 10次	陶器	德利	南側	SD32006	SD10001 一括	—	—	10.8	底部 5/12	外：ケズリ、ナデ 内：ロクロナデ	7.5YR4/2	瀬戸・美濃？

第IV -28 表 遺物観察表 28



報告 №	実測 №	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1110	063-01 7次	陶器	瓶または壺	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	7.4	底部 11/12	外：ロクロナデ？、ロクロケズリ？、刷毛目文 様、施釉 内：ロクロナデ	素：5Y6/1 釉：5Y6/2	肥前系
1111	066-04 7次	陶器	瓶	2区21	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	—	—	9.0	底部 10/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ	素：10YR7/2 釉：7.5YR8/1	陶胎染付
1112	057-04 7次	陶器	瓶または壺	2区 0+33.4 南	SD32006	SD70011 最上層(褐)	—	—	—	体部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：5YR8/1、 5YR3/2	
1113	063-03 7次	陶器	瓶または壺	2区 碓トレ	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	9.5	底部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、トチン痕？、施釉	素：2.5YR8/1 釉：5Y7/2、 7.5YR6/6	
1114	034-03 10次	陶器	壺	—	SD32006	SD10001	18.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、工具ナデ、ユビオサエ、ナデ	N5/0	常滑
1115	036-01 4次	陶器	壺	L-U3	SD32006	SD41001 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y4/1 10YR5/3	常滑
1116	073-01 7次	陶器	壺	2区	SD32006	SD70011 下層 4・5Tr間	11.6	33.7	14.0	底部 9/12	外：ロクロナデ、ナデ、線状痕、施釉 内：ロクロナデ、ナデ、ユビオサエ	素：5YR5/4 釉：10R3/2	常滑
1117	002-05 4次	陶器	壺	L-Q5	SD32006	SD41001 下層	—	—	14.0	底部 2/12	外：工具ナデ、ナデ、施釉 内：工具ナデ、ナデ、施釉	素：7.5YR8/4 釉：2.5YR5/3	常滑
1118	033-02 10次	陶器	壺	南側	SD32006	SD10001 一括	11.6	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、平行タタキ、ナデ？ 内：ロクロナデ、工具ナデ、粘土紐接合痕	N6/0 5YR3/1	常滑 鋤壺か
1119	066-01 7次	陶器	壺	2区21	SD32006	SD70011 5Tr	9.4	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR6/2 釉：2.5YR4/2	備前？
1120	001-01 4次	陶器	壺	L-V3	SD32006	SD41001 上層	—	—	21.0	底部 1/12	外：ロクロナデ、工具ナデ、工具痕（線状）、施 釉 内：ロクロナデ、工具ナデ、施釉	素：2.5YR6/6 釉：2.5YR5/3	渥美？
1121	066-03 7次	陶器	壺	2区 0+45～ 33.4	SD32006	SD70011 最上層	—	—	7.8	底部 11/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ	素：10YR7/2 釉：10YR5/3	瀬戸・美濃？
1122	002-07 9次	陶器	壺	—	SD32006	SD90001 上層	—	—	11.8	底部 3/12	外：ロクロケズリ、ヘラ切痕、施釉 内：ロクロナデ	素：2.5Y7/3 釉：2.5Y4/3	瀬戸・美濃？
1123	074-01 7次	陶器	壺	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	10.4	底部 2/12	外：ロクロケズリ、ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ	N3/0	瀬戸・美濃？
1124	057-02 7次	陶器	壺または瓶	2区 0+45～ 33.4	SD32006	SD70011 最上層	—	—	7.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ	素：2.5Y7/1 釉：5YR8/2	肥前系？
1125	005-04 7次	陶器	壺	1区12	SD32006	SD70001 断割	11.0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、ナデ？、施釉	素：10YR7/2 釉：10YR3/2	瀬戸・美濃？
1126	035-02 10次	陶器	甕	南側	SD32006	SD10001 一括	23.2	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、列点、ユビオサエ、粘土紐接合 痕 内：ロクロナデ、工具ナデ、ユビオサエ、 粘土紐接合痕	5YR6/6	常滑(赤物)
1127	032-01 10次	陶器	甕	J-V10	SD32006	SD10001 上層	43.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ	2.5YR4/3	常滑
1128	068-01 7次	陶器	甕	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	54.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、工具ナデ 内：ロクロナデ、工具ナデ、ユビオサエ	2.5YR7/6	常滑(赤物)
1129	005-03 7次	陶器	甕	1区12	SD32006	SD70001	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、工具ナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR5/1 釉：7.5R5/3	
1130	038-03 10次	陶器	台付製品	—	SD32006	SD10001	—	—	—	底部 小片	外：型押し？、線文様 内：ナデ、ユビオサエ、工具ナデ？	7.5YR6/6、 2.5YR4/3	底部八角形
1131	051-06 7次	陶器	加工円盤 (碗)	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	長径 6.6	短径 6.4	—	—	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、色絵、施釉 内：ロクロナデ、施釉？	素：10R5/4 釉：2.5YR8/1	44.0g 端部打ち欠き
1132	059-04 7次	陶器	加工円盤 (碗)	2区3	SD32006	SD70011 1Tr	長径 5.2	短径 5.0	—	—	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/3 釉：5YR2/2	37.0g 端部打ち欠き
1133	031-05 10次	陶器	加工円盤 (碗)	J-V10	SD32006	SD10001 上層	長径 6.0	短径 5.7	—	—	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/3 釉：10YR3/1	50.0g 端部打ち欠き
1134	043-01 7次	磁器	碗	2区 0+45～ 33.4	SD32006	SD70011 最上層	7.7	7.0	4.0	口縁部 8/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系
1135	042-03 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	7.8	6.3	3.6	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系 コンニャク印判
1136	036-04 10次	磁器	碗	J-Y10	SD32006	SD10001	10.2	7.0	4.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/1	肥前系
1137	043-02 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	7.2	3.9	3.2	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/1	肥前系
1138	043-04 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	7.6	4.2	2.9	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1139	043-05 7次	磁器	碗	2区 0+33.4 南	SD32006	SD70011 最上層 (褐)	7.8	4.4	3.0	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1140	043-03 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	7.9	4.2	2.9	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1	肥前系 コンニャク印判
1141	041-01 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	9.2	5.2	3.2	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1142	042-05 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	9.3	6.7	5.6	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	肥前系
1143	037-01 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	9.6	5.4	4.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5YR7/2	肥前系
1144	037-02 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	9.6	5.1	4.0	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1145	038-01 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	9.6	5.2	3.8	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系 コンニャク印判

第Ⅳ-29表 遺物観察表 29

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1146	039-01 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	9.6	5.6	4.0	口縁部 10/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系 コンニャク印判
1147	041-03 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	9.7	5.1	3.7	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1148	039-04 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 4・5Tr間	10.0	5.5	4.0	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系 コンニャク印判
1149	040-02 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	10.0	5.2	3.8	口縁部 11/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1150	042-01 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	10.0	5.2	3.6	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系 コンニャク印判
1151	038-05 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	10.1	6.0	4.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系 「大明年製」銘
1152	038-02 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	10.2	4.5	4.0	底部 7/12	外：ロクロナデ、工具ナデ（カキメ状）、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系 型紙刷り
1153	038-03 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	10.2	5.0	4.2	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1154	041-02 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	10.2	5.4	3.8	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1155	042-02 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	10.2	5.4	4.0	底部 7/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系
1156	041-05 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 4Tr	10.3	5.8	4.3	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：2.5Y7/2	肥前系 コンニャク印判
1157	038-04 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	10.4	5.6	3.8	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系 コンニャク印判
1158	037-03 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	11.6	3.9	4.0	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1159	040-01 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	12.1	5.9	4.4	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系 コンニャク印判
1160	037-04 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	3.5	底部 10/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1161	044-01 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	3.5	底部 7/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1162	044-02 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	3.7	底部 7/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系 「大明年製」銘か
1163	065-04 4次	磁器	碗	L-S4	SD32006	SD41001 上層	—	—	3.8	底部 4/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系
1164	037-05 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	4.0	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系 「大明年製」銘
1165	041-04 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	4.0	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系
1166	039-02 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	4.4	底部 10/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1167	017-04 3次	磁器	碗	L-M6	SD32006	SD33001 1層	—	—	4.8	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1	肥前系
1168	033-03 7次	磁器	碗	2区 0+ 45～33.4	SD32006	SD70011 最上層	—	—	6.0	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系
1169	047-06 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	—	底部 小片	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	肥前系
1170	034-02 10次	磁器	碗	南側	SD32006	SD10001 一括	9.4	5.6	4.2	底部 9/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、色絵、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1171	049-01 7次	磁器	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	9.9	—	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、色絵、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1172	046-05 7次	磁器	小坏	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	6.4	5.2	3.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	肥前系
1173	047-01 7次	磁器	小坏	2区 0+ 33.4南	SD32006	SD70011 最上層(褐)	7.6	4.7	4.0	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	肥前系
1174	046-06 7次	磁器	猪口	2区 0+ 33.4南	SD32006	SD70011 最上層(褐)	—	—	4.1	底部 9/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	肥前系
1175	017-02 7次	磁器	仏龕具	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	7.5	4.7	3.4	底部 8/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系 底部墨書
1176	036-05 10次	磁器	仏龕具	J-Y10	SD32006	SD10001	7.0	5.0	4.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	肥前系
1177	032-03 7次	磁器	皿	2区3	SD32006	SD70011 1Tr	7.6	1.9	4.2	底部 12/12	外：型押し、施釉 内：型押し、染付、施釉	素：2.5Y8/1	肥前系 型紙刷り
1178	032-02 7次	磁器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	12.2	4.2	3.7	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系
1179	047-05 7次	磁器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	12.9	3.3	5.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系
1180	032-01 7次	磁器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	13.0	4.1	5.2	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：2.5Y8/2	肥前系

第IV-30表 遺物観察表 30

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1181	030-01 7次	磁器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	13.4	3.5	7.6	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系 コンニャク印判 「大明年製」銘
1182	030-02 7次	磁器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 4Tr	13.4	3.2	7.8	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系 コンニャク印判 「大明年製」銘
1183	031-01 7次	磁器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	13.4	3.8	8.0	口縁部 8/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系 コンニャク印判
1184	031-02 7次	磁器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	13.4	3.9	8.7	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、輪花、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系 コンニャク印判
1185	031-03 7次	磁器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	13.5	3.3	8.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系
1186	033-01 7次	磁器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	14.5	4.0	9.2	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、輪花、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系 「簡江」銘
1187	033-02 7次	磁器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	18.8	5.5	10.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系
1188	036-01 7次	磁器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	25.2	4.0	15.3	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、輪花、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系 「太明成化年製」銘
1189	034-01 7次	磁器	皿	2区 0 + 33.4南	SD32006	SD70011 最上層(褐)	—	—	17.2	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系
1190	047-03 7次	磁器	皿	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ロクロズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系
1191	035-02 7次	磁器	皿	2区 確トレ	SD32006	SD70011 上層	—	—	4.6	底部 3/12	外：ロクロズリ、型押し、施釉 内：型押し、染付、施釉	素：9/0	肥前系
1192	034-02 7次	磁器	皿	2区 0 + 33.4南	SD32006	SD70011 最上層(褐)	—	—	11.6	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系
1193	034-03 7次	磁器	皿	2区 0 + 33.4南	SD32006	SD70011 最上層(褐)	—	—	13.6	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系
1194	047-02 7次	磁器	蓋	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	9.4	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	肥前系
1195	035-01 7次	磁器	蓋	2区	SD32006	SD70011 上層 4・5Tr間	9.6	—	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、カキメ状条線、施釉	素：9/0	肥前系
1196	035-03 7次	磁器	蓋	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	11.4	4.6	—	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、カキメ状条線、施釉	素：9/0	肥前系
1197	042-04 7次	磁器	鉢	2区	SD32006	SD70011 上層 4・5Tr間	—	—	8.0	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	肥前系
1198	047-07 7次	磁器	水滴	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	幅 3.3	—	半欠	外：型押し、布目痕、染付、施釉 内：ナデ	素：9/0	肥前系
1199	046-02 7次	磁器	瓶	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	1.8	10.4	4.2	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5Y8/1	肥前系
1200	045-03 7次	磁器	瓶	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	2.2	15.0	4.6	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	肥前系
1201	039-05 10次	磁器	瓶	南側	SD32006	SD10001 一括	2.5	—	—	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1	肥前系
1202	045-05 7次	磁器	瓶	2区3	SD32006	SD70011 1Tr	—	—	4.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ	素：5Y8/1	肥前系
1203	045-02 7次	磁器	瓶	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	4.4	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ	素：9/0	肥前系
1204	046-04 7次	磁器	瓶	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	4.4	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ	素：9/0	肥前系
1205	017-06 3次	磁器	瓶	—	SD32006	SD33001 I層	—	—	4.5	底部 4/12	外：ロクロズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1206	045-04 7次	磁器	瓶	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	4.6	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ	素：5Y8/1	肥前系
1207	045-01 7次	磁器	瓶	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	5.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	肥前系
1208	046-01 7次	磁器	瓶	2区21	SD32006	SD70011 上層 5Tr	—	—	5.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ	素：9/0	肥前系
1209	065-02 7次	磁器	瓶?	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	5.4	底部 5/12	外：ロクロズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：7.5GY7/1	肥前系
1210	046-03 7次	磁器	瓶	2区 0 + 33.4 南	SD32006	SD70011 最上層 (褐)	—	—	—	体部 7/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ	素：7.5Y8/1	肥前系
1211	048-04 7次	磁器	瓶	2区3	SD32006	SD70011 上層 1Tr	—	—	4.2	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、色絵、施釉 内：ロクロナデ	素：2.5Y8/1	肥前系
1212	049-02 7次	磁器	瓶	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	4.6	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロズリ、色絵、施釉 内：ロクロナデ	素：N8/0	肥前系
1213	047-04 7次	磁器	水指	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	—	体部 3/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1	
1214	038-02 10次	青磁	香炉	—	SD32006	SD10001	—	—	—	体部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0 釉：7.5GY7/1	国産青磁
1215	058-05 7次	青磁	香炉	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	8.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：10GY8/1	国産青磁

第IV-31表 遺物観察表 31

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1216	059-01 7次	青磁	香炉	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	10.4	—	6.1	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ	素：N8/0 釉：2.5GY7/1	国産青磁
1217	059-02 7次	青磁	香炉	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	7.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：10GY8/1	国産青磁
1218	058-04 7次	青磁	仏花瓶	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	—	頸部 6/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：10GY7/1	国産青磁
1219	048-02 7次	磁器	加工円盤 (碗)	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	長径 4.6	短径 4.4	—	—	外：ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	35.0g 端部打ち欠き
1220	048-01 7次	磁器	加工円盤 (碗)	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	長径 5.8	短径 5.4	—	—	外：ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	56.0g 端部打ち欠き
1221	048-03 7次	磁器	加工円盤 (碗)	2区 0+45～ 33.4	SD32006	SD70011 最上層	長径 7.6	短径 7.2	—	—	外：ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	91.0g 端部打ち欠き
1222	036-02 10次	白磁	碗	南側	SD32006	SD10001 一括	14.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、条線、施釉	素：2.5Y7/1 釉：5Y7/2	福建省系
1223	065-06 7次	白磁	碗	2区9	SD32006	SD70011 3Tr	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/2 釉：2.5Y7/1	福建省系
1224	065-07 7次	白磁	碗	2区15	SD32006	SD70011 4Tr	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5Y7/2 釉：7.5Y7/2	福建省系
1225	037-02 10次	白磁	碗	J-Y10	SD32006	SD10001	—	—	5.1	底部 11/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、陰刻、施釉	素：5Y8/1 釉：7.5Y6/1	福建省系
1226	065-05 7次	白磁	碗	2区3	SD32006	SD70011 1Tr	—	—	6.0	底部 6/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、陰刻、施釉	素：5Y7/1 釉：5Y7/1	福建省系
1227	029-01 10次	白磁	碗	L-A10	SD32006	SD10001 最下層	—	—	6.4	底部 1/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、陰刻、櫛描条線、施釉	素：10YR8/1 釉：5Y7/2	福建省系
1228	031-02 10次	青磁	碗	J-V10	SD32006	SD10001 下層	15.4	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/1 釉：10Y6/2	
1229	099-04 3次	青磁	碗	L-N13	SD32006	SK33001	15.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、鎭蓮弁文、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N7/0 釉：10Y6/1	龍泉窯系
1230	002-01 9次	青磁	碗	—	SD32006	SD90001 上層	16.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、鎭蓮弁文、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/2 釉：2.5GY7/1	龍泉窯系
1231	016-05 4次	青磁	碗	L-U7	SD32006	SD43003	—	—	—	底部 小片	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N7/0 釉：2.5GY5/1	
1232	065-08 7次	青磁	碗	2区15	SD32006	SD70011 4Tr	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、鎭蓮弁文、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5Y7/1 釉：10Y6/2	龍泉窯系
1233	040-03 10次	青磁	碗	南側	SD32006	SD10001 一括	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、鎭蓮弁文、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1 釉：2.5GY7/1	龍泉窯系
1234	002-03 9次	青磁	碗	—	SD32006	SD90001 上層	—	—	4.5	底部 3/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、陰刻、施釉	素：2.5Y7/1 釉：10Y7/1	
1235	065-04 7次	青磁	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	4.8	底部 3/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、陰刻、施釉	素：5Y7/1 釉：7.5Y5/2	
1236	040-02 10次	青磁	碗	南側	SD32006	SD10001 一括	—	—	5.0	底部 2/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N7/0 釉：7.5Y6/2	
1237	031-07 10次	青磁	碗	J-Y10	SD32006	SD10001 上層	—	—	5.5	底部 3/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロケズリ、施釉	素：10YR6/1 釉：2.5Y6/2	
1238	028-06 7次	青磁	碗	2区3	SD32006	SD70011 1Tr	—	—	6.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、陰刻、施釉	素：2.5Y7/1 釉：7.5Y4/2	
1239	065-03 7次	青磁	碗	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	6.4	底部 6/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5YR6/6 釉：5GY7/1	
1240	040-06 10次	青磁	碗	J-Y10	SD32006	SD10001	—	—	6.5	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/1 釉：5GY6/1	
1241	002-02 9次	青磁	皿	—	SD32006	SD90001 上層	10.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1 釉：10Y7/1	
1242	036-03 10次	青磁	瓶？	南側	SD32006	SD10001 一括	—	—	8.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/1 釉：5Y4/3	
1243	065-01 7次	青磁	壺	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	—	6.8	底部 3/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/1 釉：7.5Y6/2	龍泉窯系
1244	004-01 4次	白磁	壺	L-U4	SD32006	SD41001 上層	—	—	—	体部 小片	外：ロクロナデ、凹線、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/1 釉：7.5Y7/1	
1245	017-05 3次	青花 磁器	碗	—	SD32006	SD33001 1層	13.6	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：5Y8/1	漳州窯系
1246	016-07 4次	土製品	土錘	L-J7	SD32006	SD43003	長さ 4.7	幅 1.9	—	完存	外：ナデ	5YR7/4	11.3g
1247	016-06 4次	土製品	土錘	L-J7	SD32006	SD43003	長さ 4.7	幅 3.5	—	完存	外：ナデ	7.5YR7/4	50.7g
1248	016-08 4次	土製品	土錘	L-J7	SD32006	SD43003	—	幅 1.6	—	一部欠	外：ナデ	5YR7/4	7.6g
1249	004-02 9次	土製品	土錘	—	SD32006	SD90001 上層	—	幅 2.1	厚さ 2.0	半欠	外：ナデ	10YR7/3	10.4g
1250	061-06 4次	土製品	L字状製品	L-S4	SD32006	SD41001 上層	—	幅 4.9	厚さ 1.1	小片	凸：ナデ 凹：工具ナデ？	7.5YR7/4 10YR7/3	断面L字形
1251	037-06 10次	土製品	犬形製品	—	SD32006	SD10001	—	—	厚さ 2.2	体部 小片	ナデ、ユビオサエ	10YR6/4	
1252	004-03 9次	土製品	人形	—	SD32006	SD90001 最上層	—	—	厚さ 1.3	半欠	外：型押し、ナデ、ユビオサエ	7.5YR7/4	
1253	074-02 7次	瓦	軒丸瓦	2区	SD32006	SD70011 上層 5Tr南	—	—	—	瓦当部 小片	凸：ナデ 凹：ナデ、ユビオサエ	N3/0	珠文、巴文
1254	031-01 10次	瓦	軒丸瓦	J-V10	SD32006	SD10001 下層	—	—	—	瓦当部 小片	凸：ナデ 凹：ナデ、粘土接合痕	2.5Y8/1	菊花文

第IV-32表 遺物観察表 32

報告 №	実測 №	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1255	074-03 7次	瓦	軒平瓦	2区3	SD32006	SD70011 1Tr	—	—	—	瓦当部 小片	凹：ナデ 凸：ナデ、面取り	N4/0	唐草文
1256	039-01 10次	石製品	石鍋	南側	SD32006	SD10001 一括	34.0	—	—	口縁部 1/12	外：鑿痕 内：鑿痕、線状痕	—	滑石製 肥前西彼杵半島 外面煤付着
1257	029-01 7次	石製品	石鍋	2区9	SD32006	SD70011 3Tr	—	—	—	小片	外：鑿痕 内：鑿痕、線状痕	—	滑石製 肥前西彼杵半島 二次加工痕？
1258	005-01 9次	石製品	砥石	—	SD32006	SD90001 下層	長さ 6.9	幅 5.3	厚さ 3.8	—	擦痕	—	軽石製 45.3g
1259	005-02 9次	石製品	砥石	—	SD32006	SD90001 下層	長さ 5.2	幅 4.6	厚さ 3.4	—	擦痕	—	軽石製 13.6g
1260	028-07 7次	石製品	砥石	2区9	SD32006	SD70011 3Tr	—	幅 4.4	厚さ 1.9	半欠	擦痕	—	103.0g
1261	018-01 7次	石製品	敲石	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	長さ 7.0	幅 6.4	厚さ 5.8	—	敲打痕	—	330.0g
1262	028-08 7次	石製品	円盤状製品	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	長径 4.7	短径 4.7	厚さ 1.0	—	端部打ち欠き、表面剥離	—	24.0g
1263	018-02 7次	石製品	円盤状製品	2区15	SD32006	SD70011 4Tr	長径 5.2	短径 5.2	厚さ 0.8	—	端部打ち欠き、表面剥離	—	37.0g 両面墨書
1264	031-08 10次	石製品	円盤状製品	J-Y10	SD32006	SD10001 上層	長径 6.3	短径 6.0	厚さ 1.4	—	端部打ち欠き、表面剥離	—	54.0g
1265	078-01 7次	鉄製品	刀状製品	2区3	SD32006	SD70011 1Tr	—	幅 4.1	厚さ 0.8	小片	—	—	
1266	078-02 7次	鉄製品	刀状製品	2区 確トレ	SD32006	SD70011 上層	—	幅 4.4	厚さ 6.1	小片	—	—	
1267	079-01 7次	鉄製品	釘	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	長さ 23.0	幅 3.6	厚さ 1.5	完存	—	—	大型品
1268	078-06 7次	鉄製品	釘	2区9	SD32006	SD70011 3Tr	—	幅 2.0	厚さ 0.7	半欠	—	—	
1269	078-03 7次	鉄製品	釘	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	幅 4.0	厚さ 1.1	半欠	—	—	
1270	057-05 4次	鉄製品	釘	L-Q5	SD32006	SD41001 下層	—	幅 1.1	厚さ 0.7	半欠	—	—	
1271	078-05 7次	鉄製品	釘	2区9	SD32006	SD70011 3Tr	—	幅 2.2	厚さ 0.8	半欠	—	—	
1272	001-01 9次	鉄製品	釘	—	SD32006	SD90001 最下層	—	幅 1.3	厚さ 0.5	小片	—	—	
1273	057-06 4次	鉄製品	釘	L-Q5	SD32006	SD41001 下層	—	幅 1.2	厚さ 1.0	半欠	—	—	
1274	057-04 4次	鉄製品	釘	L-Q5	SD32006	SD41001 下層	—	幅 1.2	厚さ 0.8	小片	—	—	
1275	078-04 7次	鉄製品	釘	2区	SD32006	SD70011 上層 1・3・4Tr間	—	幅 3.8	厚さ 0.6	半欠	—	—	
1276	113-02 3次	鉄製品	板状製品	J-U11	SD32006	SD36001	—	幅 4.9	厚さ 0.5	小片	—	—	
1277		欠番		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
1278	018-05 3次	土師器	皿	L-L12	SD33004	SD33004	10.4	3.5	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/2	内面煤付着
1279	018-03 3次	土師器	皿	L-L10	SD33004	SD33004	10.6	2.5	—	口縁部 5/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR8/2	
1280	018-06 3次	土師器	皿	L-L12	SD33004	SD33004	10.6	3.4	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ？	10YR8/2	
1281	019-03 3次	土師器	皿	L-L11	SD33004	SD33004	10.8	3.4	—	口縁部 1/12	外：摩耗により調整不明 内：摩耗により調整不明	10YR8/2	
1282	112-06 3次	土師器	皿	L-L12	SD33004	SD33004	11.2	2.5	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR8/4	
1283	018-04 3次	土師器	皿	L-L9	SD33004	SD33004	11.4	3.3	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	10YR8/2	
1284	112-07 3次	土師器	皿	L-L12	SD33004	SD33004	11.8	2.7	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR8/2	内外面口縁部煤付着
1285	016-03 3次	土師器	鍋	L-L10	SD33004	SD33004	21.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR7/2	南伊勢系 外面煤付着
1286	016-01 3次	土師器	鍋	L-L8	SD33004	SD33004	29.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR6/3	南伊勢系 外面煤付着
1287	018-02 3次	土師器	羽釜	L-L8	SD33004	SD33004	19.8	—	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR4/2	南伊勢系 外面煤付着
1288	019-01 3次	土師器	羽釜	L-L11	SD33004	SD33004	20.2	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR5/2	南伊勢系 外面煤付着
1289	019-02 3次	土師器	羽釜	L-L12	SD33004	SD33004	23.4	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、ハケメ	7.5YR6/4	南伊勢系 外面煤付着
1290	077-02 3次	土師器	羽釜	L-L12	SD33004	SD33004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ハケメ	2.5Y3/1	南伊勢系 外面煤付着
1291	101-04 3次	陶器	山皿	L-L8	SD33004	SD33004	—	—	4.6	底部 10/12	外：ロクロナデ、ナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N7/0	
1292	110-03 3次	陶器	山茶碗	L-L8	SD33004	SD33004	—	—	7.4	底部 3/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	渥美湖西型
1293	015-05 3次	陶器	卸皿	L-L18	SD33004	SD33004	—	—	—	底部 小片	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、卸目、施釉	素：2.5Y7/2 釉：7.5Y7/1	瀬戸・美濃
1294	015-01 3次	陶器	鉢	L-L11	SD33004	SD33004 2層	25.5	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	7.5YR5/1	常滑

第Ⅳ-33表 遺物観察表 33



報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1295	019-04 3次	陶器	壺	L-L12	SD33004	SD33004	19.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5Y7/1	常滑
1296	018-01 3次	陶器	甕	L-L10	SD33004	SD33004	36.3	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	10YR4/2	常滑
1297	017-01 3次	青磁	碗	L-L12	SD33004	SD33004	—	—	5.0	底部 12/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/1 釉：7.5Y5/2	龍泉窯系
1298	113-01 3次	青磁	碗	L-L12	SD33004	SD33004	—	—	6.0	底部 2/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/1 釉：5Y6/3	
1299	123-06 3次	鉄製品	釘	L-L11	SD33004	SD33004	—	幅 0.9	厚さ 0.7	半欠	—	—	
1300	020-01 3次	土師器	鍋	L-M8	SD33006	SD33006	27.2	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
1301	020-02 3次	土師器	鍋	L-L10	SD33006	SD33006	27.2	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR5/3	南伊勢系 外面煤付着
1302	020-03 3次	土師器	鍋	L-M8	SD33006	SD33006	31.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ	10YR6/3	南伊勢系 外面煤付着
1303	094-02 3次	土師器	鍋	L-M8	SD33006	SD33006 1層	19.4	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ、平行タタキ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR6/3	播磨型 外面煤付着
1304	021-02 3次	土師器	鍋	L-M8	SD33006	SD33006	25.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、格子タタキ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR6/4	播磨型 外面煤付着
1305	021-03 3次	土師器	鍋	L-M8	SD33006	SD33006	25.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、工具ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR7/6	播磨型 外面煤付着
1306	021-01 3次	土師器	鍋	L-M8	SD33006	SD33006	27.6	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ？ 内：ヨコナデ、工具ナデ？	7.5YR7/4	播磨型 外面煤付着
1307	101-05 3次	陶器	山皿	L-M8	SD33006	SD33006	—	—	3.9	底部 10/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	
1308	076-03 3次	土師器	皿	L-L14	SD33012	SD33012 1層	10.8	2.7	—	口縁部 9/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	2.5Y8/2	
1309	026-02 3次	土師器	皿	L-M13	SD33012	SD33012 2層	11.2	2.4	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	2.5Y8/2	南伊勢系？
1310	024-05 3次	土師器	台付皿	L-M13	SD33012	SD33012 2層	9.6	—	4.8	底部 12/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	7.5YR8/4	
1311	025-04 3次	土師器	台付皿	L-M13	SD33012	SD33012 2層	—	—	8.0	底部 5/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ナデ	2.5Y8/3	
1312	085-02 3次	土師器	鍋	L-N13	SD33012	SD33012 1層	20.6	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	10YR7/3	南伊勢系
1313	086-02 3次	土師器	鍋	L-N13	SD33012	SD33012 1層	20.6	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
1314	086-01 3次	土師器	鍋	—	SD33012	SD33012 1層	26.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ	10YR5/3	南伊勢系 外面煤付着
1315	084-01 3次	土師器	鍋	—	SD33012	SD33012	27.4	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケメ、ケズリ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	10YR6/4	南伊勢系
1316	091-01 3次	土師器	鍋	—	SD33012	SD33012	29.2	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR7/4	南伊勢系 外面煤付着
1317	026-07 3次	土師器	鍋	L-N13	SD33012	SK33012 2層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR7/4	南伊勢系 外面煤付着
1318	084-02 3次	土師器	鍋	L-N14	SD33012	SD33012	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7.5YR7/4	南伊勢系
1319	086-05 3次	土師器	鍋	南アゼ	SD33012	SD33012 1層	34.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR6/3	南伊勢系 外面煤付着
1320	086-04 3次	土師器	鍋	L-N13	SD33012	SD33012 1層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR8/3	南伊勢系 外面煤付着
1321	024-01 3次	土師器	鍋	L-L14	SD33012	SD33012 1層	23.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	5YR6/4	播磨型 外面煤付着
1322	024-03 3次	土師器	羽釜	L-M13	SD33012	SD33012 2層	20.4	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR5/4	外面煤付着
1323	085-03 3次	土師器	羽釜	南アゼ	SD33012	SD33012 1層	21.2	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	10YR6/4	煤付着
1324	086-03 3次	土師器	茶釜	L-L14	SD33012	SD33012 1層	12.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	10YR7/3	外面煤付着
1325	026-01 3次	瓦器	皿	L-N13	SD33012	SD33012 1層	13.6	2.2	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	2.5Y6/2	
1326	025-02 3次	陶器	山茶碗	L-L14	SD33012	SD33012 2層	16.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5Y7/2	尾張型
1327	025-03 3次	陶器	山茶碗	L-L14	SD33012	SD33012 2層	—	—	7.0	底部 9/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	5Y7/1	渥美湖西型
1328	101-06 3次	陶器	山皿	南アゼ	SD33012	SD33012 1層	—	—	3.9	底部 9/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
1329	024-04 3次	陶器	片口鉢	L-L14	SD33012	SD33012 2層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ 内：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ	5Y6/2	
1330	026-05 3次	陶器	鉢	L-L14	SD33012	SD33012 1層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	
1331	025-05 3次	陶器	鉢	L-L14	SD33012	SD33012 2層	—	—	13.2	底部 3/12	外：ロクロナデ、ナデ、糸切痕 内：摩滅により調整不明	2.5Y7/2	
1332	026-03 3次	陶器	天目茶碗	L-L15	SD33012	SD33012 2層	—	—	3.4	底部 12/12	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/1 釉：5Y2/1	瀬戸・美濃
1333	026-06 3次	陶器	甕	L-L14	SD33012	SD33012 1層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y6/1 釉：2.5Y3/2	渥美
1334	096-03 3次	白磁	皿	L-N13	SD33012	SD33012 1層	—	—	5.2	底部 4/12	外：ロクロケズリ？、へら切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：2.5GY8/1	
1335	025-06 3次	青磁	碗	L-M13	SD33012	SD33012 2層	16.0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、鎗蓮弁文、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/2 釉：10Y6/2	龍泉窯系
1336	025-07 3次	青磁	碗	L-M13	SD33012	SD33012 2層	—	—	6.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、刻劃文、施釉	素：5Y7/1 釉：5Y6/3	龍泉窯系

第IV -34 表 遺物観察表 34

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1337	122-01 3次	青白磁	梅瓶 (メイビン)	L-N14	SD33012	SD33012 1層	—	—	—	体部 小片	外：鎗渦文、条線、施釉 内：ロクロナデ	素：10YR8/3 釉：10G6/1	
1338	077-01 3次	土師器	鍋	J-S19	SD35003	SD35003	24.8	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR7/4	南伊勢系 外面煤付着
1339	058-04 3次	土師器	鍋	J-R14	SD35003	SD36005	25.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
1340	091-02 3次	土師器	鍋	J-S19	SD35003	SD35003	26.0	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ	10YR7/4	南伊勢系 外面煤付着
1341	091-03 3次	土師器	鍋	J-S19	SD35003	SD35003	26.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ	10YR6/4	南伊勢系 外面煤付着
1342	087-03 3次	土師器	鍋	J-S19	SD35003	SD35003 下層	26.8	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ	10YR7/4	南伊勢系
1343	089-02 3次	土師器	鍋	J-S19	SD35003	SD35003	28.2	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ	10YR7/4	南伊勢系
1344	089-03 3次	土師器	鍋	J-S19	SD35003	SD35003	29.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR7/4	南伊勢系
1345	093-04 3次	土師器	鍋	J-S19	SD35003	SD35003	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ?	10YR7/4	南伊勢系 外面煤付着
1346	088-01 3次	土師器	鍋	J-S19	SD35003	SD35003	27.4	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ	10YR6/4	南伊勢系
1347	089-04 3次	土師器	鍋	J-S19	SD35003	SD35003	27.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/4	南伊勢系
1348	090-04 3次	土師器	鍋	J-S19	SD35003	SD35003	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	10YR8/4	南伊勢系
1349	092-03 3次	土師器	鍋	J-S19	SD35003	SD35003	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR7/4	南伊勢系 外面煤付着
1350	026-07 5次	陶器	山茶碗	J-R8	SD35003	表土 (SD51003直上)	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N8/0	尾張型
1351	026-08 5次	陶器	山茶碗	J-R9	SD35003	SD51003	—	—	6.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N7/0	渥美湖西型
1352	096-04 3次	陶器	皿	U-S19	SD35003	SD35003	11.3	1.8	6.0	底部 9/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、ナデ、施釉	素：5Y7/6 釉：5Y6/3	瀬戸・美濃
1353	027-03 5次	陶器	碗	J-R8	SD35003	表土 (SD51003直上)	—	—	4.0	底部 12/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：N1.5/0	瀬戸・美濃
1354	037-02 3次	陶器	播鉢	—	SD35003	SD35003	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、播目	10YR6/1 7.5YR7/4	備前
1355	036-01 3次	陶器	播鉢	J-S19	SD35003	SD35003	—	11.0	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、播目	7.5YR5/3	備前
1356	058-05 3次	陶器	壺	—	SD35003	SD36005	13.9	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5YR4/1	渥美
1357	038-02 3次	陶器	甕	—	SD35003	SD35003	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	10R5/4	常滑
1358	053-06 3次	土師器	皿	J-S13	SD35004	SD36002 2層	6.8	1.6	5.0	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR8/3	ロクロ土師器
1359	092-04 3次	土師器	皿	J-T18	SD35004	SD35004	12.0	—	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR6/6	
1360	001-02 5次	土師器	皿	—	SD35004	SD51001 上層	6.5	1.4	—	口縁部 2/12	外：ナデ、ユビオサエ 内：ナデ	10YR7/4	南伊勢系
1361	001-01 5次	土師器	皿	—	SD35004	SD51001 上層	7.0	1.2	—	口縁部 2/12	外：ナデ 内：ナデ	10YR8/4	南伊勢系
1362	092-01 3次	土師器	鍋	J-T18	SD35004	SD35004	18.4	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	10YR8/4	南伊勢系 外面煤付着
1363	090-06 3次	土師器	鍋	J-S19	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/4	南伊勢系
1364	091-04 3次	土師器	鍋	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR7/4	南伊勢系
1365	093-01 3次	土師器	鍋	J-T18	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	2.5Y8/4	南伊勢系 外面煤付着
1366	093-03 3次	土師器	鍋	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ?	10YR7/4	南伊勢系
1367	013-03 5次	土師器	鍋	J-S6	SD35004	SD51001 畦部下層	24.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ	10YR6/3	南伊勢系 外面煤付着
1368	001-03 5次	土師器	鍋	—	SD35004	SD51001 上層	25.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
1369	013-02 5次	土師器	鍋	J-S6	SD35004	SD51001 畦部下層	26.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ	7.5YR5/3	南伊勢系 外面煤付着
1370	001-04 5次	土師器	鍋	J-S6	SD35004	SD51001 畔部上層	28.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR6/3	南伊勢系 外面煤付着
1371	013-01 5次	土師器	鍋	J-S6	SD35004	SD51001 畦部下層	28.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
1372	055-01 3次	土師器	鍋	J-T12	SD35004	SD36002 2層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
1373	090-02 3次	土師器	鍋	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	7.5YR6/4	南伊勢系 外面煤付着
1374	090-03 3次	土師器	鍋	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ	10YR7/4	南伊勢系
1375	090-05 3次	土師器	鍋	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、工具ナデ	10YR7/4	南伊勢系
1376	091-05 3次	土師器	鍋	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ	10YR7/4	南伊勢系 外面煤付着
1377	092-02 3次	土師器	鍋	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ハケメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	2.5Y7/4	南伊勢系 外面煤付着

第Ⅳ-35表 遺物観察表 35

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施軸等	色調	特記事項
1378	093-02 3次	土師器	鍋	J-T18	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ?	10YR8/3	南伊勢系 外面煤付着
1379	005-01 7次	土師器	焙烙	1区 1・2・ 4・5	SD35004	SD70004	26.6	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR8/6	南伊勢系 外面煤付着
1380	056-01 3次	土師器	焙烙	J-S13	SD35004	SD36002 2層	35.2	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、ケズリ 内：ヨコナデ、ケズリ	7.5YR6/3	南伊勢系 外面煤付着
1381	027-03 4次	土師器	焙烙	J-S5	SD35004	SD44021 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR6/3	南伊勢系 外面煤付着
1382	026-04 4次	土師器	鍋	J-R5	SD35004	SD44021 上層	20.3	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、タタキ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR6/3 5YR6/3	播磨型 外面煤付着
1383	026-05 4次	土師器	鍋	J-S5	SD35004	SD44021 上層	23.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、タタキ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR7/4 5YR7/6	播磨型 外面煤付着
1384	013-04 5次	土師器	鍋	J-S6	SD35004	SD51001 下層	17.4	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、平行タタキ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR5/3	播磨型 外面煤付着
1385	002-03 5次	土師器	鍋	J-S6	SD35004	SD51001 畦部上層	20.5	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、平行タタキ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR7.6	播磨型 外面煤付着
1386	004-01 7次	土師器	鍋	1区 1・2・ 4・5	SD35004	SD70004	27.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、格子タタキ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR7/6	播磨型 外面煤付着
1387	004-02 7次	土師器	鍋	1区 1・2・ 4・5	SD35004	SD70004	18.0	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ、平行タタキ 内：ヨコナデ、工具ナデ	2.5YR5/3	播磨型
1388	005-02 7次	土師器	鍋	1区5	SD35004	SD70004	20.8	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ、格子タタキ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、工具ナデ	5YR7/6	播磨型 外面煤付着
1389	004-03 7次	土師器	鍋	1区 1・2・ 4・5	SD35004	SD70004	20.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ、平行タタキ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR4/3	播磨型 外面煤付着
1390	046-03 3次	土師器	鍋	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	5YR7/6	播磨型 外面煤付着
1391	001-05 5次	土師器	焙烙	J-S7	SD35004	SD51001 上層	19.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR5/4	大坂・明石系 外面煤付着
1392	018-01 5次	土師器	焙烙	J-S7	SD35004	SD51001 上層	21.6	—	—	口縁部 9/12	外：ヨコナデ、ナデ、粘土継接合痕 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	5YR5/4	大坂・明石系 外面煤付着
1393	002-02 5次	土師器	焙烙	J-S7	SD35004	SD51001 上層	23.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR7/4	大坂・明石系 外面煤付着
1394	044-01 3次	土師器	焙烙	J-T19	SD35004	SD35004 1層	24.4	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ? 内：ヨコナデ	5YR7/6	大坂・明石系 外面煤付着
1395	050-04 3次	土師器	焙烙	J-S11	SD35004	SD36002 1層	25.2	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR6/6	大坂・明石系 外面煤付着
1396	051-01 3次	土師器	焙烙	J-S11	SD35004	SD36002 1層	26.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、オサエ 内：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	5YR6/6	大坂・明石系 外面煤付着
1397	002-01 5次	土師器	焙烙	—	SD35004	SD51001 上層	26.4	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、工具ナデ、粘土継接合痕 内：ヨコナデ	7.5YR6/6	大坂・明石系 外面煤付着
1398	025-01 4次	土師器	焙烙	—	SD35004	SD44021 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ? 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR5/4	大坂・明石系 外面煤付着
1399	027-01 4次	土師器	焙烙	J-S5	SD35004	SD44021 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ? 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR6/6	大坂・明石系 外面煤付着
1400	001-06 5次	土師器	焙烙	—	SD35004	SD51001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ	10YR6/4	大坂・明石系
1401	001-07 5次	土師器	焙烙	J-S6	SD35004	SD51001 畦部上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR5/3	大坂・明石系 外面煤付着
1402	002-05 5次	土師器	羽釜	J-S8	SD35004	SD51001 畦上層	—	—	—	体部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ?	10YR7/4	外面煤付着
1403	014-02 5次	土師器	羽釜	—	SD35004	SD51001 下層(東トレン チ)	—	—	—	体部 小片	外：ヨコナデ 内：摩耗により調整不明	10YR7/3	
1404	090-01 3次	土師器	茶釜	J-T18	SD35004	SD35004	11.8	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/3	南伊勢系
1405	002-04 5次	瓦質 土器	羽釜	—	SD35004	SD51001 西側大トレン チ上層	21.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ハケメ	10Y5/1	外面煤付着
1406	110-05 3次	灰釉 陶器	碗	J-S11	SD35004	SD36002 1層	—	—	7.0	底部 2/12	外：ロクロケズリ、ナデ? 内：ロクロナデ	2.5Y6/1	
1407	105-08 3次	灰釉 陶器	碗	J-S15	SD35004	SD36002 2層	—	—	9.2	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y6/2	
1408	051-01 4次	陶器	山茶碗	J-R5	SD35004	SD44021 上層	15.5	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
1409	003-01 5次	陶器	山茶碗	J-S8	SD35004	SD51001 アゼ上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y6/1	渥美湖西型
1410	047-06 4次	陶器	山茶碗	J-R4	SD35004	SD44021 トレンチ上層	—	—	5.0	底部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	N8/0	尾張型
1411	012-02 5次	陶器	山茶碗	J-S8	SD35004	SD51001 アゼ中層	—	—	5.0	底部 11/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N7/0	尾張型
1412	105-06 3次	陶器	山茶碗	J-T13	SD35004	SD36002 1層	—	—	5.6	底部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	渥美湖西型
1413	049-05 4次	陶器	山茶碗	J-R4	SD35004	SD44021 下層	—	—	5.8	底部 4/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ	2.5Y8/1	尾張型
1414	003-02 5次	陶器	山茶碗	—	SD35004	SD51001 上層	—	—	6.0	底部 3/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y6/2	渥美湖西型
1415	003-04 5次	陶器	山茶碗	—	SD35004	SD51001 上層	—	—	6.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
1416	104-07 3次	陶器	山茶碗	J-S14	SD35004	SD36002 2層	—	—	6.1	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	10YR7/1	尾張型
1417	013-05 5次	陶器	山茶碗	J-S6	SD35004	SD51001 下層	—	—	6.2	底部 4/12	外：ロクロナデ、ヨコナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y6/2	渥美湖西型

第IV -36 表 遺物観察表 36

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施輪等	色調	特記事項
1418	014-03 5次	陶器	山茶碗	—	SD35004	SD51001 下層(東トレ ンチ)	—	—	6.4	底部 8/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	N8/0	尾張型
1419	053-05 3次	陶器	山茶碗	J-T13	SD35004	SD36002 2層	—	—	6.5	底部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	渥美湖西型 内外面重ね焼き痕
1420	075-03 3次	陶器	山茶碗	J-T18・ 19	SD35004	SD35004	—	—	6.6	底部 4/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
1421	051-07 4次	陶器	山茶碗	J-S4	SD35004	SD44021 上層	—	—	6.6	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	10YR7/1	尾張型
1422	014-05 5次	陶器	山茶碗	—	SD35004	SD51001 下層(東トレ ンチ)	—	—	6.6	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
1423	014-07 5次	陶器	山茶碗	—	SD35004	SD51001 西側大トレ ンチ	—	—	6.6	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	渥美湖西型
1424	053-02 3次	陶器	山茶碗	J-S13	SD35004	SD36002 2層	—	—	6.7	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	渥美湖西型
1425	053-03 3次	陶器	山茶碗	J-S15	SD35004	SD36002 2層	—	—	6.7	底部 10/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	渥美湖西型
1426	052-06 4次	陶器	山茶碗	J-R5	SD35004	SD44021 最下層	—	—	6.7	底部 1/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y8/2	渥美湖西型
1427	003-05 5次	陶器	山茶碗	J-S6	SD35004	SD51001 畦部上層	—	—	6.7	底部 8/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	渥美湖西型
1428	104-04 3次	陶器	山茶碗	J-T12	SD35004	SD36002 1層	—	—	6.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	渥美湖西型 外面離れ砂
1429	050-04 4次	陶器	山茶碗	J-R4	SD35004	SD44021 トレンチ 上層	—	—	6.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	尾張型
1430	051-06 4次	陶器	山茶碗	J-S5	SD35004	SD44021 下層	—	—	6.8	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	尾張型
1431	003-03 5次	陶器	山茶碗	—	SD35004	SD51001 上層	—	—	6.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	尾張型 内面重ね焼き痕
1432	003-07 5次	陶器	山茶碗	—	SD35004	表土 (SD51001)	—	—	6.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	渥美湖西型
1433	005-01 5次	陶器	山茶碗	—	SD35004	SD51001 上層	—	—	6.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y8/1	渥美湖西型
1434	005-06 5次	陶器	山茶碗	J-S7	SD35004	SD51001 上層	—	—	6.4	底部 4/12	外：ロクロナデ、ナデ、粉殻痕 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
1435	014-04 5次	陶器	山茶碗	—	SD35004	SD51001 下層(東トレ ンチ)	—	—	6.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	5Y7/1	渥美湖西型
1436	041-04 3次	陶器	山茶碗	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	6.9	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ、ナデ	2.5Y7/2	渥美湖西型
1437	106-03 3次	陶器	山茶碗	J-S15	SD35004	SD36002 2層	—	—	6.9	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
1438	040-04 3次	陶器	山茶碗	J-T18	SD35004	SD35004	—	—	7.0	底部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	5Y7/1	尾張型
1439	102-08 3次	陶器	山茶碗	J-T18・ 19	SD35004	SD35004	—	—	7.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、ケズリ、粉殻痕 内：ロクロナデ	5Y8/1	尾張型
1440	103-06 3次	陶器	山茶碗	J-T18・ 19	SD35004	SD35004	—	—	7.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y8/2	尾張型
1441	105-01 3次	陶器	山茶碗	J-T12	SD35004	SD36002 2層	—	—	7.0	底部 7/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
1442	106-02 3次	陶器	山茶碗	J-S15	SD35004	SD36002 2層	—	—	7.0	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/3	渥美湖西型 外面離れ砂痕
1443	049-06 4次	陶器	山茶碗	J-R4	SD35004	SD44021 下層	—	—	7.0	底部 5/12	外：ロクロナデ、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	尾張型
1444	049-07 4次	陶器	山茶碗	J-R4	SD35004	SD44021 下層	—	—	7.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ	N7/0	尾張型
1445	050-03 4次	陶器	山茶碗	J-S5	SD35004	SD44021 下層	—	—	7.0	底部 9/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
1446	051-04 4次	陶器	山茶碗	J-S4	SD35004	SD44021 上層	—	—	7.0	底部 7/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	尾張型
1447	051-08 4次	陶器	山茶碗	—	SD35004	SD44021 上層	—	—	7.0	底部 10/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
1448	003-06 5次	陶器	山茶碗	J-S8	SD35004	SD51001 アゼ上層	—	—	7.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、ナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
1449	040-03 3次	陶器	山茶碗	J-T18	SD35004	SD35004	—	—	7.2	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	5Y6/1	渥美湖西型
1450	106-04 3次	陶器	山茶碗	J-T18・ 19	SD35004	SD35004	—	—	7.2	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	尾張型
1451	110-06 3次	陶器	山茶碗	J-S12	SD35004	SD36002 1層	—	—	7.2	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	渥美湖西型
1452	049-04 4次	陶器	山茶碗	J-R4	SD35004	SD44021 下層	—	—	7.2	底部 10/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	渥美湖西型
1453	051-05 4次	陶器	山茶碗	J-S5	SD35004	SD44021 下層	—	—	7.4	底部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
1454	013-06 5次	陶器	山茶碗	J-S7	SD35004	SD51001 下層	—	—	7.4	底部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y6/2	尾張型
1455	041-02 3次	陶器	山茶碗	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	7.6	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
1456	053-04 3次	陶器	山茶碗	J-T12	SD35004	SD36002 2層	—	—	7.6	底部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR7/2	渥美湖西型 内面重ね焼き痕
1457	103-04 3次	陶器	山茶碗	J-T18・ 19	SD35004	SD35004	—	—	7.6	底部 1/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ	N7/0	尾張型

第Ⅳ-37表 遺物観察表 37

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1458	104-05 3次	陶器	山茶碗	J-T12	SD35004	SD36002 1層	—	—	7.6	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y6/2	渥美湖西型
1459	105-04 3次	陶器	山茶碗	J-S13	SD35004	SD36002 2層	—	—	7.6	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y6/2	渥美湖西型
1460	105-07 3次	陶器	山茶碗	J-S14	SD35004	SD36002 2層	—	—	7.6	底部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2. 5Y7/3	尾張型
1461	041-05 3次	陶器	山茶碗	J-T18	SD35004	SD35004	—	—	7.8	底部 10/12	外：ロクロナデ、ナデ、粉殻痕 内：ロクロナデ、ナデ	2. 5Y7/2	渥美湖西型
1462	103-02 3次	陶器	山茶碗	J-T18・ 19	SD35004	SD35004	—	—	8.4	底部 2/12	外：ロクロナデ 内：摩耗により調整不明	N8/0	尾張型
1463	014-06 5次	陶器	山茶碗	—	SD35004	SD51001 西側大トレ ンチ	—	—	8.4	底部 3/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2. 5Y8/1	尾張型
1464	102-07 3次	陶器	山茶碗	J-T18・ 19	SD35004	SD35004	—	—	8.5	底部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
1465	106-01 3次	陶器	山茶碗	J-S15	SD35004	SD36002 2層	—	—	9.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y7/2	尾張型
1466	004-04 7次	陶器	山茶碗	1区5	SD35004	SD70004	—	—	9.0	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR7/2	尾張型
1467	005-02 5次	陶器	山皿	—	SD35004	SD51001 上層	9. 2	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N6/0	渥美湖西型
1468	014-08 5次	陶器	山皿	—	SD35004	SD51001 西側大トレ ンチ	9. 8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2. 5Y7/2	尾張型
1469	052-01 4次	陶器	山皿	J-S5	SD35004	SD44021 下層	—	—	3. 5	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y7/1	渥美湖西型
1470	103-05 3次	陶器	山皿	J-T18	SD35004	SD35004	—	—	4. 0	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y8/2	渥美湖西型
1471	104-03 3次	陶器	山皿	J-S11	SD35004	SD36002 2層	—	—	4. 0	底部 6/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y8/1	渥美湖西型
1472	041-06 3次	陶器	山皿	—	SD35004	SD35004	—	—	4. 5	底部 7/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y7/2	渥美湖西型
1473	041-03 3次	陶器	山皿	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	4. 6	底部 6/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y7/2	尾張型
1474	049-01 4次	陶器	碗	J-R4	SD35004	SD44021 下層	17. 4	6. 5	4. 0	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：5Y6/4	瀬戸・美濃
1475	047-05 4次	陶器	碗	L-R4	SD35004	SD44021 トレンチ 上層	7. 8	4. 5	3. 3	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/3 釉：2. 5Y8/3	瀬戸・美濃
1476	008-01 5次	陶器	碗	J-S6	SD35004	SD51001 畦部上層	11. 6	—	—	口縁部 6/12	外：ロクロナデ？、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/4 釉：5YR6/2、 5YR2/1	瀬戸・美濃
1477	008-03 5次	陶器	碗	J-S7	SD35004	SD51001 上層	11. 2	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/3 釉：2. 5Y8/2	瀬戸・美濃
1478	008-07 5次	陶器	碗	J-S7	SD35004	SD51001 上層・下層	9. 2	—	—	口縁部 9/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/3 釉：2. 5YR3/1	
1479	017-01 7次	陶器	碗	1区	SD35004	SD70004 付近最上層	—	—	2. 8	底部 8/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7. 5YR8/3 釉：7. 5Y8/1	底部墨書
1480	104-06 3次	陶器	碗	J-T12	SD35004	SD36002 1層	—	—	3. 7	底部 11/12	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：10YR5/6	瀬戸・美濃
1481	008-04 5次	陶器	碗	J-S7	SD35004	SD51001 上層	—	—	4. 4	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5YR6/6 釉：7. 5YR5/2、 10YR8/3	肥前系
1482	008-05 5次	陶器	碗	J-S7	SD35004	SD51001 SD51002	—	—	4. 8	底部 3/12	外：ロクロナデ？、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：2. 5Y8/1	肥前系、上層
1483	048-01 4次	陶器	天目茶碗	J-R4	SD35004	SD44021	10. 8	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y8/2 釉：2. 5YR4/3	瀬戸・美濃
1484	007-06 5次	陶器	天目茶碗	J-S6	SD35004	SD51001 畦部上層	10. 8	—	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/3 釉：7. 5YR2/1	瀬戸・美濃
1485	077-03 3次	陶器	天目茶碗	J-S15	SD35004	SD36002 2層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y7/3 釉：7. 5YR1. 7/1、 7. 5R3/3	瀬戸・美濃
1486	007-04 5次	陶器	碗	—	SD35004	SD51001 上層	—	—	4. 9	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、印刻、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/1 釉：2. 5Y8/2	肥前系 京焼風陶器 「清水」印刻
1487	047-03 4次	陶器	碗	L-S5	SD35004	SD44021 上層	—	—	4. 2	底部 11/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7. 5YR7/4 釉：7. 5YR2/2	肥前系
1488	047-04 4次	陶器	碗	L-R4	SD35004	SD44021 トレンチ 上層	—	—	4. 6	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5YR7/4 釉：7. 5Y6/1	肥前系
1489	051-02 4次	陶器	碗	J-S4	SD35004	SD44021 上層	—	—	4. 3	底部 10/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y7/1 釉：7. 5Y6/3	肥前系
1490	050-01 4次	陶器	皿	J-S5	SD35004	SD44021 下層	21. 8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	10YR8/3	瀬戸・美濃
1491	044-03 3次	陶器	皿	J-T18	SD35004	SD35004	26. 4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y7/2 釉：5Y7/4	瀬戸・美濃
1492	045-03 3次	陶器	皿	J-T18	SD35004	SD35004	—	—	4. 6	底部 6/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y7/3 釉：7. 5Y6/2	瀬戸・美濃
1493	048-01 3次	陶器	皿	J-T19	SD35004	SD35004	11. 5	3. 2	5. 9	底部 10/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y8/1 釉：10Y7/2	瀬戸・美濃 外面輪トチン痕
1494	049-02 4次	陶器	皿	J-R5	SD35004	SD44021 上層	13. 0	2. 5	7. 6	底部 8/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、印刻、施釉	素：N8/0 釉：7. 5Y8/2	瀬戸・美濃 内面重ね焼き痕
1495	050-05 4次	陶器	皿	J-R4	SD35004	SD44021 トレンチ 上層	14. 0	3. 4	7. 7	底部 11/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、輪花、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y8/2 釉：2. 5Y8/2	瀬戸・美濃
1496	049-03 4次	陶器	皿	J-S5	SD35004	SD44021 上層	12. 0	2. 8	6. 5	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y8/2 釉：2. 5Y7/1	瀬戸・美濃
1497	007-05 5次	陶器	皿	—	SD35004	SD51001 上層	12. 8	3. 0	6. 4	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y6/1 釉：5Y6/1	瀬戸・美濃 底部内面トチン痕

第IV -38 表 遺物観察表 38



報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1498	007-03 5次	陶器	皿	—	SD35004	SD51001 上層	13.3	3.5	6.7	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、削ぎ、施釉 内：型押し、施釉	素：10YR8/3 釉：2.5Y7/4	瀬戸・美濃
1499	055-02 3次	陶器	皿	J-T13	SD35004	SD36002 1層	14.5	3.7	6.2	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/3 釉：2.5Y8/2	瀬戸・美濃
1500	006-02 7次	陶器	皿	1区	SD35004	SD70004付近 最上層	19.6	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/2 釉：7.5Y7/1	瀬戸・美濃
1501	042-03 3次	陶器	皿	J-T18	SD35004	SD35004	—	—	4.9	底部 4/12	外：ロクロケズリ、糸切痕 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/3 釉：5Y6/3	瀬戸・美濃
1502	046-02 3次	陶器	皿	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	5.5	底部 6/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/3 釉：5Y7/3	瀬戸・美濃 外面重ね焼き痕
1503	050-02 3次	陶器	皿	J-T13	SD35004	SD36002 1層	—	—	8.3	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/1 釉：10Y8/1	瀬戸・美濃
1504	009-01 5次	陶器	皿	J-S7	SD35004	SD51001 上層	34.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、刷毛目文様、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5YR5/3 釉：10YR4/1、 2.5Y8/2	肥前系
1505	047-02 4次	陶器	皿	L-S4	SD35004	SD44021 上層	—	—	3.8	底部 7/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：7.5Y5/2	肥前系
1506	054-03 3次	陶器	卸皿	J-T12	SD35004	SD36002 2層	13.2	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、卸目、施釉	素：10YR8/3 釉：10Y7/2	瀬戸・美濃
1507	105-02 3次	陶器	卸皿	J-T12	SD35004	SD36002 2層	13.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、卸目、施釉	素：10YR7/3 釉：5Y7/3	瀬戸・美濃
1508	105-03 3次	陶器	卸皿	J-S13	SD35004	SD36002 2層	—	—	—	底部 小片	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：卸目、施釉	素：10YR7/2 釉：7.5Y8/1	瀬戸・美濃
1509	094-03 3次	陶器	卸皿	J-S13	SD35004	SD36002 2層	—	—	9.0	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、卸目、施釉	素：10YR8/3 釉：2.5Y8/2	瀬戸・美濃
1510	050-02 4次	陶器	鉢	J-S5	SD35004	SD44021 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N4/0	渥美
1511	051-03 4次	陶器	鉢	J-S5	SD35004	SD44021 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ	2.5Y6/1	渥美
1512	005-07 5次	陶器	鉢	J-S7	SD35004	SD51001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N5/0	
1513	020-01 5次	陶器	皿	J-S6	SD35004	SD51001 下層	23.8	5.7	10.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：2.5Y8/2	内面重ね焼き痕
1514	005-05 5次	陶器	鉢	J-S7	SD35004	SD51001 上層	—	—	11.2	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ 内：ロクロナデ	N8/0	
1515	012-01 5次	陶器	鉢	J-S8	SD35004	SD51001 アゼ中層	—	—	13.4	底部 1/12	外：ロクロケズリ、ナデ 内：ロクロナデ	N7/0	渥美
1516	040-01 3次	陶器	片口鉢	—	SD35004	SD35004	28.0	11.7	10.0	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ケズリ 内：ロクロナデ、ナデ	2.5Y7/2	常滑
1517	044-02 3次	陶器	鉢	J-T19	SD35004	SD35004	35.4	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ロクロナデ	5YR6/3	常滑
1518	008-06 5次	陶器	片口鉢	J-S7	SD35004	SD51001 上層	17.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/1 釉：7.5YR3/2、 7.5YR2/1	瀬戸・美濃
1519	103-01 3次	陶器	片口鉢	J-T18・ 19	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N7/0	
1520	040-02 3次	陶器	片口鉢	J-T18	SD35004	SD35004	—	—	11.0	底部 5/12	外：ロクロナデ、ケズリ 内：ロクロナデ、ナデ	5Y8/1	常滑
1521	075-02 3次	陶器	片口鉢	J-T18・ 19	SD35004	SD35004	—	—	13.8	底部 2/12	外：ロクロナデ、ナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	5Y7/1	尾張型 内面重ね焼き痕
1522	025-04 4次	陶器	擂鉢	—	SD35004	SD44021 上層 壁	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、擂目	5YR6/2	備前
1523	054-02 3次	陶器	擂鉢	J-S13	SD35004	SD36002 2層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、擂目	5Y6/1	備前
1524	014-01 5次	陶器	擂鉢	J-S7	SD35004	SD51001 下層	34.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ユビオサエ 内：ロクロナデ、擂目	2.5YR5/2	備前
1525	039-02 3次	陶器	擂鉢	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、擂目	5YR5/1	備前
1526	097-02 3次	陶器	擂鉢	J-T18	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、工具ナデ 内：ロクロナデ、擂目	7.5YR4/2	備前
1527	012-03 5次	陶器	擂鉢	J-S8	SD35004	SD51001 アゼ中層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、擂目、施釉	素：5YR5/1 釉：2.5YR4/2	備前
1528	037-01 3次	陶器	擂鉢	J-T18	SD35004	SD35004	25.4	11.6	12.3	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、擂目	7.5YR5/1	備前
1529	038-01 3次	陶器	擂鉢	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、擂目	2.5YR7/6	備前
1530	006-03 5次	陶器	擂鉢	J-S7	SD35004	SD51001 上層	24.4	8.9	9.2	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ケズリ 内：ロクロナデ、擂目	10R5/6	備前
1531	006-02 5次	陶器	擂鉢	J-S7	SD35004	SD51001 上層	29.4	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、擂目、施釉	素：7.5YR5/1 釉：10R5/6	備前
1532	006-01 5次	陶器	擂鉢	J-S7	SD35004	SD51001 上層	34.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、擂目、施釉	素：2.5YR5/3 釉：10R3/3	備前
1533	004-03 5次	陶器	擂鉢	—	SD35004	SD51001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、擂目	5YR7/6	備前
1534	005-08 5次	陶器	擂鉢	J-S7	SD35004	SD51001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、擂目、施釉	素：N5/0 釉：2.5YR4/1	備前
1535	036-02 3次	陶器	擂鉢	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	13.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、ケズリ 内：ロクロナデ、擂目	5YR7/6	備前
1536	051-02 3次	陶器	擂鉢	J-S14	SD35004	SD36002 1層	—	—	12.6	底部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、擂目	10R6/6	備前
1537	043-03 3次	陶器	擂鉢	J-T19	SD35004	SD35004 1層	29.3	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、擂目	5YR4/3	堺・明石系
1538	005-04 5次	陶器	擂鉢	—	SD35004	表土 (SD51001)	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、擂目、施釉	素：10R5/6 釉：10R5/4	堺・明石系

第Ⅳ－39 表 遺物観察表 39

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1539	006-04 7次	陶器	擂鉢	1区	SD35004	SD70004付近 最上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、工具ナデ、施釉 内：ロクロナデ、擂目、施釉	素：10R4/1 釉：2.5YR4/4	堺・明石系
1540	025-03 4次	陶器	擂鉢	—	SD35004	SD44021 上層 畦	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、擂目	7.5R6/2	堺・明石系
1541	039-01 3次	陶器	擂鉢	J-T18	SD35004	SD35004	29.6	10.0	9.8	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ、擂鉢	5YR6/6 7.5YR8/4	瀬戸・美濃
1542	024-01 4次	陶器	擂鉢	J-R5	SD35004	SD44021 上層	32.4	11.5	14.2	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ナデ、ユビオサエ、ケズリ 内：ロクロナデ、擂目	5YR7/6	
1543	004-01 5次	陶器	擂鉢	—	SD35004	SD51001 上層	32.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、工具ナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：2.5YR6/6	瀬戸・美濃
1544	004-02 5次	陶器	擂鉢	—	SD35004	SD51001 上層	29.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、擂目、施釉	素：10YR8/2 釉：2.5YR4/4	瀬戸・美濃
1545	054-01 3次	陶器	擂鉢	J-T12	SD35004	SD36002 1層	33.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、擂目、施釉	素：10YR8/2 釉：5YR4/2	瀬戸・美濃
1546	054-04 3次	陶器	擂鉢	J-T12	SD35004	SD36002 2層	—	—	9.5	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、擂目、施釉	素：10YR8/2 釉：5YR4/1	瀬戸・美濃
1547	004-04 5次	陶器	擂鉢	—	SD35004	SD51001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：2.5YR4/3	瀬戸・美濃
1548	051-03 3次	陶器	擂鉢	J-T13	SD35004	SD36002 1層	—	—	12.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ、擂目	10R5/2	瀬戸・美濃
1549	007-01 7次	陶器	火鉢	1区	SD35004	SD70004 (西側)	—	—	—	口縁部 小片	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR8/6	常滑(赤物) 内面煤付着
1550	008-02 5次	陶器	花瓶	J-S6	SD35004	SD51001 畦部上層	—	—	—	頸部 12/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ	素：10YR7/3 釉：5Y6/3	瀬戸・美濃
1551	007-01 5次	陶器	壺または徳 利	—	SD35004	SD51001 上層	13.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5YR5/1 釉：5YR4/3	
1552	050-01 3次	陶器	壺または徳 利	J-T13	SD35004	SD36002 1層	16.0	—	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ナデ、施釉 内：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ、施釉	素：10R6/6 釉：10R5/1	備前？
1553	045-01 3次	陶器	壺または徳 利	—	SD35004	SD35004	19.2	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y6/1	常滑
1554	035-03 3次	陶器	壺または徳 利	J-T18	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y5/1 N3/0	常滑
1555	052-03 3次	陶器	壺または徳 利	J-S15	SD35004	SD36002 2層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、ユビオサエ	N5/0	常滑
1556	052-04 3次	陶器	壺または徳 利	J-T12	SD35004	SD36002 2層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	素：2.5Y7/1 釉：5YR5/2	常滑
1557	012-04 5次	陶器	壺または徳 利	—	SD35004	SD51001 西側大トレ ンチ	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5YR5/8 釉：2.5YR5/3	常滑
1558	005-03 5次	陶器	壺または徳 利	—	SD35004	表土 (SD51001)	—	—	6.5	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/1 釉：2.5YR3/1	瀬戸・美濃？
1559	007-02 5次	陶器	壺または徳 利	—	SD35004	表土 (SD51001)	—	—	10.8	底部 3/12	外：ロクロナデ？、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5YR4/3	瀬戸・美濃？ 内面重ね焼き痕
1560	023-02 4次	陶器	壺または徳 利	L-S4	SD35004	SD44021 下層	—	—	12.2	底部 6/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N4/0 釉：5YR3/2	
1561	006-01 7次	陶器	甕	1区5	SD35004	SD70004	35.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5Y4/2	渥美
1562	035-02 3次	陶器	甕	J-T18	SD35004	SD35004	25.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、ナデ、工具ナデ、ユビオサエ	2.5YR5/3	常滑
1563	035-01 3次	陶器	甕	J-T18	SD35004	SD35004	30.0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5YR4/1	常滑
1564	052-01 3次	陶器	甕	J-S15	SD35004	SD36002 2層	40.7	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、工具ナデ、施釉	素：2.5Y7/1 釉：2.5YR5/3	常滑
1565	052-02 3次	陶器	甕	J-S13	SD35004	SD36002 2層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/1 釉：2.5YR5/3	常滑
1566	013-07 5次	陶器	甕	J-S8	SD35004	SD51001 畦下層	—	—	12.0	底部 2/12	外：工具ナデ、ユビオサエ、施釉 内：工具ナデ	素：7.5YR7/3 釉：5YR5/3	常滑
1567	041-01 3次	陶器	甕	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	13.4	底部 3/12	外：工具ナデ、ユビオサエ 内：工具ナデ、ロクロナデ、ユビオサエ	10YR7/3	常滑
1568	053-01 3次	陶器	加工円盤 (山菜碗)	J-S13	SD35004	SD36002 2層	長径 7.4	短径 7.0	—	—	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	76.0g 端部打ち欠き
1569	026-02 4次	磁器	碗	J-R4	SD35004	SD44021 トレンチ 上層	7.3	4.0	3.1	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1570	055-05 3次	磁器	碗	J-S13	SD35004	SD36002 2層	10.5	—	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系
1571	046-01 3次	磁器	碗	J-T19	SD35004	SD35004 1層	10.6	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1572	010-01 5次	磁器	碗	—	SD35004	表土 (SD51001)	—	—	3.2	底部 9/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系
1573	010-02 5次	磁器	碗または瓶	J-S7	SD35004	SD51001 上層	—	—	4.1	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1574	010-05 5次	磁器	小坏	—	SD35004	SD51001 上層	7.2	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1575	006-03 7次	磁器	皿	1区	SD35004	SD70004付近 最上層	13.5	3.8	7.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1576	010-04 5次	磁器	皿	—	SD35004	表土 (SD51001)	14.2	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系
1577	010-03 5次	磁器	皿	—	SD35004	表土 (SD51001)	19.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系
1578	024-02 4次	磁器	皿	—	SD35004	SD44021 上層	19.8	4.8	10.0	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系 コンニャク印判
1579	009-02 5次	磁器	皿	J-S7	SD35004	SD51001 上層	24.6	4.9	8.4	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ？、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	肥前系 蛇ノ目釉剥ぎ

第IV -40 表 遺物観察表 40

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1580	026-01 4次	白磁	碗	J-R4	SD35004	SD44021 トレンチ 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1 釉：5Y7/1	福建省系
1581	027-02 4次	白磁	碗	J-S5	SD35004	SD44021 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/2 釉：7.5Y8/1	福建省系
1582	045-04 3次	白磁	碗	—	SD35004	SD35004	—	—	4.6	底部 1/12	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5Y8/1	
1583	011-02 5次	青磁	碗	J-S6	SD35004	SD51001 畦部上層	13.2	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：5GY7/1	
1584	105-05 3次	青磁	碗	J-S13	SD35004	SD36002 2層	13.7	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、鎚蓮弁文、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y6/1 釉：7.5Y5/2	龍泉窯系
1585	014-09 5次	青磁	碗	—	SD35004	西側大トレンチ SD51001	13.8	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ？、施釉 内：ロクロナデ？、施釉	素：10Y8/1 釉：7.5Y6/2	
1586	042-02 3次	青磁	碗	J-T18	SD35004	SD35004	13.4	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、鎚蓮弁文、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/1 釉：5Y5/2	龍泉窯系
1587	011-01 5次	青磁	碗	—	SD35004	SD51001 上層	14.0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、鎚蓮弁文、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：2.5GY7/1	龍泉窯系
1588	010-06 5次	青磁	碗	J-S8	SD35004	SD51001 アゼ土層	14.4	7.0	5.8	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、陰刻、施釉	素：N8/0 釉：10Y7/2	龍泉窯系
1589	055-04 3次	青磁	碗	J-S13	SD35004	SD36002 2層	15.2	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロケズリ、施釉	素：2.5Y7/1 釉：7.5Y6/2	
1590	099-03 3次	青磁	碗	J-12	SD35004	SD36002 2層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、鎚蓮弁文、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10Y8/1 釉：7.5GY7/1	龍泉窯系
1591	096-05 3次	青磁	碗	J-S13	SD35004	SD36002 2層	—	—	4.6	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、鎚蓮弁文、施釉 内：ロクロナデ、陰刻、施釉	素：5Y8/1 釉：2.5GY6/1	龍泉窯系
1592	055-03 3次	青磁	碗	J-S13	SD35004	SD36002 2層	—	—	5.0	底部 11/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、陰刻、施釉	素：10YR7/2 釉：5GY6/1	龍泉窯系
1593	026-03 4次	青磁	碗	J-S4	SD35004	SD44021 上層	—	—	5.3	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、鎚蓮弁文、施釉 内：ロクロナデ、陰刻、施釉	素：7.5YR6/3 釉：10Y6/2	龍泉窯系
1594	042-04 3次	青磁	碗	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	5.6	底部 6/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y6/2 釉：2.5Y5/2	
1595	042-01 3次	青磁	碗	J-T18	SD35004	SD35004	—	—	5.7	底部 12/12	外：ロクロケズリ、ロクロナデ、鎚蓮弁文、施釉 内：ロクロナデ、陰刻、施釉	素：2.5Y8/2 釉：7.5Y5/2	龍泉窯系
1596	042-06 3次	青磁	碗	—	SD35004	SD35004	—	—	5.8	底部 3/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、陰刻、施釉	素：5Y6/1 釉：7.5Y5/2	龍泉窯系
1597	042-05 3次	青磁	香炉	—	SD35004	SD35004	11.2	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0 釉：7.5GY7/1	
1598	045-05 3次	白磁	壺	—	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10Y8/1 釉：7.5Y6/2	
1599	017-05 5次	青磁	壺	J-R4	SD35004	SD51001 SD44021	—	—	—	体部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/1 釉：2.5GY6/1、 5Y5/1	龍泉窯系、 トレンチ上層
1600	023-01 4次	瓦	丸瓦	J-R5	SD35004	SD44021 上層	—	幅 13.1	—	小片	凸：ナデ、面取り、工具ナデ 凹：ナデ、面取り、棒状圧痕	N6/0	
1601	094-04 3次	石製品	石鍋	J-T19	SD35004	SD35004	—	—	—	口縁部 小片	外：鑿痕、線状痕 内：線状痕	—	滑石製 肥前西彼杵 半島 二次加工転用
1602	045-02 3次	石製品	砥石	J-T19	SD35004	SD35004	—	幅 4.2	厚さ 1.7	—	擦痕	—	102.0g
1603	025-02 4次	石製品	砥石	—	SD35004	SD44021 上層 蛙	長さ 14.7	幅 4.3	厚さ 1.2	—	擦痕	—	149.1g
1604	011-03 5次	石製品	砥石	—	SD35004	SD51001 上層	—	幅 4.9	厚さ 0.8	—	擦痕	—	30.9g
1605	011-04 5次	石製品	砥石	J-S6	SD35004	SD51001 畦部上層	—	幅 3.4	厚さ 0.6	—	擦痕	—	16.4g
1606	011-05 5次	石製品	砥石	—	SD35004	SD51001 上層	—	幅 4.8	厚さ 1.6	—	擦痕	—	61.4g
1607	007-02 7次	石製品	礫白	1区 1・2・ 4・5	SD35004	SD70004	—	—	—	小片	上面：礫目 側面：加工か？	—	下臼
1608	032-01 4次	石製品	円盤状製品	J-R5	SD35004	SD44021 上層	長径 5.6	短径 5.4	厚さ 0.7	—	端部打ち欠き、表面剥離	—	33.5g
1609	032-02 4次	石製品	円盤状製品	J-R5	SD35004	SD44021 上層	長径 5.6	短径 5.6	厚さ 1.1	—	端部打ち欠き、表面剥離	—	39.8g
1610	032-03 4次	石製品	円盤状製品	J-R5	SD35004	SD44021 上層	長径 5.2	短径 5.0	厚さ 1.3	—	端部打ち欠き、表面剥離	—	45.3g
1611	123-04 3次	鉄製品	鉄鏃	L-S11	SD35004	SD36002 1層	—	幅 0.9	厚さ 1.0	半欠	—	—	丸根式
1612	053-02 4次	鉄製品	小札	—	SD35004	SD51001 上層	—	幅 3.3	厚さ 0.2	一部欠	円孔三列	—	三ツ目札
1613	124-03 3次	鉄製品	釘	J-S13	SD35004	SD36002 1層	—	幅 0.6	厚さ 0.9	一部欠	—	—	
1614	124-05 3次	鉄製品	鉄鏃？	J-S13	SD35004	SD36002 1層	—	幅 1.4	厚さ 0.5	小片	—	—	
1615	117-07 3次	土師器	皿	J-U14	SD35007	SD36008 上層	7.4	1.5	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	7.5YR7/4	大坂系 ロクロ土師器、内外 面口縁部煤付着
1616	043-05 3次	土師器	鍋	J-U17	SD35007	SD35007 2層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR7/3	外面煤付着
1617	059-02 3次	陶器	山茶碗	J-U15	SD35007	SD36008 Ⅱ層	15.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N8/0	尾張型
1618	060-03 3次	陶器	山茶碗	J-U15	SD35007	SD36008 Ⅱ層	—	—	6.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	尾張型 底部外面に墨痕
1619	047-04 3次	陶器	山茶碗	J-U19	SD35007	SD35007	—	—	6.4	底部 2/12	外：ロクロナデ 内：摩耗により調整不明	N7/0	渥美湖西型

第Ⅳ-41表 遺物観察表 41

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1620	059-01 3次	陶器	山茶碗	J-U15	SD35007	SD36008	—	—	7.0	底部 3/12	外：ロクロナデ、ヨコナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N7/0	渥美湖西型
1621	107-03 3次	陶器	山茶碗	—	SD35007	SD36008	—	—	7.6	底部 3/12	外：ロクロナデ、ナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
1622	043-04 3次	陶器	山茶碗	J-U17	SD35007	SD35007 2層	—	—	7.8	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/3	渥美湖西型
1623	047-05 3次	陶器	山茶碗	J-U18	SD35007	SD35007 2層	—	—	7.8	底部 1/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	5Y8/1	尾張型
1624	110-04 3次	陶器	山茶碗	J-U18	SD35007	SD35007 2層	—	—	7.8	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	渥美湖西型
1625	107-04 3次	陶器	山皿	J-U15	SD35007	SD36008 Ⅱ層	—	—	3.2	底部 6/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	
1626	059-03 3次	陶器	天目茶碗	J-U15	SD35007	SD36008 Ⅱ層	12.4	6.8	4.6	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5YR6/4 釉：7.5YR2/1	瀬戸・美濃
1627	043-02 3次	陶器	片口鉢	J-U18	SD35007	SD35007 2層	32.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	
1628	107-02 3次	陶器	擂鉢	—	SD35007	SD36008	—	—	8.0	底部 1/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、擂目、施釉	素：10YR8/2 釉：7.5YR4/1	
1629	043-01 3次	陶器	火鉢	J-U18	SD35007	SD35007 1層	16.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ	7.5YR5/2 5YR6/3	
1630	060-01 3次	陶器	壺	J-U15	SD35007	SD36008 Ⅱ層	17.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ	5YR5/3 7.5YR5/1	常滑
1631	060-02 3次	陶器	甕	J-U15	SD35007	SD36008 Ⅱ層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、ユビオサエ、工具ナデ	10R5/4	常滑
1632	059-04 3次	白磁	碗または皿	J-U15	SD35007	SD36008 Ⅱ層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：7.5Y7/2	
1633	099-02 3次	白磁	皿	J-U17	SD35007	SD35007 1層	—	—	5.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：10Y8/1	福建省系
1634	059-05 3次	白磁	碗または壺	J-U15	SD35007	SD36008 Ⅱ層	—	—	5.8	底部 3/12	外：ロクロケズリ、ケズリ、施釉 内：ロクロナデ、陰刻、施釉	素：N8/0 釉：5GY8/1	
1635	048-02 3次	白磁	壺	J-U17	SD35007	SD35007 1層	—	—	6.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：N8/0	
1636	059-06 3次	瓦	軒丸瓦	J-U15	SD35007	SD36008 Ⅱ層	—	—	—	瓦当部 小片	外：ナデ 内：ナデ	N8/0 N5/0	珠文
1637	125-04 3次	鉄製品	鉄	—	SD35007	SD36008	—	幅 3.3	厚さ 0.4	半欠	—	—	片側のみ
1638	004-05 7次	土師器	皿	1区3	SD36003	SD70003	6.4	1.2	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、工具ナデ？、糸切痕 内：ロクロナデ	7.5YR7/6	大坂系 ロクロ土師器 内外面煤付着
1639	021-01 5次	土師器	焙烙	J-R8	SD36003	SD51005	23.0	—	—	口縁部 5/12	外：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	7.5YR5/3	大坂・明石系 外面煤付着
1640	020-05 5次	陶器	山茶碗	J-R8	SD36003	SD51005	16.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	10YR7/1	渥美湖西型
1641	021-03 5次	陶器	山茶碗	J-R8	SD36003	SD51005	—	—	6.8	底部 1/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	渥美湖西型
1642	056-04 3次	陶器	碗	J-T13	SD36003	SD36003	6.9	4.9	3.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/1 釉：5Y7/1	瀬戸・美濃
1643	020-04 5次	陶器	皿	J-R8	SD36003	SD51005 表土	13.0	—	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/1 釉：10G6/1	肥前系 銅緑釉
1644	056-03 3次	陶器	鉢	J-T13	SD36003	SD36003	—	—	7.6	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5Y7/2	瀬戸・美濃 内面重ね焼き痕
1645	021-02 5次	陶器	鉢	J-R8	SD36003	SD51005	—	—	11.5	底部 2/12	外：工具ナデ、ロクロナデ 内：ロクロナデ？	7.5YR5/2	
1646	057-02 3次	陶器	擂鉢	L-R11	SD36003	SD36003	34.5	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ケズリ 内：ロクロナデ、擂目	2.5Y4/2	堺・明石系
1647	057-01 3次	陶器	擂鉢	L-R11	SD36003	SD36003	38.0	—	—	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ、擂目	2.5YR5/2 2.5YR5/4	堺・明石系
1648	056-02 3次	陶器	徳利	J-T13	SD36003	SD36003	3.0	—	—	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/2 釉：7.5YR4/2	瀬戸・美濃
1649	058-01 3次	磁器	仏飴具	L-R11	SD36003	SD36003	7.4	5.1	4.4	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5Y8/1	肥前系
1650	058-02 3次	土製品	人形	L-R11	SD36003	SD36003	—	—	—	一部欠	外：型押し 内：ナデ、ユビオサエ	7.5YR7/4	
1651	118-02 3次	石製品	礪臼	L-R11	SD36003	SD36003	径 28.0	—	—	小片	上面：加工痕	—	上白
1652	119-01 3次	石製品	礪臼	L-R11	SD36003	SD36003	径 30.0	—	—	小片	上面：礪目	—	下白
1653	106-08 3次	陶器	山茶碗	J-S12	SD36006	SD36006	—	—	6.2	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	
1654	106-07 3次	陶器	山茶碗	J-S12	SD36006	SD36006	—	—	6.3	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	渥美湖西型
1655	106-06 3次	陶器	山茶碗	J-S12	SD36006	SD36006	—	—	7.0	底部 6/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	5Y7/1	尾張型
1656	106-05 3次	陶器	山茶碗	J-S11	SD36006	SD36006	—	—	7.4	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y6/2	尾張型
1657	123-08 3次	銅製品	銭貨	L-S12	SD36006	SD36006	径 2.3	—	厚さ 0.2	完存	—	—	寛永通寶
1658	061-03 3次	土師器	鍋	J-V16	SD36009	SD36009	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR8/3	南伊勢系 外面煤付着
1659	061-02 3次	土師器	鍋	J-V16	SD36009	SD36009	19.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	2.5Y8/2	南伊勢系
1660	061-01 3次	土師器	羽釜	J-V16	SD36009	SD36009	23.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR7/6	外面煤付着

第IV-42表 遺物観察表 42

報告 №	実測 №	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1661	060-05 3次	青磁	碗	J-V16	SD36009	SD36009	—	—	5.8	底部 2/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、櫛描条線、施釉	素：N8/0 釉：7.5Y7/2	同安窯系
1662	072-04 3次	陶器	山茶碗	J-L・P15	SD37002	SD37002	15.0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
1663	070-05 3次	土師器	鍋	J-K20	SD37005	SD37005	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	2.5Y8/3	南伊勢系 外面煤付着
1664	070-01 3次	土師器	鍋	J-K19	SD37007	SD37007	31.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	2.5Y6/3	南伊勢系 外面煤付着
1665	070-06 3次	土師器	鍋	J-K19	SD37007	SD37007	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ	2.5Y7/4	南伊勢系 外面煤付着
1666	070-03 3次	陶器	山茶碗	J-J21	SD37007	SD37007	—	—	6.5	底部 7/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	渥美湖西型
1667	070-04 3次	陶器	山茶碗	J-J21	SD37007	SD37007	—	—	7.6	底部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	尾張型
1668	070-02 3次	陶器	鉢	J-J21	SD37007	SD37007	—	—	11.5	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	
1669	071-04 3次	陶器	鉢	J-K19	SD37007	SD37007	—	—	14.0	底部 1/12	外：ロクロナデ、糸切痕、工具痕？ 内：ロクロナデ？	2.5Y7/2	
1670	071-06 3次	陶器	鉢	J-K19	SD37007	SD37007	—	—	14.0	底部 1/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	
1671	071-01 3次	陶器	壺	J-K19	SD37007	SD37007	12.0	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	渥美？
1672	071-05 3次	陶器	鉢	J-J21	SD37007	SD37007	9.6	3.2	5.2	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/3 釉：7.5Y5/3	瀬戸・美濃
1673	071-03 3次	陶器	壺または甕	J-J21	SD37007	SD37007	—	—	15.2	底部 1/12	外：ロクロナデ、ユビオサエ、施釉 内：ロクロナデ	素：2.5Y7/2 釉：7.5Y4/2	常滑
1674	013-02 4次	土師器	皿	L-J17	SD43001	SD43001 下層	10.1	3.2	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/2	
1675	067-05 4次	土師器	皿	L-J16	SD43001	SD43001 下層	10.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/2	
1676	068-03 4次	土師器	皿	L-J17	SD43001	SD43001 下層	10.8	3.1	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/2	
1677	012-06 4次	土師器	皿	L-J9	SD43001	SD43001 土器密集部	11.2	2.9	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	10Y8/2	
1678	012-04 4次	土師器	皿	L-T9	SD43001	SD43001 土器集中	11.4	2.3	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10Y8/2	
1679	012-05 4次	土師器	皿	L-T9	SD43001	SD43001 土器集中	11.5	3.3	—	口縁部 11/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、ナデ	10Y8/2	
1680	013-03 4次	土師器	皿	L-J8	SD43001	SD43001 下層	11.7	3.5	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
1681	011-03 4次	土師器	皿	L-J8	SD43001	SD43001 下層	11.8	2.8	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/2 7.5YR4/1	
1682	066-03 4次	土師器	皿	L-J8	SD43001	SD43001 アゼ部下層	11.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR8/3	
1683	013-01 4次	土師器	皿	—	SD43001	SD43001 上層	11.9	3.1	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/2	
1684	012-02 4次	土師器	皿	L-J15	SD43001	SD43001	12.0	3.0	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/2	
1685	067-03 4次	土師器	皿	L-J14	SD43001	SD43001 下層	12.2	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
1686	067-04 4次	土師器	皿	L-J16	SD43001	SD43001 下層	12.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR8/3	
1687	014-05 4次	土師器	鉢	L-J8	SD43001	SD43001 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ？、ロクロナデ？ 内：ヨコナデ？、ロクロナデ？	10YR7/3	東播系須恵器写し
1688	064-02 4次	土師器	鍋	L-J8	SD43001	SD43001 下層	20.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR6/3	南伊勢系 外面煤付着
1689	068-02 4次	土師器	鍋	L-J17	SD43001	SD43001 下層	21.8	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ハケメ、ケズリ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ユビオサエ、ケズリ？	10YR8/2	南伊勢系 内外面煤付着
1690	064-01 4次	土師器	鍋	L-J8	SD43001	SD43001 下層	22.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7.5YR6/3	南伊勢系 外面煤付着
1691	066-05 4次	土師器	鍋	L-J9	SD43001	SD43001 下層	23.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	7.5YR6/3	南伊勢系 内外面煤付着
1692	067-01 4次	土師器	鍋	L-J9	SD43001	SD43001 下層	24.6	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR7/4	南伊勢系 内外面煤付着
1693	066-01 4次	土師器	鍋	L-J8	SD43001	SD43001 下層	24.8	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR8/3	南伊勢系 内外面煤付着
1694	063-01 4次	土師器	鍋	L-J8	SD43001	SD43001 下層	25.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
1695	012-01 4次	土師器	鍋	L-J15	SD43001	SD43001	26.2	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR5/2 7.5YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
1696	063-03 4次	土師器	鍋	L-J9	SD43001	SD43001 下層	27.8	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、ユビオサエ	7.5YR5/3	南伊勢系 内外面煤付着
1697	063-02 4次	土師器	鍋	L-J8	SD43001	SD43001 上層	28.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7.5YR5/2	南伊勢系 外面煤付着
1698	063-04 4次	土師器	鍋	L-J8	SD43001	SD43001 下層	28.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR5/3	南伊勢系 外面煤付着
1699	067-02 4次	土師器	鍋	L-J14	SD43001	SD43001 下層	28.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR6/3	南伊勢系 外面煤付着
1700	068-01 4次	土師器	鍋	L-J16	SD43001	SD43001 下層	29.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ユビオサエ	7.5YR7/3 10YR8/3	南伊勢系 外面煤付着
1701	063-05 4次	土師器	鍋	L-J8	SD43001	SD43001 下層	29.7	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ユビオサエ	10YR7/3	南伊勢系 内外面煤付着
1702	011-08 4次	土師器	鍋	—	SD43001	SD43001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y8/2	南伊勢系

第Ⅳ-43表 遺物観察表 43



報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1703	064-03 4次	土師器	鍋	L-J8	SD43001	SD43001 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	7. 5YR5/2	南伊勢系 外面煤付着
1704	066-02 4次	土師器	羽釜	L-J8 L-J13	SD43001	SD43001 下層	24. 0	—	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7. 5YR6/3	南伊勢系 内外面煤付着
1705	011-07 4次	土師器	羽釜	—	SD43001	SD43001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7. 5YR5/2	南伊勢系 外面煤付着
1706	066-04 4次	土師器	羽釜	L-J9	SD43001	SD43001 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ？ 内：ヨコナデ、ナデ	7. 5YR8/3	南伊勢系 内外面煤付着
1707	011-05 4次	須恵器	鉢	—	SD43001	SD43001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ、ナデ	10YR7/2	東播系 焼成不良
1708	039-03 4次	陶器	山茶碗	—	SD43001	SD43001 上層	—	—	6. 7	底部 1/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR8/1	渥美湖西型
1709	038-08 4次	陶器	山茶碗	—	SD43001	SD43001 上層	—	—	7. 0	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	10YR7/1	渥美湖西型
1710	039-02 4次	陶器	山茶碗	—	SD43001	SD43001 上層	—	—	7. 7	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR7/2	渥美湖西型
1711	040-02 4次	陶器	山茶碗	—	SD43001	SD43001 上層	—	—	8. 6	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2. 5Y7/1	渥美湖西型
1712	039-01 4次	陶器	山茶碗	—	SD43001	SD43001 上層	—	—	—	底部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y7/1	渥美湖西型
1713	041-04 4次	陶器	山皿	—	SD43001	SD43001 トレンチ1	—	—	3. 0	底部 4/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N7/0	渥美湖西型
1714	039-04 4次	陶器	山皿	—	SD43001	SD43001 上層	—	—	3. 6	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y7/2	渥美湖西型
1715	041-03 4次	陶器	山皿	—	SD43001	SD43001 トレンチ3	—	—	5. 2	底部 1/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ	N8/0	
1716	040-04 4次	陶器	碗	L-J17	SD43001	SD43001 上層	13. 5	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N6/0 釉：10Y6/1	
1717	013-04 4次	青磁	碗	L-J13	SD43001	SD43001 下層	—	—	4. 5	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/1 釉：5Y6/2	
1718	011-04 4次	陶器	皿	—	SD43001	SD43001 上層	15. 2	3. 8	10. 0	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	5YR7/6	焼成不良
1719	041-02 4次	陶器	壺	—	SD43001	SD43001 トレンチ3	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y8/2 釉：7. 5Y8/2	
1720	038-06 4次	陶器	皿	—	SD43001	SD43001 上層	—	—	7. 8	底部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1 釉：10Y8/1	
1721	011-06 4次	土師器	鉢	—	SD43001	SD43001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ、ナデ	10YR8/3	外面煤付着
1722	014-02 4次	須恵器	鉢	L-J16	SD43001	SD43001 下層	—	—	9. 3	底部 5/12	外：ナデ、糸切痕 内：ナデ	10YR5/1	東播系
1723	039-07 4次	陶器	鉢	—	SD43001	SD43001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、工具ナデ 内：ロクロナデ、ナデ	5YR7/4	常滑
1724	014-01 4次	陶器	鉢	L-J17	SD43001	SD43001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、工具ナデ 内：ロクロナデ	5YR5/2	常滑
1725	040-01 4次	陶器	鉢	—	SD43001	SD43001 上層	26. 2	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、工具ナデ 内：ロクロナデ	5YR5/3 5YR5/1	常滑
1726	041-01 4次	陶器	鉢	L-J12	SD43001	SD43001 下層	29. 0	—	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ、ナデ	5Y8/1	常滑
1727	040-03 4次	陶器	壺	—	SD43001	SD43001 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5Y5/1	常滑
1728	038-07 4次	陶器	壺？	—	SD43001	SD43001 上層	—	—	7. 0	底部 3/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2. 5Y8/2 釉：5Y8/1	瀬戸・美濃？
1729	039-05 4次	陶器	鉢	—	SD43001	SD43001 上層	—	—	14. 0	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：工具ナデ	2. 5Y7/2	
1730	012-03 4次	白磁	碗	—	SD43001	SD43001 トレンチ3	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7. 5Y7/1 釉：10Y7/2	福建省系
1731	040-05 4次	陶器	鉢	L-J17	SD43001	SD43001 アゼ上層	—	—	14. 3	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、ヘラ切痕 内：ロクロナデ	2. 5Y7/1	
1732	091-02 4次	白磁	壺	L-J16	SD43001	SD43001 下層	—	—	—	底部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y6/1 釉：5GY7/1	
1733	014-04 4次	青磁	坏	—	SD43001	SD43001 上層	10. 5	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1 釉：2. 5GY7/1	
1734	011-01 4次	土製品	土錘	L-J17	SD43001	SD43001 上層	長さ 3. 2	幅 1. 7	—	完存	外：ナデ	5YR7/6	6. 3g
1735	011-02 4次	土製品	土錘	L-J17	SD43001	SD43001 上層	長さ 3. 2	幅 1. 2	—	完存	外：ナデ	7. 5YR8/4	3. 1g
1736	010-10 4次	土製品	土錘	L-J16	SD43001	SD43001 下層	—	幅 1. 0	—	一部欠	外：ナデ	2. 5YR6/6	3. 1g
1737	067-06 4次	土製品	土錘	L-J16	SD43001	SD43001 下層	長さ 5. 1	幅 1. 0	—	完存	外：ナデ	10R6/8 5YR7/4	4. 0g
1738	014-06 4次	石製品	石鍋	L-J14	SD43001	SD43001 下層	19. 0	—	—	口縁部 6/12	外：鑿痕 内：鑿痕、線状痕	—	滑石製 肥前西彼杵 半島 外面煤付着 二 次加工による転用品
1739	069-01 4次	石製品	砥石	—	SD43001	SD43001	長さ 9. 0	幅 6. 9	厚さ 5. 8	—	擦痕	—	軽石製 54. 0 g
1740A	093-02 4次	鉄製品	釘	L-J13	SD43001	SD43001 下層	—	幅 1. 1	厚さ 0. 7	一部欠	—	—	
1740B	056-01 4次	銅製品	弁	—	SD43001	SD43001 上層	—	幅 1. 4	厚さ 0. 3	一部欠	—	—	
1741	012-01 7次	土師器	皿	2区42	SD44015	SD70010	8. 0	2. 1	5. 2	底部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR8/2	ロクロ土師器
1742	010-05 7次	土師器	皿	2区42	SD44015	SD70010	10. 8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ？	10YR8/3	

第IV -44 表 遺物観察表 44

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1743	018-02 10次	土師器	皿	J-Y8 L-A8	SD44015	SD10023	10.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ、粘土組接合痕 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
1744	021-02 4次	土師器	皿	L-J5	SD44015	SD44015 下層	11.0	3.1	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/2	
1745	021-01 4次	土師器	皿	L-E7	SD44015	SD44015 下層	11.1	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、ナデ	2.5YR8/2	
1746	018-01 10次	土師器	皿	J-Y8 L-A8	SD44015	SD10023	13.2	2.3	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ?	10YR8/2	
1747	019-02 4次	土師器	鍋	L-L4	SD44015	SD44015 中層	18.0	—	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ハケメ、ケズリ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR5/3 10YR7/2	南伊勢系 外面煤付着
1748	015-05 7次	土師器	鍋	2区40	SD44015	SD70016	19.0	—	—	口縁部 7/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
1749	021-04 4次	土師器	鍋	L-E7	SD44015	SD44015 下層	22.3	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR6/3	南伊勢系 外面煤付着
1750	010-01 7次	土師器	鍋	2区36	SD44015	SD70010 4層	25.3	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ	10YR6/2	南伊勢系 外面煤付着
1751	010-02 7次	土師器	鍋	2区36	SD44015	SD70010 4層	25.6	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	10YR8/3	南伊勢系 外面煤付着
1752	009-06 7次	土師器	鍋	2区42	SD44015	SD70010	25.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
1753	042-01 10次	土師器	鍋	J-W8	SD44015	SD10023	27.6	—	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ、ハケメ、ケズリ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、工具ナデ、ケズリ	10YR7/4	南伊勢系 外面煤付着
1754	009-05 7次	土師器	鍋	2区42	SD44015	SD70010	27.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ?	10YR6/3	南伊勢系 外面煤付着
1755	019-04 4次	土師器	鍋	L-G6	SD44015	SD44015 中層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR7/2	南伊勢系 外面煤付着
1756	019-05 4次	土師器	鍋	L-L4	SD44015	SD44015 中層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR4/1	南伊勢系 外面煤付着
1757	009-07 7次	土師器	鍋	2区42	SD44015	SD70010	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7.5YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
1758	015-04 7次	土師器	焙烙	2区40	SD44015	SD70016	25.2	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、工具ナデ	10YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
1759	010-03 7次	土師器	鍋	2区42	SD44015	SD70010	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ? 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR7/6	播磨型 外面煤付着
1760	010-04 7次	土師器	焙烙	2区42	SD44015	SD70010	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ? 内：ヨコナデ、ナデ	5YR6/4	大坂・明石系 外面煤付着
1761	021-03 4次	土師器	羽釜	L-J5	SD44015	SD44015 下層	15.4	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR7/3	南伊勢系
1762	019-03 4次	土師器	羽釜	L-L4	SD44015	SD44015 中層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR8/3 7.5YR8/3	南伊勢系
1763	021-05 4次	土師器	羽釜	L-F6	SD44015	SD44015 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、工具ナデ	10YR7/2	南伊勢系 外面煤付着
1764	019-01 4次	須恵器	鉢	L-L4	SD44015	SD44015 中層	27.0	11.4	10.5	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N6/0	東播系
1765	017-03 4次	須恵器	鉢	L-L4	SD44015	SD44015 下層	27.6	9.8	11.1	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ、ナデ	10YR7/4 7.5YR7/4	東播系
1766	020-01 4次	須恵器	鉢	L-F6	SD44015	SD44015 下層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N5/0 N7/0	東播系
1767	017-08 10次	陶器	山茶碗	J-Y8 L-A8	SD44015	SD10023	13.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	尾張型
1768	017-07 10次	陶器	山茶碗	J-W8	SD44015	SD10023	—	—	6.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5YR8/2	尾張型
1769	011-03 7次	陶器	山茶碗	2区1・2	SD44015	SD70010 2Tr	—	—	7.4	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR7/2 10YR8/1	尾張型
1770	011-02 7次	陶器	山茶碗	2区1・2	SD44015	SD70010 2Tr	—	—	7.5	底部 1/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	尾張型
1771	011-01 7次	陶器	山茶碗	2区1・2	SD44015	SD70010 2Tr	—	—	7.7	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR7/2	渥美湖西型
1772	016-02 7次	陶器	山茶碗	2区41・ 42	SD44015	SD70016	—	—	8.0	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR7/3	尾張型
1773	046-05 4次	陶器	碗または皿	L-L4	SD44015	SD44015 中層	—	—	2.4	底部 9/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5YR4/1 10R4/1	
1774	043-02 4次	陶器	皿	L-L4	SD44015	SD44015 下層	23.2	6.6	13.2	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/2 釉：5Y6/2	瀬戸・美濃
1775	046-04 4次	陶器	皿	L-L4	SD44015	SD44015 中層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/1 釉：2.5GY7/1	瀬戸・美濃
1776	011-06 7次	陶器	皿	2区42	SD44015	SD70010	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/3 釉：7.5YR8/1	瀬戸・美濃
1777	011-04 7次	陶器	播鉢	2区11	SD44015	SD70010 6Tr	38.4	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、播目	素：2.5YR4/2 釉：10R3/2	堺・明石系
1778	046-01 4次	陶器	甗	L-H5	SD44015	SD44015 下層	44.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5YR5/3	常滑
1779	011-05 7次	陶器	壺	2区42	SD44015	SD70010	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	10R5/2	常滑
1780	046-02 4次	陶器	甗	L-J5	SD44015	SD44015 下層	—	—	14.0	底部 2/12	外：工具ナデ、ナデ 内：ナデ、ユビオサエ	2.5YR4/3	常滑
1781	046-03 4次	陶器	甗	L-F6	SD44015	SD44015 下層	—	—	13.0	底部 2/12	外：工具ナデ、ナデ 内：ナデ、ユビオサエ	7.5YR7/4	常滑 内面煤付着
1782	047-01 4次	磁器	碗	L-H6	SD44015	SD44015 中層	9.6	5.8	3.8	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1783	020-02 4次	白磁	碗	L-L4	SD44015	SD44015 中層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5YR8/1 釉：7.5Y7/2	福建省系

第IV-45表 遺物観察表 45

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1784	020-04 4次	白磁	碗	L-L4	SD44015	SD44015 中層	—	—	5.4	底部 3/13	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/1 釉：10Y8/1	
1785	017-09 10次	白磁	碗	J-Y8 L-A8	SD44015	SD10023	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/1 釉：5Y6/2	福建省系
1786	020-03 4次	青磁	皿	L-15	SD44015	SD44015 下層	—	—	10.2	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：5Y5/3	
1787	016-01 7次	青磁	皿	2区40	SD44015	SD70016	11.0	3.0	3.2	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：7.5Y6/3	
1788	030-04 4次	青磁	香炉	L-H6	SD44015	SD44015 中層	10.6	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/2 釉：7.5Y8/1	
1789	021-07 4次	石製品	砥石	L-L4	SD44015	SD44015 下層	—	幅 3.4	厚さ 1.6	半欠	擦痕、線状痕	—	54.0g
1790	022-05 5次	土師器	鍋	J-V8	SD44030	SD51007	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	7.5YR6/4	南伊勢系 内外面煤付着
1791	028-04 4次	土師器	鍋	J-T4	SD44030	SD44030 トレンチ	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR7/6	播磨型 外面煤付着
1792	022-04 5次	陶器	山茶碗	J-V8	SD44030	SD51007	—	—	6.8	底部 5/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	渥美湖西型
1793	022-02 5次	陶器	天目茶碗	J-T6	SD44030	SD51007	—	—	4.4	底部 10/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/3 釉：7.5YR4/4	瀬戸・美濃
1794	052-02 4次	陶器	皿または碗	J-T4	SD44030	SD44030 トレンチ	—	—	6.7	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/3 釉：2.5YR3/2	
1795	022-03 5次	陶器	鉢？	J-T6	SD44030	SD51007	29.2	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、工具ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR6/4	
1796	029-02 4次	白磁	皿？	J-T4	SD44030	SD44030 トレンチ	—	—	6.0	底部 3/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1 釉：5Y7/1	
1797	091-01 4次	青磁	器台	J-T4	SD44030	SD44030 トレンチ	—	—	—	小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/1 釉：5G6/1	龍泉窯系
1798	019-01 5次	土師器	焙烙	J-R6	SD51002	SD51002	21.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	7.5YR6/4	大坂・明石系 内外面煤付着
1799	018-03 5次	土師器	焙烙	J-R6	SD51002	SD51002	22.8	—	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	7.5YR6/4	大坂・明石系 内外面煤付着
1800	018-02 5次	土師器	焙烙	J-R6	SD51002	SD51002	27.2	—	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	7.5YR6/6	大坂・明石系 外面煤付着
1801	016-04 5次	陶器	山茶碗	J-R6	SD51002	SD51002	—	—	7.2	底部 2/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ	N8/0	尾張型
1802	019-05 5次	陶器	碗	J-R6	SD51002	SD51002	12.4	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/3 釉：5YR4/2、 7.5YR3/1	瀬戸・美濃
1803	019-03 5次	陶器	天目茶碗	J-R6	SD51002	SD51002	—	—	4.6	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ？、施釉	素：10YR8/3 釉：7.5YR3/1	瀬戸・美濃
1804	019-04 5次	陶器	天目茶碗	J-R6	SD51002	SD51002	10.9	6.2	4.4	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/1 釉：7.5YR4/3、 7.5YR2/1	瀬戸・美濃
1805	019-02 5次	陶器	天目茶碗	J-R6	SD51002	SD51002	11.5	7.3	4.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5YR3/1	瀬戸・美濃
1806	016-03 5次	陶器	皿	J-R6	SD51002	SD51002	—	—	8.8	底部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/3 釉：5YR4/3	
1807	017-03 5次	陶器	壺？	J-R8	SD51002	SD51002	—	—	15.4	底部 1/12	外：ロクロナデ、ケズリ？、ヘラ切痕？ 内：ロクロナデ	素：2.5YR5/4 釉：2.5YR3/1	備前？
1808	015-01 5次	陶器	擂鉢	J-R6	SD51002	SD51002	29.0	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、擂目、施釉	素：7.5YR8/3 釉：2.5YR4/3	瀬戸・美濃
1809	016-02 5次	陶器	擂鉢	J-R6	SD51002	SD51002	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ロクロケズリ？、施釉 内：ロクロナデ、擂目、施釉	素：N4/0 釉：7.5R4/2	備前
1810	016-01 5次	陶器	擂鉢	J-R6	SD51002	SD51002	—	—	15.2	底部 1/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：擂目	2.5YR7/6	
1811	015-02 5次	陶器	壺	J-R6	SD51002	SD51002	—	—	16.6	底部 2/12	外：工具ナデ、ナデ 内：工具ナデ	2.5YR6/8 2.5YR5/4	常滑 内面煤付着？
1812	020-03 5次	磁器	碗	J-R6	SD51002	SD51002	10.3	4.1	3.8	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/1	肥前系 蛇ノ目釉剥ぎ
1813	020-02 5次	磁器	碗	J-R6	SD51002	SD51002	—	—	4.0	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1	肥前系
1814	017-02 5次	白磁	碗	J-R8	SD51002	SD51002	15.2	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：7.5Y8/1	福建省系
1815	017-01 5次	青磁	碗	J-R6	SD51002	SD51002	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、刻劃文、施釉	素：N7/0 釉：5G6/1	龍泉窯系
1816	028-01 5次	土師器	甕？	J-N9	SD51024	SD52002	31.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	5YR6/3	外面煤付着
1817	008-03 7次	土師器	羽釜	1区1	SD51024	SD70006	20.6	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR6/4	外面煤付着
1818	028-02 5次	瓦質 土器	羽釜	J-N9	SD51024	SD52002	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	N3/0	
1819	028-03 5次	灰釉 陶器	碗	J-N9	SD51024	SD52002	—	—	3.4	底部 3/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	
1820	032-05 5次	陶器	山茶碗	J-I10	SD51024	SD52002	15.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y8/1	渥美湖西型
1821	022-01 5次	陶器	山茶碗	J-R9	SD51024	SD51024 31-3層	—	—	5.5	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	5Y7/1	尾張型
1822	028-06 5次	陶器	山茶碗	J-M10	SD51024	SD52002	—	—	5.7	底部 5/12	外：ロクロナデ、粉殻痕 内：ロクロナデ、ナデ	2.5Y7/1	渥美湖西型
1823	008-02 7次	陶器	山茶碗	1区1	SD51024	SD70006 21層	—	—	6.0	底部 1/12	外：ロクロナデ、粉殻痕 内：ロクロナデ、ナデ	2.5Y7/2	渥美湖西型
1824	030-04 5次	陶器	山茶碗	J-M10	SD51024	SD52002	—	—	6.4	底部 4/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型

#### 第IV -46 表 遺物観察表 46

報告 №	実測 №	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1825	029-09 5次	陶器	山茶碗	J-I10	SD51024	SD52002	—	—	6.6	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y8/1	
1826	029-05 5次	陶器	山茶碗	J-I10	SD51024	SD52002	—	—	6.7	底部 9/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N6/0	渥美湖西型 内面煤付着？
1827	028-05 5次	陶器	山茶碗	J-M10	SD51024	SD52002	—	—	6.9	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ、ナデ	2.5Y7/1	尾張型
1828	032-03 5次	陶器	山茶碗	J-N9	SD51024	SD52002	—	—	6.8	底部 4/12	外：ロクロナデ、ナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y6/1 2.5Y7/1	渥美湖西型 外面底部離れ砂
1829	028-04 5次	陶器	山茶碗	J-N9	SD51024	SD52002	—	—	7.0	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ、ナデ	2.5Y7/2	渥美湖西型
1830	029-02 5次	陶器	山茶碗	J-I10	SD51024	SD52002	—	—	7.0	底部 6/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	尾張型 外面煤付着？
1831	029-08 5次	陶器	山茶碗	J-I10	SD51024	SD52002	—	—	7.0	底部 3/12	外：ロクロナデ、ヘラ切痕？ 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型 外面煤付着？
1832	030-05 5次	陶器	山茶碗	J-N9	SD51024	SD52002	—	—	7.2	底部 10/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N7/0	尾張型
1833	030-07 5次	陶器	山茶碗	J-N9	SD51024	SD52002	—	—	7.2	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	尾張型
1834	032-07 5次	陶器	山茶碗	J-N9	SD51024	SD52002	—	—	7.2	底部 1/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y8/2	渥美湖西型
1835	032-08 5次	陶器	山茶碗	J-N9	SD51024	SD52002	—	—	7.2	底部 1/12	外：ロクロナデ、粉殻痕、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR7/1	渥美湖西型
1836	029-01 5次	陶器	山茶碗	J-I10	SD51024	SD52002	—	—	7.3	底部 9/12	外：ロクロナデ、ヘラ切痕 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型 内面煤付着？
1837	030-08 5次	陶器	山茶碗	J-N9	SD51024	SD52002	—	—	7.3	底部 11/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N7/0	尾張型
1838	029-06 5次	陶器	山茶碗	J-I10	SD51024	SD52002	—	—	7.5	底部 10/12	外：ロクロナデ、ナデ、工具痕？ 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型 内面黒脈痕？
1839	029-03 5次	陶器	山茶碗	J-I10	SD51024	SD52002	—	—	7.6	底部 1/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	渥美湖西型
1840	030-03 5次	陶器	山茶碗	J-I10	SD51024	SD52002	—	—	7.8	底部 5/12	外：ロクロナデ、ヘラ切痕？ 内：ロクロナデ	N7/0	渥美湖西型
1841	030-06 5次	陶器	山茶碗	J-N9	SD51024	SD52002	—	—	7.8	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
1842	030-09 5次	陶器	山茶碗	J-N9	SD51024	SD52002	—	—	7.8	底部 6/12	外：ロクロナデ、ナデ、粉殻痕 内：ロクロナデ	N7/0	渥美湖西型
1843	029-04 5次	陶器	山茶碗	J-I10	SD51024	SD52002	—	—	7.9	底部 6/12	外：ロクロナデ、ナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N7/0	渥美湖西型
1844	030-02 5次	陶器	山茶碗	J-I10	SD51024	SD52002	—	—	8.0	底部 6/12	外：ロクロナデ、粉殻痕、糸切痕 内：ロクロナデ	N7/0	尾張型
1845	032-02 5次	陶器	山茶碗	J-N9	SD51024	SD52002	—	—	8.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR7/1	尾張型
1846	032-06 5次	陶器	山茶碗	J-N9	SD51024	SD52002	—	—	8.0	底部 5/12	外：ロクロナデ、ナデ、粉殻痕、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR7/1	尾張型
1847	029-07 5次	陶器	山茶碗	J-I10	SD51024	SD52002	—	—	8.4	底部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N7/0	渥美湖西型
1848	030-01 5次	陶器	山茶碗	J-K10	SD51024	SD52002	—	—	9.6	底部 2/12	外：ロクロナデ、粉殻痕、糸切痕？ 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
1849	031-09 5次	陶器	山皿	J-I10	SD51024	SD52002	8.5	2.3	3.5	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、ナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	尾張型
1850	031-10 5次	陶器	山皿	J-I10	SD51024	SD52002	8.8	3.1	4.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y8/1	渥美湖西型
1851	032-09 5次	陶器	山皿	J-N9	SD51024	SD52002	—	—	4.0	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y8/1	渥美湖西型
1852	032-10 5次	陶器	山皿	J-N9	SD51024	SD52002	—	—	4.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR7/1	渥美湖西型
1853	008-01 7次	陶器	碗	1区	SD51024	SD70006 調査区北側	—	—	4.8	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、印刻、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/1 釉：透	肥前系 京焼風陶器 「木下弥」印刻
1854	032-04 5次	白磁	碗	J-N9	SD51024	SD52002	15.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1 釉：5Y7/2	福建省系
1855	023-03 5次	縄文 土器	深鉢	J-K10	SD52001	SD52001	—	—	—	体部 小片	外：条線 内：ナデ？	5YR4/4 7.5YR5/3	
1856	024-02 5次	土師器	皿	J-09	SD52001	SD52001	10.5	2.4	—	口縁部 5/12	外：摩耗により調整不明 内：摩耗により調整不明	10YR8/2	
1857	024-04 5次	土師器	皿	J-09	SD52001	SD52001	11.0	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ 内：摩耗により調整不明	10YR8/1	南伊勢系？
1858	024-03 5次	土師器	皿	J-09	SD52001	SD52001	11.2	—	—	口縁部 3/12	外：摩耗により調整不明 内：摩耗により調整不明	10YR8/2	
1859	023-01 5次	土師器	皿	J-19	SD52001	SD52001	—	—	5.8	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR8/3	ロクロ土師器
1860	024-05 5次	土師器	皿	J-09	SD52001	SD52001	10.9	2.0	—	口縁部 4/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ	10YR8/2	南伊勢系？
1861	024-01 5次	土師器	鍋	J-09	SD52001	SD52001	19.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR7/3 10YR3/2	南伊勢系
1862	023-02 5次	土師器	鍋	J-19	SD52001	SD52001	24.0	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR7/4	南伊勢系 外面煤付着
1863	023-07 5次	土師器	甕？	J-09	SD52001	SD52001	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR5/4	
1864	023-04 5次	瓦器	椀	J-09	SD52001	SD52001	12.0	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、ナデ	2.5Y5/1	紀伊型
1865	023-05 5次	瓦器	椀	J-09	SD52001	SD52001	12.8	2.8	—	口縁部 12/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ	2.5Y5/1	紀伊型

第Ⅳ-47表 遺物観察表 47

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1866	023-06 5次	瓦質 土器	羽釜	J-09	SD52001	SD52001	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	N4/0	
1867	025-04 5次	陶器	山茶碗	J-19	SD52001	SD52001	—	—	6.6	底部 1/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
1868	025-05 5次	陶器	山茶碗	J-19	SD52001	SD52001	—	—	6.8	底部 5/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、ナデ	2.5Y8/1	渥美湖西型
1869	026-03 5次	陶器	山茶碗	J-09	SD52001	SD52001	—	—	6.8	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y8/2	渥美湖西型 内面墨痕？
1870	026-04 5次	陶器	山茶碗	J-09	SD52001	SD52001	—	—	6.8	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N7/0	渥美湖西型 外面底部墨痕？
1871	026-01 5次	陶器	山茶碗	J-K10	SD52001	SD52001	—	—	7.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型 外面底部墨痕？
1872	026-06 5次	陶器	山茶碗	J-P9	SD52001	SD52001	—	—	7.1	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	N7/0	尾張型
1873	025-07 5次	陶器	山茶碗	J-K10	SD52001	SD52001	—	—	7.4	底部 8/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	尾張型
1874	025-08 5次	陶器	山茶碗	J-K10	SD52001	SD52001	—	—	7.6	底部 8/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y8/1	渥美湖西型
1875	025-01 5次	陶器	山茶碗	J-H9	SD52001	SD52001	—	—	8.4	底部 1/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
1876	025-06 5次	陶器	山茶碗	J-K9	SD52001	SD52001	—	—	8.6	底部 1/12	外：ロクロナデ、ナデ 内：ロクロナデ	5Y8/1	渥美湖西型
1877	025-02 5次	陶器	山皿	J-H9	SD52001	SD52001	7.6	2.4	3.6	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
1878	025-03 5次	陶器	山皿	J-19	SD52001	SD52001	—	—	3.6	底部 10/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	
1879	026-05 5次	陶器	山皿	J-09	SD52001	SD52001	—	—	3.6	底部 6/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	N8/0	渥美湖西型
1880	027-05 5次	陶器	小碗	J-09	SD52001	SD52001	5.6	3.4	2.4	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/1 釉：2.5GY7/1	瀬戸・美濃
1881	027-02 5次	陶器	壺	J-T9	SD52001	SD52001	—	—	11.0	底部 3/12	外：工具ナデ 内：ロクロナデ	N3/0 2.5Y5/1	常滑
1882	026-02 5次	陶器	鉢	J-09	SD52001	SD52001	—	—	14.2	底部 1/12	外：ロクロケズリ、ロクロナデ 内：ロクロナデ	N7/0	渥美
1883	027-06 5次	磁器	碗	J-09	SD52001	SD52001	—	—	3.5	底部 1/12	外：ロクロナデ？、ロクロケズリ？、染付、施釉 内：ロクロナデ？、施釉		肥前系
1884	027-04 5次	青磁	碗	J-K9	SD52001	SD52001	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、鎭蓮弁文、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5Y7/1 釉：10Y6/2	龍泉窯系
1885	027-01 5次	石製品	石鍋	J-K9	SD52001	SD52001	38.6	—	—	口縁部 1/12	外：鑿痕、線状痕、摩耗？ 内：鑿痕	—	滑石製 肥前西彼杵半島 二次加工転用
1886	053-04 5次	銅製品	銭貨	J-K9	SD52001	SD52001	径 2.4	—	厚さ 0.8	完存	—	—	元豊通寶 銭貨6枚が重なる
1887	007-03 7次	陶器	甕または壺	1区8	SD52004	SD70005	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、ナデ？ 内：ロクロナデ、工具ナデ	2.5Y7/3	渥美
1888	009-03 7次	土師器	皿	2区11	SD70009	SD70009	8.9	1.7	7.8	底部 2/12	外：ロクロナデ？、糸切痕？ 内：ロクロナデ？	10YR8/2	
1889	009-04 7次	土製品	土錘	2区5・8	SD70009	SD70009	—	幅 1.7	—	半欠	外：ナデ	10YR8/3	8.3g
1890	055-05 4次	陶器	山皿	L-F6	SZ44041	カクラン1 上層	—	—	5.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ、ナデ	7.5YR7/3	渥美湖西型
1891	086-05 4次	陶器	片口鉢	L-F6	SZ44041	カクラン1 上層	16.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/2 釉：7.5YR4/3	瀬戸・美濃
1892	031-04 4次	陶器	壺？	L-F6	SZ44041	カクラン1 上層	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ	素：2.5YR5/4 釉：2.5YR4/3	
1893	031-03 4次	青磁	碗	L-F6	SZ44041	カクラン1 上層	16.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、鎭蓮弁文、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：10Y6/2	龍泉窯系
1894	083-05 4次	土師器	皿	J-T4・5	SZ44045	カクラン	6.3	1.2	—	口縁部 3/12	外：ナデ 内：ナデ	7.5YR7/6	
1895	087-01 4次	土師器	皿	J-S4	SZ44045	カクラン1	8.9	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	10YR5/2 釉：透	大坂系 ロクロ土師器 内外面煤付着
1896	087-02 4次	土師器	皿	J-S4	SZ44045	カクラン1	9.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	7.5YR7/6 釉：透	大坂系 ロクロ土師器 内外面煤付着
1897	055-03 4次	陶器	山茶碗	J-S4	SZ44045	カクラン1	—	—	6.7	底部 7/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	
1898	055-04 4次	陶器	山茶碗	J-S4	SZ44045	カクラン1	—	—	8.9	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	
1899	055-02 4次	陶器	皿	J-S4	SZ44045	カクラン1	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/1 釉：2.5Y7/3	瀬戸・美濃
1900	083-03 4次	陶器	碗	J-T4・5	SZ44045	カクラン	—	—	5.4	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ	素：2.5Y7/3 釉：5YR4/3	瀬戸・美濃？
1901	083-02 4次	磁器	碗	J-T4・5	SZ44045	カクラン	10.0	5.1	4.2	底部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1	肥前系 コンニャク印判
1902	083-01 4次	磁器	碗	J-T4・5	SZ44045	カクラン	—	—	4.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/1	肥前系
1903	083-04 4次	磁器	皿	J-T4・5	SZ44045	カクラン	13.2	3.3	8.0	底部 8/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：2.5Y7/1	肥前系 蛇ノ目釉剥ぎ
1904	084-01 4次	磁器	皿	J-T4・5	SZ44045	カクラン	20.0	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：10Y8/1	肥前系
1905	083-06 4次	石製品	砥石	J-T4・5	SZ44045	カクラン	—	—	—	小片	擦痕	—	23.0g

第IV-48表 遺物観察表 48



報告 №	実測 №	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1906	087-03 4次	石製品	硯	J-S4	SZ44045	カクラン1	—	幅 7.0	厚さ 1.5	小片	擦痕	—	
1907	084-02 4次	陶器	碗	J-Y3	SZ44047	カクラン	13.0	6.0	4.2	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、斑状文様、施釉 内：ロクロナデ、斑状文様、施釉	素：10YR8/4 釉：2.5Y7/3	肥前系
1908	084-05 4次	陶器	皿	J-Y3	SZ44047	カクラン	—	—	9.5	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、カキメ状条線、施釉	素：10R4/1 釉：N2/0	肥前系？
1909	084-03 4次	磁器	碗	J-Y3	SZ44047	カクラン	10.8	—	—	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1	肥前系
1910	083-07 4次	磁器	皿	J-Y3	SZ44047	カクラン	—	—	8.0	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：7.5YR8/3	肥前系 コンニャク印判
1911	067-08 3次	灰釉 陶器	碗	J-G21	Pit7	Pit7	—	—	7.8	底部 4/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5Y7/1	
1912	068-03 3次	土師器	皿	J-H18	Pit4	Pit4	15.7	3.1	—	口縁部 6/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/2	
1913	053-03 5次	鉄製品	釘？	J-K14	Pit2	Pit2	—	幅 1.0	厚さ 0.5	小片	—	—	
1914	097-03 3次	青磁	皿	J-K20	Pit2	Pit2	11.2	2.2	6.2	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、点綴文？、施釉	素：N7/0 釉：5Y6/2	同安窯系
1915	064-05 3次	陶器	山皿	J-L19	Pit1	Pit1	8.8	2.5	4.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	渥美湖西型 高台離れ砂
1916	065-01 3次	陶器	山皿	J-L19	Pit1	Pit1	9.3	2.4	5.0	底径 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	渥美湖西型
1917	066-02 3次	陶器	壺	J-L19	Pit4	Pit4	10.3	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y6/2 釉：10YR4/1	貿易陶磁器
1918	063-01 3次	土師器	鍋	J-N13	Pit5	Pit5	24.2	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR5/3 7.5YR3/2	南伊勢系 外面煤付着
1919	124-06 3次	鉄製品	釘	J-N14	Pit2	Pit2	—	幅 0.6	厚さ 0.4	小片	—	—	
1920	063-05 3次	陶器	山皿	J-N19	Pit4	Pit4	8.0	2.6	3.3	底部 12/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	N7/0	渥美湖西型
1921	095-06 3次	陶器	山皿	J-O13	Pit1	Pit1	8.4	2.5	4.5	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR7/2	渥美湖西型
1922	028-03 4次	土師器	皿	J-T4	Pit1	Pit1	9.4	1.7	4.5	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ、ナデ	7.5YR8/3	大坂系 ロクロ土師器
1923	074-02 4次	土師器	皿	J-T4	Pit1	Pit1	12.8	3.7	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR8/2	
1924	047-01 5次	土師器	焙烙	J-U7	Pit1	Pit1	31.4	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	2.5YR6/6	大坂系 外面煤付着 口縁部端部孔2箇所
1925	047-02 5次	陶器	土瓶または 行平鍋	J-U7	Pit1	Pit1	—	—	10.0	底部 1/12	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5YR8/3 釉：5YR4/2	瀬戸・美濃？ 底部外面に墨書
1926	047-03 5次	磁器	碗	J-U7	Pit1	Pit1	9.8	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0	肥前系
1927	047-04 5次	磁器	碗	J-U7	Pit1	Pit1	10.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：N8/0	肥前系
1928	045-05 5次	土師器	皿	J-W5	Pit2	Pit2	8.6	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ、工具痕？ 内：ヨコナデ	10YR8/3	南伊勢系
1929	053-05 5次	鉄製品	鍔	J-W8	Pit1	Pit1	長さ 13.6	幅 4.5	厚さ 1.3	一部欠	—	—	有機物付着
1930	053-01 5次	鉄製品	釘	J-W8	Pit1	Pit1	—	幅 0.9	厚さ 0.6	一部欠	—	—	
1931	048-01 5次	石製品	円盤状製品	J-X6	Pit3	Pit3	長径 4.7	短径 4.5	厚さ 1.1	—	端部打ち欠き、表面剥離	—	30.0g
1932	045-04 5次	土師器	皿	J-X6	Pit6	Pit6	10.7	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/2	
1933	047-07 10次	陶器	皿	J-X12	Pit4	Pit4	12.0	2.3	5.4	底部 5/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、櫛描条線、施釉	素：2.5Y7/2 釉：5Y7/2	瀬戸・美濃
1934	123-02 3次	鉄製品	釘	J-X17	Pit2	Pit2	—	幅 0.9	厚さ 0.4	一部欠	—	—	
1935	123-05 3次	鉄製品	釘	J-X17	Pit3	Pit3	—	幅 1.2	厚さ 0.6	一部欠	—	—	
1936	047-01 3次	石製品	石鍋	J-X17	Pit7	Pit7	26.0	—	—	口縁部 1/12	外：鑿痕 内：鑿痕	—	滑石製 肥前西彼半島
1937	045-06 5次	土師器	皿	J-Y5	Pit1	Pit1	11.5	—	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	10YR8/2	
1938	045-02 5次	土師器	羽釜	J-Y6	Pit1	Pit1	27.6	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、ハケメ	7.5YR7/4	外面煤付着
1939	048-05 10次	土師器	皿	J-Y12	Pit1	Pit1	7.3	1.9	5.7	底部 9/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR8/3	ロクロ土師器
1940	002-01 3次	陶器	皿	K-O25	Pit1	Pit1	—	—	—	底部 2/12	外：ロクロケズリ、ナデ 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：5Y6/3	瀬戸・美濃 「大カ」墨書
1941	027-01 3次	白磁	碗	L-A18	Pit9	Pit9	14.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/1 釉：5Y7/2	福建省系
1942	046-02 5次	須恵器	鉢	L-B7	Pit1	Pit1	30.5	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、刻目？ 内：ロクロナデ	5Y6/1	東播系
1943	027-02 3次	青磁	碗	L-B17	Pit5	Pit5	—	—	4.9	底部 3/12	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、陰刻、施釉	素：N6/1 釉：5G7/1	龍泉窯系
1944	034-03 2次	陶器	碗	L-C13	Pit1	Pit1	—	—	5.6	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/3 釉：5Y7/2	瀬戸・美濃 内面トチン痕、墨書 2文字
1945	030-06 4次	瓦質 土器	焙烙	L-D5	Pit4	Pit4	20.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ	N5/0	
1946	042-06 2次	白磁	皿	L-D12	Pit5	Pit5	10.0	2.8	4.0	底部 10/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1 釉：5Y8/1	広東省系？

第Ⅳ－49 表 遺物観察表 49

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1947	027-06 3次	縄文 土器	深鉢	L-D15	Pit3	Pit3	—	—	—	口縁部 小片	外：ナデ、刺突、沈線 内：ナデ	10YR7/3	
1948	074-04 4次	土製品	土鍾	L-F5	Pit1	Pit1	長さ 1.9	幅 1.5	—	完存	外：ナデ	7.5YR8/3	3.4g
1949	091-03 4次	瓦器	香炉	L-F6	Pit1	Pit1	—	—	—	脚部 小片	外：工具ナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ミガキ、暗文	2.5YR6/4 N2/0	
1950	074-06 4次	土師器	皿	L-F6	Pit2	Pit2	9.8	2.0	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR8/4	
1951	074-07 4次	土師器	皿	L-F6	Pit2	Pit2	11.0	2.4	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR8/4	
1952	074-08 4次	土師器	皿	L-F6	Pit2	Pit2	11.0	2.4	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR8/2	
1953	074-10 4次	土師器	皿	L-F6	Pit2	Pit2	11.4	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	2.5YR8/2	南伊勢系
1954	074-09 4次	土師器	皿	L-F6	Pit2	Pit2	13.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ？	10YR8/2	
1955	074-05 4次	土師器	皿	L-F6	Pit2	Pit2	13.8	2.7	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR8/4	
1956	019-02 2次	銅製品	銭貨	L-F13	Pit1	Pit1	径 2.4	—	厚さ 0.2	半欠	—	—	洪武通寶
1957	020-01 2次	鉄製品	鉢	L-F13	Pit11	Pit11	—	幅 4.2	厚さ 0.4	小片	—	—	
1958	019-03 2次	銅製品	銭貨	L-F14	Pit3	Pit3	径 2.5	—	厚さ 0.2	完存	—	—	
1959	028-01 3次	須恵器	壺	L-F16	Pit1	Pit1	—	—	9.7	底部 5/12	外：ロクロナデ、ナデ、ヘラ切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	
1960	125-02 3次	鉄製品	釘	L-F16	Pit1	Pit1	—	幅 1.5	厚さ 0.8	一部欠	—	—	
1961	125-03 3次	鉄製品	釘	L-F16	Pit1	Pit1	—	幅 2.1	厚さ 0.8	一部欠	—	—	
1962	056-03 4次	鉄製品	釘	L-G3	Pit1	Pit1	—	幅 1.2	厚さ 0.7	半欠	—	—	
1963	056-02 4次	鉄製品	鉢？	L-G3	Pit1	Pit1	—	幅 1.4	厚さ 0.3	半欠	—	—	
1964	056-09 4次	鉄製品	不明製品	L-G3	Pit1	Pit1	—	幅 6.1	厚さ 0.7	小片	—	—	
1965	040-03 2次	縄文 土器	深鉢	L-G14	Pit2	Pit2	—	—	—	体部 小片	外：ナデ、沈線、条線 内：ミガキ	7.5YR5/4 7.5YR6/6	
1966	030-02 2次	陶器	皿	L-G15	Pit1	Pit1	12.7	3.4	7.4	口縁部 11/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N7/0 釉：7.5Y7/2	瀬戸・美濃 内面重ね焼き痕
1967	030-01 2次	陶器	皿	L-G15	Pit1	Pit1	12.8	3.4	7.1	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N7/0 釉：7.5Y7/2	瀬戸・美濃 内面重ね焼き痕
1968	030-03 2次	陶器	皿	L-G15	Pit1	Pit1	13.0	3.7	7.0	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：7.5Y7/2	瀬戸・美濃 内面重ね焼き痕
1969	030-04 3次	縄文 土器	深鉢	L-G15	Pit6	Pit6	—	—	—	体部 小片	外：ナデ、沈線 内：ミガキ	10YR6/3	
1970	117-04 3次	陶器	天目茶碗	L-G16	Pit5	Pit5	11.6	—	—	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/2 釉：10YR8/2	瀬戸・美濃
1971	019-07 2次	鉄製品	釘	L-H10	Pit13	Pit13	—	幅 0.8	厚さ 0.45	一部欠	—	—	
1972	019-09 2次	鉄製品	釘	L-H11	Pit3	Pit3	長さ 5.8	幅 1.2	厚さ 0.6	完存	—	—	
1973	031-04 2次	陶器	山皿	L-H12	Pit8	Pit8	8.4	2.0	4.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	渥美湖西型
1974	075-03 4次	土師器	皿	L-I5	Pit2	Pit2	12.4	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/2	外面煤付着
1975	075-02 4次	土師器	鍋	L-I5	Pit2	Pit2	23.2	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR4/2	南伊勢系 外面煤付着
1976	075-01 4次	土師器	鍋	L-I5	Pit2	Pit2	23.7	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ	7.5YR8/3	南伊勢系 外面煤付着
1977	040-06 2次	土製品	輪羽口	L-I9	Pit1	Pit1	—	—	—	小片	外：ナデ	7.5YR6/6	被熱痕
1978	056-06 4次	鉄製品	釘	L-J2	Pit3	Pit3	—	幅 1.5	厚さ 0.9	小片	—	—	
1979	092-01 4次	鉄製品	釘	L-J3	Pit1	Pit1	—	幅 1.1	厚さ 0.5	小片	—	—	
1980	092-02 4次	鉄製品	鉾？	L-J3	Pit1	Pit1	—	幅 0.8	厚さ 0.6	半欠	—	—	
1981	090-02 4次	陶器	水注	L-K2	Pit1	Pit1	3.8	6.0	5.7	口縁部 8/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ	素：2.5Y8/2 釉：5YR4/4	瀬戸・美濃
1982	012-03 3次	磁器	人形	L-K13	Pit1	Pit1	—	幅 2.5	—	一部欠	型押し	9/0	肥前系
1983	111-02 3次	灰釉 陶器	碗	L-N14	Pit1	Pit1	—	—	7.8	底部 2/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/2	
1984	123-03 3次	鉄製品	釘	L-Q10	Pit2	Pit2	—	幅 0.8	厚さ 0.5	一部欠	—	—	
1985	125-01 3次	鉄製品	片刃状製品	L-R7	Pit7	Pit7	—	幅 1.1	厚さ 0.6	半欠	—	—	鉄鏝？
1986	119-03 3次	土師器	皿	L-S6	Pit1	Pit1	10.8	2.1	4.2	底部 9/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、印刻、施釉	5YR7/6 釉：透	大坂系 「割口合」印刻
1987	118-01 3次	石製品	碾臼	L-T5	Pit4	Pit4	径 28.0	—	厚さ 11.5	半欠	上面：碾目	—	下臼
1988	112-04 3次	土師器	皿	L-T10	Pit1	Pit1	10.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ 内：ヨコナデ、工具ナデ	10YR8/2	南伊勢系

第IV -50 表 遺物観察表 50

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
1989	111-04 3次	陶器	皿	L-U5	Pit10	Pit10	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/2 釉：7.5Y6/2	瀬戸・美濃
1990	013-04 3次	陶器	皿	L-U6	Pit7	Pit7	7.4	1.3	4.4	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y7/1 釉：5Y6/3	瀬戸・美濃 外面輪トナ痕
1991	013-07 3次	陶器	皿	L-V5	Pit5	Pit5	11.1	2.1	7.0	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y8/2 釉：2.5Y7/3	瀬戸・美濃
1992	013-06 3次	陶器	皿	L-V6	Pit8	Pit8	11.4	3.8	4.6	口縁部 8/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR3/3 釉：5Y5/3	肥前系
1993	100-04 3次	青磁	皿	L-W18	Pit4	Pit4	10.3	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、櫛描条線、施釉	素：2.5Y7/1 釉：7.5Y6/2	同安窯系
1994	115-01 3次	磁器	紅小皿	L-S5	攪乱	カクラン	4.5	1.3	1.4	口縁部 12/12	外：型押し、施釉 内：型押し、施釉	素：2.5Y8/2	肥前系
1995	015-04 4次	青磁	皿	—	攪乱	カクラン	—	—	8.6	底部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR7/2 釉：10GY7/1	国産青磁
1996	025-03 10次	石製品	碁石	L-B12	攪乱	カクラン1	長径 2.2	短径 2.1	厚さ 0.8	完存	—	—	5.0g
1997	032-06 4次	石製品	円盤状製品	—	攪乱	カクラン	長径 4.9	短径 4.3	厚さ 1.1	—	端部打ち欠き、表面剥離	—	27.8g
1998	057-08 4次	銅製品	雁首銭	L-K5	攪乱	カクラン1	径 2.0	—	厚さ 0.3	完存	—	—	
1999	075-05 7次	陶器	香炉	1区 1・2・ 4・5	包含層	包含層	9.1	5.3	—	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/2 釉：2.5Y5/3	瀬戸・美濃
2000	075-01 7次	白磁	加工円盤 (蓋)	1区1・2	包含層	第2トレンチ	長径 7.2	短径 7.0	—	—	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：2.5GY7/1	127.0g 端部打ち欠き
2001	079-02 7次	銅製品	銭貨	2区 1・2・ 4・5	包含層	包含層	径 2.2	—	厚さ 0.2	完存	—	—	洪武通寶
2002	050-04 5次	土師器	皿	—	表土	表土	8.0	1.4	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ、木目状圧痕 内：ヨコナデ、ナデ	10YR8/3	
2003	050-02 5次	土師器	皿	—	表土	表土	8.4	1.4	—	口縁部 5/12	外：ナデ、ユビオサエ 内：ナデ	10YR7/3	南伊勢系
2004	014-04 2次	土師器	皿	L-E12	表土	表土(風倒 木)	10.8	1.9	4.6	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ、印刻、施釉	7.5YR8/6 釉：透	大坂系、ロクロ土師 器、「口請合」印 刻、口縁部煤付着
2005	013-04 2次	土師器	皿	L-E12	表土	表土(風倒 木)	11.6	4.6	1.9	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ、印刻、施釉	7.5YR7/6 釉：透	大坂系 ロクロ土師器 口縁部煤付着
2006	002-03 1次	土師器	鍋	1-5区	表土	畦畔	24.0	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	10YR7/4	南伊勢系
2007	052-06 5次	土師器	鍋	J-I10	表土	表土	24.7	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ユビオサエ、ナデ	7.5YR7/4	南伊勢系 外面煤付着
2008	015-02 4次	土師器	焙烙	—	表土	表土	30.8	—	—	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ユビオサエ、ハケメ 内：ヨコナデ、工具ナデ	7.5YR4/2 7.5YR7/3	南伊勢系 外面煤付着
2009	009-02 4次	土師器	鍋	L-T4	表土	表土	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ、ユビオサエ、タタキ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR7/6	播磨型 外面煤付着
2010	016-01 4次	土師器	鍋	—	表土	表土	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、タタキ 内：ヨコナデ、工具ナデ	5YR6/3	播磨型 外面煤付着
2011	030-01 4次	土師器	焙烙	—	表土	表土	25.8	—	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	5YR7/6	大坂系 外面煤付着
2012	012-01 3次	土師器	焙烙	—	表土	表土	29.6	6.6	—	口縁部 3/12	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR7/4	大坂系
2013	052-05 5次	瓦質 土器	風炉	J-H11	表土	表土	—	—	—	口縁部 小片	外：ヨコナデ、ナデ、キザミ状凹凸 内：ヨコナデ、ナデ	7.5YR5/4	大和系
2014	004-01 2次	陶器	山茶碗	L-D11	表土	表土	16.6	5.3	8.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	10YR8/2	尾張型
2015	010-01 2次	陶器	山茶碗	L-F11	表土	表土	17.6	5.1	7.6	底部 12/12	外：ロクロナデ、板状圧痕 内：ロクロナデ、ナデ		尾張型
2016	001-03 1次	陶器	山茶碗	1-4区	表土	旧耕作土	—	—	7.2	底部 9/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y7/1	渥美湖西型
2017	001-04 1次	陶器	山茶碗	1-4区	表土	旧耕作土	—	—	7.6	底部 2/12	外：ロクロナデ、粉殻痕 内：ロクロナデ	2.5Y8/2	尾張型
2018	003-04 1次	陶器	山茶碗	2-1区	表土	表土(カクラ ン)	—	—	7.6	底部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	2.5Y8/1	渥美湖西型
2019	003-02 1次	陶器	山茶碗	1-5区	表土	旧耕作土	—	—	8.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ	2.5Y8/2	渥美湖西型
2020	001-01 2次	陶器	山茶碗	—	表土	表土	9.6	2.8	4.8	底部 7/12	外：ロクロナデ、糸切痕、粉殻痕 内：ロクロナデ		尾張型
2021	001-02 2次	陶器	山皿	—	表土	表土	10.4	2.8	5.2	底部 4/12	外：ロクロナデ、糸切痕 内：ロクロナデ		東濃型
2022	101-02 3次	陶器	碗	L-V5	表土	表土	12.6	5.4	4.6	底部 11/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/3 釉：5Y7/3	瀬戸・美濃
2023	042-03 4次	陶器	碗	—	表土	表土	18.8	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/3 釉：7.5Y7/2	瀬戸・美濃
2024	001-01 1次	陶器	天目茶碗	1-3区	表土	旧耕作土	—	—	4.4	底部 12/12	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	2.5Y7/3	瀬戸・美濃
2025	008-02 2次	陶器	碗	—	表土	表土	—	—	4.4	底部 6/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、印刻、施釉 内：ロクロナデ、ナデ、施釉	素：7.5YR7/4 釉：2.5Y8/3	肥前系 京焼風陶器 「清水」印刻
2026	050-07 5次	陶器	皿	—	表土	表土	12.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、削ぎ、施釉	素：10YR7/3 釉：2.5Y6/3	瀬戸・美濃
2027	042-01 4次	陶器	皿	—	表土	表土	26.6	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5YR8/3 釉：7.5Y7/3	瀬戸・美濃
2028	042-02 4次	陶器	皿	—	表土	表土	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：7.5Y7/3	瀬戸・美濃

第Ⅳ－51 表 遺物観察表 51

報告 No.	実測 No.	種別	器種	グリッド	報告遺構 層位	調査時 遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存度	調整・施文・施釉等	色調	特記事項
2029	107-06 3次	陶器	卸皿	J-S15	表土	表土	—	—	—	口縁部 小片	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：10Y7/2	瀬戸・美濃
2030	089-04 4次	陶器	片口鉢	—	表土	排土	12.0	6.6	5.4	底部 9/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：10YR8/2 釉：5Y8/2	瀬戸・美濃 内面重ね焼き痕 外面底部床付着
2031	003-03 1次	陶器	鉢	2-8区	表土	旧耕作土(カ クラン)	—	—	11.2	底部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	5Y6/1	常滑
2032	001-02 3次	陶器	擂鉢	—	表土	表土	22.7	9.0	10.8	底部 5/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、描目	2.5Y7/1 2.5Y5/1	
2033	111-05 3次	陶器	花瓶	L-J16	表土	表土	—	—	5.2	底部 3/12	外：ロクロナデ、糸切痕、施釉 内：ロクロナデ	素：10YR7/2 釉：7.5YR4/3	瀬戸・美濃
2034	001-03 3次	陶器	把手	L-Q1	表土	表土	—	幅 3.8	—	把手部 破片	外：ナデ、型押し、施釉	素：10YR8/3 釉：7.5YR5/4	再興伊賀？ 行平鍋の把手？
2035	088-01 4次	陶器	甕	—	表土	表土	—	—	—	体部 小片	外：工具ナデ？、押印、施釉 内：ナデ、ユビオサエ	素：7.5YR5/1 内：2.5YR5/3	常滑
2036	077-01 7次	陶器	甕	2区	表土	表土	—	—	—	頸部 2/12	外：ロクロナデ、押印、タタキ、施釉 内：ロクロナデ、ユビオサエ、ナデ	2.5Y6/3 5Y5/3	常滑
2037	076-04 7次	磁器	小坏	2区	表土	排土	6.4	4.2	3.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：N6/0	肥前系
2038	076-03 7次	磁器	仏鶴具	2区24	表土	表土	—	—	4.2	底部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：9/0	肥前系
2039	072-02 4次	磁器	皿	—	表土	表土	20.0	5.1	10.4	底部 6/12	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、染付、施釉	素：9/0	肥前系
2040	003-01 1次	磁器	瓶	1-5区	表土	表土(トレン チ)	—	—	—	頸部 小片	外：ロクロナデ、染付、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：7.5YR8/2	肥前系
2041	030-03 4次	白磁	碗	—	表土	表土	—	—	6.4	底部 6/12	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉	素：N8/0 釉：10Y8/1	
2042	015-03 4次	青磁	碗	—	表土	表土	10.5	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：5Y8/1 釉：5GY6/1	国産青磁
2043	001-01 3次	青磁	碗	—	表土	表土	15.9	—	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、鎚蓮弁文、施釉 内：ロクロナデ、施釉	素：2.5Y7/1 釉：5Y6/3	龍泉窯系
2044	025-06 10次	青磁	皿	—	表土	排土	—	—	—	体部 4/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、刻劃文、櫛描条線、施釉	素：N8/0 釉：10Y6/2	龍泉窯系
2045	075-04 3次	石製品	碁石	—	表土	表土	径 2.2	—	厚さ 0.9	完存	—	—	5.7g
2046	004-01 1次	銅製品	煙管 (雁首)	2-1区	表土	旧耕作土	長さ 7.1	幅 0.8	高さ 1.6	完存	—	—	
2047	019-04 2次	銅製品	煙管 (雁首)	L-E12	表土	表土	長さ 4.3	幅 1.0	高さ 1.4	一部欠	—	—	
2048	019-01 2次	銅製品	銭貨	L-E12	表土	表土	径 2.5	—	厚さ 0.15	完存	—	—	寛永通寶

第IV -52 表 遺物観察表 52